苫小牧工業高等専門学校	創造工学科(一般科目)	開講年度	令和02年度 (2020年度)
学利到達日樗			

【学校目標】

- A(教養): 地球的視点で自然・環境を考え,歴史,文化,社会などについて広い視野を身につける.
- B(倫理と責任):技術者としての倫理観や責任感を身につける.
- C(コミュニケーション): 日本語で記述, 発表, 討論するプレゼンテーション能力と国際的な場でコミュニケーションをとるための語学力の 基礎能力を身につける.
- D(工学基礎): 数学, 自然科学, 情報技術および工学の基礎知識と応用力を身につける.
- E(継続的学習): 技術者としての自覚を持ち, 自主的, 継続的に学習できる能力を身につける.
- F(専門の実践技術): ものづくりに関係する工学分野のうち,得意とする専門領域を持ち,その技術を実践できる能力を身につける.
- G(複合領域の実践技術): 他の専門領域も理解し, 自身の専門領域と複合して考察し, 境界領域の問題解決に適用できる応用技術を身につける.
- H(社会と時代が求める技術): 社会や時代が要求する技術を工夫,開発,システム化できる創造力,デザイン能力,総合力を持った技術を身につける
- I(チームワーク): 自身の専門領域の技術者とは勿論のこと,他領域の技術者ともチームを組み,計画的かつ円滑に仕事を遂行できる能力を身につける.

			1	ı	ı											.1	1
							学年別週当授業時数										
 科E	国区	₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩	科目番	単位種	}+4 /÷÷*/ ₁	1年		2年	Ī.,,	3年		4年	144	5年	1	担当教	履修上
科目分		授業科目	科目番号	単位種 別	単位数	前 1 2 Q Q	後 3 4 Q Q	員	の区分								
	אַוּ			履修単				QQ	<u> Q Q</u>	<u> Q Q</u>	Q Q	<u> Q Q</u>	<u> Q Q</u>	Q Q	IQ IQ	 平野 摂	
般	必修	国語 I 	0001	位	3	3	3									平野 摂 子,山 際 明利	
般	必修	地理	0002	履修単 位	2	2	2									坂下 俊 彦	
_ 般	必修	英語 I A	0003	履修単位	3	3	3									東俊文,石川愛弓	
_ 般	必修	英語 I B	0004	履修単 位	2	2	2									アンド レア 畠 山	
般	選 択	音楽	0005	履修単 位	1		2									松田 奏保	
般	選 択	美術	0006	履修単 位	1		2									松田 奏保	
般	選 択	書道	0007	履修単 位	1		2									松田 奏保	
- 般	必修	数学 I A	0008	履修単 位	4	4	4									上美野中,涉島 野中,涉島	
—	必修	数学 I B	0009	履修単 位	3	3	3									中藤弘澤雄馬司 ,隆	
—	必修	化学 I	0010	履修単 位	2	2	2									大島 和浩	
— 般	必修	物理基礎	0011	履修単 位	2	2	2									加藤 初儀	
_ 般	必修	地学・生物	0012	履修単 位	1	2										大島 和 浩,長 田 光司	
般	必修	保健	0013	履修単 位	1		2									多賀 健	
— 般	必修	体育 I	0014	履修単 位	2	2	2									多賀 健	
般	必修	国語Ⅱ(機械系)	0015	履修単 位	3			3	3							山際明利,摂野田 制,時田 沙緒里	
- 般	必修	歴史(機械系)	0016	履修単 位	2			2	2							坂下佐 下佐 水大之 大大之 大大之 大大之	

一般	必修	倫理・社会	0017	履修単	2		多田 光 宏
一般	心必修	英語ⅡA(機械系)	0018	<u>位</u> 履修単 位	3		堀 登代 彦
一般	必修	英語ⅡB(機械系)	0019	<u>世</u> 履修単 位	2		秋野 志保
一般	心必修	英語 II A(都市・環境系	0020	履修単	3		松田奏保
一般	心必修	グ 英語 II B(都市・環境系	0021	<u>位</u> 履修単 位	2		石川 愛 弓
一般	必修	<u>/</u> 英語 II A(応用化学・生 物系)	0022	<u>位</u> 履修単 位	3		堀 登代 彦
一般	心必修	英語 II B(応用化学・生物系)	0023	位 履修単 位	2		秋野 志保
一般	必修	英語 II A(電気電子系)	0024	 履修単 位	3		松田奏保
一般	必修	英語 II B(電気電子系)	0025		2		石川 愛 弓
一般	必修	英語ⅡA(情報科学・工学系)	0026	<u>世</u> 履修単 位	3		堀 登代 彦
一般	必修	英語 II B(情報科学・工学系)	0027		2		秋野 志保
一般	必	国語Ⅱ(電気電子系)	0028	履修単	3		山際明利,平野摂子
ガ又	修			位 			,時田 紗緒里
— 般	必修	国語 II (応用化学・生物系)	0029	履修単 位	3		山際 明利,平野 摂子,時田 紗緒里
							山際 明
般	必修	国語Ⅱ(都市・環境系)	0030	履修単 位	3		利,平野 摂子,時田 紗緒里
	ıλ	国語Ⅱ(情報科学・工学		履修単			山際 明 利,平 野,摂子
般	必修	系)	0031	位	3		野 摂子 ,時田 紗緒里
	ι.						坂下俊彦,佐
般	必修	歴史(都市・環境系)	0032	履修単 位	2		々木 彩 ,牧之
	必	歴史(応用化学・生物系)	0033	履修単	2		内 友 坂下 俊
般	修必	<i>)</i> 歴史(電気電子系)	0034	<u>位</u> 履修単	2		坂下 俊彦
般一般	修必修	歴史(情報科学・工学系)	0035	<u>位</u> 履修単 位	2		坂下 俊彦
一般	必修		0036	<u>位</u> 履修単 位	3		藤島勝弘
一般	必修	数学ⅡB(機械系)	0037	<u>位</u> 履修単 位	3		伊藤 芳
一般	心必修	数学ⅡA(電気電子系)	0038	位 履修単 位	3		高橋 労
一般	必修	数学ⅡB(電気電子系)	0039	<u>世</u> 履修単 位	3		小鹿正夫
一般	必修	数学ⅡA(情報科学・工学系)	0040	<u>位</u> 履修単 位	3		上木政美
一般	必修	数学IIB(情報科学・工学系)	0041		3		有馬 隆 司
一般	必修	数学ⅡA(応用化学・生物系)	0042		3	3 3	高橋 労 太
一般		数学 II B(応用化学・生物系)	0043		3	3 3	伊藤 芳
一般	必修	数学 II A(都市・環境系)	0044		3	3 3	金野 幸吉
一般	必修	グ 数学ⅡB(都市・環境系)	0045		3	3 3	藤島 勝
	-						
— 般	必修	化学Ⅱ	0046	履修単 位	2		大島和浩,奥田弥生,平野,博力
が	1110	-		111			博人 ,古崎 ,教,長 田 光司
							田光司

—	必修	物理 I	0047	履修単位	2		加儀,澤野如下當路馬司 一個,在 一個, 一個, 一個, 一個 一個, 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個
般	必修	体育Ⅱ	0048	履修単 位	2	2 2	中島 広基
般	必修	化学 II (応用化学・生物 系)	0049	履修単 位	2	4	大島 和浩
般	必修	国語Ⅲ(機械系)	0050	履修単 位	2	2 2	山際 明利
— 般	必修	政治・経済	0051	履修単 位	2		佐々木 彩,多 田 光宏
般	必修	英語ⅢA(機械系)	0052	履修単 位	3	2 4	東 俊文
—	必修	英語ⅢB(機械系)	0053	履修単 位	2		松田 奏保
般	必修	英語ⅢA(都市・環境系)	0054	履修単 位	3	2 4	堀 登代
- 般	必修	英語ⅢB(都市・環境系)	0055	履修単 位	2	2 2	鈴木 修平
—	必修	英語ⅢA(応用化学・生 物系)	0056	履修単 位	3	2 4	東 俊文
一般	必修	英語ⅢB(応用化学・生 物系)	0057	履修単 位	2	2 2	松田 奏保
般	必修	英語ⅢA(電気電子系)	0058	履修単 位	3	2 4	堀 登代
般	必修	英語ⅢB(電気電子系)	0059	履修単 位	2	2 2	松田 奏保
般	必修	英語ⅢA(情報科学・工学系)	0060	履修単 位	3	2 4	東 俊文
— 般	必修	英語ⅢB(情報科学・工学系)	0061	履修単 位	2	2 2	松田 奏保
— 般	必修	国語Ⅲ(電気電子系)	0062	履修単 位	2	2 2	蓼沼 正美
_ 般	必修	国語皿(応用化学・生物 系)	0063	履修単 位	2		原田 直 保美 ,時田 紗緒里
般	必修	国語Ⅲ(都市・環境系)	0064	履修単 位	2		時田 紗 緒里
一般	必修	国語Ⅲ(情報科学・工学 系)	0065	履修単 位	2		時田 紗 緒里
一般	必修	日本語 I	0066	履修単位	2		時田紗 緒里 平野 摂子
— 般	必修	数学ⅢA	0067	履修単	4		金野 幸 吉,村 本 充 ,柏瀬
一般	必修	数学ⅢB	0068	履修単位	2		陽彦 中野島 勝弘 ,有司 瀬 陽彦 神陽彦
— 般	必修	物理Ⅱ	0069	履修単 位	2		上場一慶,長田光司
般	必修	体育Ⅲ	0070	履修単 位	2		中島 広基
— 般	必修	英語IV C	0071	学修単 位	4		佐藤 奈 々恵
— 般	選 択	法学	0072	学修単 位	2		佐々木 彩
— 般	選 択	哲学	0073	学修単 位	2		多田 光宏
—	選択	経済学	0074	学修単 位	2		多田 光 宏,村 上 明子
川又	אנ			ITT			上 明子

				1	1	
- 般	選 択	日本史	0075	学修単 位	2	坂下 俊 彦,多 田 光宏
— 般	選択	社会学	0076	学修単 位	2	多田 光 宏,坂 敏宏
- 般	選択	第二外国語 A	0077	学修単 位	2	山際 明利
- 般	選択	第二外国語 B	0078	学修単 位	2	アンド レア 畠 山
般	選択	日本事情	0079	学修単 位	2	佐々木彩
一般	選択	英会話	0080	学修単 位	2	アンド レア 畠 山
一般	選択	英語特論 A	0081	学修単 位	2	石川 愛弓
—	選択	英語特論 B	0082	学修単 位	2	石川 愛弓
一般	選択	日本語コミュニケーショ ン	0083	学修単	2	小西 正 人,時 田 紗緒 里
一般	選択	現代科学特論	0084	学修単 位	2	長澤智明
一般	必修	日本語Ⅱ	0085	履修単位	2	時田 紗 緒里 平野 摂子
一般	選 択	数学特別講義	0086	学修単位	2	藤島勝弘
一般	必修	英語VC	0087	学修単位	4	佐藤 奈 々恵 ,東 俊 文
一般	選択		0088	学修単位	2	佐々木彩
一般	選択	哲学	0089	学修単位	2	多田 光 宏
一般	選択	経済学	0090	学修単位	2	多田 光 宏,村 上 明子
般	選択	日本史	0091	学修単 位	2	木村 由
— 般	552	社会学	0092	学修単 位	2	多田 光 宏,坂 敏宏
—	選択	第二外国語 A	0093	学修単 位	2	山際 明利
—	選択	第二外国語 B	0094	学修単 位	2	アンド レア 畠 山
般	選 択	日本事情	0095	学修単 位	2	佐々木 彩
- 般	選択	英会話	0096	学修単 位	2	アンド レア 畠 山
— 般	選択	英語特論 A	0097	学修単 位	2	東 俊文 ,石川 愛弓
— 般	選択	英語特論 B	0098	学修単 位	2	鈴木 修平
—	選択	日本語コミュニケーショ ン	0099	学修単 位	2	小西 正 人,時 田 紗緒 里
般	選択	現代科学特論	0100	学修単 位	2	長澤 智明
— 般	選択	数学特別講義	0101	学修単 位	2	藤島 勝弘

苫小牧工業高等!	高等専門学校 開講年度		令和02年度 (2	2020年度)	授業科目	国語 I			
科目基礎情報									
科目番号	0001			科目区分	一般 / 必	修			
授業形態	授業			単位の種別と単位数 履修単位		: 3			
開設学科	創造工学科(一般科目)			対象学年	1				
開設期	通年			週時間数	前期:3 後	期:3			
教科書/教材	『改訂版国語総合』現代文編・古典編(数研出版)/参考図書は適宜紹介する								
担当教員	平野 摂子,山際 明利								

到達目標

- ・文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えることができる。
 ・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことができる。
 ・文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を広くし、人間、社会、自然などについて考えを深めることができる。
 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書くことができる。
 ・語句の意味、用法を理解し、正しく使うことができる。
 ・論理的な構成を工夫して、自分の考えを文章にまとめることができる。
 ・古典文法の基礎を理解し、古人の心情を読み取ることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
文章の構成や展開に注意して、主 題や要旨を捉えることができる。	文章の構成や展開に注意して、主 題や要旨を的確に捉えることがで きる。	文章の構成や展開に注意して、主 題や要旨をある程度的確に捉える ことができる。	文章の構成や展開に注意して、主 題や要旨を捉えることがでない。
文章に描かれた人物、情景、心情 などを表現に即して読み味わうこ とができる。	文章に描かれた人物、情景、心情 などを表現に即して的確に読み味 わうことができる。	文章に描かれた人物、情景、心情 などを表現に即してある程度的確 に読み味わうことができる。	文章に描かれた人物、情景、心情 などを表現に即して読み味わうこ とができない。
文章を読んでものの見方、感じ方 、考え方を深めることができる。	文章を読んでものの見方、感じ方 、考え方を的確に深めることがで きる。	文章を読んでものの見方、感じ方 、考え方をある程度的確に深める ことができる。	文章を読んでものの見方、感じ方 、考え方を深めることができない 。
常用漢字について、その読みに慣れるとともに、主な常用漢字を書くことができる。	常用漢字について、的確にその読 みに慣れるとともに、主な常用漢 字を書くことができる。	常用漢字について、ある程度的確 にその読みに慣れるとともに、主 な常用漢字を書くことができる。	常用漢字について、その読みに慣れるとともに、主な常用漢字を書くことができない。
語句の意味、用法を理解し、的確 に使うことができる。	語句の意味、用法を理解し、的確 に使うことができる。	語句の意味、用法を理解し、ある 程度的確に使うことができる。	語句の意味、用法を理解し、的確 に使うことができない。
論理的な構成を工夫して、自分の 考えを文章にまとめることができ る。	論理的な構成を工夫して、自分の 考えを文章にまとめることができ る。	構成を工夫して、自分の考えを文 章にまとめることができる。	構成を工夫して、自分の考えを文 章にまとめることができない。
古典文法の基礎を理解し、古人の 心情を読み取ることができる。	古典文法の基礎を理解し、古人の 心情を読み取ることができる。	古典文法の基礎を理解することが できる。	古典文法の基礎を理解することが できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

様々な文章を読んで、国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を作し心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。 3単位を「現代文」2単位、「表現・古文」1単位に分割して授業を行う。 週あたり、前期は「現代文」2時間および「表現・古文」2時間、後期は「現代文」2時間を実施する。 「現代文」は近代以降の教材を扱う。 思考力を伸ば 概要

「表現・古文」は先に〈表現〉、それ以降〈古文〉の授業を行なう。

前期は「現代文」50点分、「表現・古文」50点分を合算して100点満点で評価する。 後期は「現代文」100点満点で評価する。 学年末に前期後期の評価点を平均して学年評価を算出する。

授業の進め方・方法

上記の比率のまま試験

日間には300mにある。 なお、前期成績及び学年未成績が60点未満の場合は、再試験を実施することがある。その場合、上記の比率のまま訂 及び課題提出により再評価を行う。再試験を受けた場合の成績は、前期成績及び学年末成績とも60点を上限とする。

注意点

教科書およびノートは毎時間、国語便覧および国語辞典等は必要に応じて適宜準備する。授業で扱う教材については必ず授業前に目を通しておき、授業後は教授された内容を確認しながら再度教材にあたっておくこと。日頃から言語文化に関心を持つとともに、幅広い領域の読書活動を行うよう心掛けること。

运举計画

打又未 司 [5	쁴			
		週	授業内容	週ごとの到達目標
		1週	(現代文)1. ガイダンス2. 随想2-1「知の体力」(表現・古文)1.ガイダンス2.原稿作成の基礎	授業の目的・方針等を理解する。 〔現代文〕語句の意味、用法を理解し、的確に使うことができる。 〔表現・古文〕論理的な構成を工夫して、自分の考え を文章にまとめることができる。
前期	1stQ	2週	(現代文) 2-1「知の体力」 〔表現・古文〕 3.論証の方法 4.文章の構成	〔現代文〕文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 〔表現・古文〕論理的な構成を工夫して、自分の考えを文章にまとめることができる。
		3週	〔現代文〕 3. 評論 3-1「水の東西」 〔表現・古文〕 5 実用文章表現1 5.実用文章表現2	〔現代文〕文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 〔表現・古文〕論理的な構成を工夫して、自分の考えを文章にまとめることができる。

			2mm 115 1 2	
		4週	〔現代文〕 3-1「水の東西」 〔表現・古文〕 5.実用文章表現3 6.説話 6-1 児のそら寝	〔現代文〕文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えることができる。 〔表現・古文〕古典文法の基礎を理解し、古人の心情を読み取ることができる。
		5週	〔現代文〕 3-1「水の東西」 〔表現・古文〕 6-1 児のそら寝 6-2 絵仏師良秀	〔現代文〕語句の意味、用法を理解し、的確に使うことができる。 〔表現・古文〕古典文法の基礎を理解し、古人の心情を読み取ることができる。
		6週	〔現代文〕 3-2「ネットが崩す公私の境」 〔表現・古文〕 6-3 絵仏師良秀 7.古典文法 7-1 品詞	(現代文)文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 (表現・古文)古典文法の基礎を理解し、古人の心情を読み取ることができる。
		7週	(現代文) 3-3「ネットが崩す公私の境」 (表現・古文) 7-2 動詞の活用	〔現代文〕文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えることができる。 〔表現・古文〕古典文法の基礎を理解し、古人の心情を読み取ることができる。
		8週	(現代文) 3-3「ネットが崩す公私の境」(中間試験) (表現・古文) 7-2 動詞の活用 7-3 形容詞・形容動詞の活用	〔現代文〕文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えることができる。 〔表現・古文〕古典文法の基礎を理解し、古人の心情を読み取ることができる。
		9週	(現代文) 4. 小説 4-1 新思潮派及び芥川龍之介について (表現・古文) 8.随筆 8-1 つれづれなるままに	〔現代文〕新思潮派及び芥川龍之介について理解する。 (表現・古文) 古典文法の基礎を理解し、古人の心情 を読み取ることができる。
		10週	〔現代文〕 4-2「羅生門」 〔表現・古文〕 8-2 ある人、弓射ることを習ふに 8-3 花は盛りに	〔現代文〕文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことができる。 〔表現・古文〕古典文法の基礎を理解し、古人の心情を読み取ることができる。
		11週	〔現代文〕 4-2「羅生門」 〔表現・古文〕 9.歌物語 9-1 芥川	〔現代文〕文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことができる。 〔表現・古文〕古典文法の基礎を理解し、古人の心情を読み取ることができる。
	2ndQ	12週	〔現代文〕 4-2「羅生門」 〔表現・古文〕 9-2 東下り	(現代文)文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことができる。 (表現・古文)古典文法の基礎を理解し、古人の心情を読み取ることができる。
		13週	〔現代文〕 4-2 「羅生門」 〔表現・古文〕 9-3 筒井筒	〔現代文〕文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことができる。 〔表現・古文〕古典文法の基礎を理解し、古人の心情を読み取ることができる。
		14週	(現代文) 4-2「羅生門」 (表現・古文) 10.軍記物語 10-1 祇園精舎	(現代文) 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことができる。 (表現・古文) 古典文法の基礎を理解し、古人の心情を読み取ることができる。
		15週	〔現代文〕 4-2「羅生門」 〔表現・古文〕 10-2 木曾の最期	〔現代文〕文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことができる。 〔表現・古文〕古典文法の基礎を理解し、古人の心情を読み取ることができる。
		16週	前期定期試験	
		1週	〔現代文〕 5. 短歌・俳句 5-1 和歌の流れ	〔現代文〕和歌発展の歴史を記憶する。
		2週	〔現代文〕 5-2 短歌	〔現代文〕短歌の修辞を記憶し、表現を鑑賞できる。
		3週	〔現代文〕 5-2 短歌	〔現代文〕短歌の修辞を記憶し、表現を鑑賞できる。
		4週	〔現代文〕 5-2 短歌	〔現代文〕俳句の修辞を記憶し、表現を鑑賞できる。
	3rdQ	5週	(現代文) 5-3 俳句	(現代文)俳句の修辞を記憶し、表現を鑑賞できる。
後期		6週	〔現代文〕	(現代文)文章を読んでものの見方、感じ方、考え方 (現代文)文章を読んでものの見方、感じ方、考え方
12773		7週	5-3 俳句 〔現代文〕 6. 評論 6-1 [「わらしべ長者」の経済学」	を深めることができる。 「現代文〕文章の構成や展開に注意して、主題や要旨 を捉えることができる。
		8週	〔現代文〕	[現代文] 文章を読んでものの見方、感じ方、考え方 を深めるスプレゼできる
		9週	6-1「「わらしべ長者」の経済学」(中間試験) 〔現代文〕	を深めることができる。 「現代文」語句の意味、用法を理解し、的確に使うこ
	4thQ	10週	6-2「無痛化する社会のゆくえ」 〔現代文〕	とができる。 「現代文〕文章を読んでものの見方、感じ方、考え方
		11週	6-2「無痛化する社会のゆくえ」 〔現代文〕	を深めることができる。 「現代文〕文章を読んでものの見方、感じ方、考え方
		工工四	6-2「無痛化する社会のゆくえ」	を深めることができる。

	12週	〔現代文〕 7.小説 7-1「富嶽百景」		〔現代文〕文章の を捉えることがで	構成や展開に注意して、主題や要旨 きる。		
	13週	〔現代文〕 7-1「富嶽百景」		〔現代文〕語句のとができる。	〔現代文〕語句の意味、用法を理解し、的確に使うことができる。		
	14週	〔現代文〕 7-1「富嶽百景」		〔現代文〕文章を を深めることがで	〔現代文〕文章を読んでものの見方、感じ方、考え方 を深めることができる。		
	15週	〔現代文〕 7-1「富嶽百景」		〔現代文〕文章の を捉えることがで	〔現代文〕文章の構成や展開に注意して、主題や要旨 を捉えることができる。		
	16週	後期定期試験					
評価割合							
		試験	試験課題等		合計		
総合評価割合		75	75 25		100		
一般的能力		75	<u> </u>		100		

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2	2020年度)	授業科目	地理			
科目基礎情報									
科目番号	0002			科目区分	一般 / 必	一般 / 必修			
授業形態	授業			単位の種別と単位数	数 履修単位	: 2			
開設学科	創造工学科(一般科目)		対象学年	1	1			
開設期	通年			週時間数	前期:2 後	6期:2			
教科書/教材	帝国書院編集部編『新詳高等地図』(帝国書院))/参考図書:『現代用語の基礎知識』(自由国民社)、『朝日キー ワード2021』(朝日新聞社)								
担当教員	担当教員 坂下 俊彦								
l									

到達目標

- 産業活動(農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等)などの人間活動の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について 1)産業活動(農牧業、水産業、孤上業、商業・サービ人業等)などの人間活動の地域的特性、産業などの无限が社会に及ぼし 理解できる。 2)人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、地理的観点から理解できる 3)社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて理解できる。 4)日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、地理的観点から理解できる。 5)国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的観点から理解できる。 6)文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。 7)今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。 8)環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
1.北米地域	北米地域の自然環境・産業・社会 について説明できる。	北米地域の自然環境・産業・社会 に関する基本的な問題が解ける。	北米地域の自然環境・産業・社会 に関する基本的な問題が解けない 。
2.中南米地域	中南米地域の自然環境・産業・社 会について説明できる。	中南米地域の自然環境・産業・社 会に関する基本的な問題が解ける 。	中南米地域の自然環境・産業・社 会に関する基本的な問題が解けな い。
3.オセアニア地域	オセアニア地域の自然環境・産業 ・社会について説明できる。	オセアニア地域の自然環境・産業・社会に関する基本的な問題が解ける。	オセアニア地域の自然環境・産業 ・社会に関する基本的な問題が解 けない。
4.欧州地域	欧州地域の自然環境・産業・社会 および統合の進む欧州の現状とそ の意義について説明できる。	欧州地域の自然環境・産業・社会および統合の進む欧州の現状とその意義に関する基本的な問題が解ける。	欧州地域の自然環境・産業・社会 および統合の進む欧州の現状とそ の意義に関する基本的な問題が解 けない。
5.アフリカ地域	アフリカ地域の自然環境・産業・ 社会について説明できる。	アフリカ地域の自然環境・産業・ 社会に関する基本的な問題が解け る。	アフリカ地域の自然環境・産業・ 社会に関する基本的な問題が解け ない。
6.西アジア地域	西アジア地域の自然環境・産業・ 社会について説明できる。	西アジア地域の自然環境・産業・ 社会に関する基本的な問題が解け る。	西アジア地域の自然環境・産業・ 社会に関する基本的な問題が解け ない。
7.南アジア地域	南アジア地域の自然環境・産業・ 社会について説明できる。	南アジア地域の自然環境・産業・ 社会に関する基本的な問題が解け る。	南アジア地域の自然環境・産業・ 社会に関する基本的な問題が解け ない。
8.東南アジア地域	東南アジア地域の自然環境・産業 ・社会について説明できる。	東南アジア地域の自然環境・産業 ・社会に関する基本的な問題が解 ける。	東南アジア地域の自然環境・産業 ・社会に関する基本的な問題が解 けない。
9.東アジア地域	東アジア地域の自然環境・産業・ 社会について説明できる。	東アジア地域の自然環境・産業・ 社会に関する基本的な問題が解け る。	東アジア地域の自然環境・産業・ 社会に関する基本的な問題が解け ない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

・地理的な視点から人間、社会、文化について多面的に理解し、国際社会の一員として社会的諸問題の解決に向けて主体的に貢献する自覚と素養を培う。 ・人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追究しながら、技術者として社会に貢献する自覚と 概要 素養を培う。

授業の進め方・方法

・授業は、主として教科書を用いる講義形式で進める。
・成績は、定期試験50%(前期定期試験20%、後期定期試験30%)、到達度試験(中間試験)30%(前後期各1回、各15%)、課題等20%での割合で評価する。合格点は60点以上である。尚、評価が60点に達しない者には、再試験を学年末(試験範囲:1年間の授業内容)に実施する。再試験を実施した場合、上記に掲げた各試験の割合の合計と、再試験 の点数を2:1の割合で再評価する。但し、この場合、評価の上限は60点とする。

・学生は日頃より新聞を読み、社会問題や社会情勢に関心をもつよう心がけること。尚、年4回時事問題論述としてその成果を問う。また、長期休業中には新聞1面のコラム欄を読み、まとめる作業を課す。

14444-112

注意点

授業計画	Ц			
		週	授業内容	週ごとの到達目標
		1週	現代社会を知るために	激動する現代世界とそこに生きる自分を分析しうる視点を、地理的事象を通して学習する必要性を理解し説明することができる。
		2週	北米地域①	北米地域の自然環境・産業・社会について理解し説明 することができる。
前期	1stQ	3週	北米地域②	北米地域の自然環境・産業・社会について理解し説明 することができる。
		4週	北米地域③	北米地域の自然環境・産業・社会について理解し説明 することができる。
		5週	北米地域④	北米地域の自然環境・産業・社会について理解し説明することができる。
		6週	北米地域⑤	北米地域の自然環境・産業・社会について理解し説明 することができる。

		7週	中南米地域①			ー 中南米地域の	 D自然環境・産業・社	 会について理解し説		
						明することか 中南米地域の	ができる。 D自然環境・産業・社	会について理解し説		
		8週	中南米地域②	中南米地域②			明することができる。 オセアニア地域の自然環境・産業・社会について理解			
		9週	オセアニア地域①			し説明するこ	し説明することができる。			
		10週	オセアニア地域②				地域の自然環境・産業 ことができる。	・社会について理解		
		11週	欧州地域①			欧州地域の自することがて	然環境・産業・社会 ごきる。	について理解し説明		
	2ndQ	12週	欧州地域②			欧州地域の自	 目然環境・産業・社会 ごきる。	について理解し説明		
	21140	13週	欧州地域③			統合の進む図 することがて	 対外の現状とその意義 ざきる。	について理解し説明		
		14週	欧州地域④				対外の現状とその意義	について理解し説明		
		15週	欧州地域⑤			統合の進む図 することがて	 対外の現状とその意義 できる。	について理解し説明		
		16週	定期試験	定期試験						
		1週	アフリカ地域①			アフリカ地域 説明すること	域の自然環境・産業・ こができる。	社会について理解し		
		2週	アフリカ地域②			アフリカ地域 説明すること	ばの自然環境・産業・ ≤ができる。	社会について理解し		
		3週	アフリカ地域③	ー アフリカ地域③			アフリカ地域の自然環境・産業・社会について理解し 説明することができる。			
		4週	西アジア地域①	西アジア地域①			城の自然環境・産業・ こができる。	社会について理解し		
	3rdQ		西アジア地域②			西アジア地域説明すること		社会について理解し		
		6週	南アジア地域①			南アジア地域説明すること		社会について理解し		
		7週	南アジア地域②			南アジア地域説明すること	ばの自然環境・産業・ こができる。	社会について理解し		
後期		8週	東南アジア地域①				地域の自然環境・産業 ことができる。	・社会について理解		
		9週	東南アジア地域②				地域の自然環境・産業 ことができる。	・社会について理解		
		10週	東南アジア地域③				地域の自然環境・産業 ことができる。	・社会について理解		
		11週	東南アジア地域④	東南アジア地域④			東南アジア地域の自然環境・産業・社会について理解 し説明することができる。			
	4thQ	12週	東アジア地域①	東アジア地域①			東アジア地域の自然環境・産業・社会について理解し 説明することができる。			
2		13週	東アジア地域②			東アジア地域説明すること	東アジア地域の自然環境・産業・社会について理解し 説明することができる。			
		14週	東アジア地域③				東アジア地域の自然環境・産業・社会について理解し 説明することができる。			
		15週	東アジア地域④				東アジア地域の自然環境・産業・社会について理解し 説明することができる。			
		16週	定期試験							
評価割	合			1						
		定期試験	到達度試験(中間試験)	課題等			その他	合計		
総合評価	割合	50	30	20	0	0	0	100		
基礎的能	カ	50	30	20	0	0	0	100		
専門的能	カ	0	0	0	0	0	0	0		
分野横断	的能力	0	0	0	0	0	0	0		

苫小牧工業高等	専門学校	開講年度	令和02年度 (2	2020年度)	授業科目	英語 I A
科目基礎情報						
科目番号	0003			科目区分	一般 / 必	修
授業形態	授業			単位の種別と単位数	数 履修単位	:: 3
開設学科	創造工学科(一般科目)		対象学年	1	
開設期	通年			週時間数	前期:3 後	後期:3
教科書/教材	教科書:「Re English Com 2nd Edition / (Oxford Uni	evised BIG DIF munication I ' ' Ultimate New versity Press	PPER English Com フークブック 」(i v Edition」(新興 ・数研出版)	nmunication I」(数 数研出版)/文法テ 出版社啓林館)/夏	郊出版)/ワ- キスト:「Visi 期多読課題:「	ークブック:「Revised BIG DIPPER on Quest 24 English Grammar For The Adventures of Tom Sawyer」
担当教員	東 俊文,石川					
到達目標						

- 1) 基礎的な英語で書かれた文章を理解(読解・聴解)し、その内容を日本語で説明できる。 2) 英文の内容理解を通して、国内や海外の諸事情・諸問題に広く関心を持つことができる。 3) 英検3級の取得が確実となる英語力を身につけ、英語学カテストで自身の英語力を確認できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
基礎的な英語で書かれた文章を理解(読解・聴解)し、その内容を日本語で説明できる。	基礎的な英語で書かれた文章を理解(読解・聴解)し、その内容を日本語で正確に説明できる。	基礎的な英語で書かれた文章を概 ね理解(読解・聴解)し、その内 容を日本語で説明できる。	基礎的な英語で書かれた文章を理解(読解・聴解)できず、その内容を日本語で説明できない。
英文の内容理解を通して、国内や 海外の諸事情・諸問題に広く関心 を持つことができる。	英文の内容理解を通して、国内や 海外の諸事情・諸問題に広く関心 を持つことができる。	英文の内容理解を通して、国内や 海外の諸事情・諸問題に概ね関心 を持つことができる。	英文の内容理解を通して、国内や 海外の諸事情・諸問題に関心を持 つことができない。
英検3級の取得が確実となる英語力を身につけ、英語学カテストで自身の英語力を確認できる。	英検3級の取得が確実となる英語力を身につけ、英語学カテストで自身の英語力を確認できる。	英検3級の取得が可能となる基本的な英語力を身につけ、英語学力テストで自身の英語力を確認できる。	英検3級の取得が可能となる基本的な英語力を身につけられず、英語学力テストで自身の英語力を確認できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	教科書を中心に「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能のバランスのとれた総合的な力が身につくように指導する。教科書の英文読解や文法事項の習得、音読練習などを通して、英検3級を目安とする英語力の習得を目指す。
授業の進め方・方法	1) 教科書を中心に、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能バランスがとれた総合的な英語力を身につける。 2) 文法テキストは、教科書で学んだ文法事項の理解を深めるために使用する。 3) 小テストは、教科書で学習した語彙や文法の習得状況を確認するため、頻繁に実施する。 4) 毎回の授業に持参するのは、教科書・文法テキスト・ワークブック・英和辞典の4点である。 中間試験30%、定期試験30%、その他(各種テスト・提出課題や点検等)40%の割合で評価し、再試験は前期末と学年末の2回実施する。学年末評価で60点以上が単位取得の条件となる。
注意点	英語学習において予習・復習は絶対不可欠である。予習では、英和辞典とワークブックを活用しながら、教科書本文の意味内容を自力で理解するよう努めること。復習では、理解済みの教科書本文を音読・筆写し、ワークブックを確認して、語彙・文法を含めた英文全体の習得に励むこと。 ※成績評価: 定期試験30%、到達度試験(中間試験)30%、その他(各種テスト・課題・予習状況)40%の割合で評価する。評価は前期:後期=1:2の割合で、後期に重点を置く。 ※再試験と再評価: 評価が60点に達しない者には再試験を実施する。この場合、再試験の成績は定期試験と到達度試験(中間試験)の成績(60%)に置き換えて再評価を行う。

ì	周	授業内容	週ごとの到達目標
	,		是ここのおた日本
1	1週	ガイダンス、英和辞典の使用法 Lesson 1 High School Life at Home and Abroad	授業概要・英語学習方法が理解できる。Lesson 1の英文を理解し、内容を説明できる。現在形、過去形、未来を表す表現、現在進行形、過去進行形を理解し運用できる。
2	2週	Lesson 1 High School Life at Home and Abroad	Lesson 1の英文を理解し、内容を説明できる。現在形、過去形、 未来を表す表現、現在進行形、過去進行形を理解し運用できる。
3	3週	Lesson 2 Giant Pandas: Everyone's Favorite	Lesson 2の英文を理解し、内容を説明できる。 SVC(C=名詞・代名詞、形容詞)、SVO(O=名詞・ 代名詞、動名詞、不定詞の名詞用法)、動名詞、不定 詞(名詞用法、形容詞用法、副詞用法)を理解し運用 できる。
stQ	4週	Lesson 2 Giant Pandas: Everyone's Favorite	Lesson 2の英文を理解し、内容を説明できる。 SVC(C=名詞・代名詞、形容詞)、SVO(O=名詞・ 代名詞、動名詞、不定詞の名詞用法)、動名詞、不定 詞(名詞用法、形容詞用法、副詞用法)を理解し運用 できる。
5	5週	Lesson 3 Yanase Takashi: The Creator of Anpanman	Lesson 3の英文を理解し、内容を説明できる。受動態 、SVO102、SVOC、SVO(O=that節、wh-節、疑問 詞+to-不定詞)を理解し運用できる。
6	5週	Lesson 3 Yanase Takashi: The Creator of Anpanman	Lesson 3の英文を理解し、内容を説明できる。受動態 、SVO102、SVOC、SVO(O=that節、wh-節、疑問 詞+to-不定詞)を理解し運用できる。
7週	7週	Lesson 4 The History of the Telephone	Lesson 4の英文を理解し、内容を説明できる。現在完了、関係代名詞(who、which、that)、分詞の形容詞用法(現在分詞、過去分詞)を理解し運用できる。
8	3週	Lesson 4 The History of the Telephone	Lesson 4の英文を理解し、内容を説明できる。現在完了、関係代名詞(who、which、that)、分詞の形容詞用法(現在分詞、過去分詞)を理解し運用できる。
ndQ 9	9週	到達度試験(前期中間試験)	
	:tQ 4	5週 6週 7週 8週	Lesson 1 High School Life at Home and Abroad Lesson 1 High School Life at Home and Abroad Lesson 2 Giant Pandas: Everyone's Favorite Lesson 2 Giant Pandas: Everyone's Favorite Lesson 3 Yanase Takashi: The Creator of Anpanman Lesson 3 Yanase Takashi: The Creator of Anpanman Lesson 4 The History of the Telephone Lesson 4 The History of the Telephone

### Page 1508									
### Part			10週		al Design: Why Is	s It Important	I語(It is ~to do	 比較(原級、 	
### (### 15년 ### 15년			11週		al Design: Why Is	s It Important	Lesson 5の英文を語(It is ~to do	理解し、内容を説! …)、比較(原級、	明できる。形式主 比較級、最上級
### Prover ### Prove			12週		al Design: Why Is	It Important	語(It is ~to do)、比較(原級、	明できる。形式主 比較級、最上級
### Lesson 6 J. K. Rowling: Everyone Has Hidden / Lesson 6 (O東文を想解し、内容を設明できる。would / Used to 過去完了。SVO+to-不定調理解促进解 / DESON 6 J. K. Rowling: Everyone Has Hidden / Lesson 6 O J. K. Rowling: Everyone Has Hidden / Lesson 6 O J. K. Rowling: Everyone Has Hidden / Lesson 6 O J. K. Rowling: Everyone Has Hidden / Lesson 6 O J. K. Rowling: Everyone Has Hidden / Lesson 6 O J. K. Rowling: Everyone Has Hidden / Lesson 6 O J. K. Rowling: Everyone Has Hidden / Lesson 6 O J. K. Rowling: Everyone Has Hidden / Lesson 7 Deson 2 Deson 7 Deson 2 Deson 7 Deson 8 De					owling: Everyone	Has Hidden	Lesson 6の英文を / used to、過去完	理解し、内容を説に	明できる。would 詞を理解し運用
Lesson 6 J. K. Rowling: Everyone Has Hidden Lesson 6の東文を理解し、内容を説明できる。would / Jused 10 過去完了、SVO+to-不正詞を理解し適用できる。					owling: Everyone	Has Hidden	Lesson 6の英文を / used to、過去完	理解し、内容を説 了、SVO+to-不定	明できる。would 詞を理解し運用
16週 前朋定開試験 13回				Power	,	Has Hidden	/ used to、過去完	理解し、内容を説 了、SVO+to-不定	明できる。would 詞を理解し運用
### ###			16调		•				
변화				夏期課題テスト Lesson 7 The Bic	ycle: An old Frien	d and a New	Lesson 7の英文を 文(現在分詞)、S	理解し、内容を説 SVOC(C=現在分	明できる。分詞構 詞)、
### Priced ### Lesson 7 The Bicycle: An old Friend and a New			2週	Lesson 7 The Bic Friend	ycle: An old Frien	d and a New	文(現在分詞)、9	SVOC(C=現在分詞	詞) 、
### Priend ### 128500 / The Bicycle: An old Friend and a New Friend ### 文 (現存分詞) \$\text{SYOC} (C=現分詞) \text{SYOC} (C=現分词) \text{SYOC} (C=RO) \text{SYOC} \text{SYOC} (C=RO) \text{SYOC} \text{SYOC} (C=RO) \text{SYOC} \text{SYOC} \text{SYOC} (C=RO) \text{SYOC} \text{SYOC} \text{SYOC} \text{SYOC} \text{SYOC} \text{SYOC} (C=RO) \text{SYOC} \tex			3週		ycle: An old Frien	d and a New	文(現在分詞)、9	SVOC(C=現在分詞	詞)、
Figure		3rdQ	4週		ycle: An old Frien	d and a New	文(現在分詞)、5	SVOC(C=現在分	詞)、
6週			5週		hild to Adult: Whe	en Do You	詞(when・wher	e)、形式主語(I	
大田			6週		hild to Adult: Whe	en Do You	詞(when・wher	e)、形式主語(I	明できる。関係副 t is〜 that)、
### Page			7週	Change?			詞(when・wher	e)、形式主語(I	
### L Paul Lesson 9 Food Miles: Where Does Our Food Come From? Lesson 9の英文を理解し、内容を説明できる。助動詞 を含む受動態、関係副詞(Now、why)、仮定法過去を理解し運用できる。 10週 Lesson 9 Food Miles: Where Does Our Food Come From? Lesson 9の英文を理解し、内容を説明できる。助動詞 (Now、why)、仮定法過去を理解し運用できる。 11週 Lesson 9 Food Miles: Where Does Our Food Come From? Lesson 9の英文を理解し、内容を説明できる。助動詞 (Now、why)、仮定法過去を理解し運用できる。 2 提高学力テスト(英検IBA) Lesson 10 Logical Thinking: A Skill for World-class Players 大部テストで自身の英語力を把握できる。 (Lesson 10の英文を理解し、内容を説明できる。間接 疑問、関係代名詞 what, one, another, other, 強調 精文(It is~ that) を理解し運用できる。間接 疑問 関係代名詞 what, one, another, other, 強調 精文(It is~ that) を理解し運用できる。間接 疑問、関係代名詞 what, one, another, other, 強調 精文(It is~ that) を理解し運用できる。間接 疑問、関係代名詞 what, one, another, other, 強調 精文(It is~ that) を理解し運用できる。間接 疑問、関係代名詞 what, one, another, other, 強調 情文(It is~ that) を理解し運用できる。間接 疑問、関係代名詞 what, one, another, other, 強調 情文(It is~ that) を理解し運用できる。間接 疑問、関係代名詞 what, one, another, other, 強調 情文(It is~ that) を理解し運用できる。 評価書台 30 後種テスト・課 題素、点検 Lesson 10の英文を理解し、内容を説明できる。間接 疑問、関係代名詞 what, one, another, other, 強調 関係代名詞 what, one, another, other, 強調 関係(It is~ that) を理解し運用できる。 評価書台 30 30 40 0 0 0 0 総合評価書台 30 30 40 0 0 0 0 総合評価書台 30 30 40 0 0 0 0 総合評価書			8週	到達度試験(後期中	□間試験)				
### Property	15円		9週	Como From?		を含む受動態、関係副詞(how、why)、仮定法過去			
4thQ 11週 Cess0f 9 rood Minies. Where Does Our Pood を含む受動態、関係副詞(how、why)、仮定法過去を理解し運用できる。 4thQ 2週 英語学力テスト (英検IBA) Lesson 10 Logical Thinking: A Skill for World-class Players 外部テストで自身の英語力を把握できる。 Lesson 10の英文を理解し、内容を説明できる。間接疑問、関係代名詞 what、one、another, other、強調模(It is~ that)を理解し運用できる。 13週 Lesson 10 Logical Thinking: A Skill for World-class Players Lesson 10の英文を理解し、内容を説明できる。間接疑問、関係代名詞 what、one、another, other、強調構文(It is~ that)を理解し運用できる。 14週 Lesson 10 Logical Thinking: A Skill for World-class Players Lesson 10の英文を理解し、内容を説明できる。間接疑問、関係代名詞 what、one、another, other、強調構文(It is~ that)を理解し運用できる。 15週 Lesson 10 Logical Thinking: A Skill for World-class Players Lesson 10の英文を理解し、内容を説明できる。間接疑問、関係代名詞 what、one、another, other、強調構文(It is~ that)を理解し運用できる。 計価割合			10週		iles: Where Does	Our Food	を含む受動態、関係副詞(how、why)、仮定法過去		
4thQ 12週 大学(大学科) 大学(大学社) 大学(大学社			11週		iles: Where Does	Our Food	を含む受動態、関係副詞(how、why)、仮定法過去		
13週 Lesson 10 Logical Thinking: A Skill for World-class 操門 (It is~ that)を理解し運用できる。 間接 操文 (It is~ that)を理解し運用できる。 間接 操文 (It is~ that)を理解し運用できる。 間接 操奏 (It is~ that)を理解し運用できる。 間接 操奏 (It is~ that)を理解し運用できる。 間接 操奏 (It is~ that)を理解し、内容を説明できる。 間接 操奏 (It is~ that)を理解し運用できる。 間接 操動 (It is~ that)を理解し、内容を説明できる。 間接 操動 (It is~ that)を理解し、内容を説明できる。 間接 操作 (It is~ that)を理解し、内容を説明できる。 間接 操門 (It is~ that)を理解し、内容を説明できる。 目接 操作 (It is~ that)を理解し、内容を説明できる。 目接 操作 (It is~ that)を理解し、内容を説明できる。 目接 操作 (It is~ that)を理解し、内容を説明できる。 目接 操門 (It is~ that)を理解し、内容を説明できる。 目接 操作 (It is~ that)を理解し、内容を説明できる。 目接 操作 (It is~ that)を理解し、内容を説明できる。 目接 (It is~ that)を理解し、内容を説明できる。 目は (It is~ that)を理解し、内容を説明できる。 目は (It is~ that		4thQ	12週	Lesson 10 Logical	英語学力テスト(英検IBA) Lesson 10 Logical Thinking: A Skill for World-class		外部テストで自身の英語力を把握できる。 Lesson 10の英文を理解し、内容を説明できる。間接 疑問、関係代名詞 what、one, another, other、強調		
14週 Players 14週 Players 14週 Players 15週 Lesson 10 Logical Thinking: A Skill for World-class 操門、関係代名詞 what、one, another, other、強調 株式 (It is~ that) を理解し 内容を説明できる。間接					疑問、関係代名詞	what, one, anot	her, other、強調		
15週 Lesson 10 Logical Infinking: A Skill for World-Class 疑問、関係代名詞 what、one, another, other、強調構文(It is~ that)を理解し運用できる。 16週 後期定期試験 各種テスト・課題・点検 日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日			14週		Thinking: A Skill	for World-class	Lesson 10の英文を 疑問、関係代名詞 構文(It is~ that.	を理解し、内容を認 what、one, anot)を理解し運用	説明できる。間接 her, other、強調 できる。
評価割合 到達度試験 定期試験 各種テスト・課題・点検 合計 総合評価割合 30 30 40 0 0 0 100 基礎的能力 30 30 40 0 0 0 0 100 専門的能力 0 0 0 0 0 0 0			15週	Lesson 10 Logical Thinking: A Skill for World-class		疑問、関係代名詞	what, one, anot	her, other、強調	
知達度試験 定期試験 各種テスト・課題・点検 合計 総合評価割合 30 30 40 0 0 0 100 基礎的能力 30 30 40 0 0 0 0 100 専門的能力 0 0 0 0 0 0 0			16週	後期定期試験					
総合評価割合 30 30 40 0 0 0 0 100 基礎的能力 30 40 0 0 0 0 100 専門的能力 0 0 0 0 0 0 0	評価割合	ì							
基礎的能力 30 30 40 0 0 0 0 100 専門的能力 0 0 0 0 0 0 0					題・点検				
専門的能力 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0									
						1			
分野横断的能力 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 </td <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>+</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>					+				
	分野横断的	能力	0	0]0	[0	[0	[0	0

生小组			開講年度	令和∩2年度	夏(2020年度)	t t		英語 I	 B
科目基礎		<u> </u>	THE PROPERTY OF	ון וייון טער בי	2 (2020+1)2)].	*************************************		<u> </u>
科目番号	ZIH+K	0004			科目区分		一般 / 必	 ×修	
授業形態		授業			1 11 11 11	単位の種別と単位数 履修単位: 2			
開設学科		創造工学科	(一般科目)		対象学年	1 123/	1	· -	
開設期		通年			週時間数		前期:2 征	炎期:2	
教科書/教	材	English Mis	sions! Basic(á	全星堂)	·		•		
担当教員		アンドレア	畠山						
到達目標	票								
English. S	Students w	t year English vill be required	conversation c I to work in pai	lasses will be rs and groups	to encourage stude for practicing.	dents to	express th	neir feelir	ngs and ideas to others in
ルーブリ	<u> </u>	Г		. T		1		_	T
評価項目1		相手の くこと 100語	な到達レベルのE 話を適切な態度で ができ、1分間に 以上の英語を話し 考えを十分に伝え	で聞 相手の話 くことが 80語程度	到達レベルの目安 を適切な態度で聞 でき、1分間に の英語を話して自 を伝えられる	相手の記 くことが 60語程	ンベルの目: 舌を適切な! ができ、15 度の英語を えを伝えら	態度で聞 計間に 話して自	未到達レベルの目安 左記に満たない
評価項目2	2	基本的ション表現の	な英語コミュニク に必要な文法や名 知識及びリスニン の技能を十分に習 る	会話 ションに ング 表現の知	英語コミュニケー 必要な文法や会話 識及びリスニング 技能を概ね習得し	ション(表現の外)、発音の	は英語コミ こ必要な文 知識及びリカ ひ技能を最 る(目安: 1点)	法や会話 スニング 低限習得	左記に満たない
評価項目3	}	ション に習得	な英語コミュニク に必要な語彙をしており、実際の の中で効果的に流	├分 ションに かや 習得して	英語コミュニケー 必要な語彙を概ね おり、実際のやり 用されたものを理	ション(低限習行	ぶ英語コミ こ必要な語 导している スト12/20;	彙を、最 (目安	左記に満たない
学科の至]達目標項	目との関係	:						
教育方法	法等								
Students will learn practical English communication skills in English IB classroom. Th introducing themselves, asking questions, and having small talks with each other. Th English pronunciation and accents as well.						ney will practice hey will practice proper			
授業の進め方・方法		their Englis English les includes fu	sh fluency and o sons. They will n activities to k	checking their also be practi eep students	grammatical kno- cing conversation interested.	wledge l pattern	earned the s along wi	rough the th the te	rst focus on improving eir junior high school xtbook. Every lesson
注意点		movies and sure you u	idy; students sl d TV, and listen nderstand any vious lessons ar	ing to music i new vocabula	n English. Singing ry words. Student	ening to I songs i ts should	English as n English i I make a l	possible is also a g ist of thir	. I recommend watching great way to learn. Be ngs they didn't understand
授業計画		週 授			週ごる	上の到達目	票		
		1油 In	troduction e-Unit / Unit1			to be	come acq	uainted v EnglishII	vith each other and B classroom and review jr. high school.
		2週 Ur	nit1			to lea readi	arn and us ng and sp	se presen eaking a	t tense in listening, ctivities
		3週 Ur	nit2			to lea	arn pronou to state yo	uns, how our opinio	to introduce friends, and
	1stQ	4週 Ur	nit2			to lea	arn pronou to state y	uns, how our opinio	to introduce friends, and
	_	5週 Ur	nit3				arn prepos olans	sition and	how to talk about time
		6週 Ur	nit3			and p	olans		how to talk about time
→			nit4 期中間試験			and s	speaking a	ctivities	ense in listening, reading
前期		8週 Ur	nit4			and	speaking a	ctivities	ense in listening, reading
		9週 Ur	nit5			enco	urage friei	nds	untable nouns and how to
		10週 Ur	nit5			enco	urage friei	nds [*]	untable nouns and how to
		11週 Ur	nit6						se, how to talk about stion
	2ndQ		nit6			healt	h and mal	ke sugge:	
		H	nit7					-	ns and how to ask for help
		14週 Ur	nit7						ns and how to ask for help
		15週 Ur	nit8				arn gerund ations	and infi	nitive and how to make
		16週 前	期定期試験						

1週 Unit8	romise romise to talk to talk		
3週	romise to talk to talk		
Alia	to talk to talk		
3rdQ 5週	to talk		
Bin	1		
後期 Unit11 information T週 Unit11 to learn auxiliary verbs and how to confirm information 8週 Unit12 to learn present perfect form and how to to about what you have recently done Unit12 to learn present perfect form and how to to about what you have recently done to learn present perfect form and how to to about what you have recently done Unit13 to learn and use relatives to talk about per who you respect Unit13 to learn and use relatives to talk about per who you respect Unit14 to learn and use passive form to talk about per who your sespect Unit14 to learn and use passive form to talk about per who your sespect to learn and use passive form to talk about per who your sespect to learn and use passive form to talk about per who your sespect to learn and use passive form to talk about per who your sespect to learn and use passive form to talk about per who your sespect to learn and use passive form to talk about per who your sespect to learn and use passive form to talk about per who your sespect to learn and use passive form to talk about per who your sespect to learn and use passive form to talk about per who your sespect to learn and use passive form to talk about per who your sespect to learn and use passive form to talk about per who your sespect to learn and use passive form to talk about per who your sespect to learn and use passive form to talk about per who your sespect to learn and use passive form to talk about per who your sespect to learn and use passive form to talk about per who your sespect to learn and use passive form to talk about per who you respect to learn and use passive form to talk about per who your sespect to learn and yo			
後期中間試験 information to learn present perfect form and how to tabout what you have recently done Unit12 to learn present perfect form and how to tabout what you have recently done to learn present perfect form and how to tabout what you have recently done to learn and use relatives to talk about perwho you respect Unit13 to learn and use relatives to talk about perwho you respect to learn and use passive form to talk about perwho you respect to learn and use passive form to talk about perwho your school	1		
後期 Sile			
9週 Unit12 about what you have recently done 10週 Unit13 to learn and use relatives to talk about per who you respect 11週 Unit13 to learn and use relatives to talk about per who you respect to learn and use relatives to talk about per who you respect to learn and use passive form to talk about per who you respect to learn and use passive form to talk about per and your school to learn and your school to learn and your school	alk		
who you respect 11週 Unit13 who you respect to learn and use relatives to talk about per who you respect to learn and use passive form to talk about spot and your school to learn and use passive form to talk about spot and your school	alk		
who you respect 12週 Unit14 to learn and use passive form to talk abou spot and your school to learn and use passive form to talk abou spot and your school	ple		
4thQ spot and your school	ple		
to learn and use passive form to talk about	: tourist		
Unit14	: tourist		
14週 Unit15 to learn and use conjunctions to talk abou customs and to make farewells	to learn and use conjunctions to talk about customs and to make farewells		
15週 Unit15 to learn and use conjunctions to talk abou customs and to make farewells	to learn and use conjunctions to talk about customs and to make farewells		
16週 後期定期試験			
評価割合			
定期試験 中間試験 小テスト・課題・授業 内の取り組み 合計			
総合評価割合 40 30 30 0 100	i		
基礎的能力 40 30 30 0 100			

———— 苫小			交 開講年	度 令和02年度 (2	2020年度)	授	業科目	 音楽	
科目基		ו ניובאבי	<u> </u>	-/X	_020十段)	1 1×		<u> </u>	
科目番号		0005			科目区分		一般 / 選択	1	
授業形態		授業						<u>` </u>	
開設学科			学科(一般科目)		対象学年	123/	1		
開設期		後期	711 (3211-7		週時間数		後期:2		
教科書/教	 数材	改訂新版	反 高校生の音楽	彰 I	1.= -1		1		
担当教員		松田 奏	 保	•					
到達目		1.							
音楽の	基礎知識を	学び、歌や記ら作曲家の(器楽を通して音楽 作品を鑑賞する/	楽を表現する喜びを経験 心を養う。	することを目標と	する。			
ルーブ	リック								
			理想的な到	達レベルの目安	標準的な到達レ	ベルの目		未到達レベ	ルの目安
評価項目	1		器楽を通し を大いに経		音楽の基礎知識 を通して音楽を 験する。				知識を学びきれず、歌 して音楽を表現する喜 れない。
評価項目	12		音楽史を十の作品を鑑	分に学びながら作曲家 賞する心を大いに養う	音楽史を学びな を鑑賞する心を		曲家の作品	音楽史を学 の作品を鑑 必要。	ぶことができず作曲家 賞する心を養う努力が
 学科の	到達目標項	頁目との	 月係		•				
教育方		·	≈ 1/11*						
	<u>ид П</u>	教科書(D歌(日本の歌・		唱他)を覚え歌う	_α ∇. :	<u></u> 器楽では. !	リコーダーの	
概要				・イタリア歌曲・二部合 ながら音楽史に沿った作					
授業の進	め方・方法	教科書の 楽しむ。 ー (ソフ	D歌(日本の歌・ 音楽史を学びた プラノリコーダ-	・イタリア歌曲・二部合 ながら音楽史に沿った作 - 又はアルトリコーダー	唱他)を覚え歌う 曲家の作品を鑑賞)を各自用意する	。又、 する。 。	器楽では、り 準備する物:	リコーダーの 器楽実技の	アンサンブルを経験し 授業においてリコーダ
注意点		1		ックに触れる機会を持つ					
授業計	画		-		-				
	7	週	授業内容			调ごと	の到達目標		
		1週	1. 歌唱:イク	タリア歌曲「帰れソレン 」「赤とんぼ」他・二部	ト」・日本の曲 合唱「翼をくだ	イタリ		を覚えて歌う を楽しむ。	。・日本の代表的な歌
		2週					イタリア語の発音を覚えて歌う。・日本の代表的な歌に親しむ。・合唱を楽しむ。		
		3週	2. 音楽史:/	2. 音楽史:バロック時代の作曲家と作品		バロック時代の時代背景を理解し、バッハ、ヴィルディ他の作品を鑑賞する。		む、バッハ、ヴィヴァ	
	3rdQ	4週	3. リコーダ-					バスの4種類のリコー	
	Siaq	5週	3. リコーダ-	3. リコーダーアンサンブル			ソプラノ、アルト、テノール、バスの4種類のリコーダーでアンサンブルを楽しむ。		
		6週	4. 音楽史: 7	古典派の作曲家と作品について		古典派時代の時代背景を理解し、モーツァルト、ベートーベンの作品を鑑賞する。			
後期		7週	5. 歌唱:「9	唱:「野バラ」他			ドイツ語の発音を覚えて歌う(ウェルナー及びシューベルト)。同じ詩(ゲーテ)による作曲家の作品の聴き比べ(シューベルト「魔王」)。		
1270		8週	5. 歌唱:「	野バラ」他		ドイツ ベルト き比べ	ドイツ語の発音を覚えて歌う(ウェルナー及びシベルト)。同じ詩(ゲーテ)による作曲家の作品き比べ(シューベルト「魔王」)。		(ウェルナー及びシュー よる作曲家の作品の聴)。
		9週	6. 音楽史:[スト	コマン派の作曲家につい	て・歌唱実技テ	ロマン派の時代の作曲家と作品を楽しむ(シューベルト、ショパン、リスト他)。			
		10週	歌唱実技テス						
		11週	7. リコーダ- ト」他	ーアンサンブル:「ラバ	ニズコンチェル 	リコーダーアンサンブルの響きを楽しみ表現する。			
	4thQ	12週	7. リコーダ- ト」他	ーアンサンブル:「ラバ	ニーズコンチェル	リコーダーアンサンブルの響きを楽しみ表現する。			
		13週	8. 音楽史: ù パーテスト	8 音楽史・近・現代の作曲家と作品について・ペ			世界史を理解して新しい作曲様式、日本人作曲家の出現、世界各国での音楽の変遷について学び作曲家達の作品を鑑賞する。		
		14週	 器楽実技テスト						
		15週	器楽実技テス	<u> </u>					
	15週								
評価割	 合								
			スト(歌唱と器	ペーパーテスト	課題のレポート	 提出	授業への取		合計
Λ == /=		楽)				1/ETTI	チャレンジ	課題	
総合評価		50		25	20		5		100
基礎的能	./J	50		25	20		5		100

	**.*=		交 開講年度 令和02年度 (2	2020年度)	127	科目	<u> </u>		
科目基礎	211 育報			Tau—— o	1	40 () 22 LE			
科目番号		0006		科目区分		-般/選択			
授業形態		授業	47V / AB.TV ()	単位の種別と単位の単位の単位の種別と単位の単位の単位の単位の単位の単位の単位の単位の単位の単位の単位の単位の単位の単		夏修単位:	1		
開設学科		i	科 (一般科目)	対象学年	1				
開設期		後期		週時間数	1	後期:2			
教科書/教	(材		€術I」日本文教出版						
担当教員		松田 奏	保						
到達目標	票								
美術学習る	を通して造	形への興味関	関心を高め豊かな感性を育成すると共に	社会や生活に生か	していく	心情を育ら	成することを目標とする。		
ルーブリ	ノック								
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レ	ベルの目	安	未到達レベルの目安		
評価項目1	l		美術学習を通して造形への興味関心が大いに高まり非常に豊かな感性を育成すると共に社会や生活に生かしていく心情を十分に育成することができる。	美術学習を通し 心を高まり豊か と共に社会や生 心情を育成する	な感性を で 活に生かし	育成する していく	美術学習を通しても造形への興味 関心が高まらず豊かな感性を育成 されないばかりか社会や生活に生 かしていく心情を育成することが できない。		
学科の発	引達日標」	頁目との関		1			1 = =		
<u>3 1 1 9 3 3</u> 教育方法		XII C • 7/2	ОИ						
	U TJ	羊術の含		実租と鍛賞の能力	を伸げす	と共に美術	版を受好する心情を萎ってレを中価		
概要		とする。	ガミルギルで畑して大町仲秋で豆が100、	13.祝∟蝹貝♡彤刀 	<u>ーーー</u>	<u> </u>			
授業の准を	 め方・方法	進め方と	こしては実技を中心にして美術とはなに	か、創造とはなに	か、目的	や条件を基	基にした主題の把握など、その理論		
メポック性の	-2/15 · 13/15	と実践を	・通して美的感覚を洗練し、豊かな感性	を養い制作の喜び	と豊かな	心情を育る	てる。		
注意点		指定され	lた用具類、他すべて記名のこと:画用 見、筆洗、布、スケッチブック、ボンド	筆、アクリル絵の	具セット	、ペーパー	-パレット、張キャンバス、画用鉛		
	 Fi	[=\ \L_\X							
以未可但	<u> </u>	週	授業内容		油ブレグ	 到達目標			
		迎	技耒内谷				ひまる 教社教具の使用され理解す		
		1週	1. 美術の基礎学習 1-1 オリエン・ 鉛筆による素描表現、人物(画用紙	テーション 1-2 ま)	美術学習の内容と心構え、教材教具の使用法を理解する。観察による表現全体の均衡、バランスを把握しデッサンカを身につける。				
		2週	1. 美術の基礎学習 1-2 鉛筆に 人物 (画用紙)	よる素描表現、		る表現全位でしている。	体の均衡、バランスを把握しデッサ 。		
	3rdQ	3週	1. 美術の基礎学習 1-3 混色によ	る色彩学習	色作りをとおして、そこから感じるイメージや感情表 現を考え、理解する。				
		4週	2. 人物画(キャンバス)		自分の容姿をよく観察し、特長をとらえデッサンを行う。アクリル絵具の特性やキャンバスの使用法を理解し着彩する。				
		5週	2. 人物画 (キャンバス)		自分の容姿をよく観察し、特長をとらえデッサンを行う。アクリル絵具の特性やキャンバスの使用法を理解し着彩する。				
		6週	2. 人物画 (キャンバス)		自分の容姿をよく観察し、特長をとらえデッサンを行う。アクリル絵具の特性やキャンバスの使用法を理解し着彩する。				
		7週	2. 人物画(キャンバス)	自分の容姿をよく観察し、特長をとらえデッサンを行う。アクリル絵具の特性やキャンバスの使用法を理解し着彩する。					
		8週	2. 人物画(キャンバス)	. 人物画(キャンバス)			自分の容姿をよく観察し、特長をとらえデッサンを行う。アクリル絵具の特性やキャンバスの使用法を理解し着彩する。		
後期		9週	2. 人物画(キャンバス) 作品鑑賞 ブジェの制作 3-1 制作過程	会 3. 球体才	友人の作品を鑑賞し合い今後の活動に役立てる。新教材の使用法を理解し、一連の作業を計画的に行ない印象的なオブジェを完成する。制作の手だてを確認する。支持体を作る。				
		10週	3. 球体オブジェの制作 3-1 制作 マの決定	過程 3-2 テー	い印象的する。支	はオブジ	理解し、一連の作業を計画的に行な ェを完成する。制作の手だてを確認 る。取り組んでみたいテーマを決定 ンする。		
		11週	3. 球体オブジェの制作 3-2 テー ⁻ 制作	マの決定 3-3	い印象的	はオブジ	理解し、一連の作業を計画的に行な エを完成する。取り組んでみたいテ ージデッサンする。ねらいを明確に 制作する。		
	4thQ	12週	3. 球体オブジェの制作 3-3 制作		い印象的 慎重、大	はオブジ 胆に制作			
		13週	3. 球体オブジェの制作 3-3 制作		い印象的 慎重、大	なオブジ 胆に制作			
		14週	3. 球体オブジェの制作 3-3 制作会	3-4 作品鑑賞	い印象的	なオブジ:	理解し、一連の作業を計画的に行な ェを完成する。ねらいを明確にし、 する。美しい作品を鑑賞し記念にす		
		15週	3. 球体オブジェの制作 3-4 作品 術科の取り組みの反省	鑑賞会 4.美		品を鑑賞 らに高め	し記念にする。美術に対して興味・ ていく。		
		16週							

	提出作品	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	100	100

<u>苫</u> 小特	<u> </u>	等専門学校	交 開講年度	令和02年度 (2	2020年度)	授業科目	書道
科目基礎							
科目番号	-11-110	0007			科目区分	一般 / 選	
授業形態		授業			単位の種別と単位数 履修単位:		
開設学科			4科(一般科目)		対象学年	1	· -
開設期		後期	11 (3211-12)		週時間数	後期:2	
教科書/教	 材		 教育出版		<u> </u>	153,731	
担当教員		松田奏					
到達目標	<u> </u>						
古典を通し	って書の表 ⁵	 見法、執筆法 5書に興味。	ま、用筆法等を学び、 関心をつなげさせ	生活の中に存在する。	る書に気づかせ、 ²	その効用を理解し	J.
ルーブリ		JE ICHAIN	Д.В С Э.М.У С С	3 0			
<i>,,</i> , ,	, , ,		理想的な到達レ		標準的な到達レク		未到達レベルの目安
				<u>, 、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、</u>	古典を通して書の		,
評価項目1			、用筆法等を大中に存在する書 の効用を大いに	いに学び、生活の に十分気づき、そ 理解し、今後の生 に大いなる興味、		が、生活の中に存 き、その効用を理 手に於いても書に	・ 、用筆法等を学ぶことができず、 生活の中に存在する書に気づかず 、その効用を理解せず、今後の生
学科の到	引達目標項	目との関	係				
教育方法	<u></u> 法等	· <u> </u>					
概要		2. 書写 3. 古典 4. 古典	と異なり書は芸術性	な心情を養い、物づ 生を持った精神性の の基礎を習得し、併 づく創作、誰でも読 書も学ぶ。	高い創作活動である	ることを多くのさ	5典を通して学ぶ。
1. 書(芸術)を通し豊かな心情を養い、物づくりの喜びや伝統文化 2. 書写と異なり書は芸術性を持った精神性の高い創作活動であるこ 3. 古典を通して書の表現の基礎を習得し、併せて書体(文字)の変 4. 古典の臨書・それに基づく創作、誰でも読める漢字仮名交じり文 5. 書の学習を通して実用書も学ぶ。					ることを多くのさ D変遷や書風にて	5典を通して学ぶ。 Oいて学ぶ。	
注意点		書道用具	!一式(学校指定の	ちのを購入すること)	・新聞紙を用意す	する	
授業計画	<u> </u>						
		週	授業内容			週ごとの到達目標	—————————————————————————————————————
		1週	1. 書の美を求め 1-1 書の分野、さ	て 5典とその臨書		書の芸術性、書の芸術性、書 を味わう心を養	の美の要素を理解し、その良さ美しさう。
		2週	1. 書の美を求め 1-2 用具・用材・	て ・執筆法・用筆法		習方法を学ぶ。	. 用材について理解し、表現の為の学
		3週	2. 楷書の学習 2	2-1 さまざまな楷言	書 厳正と温雅	質と意義を理解 [:] の特徴と書法を ³	を知り「法帖」の学習題材としての特する。相反する古典の比較を通し各々 理解し楷書の基本的な用筆法を習得す 記禮泉銘と孔子廟堂碑
		4週	2. 楷書の学習 2	2-2 さまざまな楷言	書 重厚と軽快	質と意義を理解 の特徴と書法を	を知り「法帖」の学習題材としての特する。相反する古典の比較を通し各々 理解し楷書の基本的な用筆法を習得す 時外と雁塔聖経序
	3rdQ	5週	2. 楷書の学習 ご	2-3 さまざまな楷氰	書 方勢と円勢	質と意義を理解 [・] の特徴と書法を ³	を知り「法帖」の学習題材としての特する。相反する古典の比較を通し各々 理解し楷書の基本的な用筆法を習得す 造像記と鄭義下碑
後期		6週	2. 楷書の学習: I 現	2-4 楷書のまとめ	: 画仙紙への表	質と意義を理解 の特徴と書法を る。半切1/2にこ	を知り「法帖」の学習題材としての特する。相反する古典の比較を通し各々理解し楷書の基本的な用筆法を習得すこれ迄学習した古典6種類から選び做句により古典の味わいを生かした創作
		7週	3. 行書の学習 :	3-1 行書の特徴		深め書を愛好す しその良さや美	
		8週	3. 行書の学習 ご	3-1 行書の特徴			とにより多様な美を理解し、鑑賞力を る心情を養う。又、表現を幅広く理解 しさを味わう。
	411.0	9週	3. 行書の学習 ご	3-2 蘭亭序の鑑賞。	と臨書	深め書を愛好する しその良さや美 之、3-3三筆空海	とにより多様な美を理解し、鑑賞力を る心情を養う。又、表現を幅広く理解 しさを味わう。半切1/2に3-2書聖王羲 真(弘法大師)の2種類の古典行書か 。指定語句により古典の味わいを生か 学ぶ。
	4thQ	10週	3. 行書の学習 :	3-3 風信帖の鑑賞。	上臨書	書を鑑賞するこ 深め書を愛好す しその良さや美 之、3-3三筆空海	とにより多様な美を理解し、鑑賞力を る心情を養う。又、表現を幅広く理解 しさを味わう。半切1/2に3-2書聖王羲 寅(弘法大師)の2種類の古典行書か 。指定語句により古典の味わいを生か

	11週	3. 行書の学習	習 3-4 行書のまとめ	 	賞することにより多様な美を理解し、鑑賞力をを愛好する心情を養う。又、表現を幅広く理解良さや美しさを味わう。半切1/2に3-2書聖王羲3三筆空海(弘法大師)の2種類の古典行書か做書する。指定語句により古典の味わいを生か作基礎を学ぶ。
	12週		図 4-1 仮名の成立と発達・仮名の種 オとその扱い方・基本的な筆使い	の用具等の基	成立過程・仮名の種類について理解する。仮名 、用材、姿勢、線質、用筆法、運筆法、執筆法 本的な事項を身につける。いろは歌について理 運筆のリズムに留意して練習する。
	13週	4. 仮名の学習			成立過程・仮名の種類について理解する。単体 的な造形の特徴を理解しその美を感得する。
	14週	5. 漢字仮名3 ・文字の大きる	をじりの書 5-1 漢字的、仮名的表現 さ・配置の工夫・墨の濃淡	学習を	仮名の調和の休養性を確認し工夫する。古典の 応用し漢字と仮名を調和させて自己の意図する を半折1/2に表現する。文字の代償、字形配置 、墨の濃淡、潤渇を工夫し意欲的創作を試みる
	15週	6. 実用書 🤨	生活の中の書		かした自分独自の手造りカレンダーを作成する 学習を通して手書き文字の良さを知り実用書にむ。
	16週				
評価割合					
			提出作品		合計
総合評価割合			100		100
基礎的能力			100		100
専門的能力			0		0

苫小牧工業高等専門学校 開講年		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授	業科目	数学 I A
科目基礎情報							
科目番号	0008			科目区分 一般 / 必修		修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数		履修単位: 4	
開設学科	創造工学科(一般科目)		対象学年 1		1	
開設期	通年			週時間数 前期:4 後期:4		期:4	
教科書/教材	高遠節夫著「新基礎数学」(大日本図書)/補助教材:高遠節夫著「新基礎数学問題集」(大日本図書)/参考図書:高学校用の学習参考書「数学 I 」、「数学 II 」、「数学 A 」等						題集」(大日本図書)/参考図書:高等
担当教員	当教員 上木 政美,金野 幸吉,中野 渉,藤島 勝弘						
到達日標							

- 1. 整式の加減乗除の計算・式の展開及び因数分解、分数式の計算ができる。
 2. いろいろな方程式及び不等式を解くことができる。
 3. 恒等式と方程式の違いを区別できる。
 4. 弧度法を用いて一般の三角関数の値を求めることができる。
 5. 加法定理に関する公式が利用でき、三角方程式を解くことができる。
 6. 指数関数、対数関数について、その内容を理解して計算問題を解くことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
整式の加減乗除の計算・式の展開 及び因数分解、分数式の計算がで きる。	整式の加減乗除の計算や式の展開 、4次以上の因数分解、分数式の 計算ができる。	簡単な整式の加減乗除の計算や式 の展開、4次までの因数分解、分 数式の計算ができる。	簡単な整式の加減乗除の計算や式 の展開、4次までの因数分解、分 数式の計算ができない。			
いろいろな方程式及び不等式を解 くことができる。	2次方程式、高次方程式、連立方程式、無理方程式、分数方程式、 1次不等式及び2次不等式を解く ことができる。	基本的な2次方程式、高次方程式 、連立方程式、無理方程式、分数 方程式、1次不等式及び2次不等 式を解くことができる。	基本的な2次方程式、高次方程式 、連立方程式、無理方程式、分数 方程式、1次不等式及び2次不等 式を解くことができない。			
恒等式と方程式の違いを区別できる。	恒等式と方程式の違いを区別でき 、恒等式の性質を用いた応用がで きる。	恒等式と方程式の違いを区別できる。	恒等式と方程式の違いを区別できない。			
弧度法を用いて一般の三角関数の 値を求めることができる。	弧度法を用いて一般の三角関数の 値を求めることができ、グラフを 書くことができる。	弧度法を用いて一般の三角関数の 値を求めることができる。	弧度法を用いて一般の三角関数の 値を求めることができない。			
加法定理に関する公式が利用でき 、三角方程式を解くことができる 。	加法定理に関する公式が利用でき 、三角方程式を解くことができる 。	加法定理に関する基本的な公式が 利用でき、簡単な三角方程式を解 くことができる。	加法定理に関する基本的な公式が 利用できず、簡単な三角方程式を 解くことができない。			
指数関数、対数関数について、そ の内容を理解して基本的な計算問 題を解くことができる。	指数関数、対数関数について、ほ とんどの計算問題を解くことがで きる。	指数関数、対数関数について、基 本的な計算問題を解くことができ る。	指数関数、対数関数について、基 本的な計算問題を解くことができ ない。			
光灯 6 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1						

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	中学までに習得した数学の知識を基に、整式や分数式の計算、方程式や不等式の解法、三角関数の計算方法、指数関数 ・対数関数を理解し、工学の問題を解くときに必要となる計算技術を習得する。
授業の進め方・方法	授業は教科書に沿って行い、計算方法を習得するための演習を適宜実施する。また、計算練習のための課題を課す。 成績は定期試験(40%),中間試験(40%)および平素の学習状況(課題等:20%)を総合して評価する。 学業成績の成績が60点未満のものに対して再評価を行う場合がある。この場合、再試験80%または再評価試験80%,課 題等20%の割合で再評価を行う。
注意点	授業の進み方は中学時代よりも速く、一旦つまずくと先に進むのが困難となるので、日々の予習・復習の習慣を身につけ、授業の内容はその日のうちに理解するよう心がけること。数学は、学生諸君が今後学んでいく工学の基礎として位置づけられる。

汉未 司[<u> </u>			
		週	授業内容	週ごとの到達目標
		1週	整式の加法・減法・乗法	整式の加法・減法・乗法が計算できる
		2週	因数分解	因数分解が計算できる
		3週	整式の除法、剰余の定理	整式の除法ができる 剰余の定理を理解し、応用できる
	1stQ	4週	因数定理、分数式の計算	因数定理を理解し、因数分解に応用できる 分数式の計算を理解し、分数の四則演算ができる。
		5週	2次方程式、解と係数の関係	解の公式を用いて2次方程式が解ける
		6週	高次方程式、連立方程式	高次方程式・連立方程式を解くことができる
		7週	無理方程式・分数方程式	無理方程式・分数方程式を解くことができる
益田		8週	中間試験	達成度を把握し、試験の復習を行って理解度を向上する
前期		9週	恒等式、等式の証明、1次不等式	恒等式を理解し、等式を証明することができる 1次不等式を解くことができる
		10週	2次不等式	2次不等式を解くことができる
		11週	高次不等式、不等式の証明	高次不等式を解くことができる 不等式を証明することができる
	2ndQ	12週	鋭角の三角比	鋭角の三角比を求めることができる
		13週	鈍角の三角比	鈍角の三角比を求めることができる
		14週	三角比の相互関係	三角比の相互関係を使った問題を解くことができる
		15週	三角形への応用	正弦定理、余弦定理を利用することができる 三角形の面積を求めることができる
		16週	定期試験	
後期	3rdQ	1週	一般角の三角関数	一般角の三角関数の値を求めることができる

		2週	弧度法			弧度法と60分法の 角関数の値を求める	変換を行うことができ、一般の三		
			-			1	用した問題を解くことができる		
		4週	三角関数のグラフ		三角関数のグラフを描くことができる				
	5)		三角関数を含む方	程式、不等式		三角関数を含む方程式、不等式を解くことができる			
		6週	加法定理、加法定	加法定理、加法定理の応用(1)			利用することができる 公式を導き、利用することができ		
		7週	加法定理の応用(2)		三角関数の合成を理	解し、利用することができる		
	8½ 9½		中間試験			達成度を把握し、試	達成度を把握し、試験の復習を行って理解度を向上する		
			累乗根、指数の拡	累乗根、指数の拡張			累乗根の性質を理解する。指数を有理数に拡張した指数法則を理解し、それらの計算ができる。		
		10週	指数関数(1)	指数関数(1)			指数関数を理解し、指数方程式・指数不等式を解くこ とができる。		
		11週	指数関数(2)			指数関数を理解し、 とができる。	指数方程式・指数不等式を解くこ		
	4thQ	12週	対数 (1)			対数の性質を理解し	、対数を用いた計算ができる。		
		13週	対数 (2)			対数の性質を理解し、対数を用いた計算ができる。			
		14週	対数関数			対数関数を理解し、 とができる。	対数方程式・対数不等式を解くこ		
		15週	常用対数			常用対数のもつ意味	を理解し、その計算ができる。		
		16週	定期試験						
評価割合	ì								
			定期試験	中間試験		果題等	合計		
総合評価割	合	4	40	40	2	.0	100		
基礎的能力]	4	40	40	2	.0	100		
専門的能力]	(0	0	0)	0		
分野横断的	能力	(0	0	0)	0		

	工業高等	等専門学校	開講年度	令和02年度 (2	 2020年度)	授	 業科目	数学 I B
———— 科目基礎		3 (3) 3 (2)	11.5215 1.52	1-181-2 (-			-131 1	2007 = -
科目番号	ЛТК	0009			科目区分		一般 / 必	·修
受業形態		授業			単位の種別と単位	立数	履修単位	
開設学科			科(一般科目)		対象学年		1	
開設期		通年			週時間数		前期:3 後	· 短期:3
教科書/教林	a	自作プリ	高遠節夫他著「新基 ント/参考図書:高 建爾他著「基礎数学	等学校用の学習参	· 図書) 補助教材: 考書「数学I」、「	高遠節: 数学 II	夫他著「親」 」 岡本和	所基礎数学問題集」(大日本図書)、 夫他著「新版基礎数学」(実教出版
旦当教員		中野 渉,萠	集島 勝弘,金澤 範雄	 ,有馬 隆司				
到達目標			•					
欠の内容を	:理解して基		問題を解くことがで な関数(2次関数、		数、無理関数、逆	関数)、	3)集台	a・命題、4)図形(点と直線、円
レーブリ	ック							
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レイ	ベルの目	安	未到達レベルの目安
	基本的な記	て、その内容 †算問題を解	数と式の計算に の計算問題を解	ついて、ほとんど くことができる。	数と式の計算に計算問題を解くる			数と式の計算について、基本的な 計算問題を解くことができない。
いろいろな関数について、その内容を理解して基本的な計算問題を解くことができる。				について、ほとん 解くことができる			、基本的 できる。	いろいろな関数について、基本的な計算問題を解くことができない。
っ集合論理		合の包含関係 えたり、その ができる。	や集合論理に置逆の操作を行う	を集合の包含関係 き換えたり、その ことができ、それ ることができる。	簡単な命題の集合論理を集合の包含関係や集合論理に置き換えたり、その逆の操作を行うことができる。		換えたり	含関係や集合論理に置き換えたり
て、その内		と式につい して基本的な ができる。	図形(点と直線	. 円)と式につい 計算問題を解くこ	図形(点と直線、円)と式について、基本的な計算問題を解くことができる。		式につい 解くこと	図形(点と直線、円)と式について、基本的な計算問題を解くことができない。
学科の到	達目標項	目との関	 係					
教育方法	等							
既要		質と計算	計算では平方根・複 集合・命題では集 計算を習得する。	夏素数の計算、いろ ほ合と命題の基礎概だ	ハろな関数では2½念、図形(点と直続	次関数・ 線、円)	・べき関数 と式では	マ・分数関数・無理関数・逆関数の性 に距離・内分点・直線の方程式・円の
授業の進め	方・方法	な演習を 小テスト 成績は定 学業成績 再評価を	テう。演習では、問をおこなって定着を あこなって定着を 期試験(40%)、 の成績が60点未満の テう。	題演習によって講記図る。 四る。 中間試験(40%) ひものに対して再試	義内容の理解を深め および平素の学験を実施する場合	める。 a 習状況 がある。	Fた、定期 (課題等 : , この場合	る数学事項について説明し、基礎的 間的に課題(問題集・プリント等)や 20%)を総合して評価する。 合、再試験80%、課題等20%の割合で
主意点		・授業進 業内容は	度が速いので、日々	の予習・復習を必ず なるよう努めるこ	ずおこない、授業゙	し、基礎 で扱う教	壁を確実に 数科書の問	「固めながら学習を進めること。 題は一通り予習して授業に臨み、授
受業計画	<u>i</u> _							
	週 授業内容				週ごとの到達目標			
			実数、平方根の計算	〔1〕		実数の分類ができる。		きる。
			実数、平方根の計算	算(2)		算がで	きる。	生質を理解して、それらを含む式の計
		3週	実数、平方根の計算	算(3)		絶対値、根号の性質を理解して、それらを含む式の計 算ができる。		
	1stQ	4週	複素数(1)			複素数を理解して、それを含む式の計算ができる。		
			複素数(2)			平面を	扱うことだ	
		6週	複素数(3)			複素数の	の絶対値を	を計算できる。

	-			
		週	授業内容	週ごとの到達目標
		1週	実数、平方根の計算(1)	実数の分類ができる。
		2週	実数、平方根の計算(2)	絶対値、根号の性質を理解して、それらを含む式の計 算ができる。
		3週	実数、平方根の計算 (3)	絶対値、根号の性質を理解して、それらを含む式の計 算ができる。
	1 c+O	4週	複素数(1)	複素数を理解して、それを含む式の計算ができる。
	1stQ	5週	複素数(2)	負の数の平方根を虚数単位で表すことができる。複素 平面を扱うことが出来る。
		6週	複素数(3)	複素数の絶対値を計算できる。
		7週	2次関数のグラフ(1)	標準形で表された2次関数のグラフを書くことができる。
		8週	中間試験	達成度を把握し、理解度の向上を図る。
前期		9週	2次関数のグラフ(2)	2次関数を標準形に直しグラフを書くことができる。
		10週	2次関数のグラフ (3)	2次関数を標準形に直しグラフを書くことができる。
		11週	2次関数の最大・最小	与えられた定義域での最大・最小値を求めることができる。
		12週	2次関数と2次方程式(1)	判別式を用いて 2 次関数のグラフとx軸との共有点を調べることが出来る。
	2ndQ	13週	2次関数と2次不等式(2)	2 次関数のグラフを利用して 2 次方程式を解くことが できる。
		14週	2次関数と2次不等式	2 次関数のグラフを利用して 2 次不等式を解くことが できる。
		15週	べき関数	べき関数、偶関数と奇関数の性質、グラフの平行移動 を理解する。
		16週	定期試験	
後期	3rdQ	1週	分数関数(1)	グラフの平行移動や仕組みを理解し、分数関数のグラフを書くことができる。

	1					1				
		2週	分数関数(2)			グラフの平行移動 フを書くことがで	グラフの平行移動や仕組みを理解し、分数関数のグラ フを書くことができる。			
		3週	無理関数(1)	無理関数(1)			グラフの平行移動や仕組みを理解し、無理関数のグラフを書くことができる。			
			無理関数(2)			グラフの対称移動 グラフを書くこと	、拡大・縮小を理解し、無理関数の ができる。			
			逆関数			逆関数の性質を理 めることができる	解し、与えられた関数の逆関数を求。			
		6週	集合、命題(1))		集合の基礎概念を	理解し、演算ができる。			
	7週		集合、命題(2))		命題に関する基本的な概念を理解し、背理法を用いて 命題を証明することができる。				
		8週	中間試験			達成度を把握し、	達成度を把握し、理解度の向上を図る。			
		9週	2点間の距離と	内分点		座標平面上の距離	座標平面上の距離や内分点を求めることができる。			
		10週	直線の方程式		程式を求める 2 直線の関係 めることがで 直線の方程式		5程式の表し方を理解し、与えられた条件の方 求めることができる。			
		11週	2直線の関係(1)			2直線の関係を理解し、与えられた条件の方程式を求めることができる。			
	4thQ	12週	2直線の関係(2)			直線の方程式の表し方と2直線の関係を理解し、与えられた条件の方程式を求めることができる。			
		13週	円の方程式(1)			円の方程式とその	表し方を理解できる。			
		14週	円の方程式(2))		与えられた条件に きる。	おける円の方程式を求めることがで			
		15週	円の方程式(3))		与えられた条件に きる。また、2次的	おける円の方程式を求めることがで 曲線を理解できる。			
		16週	定期試験							
評価割合	<u> </u>						_			
			定期試験	中間試験		課題等	合計			
総合評価害	合		40	40	2	20	100			
基礎的能力	J		40	40	2	20	100			
専門的能力	J		0	0	()	0			
分野横断的	的能力		0	0	()	0			

苫小牧工業高等!	苫小牧工業高等専門学校 開講		令和02年度 (2	020年度)	授業科目	化学 I				
科目基礎情報										
科目番号	0010			科目区分 一般 / 必修		修				
授業形態	授業			単位の種別と単位数	数 履修単位:	2				
開設学科	創造工学科(一般科目)			対象学年 1						
開設期	通年			週時間数	週時間数 前期:2 後期:2					
教科書/教材	「化学基礎	改訂版」啓林館	7/補助教材:「改訂	ニューアチーブ化	2学基礎」東京書	書籍				
担当教員	大島 和浩									
지수 교 변										

到達目標

- ・工学的課題に化学の観点から取り組む基本的な知識を身につける。 ・化学に関する基本的な法則、原理を理解し、関連する基礎的な問題を解くことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
化学に関する基本的な法則、原理 を理解し、関連する基礎的な問題 を解くことができる。	講義内容に関連した応用問題を解 くことができる。		プリントの問題、教科書の節末問題の約7割を解くことができない。
工学的課題に化学の観点から取り 組む基本的な知識を身につける。	工学的課題解決における化学の役割について具体例を挙げ、詳細に 説明できる	工学的課題解決における化学の役割について説明できる	工学的課題解決における化学の役割について説明できない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

37(137372)	
概要	化学は、様々な物質の構造、性質、反応による物質の変化などを原子や分子のレベルで理解する学問である。化学を学ぶことによって、身の回りの様々な有機材料・無機材料の微細構造や性質についての系統的な理解、物質の状態の温度・圧力による変化についての理解、材料や環境中の微量物質の分析手法についての理解、有機・無機の様々な化学反応や化学物質を合成するための工業的なプロセスの概要についての理解を深めることができる。これらの知識は、日常生活で役に立つことはもちろん、化学の分野に限らず機械・電気電子・情報・環境などの分野の技術者として活動するための基礎となる知識である。
授業の進め方・方法	授業は教科書に基づき、Power Pontによるスライドを示しながら進める。ノート・電卓・定規・プリントを閉じるためのファイル(B4)を用意すること。演習課題等はBlack Boardを用いてPDF形式で配布することがある。
注意点	授業の十分な理解には、数学的な基礎知識を有していることが必要である。 化学知識とは基礎からの積み重ねにより習得するものであり、暗記力ではなく、知識の活用力が求められる。到達目標 の達成には十分な自学自習が必須である。 中間達成度評価試験および定期試験において合格点に満たない場合、課題提出状況および平素の受講態度が良好の者に 対して再試験を行う場合がある。この場合、再試験の結果をもって成績の再評価を行う。

		週	授業内容	週ごとの到達目標
		1週	ガイダンス、混合物と純物質	化学 I の授業の概要を理解する。 混合物と純物質の区別、物理的な分離方法の種類と概要を説明できる。
		2週	元素・単体・化合物、同素体	元素の概念の確立の歴史について説明できる。 混合物・化合物・単体の区別ができる。 同素体についてその例や性質の違いを説明できる。
		3週	粒子の熱運動と物質の三態	粒子の熱運動、状態変化について説明できる。化学変 化と物理変化の違いについて説明できる
		4週	原子の構造、同位体	原子の構造について、構成粒子、大きさ、電荷などを 説明できる。 同位体について説明できる。
	1stQ	5週	電子配置、イオン	原子の電子配置について電子殻、軌道、最外殻、価電子などの言葉を用いて説明できる。 原子番号が分かれば電子配置を書くことができる。 イオンのでき方について理解している。 主なイオンについてイオン式と名称を理解している。 原子番号が分かればイオン式を書くことができる。
前期		6週	元素の周期律、元素の周期表、同族元素	元素の周期律、元素の周期表について説明できる。 主な同族元素についてその性質を説明できる。 周期表の中での単体の融点の変化の傾向について説明 できる。
		7週	演習	第6週までの演習問題について、これを解くことができる。
		8週	中間達成度評価試験	
		9週	化学結合、イオン結合、組成式	イオン結合について説明できる。 イオン式またはイオン名が与えられれば組成式と物質 名を書くことができる。
		10週	イオン結晶、電解質	イオン結晶の性質や主な物質について説明できる。 強電解質、弱電解質、非電解質について例をあげて説 明できる。
	2ndQ	11週	分子と共有結合	分子の成り立ちについて説明できる。 共有結合について電子対、不対電子、共有電子対など の言葉を使って説明できる。 原子が与えられれば分子を作ることができる。
		12週	分子式、示性式、構造式	分子式、示性式、構造式について説明できる。 主な物質について分子式、示性式、構造式を書くこと ができる。
		13週	分子の極性、配位結合、水素結合	分子の極性について説明できる。 極性分子と無極性分子を見分けることができる。 配位結合と水素結合について説明できる。

		14週	金属結合、金属結晶	晶の構造と密度		金属結合について 体心立方格子、面 説明できる。 金属結晶の構造が			
		15週	結合の種類と結晶の	の代表的性質		結合の種類(イオ 金属結晶)と結晶			
		16週	定期試験						
		1週	原子量、分子量、這	尤量		原子量について説 分子量、式量につい 同位体の相対質量 きる。	ハて計算できる。	ば原子量が計算で	
			物質量、気体の密度	芟		物質量について説明できる。 気体の分子量と密度の関係について説明できる。 分子量が分かれば気体の密度が計算できる。			
			物質量の計算			物質量、質量、体積、粒子の個数の関係について説明 できる。質量パーセント濃度、モル濃度の計算ができ る。			
	3rdQ	4週	化学反応式			化学反応式につい 化学反応式の係数	て説明できる。 を決めることがで	きる。	
		5週	化学反応式を使った	き計算(1)		化学反応式を使って反応物と生成物の量的な関係が計 算できる。			
		6週	化学反応式を使った	化学反応式を使った計算(2)			化学反応式を使って反応物と生成物の量的な関係が計算できる。		
後期		7週	演習	寅習			P容を理解し、問題	夏を解くことができ	
		8週	中間達成度評価試験	倹					
		9週	酸と塩基			アレニウスの定義 基づいて酸・塩基	・ブレンステッド を説明できる。	ローリーの定義に	
		10週	電離度	電離度			明できる。酸・塩 きる。	基の強弱について	
		11週	水の電離とpH(1)	水の電離とpH (1)			pHと酸性・塩基性の関係について説明できる。pHの 計算ができる		
	4thQ	12週	水の電離とpH(2)	Kの電離とpH(2)			代表的な指示薬の変色域を説明できる。		
		13週	中和と塩(1)			中和について説明できる。中和滴定について理解し、 量的計算ができる			
		14週	中和と塩(2)			様々な塩の特徴について理解し説明できる			
		15週	演習			後期第14週までの きる	内容を理解し、問	題を解くことがで	
		16週	定期試験						
評価割合				1	1	T			
		前期WEB達成 評価	前期課題など	後期小テスト	後期課題など	後期中間達成度 評価	後期定期試験	合計	
総合評価害		30	20	5	5	15	25	100	
基礎的能力		30	20	5	5	15	25	100	
専門的能力		0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的	能力	0	0	0	0	0	0	0	

		等専門学校	党 開講年度 令和02年度 (2	2020年度)	授業科	目 物理基礎	
科目基礎				T	ı		
科目番号		0011		科目区分		/ 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位 対象学年	対 履修	単位: 2	
開設学科			科(一般科目)	40.115			
開設期		通年		週時間数	前期	:2 後期:2	
教科書/教			・ライノート物理基礎力学編(東京書籍),自作プリント			
担当教員		加藤 初係	支				
到達目							
1) 科学術 2) 等加速 3) 実験の	がで多用され 速度直線運動 D基礎的手順	。る文字式の語に関する計算と実験デーク	計算が行えるようになる. 算が行えるようになる. タのまとめ方の概要を知る.				
ルーブ	リック						
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レク	ジルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1			有効数字の考慮と文字式の変形が 正確に行える.	有効数字の考慮と 行える.	文字式の変	行えない.	
評価項目	2		等速直線運動と等加速度直線運動 の計算を投射運動に正確に適用で きる.	等速直線運動と等 の計算を投射運動	詳加速度直線 かに適用でき	運動 等速直線運動と等加速度直線運動 る. の計算を投射運動に適用できない	
評価項目	3		ベクトルの和・差,スカラー倍を 計算でき,物体の投運動に正確に 適用できる.	ベクトルの和・君 計算でき,物体の きる.	き, スカラー)投運動に適	倍を ベクトルの和・差, スカラー倍を 用で 計算でき, 物体の投運動に適用で きない.	
学科の	到達目標耳	頁目との関]係				
教育方法		<u> </u>					
概要	\J	科学技術を用いてなる.	計算に必要な有効数字や文字式の変形 計算できるようになる. さらに, これ	等を学んだ後に, 等 らの計算が重力中で	等速直線運動 での物体の週	かと等加速度直線運動について主要な公式 運動を表す2次元の運動に適用できるように	
授業の進	め方・方法		では、物理およびその他の理系の科目 ープで行い,理科や工学を学ぶ際の基	を学ぶ上で基礎とた 礎知識や実験を進め	なる知識や実 かる方法や実	に 験の進め方について学習する. 特に実験 に に に に に で に に に に に に に に に に に に に	
注意点			全体に知的好奇心を持ち、身の周りの 持つこと.	現象にも目を向け、	新聞やTV	/で報道される科学技術に関連する報道に	
授業計	画						
		週	授業内容		週ごとの到達	達目標	
		1週	有効数字			有効桁数を知る.	
		2週	有効数字演習			考慮した計算ができる.	
		3週	実験#1 長さの測定		実験の測定とその計算に有効数字を考慮できる.		
	1 0+0	4週	文字式(基礎の基礎)		文字式の計算の基本的事項を知る.		
	1stQ	5週	文字式(基礎)		文字式を変形する過程での基本的事項を知る. 単位を正確に扱える.		
		6週	SI単位系と指数法則				
		7週	単位換算		単位換算が文字式の計算と基本的には同じものである ことを知る.		
		8週	文字式と単位換算の演習		単位換算ができるようになる.		
V/ 445		9週	前期中間試験				
前期		10週	等速直線運動	į	物体の速度が変化しない場合の,速度・変位・時間の間の関係を種々の計算に応用できる.		
		11週	速度の合成と相対速度		速度の合成の計算と相対速度の計算が正確にできるようになる.		
	2ndQ	12週	加速度とv-tグラフ		等加速度直線運動のv-tグラフの面積から変位が計算で きる.		
		13週	等加速度直線運動の公式	;	等加速度直線運動の3つの公式を知る.		
		14週	等加速度直線運動の演習		等加速度直線運動の3つの公式を用いた計算ができる.		
		15週	等速直線運動と等加速度直線運動の応 射運動)	用(重力中の投	等速直線運動が鉛直運動が鉛直運動	動が水平成分に適用でき,等加速度直線運 動に適用できることを知る.	
		16週	前期定期試験			は ナ ね ナ ル畑 は 上ご ナ ヘ トロ キ 広 ・ 	
		1週	重力加速度		重力中で投り あることを	肘された物体が持つ加速度が重力加速度で 印る.	
		2週	実験#2 重力加速度の測定			を実験によて測定できる.	
		3週	物体の自由落下		計算ができ		
/// HP	3rdQ	4週	物体の鉛直投げ上げ		て種々の計算	·	
後期		5週	ベクトルとスカラー		変位・速度 量がスカラ-	・加速度・力がベクトルであり,時間・質 – であることを知る.	
		6週	ベクトルの和・差・スカラー倍		ベクトルの	和・差・スカラー倍の計算を知る.	
		7週	矢印を用いたベクトルの計算		きるようにた		
		8週	成分を用いたベクトルの計算		ベクトルの ^を 算できるよ	和・差・スカラー倍を座標成分を用いて計 うになる.	
	1	O.E	⟨⟨⟨ ₩□ → BB=₩₽△				

4thQ

9週

後期中間試験

10週 位置バグドルと迷浸バグドル を知る.	7トルと速度速度ベクトル			
エーナー!!!! シンカー !!!!! とっしい	平面運動する物体の位置ベクトルと速度速度ベクトル を知る.			
11週 投射運動の水平成分 単カーで投射された物体の水・運動の公式を用いて計算でき	重力中で投射された物体の水平方向の運動を等速直線 運動の公式を用いて計算できる.			
	重力中で投射された物体の鉛直方向の運動を等加速度 直線運動の公式を用いて計算できる.			
13週 物体の投射運動(平面運動)	動を水平方向と鉛直運動 ことを知る.			
14週 投射運動の演習 重力中での運動に関する種々方向の公式を組み合わせて計	重力中での運動に関する種々の量を,水平方向と鉛直 方向の公式を組み合わせて計算できる.			
15週 運動の3法則 慣性の法則・運動の法則・作知る.	慣性の法則・運動の法則・作用反作用の法則を正確に 知る.			
16週 後期定期試験				
評価割合				
試験 実験 小テスト等 合	計			
総合評価割合 60 20 20 10	00			
基礎的能力 60 20 20 10	00			
専門的能力 0 0 0 0				
分野横断的能力 0 0 0				

		高等専門学	 夕校	開講年度	令和02年度(2020年度)	授業科目	地学・生物			
科目基础	楚情報				•						
科目番号		0012				科目区分	一般 /	 必修			
授業形態		授業				単位の種別と単	単位の種別と単位数 履修単位: 1				
開設学科		創造	_学科	(一般科目)		対象学年	= 1				
開設期		前期				週時間数	前期:2				
教科書/教	材	磯崎行	」雄「地	2学基礎」 啓林館	官、本川達雄「生物	勿基礎」啓林館/補助	b教材:「Navi	& トレーニング 地学基礎	」啓林館		
担当教員		大島 :	和浩,長	田 光司							
到達目標	票										
生物分野の	および地 フサイエ	学分野と人間 ンス、アース	引生活と スサイコ	このかかわりにて エンスの立場から	Oいて理解する。る ら、「ものづくり」	さらに、自然、環境 で必要となる環境	、科学技術に対 への配慮ができ	する興味・関心を高める教 ることを目標とする。	育領域であ		
ルーブ!	リック										
			3	理想的な到達レイ	ベルの目安	標準的な到達レ	達レベルの目安 未到達レベルの目安				
評価項目				教科書、ワーク			の4割以上				
				を独力で解ける。	<u> </u>	を独力で解ける。	0	が独力で解けない。			
評価項目: 評価項目:											
		西陌口 レグ	即亿								
		票項目との	/ 注								
教育方法	太寺		m take to	ART 1 L.	=======================================			1 = 1-4 = 16 97 + 10 = 10 = 14			
概要		地球り 自然 <i>の</i> 」こと	環境や生 ○事物・ ≤を基本	Ξ態糸など目然の 現象について理 ≤目標にする。)事物・現象を埋削 2解し、人間と自然	¥・考察することに 然とのかかわりにつ	よって、「生物 いて考え、自然	とそれを取り巻く地球環境 に対する総合的な見方や考	を中心に、 え方を養う		
授業の進	め方・方	法 授業は教科書	ま、書き 書およひ	テ込み式のプリン トプリント(B 5	/トと教科書を使う () を入れるファイ	って進めるので、ノ (ルホルダーを毎回	ートは用意しな 必ず持参するこ	くても良い。 と。			
注意点		地震が水道な	9風水害 よどの社	stなどの自然災害 t会基盤、ごみの	言や環境汚染など(i)分別など) で地球	こついてのニュース 環境や生物と人間	ばかりでなく、 との関わりの観	様々な日常生活の場面(旅 点から考えることを心がけ	行、電気や て欲しい。		
授業計画	画										
		週	授美	業内容			週ごとの到達目	標			
		1週	ガー	イダンス							
		2週	地球	地球の概観			地球の形や大きさ、表面の構造などを説明できる。				
		3週	地球	水の内部構造			地球表面や内部の構造の成り立ちや構造を説明できる。				
	1stQ	4週	プレ	ノートと地球の活動			プレートの動きと地球の表面の活動の関係について説 明できる。				
		5週	地震	泰			地震が発生するメカニズムや震度、断層について説明 できる。				
		6週	火山	山活動と火成岩の	D形成		噴火の形式、火成岩の分類について説明できる。				
		7週	演習				計算によって地震の震源を決めることができる。				
前期		8週		引試験			 				
		9週		かの特徴	¥ 1.0		様々な生物の特徴について説明できる。				
		10週	生物	物の共通性と多様	東性		生物の共通性と多様性について説明できる。				
		11週	細別	包とエネルギー			生物活動とエネルギー、物質の代謝について説明できる。				
		12週	大急	 気の構造			る。 大気の構造について説明できる。				
	2ndQ	13週		腸放射と大気・治	毎水の活動			動と太陽放射エネルギーの	関係につい		
		14週	自然	************************************					 ごきる。		
		15週	1	とその保全				人間生活の影響、生態系の			
		16週	定期								
評価割る	<u>-</u>	1-4~-	,~_/\				1				
ᇚᇊ	<u> </u>	達成度評価 (WEB)			0	課題・演習等授業への酸化態度	レポート	合計			
総合評価	 割合	70		0	0	15	15	0 100)		
	-	_	- +		0	15	15	0 100			
基礎的能力 70			- +		0	0	0	0 0	•		
車門的能	専門的能力 0 分野横断的能力 0 0 0										

科目基		0015		NEGA	6n. / N. /-	₩		
科目番号 授業形態		0013		科目区分	一般/必修			
授業形態 開設学科		授業		単位の種別と単位数 対象学年	数 履修単位: 1 1			
<u>用設子科</u> 開設期	1	型型工 後期	ナイイ (別文代寺日)	対象子年 週時間数	後期:2			
加取列 教科書/教	 数材	100 100 100		透明的数	182791.2			
<u> </u>		多賀俊						
到達目	 標							
現代社会 将来のエ を目標と	こう の多岐にわ こンジニアと ごする。	たる健康、 して、今日	安全に関する基本的事項を継続的に修得 的な健康問題を認識し、これを科学的な	できることを目標とす 視点から正しく分析・	「る。 判断し、適切(こ対処できる能力や態度を養うこと		
レーブ	リック			T		1		
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベル		未到達レベルの目安		
意欲・関 	心・態度		より良い心身の健康な状態を保つ ことに意欲、関心があり、健康的 で安全な社会生活を送るための学 習に積極的に取り組んでいる。	より良い心身の健康 ことに興味があり、 な社会生活を送るた り組んでいる。	健康的で安全	より良い心身の健康な状態を保つ ことにあまり関心がなく、健康的 で安全な社会生活を送るための学 習意欲に乏しい。		
思考・判	小		学習した知識をどのように生かすかを主体的に考え、健康的で安全な社会生活を送るための適切な判断ができる。	学習した知識をどのかを考え、健康的で活を送るための判断	安全な社会生	学習した知識を生かすかための考えに乏しく、健康的で安全な社会 生活を送るための判断ができていない。		
知識・理	里解		心身の健康や健康的で安全な社会 生活を送るための正しい知識を理 解し、それを普段の学校生活に生 かしてる。	心身の健康や健康的 生活を送るための正 解している。	で安全な社会しい知識を理	心身の健康や健康的で安全な社会 生活を送るための正しい知識の理 解に乏しい。		
学科の	到達目標	項目との	関係					
教育方:	法等							
概要 受業の進	≦め方・方法	①心身 「生涯 、及び の維持 	していける能力を育むことを目標とするの健康の捉え方や交通安全、応急手当をを通じる健康」、③環境や労働など生活将来の社会生活において健康・安全の課・管理や健康的な社会環境づくりなどがの最初の導入においては、前回の授業内しておく必要がある。	含む「現代社会と健康 に密接した「社会生活 題に直面した場合に、 実践できるようになる	を健康」の3つ 適切な思考・等 ための基礎とし	の観点から学習し、現在の学校生活 判断に基づいて行動し、自らの健康 しての能力を育成することを目指す		
注意点		現代社	<u>しての、心安がめる。</u> 会の多岐にわたる健康・安全の諸問題を 新聞や雑誌などの各種メディアから得ら		デできるように、 いをもつこと。	また授業をより深く理解するため		
授業計	画							
		週	授業内容		ごとの到達目標			
		1週	ガイダンス 私たちの健康のすがたとそのとらえ方	授美 まり	授業内容、評価方法等を理解できる。 また、日本の健康水準や健康について説明できる。			
		2週	健康と意志決定・行動選択とその環境 生活習慣病とその予防	適t 作り まが	適切な意思決定・行動選択に必要なことを説明できる。 。 また、生活習慣病を理解し、その予防方法を説明でき る。			
		3週	食事と健康 運動と健康	健原	康的な食生活について理解し、説明できる。 た、健康によい運動を理解し、説明できる。			
	2.10	4週	休養・睡眠と健康 欲求と適応機制	ま <i>7</i> 説	質のよい休養や睡眠について理解し、説明できる。 また、欲求の種類と欲求不満に対する適応機制の例を 説明できる。			
	3rdQ	5週	心身の相関とストレスへの対処 心の健康と自己実現	こっまた	心身の相関とストレスへの自分なりの対処法を考える ことができる。 また、自己実現について説明できる。			
		6週	喫煙と健康 飲酒・薬物乱用と健康	ま <i>†</i> きる	喫煙の健康への影響と対策を説明できる。 また、飲酒・薬物乱用の健康への影響と対策を説明で きる。			
公 甘日				また、家族計画の		考慮すべき健康的観点を説明できる 意義や避妊法、人工妊娠中絶を説明		
发期		7週	結婚生活と健康 家族計画と人工妊娠中絶	。 ま <i>1</i>				
发期		7週 8週	家族計画と人工妊娠中絶達成度レポート評価	。 ま <i>1</i> でき 自身 決	こ、家族計画の きる。 身の関心・理解 策を見出す。	意義や避妊法、人工妊娠中絶を説明 度を把握するとともに、具体的な解		
後期			家族計画と人工妊娠中絶	ま力 でき 自身 決分 現れ	こ、家族計画のきる。 等の関心・理解 を見出す。 王注意すべき感			
後期		8週	家族計画と人工妊娠中絶 達成度レポート評価 現代の感染症とその予防	また。 また。 自身 現代 また。 応意	こ、家族計画のきる。 身の関心・理解 を見出す。 日注意すべき感 こ、エイズを含 急手当の意義と 長と手順が理解	意義や避妊法、人工妊娠中絶を説明度を把握するとともに、具体的な解染症と感染症予防策を説明できる。む性感染症の予防策を説明できる。		
後期	4thQ	8週	家族計画と人工妊娠中絶 達成度レポート評価 現代の感染症とその予防性感染症・エイズとその予防 応急手当の基本と心肺蘇生法	。 まで 自決 現れ た 意 ま う 高 る ま た	こ、家族計画のきる。 身の関心・理解 を見出す。 宝注意イズ素 また、エンラの意と含 また、エンラの意と含 また、大会と言 また、熱中症の のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは	意義や避妊法、人工妊娠中絶を説明度を把握するとともに、具体的な解染症と感染症予防策を説明できる。む性感染症の予防策を説明できる。その基本、心肺蘇生について、そのできる。防について説明できる。やそれを支える社会制度を説明でき保険、医薬品の種類や使い方、安全		

	13週	健康被害の防止と環境対象品衛生活動・食品と野		環境汚染の防止とその対策 また、食品の安全性を理解 できる。	について説明できる。 好し、衛生管理について説明		
14週		働くことと健康 労働災害と健康的な職業	働くことと健康 労働災害と健康的な職業生活		職業人の健康問題の時代による変化・問題が説明できる。 また、労働災害と安全管理、健康管理について説明できる。		
	15週	まとめ		これまでの授業を振り返り 実した学校生活を送れるよ)、心身ともに健康的で、充 こうな方策を考えられる。		
	16週	定期試験					
評価割合							
		達成度レポート評価	定期試験		合計		
総合評価割合		20	80	100	基礎的能力		

科目基礎	熱情却							
	近刊	0014		和 日 区 ム	一般 / 必	收		
科目番号 授業形態		0014 授業		科目区分 単位の種別と単				
皮素形態 開設学科			 学科(一般科目)	対象学年	1000 根形字位 1	. 2		
那 <u>成于作</u> 開設期		通年		週時間数				
^{加政利} 教科書/教		なし		四时间数	מי ביולאנים	(77)1.2		
237 首/教 旦当教員	(1/2)	多賀 健						
	<u> </u>							
建康・安全 進んで健康 票とする。	全や運動に東の増進と	ついての理解体力の向上を	解と運動の合理的な実践を通して、計 を図り、継続的に生涯を通じて明るく!	画的に運動する習慣 豊かな活力ある生活	を身につけ、集団を営むことができ]における責任と義務を果たし、自ら る能力や態度を身につけることを目		
レーブリ	ノツク			無がわれるがまり	- T - C - C - C - C - C - C - C - C - C	+70-41 - 21 - 20-0		
運動技能・意欲(主体性)			理想的な到達レベルの目安 多様な種目において高い意欲を持って取り組むとともに高い技能を 習得できる。		ベルの自安 いて意欲を持って に標準的な技能を	未到達レベルの目安 意欲を持って運動に取り組むこと ができず、基本的な技能を習得で きない。		
	続的学習(-ムワーク)	主体性、合意)	白に准/ 不健康増進や仕も向上を	対員の指示によ	り健康増進や体力 続的に学習を行う	健康増進や体力向上を図ることかできず、継続的に学習を行うことができない。		
安全管理行 チームワ	行動(主体 ⁽ フーク)	性、合意形態	自己や周囲の安全に留意しながら 述 活動を行うことができる。危険を 回避するだけでなく、不安全な行動を予防することができる。	・「見」に同世の女	全に留意しながら ができ、危険を回 きる。	自己の安全に留意した活動を行うことができない。		
集団行動力 チームワ-	カ(主体性 ーク)	、合意形成、	集団の目指す方向性を自ら示し、	集団の目指す方用と適切なコミ	向性を理解し、周 ュニケーションを した行動をとるこ	、周囲と適切なコミュニケーシ=		
 学科の₹	到達日標I	 頁目との関		,		•		
<u>) </u>		<u>, </u>	S P I -					
要	ΔΨ	各種スプで健康の	パーツ活動を通じて、健康・安全や運動 の増進と体力の向上を図り、生涯を通り	動についての理解 <i>と</i> じて明るく豊かな活	計画的に運動する力ある生活を営む	習慣を教授するとともに、自ら進んことができる能力や態度を育成する		
受業の進と	め方・方法		ポーツ活動を通じて、学生自らが主体。 こついても、安全面を考え行動できるが 天候状況等により変更することがある。			形式と授業を進め、道具の準備や後 るようにする。なお、授業計画にて		
主意点		授業を登 また、E	受けるにあたっては、運動着、屋内・屋 ∃頃から健康管理やスポーツに関わる>	外運動靴を用意する メディア情報や関連	ること。 連籍などに関心を	持ち、予備知識を得ておくこと。		
受業計画	<u> </u>							
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
		1週	ガイダンス/スポーツ歴やこれまでの	の体育授業の印象	1学年の体育の値	立置づけを理解することができる。		
		2週	ストレッチ/運動タイム		かすことができる	か果や重要性を理解し、日常生活に生る。 る。 で、安全に配慮した運動を考え、実践		
		3週	ウォーキング・ジョギング/運動ター	イム	・ウォーキング・ジョギングの効果や重要性を理解し、日常生活に生かすことができる。 ・コロナ過の中で、安全に配慮した運動を考え、実践できる。			
		4週	筋力トレーニング/運動タイム		活に生かすことカ	ングの効果や重要性を理解し、日常学 ができる。 ご、安全に配慮した運動を考え、実施		
1stQ					・対面授業に向けて、感染予防対策をきちんと理解し、適切な行動が取れる。 ・コロナ過の中で、安全に配慮した運動を考え、実践			
		5週	対面授業の実施に向けて/運動タイプ	Д	、適切な行動が関	切れる。		
前期		5週	対面授業の実施に向けて/運動タイクを受ける。 苫小牧高専フォトラリー	<u></u>	、適切な行動がほ ・コロナ過の中できる。 ・ストレッチのなかすことができる。	対れる。 で、安全に配慮した運動を考え、実施 効果や重要性を理解し、日常生活に る。		
前期				<u>Д</u>	、適切な行動が ・コロナ過の中できる。 ・ストレッチのかかっことができる。 ・コロナ過の中できる。 ・コロナ過の中できる。 ・ストレッチのかかすことができる。	なれる。 で、安全に配慮した運動を考え、実施 効果や重要性を理解し、日常生活になる。 で、安全に配慮した運動を考え、実施 効果や重要性を理解し、日常生活により		
前期		6週	苫小牧高専フォトラリー	<u> </u>	、適切な行動が ・ できる。 ・ ストレッがで中できる。 ・ ストことが過の中できる。 ・ ストことが過の中できる。 ・ ストンとが過のかってきる。 ・ ストンが過のできたがりできた。 ・ 心力できたがした。 ・ 心力できた。 ・ 心力できた。	なれる。で、安全に配慮した運動を考え、実施制果や重要性を理解し、日常生活に変え、安全に配慮した運動を考え、実施制果や重要性を理解し、日常生活に変え、安全に配慮した運動を考え、実施のようなで、安全に配慮した運動を考え、実施の関係性を理解し、健康度を測る指		
前期	2ndQ	6週	苫小牧高専フォトラリー 身体を使って、Let's 脳トレ!	Δ	、適切な行動が中でする。 ・ ひかっつき ストことする。 ・ スすっつき ストことする。 ・ ひかっつき ストことがののがってき ストことがのの チでののがってき スケー のがっている。 ・ ひととがののでき でいるととがのでき 呼いている。 ・ とというで 呼いているととかす でき 呼いている ととしいる ととしいる という という という こう という こう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう	対れる。で、安全に配慮した運動を考え、実効果や重要性を理解し、日常生活にある。で、安全に配慮した運動を考え、実効果や重要性を理解し、日常生活にある。で、安全に配慮した運動を考え、実力関係性を理解し、健康度を測る指さ、安全に配慮した運動を考え、実力関係性を理解し、健康度を測る指さい。		

		11週	体温と健康/シ	重動タイム				賞した運動を考え、実践	
		12週	オリンピック	・パラリンピック/運	動タイム	等を理	解できる。 ナ過の中で、安全に配慮	ックの起源や社会的効果	
		13週	メンタルトレー	-ニング/運動タイム		常生活		民や重要性を理解し、日	
		14週	後期の対面授業に向けて /運動なえ / 理解し、通		の対面授業に向けて、愿 、適切な行動が取れる。 ナ過の中で、安全に配慮				
		15週	まとめ/運動!	タイム		・これ		コロナ過の中の安全に 主体的に実践できる。	
		16週	_			- -	<u></u>	この カナン・ボン マン・ノ	
		1週	コミュニケー	ションゲーム			にコミュニケーションを 運動する準備ができる。		
		2週	バドミントン	・卓球①		ち方を ・卓球 きる。 ・両種	習得できる。 では、フォアハンドの ^猛	ストロークの基本的な打 基本的な打ち方を習得で 合のルールと進め方を理	
3rdQ		3週	バドミントン	・./ ち7 トン・卓球②			ミントンでは、バックス 習得できる。 では、バックハンドの§	ストロークの基本的な打 基本的な打ち方を習得で 合のルールと進め方を理	
		4週	硬式テニス・草	吹式テニス①		解することができる。 ・ ・			
	3rdQ	5週	硬式テニス・	飲式テニス②		できる	目とも、フォアハンドの 。 目とも、ダブルスの試合	D基本的な打ち方を習得	
		6週	バレーボール(、レーボール①			年後期体育の位置づけを	-ハンドパスの基礎技術	
後期		7週	バレーボールの	2)		を習得	ーボールでは、アンダー できる。 ーボールの試合のルール	-ハンドパスの基礎技術 レや進め方を理解できる	
		8週	バスケットボ-	-JL①		得する・習得	・バスケットボールでは、基礎的なドリブル技能を習得することができる。・習得した個人技能を生かしながら、チームワークを重視したプレーができる。		
		9週	バスケットボ-	- ル②		ること・習得	ができる。	性的なパス技能を習得す よがら、チームワークを	
		10週	種目指定選択(し決定する)	①(屋内種目の中から	、天候状態を考慮	・指定された種目について、チーム編成や試合進行等 がスムースに行うことができる。			
		11週	フットサル①			・フッ ことが ・習得	トサルでは、基礎的なト できる。		
	4thQ	12週	フットサル②			・フッ ができ ・習得	トサルでは、基礎的な <i>/</i> る。	《ス技能を習得すること ↓がら、チームワークを	
		13週	ニュースポーソ	ソ(ドッチビー)		ー・ドッ	チビーの特性を理解でき チビーの試合のルールと を体感することができる	進め方を理解し、競技	
		14週	ニュースポーソ	ソ(ボッチャ)		・ボッ・ボッ	チャの特性を理解できる チャの試合のルールと近 体感することができる。	3.	
		15週	種目指定選択(し決定する)	②(屋内種目の中から	、天候状態を考慮		された種目について、チ ースに行うことができる	チーム編成や試合進行等 る。	
		16週	——————————————————————————————————————			- -		νυ	
評価割合									
		継続的	 学習	安全管理行動	授業に対する意り組み	欲・取	運動技能	合計	
総合評価語	 割合	60		20	15		5	100	
基礎的能力		60		20	15		5	100	

苫小牧工業高等専門学校 開講年度			令和03年度 (2	021年度)	授	業科目 国語Ⅱ	(機械系	5)
科目基礎情報								
科目番号	0015			科目区分		一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	汝	履修単位: 3		
開設学科	創造工学科 (一般科目)			対象学年		2		
開設期	通年			週時間数	3			
教科書/教材	『改訂版現代 する。	文B』/『改訂	「版国語総合古典編』	(数研出版) 国語	語便賢	覧および国語辞典。 ・	その他、授	業中に適宜指示
担当教員	山際 明利,平野	野 摂子,時田 紗	緒里					
到達目標								
【現代文】 1、論理的な文章につい 2、文学的な表現につい								

- 2、文字的な表現について、その情景、心情、特徴などを捉えることができる。3、語句の意味、用法を理解し、文体や修辞などの表現上の特色を捉えることができる。4、設定された課題に関する調査を行い、結果を文章として報告できる。5、初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
1、論理的な文章について、その論理の展開や要旨を捉えることができる。	論理的な文章について、その論理	論理的な文章について、その論理	論理的な文章について、その論理
	の展開や要旨を的確に捉えること	の展開や要旨をある程度的確に捉	の展開や要旨を的確に捉えること
	ができる。	えることができる。	ができない。
2、文学的な表現について、その	文学的な表現について、その情景	文学的な表現について、その情景	文学的な表現について、その情景
情景、心情、特徴などを捉えるこ	、心情、特徴などを捉えることが	、心情、特徴などをある程度的確	、心情、特徴などを的確に捉える
とができる。	できる。	に捉えることができる。	ことができない。
3、語句の意味、用法を理解し、	語句の意味、用法を理解し、文体	語句の意味、用法を理解し、文体	語句の意味、用法を理解し、文体
文体や修辞などの表現上の特色を	や修辞などの表現上の特色を的確	や修辞などの表現上の特色をある	や修辞などの表現上の特色を的確
捉えることができる。	に捉えることができる。	程度的確に捉えることができる。	に捉えることができない。
4、設定された課題に関する調査 を行い、結果を文章として報告で きる。	的確に調査および報告を行うこと ができる。	ある程度的確に調査および報告を 行うことができる。	調査および報告を行うことができ ない。
5、初歩の漢文訓読技法を理解し	漢文を的確に書き下すことができ	漢文をある程度的確に書き下すこ	漢文を書き下すことができない。
、正しく書き下すことができる。	る。	とができる。	

学科の到達目標項目との関係

- 人間性 実践性 国際性
- Ш

教育方	法等
-----	----

【現代文 通年2単位配当】 多様な文章に触れることを通して、国語を適切に表現し的確に理解する能力を高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、言語感覚を豊かにし、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。 【漢文他 1単位配当(後期2時間)】 概要

授業の進め方・方法

1971×7 前期は中間試験35%、定期試験25%、小テスト20%、提出課題等20%の割合で評価する。後期は中間試験30%、定 期試験30%、提出課題等40%の割合で評価する。 配当分の評価点が6割に満たない場合は、再試験を実施することがある。但し、再試験を受けた場合の評価点は、配当

分の6割を上限とする。 【漢文他】

定期試験75%、提出課題、発言記録等25%の割合で評価する。

注意点

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング ☑ ICT 利用 □ ICT N □	☑ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業
---	----------	------------------

以木口巴							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期 1stQ		1週	オリエンテーション 近現代俳句	授業の目的・方針等を理解する。 近現代の代表的な俳句について、語句の意味や用法を 的確に理解し、句意を理解するとともに、俳人のもの の見方、感じ方、考え方を理解することができる。			
		2週	近現代俳句	近現代の代表的な俳句について、語句の意味や用法を 的確に理解し、句意を理解するとともに、俳人のもの の見方、感じ方、考え方を理解することができる。			
	1stQ	3週	近現代俳句 小説 「山月記」(中島敦)	近現代の代表的な俳句について、語句の意味や用法を 的確に理解し、句意を理解するとともに、俳人のもの の見方、感じ方、考え方を理解することができる。 近現代の優れた小説を読み、初読の感想を持つ。			
		4週	小説 「山月記」(中島敦)	近現代のすぐれた小説を読み、ものの見方、感じ方、 考え方を深めることができる。 独特の表現や語句の意味の理解に努める。 文章の構成や展開に注意して、全体像を把握する。			

		.1. = **	女妾を誌 / ぶたのの目士 成じ士 孝与士を次ゆえる			
	5週	小説 「山月記」(中島敦)	文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 人間の生き方について考える。			
	6週	小説 「山月記」(中島敦)	文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 人間の生き方について考える。			
	7週	小説 「山月記」(中島敦)	文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 人間の生き方について考える。			
	8個	到達度試驗(由問試驗)	これまでの授業内容を確認する。			
	9週	到達及副歌 (平間副歌) 評論 「国境を超える言葉」	はていて、 抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えることができる。			
	10週	評論 「国境を超える言葉」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えることができる。			
	11週	評論 「国境を超える言葉」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えることができる。			
2ndQ	12週	評論 「未来世代への責任」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えるこ とができる。			
	13週	評論 「未来世代への責任」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えることができる。			
	14週	評論 「未来世代への責任」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えるこ とができる。			
	15週	評論 「未来世代への責任」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えるこ とができる。			
	16週	前期定期試験	これまでの授業内容を確認する。			
	1週	【現代文】 詩 「永訣の朝」「小諸なる古城のほとり」など 【漢文他】 1.報告書作成 1-1 調査する	【現代文】 すぐれた近現代の詩を鑑賞する。 詩の構成、語句の意味を把握し、詩の世界を理解できる。 【漢文他】 設定された課題に関する調査を行い、結果を文章として報告できる。			
3rdQ	2週	【現代文】 詩 「永訣の朝」「小諸なる古城のほとり」他 【漢文他】 1-2 まとめる	【現代文】 すぐれた近現代の詩を鑑賞する。 詩の構成、語句の意味を把握し、詩の世界を理解できる。 【漢文他】 設定された課題に関する調査を行い、結果を文章として報告できる。			
	3週	【現代文】 「科学・技術の歴史の中での社会」 (村上陽一郎) 【漢文他】 1-3 作成する	【現代文】 科学・技術と社会のつながりの変遷を知り、現代の科学者の社会的責任について理解する。評論を通してものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 【漢文化】 設定された課題に関する調査を行い、結果を文章として報告できる。			
	4週	【現代文】 「科学・技術の歴史の中での社会」 (村上陽一郎) 【漢文他】 2.漢文入門	【現代文】 科学・技術と社会のつながりの変遷を知り、現代の科学者の社会的責任について理解する。評論を通してものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 【漢文他】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことができる。			
	5週	【現代文】 「科学・技術の歴史の中での社会」 (村上陽一郎) 【漢文他】 3.故事	【現代文】 科学・技術と社会のつながりの変遷を知り、現代の科学者の社会的責任について理解する。評論を通してものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 【漢文他】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことができる。			
	6週	【現代文】 「科学・技術の歴史の中での社会」 (村上陽一郎) 【漢文他】 3.故事	【現代文】 科学・技術と社会のつながりの変遷を知り、現代の科学者の社会的責任について理解する。評論を通してものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 【漢文他】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことができる。			
	7週	【現代文】 「科学・技術の歴史の中での社会」 (村上陽一郎) 【漢文他】 3.故事	【現代文】 科学・技術と社会のつながりの変遷を知り、現代の科学者の社会的責任について理解する。評論を通してものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 【漢文他】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことができる。			
	8週	【現代文】 到達度試験(中間試験) 【漢文他】 4.漢詩 4-1 漢詩の規則	【現代文】 これまでの授業内容を確認する。 【漢文他】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことが できる。			
		7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 10週 33週 4週 33周 33回 4週 33回 4週 310 37dQ	1 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回			

	9週	【現代文】 「三月の風」(阿部昭) 【漢文他】 4-2 唐詩		、考えを深めるこ 【漢文他】	登場人物の心情の変化を理解し、ものの見方、感じ方、考えを深めることができる。 【漢文他】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことが		
	10週	【現代文】 「三月の風」(阿部昭) 【漢文他】 4-2 唐詩		、考えを深めるこ 【漢文他】	変化を理解し、ものの見方、感じ方 とができる。 法を理解し、正しく書き下すことが		
	11週	【現代文】 「三月の風」(阿部昭) 【漢文他】 4-2 唐詩	、考えを深めるこ 【漢文他】	登場人物の心情の変化を理解し、ものの見方、感じ方、考えを深めることができる。 【漢文他】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことが			
4thQ	12週	【現代文】 「無用の人」(原田マハ) 【漢文他】 4-2 唐詩		、考えを深めるこ 【漢文他】	登場人物の心情の変化を理解し、ものの見方、感じ方 、考えを深めることができる。 【漢文他】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことが		
	13週	【現代文】 「無用の人」(原田マハ) 【漢文他】 4-2 唐詩		、考えを深めるこ 【漢文他】	登場人物の心情の変化を理解し、ものの見方、感じ方 、考えを深めることができる。 【漢文他】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことが		
	14週	【現代文】 「無用の人」(原田マハ) 【漢文他】 5.思想 5-1 論語		、考えを深めるこ 【漢文他】	登場人物の心情の変化を理解し、ものの見方、感じ方、考えを深めることができる。 【漢文他】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことが		
	15週	【現代文】 「無用の人」(原田マハ) 【漢文他】 5-2 孟子		、考えを深めるこ 【漢文他】	登場人物の心情の変化を理解し、ものの見方、感じ方 、考えを深めることができる。 【漢文他】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことが		
	16週	後期定期試験		これまでの授業内	これまでの授業内容を確認する。		
評価割合							
		中間・定期試験	中間・定期試験課題		合計		
総合評価割合		80	20		100		
一般的能力		80	20		100		
		0	0		0		

	牧工業高等	 等専門学村	交 開講年度	令和03年度 (2		授業科目		
<u></u>		<u> </u>				,		
<u> 10 </u>	ACIDTA	0016			科目区分	一般 / 必何		
授業形態		授業						
開設学科					単位の種別と単位 対象学年	2		
開設期		通年	רויאניי ו דיי		週時間数	2		
四027 3 教科書/教	 7★ オ	『詳説世	+男中』(山川出版な	 t) /必要に応じて適		2		
担当教員	X 1/2]		彦,佐々木 彩,牧之内	•	世中1193			
^{担当教員} 到達目標		収 1、10/	<u> ジ,1年ベイト おり,1XとPS</u>	<u> </u>				
1.産業 た影響に 2. 社割 3. 社会 4. 日家 6. 文	活動(農牧業でいて説明で活動と自然現で自然環境である。 ときない できん	できる。 環境との関れ に調和した及 の様々な生活 で見られる、	鉱工業、商業・サー つりや、産業の発展が 産業発展に向けた現存 舌文化、民族・宗教が いわゆる民族問題がいの文化を尊重する。	が自然環境に及ぼし 生までの取り組みに などの文化的諸事象 など、文化的相違に	た影響について、) ついて説明できる。 について、歴史的 起因する諸問題に	歴史的観点から説。 観点から説明でき	న్.	
ルーブ!	ノツク		TM+845+> 70>+ 1		######################################	600		
工業、商 の人間活 域的特性、	業・サービ 動の歴史的 、産業など(が、水産業、 ス業等)なる 発展過程のは の発展が社会 いて説明で表	度 佐 大 大 大 大 大 大 大 大	ベルの目安 (、水産業、鉱工業 ス業等) などの人 発展過程の地域的 の発展が社会に及 いて説明できる。	、商業・サービス 間活動の歴史的発 特性、産業などの	、水産業、鉱工業 ス業等)などの人 発展過程の地域的	未到達レベルの目安 産業活動(農牧業、水産業、鉱工業 、商業・サービス業等)などの人 間活動の歴史的発展過程の地域的 特性、産業などの発展が社会に及 ぼした影響に関する基本的な問題 が解けない。	
2. 人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、歴史的観点から説明できる。			及 、産業の発展が た影響について 説明できる。	環境との関わりや 自然環境に及ぼし 、歴史的観点から	、産業の発展が自 た影響について、 基本的な問題が解	解ける。	人間活動と自然環境との関わりや 、産業の発展が自然環境に及ぼし た影響について、歴史的観点から 基本的な問題が解けない。	
業発展に[みについ	向けた現在。 て説明でき		且 展に向けた現在 ついて説明でき		展に向けた現在 関する基本的な問	問題が解ける。	社会や自然環境に調和した産業発 展に向けた現在までの取り組みに 関する基本的な問題が解けない。	
4. 日本を含む世界の様々な生活 文化、民族・宗教などの文化的諸 事象について、歴史的観点から説 明できる。			哲 日本を含む世界	の様々な生活文化 どの文化的諸事象 的観点から説明で	一、民族・宗教なる	D様々な生活文化 どの文化的諸事象 内観点から基本的	日本を含む世界の様々な生活文化 、民族・宗教などの文化的諸事象 について、歴史的観点から基本的 な問題が解けない。	
5. 国家間や国家内で見られる、 いわゆる民族問題など、文化的相 違に起因する諸問題について、歴 史的観点から説明できる。			目 ゆる民族問題な 起因する諸問題 観点から説明で		ゆる民族問題なる	で見られる、いわ ビ、文化的相違に こついて、歴史的 は問題が解ける。	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から基本的な問題が解けない。	
	尊重するこ	認識し、互にとの大切され	文化の多様性を化を尊重するこできる。	認識し、互いの文 との大切さを説明	文化の多様性を認 化を尊重すること る基本的な問題が		文化の多様性を認識し、互いの文 化を尊重することの大切さに関す る基本的な問題が解けない。	
学科の発	到達目標項	頁目との関						
I 人間 Ⅱ 実践 Ⅲ 国際	线性 祭性							
教育方法 概要	女 守	体的に重 ・人間流 素養を均	夏献する自覚と素養を 野動や科学技術の役割 合う。	を培う。 割と影響に関心を持	ち、幸福とは何か	を追求しながら、	して社会的諸問題の解決に向けて主技術者として社会に貢献する自覚と	
・授業は、配付プリント・スライド等を用いて、主に講義形式で進める。適宜、練習問題を取り入れて、受講者の理解度を確認しながら授業を行う。 ・成績は、定期試験50%、到達度試験30%、課題等20%を総合して評価する。評価が60点に達しない者には、再試験を実施する予定である。但し、再評価の上限は60点とする。								
注意点	⊋件 定/	・教科書	『及び配布プリントを	こ、新聞・ニュース E用いて予習・復習	等を通じて、日々† を行うこと。	世界で起こっている	る問題に関心を持つこと。 	
		<u>多上の区分</u> - > ゼ				-		
⊔ アクラ	ティブラーニ	_ンツ	□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応	\	□ 実務経験のある教員による授業	
授業計画	 画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	[
	1	1週		マスティング イントロダクション ヨーロッパ世界の拡大		世界史を学ぶ意義	にによって一体化へと向かう世界の形	
	1							
	1	2週	コーロッハ世界の打			成過程について説		
前期		3週	ルネサンスと宗教	・ネサンスと宗教改革①		ルネサンスと宗教	************************************	
		4週		ペープンスと宗教改革② ・ネサンスと宗教改革② ・ネサンスと宗教改革③			ネサンスと宗教改革について説明できる。 ネサンスと宗教改革について説明できる。 ネサンスと宗教改革について説明できる。	
	1stQ	5週						
		6週		ーロッパ主権国家体制の形成①			に生まれた絶対王政の確立について	
		7週	ヨーロッパ主権国家	ヨーロッパ主権国家体制の形成②		主権国家の形成期説明できる。		
	1	O;E	コーロッパナキマラ					
		8週	ヨーロッパ主権国家体制の展開① コーロッパ主権国家体制の展開②			主権国家体制の展開について説明できる。 主権国家体制の展開について説明できる。		
	2ndQ	9週	ヨーロッパ主権国家	家体制の展開②		主権国家体制の展	開について説明できる。	

						☆₩廿△エ゚キ¬	マッた北目してき	一年 サムート・ナル		
		10週	産業革命による社会の変容			産業革命が起こった背景とその展開、社会に与えた影響について説明できる。				
		11週	市民革命と国民国家の形成①			アメリカ独立 を通して国民	アメリカ独立革命、フランス革命とナポレオン戦争等 を通して国民国家の形成について説明できる。			
		12週	市民革命と国民国家の形成②			アメリカ独立を通して国民	アメリカ独立革命、フランス革命とナポレオン戦争等 を通して国民国家の形成について説明できる。			
		13週	市民革命と国民国家の形成③			アメリカ独立を通して国民	アメリカ独立革命、フランス革命とナポレオン戦争等 を通して国民国家の形成について説明できる。			
		14週	ナショナリズムの	形成①		ナショナリズ	ムの形成について	説明できる。		
		15週	ナショナリズムの	形成②		ナショナリズ	ナショナリズムの形成について説明できる。			
		16週	定期試験							
		1週	帝国主義の時代①			帝国主義の成 アジアの変動	立・展開と列強に にいて説明できる	こよる世界分割の状況と		
		2週	帝国主義の時代②	帝国主義の時代②			立・展開と列強に にいて説明できる	こよる世界分割の状況と 3。		
		3週	帝国主義の時代③			帝国主義の成 アジアの変動	帝国主義の成立・展開と列強による世界分割の状況と アジアの変動にいて説明できる。			
		4週	第一次世界大戦①				体制の樹立など、 について説明でき	第一次世界大戦前後の きる。		
	3rdQ	5週	第一次世界大戦②			ヴェルサイユ· レジーム変革	体制の樹立など、 について説明でき	第一次世界大戦前後の		
		6週	第一次世界大戦③			ヴェルサイユ· レジーム変革	体制の樹立など、 について説明でき	第一次世界大戦前後の		
		7週	第二次世界大戦①			次世界大戦に 国際連合など	至った背景を理解	対立など複眼的に第二 解し説明できる。また、 引みに、第二次世界大戦 説明できる。		
		8週	第二次世界大戦②			次世界大戦に 国際連合など	世界恐慌等の経済的背景や民族対立など複眼的に第二次世界大戦に至った背景を理解し説明できる。また、 国際連合など現代の国際的枠組みに、第二次世界大戦 がどのように影響を与えたかを説明できる。			
	4thQ	9週	第二次世界大戦③			次世界大戦に 国際連合など	世界恐慌等の経済的背景や民族対立など複眼的に第二次世界大戦に至った背景を理解し説明できる。また、 国際連合など現代の国際的枠組みに、第二次世界大戦がどのように影響を与えたかを説明できる。			
後期		10週	第二次世界大戦④	第二次世界大戦④			至った背景を理解	戻対立など複眼的に第二 解し説明できる。また、 引みに、第二次世界大戦 ご説明できる。		
		11週	大戦後の世界①			いた東西対立	= 冷戦構造につい	前、国際政治を規定していての理解を深めるとと さーションの展開とリー する現代世界について		
		12週	大戦後の世界②			いた東西対立 もに、92年以	=冷戦構造につい 後、グローバリt	前、国際政治を規定して いての理解を深めるとと ビーションの展開とリー すする現代世界について		
		13週	大戦後の世界③			いた東西対立 もに、92年以	1991年のソビエト連邦崩壊以前、国際政治を規定していた東西対立 = 冷戦構造についての理解を深めるとともに、92年以後、グローバリゼーションの展開とリージョナリズムの伸長が同時進行する現代世界について説明できる。			
		14週	大戦後の世界④			いた東西対立	1991年のソビエト連邦崩壊以前、国際政治を規定していた東西対立=冷戦構造についての理解を深めるとともに、92年以後、グローバリゼーションの展開とリージョナリズムの伸長が同時進行する現代世界について			
		15週	大戦後の世界⑤			1991年のソビエト連邦崩壊以前、国際政治を規定していた東西対立 = 冷戦構造についての理解を深めるとともに、92年以後、グローバリゼーションの展開とリージョナリズムの伸長が同時進行する現代世界について説明できる。				
		16週	定期試験							
評価割合										
定期試験 到達度試験 課題等							合計			
総合評価割合 50			30	20	0	0	0	100		
基礎的能力 50			30	20	0	0	0	100		
専門的能力 0			0	0	0	0	0	0		
分野横断的	的能力 0		0	0	0	0	0	0		

生小/		 等専門学校	開講年度	令和03年度 (2	2021年度)	授業科目	倫理・社会	
科目基础		<u> </u>	<u> </u>	13小LUS	_021+/ <u>/</u> / <u>/</u> /	及来自由		
科目番号	KIHTK	0017			科目区分	一般 / 必	(修	
授業形態		授業			単位の種別と単位			
開設学科			 4(一般科目)		対象学年	2	. 2	
開設期		通年			週時間数	2		
教科書/教	 汉材	『倫理』、	東京書籍		<u> </u>	<u> </u>		
担当教員	.,,,	多田 光宏	7177					
到達目標	<u> </u>	•						
・諸思想・ ・諸思想・ ・文化の・ ・現代科	や諸宗教に や諸宗教に 多様性を認 学の考え方・	おいて、自分が おいて、好まし 識し、互いの文 や科学技術の特	が人としていかに生 い社会と人間のか て化を尊重すること 特質、科学技術がも	きえられてきたかに ききるべきかと考え かわり方について この大切さを理解で 社会や自然環境に与 学技術のあり方につ	られてきたかにつ どのように考えら きる。 える影響について	いて理解できる。 れてきたかを理解 理解できる。		
ルーブ!	Jック		T		T		T	
			理想的な到達レイ		標準的な到達レイ		未到達レベルの目安	
基礎的能力	カ		到達目標の各項 た理解ができてい	目について、優れ	到達目標の各項目 に理解できている		↑ 到達目標の各項目について、基礎 的な理解ができていない。	
分野横断的	的能力		自身が興味をも	<u>, いる。</u> った対象について 展開することがで	自身が興味をもっ	った対象について 能な論述を展開す	自身が興味をもった対象について	
学科ので	引達日煙T	頭目との関係			1300% 6000		J C C S V 10	
I 人間 Ⅱ 実践 Ⅲ 国際	引性	スロ こりがり	TIV.					
教育方法	去等	T						
概要		・人文・社 に向けて主 ・人間活動 素養を培う	E体的に貢献する自 か科学技術の役割	、ら人間、社会、文 関党と素養を培う。 関と影響に関心を持	化について多面的 ち、幸福とは何か [。]	に理解し、国際社 を追究しながら、	t会の一員として社会的諸問題の解決 技術者として社会に貢献する自覚と	
授業の進む	 め方・方法	検定教科	書に沿って、思想	見史を紹介する形式	で進める。また、:	プリントを配布す	するので、しっかりと読んで、内容を	
32214 772		よく整理す		エケニナン・エナン・主	2の問題について	白ハマギョフ	学問でもスースやおに、勿今された田	
注意点		想を丸暗記 られる。	、本来、合えが明 Pすることではなく	が確になってない論、、理解し、その上	々の问題について、 で疑問を抱き、そ	、自分で考える。 れを手掛かりに、 ····································	学問である。それ故に、紹介された思 自分で考える時間を持つことが求め	
		<u> 修上の区分</u>	T		T			
□ アクラ	<u>-ィブラー:</u>	ニング	□ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応	<u>, </u>	□ 実務経験のある教員による授業	
	_							
授業計画	——							
		 	受業内容			週ごとの到達目標		
			. 青年期の課題と	,			の性質を理解できる。	
			. 青年期の課題と				の性質を理解できる。	
			人間としての自 !-1. 人間とは何か	覚 			思想基本的な内容について、また、「 重要性について理解できる。	
		4週 2	:-1. 人間とは何か			古代のギリシアに考える」ことの	思想基本的な内容について、また、「 重要性について理解できる。	
	1stQ	5週 2	!-2. ギリシアの思	想				
		6週 2	!-2. ギリシアの思	 想		古代のギリシア	思想基本的な内容について、また、「 重要性について理解できる。	
		7週 2		 想		古代のギリシア	思想基本的な内容について、また、「 重要性について理解できる。	
		8週 2	 !-2. ギリシアの思	想		古代のギリシア	重要性について遅舟できる。 思想基本的な内容について、また、「 重要性について理解できる。	
前期		9週 道					王安庄について珪解できる。 て、60点以上を獲得すること。	
			<u> </u>				語や思想の基本的な内容について理解	
		11週 2	 !-3. キリスト教			諸宗教の基本用	語や思想の基本的な内容について理解	
		12週 2	 !-3. キリスト教				語や思想の基本的な内容について理解	
	2ndQ		!-4. イスラーム				語や思想の基本的な内容について理解	
				ラーム 諸宗		できる。 諸宗教の基本用語や思想の基本的な内容について		
		14週 2	!-4. イスラーム				語や思想の基本的な内容について理解	
			-4. イスラーム 			できる。 諸宗教の基本用	語や思想の基本的な内容について理解 語や思想の基本的な内容について理解	
		15週 2	-5. 仏教			できる。 諸宗教の基本用 できる。	語や思想の基本的な内容について理解	
後期	3rdQ	15週 2 16週 亩				できる。 諸宗教の基本用 できる。 上記項目につい		

### 4thQ 2週 2-5. 仏教 諸宗教の基本用語や思想の基本用語や思想の基本的な内容について理解できる。 3週 3.現代を生きる人間の倫理 3-1. 人間の尊厳の怪拠を求めて 近代の思想の基本用語や内容について、また、「考える」ことの重要性について理解できる。 5週 3-1. 人間の尊厳の根拠を求めて 近代の思想の基本用語や内容について、また、「考える」ことの重要性について理解できる。 6週 3-1. 人間の尊厳の根拠を求めて 近代の思想の基本用語や内容について、また、「考える」ことの重要性について理解できる。 7週 3-1. 人間の尊厳の根拠を求めて 近代の思想の基本用語や内容について、また、「考える」ことの重要性について理解できる。 8週 3-1. 人間の尊厳の根拠を求めて 近代の思想の基本用語や内容について、また、「考える」ことの重要性について理解できる。 9週 達成度試験(2) 上記項目について、60点以上を獲得すること。 11週 3-2. 民主社会と自由を求めて 現代の思想の基本用語や内容について、また、「考える」ことの重要性について理解できる。 12週 3-2. 民主社会と自由を求めて 現代の思想の基本用語や内容について、また、「考える」ことの重要性について理解できる。 12週 3-2. 民主社会と自由を求めて 現代の思想の基本用語や内容について、また、「考える」ことの重要性について理解できる。 12週 3-2. 民主社会と自由を求めて 現代の思想の基本用語や内容について、また、「考える」ことの重要性について理解できる。 14週 3-3. 社会変革の倫理を求めて 現代の思想の基本用語や内容について、また、「考える」ことの重要性について理解できる。 15週 3-3. 社会変革の倫理を求めて 現代の思想の基本用語や内容について、また、「考える」ことの重要性について連解できる。 16週 後囲を示していて、また、「考える」ことの重要性について理解できる。 16週 後期を対していて、また、「考える」ことの重要性について連絡できる。 16週 後期を明知的を表すの書かった。 第十日を持ていて、また、「考える」」との重要性について連絡できる。 16週 後期を明知的を表すの書からいて、「また、「考える」」との重要を表す											
1		2週	2-5. 仏教				語や思想の基本	的な内容について理解			
1 日本		3週				近代の思想の基づる」ことの重要	本用語や内容に 生について理解	ついて、また、「考え できる。			
5-1. 人間の尊厳の根拠を求めて 3 - 2. の重要性について理解できる。 5 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 -		4週	3-1. 人間の尊厳	の根拠を求めて							
1		5週	3-1. 人間の尊厳	の根拠を求めて							
1		6週	3-1. 人間の尊厳	の根拠を求めて			近代の思想の基本用語や内容について、また、「考え				
Ath Q 10週 達成度試験 (2)		7週	3-1. 人間の尊厳	の根拠を求めて							
10週 3-2. 民主社会と自由を求めて 現代の思想の基本用語や内容について、また、「考える」ことの重要性について理解できる。		8週	3-1. 人間の尊厳	の根拠を求めて							
4thQ 3-2. 民主社会と自由を求めて 3」ことの重要性について理解できる。 11週 3-2. 民主社会と自由を求めて 現代の思想の基本用語や内容について、また、「考える」ことの重要性について理解できる。 12週 3-2. 民主社会と自由を求めて 現代の思想の基本用語や内容について、また、「考える」ことの重要性について理解できる。 13週 3-2. 民主社会と自由を求めて 現代の思想の基本用語や内容について、また、「考える」ことの重要性について理解できる。 14週 3-3. 社会変革の倫理を求めて 現代の思想の基本用語や内容について、また、「考える」ことの重要性について理解できる。 15週 3-3. 社会変革の倫理を求めて 現代の思想の基本用語や内容について、また、「考える」ことの重要性について理解できる。 16週 後期定期試験 上記項目について、60点以上を獲得すること。 評価割合 発表 相互評価 態度 ポートフォリオ その他 合計 総合評価割合 90 0 0 0 0 0 90 専門的能力 0 0 0 0 0 0 0 0		9週	達成度試験(2)			上記項目につい	て、60点以上を	を獲得すること。			
4thQ 11個 3-2. 民主社会と自由を求めて 3」ことの重要性について理解できる。 12週 3-2. 民主社会と自由を求めて 現代の思想の基本用語や内容について、また、「考える」ことの重要性について理解できる。 13週 3-2. 民主社会と自由を求めて 現代の思想の基本用語や内容について、また、「考える」ことの重要性について理解できる。 14週 3-3. 社会変革の倫理を求めて 現代の思想の基本用語や内容について、また、「考える」ことの重要性について理解できる。 15週 3-3. 社会変革の倫理を求めて 現代の思想の基本用語や内容について、また、「考える」ことの重要性について理解できる。 16週 後期定期試験 上記項目について、60点以上を獲得すること。 評価割合 90 0 0 0 0 10 100 基礎的能力 90 0 0 0 0 90 90 専門的能力 0 0 0 0 0 0 0 専門的能力 0 0 0 0 0 0 0		10週	3-2. 民主社会と	:自由を求めて		現代の思想の基づる」ことの重要	現代の思想の基本用語や内容について、また、「考える」ことの重要性について理解できる。				
4thQ 12週 3-2. 民主社会と自由を求めて 3] ことの重要性について理解できる。 13週 3-2. 民主社会と自由を求めて 現代の思想の基本用語や内容について、また、「考える」ことの重要性について理解できる。 14週 3-3. 社会変革の倫理を求めて 現代の思想の基本用語や内容について、また、「考える」ことの重要性について理解できる。 15週 3-3. 社会変革の倫理を求めて 現代の思想の基本用語や内容について、また、「考える」ことの重要性について理解できる。 16週 後期定期試験 上記項目について、60点以上を獲得すること。 評価割合 90 0 0 0 10 100 基礎的能力 90 0 0 0 0 0 90 専門的能力 0 0 0 0 0 0 0 0		11週	3-2. 民主社会と	自由を求めて							
13週 3-2. 民主社会と自由を求めて	444-0	12週	3-2. 民主社会と	3-2. 民主社会と自由を求めて							
14回 3-3. 社会変革の倫理を求めて 3	4tnQ	13週	3-2. 民主社会と	自由を求めて			る」ことの重要性について理解できる。 現代の思想の基本用語や内容について、また、「考え				
15元 3-3. 社会変単の倫理を求めて 3] ことの重要性について理解できる。 16週 後期定期試験 上記項目について、60点以上を獲得すること。 評価割合 試験 発表 相互評価 態度 ポートフォリオ その他 合計 総合評価割合 90 0 0 0 0 0 10 100 100 基礎的能力 90 0 0 0 0 0 0 0 90 90 9月的能力 0 0 0 0 0 0 0 0 0		14週	3-3. 社会変革の	 倫理を求めて							
評価割合 試験 発表 相互評価 態度 ポートフォリオ その他 合計 総合評価割合 90 0 0 0 10 100 基礎的能力 90 0 0 0 0 90 専門的能力 0 0 0 0 0 0		15週	3-3. 社会変革の	倫理を求めて		現代の思想の基準を引き、	現代の思想の基本用語や内容について、また、「考え				
試験 発表 相互評価 態度 ポートフォリオ その他 合計 総合評価割合 90 0 0 0 10 100 基礎的能力 90 0 0 0 0 0 90 専門的能力 0 0 0 0 0 0 0		16週	後期定期試験		·	上記項目につい	て、60点以上を	を獲得すること。			
総合評価割合 90 0 0 0 10 100 基礎的能力 90 0 0 0 0 0 90 専門的能力 0 0 0 0 0 0 0	評価割合										
基礎的能力 90 0 0 0 0 0 90 専門的能力 0 0 0 0 0 0 0		試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリス	† その他	合計			
専門的能力 0 0 0 0 0 0 0 0	総合評価割合	90	0	0	0	0	10	100			
	基礎的能力	90	0	0	0	0	0	90			
分野技術的能力 0 0 0 0 10 10 10	専門的能力	0	0	0	0	0	0	0			
	分野横断的能力	0	0	0	0	0	10	10			

., r.⊢	牧工業高	等専門学校	交 開講年度	令和03年度(2	2021年度)	授	業科目	英語ⅡA(機械系)
科目基础				1				(
科目番号	AC II J TIX	0018			科目区分	1.		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
授業形態		授業			単位の種別と単位	☆数	<u></u>	
開設学科			 ≱科(一般科目)		対象学年		<u>/夏沙平压</u> 2	. 3
開設期		通年	-14 ())\(\frac{1}{2}\frac{1}{4} \tau \)		週時間数		<u>-</u> 3	
教科書/教	树	教科書:	「BIG DIPPER En Inication II ワーク ar 24」(啓林館)/	glish Communicat ブック」(数研出版 夏期課題:「The D	ion II (数研出版	版) /ワ	<u>-</u> 'ークブッ	ク:「BIG DIPPER English 法テキスト「Vision Quest English d University Press)
担当教員		堀登代					`	,
到達目標		'						
1. 基礎	- 的な英語で	書かれた社会 法を理解し、 より、英検達	会、文化、科学など それらを使って表 き2級の取得が現実	をテーマにした文章 現ができる。 的となる英語力を身	を理解し,その内容	 容を日本 テストで		できる。
ルーブリ				, _ 0, 0, 1,1,1, 2,1	, , , , , , , , , , , , , , , , , ,			
<i>,,</i> , ,			田相的た列寺!		標準的な到達レイ	XII.OH		未到達レベルの目安(不可)
評価項目:	1		基礎的な英語で	書かれた社会、文 テーマにした文章 内容を日本語で正	様学的な到達した。 基礎的な英語で書 化、科学などをラ を理解し、そのが 明できる。	書かれた テーマに	社会、文した文章	基礎的な英語で書かれた社会、ス
評価項目2	2		熟語、構文、文 らを使って正確	法を理解し、それ に表現ができる。	熟語、構文、文法 らを使って表現た	まを理解 びできる	し、それ 。	熟語、構文、文法を理解できず、 それらを使って表現ができない。
評価項目	3		一一の取得が現実的	より, 英検準2級 となる英語力を身 カテストによって 把握できる。	継続的な学習に の取得が現実的と 語力を身につけ, によって自身のする。	英語学	カテスト	継続的な学習により, 英検準2%の取得が現実的となる基本的な語力を身につけられず, 英語学会テストによって自身の英語力を推ってきない。
学科の発	到達目標)	項目との関	 関係					
I 人間 Ⅱ 実践 Ⅲ 国際]性 数性	<u> </u>	S IVN					
概要	<u> </u>	総合的な	で学んだ英語力を基係が身につくよう(目安とする英語力の)	こ指導する。教科書		聞く」「 事項の説	 書く」「 朗と演習	話す」の4技能のバランスのとれた , 音読練習などを通して, 英検準
授業の進む	め方・方法	「読む」 , 構文の して期試懸 学業成績 試験およ	「聞く」「書く」 D説明や文法演習, 同し,また,語彙や 終40%,達成度試験 が60点未満のもの び達成度試験の成	「話す」の4技能の 音読やペア練習など 文法などの習得度確 20%,英語学カテノ に対して再試験を実 責に置き換えて再評	総合的な英語力を の活動を行なう。 認のため演習を通 スト20%,課題・名 施する場合がある 価を行う。	高めるた 文法テキ 宜実施す 各種テス 。この場	がに, 教 ストは教 る。 ト 2 0%の 景合, 学年	科書にある英文の語彙,語法,文法 科書での練習問題を補完するものと D割合で評価する。 E末に1回実施し,再試験の成績は定
注意点		「読構では ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	「聞く」「書く」 可説明や文法演習, 別し、また,語彙や 後40%,達成度試験 が60点未満のもの び達成度試験の成 習・復習を毎回行 とと。また,授業の	「話す」の4技能の 音読やペア練習など 文法などの習得度確 20%,英語学カテノ に対して再試験を実 責に置き換えて再評	総合的な英語力を認めたる。 では、	高めるた 文法テキ 宜実施す 各種テス 。この場	がに, 教 ストは教 る。 ト 2 0%の 景合, 学年	科書にある英文の語彙, 語法, 文流
注意点 授業の属	属性・履(「読む文の に関する に関する に関する で関する で関する である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である	「聞く」「書く」 可説明や文法演習、 別説明や文法演習、 別し、また、語彙や 後40%、達成度試験 が60点未満のもの び達成度試験の成績 予習・復習を毎回行い と。また、授業のは	「話す」の4技能の 音読やペア練習など 文法などの習得度確 20%,英語学カテル に対して再試験を実 責に置き換えて再評 い、授業で出される	総合的な英語力を認める活動を行なう。、認のため演習を適宜ない。20%、課題・名はあるる場合である個を行う。 課題などに真剣に関する場合である。	高めるた 文法に 官実施す 各種デス 。この ^場 取り組む	がに, 教 ストは教 る。 ト 2 0%の 景合, 学年	科書にある英文の語彙,語法,文流科書での練習問題を補完するものと の割合で評価する。 三末に1回実施し,再試験の成績は定期試験に向け,計画的に試験勉強を
注意点 授業の属		「読む文の に関する に関する に関する で関する で関する である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である	「聞く」「書く」 可説明や文法演習, 別し、また,語彙や 後40%,達成度試験 が60点未満のもの び達成度試験の成 習・復習を毎回行 とと。また,授業の	「話す」の4技能の 音読やペア練習など 文法などの習得度確 20%,英語学カテル に対して再試験を実 責に置き換えて再評 い、授業で出される	総合的な英語力を認めたる。 では、	高めるた 文法に 官実施す 各種デス 。この ^場 取り組む	がに, 教 ストは教 る。 ト 2 0%の 景合, 学年	科書にある英文の語彙,語法,文法 科書での練習問題を補完するものと D割合で評価する。 E末に1回実施し,再試験の成績は定
注意点 授業の原 □ アクラ	属性・履 € 〒ィブラー <u>-</u>	「読む文の に関する に関する に関する で関する で関する である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である	「聞く」「書く」 可説明や文法演習、 別説明や文法演習、 別し、また、語彙や 後40%、達成度試験 が60点未満のもの び達成度試験の成績 予習・復習を毎回行い と。また、授業のは	「話す」の4技能の 音読やペア練習など 文法などの習得度確 20%,英語学カテル に対して再試験を実 責に置き換えて再評 い、授業で出される	総合的な英語力を認める活動を行なう。、認のため演習を適宜ない。20%、課題・名はあるる場合である個を行う。 課題などに真剣に関する場合である。	高めるた 文法に 官実施す 各種デス 。この ^場 取り組む	がに, 教 ストは教 る。 ト 2 0%の 景合, 学年	科書にある英文の語彙,語法,文流科書での練習問題を補完するものと の割合で評価する。 三末に1回実施し,再試験の成績は定期試験に向け,計画的に試験勉強を
注意点 授業の原 □ アクラ	属性・履 € 〒ィブラー <u>-</u>	「読む文の に関する に関する に関する で関する で関する である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である	「聞く」「書く」 可説明や文法演習、 別説明や文法演習、 別し、また、語彙や 後40%、達成度試験 が60点未満のもの び達成度試験の成績 予習・復習を毎回行い と。また、授業のは	「話す」の4技能の 音読やペア練習など 文法などの習得度確 20%,英語学カテル に対して再試験を実 責に置き換えて再評 い、授業で出される	総合的な英語力を認める活動を行なう。、認のため演習を適宜ない。20%、課題・名はあるる場合である個を行う。 課題などに真剣に関する場合である。	高めるた 文法に 官実施す 各種デス 。この ^場 取り組む	がに, 教 ストは教 る。 ト 2 0%の 景合, 学年	科書にある英文の語彙,語法,文流科書での練習問題を補完するものと の割合で評価する。 三末に1回実施し,再試験の成績は定期試験に向け,計画的に試験勉強を
注意点 授業の原 」 アクラ	属性・履 € 〒ィブラー <u>-</u>	「読む文の に関する に関する に関する で関する で関する である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である	「聞く」「書く」 可説明や文法演習、 別説明や文法演習、 別し、また、語彙や 後40%、達成度試験 が60点未満のもの び達成度試験の成績 予習・復習を毎回行い と。また、授業のは	「話す」の4技能の 音読やペア練習など 文法などの習得度確 20%,英語学カテル に対して再試験を実 責に置き換えて再評 い、授業で出される	総合的な英語力を認めている。 第20元を対象でではる。 第20元を対象では、 課題・を がある 価を行う。 課題などに真剣にす 対象すること。	高めるたます。 この場 取り組む	がに, 教 ストは教 る。 ト 2 0%の 景合, 学年	科書にある英文の語彙,語法,文法科書での練習問題を補完するものとり割合で評価する。 三末に1回実施し,再試験の成績は定期試験に向け,計画的に試験勉強を
注意点 授業の原 □ アクラ	属性・履 € 〒ィブラー <u>-</u>	「読載では に関する に関する に関する に関する では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	「聞く」「書く」 ご説明や文法演習, はり、また,語彙や 後40%,達成度試験 が60点未満のもの にび達成度試験の成け で図・復習を毎回行 と。また,授業のは 】 □ ICT 利用	「話す」の4技能の 音読やペア練習など 文法などの習得度確 20%,英語学カテル に対して再試験を実 責に置き換えて再評 い、授業で出される	総合的な英語力を認めため、では、 (では、 (では、) では、 (では、 (では、) では、) では、 (では、) では、) では、 (では、)	高文法 高文法 直 東 で の 切 り 組 む し し し し し し し し し し し し し	めに, 教 ストは教 ト20%6 高合, 学句 こと。 定 D到達目模 1の英文:	科書にある英文の語彙,語法,文流科書での練習問題を補完するものと の割合で評価する。 E末に1回実施し,再試験の成績は定期試験に向け,計画的に試験勉強を □ 実務経験のある教員による投
注意点 授業の原 □ アクラ	属性・履 € 〒ィブラー <u>-</u>	「読む」の 「読む」の 「講で 「	「聞く」「書く」 ご説明や文法演習, はり、また,語彙や 後40%,達成度試験 が60点未満のもの にび達成度試験の成 で図・復習を毎回行 と。また,授業のは 」 □ ICT 利用 授業内容 Lesson 1 Washo	「話す」の4技能の 音読やペア練習など 文法などの習得度確 20%,英語学カテク に対して再試験を実 責に置き換えて再記 情に置き換えて再評 ハ,授業で出される 時には英和辞書を必	総合的な英語力を の活動を行なう。	高文法 高文法 言 程 こ の り 組 む こ の り 組 む こ と の り る こ る 。 し こ り し る り し 、 し し し し 、 し し し し 、 し し し し 、 し	めに、教 シスト。 ト2 0% らっ ト2 0% らっ ト3 で かっ かっ かっ かっ かっ かっ かっ かっ かっ かっ	科書にある英文の語彙,語法,文流科書での練習問題を補完するものとの割合で評価する。 主末に1回実施し,再試験の成績は定期試験に向け,計画的に試験勉強を □ 実務経験のある教員による投
注意点 授業の原 □ アクラ	属性・履 € 〒ィブラー <u>-</u>	「請構では、	「聞く」「書く」 ご説明や文法演習, 同し,また,語彙や 終40%,達成度試験の が60点未満のもの び達成度試験の成 習・復習を毎回行 と。また,授業の 」ICT 利用 授業内容 Lesson 1 Washo	「話す」の4技能の 音読やペア練習など 文法などの習得度確 20%,英語学カテラ に対して再試験を実 責に置き換えて再評 ハ,授業で出される 時には英和辞書を必 ku Around the Wo	総合的な英語力を の活動を行なう。 の活動を行なう。 では、 た20%、課題・名 施する場合がある 価を行う。 課題などに真剣に ず持参すること。 遠隔授業対応	高文法を 高文法 直実 正の 取り組む 過ごとの Lesson Lesson SVC(=: Lesson	めに,は スる。0%に ト2 0%に ト2 0%に 一分。 一分。 一分。 一分。 一分。 一分。 一分。 一分。	科書にある英文の語彙,語法,文流科書での練習問題を補完するものとの割合で評価する。 ま末に1回実施し,再試験の成績は定期試験に向け,計画的に試験勉強を関議を理解し、内容を説明できる。完了と理解し、内容を説明できる。
注意点 授業の原 □ アクラ	属性・履f ティブラー <u>:</u> 画	「読載では、 「満て明美様 学式 授進 の区ケーター の	「聞く」「書く」 説明や文法演習, 見し、また、語彙や 終40%,達成度試験 が60点未満成の成が 習・復習を毎回行い と。また,授業のは とと。また,授業のは 日口では、 日口では、 日本のでは	「話す」の4技能の 音読やペア練習など 文法などの習得度確 20%,英語学カテラ に対して再試験を実 責に置き換えて再評 い,授業で出される 時には英和辞書を必 ku Around the Wo ku Around the Wo	総合的な英語力を認めている。 20 では 1 で	高文言を 高文言を の は に に に に に に に に に に に に に	が は な に に に に に に に に に に に に に	科書にある英文の語彙,語法,文流科書での練習問題を補完するものとの割合で評価する。 ま末に1回実施し,再試験の成績は定期試験に向け,計画的に試験勉強を関係を理解し、内容を説明できる。完了に運用できる。を理解し、内容を説明できる。解し運用できる。を理解し、内容を説明できる。を理解し、内容を説明できる。を理解し、内容を説明できる。を理解し、内容を説明できる。
注意点 授業の原 □ アクラ	属性・履 € 〒ィブラー <u>-</u>	「「しては、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	「聞く」「書く」 記明や文法演習, は、また,語彙や 後40%,達成度試験 が60点未満成ののが 習・復習を毎回行い と。また,授業のは と。また,授業のは 日口 ICT 利用 授業内容 Lesson 1 Washo Lesson 1 Washo Lesson 2 Chirori,	「話す」の4技能の 音読やペア練習など 文法などの習得度確 20%, 英語学カテン に対して再試験を実 責に置き換えて再評 か, 授業で出される 時には英和辞書を必 ku Around the Wo ku Around the Wo	総合的な英語力を認めため、 の活動を行なう。。 窓のため、課題・名 くト20%、課題・名 にをする場合がある 価を行う。 課題などに真剣に ず持参すること。 □ 遠隔授業対応 rld rld Dog in Japan	高文言を 高文言を 記述を 記述を の に に い に に に に に に に に に に に に に	が は な な に た な の に た の に た の に た の の に た の の に 。 に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 。 。 。 。 。 。	科書にある英文の語彙,語法,文流科書での練習問題を補完するものとの割合で評価する。 ま末に1回実施し,再試験の成績は定期試験に向け,計画的に試験勉強を関係を理解し、内容を説明できる。完了に運用できる。を理解し、内容を説明できる。解し運用できる。を理解し、内容を説明できる。を理解し、内容を説明できる。を理解し、内容を説明できる。を理解し、内容を説明できる。
注意点 授業の原 □ アクラ 授業計画	属性・履f ティブラー <u>:</u> 画	「 	「聞く」「書く」 説明や文法演習, 別に、また、語彙や 終40%,達成度試験 が6達成度試験の成績 習・復習を毎回行 と。また、授業のは と。また、授業のは 日本ので 日本のでは 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので	「話す」の4技能の 音読やペア練習など 文法などの習得度確 20%,英語学カテン に対して再試験を実 責に置き換えて再評 か,授業で出される 時には英和辞書を必 ku Around the Wo ku Around the Wo the First Therapy	総合的な英語力を認めため の活動を行なう。 の活動を行なう。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	高文直 高文直 高文直 表。 取り 過 に に に に に に に に に に に に に	あると。 のにト。0%の にト。0%の たっとの学。 一型の変更ででは、1分の のにト。0%の ででの。1000 ででの。1000 ででの。1000 ででの。1000 ででの。1000 ででの。1000 でででできる。1000 でででできる。1000 でででできる。1000 ででできる。1000 ででできる。1000 ででできる。1000 ででできる。1000 ででできる。1000 ででできる。1000 ででできる。1000 ででできる。1000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。100000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。10000 でできる。100000 でできる。100000 でできる。100000 でできる。100000 でできる。100000 でできる。100000 でできる。100000 でできる。100000 でできる。10000000 でできる。1000000 でできる。1000000 でできる。100000000 でできる。100000000 でできる。100000000000 で	科書にある英文の語彙,語法,文流科書での練習問題を補完するものとの割合で評価する。 ま末に1回実施し,再試験の成績は定期試験に向け,計画的に試験勉強を関議を理解し、内容を説明できる。完了が運用できる。 を理解し、内容を説明できる。解し運用できる。 を理解し、内容を説明できる。 の解し運用できる。 を理解し、内容を説明できる。 の問う、SVOO(=that節)を理解し運用できる。 を理解し、内容を説明できる。 を理解し、内容を説明できる。 を理解し、内容を説明できる。 を理解し、内容を説明できる。 を理解し、内容を説明できる。不定
注意点 授業の原 □ アクラ 授業計画	属性・履f ティブラー <u>:</u> 画	「した 1	「聞く」「書く」 説明や文法演習, 別に、また、語彙や 終40%,達成度試験 が6達成度試験の成績 習・復習を毎回行 と。また、授業のは と。また、授業のは 日本ので 日本のでは 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので	「話す」の4技能の 音読やペア練習など 文法などの習得度確 20%, 英語学カテラ に対して再試験を実 責に置き換えて再評 い, 授業で出される 時には英和辞書を必 ku Around the Wo ku Around the Wo the First Therapy od Is Your Memo pod Is Your Memo	総合的な英語力を認めた。 Sign ため 東語 を行る Sign ため 東	高文言名。 高文言名。 取り組む では、 では、 には、 では、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 に	めスると。 いにした。 いにした。 いにした。 いにした。 いにした。 のにした。	科書にある英文の語彙,語法,文流科書での練習問題を補完するものと 可割合で評価する。 表末に1回実施し,再試験の成績は定期試験に向け,計画的に試験勉強を 期試験に向け,計画的に試験勉強を 期試験に向け,計画的に試験勉強を 要を理解し、内容を説明できる。完了 運用できる。 を理解し、内容を説明できる。 の同じ、内容を説明できる。 を理解し、内容を説明できる。
注意点 授業の原 □ アクラ 授業計画	属性・履f ティブラー <u>:</u> 画	「「」」」	「聞く」「書く」 ご説明や文法演習, 同し,また,語彙や 終40%,達成度試験の が60点末満のもの び達成度試験の成 習・復習を毎回行 と。また,授業の 」ICT 利用 授業内容 Lesson 1 Washo Lesson 1 Washo Lesson 2 Chirori, Lesson 2 Chirori, Lesson 3 How Ge	「話す」の4技能の 音読やペア練習など 文法などの習得度確 20%,英語学カテク に対して再試験を実 責に置き換えて再評 ハ,授業で出される 時には英和辞書を必 ku Around the Wo ku Around the Wo the First Therapy the First Therapy pood Is Your Memo pood Is Your Memo	総合的な英語力を認った。 の活動を行なする。 窓のため、課題・名 スト20%、課題・名 施する場合がある 価を行う。 課題などに真剣に ず持参すること。 □ 遠隔授業対応 rld rld Dog in Japan ry? ry?	高文言者。 取り組む 過ごと受いい。 Lesson	めてるトラ こ	科書にある英文の語彙,語法,文流科書での練習問題を補完するものとの割合で評価する。 ま末に1回実施し,再試験の成績は定期試験に向け,計画的に試験勉強を関連用できる。 を理解し、内容を説明できる。完了が運用できる。を理解し、内容を説明できる。を理解し、内容を説明できる。を理解し、内容を説明できる。同)、SVOO(=that節)を理解し運用を理解し、内容を説明できる。関係可できる。を理解し、内容を説明できる。例如できる。を理解し、内容を説明できる。例如できる。を理解し、内容を説明できる。例如の方法を理解し、内容を説明できる。例如の方法を理解し、内容を説明できる。例如の方法を理解し、内容を説明できる。例如の方法の方法を理解し、内容を説明できる。例如方法の方法の方法を理解し、内容を説明できる。例如方法の方法の方法の方法の方法の方法の方法の方法の方法の方法の表表を理解し、内容を説明できる。例如方法の方法の方法の方法の方法の方法の方法の方法の方法の方法の方法の方法の方法の表表を理解します。
注意点 授業の原	属性・履f ティブラー <u>:</u> 画	「した で	「聞く」「書く」 ご説明や文法演習, はい。また,語彙や 終40%,達成度試験の が60点末満のもの でび達成度試験の成 で図・復習を毎回行 と。また,授業のは とと。また,授業のは とと。また,授業のは とと。また,授業のは はなりでは、 にといる。 にはいる。 には、 にはいる。 には、 にはいる。 にはいる。 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、	「話す」の4技能の 音読やペア練習など 文法などの習得度確 20%,英語学カテス に対して再試験を実 責に置き換えて再評 ハ,授業で出される 時には英和辞書を必 ku Around the Wo ku Around the Wo the First Therapy the First Therapy pod Is Your Memo pod Is Your Memo Elevator	総合的な英語力を認った。 Table Tab	高文言者。 取り組む 過にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる	めてるト合 に入る。20 学 。	科書にある英文の語彙,語法,文流科書での練習問題を補完するものと D割合で評価する。 E末に1回実施し,再試験の成績は定期試験に向け,計画的に試験勉強を 期試験に向け,計画的に試験勉強を 期試験に向け,計画的に試験勉強を 実務経験のある教員による投 を理解し、内容を説明できる。完了 を理解し、内容を説明できる。 解し運用できる。 を理解し、内容を説明できる。関係 を理解し、内容を説明できる。関係 を理解し、内容を説明できる。関係 を理解し、内容を説明できる。関係 を理解し、内容を説明できる。
注意点 授業の原 □ アクラ 授業計画	属性・履f ティブラー <u>:</u> 画	「「し定学試 授進 の 「」し定学試 授進 の 「」し定学試 授進 の 「」」	「聞く」「書く」 ご説明や文法演習, 同し、また,語彙や 終40%,達成度試験の成 一個で達成度試験の成 でで達成度試験の成 一個ででででででででででである。 日本のでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	「話す」の4技能の 音読やペア練習など 文法などの習得度確 20%,英語学カテス に対して再試験を実 責に置き換えて再評 ハ,授業で出される 時には英和辞書を必 ku Around the Wo ku Around the Wo the First Therapy the First Therapy pod Is Your Memo pod Is Your Memo Elevator	総合的な英語力を認っため、 の活動を行なする。 さい さいでは、 は では、 は では、 は では、 は では、 は では、 は では、 は では では では では でする場合がある は に 真剣に ですること。 では でする。 では でする場合がある は に 真剣に ですること。 では でする でする場合がある でする場合がある でする。 でする場合がある でする。 です	高文官名。 取り 週 と Besson tesson t	March Color Co	科書にある英文の語彙,語法,文流科書での練習問題を補完するものと D割合で評価する。 E末に1回実施し,再試験の成績は定期試験に向け,計画的に試験勉強を 期試験に向け,計画的に試験勉強を 期試験に向け,計画的に試験勉強を 実務経験のある教員による投 を理解し、内容を説明できる。完了 を理解し、内容を説明できる。 解し運用できる。 を理解し、内容を説明できる。関係 を理解し、内容を説明できる。関係 を理解し、内容を説明できる。関係 を理解し、内容を説明できる。関係 を理解し、内容を説明できる。
注意点 授業の原 □ アクラ 授業計画	属性・履作・不可ラー <u>-</u> 動	F	「聞く」「書く」 ご説明や文法演習, はい、また,語彙や 終40%,達成度試験が60点未満のもの ご達成度試験の成 でで達成度 関を毎回行 と。また,授業のは と。また,授業のは とと。また。 といまなは とと。なり、ものは とと。なり、ものは とと。といまなは とと。といまなは とと。なり、ものは とと。といまななは とと。といまなななななななななななななななななななななななななななななななななな	「話す」の4技能の 音読やペア練習など 文法などの習得度確 20%,英語学カテラ に対して再試験を実 責に置き換えて用評 い、授業で出される 時には英和辞書を必 ku Around the Wo ku Around the Wo ku Around the Wo the First Therapy ood Is Your Memo pood Is Your Memo Elevator Elevator	総合的な英語力を認っている。 第 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	高文官各。 取 週 L、 Lessen L	Marcon	科書にある英文の語彙,語法,文流科書での練習問題を補完するものと D割合で評価する。 E末に1回実施し,再試験の成績は定期試験に向け,計画的に試験勉強を 期試験に向け,計画的に試験勉強を 理解し、内容を説明できる。完了 定理解し、内容を説明できる。 解し運用できる。 を理解し、内容を説明できる。 例のできる。 を理解し、内容を説明できる。 関係を理解し、内容を説明できる。 と理解し、内容を説明できる。関係を理解し、内容を説明できる。 を理解し、内容を説明できる。関係を理解し、内容を説明できる。 を理解し、内容を説明できる。 を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を

			1						
		13週	Lesson 6 Uer	no Takahiro:The Dance	e in Me		n 6の英文を理解し、内容 =過去分詞)を理解し運		
		14週	Lesson 6 Uer	no Takahiro:The Dance	e in Me	Lessor 過去完	n 6の英文を理解し、内容 了を理解し運用できる。	容を説明できる。仮定法	
		15週	Lesson 6 Uer	no Takahiro:The Dance	e in Me		n 6の英文を理解し、内? 解し運用できる。	容を説明できる。分詞構	
		16週	前期定期試験			既習事	既習事項を整理できる。		
		1週	Lesson 7 The	he France Okaeshi Project			Lesson 7の英文を理解し、内容を説明できる。仮定法 (as if+S+仮定法)を理解し運用できる。		
		2週	Lesson 7 The	e France Okaeshi Proje	ct	Lessor (If+S+	n 7の英文を理解し、内? Hwere to 〜)を理解し運	客を説明できる。仮定法 用できる。	
		3週	Lesson 7 The	e France Okaeshi Proje	ct	Lessor を推測	n 7の英文を理解し、内? しながら読解ができる。	容を説明できる。未知語	
	3rdQ	4週	Lesson 7 The	e France Okaeshi Proje	ct	Lessor 代わる	n 7の英文を理解し、内? 表現を理解し運用できる	客を説明できる。If-節に う。	
	SiuQ	5週	Lesson 8 Wh	at Is the True Meaning	g of Mottainai?	Lessor の受動	n 8の英文を理解し、内容 態を理解し運用できる。	容を説明できる。進行形	
		6週	Lesson 8 Wh	occon 9 What Is the True Meaning of Mettainai?		Lessor 使われ	n 8の英文を理解し、内容 る省略理解し運用できる	学を説明できる。文中で	
		7週	Lesson 8 Wh	nat Is the True Meaning of Mottainai?		Lesson 8の英文を理解し、内容を説明できる。形式目的語 it (to-不定詞/that-節)を理解し運用できる。			
後期		8週	Lesson 8 Wh	at Is the True Meaning of Mottainai?		Lesson 8の英文を理解し、内容を説明できる。現在 /過去完了進行形を理解し運用できる。			
15州		9週	Lesson 9 Fair	r Play in Sports: What Is "Fair"?			n 9の英文を理解し、内容 /thatを理解し運用でき	客を説明できる。同格を る。	
		10週	英語学力テスト Lesson 9 Fair Play in Sports: What Is "Fair"?			Lessor	英語力を正確に把握する 1 9の英文を理解し、内? 詞を理解し運用できる。	る。 容を説明できる。複合関 	
		11週	Lesson 9 Fair	r Play in Sports: What	Is "Fair"?	Lesson 9の英文を理解し、内容を説明できる。倒理解し運用できる。			
	4thQ	12週	Lesson 9 Fair	r Play in Sports: What Is "Fair"?		Lesson 9の英文を理解し、内容を説明できる。関係記詞 whenの継続用法を理解し運用できる。			
		13週	Lesson 10 Flo	oating Education	Lesson 10の英文を5		n 10の英文を理解し、内 を理解し運用できる。	理解し、内容を説明できる。未来 月できる。	
		14週	Lesson 10 Flo	oating Education		Lessor SVC(=	n 10の英文を理解し、内 that-節)を理解し運用で	容を説明できる。 きる。	
		15週		oating Education		Lessor 物主語	ı 10の英文を理解し、内 を理解し運用できる。	容を説明できる。無生	
		16週	後期定期試験			既習事	項を整理できる。		
評価割合									
		定期試験 達成度試験 英語学カテス					課題・各種テスト	合計	
総合評価割	<u></u> 合	40		20	20		20	100	
基礎的能力		40		20	20		20	100	
					0		0 0		

生小!		————— 等専門学校	開講年度	令和03年度 (2	2021年度)	授業科目			
<u> </u>		ササロナ収	ガ冊十/又	IALEOTALE 1		以未付口			
		0010			1N日区公	6几 / シ/	iQ		
科目番号		0019			科目区分	一般/必			
授業形態		授業	リ / カルエリ (二)		単位の種別と単位				
開設学科			斗(一般科目)		対象学年	2			
開設期	h++	通年		. T V : "	□週時間数 ○	2			
教科書/教	X1⁄2		narew E. Bennet	t, Toru Komiya "	Grammar Plus <15	rammar Plus <15 Unit Edition>"(南雲堂)			
担当教員		秋野 志保							
到達目									
2) 問	題演習を通	して、「読む」	「聞く」「話す」	「書く」の4技能	実となる語彙力・文 のバランスの取れた	法力を習得する 英語力を習得す	ことができる。 ることができる。		
		,国内外の諸等	事情について理解す	<u>ることかできる。</u>					
ルーブ!	リック		l-minus	=			1		
			理想的な到達レイ	()	標準的な到達レベル	- ' '	未到達レベルの目安(不可)		
評価項目	1		基礎的な高校英語学習し、英検準で となる語彙力・なることができる。	語の理解を中心に 2級の取得が確実 文法力を習得する	基礎的な高校英語の学習し、英検準2組 となる語彙力・文学 ことができる。	及の取得が可能	基礎的な高校英語を理解できず , 英検準2級の取得が可能となる 語彙力・文法力を習得することが できない。		
評価項目	2		く 「話す 「讀	て、「読む」「聞 書く」の4技能の に英語力を習得す	問題演習を通して、 く」「話す」「書 バランスの取れた! を習得することが	く」の4技能の 基本的な英語力	問題演習を通して、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能の バランスの取れた基本的な英語力 を習得することができない。		
評価項目:	3		教材を通して, ほついて理解する。	国内外の諸事情に ことができる。	教材を通して,国門 ついて概ね理解する。	内外の諸事情に ることができる	教材を通して, 国内外の諸事情に ついて理解することができない。		
学科の発	到達目標	項目との関係	—— <u>———</u> 系			<u> </u>			
	 間性 浅性								
教育方法									
	ᄊᄫ	描語 π R 7	は 構文の翌得と	リスーングカの向	 上を図スとともに	「読ま〉」「閉くり	 「話す」「書く」の4技能を総合的		
概要					要な基礎力の定着を				
授業の進 注意点	め方・方法	3) テキス 4) 学生に 英語力向」 1) 次距 2) 積極 3) 授勢	は、授業中は常に英 このためには、自学 回の授業に備えて必 極的な姿勢で授業に 後の復習を毎回行う	ニング、および構和辞書を机上にお自習を含む主体的ず予習を行うこと臨むこと	文や語法・文法事項 き、単語の意味や発 な学習の継続が必要	音、語法等を確 不可欠である。	認するため、適宜テストを実施する 認しながら授業を受けること。 したがって、学生は、		
		が必要であ	りる。						
		<u>修上の区分</u>	I						
□ アクラ	ティブラーニ	ニンク	□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業		
1= 11/ = 1 =									
授業計画	曲	1							
		週	受業内容		1				
						ごとの到達目標			
		1週 し	Jnit 1. 現在時制		現	在時制の用法を	理解し、運用できる。		
		1週 U 2週 U	Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制		現	在時制の用法を 去時制の用法を	理解し、運用できる。 理解し、運用できる。		
		1週 U 2週 U 3週 U	Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞		5 造 代	在時制の用法を 法時制の用法を 名詞の用法を理	理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。		
	1c+0	1週 U 2週 U 3週 U 4週 U	Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞			在時制の用法を 去時制の用法を 名詞の用法を理 名詞の用法を理	理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。		
	1stQ	1週 L 2週 L 3週 L 4週 L	Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形		55 近 什 什 此	在時制の用法を 法時制の用法を 名詞の用法を理 名詞の用法を理 行形の用法を理	理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。		
	1stQ	1週 L 2週 L 3週 L 4週 L	Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞		55 近 代 代 道 道	在時制の用法を は去時制の用法を は名詞の用法を理 は名詞の用法を理 に行形の用法を理 に行形の用法を理	理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。		
	1stQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週	Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形		理 (大 (大 (大 (大 (大 (大 (大 (大 (大 (大 (大 (大 (大	在時制の用法を 法時制の用法を理 名詞の用法を理 名詞の用法を理 行形の用法を理 行形の用法を理 行形の用法を理	理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。		
	1stQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形 Jnit 4. 進行形 复習テスト			在時制の用法を は去時制の用法を理 名詞の用法を理 名詞の用法を理 行形の用法を理 行形の用法を理 れまでの学習内 ことができる。	理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 即以、運用できる。 できる。 でを理解し、それらを運用・活用す		
前期	1stQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形 Jnit 4. 進行形 复習テスト Jnit 5. 助動詞		野 過 代 代 道 道 ご る 即	在時制の用法を 法時制の用法を理 名詞の用法を理 名詞の用法を理 行形の用法を理 行形の用法を理 れまでの学習 ことができる。 動詞の用法を理	理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 図解し、運用できる。 図容を理解し、それらを運用・活用す		
前期	1stQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形 Jnit 4. 進行形 复習テスト Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 助動詞		野 過 代 代 道 道 ご る 即 即	在時制の用法を 法時制の用法を理 名詞の用法を理 行形の用法を理 行形の用法を理 にまでの学習へ ことができる。 動詞の用法を理	理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 図解し、運用できる。 図容を理解し、それらを運用・活用する。 図解し、運用できる。		
前期	1stQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形 Jnit 4. 進行形 复習テスト Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 助動詞 Jnit 6. 未来時制		野 過 代 代 道 道 ご る 助 助	在時制の用法を 法時制の用法を理 名詞の用法を理 名詞の用法を理 行形の用法を理 行形の用法を理 たとができる 動詞の用法を理 、	理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 ない、運用できる。 ない、運用できる。 ない、運用できる。 ない、運用できる。 ない、運用できる。 ない、運用できる。 ない、運用できる。		
前期	1stQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形 Jnit 4. 進行形 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 助動詞 Jnit 6. 未来時制 Jnit 6. 未来時制	加疑問文	野 過 代 代 道 道 ご る 財 財 財	在時制の用法を 法時制の用法を理 名詞の用法を理 名詞の用法を理 行形の用法を理 行形の用法を理 れまでの学習の ことができる。 動詞の用法を理 来時制の用法を理 来時制の用法を理	理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 は容を理解し、それらを運用・活用する。 は容を理解し、運用できる。 は解し、運用できる。 は理解し、運用できる。 は理解し、運用できる。 は理解し、運用できる。		
前期	1stQ 2ndQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形 Jnit 4. 進行形 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 助動詞 Jnit 6. 未来時制 Jnit 6. 未来時制 Jnit 7. 疑問文と付		野 過 代 代 道 道 ご る 助 助 取 未 未 気	在時制の用法を 法時制の用法を理 名詞の用法を理 行形の用法を理 行形の用法を理 れまでのできる。 動詞の用法を理 来時制の用法を理 来時制の用法を理 来時制の用法を理	理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 即に、運用できる。 即に、運用できる。 即を理解し、それらを運用・活用す 解し、運用できる。 即に、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 で理解し、運用できる。 では、運用できる。		
前期		1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形 Jnit 4. 進行形 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 未来時制 Jnit 6. 未来時制 Jnit 7. 疑問文と付 Jnit 7. 疑問文と付		野過代代 (代) (付) (付) (対) (対) (対) (対) (対) (対) (対) (対) (対) (対	在時制の用法を 法時制の用法を理 名詞の用法を理 行形の用法を理 行形の用法を理 れまでのできる。 動詞の用法を理 歌詞の用法を理 来時制の用法を理 来時制の用法を理 来時制の用法を理	理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 別解し、運用できる。 別解し、運用できる。 別解し、運用できる。 別解し、運用できる。 別容を理解し、それらを運用・活用する。 別解し、運用できる。 別解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 では、運用できる。 では、運用できる。 では、運用できる。 では、運用できる。 では、運用できる。 では、運用できる。 では、運用できる。		
前期		1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形 Jnit 4. 進行形 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 未来時制 Jnit 6. 未来時制 Jnit 7. 疑問文と付 Jnit 7. 疑問文と付 Jnit 8. 比較		明 近 代 代 位 道 立 る 助 助 ま 未 未 気 気 に に に に に に に に に に に に に	在時制の用法を 去時制の用法を理 名詞の用法を理 行形の用法を理 行形の用法を理 行形の用法を理 れまとができる。 動詞の用法を理 来時制の用法を理 来時制の用法を理 来時制の用法を でできると かった。 を理 を を を でできると を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 認容を理解し、それらを運用・活用す 解し、運用できる。 認解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 では解し、運用できる。 は理解し、運用できる。 は、運解し、運用できる。 は、運解し、運用できる。 は、運用できる。 は、運用できる。		
前期		1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形 Jnit 4. 進行形 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 未来時制 Jnit 6. 未来時制 Jnit 7. 疑問文と付 Jnit 7. 疑問文と付		明 過 代 代 他 道 ご る 助 助 ま 未 未 気 疑 し 上 し し し し し し し し し し し し し し し し し	在時制の用法を 法時制の用法を 名詞の用法を理 名詞の用法を理 行形の用法を理 行形の用法を理 行形の用法を理 に 動詞の用法を理 来時制の用法を理 来時制の用法を理 で 来時制の用法を理 で 来時制の用法を理 で 来時制の用法を理 で 来時制の用法を理 の で と が の の の の の の の の の の の の の の の の の の	理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 別解し、運用できる。 別解し、運用できる。 別解し、運用できる。 別解し、運用できる。 別容を理解し、それらを運用・活用する。 別解し、運用できる。 別解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 では、運用できる。 のでは、運用できる。 では、運用できる。 では、運用できる。 では、運用できる。 では、運用できる。 では、運用できる。		
前期		1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形 Jnit 4. 進行形 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 助動詞 Jnit 6. 未来時制 Jnit 7. 疑問文と付 Jnit 7. 疑問文と付 Jnit 8. 比較 Jnit 8. 比較		び	在時制の用法を 法時制の用法を 名詞の用法を理 名詞の用法を理 行形ののでがでした。 動詞の用法を理 がである。 動詞のの用法を理 を要 動詞の用法を理 を要 を要 を要 を要 を要 を要 を を を を の の の の の の の	理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 別解し、運用できる。 別解し、運用できる。 別解し、運用できる。 別容を理解し、それらを運用・活用する。 別解し、運用できる。 別解し、運用できる。 別解し、運用できる。 の理解し、運用できる。 に理解し、運用できる。 対象の用法を理解し、運用できる。 対象の用法を理解し、運用できる。 には、運用できる。 には、運用できる。 には、運用できる。		
前期		1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週	Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形 Jnit 4. 進行形 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 助動詞 Jnit 6. 未来時制 Jnit 6. 未来時制 Jnit 7. 疑問文と付 Jnit 7. 疑問文と付 Jnit 8. 比較 Jnit 8. 比較 前期定期試験		現 過 代代 道道 ごる 財助 財 財 未 未 対	在時制の用法を 法時制の用法を 名詞の用法を理 名詞の用法を理 行形の用法を理 行形ののできる。 動詞の用法を理 がののできる。 動詞の用法を 来時制の用法を 来時制の用法を 来時制の加加 を を で がの用法を 要 で 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 別解し、運用できる。 別解し、運用できる。 別解し、運用できる。 別解し、運用できる。 別容を理解し、それらを運用・活用す ののでは、運用できる。 のの用法を理解し、運用できる。 のの用法を理解し、運用できる。 のの用法を理解し、運用できる。 のの用法を理解し、運用できる。 のの用法を理解し、運用できる。 のの用法を理解し、運用できる。 の対象を理解し、運用できる。 の対象を理解し、運用できる。 の対象を理解し、運用できる。 の対象を理解し、それらを運用・活用す		

		4週	Unit 10. 動名詞		動名詞の用法を理解し、選	囲できる。		
		5週	Unit 11. 受動態		受動態の用法を理解し、選	囲できる。		
		6週	Unit 11. 受動態		受動態の用法を理解し、選	囲できる。		
		7週	復習テスト		これまでの学習内容を理解ることができる。	ない それらを運用・活用す		
	8週		Unit 12. 形容詞節		形容詞節の用法を理解し、	運用できる。		
			Unit 12. 形容詞節		形容詞節の用法を理解し、	運用できる。		
		10週	Unit 13. 副詞節		副詞節の用法を理解し、選	囲できる。		
		11週	Unit 13. 副詞節		副詞節の用法を理解し、選	囲できる。		
		12週	Unit 14. 名詞節		名詞節の用法を理解し、選	囲できる。		
	4thQ	13週	Unit 14. 名詞節		名詞節の用法を理解し、運用できる。			
		14週	Unit 15. 現在完了形		現在完了形の用法を理解し	/、運用できる。		
		15週	Unit 15. 現在完了形		現在完了形の用法を理解し	を理解し、運用できる。		
		16週	後期定期試験		これまでの学習内容を理解ることができる。	『し、それらを運用・活用す		
評価割合	ì							
			定期試験	復習テスト	小テスト・課題など	合計		
総合評価割	恰		50	30	20	100		
基礎的能力	J		50	30	20	100		
専門的能力]		0	0	0	0		
分野横断的	能力		0	0	0	0		

□′J \′	牧工業高	等専門学校	交	令和03年度(2021年度)	授	業科目	英語 II A(都市・	環境系)
— <u>———</u> 科目基础		13 13 13 1	1 11.5213 1 12	11-12-0-1-22 (1					714 7 37 147
<u>- 10 - 1</u> 科目番号	IM	0020			科目区分				
授業形態		授業			単位の種別と単位	位数	履修単位:		
開設学科					対象学年		2		
開設期		通年	11 (/32/10/		週時間数		3		
教科書/教	材	教科書:	「BIG DIPPER Er unication II ワーク uar 24」(啓林館)/	nglish Communicat ブック」(数研出版 夏期課題:「The D	ion II (数研出)	版) /ワ	ー ノークブッ	ク:「BIG DIPPER E 法テキスト「Vision Q d University Press)	nglish Juest English
担当教員		松田 奏	保						
到達目標	票								
1. 基礎的 2. 熟語、 3. 継続的	- 的な英語で 、構文、文 的な学習に	書かれた社会 法を理解し、 より、英検達	会、文化、科学など それらを使って表 き2級の取得が現実	をテーマにした文章 現ができる。 的となる英語力を身	を理解し, その内	容を日本	に 語で説明 で 自身の英	できる。 語力を把握できる。	
ルーブリ		,			,			-	
			理想的な到達し	 /ベルの目安(優)	標準的な到達レイ	ベルの目	安(良)	未到達レベルの目安	
評価項目:	1		基礎的な英語で	で書かれた社会、文 デーマにした文章 内容を日本語で正	基礎的な英語で記して、科学などを表現解し、その時できる。	書かれた テーマに	社会、文	基礎的な英語で書か	れた社会、文
評価項目2	2		熟語、構文、文 らを使って正確	(法を理解し、それ 詳に表現ができる。	熟語、構文、文法 らを使って表現が	ができる	0 0	それらを使って表現	ができない。
評価項目	3		の取得が現実的	より, 英検準2級 」となる英語力を身 シカテストによって ・把握できる。	継続的な学習にの取得が現実的の取得が現実的の語力を身につけ、によって自身の記る。	. 英語学	カテスト	継続的な学習によりの取得が現実的とない。 語力を身につけられ デストによって自身 握できない。	1ず,英語学力
学科の発	到達目標〕	項目との関	 関係						
I 人間 Ⅱ 実践 Ⅲ 国際]性 数性	<u> </u>	2						
教育方法									
概要	<u> </u>	総合的な	ネカが身につくよう。	に指導する。教科書	中心に「読む」「	聞く」 事項の訪		話す」の4技能のバラ 音読練習などを通し	 シスのとれた
				習得を目指す。					
授業の進	め方・方法	「読む」 , 構文 <i>の</i> して期試懸 学業成績 試験おる	「聞く」「書く」 D説明や文法演習, Bし,また,語彙や 640%,達成度試験 が60点未満のもの にび達成度試験の成	習得を目指す。 「話す」の4技能の 音読やペア練習など 文法などの習得度確 20%,英語学カテノ に対して再試験を実 遺に置き換えて再評	総合的な英語力を の活動を行なう。 認のため演習を適 スト20%,課題・7 ミ施する場合がある 価を行う。	高めるた 文法テキ 宜実施す 各種テス 。この ^は	さめに,教 マストは教 する。 、ト20% <i>の</i> 場合,学年	科書にある英文の語彙 科書での練習問題を補 D割合で評価する。 表に1回実施し,再試	i, 語法, 文法 記記するものと 験の成績は定期
注意点		「読構では 読構で に に に に に に に に に に に に に	「聞く」「書く」 D説明や文法演習, Hし, また, 語彙や	習得を目指す。 「話す」の4技能の 音読やペア練習など 文法などの習得度確 20%,英語学カテノ に対して再試験を実 遺に置き換えて再評	総合的な英語力をの活動を行なう。 の活動を行なう。 認のため演習を適 えト20%,課題・行 がある 価を行う。 課題などに真剣に	高めるた 文法テキ 宜実施す 各種テス 。この ^は	さめに,教 マストは教 する。 、ト20% <i>の</i> 場合,学年	科書にある英文の語彙	i, 語法, 文法 記記するものと 験の成績は定期
注意点 授業の属	属性・履(「読む」 「構文の した期試験学試験 のうこ 選換 のうこ	「聞く」「書く」 ご説明や文法演習, 別し、また、語彙や 後40%,達成度試験 が60点未満のもの にび達成度試験の成 で登成度試験の成 で登り、復習を毎回行 と。また,授業の	習得を目指す。 「話す」の4技能の音読やペア練習など文法などの習得度確 (20%, 英再試験を に対して再試験を 遺に置き換えて再評 い、授業で出される	総合的な英語力をの活動を行なう。認のため演習を適スト20%, 課題・行策である。 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	高めるた 文法テキ 宜実施す 各種テス 。 この ^は 取り組む	さめに,教 マストは教 する。 、ト20% <i>の</i> 場合,学年	科書にある英文の語彙 科書での練習問題を補 D割合で評価する。 ま末に1回実施し,再試 期試験に向け,計画的	は, 語法, 文法 完するものと 験の成績は定期 に試験勉強を
注意点 授業の属		「読む」 「構文の した期試験学試験 のうこ 選換 のうこ	「聞く」「書く」 D説明や文法演習, Hし, また, 語彙や	習得を目指す。 「話す」の4技能の音読やペア練習など文法などの習得度確 (20%, 英再試験を に対して再試験を 遺に置き換えて再評 い、授業で出される	総合的な英語力をの活動を行なう。 の活動を行なう。 認のため演習を適 えト20%,課題・行 がある 価を行う。 課題などに真剣に	高めるた 文法テキ 宜実施す 各種テス 。 この ^は 取り組む	さめに,教 マストは教 する。 、ト20% <i>の</i> 場合,学年	科書にある英文の語彙 科書での練習問題を補 D割合で評価する。 表に1回実施し,再試	は, 語法, 文法 完するものと 験の成績は定期 に試験勉強を
注意点 授業の原 □ アクラ	属性・履 € 〒ィブラー <u>-</u>	「読む」 「構文の した期試験学試験 のうこ 選換 のうこ	「聞く」「書く」 ご説明や文法演習, 別し、また、語彙や 後40%,達成度試験 が60点未満のもの にび達成度試験の成 で登成度試験の成 で登り、復習を毎回行 と。また,授業の	習得を目指す。 「話す」の4技能の音読やペア練習など文法などの習得度確 (20%, 英再試験を に対して再試験を 遺に置き換えて再評 い、授業で出される	総合的な英語力をの活動を行なう。認のため演習を適スト20%, 課題・行策である。 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	高めるた 文法テキ 宜実施す 各種テス 。 この ^は 取り組む	さめに,教 マストは教 する。 、ト20% <i>の</i> 場合,学年	科書にある英文の語彙 科書での練習問題を補 D割合で評価する。 ま末に1回実施し,再試 期試験に向け,計画的	は, 語法, 文法 完するものと 験の成績は定期 に試験勉強を
注意点 授業の原 」 アクラ	属性・履 € 〒ィブラー <u>-</u>	「読載では に対する に対する に対する に対する ではいまる ではいまる ではいまる ではな ではな ではな ではな ではな ではな ではな ではな	「聞く」「書く」 D説明や文法演習, 別し、また,語彙や 後40%,達成度試験 が60点未満のもの はび達成度試験の成 を習・復習を毎回行 と。また,授業の 】	習得を目指す。 「話す」の4技能の音読やペア練習など文法などの習得度確 (20%, 英再試験を に対して再試験を 遺に置き換えて再評 い、授業で出される	総合的な英語力をの活動を行なう。認のため演習を適スト20%, 課題・行策である。 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	高めるた 文法テキ 宜実施す 各種テス 。 この ^は 取り組む	さめに,教 マストは教 する。 、ト20% <i>の</i> 場合,学年	科書にある英文の語彙 科書での練習問題を補 D割合で評価する。 ま末に1回実施し,再試 期試験に向け,計画的	は, 語法, 文法 完するものと 験の成績は定期 に試験勉強を
主意点 受 業 の原 」 アクラ	属性・履 € 〒ィブラー <u>-</u>	「読む」 「構文の した期試験学試験 のうこ 選換 のうこ	「聞く」「書く」 ご説明や文法演習, 別し、また、語彙や 後40%,達成度試験 が60点未満のもの にび達成度試験の成 で登成度試験の成 で登り、復習を毎回行 と。また,授業の	習得を目指す。 「話す」の4技能の音読やペア練習など文法などの習得度確 (20%, 英再試験を に対して再試験を 遺に置き換えて再評 い、授業で出される	総合的な英語力をの活動を行なう。認のため演習を適スト20%, 課題・行策である。 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	高めるたちは大きない。このは、このは、このは、このは、このは、このは、このは、このは、このは、このは、	さめに,教 マストは教 する。 、ト20% <i>の</i> 場合,学年	科書にある英文の語彙科書での練習問題を補 の割合で評価する。 また1回実施し,再試 期試験に向け,計画的	は, 語法, 文法 完するものと 験の成績は定期 に試験勉強を
注意点 授業の原 」 アクラ	属性・履 € 〒ィブラー <u>-</u>	「読載では に対する に対する に対する に対する ではいまる ではいまる ではいまる ではな ではな ではな ではな ではな ではな ではな ではな	「聞く」「書く」 D説明や文法演習, 同し、また、語彙や 640%,達成度試験 506点未満のもの たび達成度試験の成 で習・復習を毎回行 こと。また,授業の 日本のでは、 日本ので	習得を目指す。 「話す」の4技能の音読やペア練習など文法などの習得度確 (20%, 英再試験を に対して再試験を 遺に置き換えて再評 い、授業で出される	総合的な英語力をの活動を行なう。認のため演習を適くなった。認のため、課題・イスト20%、課題・イスト20%、課題・イスト20%とはできない。 は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	高めるたます 宜実種での 取り組む し Lesson	ために,教 マス。 ト20%の 場合,学年 いこと。定 の到達目標 1の英文	科書にある英文の語彙科書での練習問題を補 の割合で評価する。 また1回実施し,再試 期試験に向け,計画的	東, 語法, 文法 記まするものと 験の成績は定期 に試験勉強を 教員による授業
注意点 授業の原 □ アクラ	属性・履 € 〒ィブラー <u>-</u>	「読む」に	「聞く」「書く」 ご説明や文法演習, は、また、語彙や 後40%,達成度試験 が60点未満のもの たび達成度試験の成 で選・復習を毎回行 と。また,授業の 」 □ ICT 利用	習得を目指す。 「話す」の4技能の音読やペア練習など文法などの習得度確立20%,英語学力テデに対して再試験を集積に置き換えて再評い,授業で出される時には英和辞書を必	総合的な英語力をの活動を行なう。認のため演習を適いたの演習を適いたる場合がある。 課題・イ を で で で で で で で で で で で で で で で で で で	高文 京 京 京 東 で の が し に い の の の の の の の の の の の の の	ために、教教 に入る。 いた20%の 場合、学年 記 理 選 で 理 が ま で で で で で の で の で の で の で の で の で り こ の で り こ の で り で り で り で り で り で り で り で り で り で	科書にある英文の語彙科書での練習問題を補 の割合で評価する。 またに1回実施し、再試 期試験に向け、計画的 実務経験のある	を表現します。 注、語法、文法 注でするものと 一般の成績は定期 のに試験勉強を 教員による授業 できる。完了形
注意点 授業の原 □ アクラ	属性・履 € 〒ィブラー <u>-</u>	「	「聞く」「書く」 ご説明や文法演習, 問し、また、語彙や 終40%,達成度試験のもの び達成度試験の成。 で登成度試験の成。 で登、復習を毎回行 と。また、授業の 」ICT 利用 授業内容 Lesson 1 Washo	習得を目指す。 「話す」の4技能の音読やペア練習など文法などの習得度確認の後、英語学カテジに対して再試験を表情に置き換えて再評した。 「授業で出される時には英和辞書を必要ない。	総合的な英語力をの活動を行なう。 の活動を行なう。 では、大20%、課題・行きをする場合がある。 はでする場合がある。 はでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、	高文言を 高文言を 京言を では では では では では では では では では では	ために、教教により、 は、して、 たっとの。 たっとの。 ののでは、 ののでは、 ののでは、 では、 ののでは	科書にある英文の語彙科書での練習問題を補 の割合で評価する。 主末に1回実施し、再試 期試験に向け、計画的 「実務経験のある」 を理解し、内容を説明 が連用できる。 を理解し、内容を説明	できる。 できる。 できる。
注意点 授業の原 」 アクラ	属性・履f ティブラー <u>:</u> 画	「読載では、 「	「聞く」「書く」 ご説明や文法演習, は、また、語彙や 後40%,達成度試験 が60点末満験の成が で達成度試験の成が でで達成度試験の成が でできるでは、複響を毎回行 と。また、授業のは とと。また、授業のは とと。また、投業のは とと。また、投業のは はび達成度試験の成が できるである。 はできるでは、できるでは、 といるには、できるでは、 はいるには、できるでは、 といるには、	習得を目指す。 「話す」の4技能の 「話す」の4技能の 音読やペア練習など で法などの習得度確 に対して再試験を 遺に対して再試験を 遺に置き換えて再評 い,授業で出される 時には英和辞書を必 ku Around the Wo	総合的な英語力を の活動を行なう。 認のため演習を適 スト20%,課題・7 E施する場合がある 価を行う。 課題などに真剣に ず持参すること。 ② 遠隔授業対応 orld r Dog in Japan	高文言を 高文言を 記法を では では のは といる に といる に といる に といる に といる に といる に といる に といる に といる に に に に に に に に に に に に に	ために、は に、は、 に、は、 た。の%の また。の ののでである。 ののでは、 ののでである。 ののでは、 のの	科書にある英文の語彙科書での練習問題を補の練習問題を補います。 「本に1回実施し、再試期試験に向け、計画的」 「実務経験のある」 「実務経験のある」 「を理解し、内容を説明」 「を理解し、内容を説明」 「を理解し、内容を説明」 「を理解し、内容を説明」 「なる。 「なる。」 「なる。 「なっている。」 「なっている。 「なっている。」 「なっている。」 「な	できる。 できる。 できる。 できる。 できる。
注意点 授業の原 □ アクラ	属性・履 € 〒ィブラー <u>-</u>	には、	「聞く」「書く」 ご説明や文法演習, はり、また,語彙や 後40%,達成度試験 が60点末満験の成 で達成度試験の成 で達成度試験の成 できるできる。 ではまた,授業の と。また,授業の して利用 「日本のでは、 授業内容 Lesson 1 Washo Lesson 1 Washo Lesson 2 Chirori	習得を目指す。 「話す」の4技能の音読やペア練習など で法などの習得度確 に対して再試験を実 遺に対して再試験を 遺に対して再試験を 遺に対して再試験を 遺に対して再試験を 遺に対して再試験を 遺に対して再試験を はに対して再試験を はに対して 大で出される は、 大には英和辞書を必 は、 は、 ないれては は、 は、 ないれては は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	総合的な英語力を の活動を行なう。 認のため演習を適 スト20%,課題・ 発施する場合がある 価を行う。 課題などに真剣に ず持参すること。 図 遠隔授業対応 orld r Dog in Japan / Dog in Japan	高文言を 高文言を 取り組む じた にいまする。 この相が にいまする。 にいまる。 にいまる。 にいまる。 にいまる。 にいまな。 にいまな。 にいまる。 にっな。 にっな。 にっな。 にっな。 にっな。	た。 に、は、た。 た。 た。 た。 た。 た。 の。 か。 か。 か。 か。 か。 か。 か。 か。 か。 か	科書にある英文の語彙科書での練習問題を補 P割合で評価する。 主末に1回実施し、再試 期試験に向け、計画的 実務経験のある 要を理解し、内容を説明 を理解し、内容を説明 を理解し、内容を説明 が選用できる。 を理解し、内容を説明 が関し運用できる。 を理解し、内容を説明 を理解し、内容を説明 を理解し、内容を説明 を理解し、内容を説明 を理解し、内容を説明 を理解し、内容を説明 を理解し、内容を説明 を理解し、内容を説明 を理解し、内容を説明	は、語法、文法 記するものと 験の成績は定期 のに試験勉強を 教員による授業 できる。完了形できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。
注意点 授業の原 □ アクラ 授業計画	属性・履f ティブラー <u>:</u> 画	「	「聞く」「書く」 ご説明や文法演習, はり、また,語彙や を40%,達成度試験 が60点未満験の成 で達成度試験の成 で達成度試験の成 でで達成度試験の成 でできるできる。 では、できるでは、できる。 できるでは、できるでは、できるでは、できる。 ととまるの 1 Washo Lesson 1 Washo Lesson 2 Chirori Lesson 2 Chirori Lesson 3 How G	習得を目指す。 「話す」の 4 技能の音読やペア練習など で法などの習得方子 に対して再試験を 遺に対して再試験を 遺に対して再試験を 遺に対して再試験を 遺に対して再試験を 遺に対して再試験を 遺に対して再試験を 遺に対して再試験を は、 大には英和辞書を必 は、Around the Wo は、Around the Wo は、Around the Wo は、Around the Wo は、大きには、 は、大きには、 は、大きには、 は、大きには、 は、大きには、 は、大きには、 は、大きには、 は、大きには、 は、大きには、 は、大きには、 は、大きには、 は、大きには、 は、大きには、 は、大きには、 は、大きには、 は、大きには、 は、大きには、 は、大きには、 は、大きには、 は、たきには、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	総合的な英語力を の活動を行なう。 の活動を行なう。 認力ため演習を適 スト20%,課題・行 に真剣に 対方参すること。 図 遠隔授業対応 orld r Dog in Japan ory?	高文言を 高文言を 取り組む この に に に に に に に に に に に に に	た に に に に に に に に に に に に に	科書にある英文の語彙科書での練習問題を補料書での練習問題を補助を対し、再試力を理解して、内容を説明を理解し、内容を説明を理解して、内容を説明がある。 を理解してきる。を理解してきる。を理解していている。を理解していているを説明がある。を理解していている。を理解していている。を理解していている。を理解していている。を理解していている。を理解していている。を理解していている。とないできる。を理解していている。とないできる。とないできる。とないでは、内容を説明できる。とないでは、内容を説明できる。とないできる。とないでは、内容を説明できる。とないできる。とないでは、内容を説明を理解していている。とないでは、内容を説明を理解していている。とないでは、内容を説明を理解していている。とないでは、内容を説明を表し、内容を説明を表し、内容を説明を表し、内容を説明を表し、内容を説明を表し、内容を説明を表し、内容を説明を表し、内容を表し、内容を説明を表し、内容を説明を表し、内容を表し、内容を説明を表し、内容を表し、内容を表し、内容を表し、表し、内容を表し、表し、内容を表し、表し、内容を表し、表し、内容を表し、表し、内容を表し、表し、内容を表し、表し、内容を表し、表し、内容を表し、表し、内容を表し、表し、表し、内容を表し、表し、内容を表し、表し、内容を表し、表し、内容を表し、表し、内容を表し、表し、内容を表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表	できる。完了形できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。
注意点 授業の原 □ アクラ 授業計画	属性・履f ティブラー <u>:</u> 画	「した 1	「聞く」「書く」 ご説明や文法演習, はり、また,語彙や を40%,達成度試験 が60点未満験の成 で達成度試験の成 で達成度試験の成 でで達成度試験の成 でできるできる。 では、できるでは、できる。 できるでは、できるでは、できるでは、できる。 ととまるの 1 Washo Lesson 1 Washo Lesson 2 Chirori Lesson 2 Chirori Lesson 3 How G	習得を目指す。 「話す」の 4 技能の音読やペア練習など で法などの質得カテン に対して再試験を実 遺に対して再試験を表 遺に対して再試験を表 遺に対して再試験を表 遺に対して再試験を表 遺に対して再試験を表 は、 授業で出される おけには英和辞書を必 は Around the Wo ku Around the Wo , the First Therapy ood Is Your Memo	総合的な英語力を の活動を行なう。 の活動を行なう。 認力ため演習を適 スト20%,課題・行 に真剣に 対方参すること。 図 遠隔授業対応 orld r Dog in Japan ory?	高文言を 高文言を の は で の に に の に に の に に の に に の に に の に の に の に 。 。 に 。 。 に 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	た。 (こ) (こ) (こ) (こ) (こ) (こ) (こ) (こ) (こ) (こ)	科書にある英文の語彙科書での練習問題を補助を報習問題を補助を対し、再試を対し、再試が関係を対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対	できる。完了形できる。 できる。関係代できる。関係代る。
注意点 授業の原 □ アクラ 授業計画	属性・履f ティブラー <u>:</u> 画	「「し定学試 授進 の 区 ケーン り り り り り り り り り り り り り り り り り り り	「聞く」「書く」 D説明や文法演習, Hし、また、語彙や	習得を目指す。 「話す」の4技能の音読やペア練習など で読などの習得度確立。 で読などの習得度確立。 で対して再試験を実 遺に対して再試験を表 遺に関き換えて再評い、授業和辞書を必 は、好で出される時には英和辞書を必 は、Around the Wo ku Around the Wo ku Around the Wo , the First Therapy ood Is Your Memo ood Is Your Memo	総合的な英語力を の活動を行なう。 の活動を行なう。 認力ため演習を適 スト20%,課題・行 に真剣に 対方参すること。 図 遠隔授業対応 orld r Dog in Japan ory?	高文官者 高文官者 の の の の に の の に の の に の の に の の に の の に の に の に の に の に の に の に の に の に の の に の の の の に の の の の の の の の の の の の の	たる、	科書にある英文の語彙科書での練習問題を補助を報習問題を補助を対し、再試を対し、再試が関係を対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対	東京語法,文法 京記表ものと 験の成績は定期 に試験勉強を 教員による授業 できる。完了形できる。 できる。。 関係代できる。。 関係代できる。 仮定法
注意点 授業の属	属性・履f ティブラー <u>:</u> 画	「した した した した した した した した	「聞く」「書く」 D説明や文法演習, ものが,達成度試験 ものが,達成度試験 が60点末満のもの たび達成度試験の成 で登れて でできなでする。 では、一個では といきの1 Washo Lesson 1 Washo Lesson 2 Chirori Lesson 2 Chirori Lesson 3 How Go Lesson 4 Space 達成度試験	習得を目指す。 「話す」の4技能の音話かペア練習など で注などの習得度確 で注などの習得度確 で対して再試験を実 遺に置き換えて再評 い、授業和辞書を必 は、Around the Wo ku Around the Wo ku Around the Wo the First Therapy ood Is Your Memo ood Is Your Memo elevator Elevator	総合的な英語力を の活動を行なう。 の活動を行なう。 認力ため演習を適 スト20%,課題・行 に真剣に 対方参すること。 図 遠隔授業対応 orld r Dog in Japan ory?	高文宜者。 取り組む し、 し、 し、 し、 し、 し、 し、 し、 し、 し、	た。 か 1 態 1分 2m 文明 では、 1 では、	科書にある英文の語彙和書での練習問題を補書での練習問題を補助し、再試験に向け、計画的で評価する。 東京に1回実施のは、東方に1回実施のあるのでは、東方に1回実施のあるのでは、東方に1回実施のあるのでは、東京のは、東京のは、東京のは、東京のは、東京のは、東京のは、東京のは、東京の	は、語法、文法に記して、 一次の成績は定期に試験勉強を 教員による授業できる。。 でできる。。 でを理解のできる。。 できまさ。。。 できまさ。。。 できまさ。。。 できまさ。。。 できまさ。。。 できまさ。。。 できまさ。。。。 できまさ。。。。。 関係代語できる。。。。。 関係の定法できる。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。
注意点 授業の原 □ アクラ 授業計画	属性・履f ティブラー <u>:</u> 画	「、し定学試 授進 の	「聞く」「書く」 D説明や文法演習, Bし、また、語彙や 終40%,達成度試験の成の で達成度試験の成。 で達成度試験の成。 で達成度 TST 利用 ICT 利用 授業内容 Lesson 1 Washo Lesson 2 Chirori Lesson 2 Chirori Lesson 3 How G Lesson 4 Space 達成度試験 Lesson 4 Space	習得を目指す。 「話す」の4技能の音話かペア練習など で注などの習得度確 で注などの習得度確 で対して再試験を実 遺に置き換えて再評 い、授業和辞書を必 は、Around the Wo ku Around the Wo ku Around the Wo the First Therapy ood Is Your Memo ood Is Your Memo elevator Elevator	総合的な英語力を の活動を行なう。 の活動を行なう。 では	高文宜者。 取り組む し、 し、 し、 し、 し、 し、 し、 し、 し、 し、	Color Co	科書にある英文の語彙和書での練習問題を補書での練習問題を補助し、再試験に向け、計画的は実務経験のある。 東理解してき、内きる。を理解しまる。 を理解してき、内きる。を理のでは、内ちででは、内ちででは、内ちででは、内ちででは、内ちででは、内ちででは、大理のでは、、は、大理のでは、大理の	は、語法、文法に記して、 一次の成績は定期に試験勉強を 教員による授業できる。。 でできる。。 でを理解のできる。。 できまさ。。。 できまさ。。。 できまさ。。。 できまさ。。。 できまさ。。。 できまさ。。。 できまさ。。。。 できまさ。。。。。 関係代語できる。。。。。 関係の定法できる。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。
注意点 授業の原 □ アクラ 授業計画	属性・履作・不可ラー <u>-</u> 動	For the property of the pr	「聞く」「書く」 ご説明や文法演習, は人の後、達成度試験 が60点末満のもの にび達成度試験の成 を習・復習を毎回行 と。また,授業の 」 ICT 利用 授業内容 Lesson 1 Washo Lesson 2 Chirori Lesson 2 Chirori Lesson 3 How G Lesson 4 Space 達成度試験 Lesson 4 Space 上esson 4 Space Lesson 5 Diversi	習得を目指す。 「話す」の4技能の音話かペアが関係を音気がなどの質得内で、英語学カテンに対して再試験を表情に対して再試験を表情に対して再対を表現で出される時には英和辞書を必 ku Around the Woku Ar	総合的な英語力を の活動を行なう。 認のため演習を通 スト20%,課題・名 に真剣に 連動などに真剣に ず持参すること。 図 遠隔授業対応 prid prog in Japan pry? pry? ducts	高文宜者。 取 週 Lessom した、 しいでは、 はいでは、 はい	D 1	科書にある英文の語彙和書での練習問題を補書での練習問題を補助し、再試験に向け、計画的で評価する。 東京に1回実施のは、東方に1回実施のあるのでは、東方に1回実施のあるのでは、東方に1回実施のあるのでは、東京のは、東京のは、東京のは、東京のは、東京のは、東京のは、東京のは、東京の	京語は、 京語は、 京語は、 京語は、 京語は、 でででできる。 ででできる。。 でででできる。。 でででできる。。 でででできる。。 でででできる。。 ででででるででるででる。。 ででででる。。 ででできる。。 できまる。。 できまる。。 できまる。。 できまる。。 できまる。。 できまる。。 できまる。。 できまる。。 できまる。。 できまる。。 できまる。。 できまる。。 ででででるででる。 ででででるででる。 できまる。。 できまる。。 できまる。。 できまる。。 できまる。。 できまる。。 できまる。。 できまる。。 できまる。。 できまる。。 できまる。 できまる。 できまる。 ででででる。 ででででる。 ででできまる。 ででできまる。 できる。 でき。 ・ できる。 ・ できる。 ・ で 。 できる。 ・ できる。 ・ できる。 ・ でを。 ・

			1						
		13週	Lesson 6 Uer	no Takahiro:The Dance	e in Me		n 6の英文を理解し、内容 =過去分詞)を理解し運		
		14週	Lesson 6 Uer	no Takahiro:The Dance	e in Me	Lessor 過去完	n 6の英文を理解し、内容 了を理解し運用できる。	容を説明できる。仮定法	
		15週	Lesson 6 Uer	no Takahiro:The Dance	e in Me		n 6の英文を理解し、内? 解し運用できる。	容を説明できる。分詞構	
		16週	前期定期試験			既習事	既習事項を整理できる。		
		1週	Lesson 7 The	he France Okaeshi Project			Lesson 7の英文を理解し、内容を説明できる。仮定法 (as if+S+仮定法)を理解し運用できる。		
		2週	Lesson 7 The	e France Okaeshi Proje	ct	Lessor (If+S+	n 7の英文を理解し、内? Hwere to 〜)を理解し運	客を説明できる。仮定法 用できる。	
		3週	Lesson 7 The	e France Okaeshi Proje	ct	Lessor を推測	n 7の英文を理解し、内? しながら読解ができる。	容を説明できる。未知語	
	3rdQ	4週	Lesson 7 The	e France Okaeshi Proje	ct	Lessor 代わる	n 7の英文を理解し、内? 表現を理解し運用できる	客を説明できる。If-節に う。	
	SiuQ	5週	Lesson 8 Wh	at Is the True Meaning	g of Mottainai?	Lessor の受動	n 8の英文を理解し、内容 態を理解し運用できる。	容を説明できる。進行形	
		6週	Lesson 8 Wh	occon 9 What Is the True Meaning of Mettainai?		Lessor 使われ	n 8の英文を理解し、内容 る省略理解し運用できる	学を説明できる。文中で	
		7週	Lesson 8 Wh	nat Is the True Meaning of Mottainai?		Lesson 8の英文を理解し、内容を説明できる。形式目的語 it (to-不定詞/that-節)を理解し運用できる。			
後期		8週	Lesson 8 Wh	at Is the True Meaning of Mottainai?		Lesson 8の英文を理解し、内容を説明できる。現在 /過去完了進行形を理解し運用できる。			
15州		9週	Lesson 9 Fair	r Play in Sports: What Is "Fair"?			n 9の英文を理解し、内容 /thatを理解し運用でき	客を説明できる。同格を る。	
		10週	英語学力テスト Lesson 9 Fair Play in Sports: What Is "Fair"?			Lessor	英語力を正確に把握する 1 9の英文を理解し、内? 詞を理解し運用できる。	る。 容を説明できる。複合関 	
		11週	Lesson 9 Fair	r Play in Sports: What	Is "Fair"?	Lesson 9の英文を理解し、内容を説明できる。倒理解し運用できる。			
	4thQ	12週	Lesson 9 Fair	r Play in Sports: What Is "Fair"?		Lesson 9の英文を理解し、内容を説明できる。関係記詞 whenの継続用法を理解し運用できる。			
		13週	Lesson 10 Flo	oating Education	Lesson 10の英文を5		n 10の英文を理解し、内 を理解し運用できる。	理解し、内容を説明できる。未来 月できる。	
		14週	Lesson 10 Flo	oating Education		Lessor SVC(=	n 10の英文を理解し、内 that-節)を理解し運用で	容を説明できる。 きる。	
		15週		oating Education		Lessor 物主語	ı 10の英文を理解し、内 を理解し運用できる。	容を説明できる。無生	
		16週	後期定期試験			既習事	項を整理できる。		
評価割合									
		定期試験 達成度試験 英語学カテス					課題・各種テスト	合計	
総合評価割	<u></u> 合	40		20	20		20	100	
基礎的能力		40		20	20		20	100	
					0		0 0		

科目基		等専門学	校 │ 開講年度 令和03年度 (2	2U21 11 /支)	授業科目	英語 Ⅱ B(都市・環境系)
	礎情報	13 13 13 1	1 1000 100 100 100 100 100 100 100 100		222111	_ (
科目番号		0021		科目区分	一般 / 必何	<u> </u>
授業形態		授業		単位の種別と単位	数 履修単位:	2
開設学科		創造工	学科(一般科目)	対象学年	2	
開設期		通年		週時間数	2	
教科書/教		教科書	: Andrew E. Bennett, Toru Komiya "	Grammar Plus <1	Unit Edition>"	(南雲堂)
担当教員		石川 愛	弓			
到達目						
1) 基 2) 問	礎的な高校 題演習を通	英語の理解 して、「読む	を中心に学習し,英検準2級の取得が確 む」「聞く」「話す」「書く」の4技能	実となる語彙力・文 のバランスの取れた	法力を習得する。 英語力を習得す。	ことができる。 ることができる。
3) 教	材を通して	, 国内外の	諸事情について理解することができる。			
ルーブ		,				
,,,,			理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベ	ルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)
			基礎的な高校英語の理解を中心に	基礎的な高校英語	,	基礎的な高校英語を理解できず
評価項目	1		学習し、英検準2級の取得が確実 となる語彙力・文法力を習得する ことができる。	学習し, 英検準2 となる語彙力・文 ことができる。	級の取得が可能	、英検準2級の取得が可能となる 語彙力・文法力を習得することが できない。
評価項目	2		問題演習を通して、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能の バランスの取れた英語力を習得す	問題演習を通して く」「話す」「書 バランスの取れた	く」の4技能の 基本的な英語力	問題演習を通して、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能の バランスの取れた基本的な英語カ
			ることができる。	を習得することが 教材を通して, 国		を習得することができない。
評価項目			教材を通して,国内外の諸事情に ついて理解することができる。	対称を通じて、国 ついて概ね理解す	ることができる	教材を通して,国内外の諸事情に ついて理解することができない。
		項目との	関係			
I 人 [実] 国 □	間性 浅性 祭性					
概要						「話す」「書く」の4技能を総合的
			業は、学生が予習をしていることを前提 キストで学習したリスニング、および構	文や語法・文法事項		
		3) 4)学 英語力[1) 2) 和 3) 数	キストで学習したリスニング、および構 主は、授業中は常に英和辞書を机上にお 句上のためには、自学自習を含む主体的 欠回の授業に備えて必ず予習を行うこと 責極的な姿勢で授業に臨むこと 受業の復習を毎回行うことで、英語カ向	に進める。 文や語法・文法事項 き、単語の意味や発 な学習の継続が必要	音、語法等を確認 不可欠である。(忍しながら授業を受けること。 したがって、学生は、
授業の		3)デー 4)学 英語力「 1)) 2) 和 3) 生	キストで学習したリスニング、および構 主は、授業中は常に英和辞書を机上にお 向上のためには、自学自習を含む主体的 欠回の授業に備えて必ず予習を行うこと 責極的な姿勢で授業に臨むこと 受業の復習を毎回行うことで、英語力向	に進める。 文や語法・文法事項 き、単語の意味や発 な学習の継続が必要 上に向けた継続的努	音、語法等を確認 不可欠である。(忍しながら授業を受けること。 したがって、学生は、 必要である。
授業の	禹性・履 ティブラー:	3)デー 4)学 英語力「 1)) 2) 和 3) 生	キストで学習したリスニング、および構 主は、授業中は常に英和辞書を机上にお 句上のためには、自学自習を含む主体的 欠回の授業に備えて必ず予習を行うこと 責極的な姿勢で授業に臨むこと 受業の復習を毎回行うことで、英語カ向	に進める。 文や語法・文法事項 き、単語の意味や発 な学習の継続が必要	音、語法等を確認 不可欠である。(忍しながら授業を受けること。 したがって、学生は、 必要である。
授業の] アク	ティブラー:	3)デー 4)学 英語力「 1)) 2) 和 3) 生	キストで学習したリスニング、および構 主は、授業中は常に英和辞書を机上にお 向上のためには、自学自習を含む主体的 欠回の授業に備えて必ず予習を行うこと 責極的な姿勢で授業に臨むこと 受業の復習を毎回行うことで、英語力向	に進める。 文や語法・文法事項 き、単語の意味や発 な学習の継続が必要 上に向けた継続的努	音、語法等を確認 不可欠である。(忍しながら授業を受けること。 したがって、学生は、 必要である。
授業の] アク	ティブラー:	4)学生 英語力II 1) 2) 利 3) 1 修上の区グ	キストで学習したリスニング、および構生は、授業中は常に英和辞書を机上にお句上のためには、自学自習を含む主体的欠回の授業に備えて必ず予習を行うこと責極的な姿勢で授業に臨むことで、英語力向受業の復習を毎回行うことで、英語力向	に進める。 文や語法・文法事項 き、単語の意味や発 な学習の継続が必要 上に向けた継続的努 図 遠隔授業対応	音、語法等を確認をである。 (不可欠である。 (力を図ることが、	忍しながら授業を受けること。 したがって、学生は、 必要である。 □ 実務経験のある教員による授業
授業の] アク	ティブラー:	3)デー 4)学生 英語力I 1)) 2) 素 3) ± 修上の区グ ニング	キストで学習したリスニング、および構 主は、授業中は常に英和辞書を机上にお 向上のためには、自学自習を含む主体的 欠回の授業に備えて必ず予習を行うこと 責極的な姿勢で授業に臨むこと 受業の復習を毎回行うことで、英語力向 け	に進める。 文や語法・文法事項 き、単語の意味や発 な学習の継続が必要 上に向けた継続的努 図 遠隔授業対応	音、語法等を確認を可欠である。 「 オータである。 「 カを図ることが、 動ごとの到達目標	忍しながら授業を受けること。 したがって、学生は、 必要である。 □ 実務経験のある教員による授業
受業の] アク .	ティブラー:	3)デー 4)学 英語力「 1)) 2) 和 3) 身 修上の区グ ニング	キストで学習したリスニング、および構 主は、授業中は常に英和辞書を机上にお 向上のためには、自学自習を含む主体的 欠回の授業に備えて必ず予習を行うこと 責極的な姿勢で授業に臨むこと 受業の復習を毎回行うことで、英語力向 分	に進める。 (文や語法・文法事項 (さ、単語の意味や発 (な学習の継続が必要 (上に向けた継続的努 (立) 遠隔授業対応	音、語法等を確認を可欠である。 (これを図ることが、) また 図ることが、 (また) また 図 できます できます できます できます はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます はい	忍しながら授業を受けること。 したがって、学生は、 必要である。 □ 実務経験のある教員による授業 理解し、運用できる。
受業の 」アク .	ティブラー:	4) 学 英語力「 1) 注 2) 相 3) ま 修上の区グ ニング 週 1週 2週	キストで学習したリスニング、および構 主は、授業中は常に英和辞書を机上にお 向上のためには、自学自習を含む主体的 欠回の授業に備えて必ず予習を行うこと 責極的な姿勢で授業に臨むこと 受業の復習を毎回行うことで、英語力向 け 図 ICT 利用 授業内容 Unit 1. 現在時制 Unit 2. 過去時制	に進める。 文や語法・文法事項 き、単語の意味や発 な学習の継続が必要 上に向けた継続的努 図 遠隔授業対応	音、語法等を確認を可欠である。 (の)	忍しながら授業を受けること。 したがって、学生は、 必要である。 □ 実務経験のある教員による授業 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。
受業の 」アク .	ティブラー:	4)学生 英語力に 1) 次 2) 和 3) 生 修上の区が ニング 週 1週 2週 3週	キストで学習したリスニング、および構 主は、授業中は常に英和辞書を机上にお 向上のためには、自学自習を含む主体的 欠回の授業に備えて必ず予習を行うこと 責極的な姿勢で授業に臨むこと 受業の復習を毎回行うことで、英語力向 プロアン・ファットを 図ICT利用 授業内容 Unit 1. 現在時制 Unit 2. 過去時制 Unit 3. 代名詞	に進める。 文や語法・文法事項 き、単語の意味や発 な学習の継続が必要 上に向けた継続的努 図 遠隔授業対応	音、語法等を確認を可欠である。 (対象図ることが、対象図ることが、対象図を図ることが、対象図を図ることが、対象図を図を図されています。) は、対象の対象の対象の対象を図されています。 は、対象の対象を図されています。 は、対象の対象を対象の対象を対象の対象を対象の対象を対象の対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	忍しながら授業を受けること。 したがって、学生は、 必要である。 □ 実務経験のある教員による授業 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。
受業の] アク .	サイブラー:	4)学会 英語力に 1) 次 2) 利 3) 1 修上の区分 ニング 週 1週 2週 3週 4週	キストで学習したリスニング、および構生は、授業中は常に英和辞書を机上にお向上のためには、自学自習を含む主体的欠回の授業に備えて必ず予習を行うこと責極的な姿勢で授業に臨むことで、英語力向け 図 ICT 利用 図 ICT 利用	に進める。 文や語法・文法事項 き、単語の意味や発 な学習の継続が必要 上に向けた継続的努 図 遠隔授業対応	音、語法等を確認を可欠である。 は 一本可欠である。 は 力を図ることが、 型ごとの到達目標 現在時制の用法を 現在時制の用法を 現る詞の用法を理 代名詞の用法を理 代名詞の用法を理	忍しながら授業を受けること。 したがって、学生は、 必要である。 □ 実務経験のある教員による授業 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。
受業の] アク .	ティブラー:	4)学 英語力に 1) 次 2) 末 3) 1 修上の区グ 二ング 週 1週 2週 3週 4週 5週	キストで学習したリスニング、および構生は、授業中は常に英和辞書を机上にお句上のためには、自学自習を含む主体的欠回の授業に備えて必ず予習を行うこと責極的な姿勢で授業に臨むことで、英語力向け 図 ICT 利用	に進める。 文や語法・文法事項 き、単語の意味や発 は学習の継続が必要 上に向けた継続的努 図 遠隔授業対応	音、語法等を確認を可欠である。 は オマクである。 は 力を図ることが、 型ごとの到達目標 現在時制の用法を 現在時制の用法を理 現名詞の用法を理 現名詞の用法を理 は名詞の用法を理 は名詞の用法を理 は名詞の用法を理	忍しながら授業を受けること。 したがって、学生は、 必要である。 □ 実務経験のある教員による授 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。
授業の] アク	サイブラー:	(4) 学(英語力(1) 注 (3) ま (8) 上の区グ ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	キストで学習したリスニング、および構 主は、授業中は常に英和辞書を机上にお 向上のためには、自学自習を含む主体的 欠回の授業に備えて必ず予習を行うこと 責極的な姿勢で授業に臨むこと 受業の復習を毎回行うことで、英語力向 か 図 ICT 利用 授業内容 Unit 1. 現在時制 Unit 2. 過去時制 Unit 3. 代名詞 Unit 3. 代名詞 Unit 4. 進行形 Unit 4. 進行形	に進める。 文や語法・文法事項 き、単語の意味や発 は学習の継続が必要 上に向けた継続的努 図 遠隔授業対応	音、語法等を確認を可欠である。 は オーマである。 は カを図ることが。 過ごとの到達目標 現在時制の用法を理 大名詞の用法を理 大名詞の用法を理 進行形の用法を理 進行形の用法を理	忍しながら授業を受けること。 したがって、学生は、 必要である。 □ 実務経験のある教員による授 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。
授業の] アク	サイブラー:	4)学 英語力に 1) 次 2) 末 3) 1 修上の区グ 二ング 週 1週 2週 3週 4週 5週	キストで学習したリスニング、および構生は、授業中は常に英和辞書を机上にお句上のためには、自学自習を含む主体的欠回の授業に備えて必ず予習を行うこと責極的な姿勢で授業に臨むことで、英語力向け 図 ICT 利用	に進める。 文や語法・文法事項 き、単語の意味や発 は学習の継続が必要 上に向けた継続的努 図 遠隔授業対応	音、語法等を確認を可欠である。 は オーマである。 は カを図ることが。 過ごとの到達目標 現在時制の用法を理 大名詞の用法を理 大名詞の用法を理 進行形の用法を理 進行形の用法を理	忍しながら授業を受けること。 したがって、学生は、 必要である。 □ 実務経験のある教員による授動 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。
受業の 〕 アク : 受業計i	サイブラー:	(4) 学(英語力(1) 注 (3) ま (8) 上の区グ ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	キストで学習したリスニング、および構 主は、授業中は常に英和辞書を机上にお 向上のためには、自学自習を含む主体的 欠回の授業に備えて必ず予習を行うこと 責極的な姿勢で授業に臨むこと 受業の復習を毎回行うことで、英語力向 か 図 ICT 利用 授業内容 Unit 1. 現在時制 Unit 2. 過去時制 Unit 3. 代名詞 Unit 3. 代名詞 Unit 4. 進行形 Unit 4. 進行形	に進める。 一次や語法・文法事項 一法、単語の意味や発 一次学習の継続が必要 一上に向けた継続的 「図」遠隔授業対応 「日本の表別である。 「は、一般である。 「は、一般である。」 「は、一般である。 「は、一般である。」 「は、一般では、一般である。」 「	音、語法等を確認を可欠である。 不可欠である。 力を図ることが、 型ごとの到達目標 現在時制の用法を理 現名詞の用法を理 現名詞の用法を理 は名詞の用法を理 は行形の用法を理 は行形の用法を理 は行形である。	忍しながら授業を受けること。 したがって、学生は、 必要である。 □ 実務経験のある教員による授動 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。
受業の 〕 アク : 受業計i	サイブラー:	3) デー 4) 学会 英語力に 1) 次 3) が (修上の区グ ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	#ストで学習したリスニング、および構生は、授業中は常に英和辞書を机上におう上のためには、自学自習を含む主体的欠回の授業に備えて必ず予習を行うこと責極的な姿勢で授業に臨むこと受業の復習を毎回行うことで、英語力向分 図 ICT 利用 授業内容 Unit 1. 現在時制 Unit 2. 過去時制 Unit 3. 代名詞 Unit 4. 進行形 Unit 4. 進行形 復習テスト	に進める。 文や語法・文法事項 き、単語の意味や発 な学習の継続が必要 上に向けた継続的努 図 遠隔授業対応	語、語法等を確認を可欠である。 (また) かを図ることが。 (また) を図ることが。 (また) を図ることが。 (また) を図るには、 (また) を図るには、 (また) できるには、 (また) できる。 (また) できる。 (また) の用法を理されまたができる。 (また) がずきる にないできる。 (また) がずきる にないできる。 (また) がずきる にないできる にない	図しながら授業を受けること。 □ たがって、学生は、 ②要である。 □ 実務経験のある教員による授業 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 の解し、運用できる。 の解し、運用できる。 の解し、運用できる。 の解し、運用できる。
受業の 〕 アク : 受業計i	サイブラー:	3)ア・ 4)学生 英語力「 1) 次 3) が (修上の区グ コング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	#ストで学習したリスニング、および構生は、授業中は常に英和辞書を机上におう上のためには、自学自習を含む主体的欠回の授業に備えて必ず予習を行うこと責極的な姿勢で授業に臨むこと受業の復習を毎回行うことで、英語力向け 図 ICT 利用	に進める。 文や語法・文法事項 き、単語の意味や発 な学習の継続が必要 上に向けた継続的努 ② 遠隔授業対応	語、語法等を確認を可欠である。 (本) かを図ることが、 (力を図ることが、) を図ることが、 (力を図ることが、) を図を取りまた。 (大) の利達目標を表した。 (大) の利法を理性の利法を理性である。 (大) の用法を理性である。 (大) がいまたができまた。 (大) がいまたを理ける。 (大) がいまたを理解する。 (大) がいまた。 (大) がいまたを理解する。 (大) がいまたを理解する。 (大) がいまたを理解する。 (大) がいまたを理解する。 (大) がいまたを理解する。 (大) がいまたを理解する。 (大) がいまたを図ることが、(大) がいまたを理解する。 (大) がいまためできた。 (大) がいまためできためできためできためできためできた。 (大) がいまためできためできためできためできためできためできためできためできためできためでき	図しながら授業を受けること。 したがって、学生は、 必要である。 □ 実務経験のある教員による授業 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。
受業の 〕 アク : 受業計i	サイブラー:	3 / ア- 4) 学生 英語力「	キストで学習したリスニング、および構 主は、授業中は常に英和辞書を机上にお 向上のためには、自学自習を含む主体的 欠回の授業に備えて必ず予習を行うこと 責極的な姿勢で授業に臨むこと 受業の復習を毎回行うことで、英語力向 か 図 ICT 利用 「授業内容 Unit 1. 現在時制 Unit 2. 過去時制 Unit 3. 代名詞 Unit 4. 進行形 Unit 4. 進行形 (と習テスト Unit 5. 助動詞 Unit 5. 助動詞	に進める。 文や語法・文法事項 き、単語の意味や発 な学習の継続が必要 上に向けた継続的努 図 遠隔授業対応	語、語法等を確認を可欠である。 は 一切を図ることが、 一切できるとでは、 一切できる。 一切できる。 一切できる。 一切を図る。 一切できる。 一切では、 一切では、 一切では、 一切では、 一切では、 一切では、 一切では、 一切では、 一切では、 一切では、 一切では、 一切では、 一切では、 一切では、 一切では、 一切では、 一切では、 一切をののには、 一切をののには、 一切をののには、 一切をののには、 一切をののには、 一切をののには、 一切をののには、 一切をののには、 一切をののには、 一切をののには、 一切をののには、 一切をのでは、 一切をでは、 一切をでは、 一切では、 一では、 一では、 一では、 一では、 一では、 一では、 一では、 一では、 一では、 一では、 一では、 一では、 一では、	図しながら授業を受けること。 したがって、学生は、 必要である。 □ 実務経験のある教員による授業 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。
授業の □ アク・ 授業計	画 1stQ	3 ア- 4 学生 英語力「 1 2 3 4 1 2 3 4 1 3 4 4 4 4 4 4 4 4 4	キストで学習したリスニング、および構生は、授業中は常に英和辞書を机上におう上のためには、自学自習を含む主体的欠回の授業に備えて必ず予習を行うこと責極的な姿勢で授業に臨むことで、英語力向か 図 ICT 利用 図 ICT 利用 Unit 1. 現在時制 Unit 2. 過去時制 Unit 3. 代名詞 Unit 4. 進行形 Unit 4. 進行形 Unit 4. 進行形 Unit 5. 助動詞 Unit 5. 助動詞 Unit 5. 助動詞 Unit 6. 未来時制	に進める。 文や語法・文法事項 き、単語の意味や発 な学習の継続が必要 上に向けた継続的 図 遠隔授業対応	語、語法等を確認を可欠である。 一方を図ることが、 一型であることが、 ででは、 ででできるを理せているとである。 「動動詞の用法を理せ、 ででは、 ののの用法を理せ、 には、 ののの用法を理せ、 には、 ののの用法を理せ、 には、 ののの用法を理せ、 には、 ののの用法を理せ、 のののの用法を理せ、 のののの用法を理せ、 のののの用法を理せ、 のののの用法を理せ、 のののの用法を理せ、 ののののののの用法を理せ、 のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	図しながら授業を受けること。 したがって、学生は、 必要である。 □ 実務経験のある教員による授業 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 容を理解し、それらを運用・活用す 解し、運用できる。 解し、運用できる。
授業の アクラ	サイブラー:	3 ア- 4 9 9 1 1 1 1 1 1 1 1	キストで学習したリスニング、および構生は、授業中は常に英和辞書を机上にお向上のためには、自学自習を含む主体的欠回の授業に備えて必ず予習を行うこと責極的な姿勢で授業に臨むことで、英語力向か 図 ICT 利用 図 ICT 利用 Unit 1. 現在時制 Unit 2. 過去時制 Unit 3. 代名詞 Unit 4. 進行形 Unit 4. 進行形 Unit 5. 助動詞 Unit 5. 助動詞 Unit 6. 未来時制 Unit 6. 未来時制 Unit 6. 未来時制 Unit 6. 未来時制	に進める。 「文や語法・文法事項 「き、単語の意味や発 「な学習の継続が必要 「上に向けた継続的努 「上に向けた継続的努 「大 「大 「大 「大 「大 「大 」 「大 「大 」 「大 「大	音、語法等を確認を可欠である。 一方を図ることが、 一方を図ることが、 一方を図ることが、 一方を図ることが、 一方を図ることが、 一方を図ることが、 一方を図ることが、 一方を図ることが、 一方を図ることが、 一方を図ることが、 一方を図ることが、 一方を図ることが、 一方を図ることが、 一方を図ることが、 一方を図ることが、 一方を図ることが、 一方を図ることが、 一方では、 一方でがのの用は、 一方でででは、 一方でででは、 一方でででは、 一方でででは、 一方ででは、 一方でででは、 一方ででは、 一方ででは、 一方ででは、 一方ででは、 一方ででは、 一方ででは、 一方ででは、 一方ででは、 一方ででは、 一方ででは、 一方ででは、 一方ででは、 一方ででは、 一方ででは、 一方では、 一方では、 一方ででは、 一方では	図しながら授業を受けること。 したがって、学生は、 必要である。 □ 実務経験のある教員による授業 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 容を理解し、それらを運用・活用す 解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。
授業の アクラ	画 1stQ	3 ア- 4 学	キストで学習したリスニング、および構生は、授業中は常に英和辞書を机上にお句上のためには、自学自習を含む主体的欠回の授業に備えて必ず予習を行うこと責極的な姿勢で授業に臨むこと、英語力向分 図 ICT 利用 図 ICT 利用 Unit 2. 過去時制 Unit 3. 代名詞 Unit 4. 進行形 Unit 4. 進行形 Unit 5. 助動詞 Unit 5. 助動詞 Unit 5. 助動詞 Unit 6. 未来時制 Unit 6. 未来時制 Unit 7. 疑問文と付加疑問文	に進める。	音、語法等を確認不可欠である。 一方を図ることが、 一切を図ることが、 一型である。 一型であることが、 一型でもいるでも、 一型では、 一型でも、 一型でも、 一型では、 一では 一では	図しながら授業を受けること。 □ 大がって、学生は、 ②要である。 □ 実務経験のある教員による授業 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 容を理解し、それらを運用・活用す 解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 で変を理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 は、運用できる。 で変を理解し、運用できる。 で変を理解し、運用できる。 で変を理解し、運用できる。 で変を理解し、運用できる。 で変を理解し、運用できる。 で変を理解し、運用できる。 で変を理解し、運用できる。
授業の アクラ	画 1stQ	3 ア- 4 学	#ストで学習したリスニング、および構生は、授業中は常に英和辞書を机上にお句上のためには、自学自習を含む主体的欠回の授業に備えて必ず予習を行うこと責極的な姿勢で授業に臨むことで、英語力向分 図 ICT 利用	に進める。 ではいる。 ではいるいる。 ではいるいる。 ではいるいる。 ではいるいる。 ではいるいる。 ではいるいる。 ではいるいるいる。 ではいるいるいるいるいる。 ではいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいる	語、語法等を確認を可欠である。 (本力を図ることが) を図ることがの到達目標を表表に表表に表表に表表に表表に表表に表表に表表に表表に表表に表表に表表に表表に	図しながら授業を受けること。 したがって、学生は、 必要である。 □ 実務経験のある教員による授業 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 なったがって、学生は、 の本語のできる。 の本語のできる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 し、運用できる。 し、運用できる。 し、運用できる。 し、運用できる。 し、運用できる。
授業の アクラ	画 1stQ	3 ア- 4 学	#ストで学習したリスニング、および構生は、授業中は常に英和辞書を机上におう上のためには、自学自習を含む主体的欠回の授業に備えて必ず予習を行うこと 責極的な姿勢で授業に臨むこと 英語力向 プロに 1. 現在時制 Unit 2. 過去時制 Unit 3. 代名詞 Unit 4. 進行形 Unit 4. 進行形 Unit 5. 助動詞 Unit 5. 助動詞 Unit 6. 未来時制 Unit 7. 疑問文と付加疑問文 Unit 7. 疑問文と付加疑問文 Unit 7. 疑問文と付加疑問文 Unit 8. 比較	に進める。 で文や語法・文法事項 でき、単語の意味や発 で学習の継続が必要 では、単語の意味や発 では、単語の意味や発 では、単語の意味や発 では、単語の意味や発 では、単語の意味や発 では、単語の意味や発 では、単語の意味や発 では、単語の意味や発 では、単語の意味を発 では、単語の意味を発 では、単語の意味を発 では、単語の意味を発 では、単語の意味を発 では、単語の意味を発 では、単語の意味を発 には、単語の意味を発 には、単語の意味を表 には、ま には、単語の意味を表 には、ま	語、語法等を確認を可欠である。 (本力を図ることが) を図ることがの到達目標を表表に表表に表表に表表に表表に表表に表表に表表に表表に表表に表表に表表に表表に	図しながら授業を受けること。 したがって、学生は、 必要である。 □ 実務経験のある教員による授業 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 なったがって、学生は、 の本語のできる。 の本語のできる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 し、運用できる。 し、運用できる。 し、運用できる。 し、運用できる。 し、運用できる。
授業の アクラ	画 1stQ	3 7 - 4 9 9 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	キストで学習したリスニング、および構生は、授業中は常に英和辞書を机上にお句上のためには、自学自習を含む主体的欠回の授業に備えて必ず予習を行うこと責極的な姿勢で授業に臨むこと、英語力向分 図 ICT 利用 図 ICT 利用 図 ICT 利用 Unit 2. 過去時制 Unit 3. 代名詞 Unit 4. 進行形 Unit 4. 進行形 Unit 5. 助動詞 Unit 5. 助動詞 Unit 5. 助動詞 Unit 6. 未来時制 Unit 7. 疑問文と付加疑問文 Unit 7. 疑問文と付加疑問文 Unit 7. 疑問文と付加疑問文 Unit 8. 比較 Unit 8. 比較	に進める。 で文や語法・文法事項 でき、単語の意味や発 で学習の継続が必要 では、単語の意味や発 では、単語の意味や発 では、単語の意味や発 では、単語の意味や発 では、単語の意味や発 では、単語の意味や発 では、単語の意味や発 では、単語の意味や発 では、単語の意味を発 では、単語の意味を表 では、ま では、単語の意味を表 では、ま では、ま	語、語法等を確認を可欠である。 (本) かた図ることが、	図しながら授業を受けること。 したがって、学生は、 必要である。 □ 実務経験のある教員による授美 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 なったがって、学生は、 の本語のできる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 し、運用できる。 し、運用できる。 し、運用できる。 し、運用できる。 し、運用できる。 し、運用できる。
□ アクラー アクラー アクラー	画 1stQ 2ndQ	3 ア- 4 学 英語力 1 2 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1	#ストで学習したリスニング、および構 性は、授業中は常に英和辞書を机上にお 向上のためには、自学自習を含む主体的 欠回の授業に備えて必ず予習を行うこと 責極的な姿勢で授業に臨むこと 受業の復習を毎回行うことで、英語力向 か 図 ICT 利用 授業内容 Unit 1. 現在時制 Unit 2. 過去時制 Unit 3. 代名詞 Unit 4. 進行形 Unit 4. 進行形 Unit 5. 助動詞 Unit 5. 助動詞 Unit 5. 助動詞 Unit 6. 未来時制 Unit 7. 疑問文と付加疑問文 Unit 7. 疑問文と付加疑問文 Unit 7. 疑問文と付加疑問文 Unit 8. 比較 Unit 8. 比較 可用之	に進める。 文文や語法・文法事項 き、単語の意味や発 な学習の継続が必要 上に向けた継続的努 ② 遠隔授業対応	語、語、等を確認である。 「一方を図ることが、 一切を図ることが、 一切を図ることが、 一切を図ることが、 一切を図ることが、 一切を図ることが、 一切を図ることが、 一切を図ることが、 一切を図ることが、 一切を図ることが、 一切を図るのののでがののののでがのののののでがのののののでがののののでがのののののでがのののののの	図しながら授業を受けること。 したがって、学生は、 必要である。 □ 実務経験のある教員による授美 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 の容を理解し、それらを運用・活用す 解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 し、運用できる。 し、運用できる。 し、運用できる。 し、運用できる。 し、運用できる。
授業の アクラ	画 1stQ	3	#ストで学習したリスニング、および構 主は、授業中は常に英和辞書を机上にお 向上のためには、自学自習を含む主体的 欠回の授業に備えて必ず予習を行うこと 責極的な姿勢で授業に臨むこと 受業の復習を毎回行うことで、英語力向 か 図 ICT 利用 授業内容 Unit 1. 現在時制 Unit 2. 過去時制 Unit 3. 代名詞 Unit 4. 進行形 Unit 4. 進行形 Unit 5. 助動詞 Unit 5. 助動詞 Unit 5. 助動詞 Unit 6. 未来時制 Unit 7. 疑問文と付加疑問文 Unit 7. 疑問文と付加疑問文 Unit 7. 疑問文と付加疑問文 Unit 8. 比較 Unit 8. 比較 Unit 8. 比較 前期定期試験 Unit 9. 不定詞	に進める。 文や語法・文法事項 き、単語の意味や発 な学習の継続が必要 上に向けた継続的 図 遠隔授業対応	語、語法を確認を表す。 一個である。 一個である。 一個である。 一個である。 一個であることが、 一個でおります。 一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、	図しながら授業を受けること。 □ 大がって、学生は、 ②要である。 □ 実務経験のある教員による授業 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 のを理解し、それらを運用・活用す 解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 での用法を理解し、運用できる。 なの用法を理解し、運用できる。 なのの用法を理解し、運用できる。 なのの用法を理解し、運用できる。 なのの用法を理解し、運用できる。 なのの用法を理解し、運用できる。 なのの用法を理解し、運用できる。 なのの用法を理解し、運用できる。

	5週	Unit 11. 受動態			受動態の用法を理解し、運	用できる。	
	6週	Unit 11. 受動態			受動態の用法を理解し、運	用できる。	
	7週	復習テスト		これまでの学習内容を理解し、それらを運用・活用す ることができる。			
	8週	Unit 12. 形容詞節		形容詞節の用法を理解し、	運用できる。		
	9週	Unit 12. 形容詞節		形容詞節の用法を理解し、	運用できる。		
10週		Unit 13. 副詞節			副詞節の用法を理解し、運	用できる。	
	11週	Unit 13. 副詞節			副詞節の用法を理解し、運	用できる。	
	12週	Unit 14. 名詞節			名詞節の用法を理解し、運	用できる。	
łthQ	13週	Unit 14. 名詞節			名詞節の用法を理解し、運用できる。		
	14週	Unit 15. 現在完了形			現在完了形の用法を理解し、運用できる。		
	15週	Unit 15. 現在完了形			現在完了形の用法を理解し、運用できる。		
	16週	後期定期試験			これまでの学習内容を理解 ることができる。	ない それらを運用・活用す	
	•						
		 定期試験	復習テスト		・ マスト・課題など	合計	
<u></u>	!	50	30	2	0	100	
		50	30	2	0	100	
		0	0	0		0	
能力	(0	0	0		0	
	<u> </u>	6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 14週 15週 16週	6週 Unit 11. 受動態 7週 復習テスト 8週 Unit 12. 形容詞節 9週 Unit 12. 形容詞節 10週 Unit 13. 副詞節 11週 Unit 13. 副詞節 12週 Unit 14. 名詞節 13週 Unit 14. 名詞節 14週 Unit 15. 現在完了形 15週 Unit 15. 現在完了形 16週 後期定期試験 定期試験 50 50 0	6週	6週	Figure 2 Figure	

苫小牧工業高等専門学校 科目基礎情報				開講年度	開講年度 令和03年度 (2021年度)		授	業科目	英語 II A(応用化学・生物系)
科目基礎	計報						•		
科目番号		0022				科目区分		一般 / 必	修
授業形態		授業				単位の種別と単位	立数	履修単位:	3
開設学科		創造工学	科 (-	一般科目)		対象学年		2	
開設期		通年				週時間数		3	
教科書/教	材	Commur	icati	ion I ワークラ	ブックト(数研出版)/文法テキスト	、: 1年》	欠購入の文	ク:「BIG DIPPER English 法テキスト「Vision Quest English d University Press)
担当教員		堀 登代彦							
到達目標	Ē								
│2.熟語、	構文、文法	を理解し、	それら	らを使って表現	テーマにした文章 ができる。 Jとなる英語力を身	•			できる。 語力を把握できる。
ルーブリ	リック								
			理	想的な到達レイ	ベルの目安(優)	標準的な到達レイ	ベルの目]安(良)	未到達レベルの目安(不可)
評価項目1			化を	、科学などをき	書かれた社会、文 テーマにした文章 内容を日本語で正	基礎的な英語で記化、科学などを記を理解し、その同時できる。	テーマに	こした文章	基礎的な英語で書かれた社会、文化、科学などをテーマにした文章を理解できず,その内容を日本語で説明できない。
評価項目2					去を理解し、それ こ表現ができる。	熟語、構文、文法 らを使って表現が	ができる	3.	熟語、構文、文法を理解できず、 それらを使って表現ができない。
評価項目3	平価項目3			取得が現実的な	より, 英検準2級 となる英語力を身 カテストによって 巴握できる。	継続的な学習に。 の取得が現実的。 語力を身につけ、 によって自身のする。	央語-	デカナ人ト	継続的な学習により、英検準2級の取得が現実的となる基本的な英語力を身につけられず、英語学力テストによって自身の英語力を把握できない。
学科の到	達日標項	目との関	<u></u> 係			1 = -			1
Ⅰ 人間 実践 Ⅲ 国際	<u>性</u>	<u>, , , , , , , , , , , , , , , , , , , </u>							
教育方法									
概要		1年生で総合的な	学んた 力が身 安とで	だ英語力を基礎 身につくように する英語力の習	として, 教科書を 指導する。教科書の 得を目指す。	中心に「読む」「I の英文読解や文法	聞く」	「書く」「 説明と演習	話す」の4技能のバランスのとれた , 音読練習などを通して, 英検準
授業の進め	が方・方法	「読む」 , 構文の して期試験 定業成績	「聞く 説明も し、さ 40%」 が60点	く」「書く」「 や文法演習, 音 また,語彙や文 , 達成度試験2 点未満のものに	話す」の4技能の終読やペア練習などの 法などの習得度確認ののである。	総合的な英語力を の活動を行なう。 認のため演習を適 、ト20%、課題・そ 施する場合がある	高める。 文法テ 宜実施 各種テン	ために,教 キストは教 する。 スト20% <i>0</i>	科書にある英文の語彙, 語法, 文法 科書での練習問題を補完するものと
注意点		授業の予	習・復 と。 ā	复習を毎回行い また, 授業の時	, 授業で出される には英和辞書を必	課題などに真剣に ず持参すること。	取り組織	むこと。定	期試験に向け, 計画的に試験勉強を
授業の属	 属性・履修	上の区分							
□ アクテ	ィブラーニ	ング		ICT 利用		□ 遠隔授業対応	<u>,</u>		□ 実務経験のある教員による授業
授業計画	Ī								
· 文本自巴	-	週	授業区	 内容		I	调ごと	の到達目標	
									、 を理解し、内容を説明できる。完了形
					u Around the Wor		、受動 Lessor	態を理解し n 1の英文を)運用できる。 を理解し、内容を説明できる。
						-	Lessor		解し運用できる。 を理解し、内容を説明できる。
					the First Therapy		きる。		同)、SVOO(=that節)を理解し運用で
	1stQ				the First Therapy	- '	名詞を	理解し運用	
					od Is Your Memor		、関係	代名詞の組	継続用法を理解し運用できる。 を理解し、内容を説明できる。関係代
前期				on 4 Space El	od Is Your Memoi	y:	名詞w Lessor	hat、関係i n 4の英文 ^を	副詞を理解し運用できる。 を理解し、内容を説明できる。仮定法
		/ 旭	LC22	on + Space El	Evatui			理解し運用	
				度試験 on 4 Space El	evator		Lessor 詞 who		を理解し、内容を説明できる。関係副 用法を理解し運用できる。
		9週	Less	on 4 Space El	evator			n 4の英文を 理解し運用	を理解し、内容を説明できる。未来進 引できる。
	2ndQ	10週	Less	on 5 Diversity	Brings New Prod	lucts		n 5の英文を 上の主語、	を理解し、内容を説明できる。動名詞 関係代名詞の継続用法を理解し運用
		11週	Less	on 5 Diversity	Brings New Prod	lucts	Lessor	n 5の英文 ^を	を理解し、内容を説明できる。助動詞 同を理解し運用できる。

		12週	Lesson 5 Div	ersity Brings New Prod	lucts	Lessor 定詞を	n 5の英文を理解し、内容 理解し運用できる。	宮を説明できる。完了不		
		13週	Lesson 6 Uer	no Takahiro:The Dance	e in Me		1 6の英文を理解し、内容 (=過去分詞)を理解し運序			
		14週	Lesson 6 Uer	no Takahiro:The Dance	e in Me		n 6の英文を理解し、内容 了を理解し運用できる。	学を説明できる。仮定法		
		15週	Lesson 6 Uer	no Takahiro:The Dance	in Me	Lessor 文を理	n 6の英文を理解し、内容 解し運用できる。	学を説明できる。分詞構		
		16週	前期定期試験			既習事	既習事項を整理できる。			
		1週	Lesson 7 The	France Okaeshi Proje	ct	Lessor (as if+	1 7の英文を理解し、内容 S+仮定法)を理解し運用	学を説明できる。仮定法 目できる。		
		2週	Lesson 7 The	e France Okaeshi Proje	ct	Lessor (If+S-	n 7の英文を理解し、内容 Hwere to 〜)を理解し運	客を説明できる。仮定法 用できる。		
		3週	Lesson 7 The	e France Okaeshi Proje	ct	Lessor を推測	ı 7の英文を理解し、内容 しながら読解ができる。	学を説明できる。未知語		
	3rdQ	4週	Lesson 7 The	e France Okaeshi Proje	ct	Lessor 代わる	n 7の英文を理解し、内容 表現を理解し運用できる	字を説明できる。If-節に 。		
	SiuQ	5週	Lesson 8 Wh	at Is the True Meaning	of Mottainai?	Lessor の受動	n 8の英文を理解し、内容 態を理解し運用できる。	学を説明できる。進行形		
		6週	Lesson 8 Wh	at Is the True Meaning	of Mottainai?	Lessor 使われ	n 8の英文を理解し、内容 る省略理解し運用できる	学を説明できる。文中で ・		
		7週	Lesson 8 Wh	at Is the True Meaning	of Mottainai?	Lesson 8の英文を理解し、内容を説明できる。形式目的語 it (to-不定詞/that-節)を理解し運用できる。				
後期		8週	Lesson 8 Wh	of Mottainai?	Lesson 8の英文を理解し、内容を説明できる。現在 /過去完了進行形を理解し運用できる。					
1270		9週	Lesson 9 Fair	Play in Sports: What	Is "Fair"?	Lesson 9の英文を理解し、内容を説明できる。同格を表すof/thatを理解し運用できる。				
		10週	英語学力テス Lesson 9 Fair	カテスト 9 Fair Play in Sports: What Is "Fair"?		自身の英語力を正確に把握する。 Lesson 9の英文を理解し、内容を説明できる。複合関係代名詞を理解し運用できる。				
		11週	Lesson 9 Fair	Play in Sports: What	Is "Fair"?	Lesson 9の英文を理解し、内容を説明できる。倒置を 理解し運用できる。				
	4thQ	12週	Lesson 9 Fair	Play in Sports: What	Is "Fair"?	Lesson 9の英文を理解し、内容を説明できる。関係副 詞 whenの継続用法を理解し運用できる。				
		13週	Lesson 10 Flo	oating Education		Lesson 10の英文を理解し、内容を説明できる。未来 完了形を理解し運用できる。				
		14週	Lesson 10 Flo	oating Education		Lesson 10の英文を理解し、内容を説明できる。 SVC(=that-節)を理解し運用できる。				
		15週	Lesson 10 Flo	oating Education		Lesson 10の英文を理解し、内容を説明できる。無生物主語を理解し運用できる。				
		16週	後期定期試験			既習事	項を整理できる。			
評価割合	<u> </u>									
		定期試験		達成度試験	英語学力テスト		課題・各種テスト	合計		
総合評価害	 引合	40		20	20		20	100		
基礎的能力				20	20		20	100		
専門的能力		0		0	0		0	0		
		•		•	•					

苫小牧工業高等専門学校			開講年度	令和03年度 (2	021年度)	授業科目	英語 II B(応用化学・生物系)	
科目基礎							,	
科目番号	CIH+K	0023			科目区分	一般 / 必(悠	
授業形態		授業			単位の種別と単位	·		
開設学科					対象学年	2	_	
開設期		通年	(/3X11117		週時間数	2		
教科書/教	 材	+	ndrew F. Bennet	t, Toru Komiya "G	1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 -	<u>l</u>	" (南雲堂)	
担当教員	1.3	秋野 志保		.,			(11)242)	
到達目標		100000000000000000000000000000000000000						
1) 基礎2) 問題	楚的な高校英 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	て、「読む」	「聞く」「話す」	章 2級の取得が確認 「書く」の4技能の	実となる語彙力・対 のバランスの取れた	(法力を習得する 大英語力を習得す	ことができる。 ることができる。	
		国内外の話事	情について埋解り	「ることができる。				
ルーブリ	リツク		TM+0+6++ T1\++	*** • D - * // - * \	I#3#45 1 - 703 + 1 - 00		+	
			理想的な到達レ		標準的な到達レベ		未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1			学習し、英検準	語の理解を中心に 2級の取得が確実 文法力を習得する	基礎的な高校英語 学習し, 英検準2 となる語彙力・文 ことができる。	級の取得が可能	基礎的な高校英語を理解できず , 英検準2級の取得が可能となる 語彙力・文法力を習得することが できない。	
評価項目2			く」「話す」「i	て、「読む」「聞書く」の4技能の き英語力を習得す	問題演習を通して く」「話す」「書 バランスの取れた を習得することが	く」の4技能の 基本的な英語力	問題演習を通して、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能の バランスの取れた基本的な英語力 を習得することができない。	
評価項目3			教材を通して, [ついて理解する。	国内外の諸事情に ことができる。	教材を通して, 国 ついて概ね理解す 。	内外の諸事情に ることができる	教材を通して, 国内外の諸事情に ついて理解することができない。	
学科の到	達目標項	目との関係						
I 人間 Ⅱ 実践 Ⅲ 国際	性							
教育方法	· 等							
	· · · ·	英語ⅡBでは	よ、構文の習得と	リスニングカの向上	を図るとともに、	「読む」「聞く」	「話す」「書く」の4技能を総合的	
概要		に養成し、	英語検定準2級を	取得するために必要	要な基礎力の定着を	目指す。		
授業の進め	b方・方法 -	」の4技能 2)授業は 3)テキス 4)学生は	のバランスの取れ 、学生が予習をし トで学習したリス 、授業中は常に英	た英語力を身についていることを前提(こことを前提(ここ)が、および構な で、および構なである。	ナる。 こ進める。 文や語法・文法事項 き、単語の意味や発	の習得状況を確 音、語法等を確	、「読む」「聞く」「話す」「書く 認するため、適宜テストを実施する 認しながら授業を受けること。	
注意点		1) 次回2) 積極	の授業に備えて必 的な姿勢で授業に の復習を毎回行う	ず予習を行うこと			したがって、学生は、	
授業の属	性・履修	上の区分						
	・ィブラーニ		□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業	
授業計画	 II							
JAMILE	-	週 授			ų	 問ごとの到達目標	=	
			nit 1. 現在時制				、 :理解し、運用できる。	
			nit 2. 過去時制		-		理解し、運用できる。	
			nit 3. 代名詞			代名詞の用法を理解し、運用できる。		
		4週 U	nit 3. 代名詞			代名詞の用法を理解し、運用できる。		
	1stQ	5週 U	nit 4. 進行形			進行形の用法を理解し、運用できる。		
		6週 U	nit 4. 進行形		ŭ	進行形の用法を理	解し、運用できる。	
		7週 復	習テスト			ることができる。	容を理解し、それらを運用・活用す	
 前期			nit 5. 助動詞		B	助動詞の用法を理解し、運用できる。		
נגעניי			nit 5. 助動詞				解し、運用できる。	
			nit 6. 未来時制				理解し、運用できる。	
			nit 6. 未来時制	Letzgo, '			理解し、運用できる。	
	2240		nit 7. 疑問文と付				文の用法を理解し、運用できる。	
	2ndQ		nit 7. 疑問文と付	加疑問文			文の用法を理解し、運用できる。 	
			nit 8. 比較				ひ、運用できる。	
		15週 U	nit 8. 比較				とのも理解し、これられば思し、近思さ	
		16週 前	期定期試験			これまでの学習内容を理解し、それらを運用・活用す ることができる。		
後期	3rdQ	1週 U	nit 9. 不定詞		7	下定詞の用法を理	解し、運用できる。	
一文州	Jud	2週 U	nit 9. 不定詞		7	下定詞の用法を理	解し、運用できる。	

3週 Unit 10. 動名詞 動名詞の用法を理解し、運用できる 4週 Unit 10. 動名詞 動名詞の用法を理解し、運用できる 5週 Unit 11. 受動態 受動態の用法を理解し、運用できる 6週 Unit 11. 受動態 受動態の用法を理解し、運用できる	きる。 きる。			
5週 Unit 11. 受動態 受動態の用法を理解し、運用で	きる。			
6個 Unit 11 受動能				
	さる。			
7週 復習テスト これまでの学習内容を理解し、- ることができる。	これまでの学習内容を理解し、それらを運用・活用することができる。			
8週 Unit 12. 形容詞節 形容詞節の用法を理解し、運用	できる。			
9週 Unit 12. 形容詞節 形容詞節の用法を理解し、運用	形容詞節の用法を理解し、運用できる。			
10週 Unit 13. 副詞節 副詞節の用法を理解し、運用で	きる。			
11週 Unit 13. 副詞節 副詞節の用法を理解し、運用で	きる。			
12週 Unit 14. 名詞節 名詞節の用法を理解し、運用で	きる。			
4thQ13週Unit 14. 名詞節名詞節の用法を理解し、運用で	きる。			
14週 Unit 15. 現在完了形 現在完了形の用法を理解し、運	現在完了形の用法を理解し、運用できる。			
15週 Unit 15. 現在完了形 現在完了形の用法を理解し、運	現在完了形の用法を理解し、運用できる。			
16週 後期定期試験 これまでの学習内容を理解し、 ることができる。	それらを運用・活用す			
評価割合				
定期試験 復習テスト 小テスト・課題など 合計	-			
総合評価割合 50 30 20 100				
基礎的能力 50 30 20 100				
専門的能力 0 0 0 0				
分野横断的能力 0 0 0 0				

さい さんしょう さいさい さいさい さいしゅう さいしゅう さいしゅう さいしゅう さいしゅう さいしゅう こうしゅう しゅうしゅう こうしゅう しゅうしゅう こうしゅう こうしゅう こうしゅう しゅうしゅう こうしゅう こうしゅう こうしゅう こうしゅう こうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう こうしゃ こうしゃ こうしゃ こうしゃ こうしゃ こうしゃ こうしゃ こうし	牧工業高	等専門学権	交 開講年度	令和03年度 (2	2021年度)	授	業科目	英語ⅡA(電気電子系)	
 科目基研					/	,			
<u>- 10 </u>	ACTION N	0024			科目区分			[後	
<u>八四四。</u> 授業形態		授業			単位の種別と単位	,			
開設学科			学科(一般科目)		対象学年	2			
開設期		通年	רויאניי ורייאניי		週時間数	3			
教科書/教	材	教科書	: 「BIG DIPPER Er unication II ワーク uar 24」(啓林館)/	nglish Communicat ブック」(数研出版 夏期課題:「The D	ion II (数研出)	週時間数 3 ion II (数研出版)/ワークブック:「BIG DIPPER English)/文法テキスト:1年次購入の文法テキスト「Vision Quest English eath of Karen Silkwood」 (Oxford University Press)			
担当教員		松田奏					(0101		
到達目標	<u> </u>		VIV.						
1 基礎	- 的な英語で	書かれた社会 法を理解し、 より 革権	会、文化、科学など それらを使って表 ************************************	をテーマにした文章 をテーマにした文章 現ができる。 的とかる英語力を自		容を日本	に語で説明 で自身の苗	できる。語力を把握できる。	
<u>リーブリ</u> ルーブリ		0) / X X			(C) () (C) (C)	7 / ()			
<u>ルフ.</u>	<i>)</i>		田相的+>和法	・ベルの日空(原)	無准的+>和法	ベルの日	空/白	土到海」が川の日空(不可)	
評価項目:	1		基礎的な英語で	バルの目安(優) 書かれた社会、文 テーマにした文章 内容を日本語で正	標準的な到達レータ 基礎的な英語では、科学などをできる。	書かれた テーマに	社会、文した文章	未到達レベルの目安(不可) 基礎的な英語で書かれた社会、文化、科学などをテーマにした文章を理解できず、その内容を日本語で説明できない。	
評価項目2	2		熟語、構文、文	<u>。</u> Z法を理解し、それ 雀に表現ができる。	熟語、構文、文語を使って表現	 法を理解 ができる	とし、それ '。		
評価項目:	3		の取得が現実的	こより, 英検準2級 可となる英語力を身 カテストによって ご把握できる。	継続的な学習にの取得が現実的語力を身につけいます。	,英語学	カテスト	継続的な学習により、英検準2級の取得が現実的となる基本的な時語力を身につけられず、英語学ナテストによって自身の英語力を推握できない。	
 学科の3	到達目標]	項目との関	 {{ K						
I 人間 Ⅱ 実践 Ⅲ 国際]性 数性	<u>XII C • 7 </u>	<u> </u>						
	Д ()	1年生	 で学んだ英語力を基	 礎として, 教科書を	 中心に「読む」「	聞く」	書く」「		
以安 		2級をE 「読む」	安とする英語力の 「聞く」「書く」	に指導する。教科書 習得を目指す。 「話す」の4技能の	の英文読解や文法 総合的な英語力を	高めるた	めに, 教	, 音読練習などを通して, 英検準 料書にある英文の語彙, 語法, 文法	
	め方・方法	2級を目 「読む」 「構文の して期間 学業成系 試験お。	目安とする英語力の 「聞く」「書く」 D説明や文法演習, し,また,語彙や 後40%,達成度試験 責が60点未満のもの にび達成度試験の成	に指導する。教科書 習得を目指す。 「話す」の4技能の 音読やペア練習など 文法などの習得度確 は20%,英語学カテン に対して再試験を実 績に置き換えて再評	の英文読解や文法 総合的な英語力を の活動を行なう。 認のため演習を適 スト20%,課題・活 に施する場合がある 価を行う。	高めるた 文法テキ 宜実施す 各種テス 。この ^は	さめに,教 マストは教 でる。 ト20%の 場合,学年	科書にある英文の語彙, 語法, 文法 科書での練習問題を補完するものと D割合で評価する。 表に1回実施し, 再試験の成績は定	
注意点		2級を目 「読をして 「読本で 」 「	国安とする英語力の 「聞く」「書く」 D説明や文法演習, 目し、また、語彙や 後40%,達成度試験 責が60点未満のもの にび達成度試験の成 で達成度でである。 でででである。 ででである。 では、 できるでは、 できるでは、 できるでは、 できるできるできる。 できるでは、 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	に指導する。教科書 習得を目指す。 「話す」の4技能の 音読やペア練習など 文法などの習得度確 は20%,英語学カテン に対して再試験を実 績に置き換えて再評	の英文読解や文法 総合的な英語力を の活動を行なう。 認のため演習を適 スト20%,課題・行 に施する場合がある 価を行う。 課題などに直剣に	高めるた 文法テキ 宜実施す 各種テス 。この ^は	さめに,教 マストは教 でる。 ト20%の 場合,学年	科書にある英文の語彙, 語法, 文法	
授業の進 注意点 授業の原	属性・履	2級を見ります。	目安とする英語力の 「聞く」「書く」 ご説明や文法演習。 問し、また、語彙や 後40%、達成度試験 640%、達成度試験 が60点末満験の成 たび達成度習を毎回行 と。また、授業の	に指導する。教科書習得を目指す。 「話す」の4技能の音読やペア練習など文法などの習得度で 文法などの習得度で 文に対して再試験を実 損に置き換えて共される。 が、授業で出される。	の英文読解や文法 総合的な英語力を の活動を行なう。 認のため演習を通 、大20%、課題・ に施する場合がある 価を行う。 課題などに真剣に ず持参すること。	高めるたち文法テキを主義を表する。このは、このは、取り組む	さめに,教 マストは教 でる。 ト20%の 場合,学年	科書にある英文の語彙,語法,文法科書での練習問題を補完するものとの割合で評価する。 京末に1回実施し,再試験の成績は定期試験に向け,計画的に試験勉強を	
受業の進む 注意点 授業の原		2級を見ります。	国安とする英語力の 「聞く」「書く」 D説明や文法演習, 目し、また、語彙や 後40%,達成度試験 責が60点未満のもの にび達成度試験の成 で達成度でである。 でででである。 ででである。 では、 できるでは、 できるでは、 できるでは、 できるできるできる。 できるでは、 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	に指導する。教科書習得を目指す。 「話す」の4技能の音読やペア練習など文法などの習得度で 文法などの習得度で 文に対して再試験を実 損に置き換えて共される。 が、授業で出される。	の英文読解や文法 総合的な英語力を の活動を行なう。 認のため演習を適 スト20%,課題・行 に施する場合がある 価を行う。 課題などに直剣に	高めるたち文法テキを主義を表する。このは、このは、取り組む	さめに,教 マストは教 でる。 ト20%の 場合,学年	科書にある英文の語彙, 語法, 文法 科書での練習問題を補完するものと D割合で評価する。 表に1回実施し, 再試験の成績は定	
授業の進 注意点 授業の原 」 アクラ	属性・履 f	2級を見ります。	目安とする英語力の 「聞く」「書く」 ご説明や文法演習。 問し、また、語彙や 後40%、達成度試験 640%、達成度試験 が60点末満験の成 たび達成度習を毎回行 と。また、授業の	に指導する。教科書習得を目指す。 「話す」の4技能の音読やペア練習など文法などの習得度で 文法などの習得度で 文に対して再試験を実 損に置き換えて共される。 が、授業で出される。	の英文読解や文法 総合的な英語力を の活動を行なう。 認のため演習を通 、大20%、課題・ に施する場合がある 価を行う。 課題などに真剣に ず持参すること。	高めるたち文法テキを主義を表する。このは、このは、取り組む	さめに,教 マストは教 でる。 ト20%の 場合,学年	科書にある英文の語彙,語法,文法科書での練習問題を補完するものとの割合で評価する。 京末に1回実施し,再試験の成績は定期試験に向け,計画的に試験勉強を	
受業の進 主意点 受 業 の原 」アクラ	属性・履 f	2級を見ります。 2級を見ります 2級を見ります 2級を見ります 2、一次の一切では、一次の一方では、一方では、一次の一方では、一次の一方では、一次では、一次では、一次では、一方では、一次では、一方では、一方では、一方では、一方では、一方では、一方では、一方では、一方	目安とする英語力の 「聞く」「書く」 D説明や文法演習彙や 対象をは、 意成度試験の 意が60点未満のもの はび達成度試験の成 でで達成度試験の成 ででである。 ででである。 ででは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	に指導する。教科書習得を目指す。 「話す」の4技能の音読やペア練習など文法などの習得度で 文法などの習得度で 文に対して再試験を実 損に置き換えて共される。 が、授業で出される。	の英文読解や文法 総合的な英語力を の活動を行なう。 認のため演習を通 、大20%、課題・ に施する場合がある 価を行う。 課題などに真剣に ず持参すること。	高めるたけでは、このは、このは、このは、このは、このは、このは、このは、このは、このは、この	さめに,教 マストは教 ト20%の ト20%の 場合,学年	科書にある英文の語彙,語法,文法科書での練習問題を補完するものと の割合で評価する。 宗末に1回実施し,再試験の成績は定期試験に向け,計画的に試験勉強を □ 実務経験のある教員による授	
受業の進 主意点 受 業 の原 」アクラ	属性・履 f	2級を見ります。	目安とする英語力の 「聞く」「書く」 ご説明や文法演習。 問し、また、語彙や 後40%、達成度試験 640%、達成度試験 が60点末満験の成 たび達成度習を毎回行 と。また、授業の	に指導する。教科書習得を目指す。 「話す」の4技能の音読やペア練習など文法などの習得度で 文法などの習得度で 文に対して再試験を実 損に置き換えて共される。 が、授業で出される。	の英文読解や文法 総合的な英語力を の活動を行なう。 認のため演習を通 、大20%、課題・ に施する場合がある 価を行う。 課題などに真剣に ず持参すること。	高めるたけでは、このは、このは、このは、このは、このは、このは、このは、このは、このは、この	ために,教 マストは教 ト20%の ト20%の 場合,学年 いこと。定	科書にある英文の語彙,語法,文法科書での練習問題を補完するものと シ割合で評価する。 主末に1回実施し,再試験の成績は定 期試験に向け,計画的に試験勉強を □ 実務経験のある教員による授	
受業の進 主意点 受 業 の原 」アクラ	属性・履 f	2級を見ります。 2級を見ります 2級を見ります 2級を見ります 2、一次の一切では、一次の一方では、一方では、一次の一方では、一次の一方では、一次では、一次では、一次では、一方では、一次では、一方では、一方では、一方では、一方では、一方では、一方では、一方では、一方	国安とする英語力の「聞く」「書く」 「聞く」「書く」 D説明や文法演習。 (女40%、達成度記録 責が60、点未満のもの。 び達成度試験の成。 で達成度試験の成。 といまた、授業の 日とと。また、授業の 日にて利用	に指導する。教科書習得を目指す。 「話す」の4技能の音読やペア練習など文法などの習得度で 文法などの習得度で 文に対して再試験を実 損に置き換えて共される。 が、授業で出される。	の英文読解や文法総合的な英語力をの活動を行なう。適なため演習を通え、ト20%、課があるでは、まかある。では、またのでは、またんでは、またんでは、またんでは、またんでは、またんでは、またんでは、またんでは、またんでは、またのでは、またんでは、またんで	高めるだけ 京法 東 で で の が し に に に に に に に に に に に に に	ために,教 にストは教 た20%の 場合,学年 いこと。定 の 到達目標 1の英文を	科書にある英文の語彙,語法,文法科書での練習問題を補完するものとり割合で評価する。 ま末に1回実施し,再試験の成績は定期試験に向け,計画的に試験勉強を □ 実務経験のある教員による授	
授業の進む 注意点 授業の原 」アクラ	属性・履 f	2級 記文使用 学試 授進 の区グ	国安とする英語力の「聞く」「書く」 「聞く」「書く」 D説明や文法演習。や 検40%、達成度記録 が60点未満のもの。 び達成度試験の成。 で達成度試験の成。 で達成度試験の成。 では、また、授業の 日とと。また、授業の 日にて利用	に指導する。教科書習得を目指す。 「話す」の4技能の 言読やペア練習などで で法など、英語学力テン に対して再試験を実 は20%、英語学力テン に対して再試験を実 が、授業で出される 時には英和辞書を必	の英文読解や文法総合的な英語力をの活動を行なう。認のため演習を通え、ト20%、課があるでは、まがある。では、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、また	高めるだけ 京主種この 取り組む この では といる に といる に といる に といる に と に と で と に と で と に に の に に の に に の に に の に に に に に に に に に に に に に	ために、教 さえる。 ト20%の 場合、学年 別 別 別 別 別 の 関 で 関 で の 要 で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の の で の の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の の で の の の で の の で の の の の の の の の の の の の の	科書にある英文の語彙,語法,文法科書での練習問題を補完するものと の割合で評価する。 ま末に1回実施し,再試験の成績は定 期試験に向け,計画的に試験勉強を 「実務経験のある教員による授 を理解し、内容を説明できる。完了 が運用できる。	
授業の進 注意点 授業の原 」 アクラ	属性・履 f	2 に は ない は	国安とする英語力の「聞く」「書く」 「聞く」「書く」 D説明や文法演習。 けいまた、語彙学の 達が60点未満のもの いで達成度試験の成 で達成度試験の成 ででである。 では、では、では、では、 では、では、では、では、 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	に指導する。教科書習得を目指す。 「話す」の4技能の音読やペアの報得度で法など、英語学力テンに対して再試験を実施で対して対して換えて再試験を実施に対して換えて再される時には英和辞書を必 ku Around the Wo	の英文読解や文法 総合的な英語力を の活動を行なう。 認のため演習題を・「 になっている場合では では では では では では では では では では では では では で	高めるだけで 京主種での 取り組む といる Lessonが Lessonが Lessonが SVC(=	ために、教 される。 た20%の た20%の た20%の た20%の た20%の た20%の では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	科書にある英文の語彙,語法,文法科書での練習問題を補完するものと D割合で評価する。 E末に1回実施し,再試験の成績は定 期試験に向け,計画的に試験勉強を □ 実務経験のある教員による授 E E E E E E E E E E E E E E E E E E	
受業の進 主意点 受 業 の原 」アクラ	属性・履 ティブラー: 画	2 を記する という	安とする英語力の 「聞く」「書く」	に指導する。教科書習得を目指す。 「話す」の4技能の音読やペア練習体とで文法などの習得度確認の人、英語学カテンに対して再試験を表演に対して再式験を表演に対して換えて出される時には英和辞書を必 ku Around the Woku Around A	の英文読解や文法総合的な英語力をの活動を行なう。適又ト20%,課題を・経験をできる場合を行う。に関などに真剣にず持参すること。 図 遠隔授業対応 では 「Dog in Japan	高文言を 京文言を では では では では では では では では では では	ために、教教による。 た20%の た20%の た20%の た20%の 第一の では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	科書にある英文の語彙,語法,文法科書での練習問題を補完するものと の割合で評価する。 ま末に1回実施し,再試験の成績は定 期試験に向け,計画的に試験勉強を 実務経験のある教員による授 を理解し、内容を説明できる。完了 連用できる。 を理解し、内容を説明できる。 解し運用できる。 を理解し、内容を説明できる。 の)、SVOO(=that節)を理解し運用 を理解し、内容を説明できる。 同)、SVOO(=that節)を理解し運用	
授業の進む 注意点 授業の原 」アクラ	属性・履 f	2 に 対 で が で が で が で が で が で が で が で が で が で	国安とする英語力の 「聞く」「書く」 D説明や文法演習。 サウ文法演習。 サウンで達成度試験の はび達成度試験の成 で達成度試験の成 でで達成度対象を毎回行 といきができる。 日間では、 日では 日では 日では 日では 日では 日では 日では 日では 日では 日では	に指導する。教科書習得を目指す。 「話す」の4技能の音読やペア練習体度 音読やペア練習体を で交法など英語学力テラ に対して再試験をま 積に置き換えて再試 時には英和辞書を必 は、 ku Around the Wo ku Around the Wo , the First Therapy	の英文読解や文法 総合的な英語力を の活動を行なう。適 スト20%, 課題を・経 に施する場合がある 一課題などに真剣に ず持参すること。 図 遠隔授業対応 rld rld rld pog in Japan	高文言を 高文言を 記言を 記言を 記言を 記言を 記言を 記言を 記言を 記	た に に に に に に に に に に に に に	科書にある英文の語彙,語法,文法科書での練習問題を補完するものとり割合で評価する。 ま末に1回実施し,再試験の成績は定期試験に向け,計画的に試験勉強を期試験に向け,計画的に試験勉強を要解し、内容を説明できる。完了が運用できる。 を理解し、内容を説明できる。のり、SVOO(=that節)を理解し運用できる。 を理解し、内容を説明できる。例り、SVOO(=that節)を理解し運用できる。	
受業の進行 注意点 受業の原 ファクラ	属性・履 ティブラー: 画	2 「	国安とする英語力の 「聞く」「書く」 D説明や文法語演習。 サウ文法語演習。 サウンでは、 をはないでは、 ではないでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	に指導する。教科書習得を目指す。 「話す」の4技能の音読やペア練習体を 音読やペア練習体を で大法などの習得度を に対して再試験を実 調に対して再式を で対して共立に対して表示で で対して表示で出される 時には英和辞書を必 は、Around the Wo ku Around the Wo , the First Therapy	の英文読解や文法 総合的な英語力を の活動を行るできる。 認のた人20%, 課題を・経 に施する場合でできる。 課題などでである。 課題などでである。 では では では では では では では では では では では では では	高文言を 高文言を 記言を 記言を 記言を 記言を 記言を 記言を 記言を 記	た に に に に に に に に に に に に に	科書にある英文の語彙,語法,文法科書での練習問題を補完するものとの割合で評価する。 宗末に1回実施し,再試験の成績は定期試験に向け,計画的に試験勉強を期試験に向け,計画的に試験勉強を要解し、内容を説明できる。完了が運用できる。 を理解し、内容を説明できる。解し運用できる。 を理解し、内容を説明できる。例、SVOO(=that節)を理解し運用できる。を理解し、内容を説明できる。を理解し、内容を説明できる。例のできる。例のできる。不定と理解し、内容を説明できる。不定と理解し、内容を説明できる。例のできる。とないの名を説明できる。例の表記明できる。例の表記明できる。例の表記明できる。	
授業の進 注意点 授業の原 フクラ	属性・履 ティブラー: 画	2	国安とする英語力の 「聞く」「書く」 「聞く」「書く」 D説明や文法演習。 地域10%、表演度対象 技が60点未満のもの はび達成度試験の成。 で達成度試験の成。 で達成度可能を毎回行 と。また、授業の ICT 利用 授業内容 Lesson 1 Washo Lesson 2 Chirori Lesson 2 Chirori Lesson 3 How G Lesson 4 Space	に指導する。教科書習得を目指す。 「話す」の4技能の音読やペア練習得度ではなどで、 ではなどの習得度では、 に対して再試験を実績に対して再試験を表情に対して再試験を表情に対して再試験を表情に対して再試験を表情に対して表情に対して表情に対して表情に対した。 は、表情には英和辞書を必 は、ないのは、は、ないのは、は、ないのは、ないのは、ないのは、ないのは、ないのは	の英文読解や文法 総合的な英語力を の活動を行るできる。 認のた人20%, 課題を・経 に施する場合でできる。 課題などでである。 課題などでである。 では では では では では では では では では では では では では	高文言を 高文言を あた では では では では では では では では では では	たくる。 かにした。 かにした。 かにした。 かにした。 かにした。 かにした。 かにした。 かにした。 かにした。 かにした。 かにした。 かにした。 かにした。 かにした。 かにした。 かにした。 かにした。 のには、 がには、 には、 がには、 がには、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、	科書にある英文の語彙,語法,文法科書での練習問題を補完するものとの割合で評価する。 宗末に1回実施し,再試験の成績は定期試験に向け,計画的に試験勉強を期試験に向け,計画的に試験勉強を要解し、内容を説明できる。完了が運用できる。 を理解し、内容を説明できる。解し運用できる。を理解し、内容を説明できる。のり、SVOO(=that節)を理解し運用を理解し、内容を説明できる。例のできる。不定と理解し、内容を説明できる。不定と理解し、内容を説明できる。を理解し、内容を説明できる。を理解し、内容を説明できる。のできる。を理解し、内容を説明できる。のできる。	
授業の進 注意点 授業の原 ファクラ	属性・履 ティブラー: 画	2	国安とする英語力の 「聞く」「書く」 D説明や文法演習。 D説明や文法演習。 D説明や文法演習。 D説明や文法演習。 D説明や文法演習。 D記明や文法演習。 DE WEST NOT NOT NOT NOT NOT NOT NOT NOT NOT NO	に指導する。教科書習得を目指す。 「話す」の4技能の音読やペア練習得度を 音読やペア練習得度確 ジステンシに対して再試験を表 はの後、英語学力テンシに対して再式験を表 で対して再式験を表 で対して技力で出きまで出きれる。 は、Around the Wo ku Around the Wo ku Around the Wo , the First Therapy ood Is Your Memo ood Is Your Memo Elevator	の英文読解や文法 総合的な英語力を の活動を行るできる。 認のた人20%, 課題を・経 に施する場合でできる。 課題などでである。 課題などでである。 では では では では では では では では では では では では では	高文宜を 高文宜を 取り組む し と に と に と に と に と に と に と に と に と に と に と に と に と に と に と に に に に に に に に に に に に に	たる。	科書にある英文の語彙,語法,文法科書での練習問題を補完するものとの割合で評価する。 宗末に1回実施し,再試験の成績は定期試験に向け,計画的に試験勉強を期試験に向け,計画的に試験勉強を要解し、内容を説明できる。完了が運用できる。 を理解し、内容を説明できる。解し運用できる。を理解し、内容を説明できる。のり、SVOO(=that節)を理解し運用を理解し、内容を説明できる。例のできる。不定と理解し、内容を説明できる。不定と理解し、内容を説明できる。を理解し、内容を説明できる。を理解し、内容を説明できる。のできる。を理解し、内容を説明できる。のできる。	
授業の進 注意点 授業の原	属性・履 ティブラー: 画	2 「	国安とする英語力の 「聞く」「書く」 「聞く」「書く」 「説明や文法語彙別 「対し、達成度試験のものはび達成度試験の成成で達成度試験の成成ででである。 「とと。また、授業の」 「ICT 利用 「Washo Lesson 1 Washo Lesson 2 Chirori Lesson 3 How G Lesson 4 Space 達成度試験	に指導する。教科書習得を目指す。 「話す」の4技能の「言語す」の4技能の「言語す」の4技能の文法などの習得を確立して再試験を表した対して再試験を表した対して再式験を表した対して共変で出される時には英和辞書を必ない。 ku Around the Woku Around the Woku Around the Woth First Therapy ood Is Your Memood Is Your Memood Is Your Memo	の英文読解や文法 総合的な英語力を の活動を行るできる。 認のた人20%, 課題を・経 に施する場合でできる。 課題などでである。 課題などでである。 では では では では では では では では では では では では では	高文宜者。 取り組む した した にいて にいて にいて にいて にいて にいて にいて にいて	たる。	科書にある英文の語彙,語法,文法科書での練習問題を補完するものと の割合で評価する。 記末に1回実施し,再試験の成績は定期試験に向け,計画的に試験勉強を 期試験に向け,計画的に試験勉強を 理解し、内容を説明できる。完了 の連用できる。 を理解し、内容を説明できる。解し運用できる。 を理解し、内容を説明できる。例() SVOO(=that節)を理解し、連用できる。を理解し、内容を説明できる。関係可できる。 を理解し、内容を説明できる。関係可できる。 を理解し、内容を説明できる。 を理解し連用できる。 を理解し、内容を説明できる。 を理解し、内容を説明できる。 を理解し、内容を説明できる。 を理解し、内容を説明できる。 を理解し、内容を説明できる。 を理解し、内容を説明できる。 を理解し、内容を説明できる。 を理解し、内容を説明できる。	
授業の進 注意点 授業の原 ファクラ	属性・履 ティブラー: 画	2 「	国安とする英語力の「聞く」「書く」 「聞く」「書く」 一部でする英語力の 「聞く」「書く」 一部でするでは、 一部でするでは、 一部では、 一部でするでは、 一部でするでは、 一部でするでするです。 一部でするでするです。 一部でするでするです。 一部でするでするです。 一部でするでするです。 上のでするでするです。 上のでするでするです。 上のでするでするです。 上のでするでするです。 上のでするでするです。 上のでするでするです。 上のでするでするでするです。 上のでするでするでするです。 上のでするでするでするです。 上のでするでするでするです。 上のでするでするでするです。 上のでするでするでするです。 上のでするでするでするです。 上のでするでするでするです。 上のでするでするでするです。 上のでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするでするでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするです。 上のでするでするでするです。 上のでするでするでするです。 上のでするでするでするです。 上のでするでするでするでするです。 上のでするでするでするです。 上のでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするでするです。 上のでするでするでするでするです。	に指導する。教科書習得を目指す。 「話す」の4技能の「言語す」の4技能の「言語す」の4技能の文法などの習得を確立して再試験を表した対して再試験を表した対して再式験を表した対して共変で出される時には英和辞書を必ない。 ku Around the Woku Around the Woku Around the Woth First Therapy ood Is Your Memood Is Your Memood Is Your Memo	の英文読解や文法 総合的な英語力をの活動を介える。 認のたえの後、 にないでは、 にないでは、 にないでは、 にないでは、 にないでは、 にないでは、 にないでは、 にはないではないでは、 にはないでは、 にはないでは、 にはないでは、 にはないでは、 にはないでは、 にはないでは、 にはないでは、 にはないでは、 にはないでは、 にはないでは、 にはないでは、 にはないでは、 にはないでは、 にはないでは、 にはないでは、 にはないでは、 にはないではないではないでは、 にはないではないではないでは、 にはないではないではないではないではないではないではないではないではないではないで	高文宜者。 取り組む した した にいて にいて にいて にいて にいて にいて にいて にいて	D 1	科書にある英文の語彙,語法,文法科書での練習問題を補完するものと の割合で評価する。 言末に1回実施し,再試験の成績は定期試験に向け,計画的に試験勉強を 期試験に向け,計画的に試験勉強を 理解し、内容を説明できる。完了 連用できる。 を理解し、内容を説明できる。解し運用できる。を理解し、内容を説明できる。を理解し、内容を説明できる。例、SVOO(=that節)を理解し、両容を説明できる。関係 を理解し、内容を説明できる。関係 を理解し、内容を説明できる。関係 を理解し、内容を説明できる。表を理解し、内容を説明できる。を理解し、内容を説明できる。を理解し、内容を説明できる。を理解し、内容を説明できる。表を理解し、内容を説明できる。表を理解し、内容を説明できる。表を理解し、内容を説明できる。表を理解し、内容を説明できる。表を理解し、内容を説明できる。表来	
授業の進 注意点 授業の原 ファクラ	国性・履行・ブラー: 国 IstQ	2 「, D 定学試 授進 の 区	国安とする英語力の 「聞く」「書く」 」 「聞く」「書く」 」 一 一 一 一 にび達成度試験の成 でで達成度試験の成 でで達成度試験の成 でで達成度対象を毎回行 こと。また、授業の 」 日 にび達成度 3 との点ででは 上との 1 Washo 上をい 2 Chirori 上をい 3 How G 上をい 3 How G 上をい 4 Space 上をい 4 Space 上をい 5 Diversi	に指導する。教科書習得を目指す。 「話す」の4技能の音読やペア練習得度ではなどで、英語学カテンに対して再試験を実績に対して再式験を表情に対して共変和辞書を必以り、大きなでのでは、では、大きなでのでは、では、大きなでのでは、大きなでのでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きないでは、大きないでは、大きなでは、大きなでは、大きないでは、は、は、いきないでは、は、は、いきないでは、は、は、いきないでは、は、は、いきないでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	の英文読解や文法 総合的な英語力。 適スト20%, 課題を・ ででである。 ではできます。 とはできます。 とはできます。 とはできます。 とはできます。 とはできます。 とはできます。 とはできます。 とはできます。 とはできます。 とはできます。 とはできます。 とはできます。 とはできます。 とはでも。 とはできます。 とはでも。 とはでも。 とはでも。 とはでも。 とはでも。 とはでも。 とはでも。 とはでも。 とはでも。 とはでも。 とはでも。 とはでも。 とはでも。 とはでも。 とはでも。 とはでも。 とはでも。 と。 とはでも。 とはと。 とはでも。 とはと。 とはと。 とはと。 とはと。 とも。 とも。 とも。 とも。 とも。 とも。 とも。 とも。 とも。 と	高文宜各。 取り組 道と受いの に と に と に の で に の に の に の に に の に 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 。 。 。 。 。	D 1 態 1分 2m 3名 の	科書にある英文の語彙,語法,文法科書での練習問題を補完するものと の割合で評価する。 記末に1回実施し,再試験の成績は定期試験に向け,計画的に試験勉強を 期試験に向け,計画的に試験勉強を 理解し、内容を説明できる。完了 の連用できる。 を理解し、内容を説明できる。解し運用できる。 を理解し、内容を説明できる。例() SVOO(=that節)を理解し、連用できる。を理解し、内容を説明できる。関係可できる。 を理解し、内容を説明できる。関係可できる。 を理解し、内容を説明できる。 を理解し連用できる。 を理解し、内容を説明できる。 を理解し、内容を説明できる。 を理解し、内容を説明できる。 を理解し、内容を説明できる。 を理解し、内容を説明できる。 を理解し、内容を説明できる。 を理解し、内容を説明できる。 を理解し、内容を説明できる。	

			1						
		13週	Lesson 6 Uer	no Takahiro:The Dance	e in Me		n 6の英文を理解し、内容 =過去分詞)を理解し運		
		14週	Lesson 6 Uer	no Takahiro:The Dance	e in Me	Lessor 過去完	n 6の英文を理解し、内容 了を理解し運用できる。	容を説明できる。仮定法	
		15週	Lesson 6 Uer	no Takahiro:The Dance	e in Me		n 6の英文を理解し、内? 解し運用できる。	容を説明できる。分詞構	
		16週				既習事	項を整理できる。		
		1週	Lesson 7 The	e France Okaeshi Proje	ct	Lessor (as if+	n 7の英文を理解し、内容 S+仮定法)を理解し運用	学を説明できる。仮定法 引できる。	
		2週	Lesson 7 The	e France Okaeshi Proje	ct	Lessor (If+S+	n 7の英文を理解し、内? Hwere to 〜)を理解し運	客を説明できる。仮定法 用できる。	
		3週	Lesson 7 The	e France Okaeshi Proje	ct	Lessor を推測	n 7の英文を理解し、内容 しながら読解ができる。	容を説明できる。未知語	
	3rdQ	4週	Lesson 7 The	e France Okaeshi Proje	ct	Lessor 代わる	n 7の英文を理解し、内? 表現を理解し運用できる	客を説明できる。If-節に う。	
	JiuQ	5週	Lesson 8 Wh	at Is the True Meaning	g of Mottainai?	Lessor の受動	n 8の英文を理解し、内容 態を理解し運用できる。	容を説明できる。進行形	
		6週	Lesson 8 What Is the True Meaning of Motta			Lesson 8の英文を理解し、内容を説明できる。文中で使われる省略理解し運用できる。			
		7週	Lesson 8 Wh	at Is the True Meaning	g of Mottainai?	Lessor 的語 it	n 8の英文を理解し、内容 (to-不定詞/that-節)を	客を説明できる。形式目 理解し運用できる。	
後期		8週	Lesson 8 What Is the True Meaning of Mottainai?			Lessor /過去	n 8の英文を理解し、内容 完了進行形を理解し運用	容を説明できる。現在 1できる。	
15州		9週	Lesson 9 Fair Play in Sports: What Is "Fair"?			Lessor 表すof	n 9の英文を理解し、内容 /thatを理解し運用でき	客を説明できる。同格を る。	
	10週	10週	英語学力テスト Lesson 9 Fair Play in Sports: What Is "Fair"?				自身の英語力を正確に把握する。 Lesson 9の英文を理解し、内容を説明できる。複合関係代名詞を理解し運用できる。		
		11週	Lesson 9 Fair Play in Sports: What Is "Fair"?				Lesson 9の英文を理解し、内容を説明できる。倒置を 理解し運用できる。		
	4thQ	12週	Lesson 9 Fair Play in Sports: What Is "Fair"?			Lesson 9の英文を理解し、内容を説明できる。関係副 詞 whenの継続用法を理解し運用できる。			
		13週	Lesson 10 Flo	oating Education		Lesson 10の英文を理解し、内容を説明できる。未来 完了形を理解し運用できる。			
		14週	Lesson 10 Flo	oating Education		Lesson 10の英文を理解し、内容を説明できる。 SVC(=that-節)を理解し運用できる。			
		15週		oating Education		Lesson 10の英文を理解し、内容を説明できる。無生物主語を理解し運用できる。			
		16週	後期定期試験				項を整理できる。		
評価割合									
		定期試験	È	達成度試験	英語学力テスト		課題・各種テスト	合計	
総合評価割	<u></u> 合	40		20	20		20	100	
基礎的能力 40				20	20		20 100		
専門的能力 0					0		0	_	

'\.	牧工業高		開講年度 令和03年度	(2021年度)	授業科目	英語 Ⅱ B(電気電子系)				
科目基		<u> </u>	河畔十/又 17年07十/支	(4041十/又)	X 	へロェレ(电XI电」不/				
科目番号		0025		 科目区分						
村日留ち 授業形態				単位の種別と単位数	一般/必修					
投業形態 開設学科				対象学年						
開設子科開設期	Ť .	剧這上子和 通年	す (別又作) 	」 別家子年 週時間数	2					
	≚n ★ オ	<u> </u>	indraw E Pannatt Tami Vamina	1	2 Init Edition>"	(本電学)				
教科書/教 担当教員			andrew E. Bennett, Toru Komiya	Grammar Pius <15 U	iiit Eaition>"	(用芸星)				
		石川 愛弓								
到達日			+ >	`Tababa						
1) 基 2) 問	§碇旳な高校]題演習を通	央語の埋解を「 して、「読む」	₽心に学習し,英検準2級の取得が 「聞く」「話す」「書く」の4技	惟美となる語彙刀・乂法 能のバランスの取れた英	刀を督得する。 語力を習得する	ことかできる。 ることができる。				
		, 国内が200音	事情について理解することができる	0						
ルーブ	リック			######################################	~ C c / c)	+70.51 -21 -2 -2 -2 -2 -2 -2 -2 -2 -2 -2 -2 -2 -2				
			理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの	- ()	未到達レベルの目安(不可)				
/			基礎的な高校英語の理解を中心は	こ 基礎的な高校英語の5 € 学習し,英検準2級0		基礎的な高校英語を理解できず 英検準2級の取得が可能となる				
評価項目	11		学習し、英検準2級の取得が確認となる語彙力・文法力を習得する	る となる語彙力・文法	力を習得する	語彙力・文法力を習得することが				
			ことができる。	ことができる。		できない。				
			問題演習を通して、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能の	聞 問題演習を通して、 D く」「話す」「書く」	「読む」「聞	問題演習を通して、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能の				
評価項目	12		バランスの取れた英語力を習得す	扌 バランスの取れた基準	本的な英語力	く」「話す」「書く」の4技能の バランスの取れた基本的な英語力				
			ることができる。	を習得することができ	きる。	を習得することができない。				
=======================================	10		 教材を通して,国内外の諸事情に	教材を通して,国内外	外の諸事情に ストギアニス	教材を通して,国内外の諸事情に				
評価項目	13		ついて理解することができる。	- ついて概ね理解する。	ことかできる	ついて理解することができない。				
学科の	到读日梅	 項目との関(<u>茶</u>	1*		1				
	間性	スロしの肉	/ N							
Ⅱ 実	践性									
直宜	際性									
教育方:	法等									
 概要						「話す」「書く」の4技能を総合的				
14/U.X			英語検定準2級を取得するために			Freign Fee And Freign Freign				
		1) テキス	ストの問題演習を中心に、基礎的な どのバランスの取れた英語力を身に	構文や語法・文法を理解 つける	するとともに、	読む」 聞く」 話す」 書く				
授業の進	め方・方法	2)授業(は、学生が予習をしていることを前	提に進める。						
-A7E	, _ / _/_	3) テキス	Fストで学習したリスニング、および構文や語法・文法事項の習得状況を確認するため、適宜テストを実施する							
		4) 学生(は、授業中は常に英和辞書を机上に	おき、単語の意味や発音	、語法等を確認	8しながら授業を受けること。				
		英語力向	上のためには、自学自習を含む主体	的な学習の継続が必要不	可欠である。し	 ルたがって、学生は、				
\ - ========		1) 次回	回の授業に備えて必ず予習を行うこ	٢						
注意点		2) 積極	亟的な姿勢で授業に臨むこと		+ m = - '					
		3) 授美 が必要です	業の復習を毎回行うことで、英語力 ある。	回上に回けた継続的努力·	を図ること					
授業の	居性 . 履	73 %19 C0	500							
	11年 11月 11月	タトの区分								
		<u>修上の区分</u> - > ガ	ICT FIIE	7. 清原塔类社内		□ 宝教経験のちる教員による哲学				
	ティブラー		☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業				
+ ™** =┐:	ティブラー:		☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業				
授業計	ティブラー:	ニング			*	□ 実務経験のある教員による授業				
授業計	ティブラー:	ニング 週 月	受業内容	週ご	どの到達目標					
授業計	ティブラー:	ニング 週 週 1 1週 U	受業内容 Unit 1. 現在時制	週ご現在	時制の用法を					
授業計	ティブラー:	ニング 週 担 1週 U 2週 U	受業内容 Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制	週 <i>ご</i> 現在 過去	時制の用法を時制の用法を	里解し、運用できる。 里解し、運用できる。				
授業計	ティブラー:	週 1週 2週 3週	受業内容 Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞	週ご 現在 過去 代名	時制の用法を時制の用法を調の用法を理	里解し、運用できる。 里解し、運用できる。 解し、運用できる。				
授業計	ティブラー:	週 1週 2週 3週 4週	受業内容 Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞	週 <i>ご</i> 現在 過去 代名 代名	時制の用法を 時制の用法を 詞の用法を理! 詞の用法を理!	里解し、運用できる。 里解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。				
授業計	ティブラー:	コング 週 1 1週 U 2週 U 3週 U 4週 U	受業内容 Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形	週 <i>乙</i> 現在 過去 代名 代名	時制の用法を 時制の用法を理 詞の用法を理 詞の用法を理 形の用法を理	里解し、運用できる。 里解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。				
授業計	ティブラー:	コング 週 1 1週 U 2週 U 3週 U 4週 U	受業内容 Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞	週 <i>乙</i> 現在 過去 代名 代名 進行 進行	時制の用法を 時制の用法を理 詞の用法を理 詞の用法を理 形の用法を理 形の用法を理	里解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。				
授業計	ティブラー:	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	受業内容 Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形 Jnit 4. 進行形	週 <i>ご</i> 現在 過去 代名 代名 進行 進行	時制の用法を 時制の用法を理 詞の用法を理 詞の用法を理 形の用法を理 形の用法を理 形の用法を理	里解し、運用できる。 里解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。				
授業計	ティブラー:	週 月 1週 U 2週 U 3週 U 4週 U 5週 U 6週 U	受業内容 Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形 Jnit 4. 進行形	週 <i>ご</i> 現在 過去 代名 代名 進行 進行	時制の用法を 時制の用法を理 詞の用法を理 詞の用法を理 形の用法を理 形の用法を理 までの学習内 とができる。	里解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 容を理解し、それらを運用・活用す				
	ティブラー:	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	受業内容 Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形 Jnit 4. 進行形 复習テスト Jnit 5. 助動詞	週ご 現在 過去 代名 代名 進行 進行 ここ 助動	時制の用法を 時制の用法を理 詞の用法を理 詞の用法を理 形の用法を理 形の用法を理 までの学習内 とができる。 詞の用法を理	里解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 容を理解し、それらを運用・活用す 解し、運用できる。				
	ティブラー:	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	受業内容 Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形 Jnit 4. 進行形 复習テスト Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 助動詞	週ご 現在 過去 代名 代名 進行 さここ 助動 助動	時制の用法を 時制の用法を理 詞の用法を理 詞の用法を理 形の用法を理 形の用法を理 までの学習内 とができる。 詞の用法を理 詞の用法を理	里解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 容を理解し、それらを運用・活用す 解し、運用できる。				
	ティブラー:	世 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	受業内容 Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形 Jnit 4. 進行形 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. ホ来時制	週ご 現在 過去 代名 (代名 進行 これご 助動 助動	時制の用法を 時制の用法を理 詞の用法を理 形の用法を理 形の用法を理 までできる。 にができる。 にがの用法を理 にはができる。 にはののにはを理 にはいてきる。 にはいてもる。 にはいてもる。 にはいてもる。 にはいてもる。 にはいてもる。 にはいてもる。 にはいてもる。 にはいてもる。 にはいてもる。 にはいな。 にはいと、 にはいな。 には、 にはいな。 にはいな。 にはいな。 にはいな。 にはいな。 にはいな。 には、	里解し、運用できる。 里解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 容を理解し、それらを運用・活用す 解し、運用できる。 解し、運用できる。				
	ティブラー:	世界の	受業内容 Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形 Jnit 4. 進行形 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. ホ来時制 Jnit 6. 未来時制	週ご 現在 過去 代名 代名 進行 これご 助動 助動 未来来	時制の用法を 時制の用法を理 詞の用法を理 形の用法を理 形の用法を理 形の用法を理 までの学習内 さができる。 詞の用法を理 詞の用法を理 時制の用法をを 時制の用法を 時制の用法を 時制の用法を	里解し、運用できる。 里解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 容を理解し、それらを運用・活用す 解し、運用できる。 解し、運用できる。 異似し、運用できる。 理解し、運用できる。				
	更 1stQ	世界の 一型 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	受業内容 Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形 Jnit 4. 進行形 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 助動詞 Jnit 6. 未来時制 Jnit 6. 未来時制 Jnit 7. 疑問文と付加疑問文	週ご 現在 過去 代代名 進行 進行 こる 助動 助素 未来 疑問	時制の用法を理 時制の用法を理 詞の用法を理 形の用法を理 形の用法を理 形の用法を理 までの学習内 とができる。 詞の用法を理 詞の用法を理 時制の用法を理 時制の用法をほ 文と付加疑問	理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 容を理解し、それらを運用・活用す 解し、運用できる。 解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 と変われる。 と変われる。 と変われる。 と変われる。 と変われる。				
	ティブラー:	世界の 一型 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	受業内容 Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形 Jnit 4. 進行形 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 助動詞 Jnit 6. 未来時制 Jnit 7. 疑問文と付加疑問文 Jnit 7. 疑問文と付加疑問文	週ご 現在 過去 代名 進行 進行 立る 助動 助助 未来 疑問 疑問 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述	時制の用法を 時制の用法を理 詞の用法を理 説の用法を理 形の用法を理 形の用法を理 までできる。 詞の用法を理 詞の用法を理 時制の用法を理 時制の用法を 時制の用法を は 文と付加疑問 文と付加疑問	理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 容を理解し、それらを運用・活用す 解し、運用できる。 解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 なの用法を理解し、運用できる。 文の用法を理解し、運用できる。				
	更 1stQ	世界の 1週 1週 1 2週 3週 4週 5週 6週 1 3週 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	受業内容 Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形 Jnit 4. 進行形 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 助動詞 Jnit 6. 未来時制 Jnit 7. 疑問文と付加疑問文 Jnit 7. 疑問文と付加疑問文 Jnit 7. 疑問文と付加疑問文	週ご 現在 過去 代名 代名 進行 こる 助動 助動 未来来 疑問 足比較	時制の用法を 時制の用法を理 詞の用法を理 形の用法を理 形の用法を理 形の用法を理 またができる。 詞の用法を理 詞の用法を理 時制の用法をを理 時制の用法をを 時制の用法をを は 文と付加疑問 文と付加疑問 の用法を理解	理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 容を理解し、それらを運用・活用す 解し、運用できる。 解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 と の用法を理解し、運用できる。 なの用法を理解し、運用できる。 し、運用できる。				
授業計	更 1stQ	世界の 週 1 1週 1 2週 3 3週 4 4週 5 6週 1 7週 7 8週 1 9週 1 10週 1 11週 1 12週 1 13週 1	受業内容 Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形 Jnit 4. 進行形 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 助動詞 Jnit 6. 未来時制 Jnit 7. 疑問文と付加疑問文 Jnit 7. 疑問文と付加疑問文	週ご 現在 過去 代名 代名 進行 ごる 助動 助動 未未来 疑問 以 比較	時制の用法を 時制の用法を理 詞の用法を理 形の用法を理 形の用法を理 形の用法を理 形の用法を理 がの用法を理 詞の用法を理 によるのの用法を理 にはのの用法を理 にはいるののには にはいるののには にはいるののには にはいるののには にはいるののには にはいるののには にはいるののには にはいるののには にはいるののには にはいるののには にはいるののには にはいるののには にはいる にはいる にはいる にはいるには にはいる にはい にはいる にはいる にはいる にはいる にはいる にはいる にはいる にはいる にはいる にはいる には	理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 容を理解し、それらを運用・活用す 解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 と で の用法を理解し、運用できる。 の の用法を理解し、運用できる。 の の の の の の の の の の の の の の の の の の の				
	更 1stQ	世界の 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 12週 13週 14週 15週	受業内容 Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形 Jnit 4. 進行形 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 助動詞 Jnit 6. 未来時制 Jnit 7. 疑問文と付加疑問文 Jnit 7. 疑問文と付加疑問文 Jnit 7. 疑問文と付加疑問文	週ご 現在 過去 代名 代名 進行 こる 助動 助動 未未来 疑問 比較	時制の用法を記時制の用法を認識の用法を理認めています。 説の用法を理明 おいている おいま といる おいま といる の用法を理明 おいま といる の用法を理明 にいる の用法を理明 はいる の用法を理明 はいる の用法を理解 の の の 用法を 習 の に で の に で の で の に で の で の に で の で の に で の で の	理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 容を理解し、それらを運用・活用す 解し、運用できる。 解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 と の用法を理解し、運用できる。 なの用法を理解し、運用できる。 し、運用できる。				
	更 1stQ	世界の 週 1 1週 1 2週 3 3週 4 4週 5 6週 1 6週 7 8週 9 9週 1 10週 1 11週 1 12週 1 13週 1 14週 1 15週 1	受業内容 Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形 Jnit 4. 進行形 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 助動詞 Jnit 6. 未来時制 Jnit 7. 疑問文と付加疑問文 Jnit 7. 疑問文と付加疑問文 Jnit 7. 疑問文と付加疑問文 Jnit 8. 比較 Jnit 8. 比較	週ご 現在 過去 代代名 代代名 進行 ごる 助動 助 未未来 疑問 比較 に対	時制の用法を記時制の用法を記詞の用法を理認の用法を理形の用法を理形の用法を理理形式を理理を理例できるを理例のの用法を理理を認め、 は、	理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 容を理解し、それらを運用・活用す 解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 と での用法を理解し、運用できる。 なの用法を理解し、運用できる。 し、運用できる。 し、運用できる。 し、運用できる。				
前期	更 IstQ 2ndQ	世界の 一型 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 13週 14週 15週 11週 11週 11週 11週 11週 11週 11	受業内容 Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形 Jnit 4. 進行形 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 助動詞 Jnit 6. 未来時制 Jnit 7. 疑問文と付加疑問文 Jnit 7. 疑問文と付加疑問文 Jnit 8. 比較 Jnit 8. 比較 jnit 8. 比較 jnit 9. 不定詞	週 現在 過 現在 過 代 名 後 行 こる 助 動 動 動 大 ま に た に に に に に に に に に に に に に	時制の用法を記時制の用法を記詞の用法を理問の用法を理理形式を理理を理理を理理を理理を理理を理理を理理を認め、表示の用法を理理を認め、表示の用には、表示の用法を理理を対した。 「は、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 容を理解し、それらを運用・活用す 解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 と での用法を理解し、運用できる。 なの用法を理解し、運用できる。 し、運用できる。 し、運用できる。 と なのの用法を理解し、運用できる。 なの用法を理解し、運用できる。 なのの用法を理解し、運用できる。				
	更 1stQ	世界の	受業内容 Jnit 1. 現在時制 Jnit 2. 過去時制 Jnit 3. 代名詞 Jnit 3. 代名詞 Jnit 4. 進行形 Jnit 4. 進行形 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 助動詞 Jnit 5. 助動詞 Jnit 6. 未来時制 Jnit 7. 疑問文と付加疑問文 Jnit 7. 疑問文と付加疑問文 Jnit 7. 疑問文と付加疑問文 Jnit 8. 比較 Jnit 8. 比較	週ご 現在 過ご 現在 過ご 代代 進ご ごる 助動 動 素 未 疑 疑 形 段 足 れ で の の の の の の の の の の の の の の の の の の	時制の用法を記時制の用法を記詞の用法を理問の用法を理問の用法を理問の用法を理問を認めて要問の用法を理問を認めている。 一般により、表別には、一般により、表別には、一般により、表別には、一般により、表別には、一般により、表別には、一般により、表別には、一般により、表別には、一般により、表別には、一般により、表別には、一般により、表別には、一般により、表別には、一般により、表別には、一般により、表別には、一般により、表別には、一般により、表別には、一般により、表別には、一般により、表別には、一般により、表別には、表別には、表別には、表別には、表別には、表別には、表別には、表別には	理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 解し、運用できる。 容を理解し、それらを運用・活用す 解し、運用できる。 理解し、運用できる。 理解し、運用できる。 立の用法を理解し、運用できる。 立、の用法を理解し、運用できる。 し、運用できる。 し、運用できる。 し、運用できる。				

		4週	Unit 10. 動名詞		動名詞の用法を理解し、選	動名詞の用法を理解し、運用できる。		
		5週	Unit 11. 受動態		受動態の用法を理解し、選	囲できる。		
			Unit 11. 受動態		囲できる。			
		7週	復習テスト		これまでの学習内容を理解ることができる。	ない それらを運用・活用す		
		8週	Unit 12. 形容詞節		形容詞節の用法を理解し、	運用できる。		
		9週	Unit 12. 形容詞節		形容詞節の用法を理解し、	運用できる。		
		10週	Unit 13. 副詞節		副詞節の用法を理解し、選	囲できる。		
		11週	Unit 13. 副詞節		副詞節の用法を理解し、運用できる。			
		12週	Unit 14. 名詞節		名詞節の用法を理解し、選	囲できる。		
	4thQ 13週		Unit 14. 名詞節		名詞節の用法を理解し、選	囲できる。		
		14週	Unit 15. 現在完了形		現在完了形の用法を理解し	現在完了形の用法を理解し、運用できる。		
		15週	Unit 15. 現在完了形		現在完了形の用法を理解し、運用できる。			
		16週	後期定期試験		これまでの学習内容を理解し、それらを運用・活用す ることができる。			
評価割合	ì							
			定期試験	復習テスト	小テスト・課題など	合計		
総合評価割	恰		50	30	20	100		
基礎的能力	J		50	30	20	100		
専門的能力]		0	0	0	0		
分野横断的	能力		0	0	0	0		

苫小牧工業高等専門学校			5	開講年度 令和03年度 (2021年度)		授業科目	英語 II A(情報科学・工学系)			
科目基礎	情報									
科目番号		0026				科目区分	一般,	' 必修		
授業形態		授業				単位の種別と単位	位数 履修単位: 3			
開設学科		創造工学	科 (·	一般科目)		対象学年	2			
開設期		通年				週時間数	3			
教科書/教科	材	教科書: Commur Gramma	FBI nicat 1r 24	G DIPPER Eng ion Ⅱ ワークフ i」(啓林館)/夏	lish Communicati ブック」(数研出版) 期課題:「The De	on II 」(数研出版)/文法テキスト eath of Karen Sill	反)/ワーク) :1年次購入の kwood」(Ox	ブック:「BIG DIPPER English D文法テキスト「Vision Quest English ford University Press)		
担当教員		堀 登代彦	5							
到達目標	到達目標									
4. 熱語、	1. 基礎的な英語で書かれた社会、文化、科学などをテーマにした文章を理解し、その内容を日本語で説明できる。2. 熟語、構文、文法を理解し、それらを使って表現ができる。3. 継続的な学習により、英検準2級の取得が現実的となる英語力を身につけ、英語学力テストで自身の英語力を把握できる。									
ルーブリック										
			理	型想的な到達レイ	ベルの目安(優)	標準的な到達レイ) 未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1			化を	5、科学などをう	計かれた社会、文 テーマにした文章 内容を日本語で正	基礎的な英語で記化、科学などを記を理解し、その内明できる。	テーマにしたゞ	文章 化、科学などをテーマにした文章		
評価項目2					tを理解し、それ こ表現ができる。	熟語、構文、文法 らを使って表現た	ができる。	それらを使って表現ができない。		
評価項目3			σ,)取得が現実的と	いり,英検準2級 こなる英語力を身 コテストによって 型握できる。	継続的な学習に。 の取得が現実的と 語力を身につけ, によって自身のする。	より, 英検準 2 となる基本的な 英語学カテス 英語力を把握で	2級 継続的な学習により, 英検準2級な英 の取得が現実的となる基本的な英語力を身につけられず, 英語学力 デストによって自身の英語力を把握できない。		
学科の到	」達目標項	目との関	係					·		
学科の到達目標項目との関係 I 人間性 II 実践性 III 国際性										
教育方法	<u></u>									
概要		総合的な	力が。	だ英語力を基礎 身につくように する英語力の習	指導する。教科書の	中心に「読む」「f D英文読解や文法®	聞く」「書く」 事項の説明と	「話す」の4技能のバランスのとれた 寅習,音読練習などを通して,英検準		
授業の進め)方・方法	, 構文の して使用 定期試験 学業成績	説明 し, 40% が60	や文法演習, 音 また, 語彙や文 , 達成度試験2)点未満のものに	読やペア練習などの 法などの習得度確認 0%. 英語学カテス	D活動を行なう。? 忍のため演習を適? .ト20%, 課題・2 施する場合がある	文法テキスト値 宜実施する。 S種テスト20	教科書にある英文の語彙,語法,文法 は教科書での練習問題を補完するものと %の割合で評価する。 学年末に1回実施し,再試験の成績は定期		
注意点		授業の予 進めるこ	習・: と。	復習を毎回行い また,授業の時	, 授業で出される詞 には英和辞書を必ず	果題などに真剣にI ず持参すること。	取り組むこと。	定期試験に向け,計画的に試験勉強を		
授業の属	性・履修	上の区分								
□ アクテ	ィブラーニ	ング		ICT 利用		□ 遠隔授業対応	- \	□ 実務経験のある教員による授業		
授業計画	Į									
		週	授業	内容			週ごとの到達			
		1週	Less	son 1 Washokı	ı Around the Wor	ld	Lesson 1の英文を理解し、内容を説明できる。完了形 、受動態を理解し運用できる。			
		2週	Less	son 1 Washokı	ı Around the Wor	ld	SVC(=分詞) ²	文を理解し、内容を説明できる。 を理解し運用できる。		
		3週	Less	son 2 Chirori, t	he First Therapy	Dog in Japan	Lesson 2の英文を理解し、内容を説明できる。 SVO(=wh-疑問詞)、SVOO(=that節)を理解し運用で きる。			
	1stQ	4週	Less	son 2 Chirori, t	he First Therapy	Dog in Japan	Lesson 2の英文を理解し、内容を説明できる。関係代 名詞を理解し運用できる。			
	IstQ	5週	Less	son 3 How God	od Is Your Memor	y?	Lesson 3の英 、関係代名詞	文を理解し、内容を説明できる。不定詞 の継続用法を理解し運用できる。		
前期		6週	Less	son 3 How Goo	od Is Your Memor	y?	Lesson 3の英 名詞what、関	文を理解し、内容を説明できる。関係代 関係副詞を理解し運用できる。		
		7週	Less	son 4 Space El	evator		Lesson 4の英 過去を理解し	文を理解し、内容を説明できる。仮定法 運用できる。		
		8週		度試験 son 4 Space El	evator		既習事項を整理できる。 Lesson 4の英文を理解し、内容を説明できる。関係副 詞 whereの継続用法を理解し運用できる。			
		9週	Less	son 4 Space El	evator		Lesson 4の英 行形を理解し	文を理解し、内容を説明できる。未来進 運用できる。		
	2ndQ	10週	Less	son 5 Diversity	Brings New Prod	lucts	Lesson 5のす の意味上の主 できる。	文を理解し、内容を説明できる。動名詞語、関係代名詞の継続用法を理解し運用		
		11週	Less	son 5 Diversity	Brings New Prod	ucts	Lesson 5の身 +have+過去	文を理解し、内容を説明できる。助動詞 分詞を理解し運用できる。		

		12週	Lesson 5 Div	ersity Brings New Prod	lucts	Lessor 定詞を	n 5の英文を理解し、内容 理解し運用できる。	宮を説明できる。完了不	
		13週	Lesson 6 Uer	no Takahiro:The Dance	e in Me		1 6の英文を理解し、内容 (=過去分詞)を理解し運序		
		14週	Lesson 6 Uer	no Takahiro:The Dance	e in Me		n 6の英文を理解し、内容 了を理解し運用できる。	学を説明できる。仮定法	
		15週	Lesson 6 Uer	no Takahiro:The Dance	in Me	Lessor 文を理	n 6の英文を理解し、内容 解し運用できる。	学を説明できる。分詞構	
		16週	前期定期試験			既習事	項を整理できる。		
		1週	Lesson 7 The	France Okaeshi Proje	ct	Lessor (as if+	1 7の英文を理解し、内容 S+仮定法)を理解し運用	学を説明できる。仮定法 目できる。	
		2週	Lesson 7 The	e France Okaeshi Proje	ct	Lessor (If+S-	n 7の英文を理解し、内容 Hwere to 〜)を理解し運	客を説明できる。仮定法 用できる。	
		3週	Lesson 7 The	e France Okaeshi Proje	ct	Lessor を推測	ı 7の英文を理解し、内容 しながら読解ができる。	学を説明できる。未知語	
	3rdQ	4週	Lesson 7 The	e France Okaeshi Proje	ct	Lessor 代わる	n 7の英文を理解し、内容 表現を理解し運用できる	字を説明できる。If-節に 。	
	SiuQ	5週	Lesson 8 What Is the True Meaning of Mottainai?				n 8の英文を理解し、内容 態を理解し運用できる。	学を説明できる。進行形	
		6週	Lesson 8 Wh	at Is the True Meaning	of Mottainai?	Lesson 8の英文を理解し、内容を説明できる。文中で使われる省略理解し運用できる。			
		7週	Lesson 8 Wh	at Is the True Meaning	of Mottainai?	的語 it	n 8の英文を理解し、内容 (to-不定詞/that-節)を	:理解し運用できる。	
後期		8週	Lesson 8 Wh	Lesson 8 What Is the True Meaning of Mottainai?			1 8の英文を理解し、内容 完了進行形を理解し運用	lできる。	
1270		9週	Lesson 9 Fair Play in Sports: What Is "Fair"?				n 9の英文を理解し、内容 /thatを理解し運用でき	る。	
		10週	英語学力テス Lesson 9 Fair	ト Play in Sports: What	Is "Fair"?	自身の英語力を正確に把握する。 Lesson 9の英文を理解し、内容を説明できる。複合関 係代名詞を理解し運用できる。			
		11週	Lesson 9 Fair Play in Sports: What Is "Fair"?				Lesson 9の英文を理解し、内容を説明できる。倒置を 理解し運用できる。		
	4thQ	12週	Lesson 9 Fair	Lesson 9 Fair Play in Sports: What Is "Fair"?			Lesson 9の英文を理解し、内容を説明できる。関係副詞 whenの継続用法を理解し運用できる。		
		13週	Lesson 10 Flo	oating Education		Lesson 10の英文を理解し、内容を説明できる。未来 完了形を理解し運用できる。			
		14週	Lesson 10 Flo	oating Education		Lesson 10の英文を理解し、内容を説明できる。 SVC(=that-節)を理解し運用できる。			
		15週	Lesson 10 Flo	oating Education		Lesson 10の英文を理解し、内容を説明できる。無生物主語を理解し運用できる。			
		16週	後期定期試験			既習事項を整理できる。			
評価割合	<u> </u>								
		定期試験		達成度試験	英語学力テスト		課題・各種テスト	合計	
総合評価害	 引合	40		20	20		20	100	
基礎的能力		40		20	20		20 100		
専門的能力		0		0	0		0	0	
		•		•	•				

苫小牧工業高等専門学校		:	開講年度 令和03年度 (2021年度)		授美	美科目	英語 II B)	(情報科学・工学系		
科目基礎	情報						•			
科目番号		0027				科目区分	-	一般/必修	 多	
授業形態		授業				単位の種別と単位	位数 履修単位: 2			
開設学科		創造工学	科 (一般科目)		対象学年	2			
開設期		通年				週時間数		2		
教科書/教材	材	教科書:	Andı	rew E. Bennet	t, Toru Komiya "G	Grammar Plus <1	5 Unit	Edition>"	'(南雲堂)	
担当教員		秋野 志保	Į							
到達目標	Ę									
2) 問題 	領選を通し	て、「読む] [聞く」「話す」	(準2級の取得が確認) 「書く」の4技能の	実となる語彙力・3 のバランスの取れが	文法力を た英語力	習得する。を習得する	ことができ ることがで	る。 きる。
	3) 教材を通して,国内外の諸事情について理解することができる。 ルーブリック									
ルーノリ	リック		тп	ᄆᆂᆸᄼᄼᆠᅩᅎᆙᅔᆡ	ベルの日内(原)		» II	カ/白)	十万小夫」	ベルの日ウ(オコ)
				型想的な到達レ/ をないまでである。	ンルの日女(愛) 語の理解を中心に	標準的な到達レク				ベルの目安(不可) 高校英語を理解できず
評価項目1			学と	学習し, 英検準:	品の達解を中心に 2級の取得が確実 文法力を習得する	基礎的な高校英語 学習し,英検準2 となる語彙力・文 ことができる。	2級の取	得が可能		2級の取得が可能となる 文法力を習得することが
評価項目2			7	(」「話す」「氰	て、「読む」「聞書く」の4技能の を英語力を習得す	問題演習を通してく」「話す」「書 バランスの取れた を習得することが	≣く」の ニ基本的;	4 技能の な英語力	く」「話 バランス	を通して、「読む」「聞す」「書く」の4技能のの取れた基本的な英語力ることができない。
評価項目3			教		 国内外の諸事情に	教材を通して,国 ついて概ね理解す	国内外の	諸事情に	教材を通	して, 国内外の諸事情に 解することができない。
学科の到	達目標項	目との関	係						,	
I 人間 I 実践 II 国際	性 性 性									
教育方法	 等									
概要		英語 I B で	では、	構文の習得と	リスニングカの向上	を図るとともに、	「読む」	「聞く」	「話す」	「書く」の4技能を総合的
114.55					取得するために必要				F=+ 1. 1	
授業の進め	方・方法	」の4技i 2)授業 3)テキ	能の は、 スト	バランスの取れ 学生が予習をし で学習したリス	た英語力を身につい ていることを前提に	ける。 こ進める。 文や語法・文法事I	頂の習得	状況を確認	忍するため、	「聞く」「話す」「書く 、適宜テストを実施する 授業を受けること。
> +± ⊢			上のためには、自学自習を含む主体的な学習の継続が必要不可欠である。したがって、学生は、回の授業に備えて必ず予習を行うこと							
注意点		2) 積	極的: 業の	な姿勢で授業に 復習を毎回行う	臨むこと ことで、英語力向」	上に向けた継続的勢	努力を図	ること		
授業の属	性・履修	上の区分								
□ アクテ	ィブラーニ	ング		ICT 利用		□ 遠隔授業対応			□ 実務総	経験のある教員による授業
授業計画	Ī									
		週	授業	内容			週ごとσ)到達目標		
		1週	Unit	1. 現在時制			現在時制の用法を理解し、運用できる。			
				2. 過去時制		[:	過去時制の用法を理解し、運用できる。			用できる。
				3. 代名詞			代名詞の用法を理		1解し、運用できる。	
	1.0+0			: 3. 代名詞					解し、運用	
	1stQ			: 4. 進行形					解し、運用	
		6週	Unit	: 4. 進行形					解し、運用	
		7週	復習	テスト				できる。	谷を埋解し	、それらを運用・活用す
台位 世日		8週	Unit	5. 助動詞			助動詞σ	用法を理	解し、運用	lできる。
前期		9週	Unit	5. 助動詞			助動詞の	用法を理	解し、運用	lできる。
		10週	Unit	6. 未来時制			未来時制	の用法を	理解し、運	用できる。
				6. 未来時制					理解し、運	
	0 10			: 7. 疑問文と付						理解し、運用できる。
	2ndQ			: 7. 疑問文と付	加疑問文		疑問文と付加疑問文の用法を理解し、運用できる。			
				8. 比較					し、運用で	
		15週	Unit	: 8. 比較					し、運用で	
		16週	前期	定期試験				で学習内 できる。	容を理解し	、それらを運用・活用す
/// HP	0 10	1週	Unit	: 9. 不定詞					 解し、運用	 できる。
後期	3rdQ			9. 不定詞					解し、運用	

3週 Unit 10. 動名詞 動名詞の用法を理解し、運用できる 4週 Unit 10. 動名詞 動名詞の用法を理解し、運用できる 5週 Unit 11. 受動態 受動態の用法を理解し、運用できる 6週 Unit 11. 受動態 受動態の用法を理解し、運用できる	きる。 きる。			
5週 Unit 11. 受動態 受動態の用法を理解し、運用で	きる。			
6個 Unit 11 受動能				
	さる。			
7週 復習テスト これまでの学習内容を理解し、- ることができる。	これまでの学習内容を理解し、それらを運用・活用することができる。			
8週 Unit 12. 形容詞節 形容詞節の用法を理解し、運用	できる。			
9週 Unit 12. 形容詞節 形容詞節の用法を理解し、運用	形容詞節の用法を理解し、運用できる。			
10週 Unit 13. 副詞節 副詞節の用法を理解し、運用で	きる。			
11週 Unit 13. 副詞節 副詞節の用法を理解し、運用で	きる。			
12週 Unit 14. 名詞節 名詞節の用法を理解し、運用で	きる。			
4thQ13週Unit 14. 名詞節名詞節の用法を理解し、運用で	きる。			
14週 Unit 15. 現在完了形 現在完了形の用法を理解し、運	現在完了形の用法を理解し、運用できる。			
15週 Unit 15. 現在完了形 現在完了形の用法を理解し、運	現在完了形の用法を理解し、運用できる。			
16週 後期定期試験 これまでの学習内容を理解し、 ることができる。	それらを運用・活用す			
評価割合				
定期試験 復習テスト 小テスト・課題など 合計	-			
総合評価割合 50 30 20 100				
基礎的能力 50 30 20 100				
専門的能力 0 0 0 0				
分野横断的能力 0 0 0 0				

苫小牧工業高等 ^項	専門学校	開講年度	令和03年度 (2	令和03年度 (2021年度) 授第		国語Ⅱ(電気電子系)	
科目基礎情報							
科目番号	0028			科目区分	一般 /	必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単	位: 3	
開設学科	創造工学科(一般科目)		対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	3		
教科書/教材	『改訂版現代 する。	文B』/『改訂	「版国語総合古典編』] (数研出版) 国語	語便覧および	「国語辞典。その他、授業中に適宜指示	
担当教員	山際 明利,平野	野 摂子,時田 紗	緒里				
到達目標							
到達日伝 【現代文】 1、論理的な文章について、その論理の展開や要旨を捉えることができる。 2、文学的な表現について、その情景、心情、特徴などを捉えることができる。 3、語句の意味、用法を理解し、文体や修辞などの表現上の特色を捉えることができる。 4、設定された課題に関する調査を行い、結果を文章として報告できる。							

- 5、初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
1、論理的な文章について、その論理の展開や要旨を捉えることができる。	論理的な文章について、その論理	論理的な文章について、その論理	論理的な文章について、その論理
	の展開や要旨を的確に捉えること	の展開や要旨をある程度的確に捉	の展開や要旨を的確に捉えること
	ができる。	えることができる。	ができない。
2、文学的な表現について、その	文学的な表現について、その情景	文学的な表現について、その情景	文学的な表現について、その情景
情景、心情、特徴などを捉えるこ	、心情、特徴などを捉えることが	、心情、特徴などをある程度的確	、心情、特徴などを的確に捉える
とができる。	できる。	に捉えることができる。	ことができない。
3、語句の意味、用法を理解し、	語句の意味、用法を理解し、文体	語句の意味、用法を理解し、文体	語句の意味、用法を理解し、文体
文体や修辞などの表現上の特色を	や修辞などの表現上の特色を的確	や修辞などの表現上の特色をある	や修辞などの表現上の特色を的確
捉えることができる。	に捉えることができる。	程度的確に捉えることができる。	に捉えることができない。
4、設定された課題に関する調査 を行い、結果を文章として報告で きる。	的確に調査および報告を行うこと ができる。	ある程度的確に調査および報告を 行うことができる。	調査および報告を行うことができ ない。
5、初歩の漢文訓読技法を理解し	漢文を的確に書き下すことができ	漢文をある程度的確に書き下すこ	漢文を書き下すことができない。
、正しく書き下すことができる。	る。	とができる。	

学科の到達目標項目との関係

- 人間性 実践性 国際性
- $\bar{\mathbb{I}}$

教育方法等

概要 先に報告文作成の授業を行い、次いで漢文の授業を行う。

【国語 II】 授業で扱う教材については、必ず授業前に目を通しておき、授業後は教授された内容を確認しながら、再度教材にあたっておくようにすること。なお、国語便覧、国語辞典、漢和辞典等の準備については、適宜指示する。前期は現代文のみの評価とし、後期は現代文、漢文他をそれぞれ50%の割合で評価し合算する。国語 II の学年末の評価は、前期評価及び後期評価の平均とする。合格点は60点である。 【現代文】 前期は中間試験35%、定期試験25%、小テスト20%、提出課題等20%の割合で評価する。後期は中間試験30%、定期試験30%、提出課題等40%の割合で評価する。 の記当分の評価点が 6 割に満たない場合は、再試験を実施することがある。 但し、再試験を受けた場合の評価点は、配当分の6 割を上限とする。 【漢文他】 定期試験75%、提出課題 発言記録等35%の対人でまた。

授業の進め方・方法

定期試験75%、提出課題、発言記録等25%の割合で評価する。

注意点

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング □ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業
-----------------------	----------	------------------

授業計画

	-			
		週	授業内容	週ごとの到達目標
		1週	オリエンテーション 近現代俳句	授業の目的・方針等を理解する。 近現代の代表的な俳句について、語句の意味や用法を 的確に理解し、句意を理解するとともに、俳人のもの の見方、感じ方、考え方を理解することができる。
		2週	近現代俳句	近現代の代表的な俳句について、語句の意味や用法を 的確に理解し、句意を理解するとともに、俳人のもの の見方、感じ方、考え方を理解することができる。
前期	1stQ	3週	近現代俳句 小説 「山月記」(中島敦)	近現代の代表的な俳句について、語句の意味や用法を 的確に理解し、句意を理解するとともに、俳人のもの の見方、感じ方、考え方を理解することができる。 近現代の優れた小説を読み、初読の感想を持つ。
	1stQ	4週	小説 「山月記」(中島敦)	近現代のすぐれた小説を読み、ものの見方、感じ方、 考え方を深めることができる。 独特の表現や語句の意味の理解に努める。 文章の構成や展開に注意して、全体像を把握する。

	5週	小説 「山月記」(中島敦)	文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 人間の生き方について考える。
	6週	小説 「山月記」(中島敦)	文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 人間の生き方について考える。
	7週	小説 「山月記」(中島敦)	文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 人間の生き方について考える。
	8调	到達度試驗 (由間試驗)	これまでの授業内容を確認する。
	9週	評論 「国境を超える言葉」	はないが及案が存在。 抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えることができる。
	10週	評論 「国境を超える言葉」	曲象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えることができる。
	11週	評論 「国境を超える言葉」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えることができる。
2ndQ	12週	評論 「未来世代への責任」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えるこ とができる。
	13週	評論 「未来世代への責任」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えるこ とができる。
	14週	評論 「未来世代への責任」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えるこ とができる。
	15週	評論 「未来世代への責任」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えるこ とができる。
	16週	前期定期試験	これまでの授業内容を確認する。
	1週	【現代文】 詩 「永訣の朝」「小諸なる古城のほとり」など 【漢文他】 1.報告書作成 1-1 調査する	【現代文】 すぐれた近現代の詩を鑑賞する。 詩の構成、語句の意味を把握し、詩の世界を理解できる。 【漢文他】 設定された課題に関する調査を行い、結果を文章として報告できる。
	2週	【現代文】 詩 「永訣の朝」「小諸なる古城のほとり」他 【漢文他】 1-2 まとめる	【現代文】 すぐれた近現代の詩を鑑賞する。 詩の構成、語句の意味を把握し、詩の世界を理解できる。 【漢文他】 設定された課題に関する調査を行い、結果を文章として報告できる。
3rdQ	3週	【現代文】 「科学・技術の歴史の中での社会」 (村上陽一郎) 【漢文他】 1-3 作成する	【現代文】 科学・技術と社会のつながりの変遷を知り、現代の科学者の社会的責任について理解する。評論を通してものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 【漢文他】 設定された課題に関する調査を行い、結果を文章として報告できる。
	4週	【現代文】 「科学・技術の歴史の中での社会」 (村上陽一郎) 【漢文他】 2.漢文入門	【現代文】 科学・技術と社会のつながりの変遷を知り、現代の科学者の社会的責任について理解する。評論を通してものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 【漢文也】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことができる。
	5週	【現代文】 「科学・技術の歴史の中での社会」 (村上陽一郎) 【漢文他】 3.故事	【現代文】 科学・技術と社会のつながりの変遷を知り、現代の科学者の社会的責任について理解する。評論を通してものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 【漢文化】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことができる。
	6週	【現代文】 「科学・技術の歴史の中での社会」 (村上陽一郎) 【漢文他】 3.故事	【現代文】 科学・技術と社会のつながりの変遷を知り、現代の科学者の社会的責任について理解する。評論を通してものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 【漢文也】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことができる。
	7週	【現代文】 「科学・技術の歴史の中での社会」 (村上陽一郎) 【漢文他】 3.故事	【現代文】 科学・技術と社会のつながりの変遷を知り、現代の科学者の社会的責任について理解する。評論を通してものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 【漢文化】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことができる。
	8週	【現代文】 到達度試験(中間試験) 【漢文他】 4.漢詩 4-1 漢詩の規則	【現代文】 これまでの授業内容を確認する。 【漢文也】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことが できる。
		6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 16週 16週 13週 16週 16』 1	「山月記」(中島敦)

	9週	【現代文】 「三月の風」(阿部昭) 【漢文他】 4-2 唐詩		、考えを深めるこ 【漢文他】	変化を理解し、ものの見方、感じ方とができる。 法を理解し、正しく書き下すことが	
	10週	【現代文】 「三月の風」(阿部昭) 【漢文他】 4-2 唐詩		、考えを深めるこ 【漢文他】	変化を理解し、ものの見方、感じ方 とができる。 法を理解し、正しく書き下すことが	
	11週	【現代文】 「三月の風」(阿部昭) 【漢文他】 4-2 唐詩		【現代文】 登場人物の心情の変化を理解し、ものの見方、感じ、考えを深めることができる。 【漢文化】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことできる。		
4thQ	12週	【現代文】 「無用の人」(原田マハ) 【漢文他】 4-2 唐詩		、考えを深めるこ 【漢文他】	変化を理解し、ものの見方、感じ方とができる。 法を理解し、正しく書き下すことが	
	13週	【現代文】 「無用の人」(原田マハ) 【漢文他】 4-2 唐詩		、考えを深めるこ 【漢文他】	変化を理解し、ものの見方、感じ方とができる。 法を理解し、正しく書き下すことが	
	14週	【現代文】 「無用の人」(原田マハ) 【漢文他】 5.思想 5-1 論語		、考えを深めるこ 【漢文他】	変化を理解し、ものの見方、感じ方とができる。 法を理解し、正しく書き下すことが	
	15週	【現代文】 「無用の人」(原田マハ) 【漢文他】 5-2 孟子		、考えを深めるこ 【漢文他】	変化を理解し、ものの見方、感じ方とができる。 法を理解し、正しく書き下すことが	
	16週	後期定期試験		これまでの授業内	容を確認する。	
評価割合		1				
		中間・定期試験	課題		合計	
総合評価割合		80	20		100	
一般的能力		80	20		100	
		0	0		0	

科目基礎	情報		•			
<u>11日至成</u> 科目番号	<u> Атспі</u>	0029		科目区分	一般 / 必何	冬
受業形態		授業		単位の種別と単位		
開設学科			斗(一般科目)	対象学年	2	-
開設期		通年		週時間数	3	
数科書/教材	ł	『改訂版現する。	見代文 B 』/『改訂版国語総合古典編	』(数研出版) 国	語便覧および国	語辞典。その他、授業中に適宜指示
旦当教員		山際 明利	,平野 摂子,時田 紗緒里			
到達目標						
2 、文学的 3 、語句の 4 、設定さ 5 、初歩の	な表現につい 意味、用法 れた課題に 漢文訓読技	いて、その! を理解し、? 関する調査?	命理の展開や要旨を捉えることができ 青景、心情、特徴などを捉えることが 文体や修辞などの表現上の特色を捉え を行い、結果を文章として報告できる 正しく書き下すことができる。	できる。 ることができる。		
レーブリ	ック					
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベ	ルの目安	未到達レベルの目安
	な文章につい や要旨を捉え		論理的な文章について、その論理 の展開や要旨を的確に捉えること ができる。	論理的な文章につ の展開や要旨をあ えることができる	る程度的確に捉	論理的な文章について、その論理 の展開や要旨を的確に捉えること ができない。
2 、文学的 情景、心情、 とができる。	な表現につい 、特徴など [。] 。	いて、その を捉えるこ	文学的な表現について、その情景 、心情、特徴などを捉えることが できる。	文学的な表現につ 、心情、特徴など に捉えることがで	をある程度的確	文学的な表現について、その情景 、心情、特徴などを的確に捉える ことができない。
3 、語句の 文体や修辞 足えること	意味、用法などの表現。 などの表現。 ができる。	を理解し、 上の特色を	語句の意味、用法を理解し、文体 や修辞などの表現上の特色を的確 に捉えることができる。	語句の意味、用法 や修辞などの表現 程度的確に捉える	上の特色をある	語句の意味、用法を理解し、文体 や修辞などの表現上の特色を的研 に捉えることができない。
	れた課題に 果を文章と		的確に調査および報告を行うこと ができる。	ある程度的確に調査および報告を 行うことができる。		調査および報告を行うことができない。
5 、初歩の 正しく書	漢文訓読技法 き下すこと:	法を理解し ができる。	漢文を的確に書き下すことができ る。	漢文をある程度的確に書き下すこ とができる。		漢文を書き下すことができない。
学科の到	達目標項	目との関係	系			
I 人間性 Ⅱ 実践性 Ⅲ 国際性	‡					
教育方法	等					
既要		多様な文章 を深め、記 【漢文他	通年2単位配当】 章に触れることを通して、国語を適切 言語感覚を豊かにし、国語を尊重して 1単位配当(後期2時間)】 て作成の授業を行い、次いで漢文の授	その向上を図る態度	する能力を高め を育てる。	るとともに、言語文化に対する関心
【国語 II】 授業で扱う教材については、必ず授業前に目を通しておき、授業後は教授された内容を確認しながら、再度たっておくようにすること。なお、国語便覧、国語辞典、漢和辞典等の準備については、適宜指示する。前期は現代文のみの評価とし、後期は現代文、漢文他をそれぞれ50%の割合で評価し合算する。国語 II の学価は、前期評価及び後期評価の平均とする。合格点は60点である。 【現代文】 前期は中間試験35%、定期試験25%、小テスト20%、提出課題等20%の割合で評価する。後期は中間試験 期試験30%、提出課題等40%の割合で評価する。配当分の評価点が6割に満たない場合は、再試験を実施することがある。但し、再試験を受けた場合の評価点が6割を上限とする。 【漢文他】 定期試験75%、提出課題、発言記録等25%の割合で評価する。				ては、適宜指示する。 価し合算する。国語Ⅱの学年末の詞 評価する。後期は中間試験30%、5		
注意点		1				
	性・履修			_		
☑ アクティ	′ブラーニン	<u>/グ</u>	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応		☑ 実務経験のある教員による授
受業計画						
]	週	受業内容	i.		
		1.油	メ ストリロ オリエンテーション 近現代俳句	泛 的	受業の目的・方針 近現代の代表的な 対確に理解し、句	
		2:周	5.租代排句			考え力を理解することができる。 :俳句について、語句の意味や用法: 着を理解するとともに 俳 のちに

授業計画	画			
		週	授業内容	週ごとの到達目標
		1週	オリエンテーション 近現代俳句	授業の目的・方針等を理解する。 近現代の代表的な俳句について、語句の意味や用法を 的確に理解し、句意を理解するとともに、俳人のもの の見方、感じ方、考え方を理解することができる。
		2週	近現代俳句	近現代の代表的な俳句について、語句の意味や用法を 的確に理解し、句意を理解するとともに、俳人のもの の見方、感じ方、考え方を理解することができる。
前期	1stQ	3週	近現代俳句 小説 「山月記」(中島敦)	近現代の代表的な俳句について、語句の意味や用法を 的確に理解し、句意を理解するとともに、俳人のもの の見方、感じ方、考え方を理解することができる。 近現代の優れた小説を読み、初読の感想を持つ。
		4週	小説 「山月記」(中島敦)	近現代のすぐれた小説を読み、ものの見方、感じ方、 考え方を深めることができる。 独特の表現や語句の意味の理解に努める。 文章の構成や展開に注意して、全体像を把握する。

	5週	小説 「山月記」(中島敦)	文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 人間の生き方について考える。
	6週	小説 「山月記」(中島敦)	文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 人間の生き方について考える。
	7週	小説 「山月記」(中島敦)	文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 人間の生き方について考える。
	8调	到達度試驗 (由間試驗)	これまでの授業内容を確認する。
	9週	評論 「国境を超える言葉」	はないが及案が存在。 抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えることができる。
	10週	評論 「国境を超える言葉」	曲象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えることができる。
	11週	評論 「国境を超える言葉」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えることができる。
2ndQ	12週	評論 「未来世代への責任」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えるこ とができる。
	13週	評論 「未来世代への責任」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えるこ とができる。
	14週	評論 「未来世代への責任」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えるこ とができる。
	15週	評論 「未来世代への責任」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えるこ とができる。
	16週	前期定期試験	これまでの授業内容を確認する。
	1週	【現代文】 詩 「永訣の朝」「小諸なる古城のほとり」など 【漢文他】 1.報告書作成 1-1 調査する	【現代文】 すぐれた近現代の詩を鑑賞する。 詩の構成、語句の意味を把握し、詩の世界を理解できる。 【漢文他】 設定された課題に関する調査を行い、結果を文章として報告できる。
	2週	【現代文】 詩 「永訣の朝」「小諸なる古城のほとり」他 【漢文他】 1-2 まとめる	【現代文】 すぐれた近現代の詩を鑑賞する。 詩の構成、語句の意味を把握し、詩の世界を理解できる。 【漢文他】 設定された課題に関する調査を行い、結果を文章として報告できる。
3rdQ	3週	【現代文】 「科学・技術の歴史の中での社会」 (村上陽一郎) 【漢文他】 1-3 作成する	【現代文】 科学・技術と社会のつながりの変遷を知り、現代の科学者の社会的責任について理解する。評論を通してものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 【漢文他】 設定された課題に関する調査を行い、結果を文章として報告できる。
	4週	【現代文】 「科学・技術の歴史の中での社会」 (村上陽一郎) 【漢文他】 2.漢文入門	【現代文】 科学・技術と社会のつながりの変遷を知り、現代の科学者の社会的責任について理解する。評論を通してものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 【漢文也】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことができる。
	5週	【現代文】 「科学・技術の歴史の中での社会」 (村上陽一郎) 【漢文他】 3.故事	【現代文】 科学・技術と社会のつながりの変遷を知り、現代の科学者の社会的責任について理解する。評論を通してものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 【漢文化】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことができる。
	6週	【現代文】 「科学・技術の歴史の中での社会」 (村上陽一郎) 【漢文他】 3.故事	【現代文】 科学・技術と社会のつながりの変遷を知り、現代の科学者の社会的責任について理解する。評論を通してものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 【漢文也】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことができる。
	7週	【現代文】 「科学・技術の歴史の中での社会」 (村上陽一郎) 【漢文他】 3.故事	【現代文】 科学・技術と社会のつながりの変遷を知り、現代の科学者の社会的責任について理解する。評論を通してものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 【漢文化】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことができる。
	8週	【現代文】 到達度試験(中間試験) 【漢文他】 4.漢詩 4-1 漢詩の規則	【現代文】 これまでの授業内容を確認する。 【漢文也】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことが できる。
		6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 16週 16週 13週 16週 16』 1	「山月記」(中島敦)

	9週	【現代文】 「三月の風」(阿部昭) 【漢文他】 4-2 唐詩		、考えを深めるこ 【漢文他】	変化を理解し、ものの見方、感じ方とができる。 法を理解し、正しく書き下すことが	
	10週	【現代文】 「三月の風」(阿部昭) 【漢文他】 4-2 唐詩		、考えを深めるこ 【漢文他】	変化を理解し、ものの見方、感じ方 とができる。 法を理解し、正しく書き下すことが	
	11週	【現代文】 「三月の風」(阿部昭) 【漢文他】 4-2 唐詩		【現代文】 登場人物の心情の変化を理解し、ものの見方、感じ、考えを深めることができる。 【漢文化】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことできる。		
4thQ	12週	【現代文】 「無用の人」(原田マハ) 【漢文他】 4-2 唐詩		、考えを深めるこ 【漢文他】	変化を理解し、ものの見方、感じ方とができる。 法を理解し、正しく書き下すことが	
	13週	【現代文】 「無用の人」(原田マハ) 【漢文他】 4-2 唐詩		、考えを深めるこ 【漢文他】	変化を理解し、ものの見方、感じ方とができる。 法を理解し、正しく書き下すことが	
	14週	【現代文】 「無用の人」(原田マハ) 【漢文他】 5.思想 5-1 論語		、考えを深めるこ 【漢文他】	変化を理解し、ものの見方、感じ方とができる。 法を理解し、正しく書き下すことが	
	15週	【現代文】 「無用の人」(原田マハ) 【漢文他】 5-2 孟子		、考えを深めるこ 【漢文他】	変化を理解し、ものの見方、感じ方とができる。 法を理解し、正しく書き下すことが	
	16週	後期定期試験		これまでの授業内	容を確認する。	
評価割合		1				
		中間・定期試験	課題		合計	
総合評価割合		80	20		100	
一般的能力		80	20		100	
		0	0		0	

苫小牧工業高等!	專門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)		授美	美科目	国語Ⅱ	(都市	・環境系)	
科目基礎情報										
科目番号	0030			科目区分	-	一般 / 必	修			
授業形態	授業			単位の種別と単位数	数	覆修単位:	3			
開設学科	創造工学科(一般科目)		対象学年	2	2				
開設期	通年			週時間数 3						
教科書/教材	『改訂版現代』	文B』/『改訂	版国語総合古典編』	(数研出版) 国	語便覧	および国	語辞典。 ⁻	その他、	授業中に適う	宜指示
担当教員	山際 明利,平野	野 摂子,時田 紗	緒里							
到達目標										
【現代文】 1、論理的な文章について、その論理の展開や要旨を捉えることができる。 2、文学的な表現について、その情景、心情、特徴などを捉えることができる。 3、語句の意味、用法を理解し、文体や修辞などの表現上の特色を捉えることができる。 4、設定された課題に関する調査を行い、結果を文章として報告できる。 5、初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことができる。										

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
1、論理的な文章について、その論理の展開や要旨を捉えることができる。	論理的な文章について、その論理	論理的な文章について、その論理	論理的な文章について、その論理
	の展開や要旨を的確に捉えること	の展開や要旨をある程度的確に捉	の展開や要旨を的確に捉えること
	ができる。	えることができる。	ができない。
2、文学的な表現について、その情景、心情、特徴などを捉えることができる。	文学的な表現について、その情景	文学的な表現について、その情景	文学的な表現について、その情景
	、心情、特徴などを捉えることが	、心情、特徴などをある程度的確	、心情、特徴などを的確に捉える
	できる。	に捉えることができる。	ことができない。
3、語句の意味、用法を理解し、	語句の意味、用法を理解し、文体	語句の意味、用法を理解し、文体	語句の意味、用法を理解し、文体
文体や修辞などの表現上の特色を	や修辞などの表現上の特色を的確	や修辞などの表現上の特色をある	や修辞などの表現上の特色を的確
捉えることができる。	に捉えることができる。	程度的確に捉えることができる。	に捉えることができない。
4、設定された課題に関する調査 を行い、結果を文章として報告で きる。	的確に調査および報告を行うこと ができる。	ある程度的確に調査および報告を 行うことができる。	調査および報告を行うことができ ない。
5、初歩の漢文訓読技法を理解し	漢文を的確に書き下すことができ	漢文をある程度的確に書き下すこ	漢文を書き下すことができない。
、正しく書き下すことができる。	る。	とができる。	

学科の到達目標項目との関係

- 人間性 実践性 国際性
- Ī

教育方法等

概要	【現代文 通年2単位配当】 多様な文章に触れることを通して、国語を適切に表現し的確に理解する能力を高めるとともに、言語文化に対する関心 を深め、言語感覚を豊かにし、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。 【漢文他 1単位配当(後期2時間)】 先に報告文作成の授業を行い、次いで漢文の授業を行う。
	【国語 π 】

【国語 I】 投業で扱う教材については、必ず授業前に目を通しておき、授業後は教授された内容を確認しながら、再度教材にあたっておくようにすること。なお、国語便覧、国語辞典、漢和辞典等の準備については、適宜指示する。前期は現代文のみの評価とし、後期は現代文、漢文他をそれぞれ50%の割合で評価し合算する。国語 II の学年末の評価は、前期評価及び後期評価の平均とする。合格点は60点である。 【現代文】 前期は中間試験35%、定期試験25%、小テスト20%、提出課題等20%の割合で評価する。後期は中間試験30%、定期試験30%、提出課題等40%の割合で評価する。 配当分の評価点が6割に満たない場合は、再試験を実施することがある。但し、再試験を受けた場合の評価点は、配当分の6割を上限とする。 【漢文也】 定期試験75%、提出課題、発言記録等25%の割合で評価する。

授業の進め方・方法

注意点

授業の属性・履修上の区分

授業計画

12/2/1	· 大门口						
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
		1週	オリエンテーション 近現代俳句	授業の目的・方針等を理解する。 近現代の代表的な俳句について、語句の意味や用法を 的確に理解し、句意を理解するとともに、俳人のもの の見方、感じ方、考え方を理解することができる。			
		2週	近現代俳句	近現代の代表的な俳句について、語句の意味や用法を 的確に理解し、句意を理解するとともに、俳人のもの の見方、感じ方、考え方を理解することができる。			
前期	1stQ	3週	近現代俳句 小説 「山月記」(中島敦)	近現代の代表的な俳句について、語句の意味や用法を 的確に理解し、句意を理解するとともに、俳人のもの の見方、感じ方、考え方を理解することができる。 近現代の優れた小説を読み、初読の感想を持つ。			
		4週	小説 「山月記」(中島敦)	近現代のすぐれた小説を読み、ものの見方、感じ方、 考え方を深めることができる。 独特の表現や語句の意味の理解に努める。 文章の構成や展開に注意して、全体像を把握する。			

		.1. = **	女妾を誌 / ぶたのの目士 成じ士 孝与士を次ゆるマ
	5週	小説 「山月記」(中島敦)	文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 人間の生き方について考える。
	6週	小説 「山月記」(中島敦)	文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 人間の生き方について考える。
	7週	小説 「山月記」(中島敦)	文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 人間の生き方について考える。
	8個	到達度試驗(由問試驗)	これまでの授業内容を確認する。
	9週	到達及副歌 (平間副歌) 評論 「国境を超える言葉」	はていて、 抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えることができる。
	10週	評論 「国境を超える言葉」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えることができる。
	11週	評論 「国境を超える言葉」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えることができる。
2ndQ	12週	評論 「未来世代への責任」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えるこ とができる。
	13週	評論 「未来世代への責任」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えることができる。
	14週	評論 「未来世代への責任」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えるこ とができる。
	15週	評論 「未来世代への責任」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えるこ とができる。
	16週	前期定期試験	これまでの授業内容を確認する。
	1週	【現代文】 詩 「永訣の朝」「小諸なる古城のほとり」など 【漢文他】 1.報告書作成 1-1 調査する	【現代文】 すぐれた近現代の詩を鑑賞する。 詩の構成、語句の意味を把握し、詩の世界を理解できる。 【漢文他】 設定された課題に関する調査を行い、結果を文章として報告できる。
3rdO	2週	【現代文】 詩 「永訣の朝」「小諸なる古城のほとり」他 【漢文他】 1-2 まとめる	【現代文】 すぐれた近現代の詩を鑑賞する。 詩の構成、語句の意味を把握し、詩の世界を理解できる。 【漢文他】 設定された課題に関する調査を行い、結果を文章として報告できる。
	3週	【現代文】 「科学・技術の歴史の中での社会」 (村上陽一郎) 【漢文他】 1-3 作成する	【現代文】 科学・技術と社会のつながりの変遷を知り、現代の科学者の社会的責任について理解する。評論を通してものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 【漢文化】 設定された課題に関する調査を行い、結果を文章として報告できる。
	4週	【現代文】 「科学・技術の歴史の中での社会」 (村上陽一郎) 【漢文他】 2.漢文入門	【現代文】 科学・技術と社会のつながりの変遷を知り、現代の科学者の社会的責任について理解する。評論を通してものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 【漢文他】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことができる。
	5週	【現代文】 「科学・技術の歴史の中での社会」 (村上陽一郎) 【漢文他】 3.故事	【現代文】 科学・技術と社会のつながりの変遷を知り、現代の科学者の社会的責任について理解する。評論を通してものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 【漢文他】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことができる。
	6週	【現代文】 「科学・技術の歴史の中での社会」 (村上陽一郎) 【漢文他】 3.故事	【現代文】 科学・技術と社会のつながりの変遷を知り、現代の科学者の社会的責任について理解する。評論を通してものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 【漢文他】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことができる。
	7週	【現代文】 「科学・技術の歴史の中での社会」 (村上陽一郎) 【漢文他】 3.故事	【現代文】 科学・技術と社会のつながりの変遷を知り、現代の科学者の社会的責任について理解する。評論を通してものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 【漢文他】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことができる。
	8週	【現代文】 到達度試験(中間試験) 【漢文他】 4.漢詩 4-1 漢詩の規則	【現代文】 これまでの授業内容を確認する。 【漢文他】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことが できる。
	2ndQ 3rdQ	7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 10週 33週 4週 33周 33回 4週 33回 4週 310 37dQ	1 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回

	9週	【現代文】 「三月の風」(阿部昭) 【漢文他】 4-2 唐詩		、考えを深めるこ 【漢文他】	登場人物の心情の変化を理解し、ものの見方、感じ方、考えを深めることができる。 【漢文他】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことが		
	10週	【現代文】 「三月の風」(阿部昭) 【漢文他】 4-2 唐詩		、考えを深めるこ 【漢文他】	変化を理解し、ものの見方、感じ方 とができる。 法を理解し、正しく書き下すことが		
	11週	【現代文】 「三月の風」(阿部昭) 【漢文他】 4-2 唐詩		、考えを深めるこ 【漢文他】	変化を理解し、ものの見方、感じ方とができる。 法を理解し、正しく書き下すことが		
4thQ	12週	【現代文】 「無用の人」(原田マハ) 【漢文他】 4-2 唐詩		、考えを深めるこ 【漢文他】	登場人物の心情の変化を理解し、ものの見方、感じ方 、考えを深めることができる。 【漢文他】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことが		
	13週	【現代文】 「無用の人」(原田マハ) 【漢文他】 4-2 唐詩		、考えを深めるこ 【漢文他】	変化を理解し、ものの見方、感じ方とができる。 法を理解し、正しく書き下すことが		
	14週	【現代文】 「無用の人」(原田マハ) 【漢文他】 5.思想 5-1 論語		、考えを深めるこ 【漢文他】	変化を理解し、ものの見方、感じ方とができる。 法を理解し、正しく書き下すことが		
	15週	【現代文】 「無用の人」(原田マハ) 【漢文他】 5-2 孟子	無用の人」(原田マハ) 漢文他】		変化を理解し、ものの見方、感じ方とができる。 法を理解し、正しく書き下すことが		
	16週	後期定期試験		これまでの授業内	容を確認する。		
評価割合							
		中間・定期試験	課題		合計		
総合評価割合		80	20		100		
一般的能力		80	20		100		
		0	0		0		

 苫小牧工業	*古华	声明学坛	開講年度	一个和02年度(2021年度)	授業科		 (情報科学・工学	수조)
<u> </u>		守门子似	(用两件反	令和03年度 (2021牛/支)	仅未付	日 国品 11	(旧郑代子•上-	<u> 千木)</u>
当日圣诞间報 3月番号	λ	0031			科目区分		 / 必修		
70亩5 受業形態		授業			単位の種別と単位		<u>/ 必修</u> 単位: 3		
文案が認				対象学年	1 12 7 1233 0 1 1237 1 123 7		3		
100 1/14 11設期					週時間数	3			
	『沙江版祖代文 D』 /『沙江版図』			打垢宜违处今士曲组	111.		アドマミ五・女曲		古华二
教料書/教材 する。						当品区見のよ		この心、政業中に過	H1H/
当教員		山際 明和	川,平野 摂子,時田	紗緒里					
到達目標									
2、文学的な表現 3、語句の意味、 4、設定された記	現につい 、用法を 課題に関	いて、その を理解し、 関する調査)情景、心情、特得	を捉えることができななどを捉えることができななどを捉えることが >表現上の特色を捉え できとして報告できる ことができる。	ができる。				
レーブリック	7								
			理想的な到達し	ノベルの目安	標準的な到達レイ	ベルの目安	未到達	レベルの目安	
l 、論理的な文章 倫理の展開や要覧できる。				こついて、その論理 を的確に捉えること	論理的な文章にての展開や要旨をあ えることができる	ある程度的確		」な文章について、その で要旨を的確に捉え ない。	
2、文学的な表現 青景、心情、特征 とができる。	現につい 徴などを	ハて、その を捉えるこ	文学的な表現(、心情、特徴が できる。	こついて、その情景 などを捉えることが	文学的な表現にて 、心情、特徴など に捉えることがで	ビをある程度	的確 、心情	」な表現について、そ6、特徴などを的確に うべきない。	の情疑
3 、語句の意味、 と体や修辞などの 足えることができ	の表現」	を理解し、 上の特色を	語句の意味、原 や修辞などのま に捉えることが	用法を理解し、文体 表現上の特色を的確 ができる。	一や修辞などの表現	語句の意味、用法を理解し、文体 や修辞などの表現上の特色をある)意味、用法を理解し、 などの表現上の特色 ることができない。	、文作を的
4、設定されたi を行い、結果をx きる。				よび報告を行うこと		ある程度的確に調査および報告を 行うことができる。		るよび報告を行うことだ	がで
5、初歩の漢文 正しく書き下 学科の到達目	すことだ	ができる。	る。	書き下すことができ	漢文をある程度的確に書き下すことができる。			き書き下すことができ	ない。
I 人間性 II 実践性 III 国際性 数育方法等	ПЖЖ		11/1						
既要		多様な文を深め、	言語感覚を豊かに ! 1単位配当(後!	通して、国語を適切し、国語を適切し、国語を尊重して	その向上を図る態度	解する能力を 度を育てる。	高めるととも	に、言語文化に対する	る関心
【国語 I】 授業で扱う教材については、必ず授業前に目を通しておき、授業後は教授された内容を確認しながら、再度等たっておくようにすること。なお、国語便覧、国語辞典、漢和辞典等の準備については、適宜指示する。前期は現代文のみの評価とし、後期は現代文、漢文他をそれぞれ50%の割合で評価し合算する。国語 I の学価は、前期評価及び後期評価の平均とする。合格点は60点である。 【現代文】 前期は中間試験35%、定期試験25%、小テスト20%、提出課題等20%の割合で評価する。後期は中間試験期試験30%、提出課題等40%の割合で評価する。配当分の評価点が6割に満たない場合は、再試験を実施することがある。但し、再試験を受けた場合の評価点が6の6割を上限とする。 【漢文他】 定期試験75%、提出課題、発言記録等25%の割合で評価する。						直指示する。 すする。国語Ⅱの学年 。後期は中間試験30	末のi i%、;		
主意点									
受業の属性・	履修_	上の区分	·		_				
アクティブラ	ラーニン	·グ	☑ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応		☑実	務経験のある教員によ	よる授
<u>~₩=L;</u>									
受業計画	1	m .	1574-1-5		Т	VIII → ' ' '	±		
	<u>ù</u>	問	授業内容			週ごとの到達		n	
	1	週	 オリエンテーショ 近現代俳句 	コン		近現代の代え的確に理解し	ノ、句意を理解	¥する。 ⊃いて、語句の意味や ¥するとともに、俳人 E理解することができ	のも
			\CTB /\\ /\\ /\					Oいて、語句の意味や	

授業計画	受業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標				
		1週	オリエンテーション 近現代俳句	授業の目的・方針等を理解する。 近現代の代表的な俳句について、語句の意味や用法を 的確に理解し、句意を理解するとともに、俳人のもの の見方、感じ方、考え方を理解することができる。				
		2週	近現代俳句	近現代の代表的な俳句について、語句の意味や用法を 的確に理解し、句意を理解するとともに、俳人のもの の見方、感じ方、考え方を理解することができる。				
前期	1stQ	3週	近現代俳句 小説 「山月記」(中島敦)	近現代の代表的な俳句について、語句の意味や用法を 的確に理解し、句意を理解するとともに、俳人のもの の見方、感じ方、考え方を理解することができる。 近現代の優れた小説を読み、初読の感想を持つ。				
		4週	小説 「山月記」(中島敦)	近現代のすぐれた小説を読み、ものの見方、感じ方、 考え方を深めることができる。 独特の表現や語句の意味の理解に努める。 文章の構成や展開に注意して、全体像を把握する。				

		.1. = **	女妾を誌 / ぶたのの目士 成じ士 孝与士を次ゆるマ
	5週	小説 「山月記」(中島敦)	文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 人間の生き方について考える。
	6週	小説 「山月記」(中島敦)	文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 人間の生き方について考える。
	7週	小説 「山月記」(中島敦)	文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 人間の生き方について考える。
	8個	到達度試驗(由問試驗)	これまでの授業内容を確認する。
	9週	到達及副歌 (平間副歌) 評論 「国境を超える言葉」	はていて、 抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えることができる。
	10週	評論 「国境を超える言葉」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えることができる。
	11週	評論 「国境を超える言葉」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えることができる。
2ndQ	12週	評論 「未来世代への責任」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えるこ とができる。
	13週	評論 「未来世代への責任」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えることができる。
	14週	評論 「未来世代への責任」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えるこ とができる。
	15週	評論 「未来世代への責任」	抽象的な概念を表す言葉の役割について考える。 文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えるこ とができる。
	16週	前期定期試験	これまでの授業内容を確認する。
	1週	【現代文】 詩 「永訣の朝」「小諸なる古城のほとり」など 【漢文他】 1.報告書作成 1-1 調査する	【現代文】 すぐれた近現代の詩を鑑賞する。 詩の構成、語句の意味を把握し、詩の世界を理解できる。 【漢文他】 設定された課題に関する調査を行い、結果を文章として報告できる。
3rdO	2週	【現代文】 詩 「永訣の朝」「小諸なる古城のほとり」他 【漢文他】 1-2 まとめる	【現代文】 すぐれた近現代の詩を鑑賞する。 詩の構成、語句の意味を把握し、詩の世界を理解できる。 【漢文他】 設定された課題に関する調査を行い、結果を文章として報告できる。
	3週	【現代文】 「科学・技術の歴史の中での社会」 (村上陽一郎) 【漢文他】 1-3 作成する	【現代文】 科学・技術と社会のつながりの変遷を知り、現代の科学者の社会的責任について理解する。評論を通してものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 【漢文化】 設定された課題に関する調査を行い、結果を文章として報告できる。
	4週	【現代文】 「科学・技術の歴史の中での社会」 (村上陽一郎) 【漢文他】 2.漢文入門	【現代文】 科学・技術と社会のつながりの変遷を知り、現代の科学者の社会的責任について理解する。評論を通してものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 【漢文他】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことができる。
	5週	【現代文】 「科学・技術の歴史の中での社会」 (村上陽一郎) 【漢文他】 3.故事	【現代文】 科学・技術と社会のつながりの変遷を知り、現代の科学者の社会的責任について理解する。評論を通してものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 【漢文他】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことができる。
	6週	【現代文】 「科学・技術の歴史の中での社会」 (村上陽一郎) 【漢文他】 3.故事	【現代文】 科学・技術と社会のつながりの変遷を知り、現代の科学者の社会的責任について理解する。評論を通してものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 【漢文他】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことができる。
	7週	【現代文】 「科学・技術の歴史の中での社会」 (村上陽一郎) 【漢文他】 3.故事	【現代文】 科学・技術と社会のつながりの変遷を知り、現代の科学者の社会的責任について理解する。評論を通してものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 【漢文他】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことができる。
	8週	【現代文】 到達度試験(中間試験) 【漢文他】 4.漢詩 4-1 漢詩の規則	【現代文】 これまでの授業内容を確認する。 【漢文他】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことが できる。
	2ndQ 3rdQ	7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 10週 33週 4週 33周 33回 4週 33回 4週 310 37dQ	1 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回

	9週	【現代文】 「三月の風」(阿部昭) 【漢文他】 4-2 唐詩		、考えを深めるこ 【漢文他】	登場人物の心情の変化を理解し、ものの見方、感じ方、考えを深めることができる。 【漢文他】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことが		
	10週	【現代文】 「三月の風」(阿部昭) 【漢文他】 4-2 唐詩		、考えを深めるこ 【漢文他】	変化を理解し、ものの見方、感じ方 とができる。 法を理解し、正しく書き下すことが		
	11週	【現代文】 「三月の風」(阿部昭) 【漢文他】 4-2 唐詩		、考えを深めるこ 【漢文他】	変化を理解し、ものの見方、感じ方とができる。 法を理解し、正しく書き下すことが		
4thQ	12週	【現代文】 「無用の人」(原田マハ) 【漢文他】 4-2 唐詩		、考えを深めるこ 【漢文他】	登場人物の心情の変化を理解し、ものの見方、感じ方 、考えを深めることができる。 【漢文他】 初歩の漢文訓読技法を理解し、正しく書き下すことが		
	13週	【現代文】 「無用の人」(原田マハ) 【漢文他】 4-2 唐詩		、考えを深めるこ 【漢文他】	変化を理解し、ものの見方、感じ方とができる。 法を理解し、正しく書き下すことが		
	14週	【現代文】 「無用の人」(原田マハ) 【漢文他】 5.思想 5-1 論語		、考えを深めるこ 【漢文他】	変化を理解し、ものの見方、感じ方とができる。 法を理解し、正しく書き下すことが		
	15週	【現代文】 「無用の人」(原田マハ) 【漢文他】 5-2 孟子	無用の人」(原田マハ) 漢文他】		変化を理解し、ものの見方、感じ方とができる。 法を理解し、正しく書き下すことが		
	16週	後期定期試験		これまでの授業内	容を確認する。		
評価割合							
		中間・定期試験	課題		合計		
総合評価割合		80	20		100		
一般的能力		80	20		100		
		0	0		0		

占小华	收工業高等	等専門学校	開講年度	令和03年度(2		授業科目	
科目基礎							
<u>行口坐城</u> 科目番号	C II JTK	0032			科目区分	一般 / 必修	•
行 <u>口留了</u> 授業形態		授業					
開設学科			科(一般科目)		単位の種別と単位数履修単位:対象学年2		-
開設期		通年	וא (וואניי)	週時間数		2	
两成剂 教科書/教	***	『詳説世』	男中』(山川出版社	1			
我行者/教 担当教員	(1/2)		,佐々木 彩,牧之内		四田市1192		
<u>123 教员</u> 到達目標		N N N N N N N N N N	·, MA (A) (A) (A)	<u> </u>			
1. 産業活 た影響にご 2. 社会で 3. 社会で 4. 日本を 5. 国文化の	活動(農牧業 ついて説明で活動と自然現代 き自然環境(を含む世界の関係を含む世界の である様性を調かる	できる。 環境との関わ こ調和した産! の様々な生活! で見られる、!	りや、産業の発展が 業発展に向けた現在 文化、民族・宗教な	が自然環境に及ぼし Eまでの取り組みに よどの文化的諸事象 よど、文化的相違に	た影響について、原 ついて説明できる。 ほについて、歴史的観に 起因する諸問題に1	歴史的観点から説明 見点から説明できる	5.
ルーブリ	ノック		_		T		1
工業、商業 の人間活動 域的特性、	業・サービス 動の歴史的教 産業などの	、水産業、鉱 ス業等)など 発展過程の地 の発展が社会 いて説明でき	度乗石勤(展収集 、商業・サービ 間活動の歴史的	、水産業、鉱工業 ス業等)などの人 発展過程の地域的 の発展が社会に及	標準的な到達レベ 産業活動(農牧業、 高活動の歴史的の 特性、産業響に関す が解けたる。	水産業、鉱工業 業等) などの人 展過程の地域的 発展が社会に及	未到達レベルの目安 産業活動(農牧業、水産業、鉱工業 、商業・サービス業等)などの人 間活動の歴史的発展過程の地域的 特性、産業などの発展が社会に及 ばした影響に関する基本的な問題 が解けない。
2. 人間活 りや、産業	業の発展が 響について、	環境との関わ 自然環境に及 歴史的観点	一、産業の発展が	環境との関わりや 自然環境に及ぼし 、歴史的観点から	人間活動と自然環 、産業の発展が自 た影響について、 基本的な問題が解	然環境に及ぼし 歴史的観点から	人間活動と自然環境との関わりや 、産業の発展が自然環境に及ぼし た影響について、歴史的観点から 基本的な問題が解けない。
業発展に向 みについて	句けた現在る て説明できる		展に向けた現在さついて説明できる		社会や自然環境に 展に向けた現在ま 関する基本的な問	での取り組みに 関が解ける。	社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みに関する基本的な問題が解けない。
文化、民族	族・宗教なる ハて、歴史的	の様々な生活 どの文化的諸 内観点から説	日本を含む世界の 、民族・宗教なる について、歴史的 きる。	の様々な生活文化 どの文化的諸事象 的観点から説明で	日本を含む世界の 、民族・宗教など について、歴史的 な問題が解ける。	の文化的諸事象	日本を含む世界の様々な生活文化 、民族・宗教などの文化的諸事象 について、歴史的観点から基本的 な問題が解けない。
5. 国家間や国家内で見られる、 いわゆる民族問題など、文化的相 違に起因する諸問題について、歴 史的観点から説明できる。			ゆる民族問題なる	で見られる、いわ ど、文化的相違に について、歴史的 きる。	国家間や国家内で ゆる民族問題など 起因する諸問題に 観点から基本的な	、文化的相違に ついて、歴史的	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から基本的な問題が解けない。
	尊重するこ	忍識し、互い との大切さを	文化の多様性を記 化を尊重すること できる。	認識し、互いの文との大切さを説明	文化の多様性を認 化を尊重すること る基本的な問題が	の大切さに関す	文化の多様性を認識し、互いの文 化を尊重することの大切さに関す る基本的な問題が解けない。
学科の至	引達目標項	頁目との関	係				
I 人間 Ⅱ 実践 Ⅲ 国際	き性き性						
教育方法 概要	医等	体的に貢献している。	献する自覚と素養を 動や科学技術の役割	注:培う。			いて社会的諸問題の解決に向けて主 が者として社会に貢献する自覚と
		素養を培			+ - +		
授業の進め	め方・方法	・授業は、 度を確認 ・成績は、 試験を実施	、配布プリント・ス しながら授業を行う 、定期試験50%、 施する予定である。	う。 到達度試験30% 但し、再評価の上	、課題等20%を総 限は60点とする。	≜める。適宜、練習 給合して評価する。	間題を取り入れて、受講者の理解 評価が60点に達しない者には、再
注意点		・授業は、 度を確認 ・成績は、 試験を実施 ・授業の ・教科書	、配布プリント・ス しながら授業を行う 、定期試験50%、 施する予定である。	う。 到達度試験30% 但し、再評価の上 、新聞・ニュース	、課題等20%を約 限は60点とする。 等を通じて、日々世	≜める。適宜、練習 給合して評価する。	習問題を取り入れて、受講者の理解
注意点 授業の属	属性・履修	・授業は 度を確認 ・成績は 試験を実 ・授業の ・教科書	、配布プリント・ス しながら授業を行う 、定期試験50%、 施する予定である。 理解を深めるために 及び配付プリントを	う。 到達度試験30% 但し、再評価の上 、新聞・ニュース	、課題等 2 0 %を終 限は60点とする。 等を通じて、日々世 を行うこと。	≜める。適宜、練習 給合して評価する。	習問題を取り入れて、受講者の理解 評価が60点に達しない者には、再 5問題に関心を持つこと。
主意点 受業の属		・授業は 度を確認 ・成績は 試験を実 ・授業の ・教科書	、配布プリント・ス しながら授業を行う 、定期試験50%、 施する予定である。 理解を深めるために	う。 到達度試験30% 但し、再評価の上 、新聞・ニュース	、課題等20%を約 限は60点とする。 等を通じて、日々世	≜める。適宜、練習 給合して評価する。	間問題を取り入れて、受講者の理解 評価が60点に達しない者には、再
注意点 授業の属 □ <i>アク</i> テ	属性・履修 -ィブラーニ	・授業は 度を確認 ・成績は 試験を実 ・授業の ・教科書	、配布プリント・ス しながら授業を行う 、定期試験50%、 施する予定である。 理解を深めるために 及び配付プリントを	う。 到達度試験30% 但し、再評価の上 、新聞・ニュース	、課題等 2 0 %を終 、限は60点とする。 等を通じて、日々世 を行うこと。	≜める。適宜、練習 給合して評価する。	習問題を取り入れて、受講者の理解 評価が60点に達しない者には、再 5問題に関心を持つこと。
主意点 受 業 の属 」 アクテ	属性・履修 -ィブラーニ	・授業は度を 度を で成績は 試験を実施 ・授業科書 ・教科書 多上の区分	、配布プリント・ス しながら授業を行う 、定期試験50%、 施する予定である。 理解を深めるために 及び配付プリントを	う。 到達度試験30% 但し、再評価の上 、新聞・ニュース	、課題等20%を終 限は60点とする。 等を通じて、日々世 を行うこと。	≜める。適宜、練習 給合して評価する。	習問題を取り入れて、受講者の理解 評価が60点に達しない者には、再 5問題に関心を持つこと。
主意点 受 業 の属 〕 アクテ	属性・履修 -ィブラーニ	・授業は度を成績は、試験を実施を実施を実施を実施を実施を実施を実施を実施を実施を表表している。	、配布プリント・ス しながら授業を行う 定期試験50%、 施する予定である。 理解を深めるために 及び配付プリントを □ ICT 利用	る。 到達度試験30% 但し、再評価の上 こ、新聞・ニュース E用いて予習・復習	、課題等20%を終 限は60点とする。 等を通じて、日々世 を行うこと。	を	間問題を取り入れて、受講者の理解評価が60点に達しない者には、再時間に関心を持つこと。
主意点 受 業 の属 〕 アクテ	属性・履修 -ィブラーニ	・授業はは度を成款を実施を表示を実施を実施を実施を実施を実施を実施を実施を実施を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を	、配布プリント・ス しながら授業を行う 定期試験50%、 施する予定である。 理解を深めるために 及び配付プリントを □ ICT 利用 授業内容 イントロダクション	ら。 到達度試験30% 但し、再評価の上 、新聞・ニュース E用いて予習・復習	、課題等 2 0 %を終 限は60点とする。 等を通じて、日々世 を行うこと。	性める。適宜、練習 総合して評価する。 世界で起こっている サアはこっている 世界で起こっている 世界で起こっている 世界で起こっている 世界で起こっている ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	習問題を取り入れて、受講者の理解 評価が60点に達しない者には、再 3問題に関心を持つこと。 □ 実務経験のある教員による授業
主意点 受 業 の属 〕 アクテ	属性・履修 -ィブラーニ	・授業はは度を成款を実施を表示を実施を実施を実施を実施を実施を実施を実施を実施を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を	、配布プリント・ス しながら授業を行う 定期試験50%、 施する予定である。 理解を深めるために 及び配付プリントを □ ICT 利用	ら。 到達度試験30% 但し、再評価の上 、新聞・ニュース E用いて予習・復習	、課題等 2 0 %を終 限は60点とする。 等を通じて、日々世 を行うこと。	性める。適宜、練習 総合して評価する。 世界で起こっている サアはこっている 世界で起こっている 世界で起こっている 世界で起こっている 世界で起こっている ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	間問題を取り入れて、受講者の理解評価が60点に達しない者には、再び問題に関心を持つこと。 □ 実務経験のある教員による授業である。
主意点 受 業 の属 」 アクテ	属性・履修 -ィブラーニ	・授業は度を成績はまた。・・授業のののである。・・教科書が多上の区分のである。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある。・・教科書がある	、配布プリント・ス しながら授業を行う 定期試験50%、 施する予定である。 理解を深めるために 及び配付プリントを □ ICT 利用 授業内容 イントロダクション	う。 到達度試験30% 但し、再評価の上 元、新聞・ニュース 定用いて予習・復習	、課題等 2 0 % を終 限は60点とする。等を通じて、日々世 を行うこと。☑ 遠隔授業対応	性める。適宜、練習 総合して評価する。 世界で起こっている 世界で起こっている 世界更を学ぶ意義 大航海時代の到来 成過程について説	間問題を取り入れて、受講者の理解評価が60点に達しない者には、再び問題に関心を持つこと。 □ 実務経験のある教員による授業 こついて こよって一体化へと向かう世界の形
主意点 受 業 の属 」 アクテ	属性・履修 -ィブラーニ	・授業はは度を成験を成験を業科を実列を上の区分・カラング週1週2週3週	、配布プリント・ス しながら授業を行う 定期試験50%、 施する予定である。 理解を深めるために 及び配付プリントを □ ICT 利用 授業内容 イントロダクション	る。 到達度試験30% 但し、再評価の上 元、新聞・ニュース 定用いて予習・復習 な大 女革①	> 課題等 2 0 %を終 限は60点とする。等を通じて、日々世 を行うこと。☑ 遠隔授業対応	性める。適宜、練習 総合して評価する。 世界で起こっている 世界で起こっている 世界にを学ぶ意義 大航海時代の到来 成過程について説明 ルネサンスと宗教	習問題を取り入れて、受講者の理解評価が60点に達しない者には、再時間題に関心を持つこと。 □ 実務経験のある教員による授 こついて こよって一体化へと向かう世界の形別できる。
主意点 授業の属 」アクテ 授業計画	属性・履修 -ィブラーニ	・授業確認はまだ。 ・技術を成験を業科 ・教区分 ・力 ・ 1 週 1 週 2 週 3 週 4 週	・配布プリント・スしながら授業を行う定期試験50%、施する予定である。理解を深めるために及び配付プリントを □ ICT 利用 □ オントロダクション ヨーロッパ世界の扱いネサンスと宗教と	を 到達度試験30% 但し、再評価の上 元、新聞・ニュース 定用いて予習・復習 な な大 女革① 女革②	、課題等 2 0 %を終 限は60点とする。 等を通じて、日々世を行うこと。 図 遠隔授業対応	性める。適宜、練習 協合して評価する。 世界で起こっている 世界で起こっている 世界とを学ぶ意義。 大航海時代の到来に 成過程について説に ルネサンスと宗教で	習問題を取り入れて、受講者の理解評価が60点に達しない者には、再3問題に関心を持つこと。 □ 実務経験のある教員による授 こついて こよって一体化へと向かう世界の形明できる。
注意点 授業の属 □ アクテ 授業計画	属性・履作 -イブラーニ 画	・授業はは ・度で成験を ・教科書 ・教 上の区分 こング 週 1週 2週 3週 4週 5週	・配布プリント・スしながら授業を行う定期試験50%。施する予定である。理解を深めるために及び配付プリントを回り上である。 はまり ロン・ログクション・ログクション・ログクション・ログクション・ログクション・ロッパ世界の扱いネサンスと宗教といネサンスと宗教といるサンスと宗教といるサンスと宗教といるサンスと宗教といるサンスと宗教といる。	 到達度試験30% 但し、再評価の上 た 新聞・ニュース E用いて予習・復習 立大 女革① 女革② 女革③ 	○ 課題等 2 0 %を終い限は60点とする。○ 等を通じて、日々世を行うこと。○ 遠隔授業対応○ 」○ ○ 」○ ○ 」○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	性める。適宜、練習 総合して評価する。 世界で起こっている 世界で起こっている 世界史を学ぶ意義 大航海時代の到来 成過程について説 ルネサンスと宗教 ルネサンスと宗教 ルネサンスと宗教	間間題を取り入れて、受講者の理解 評価が60点に達しない者には、再 5問題に関心を持つこと。 □ 実務経験のある教員による授 こついて こよって一体化へと向かう世界の形 明できる。 改革について説明できる。 改革について説明できる。
注意点 授業の属 □ アクテ 授業計画	属性・履作 -イブラーニ 画	・授業確認はまだ。 ・技術を実施を ・対数を ・対数を ・対数を ・対数を ・対数を ・対数を ・対数を ・対数	・配布プリント・スしながら授業を行う 定期試験50%、 施する予定である。 理解を深めるために 及び配付プリントを □ ICT 利用 授業内容 イントロダクション ヨーロッパ世界の扱 ルネサンスと宗教と ルネサンスと宗教と	5。 到達度試験30% 但し、再評価の上 大新聞・ニュース 定用いて予習・復習 立大 女革① 女革② 女革② 女革③ 家体制の形成①	> 課題等 2 0 %を終 限は60点とする。等を通じて、日々世 を行うこと。☑ 遠隔授業対応	性める。適宜、練習を含して評価する。 と合して評価する。 世界で起こっている。 世界で起こっている。 世界にもこっている。 世界にもこっている。 世界にもいている。 世界はいると宗教には、 は、マサンスと宗教には、 は、マサンスと宗教には、 は、マサンスと宗教には、 は、マサンスと宗教には、 は、アナンスと宗教は、 は、アナンスと宗教は、 は、アナンスと宗教は、 は、アナンスと宗教は、 は、アナンスと宗教は、 は、アナンスと宗教は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	間題を取り入れて、受講者の理解 評価が60点に達しない者には、再 5問題に関心を持つこと。 □ 実務経験のある教員による授動 こついて こよって一体化へと向かう世界の形明できる。 改革について説明できる。 改革について説明できる。 改革について説明できる。 な本について説明できる。 な本について説明できる。 な本について説明できる。
^{注意点} 授業の属	属性・履作 -イブラーニ 画	・授業確認は実施を ・説 授教 区分 ・・の区分 ・・の 週 ・・の 月 ・・の 月 ・の 月	・配布プリント・ス しながら授業を行う 定期試験50%。 地する予定である。 理解を深めるために 及び配付プリントを □ ICT 利用 授業内容 イントロダクション ヨーロッパ世界の扱 ルネサンスと宗教と ルネサンスと宗教と リルネサンスと宗教と コーロッパ主権国	を 到達度試験30% 但し、再評価の上 大新聞・ニュース E用いて予習・復習 立 な大 女革① 女革② 数本② 家体制の形成① 家体制の形成②	、課題等 2 0 %を終 限は60点とする。 等を通じて、日々世を行うこと。 ② 遠隔授業対応	性める。適宜、練習を合して評価する。 会合して評価する。 世界で起こっている 世界で起こっている 世界にの到達目標 大航海時代の可可能に ルネサンスと宗教で ルネサンスと宗教で ルネサンスと宗教で 上権国家の形成期に 説明できる。	間問題を取り入れて、受講者の理解 評価が60点に達しない者には、再 5問題に関心を持つこと。 □ 実務経験のある教員による授業 こついて こよって一体化へと向かう世界の形明できる。 改革について説明できる。

						☆₩廿 △ 1 %+¬	マッた北目してき	一年明 社会にたったり		
		10週	産業革命による社	会の変容		産業革命が起 響について説!	こつに肖景とその 明できる。)展開、社会に与えた影		
		11週	市民革命と国民国	家の形成①		アメリカ独立 を通して国民	革命、フランス革 国家の形成につい	節のとナポレオン戦争等 Nて説明できる。		
		12週	市民革命と国民国家の形成②			アメリカ独立を通して国民	革命、フランス革 国家の形成につい	草命とナポレオン戦争等 Nて説明できる。		
		13週	市民革命と国民国家の形成③			アメリカ独立! を通して国民!	革命、フランス革 国家の形成につい	命とナポレオン戦争等 Nて説明できる。		
		14週	ナショナリズムの形成①			ナショナリズムの形成について説明できる。				
		15週	ナショナリズムの	形成②		ナショナリズ	ムの形成について	説明できる。		
		16週	定期試験							
		1週	帝国主義の時代①			帝国主義の成立・展開と列強による世界分割の状況と アジアの変動にいて説明できる。				
		2週	帝国主義の時代②			帝国主義の成立・展開と列強による世界分割の状況と アジアの変動にいて説明できる。				
		3週	帝国主義の時代③			帝国主義の成立 アジアの変動	立・展開と列強に にいて説明できる	こよる世界分割の状況と 3。		
		4週	第一次世界大戦①				体制の樹立など、 について説明でき	第一次世界大戦前後の きる。		
	3rdQ	5週	第一次世界大戦②			ヴェルサイユ ^ル レジーム変革	体制の樹立など、 について説明でき	第一次世界大戦前後の		
		6週	第一次世界大戦③			ヴェルサイユ ^ん レジーム変革	体制の樹立など、 について説明でき	第一次世界大戦前後の		
		7週	第二次世界大戦①	第二次世界大戦①			世界恐慌等の経済的背景や民族対立など複眼的に第二次世界大戦に至った背景を理解し説明できる。また、 国際連合など現代の国際的枠組みに、第二次世界大戦がどのように影響を与えたかを説明できる。			
		8週	第二次世界大戦②			次世界大戦に国際連合など	世界恐慌等の経済的背景や民族対立など複眼的に第二次世界大戦に至った背景を理解し説明できる。また、 国際連合など現代の国際的枠組みに、第二次世界大戦がどのように影響を与えたかを説明できる。			
	4thQ	9週	第二次世界大戦③			次世界大戦に国際連合など	世界恐慌等の経済的背景や民族対立など複眼的に第二次世界大戦に至った背景を理解し説明できる。また、 国際連合など現代の国際的枠組みに、第二次世界大戦がどのように影響を与えたかを説明できる。			
後期		10週	第二次世界大戦④			次世界大戦に国際連合など	至った背景を理解	戻対立など複眼的に第二 解し説明できる。また、 引みに、第二次世界大戦 ご説明できる。		
		11週	大戦後の世界①			いた東西対立	= 冷戦構造につい	前、国際政治を規定していての理解を深めるとと さーションの展開とリー する現代世界について		
		12週	大戦後の世界②			いた東西対立 もに、92年以	=冷戦構造につい 後、グローバリt	前、国際政治を規定して いての理解を深めるとと ビーションの展開とリー すする現代世界について		
		13週	大戦後の世界③		1991年のソビエト連邦崩壊以前、国際政治を規定していた東西対立 = 冷戦構造についての理解を深めるとともに、92年以後、グローバリゼーションの展開とリージョナリズムの伸長が同時進行する現代世界について説明できる。					
		14週	大戦後の世界④			いた東西対立	= 冷戦構造につい	前、国際政治を規定して いての理解を深めるとと ビーションの展開とリー する現代世界について		
		15週	大戦後の世界⑤		1991年のソビエト連邦崩壊以前、国際政治を規定していた東西対立 = 冷戦構造についての理解を深めるとともに、92年以後、グローバリゼーションの展開とリージョナリズムの伸長が同時進行する現代世界について説明できる。					
		16週	定期試験							
評価割合										
	定	期試験	到達度試験	課題等				合計		
総合評価害	引合 50	1	30	20	0	0	0	100		
基礎的能力		<u> </u>	30	20	0	0	0	100		
専門的能力			0	0	0	0	0	0		
分野横断的	的能力 0		0	0	0	0	0	0		

西山地工業高等専門学校 開講年度 令和103年度 (2021年度) 授業科目 歴史(応用化学・科目基礎情報 日本会社世界の様々な主法文化、民族・宗教などの文化的語書等について、歴史的観点から説明できる。 本書をおいて、歴史的観点から説明できる。 本書をおいて、歴史的観点から説明できる。 本書をおいて、歴史的観点から説明できる。 本書をおいて、歴史的観点から説明できる。 本書を出て、歴史的観点から説明できる。 本書を出て、歴史的観点から説明できる。 本書を出て、歴史的観点から説明できる。 本書を出て、歴史的観点から説明できる。 本書を出て、歴史的観点から説明できる。 本書を出て、歴史的観点から説明できる。 本書を出て、歴史的観点が言語を出て、	生物玄)		
科自医子	ᆂᄤᅑᄼ		
授業形態 授業 単位の種別と単位数 足を 開設明 通年 週時間数 2 数科書/教材 『詳試世界史』(山川出版社)/必要に応じて適宜紹介する 型当教育 版下 後夢 図 1 1. 産業活動/歴代業・水産業・鉱工業、商業・サービス業等)などの人間活動の歴史的発展過程の地域的特性、産業などの発展が合成環境に及して、2 2. 人間活動と自然環境との間わりや。産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、歴史的観点から説明できる。 2. 人間活動と自然環境との間わりや。産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、歴史的観点から説明できる。 2. 人間活動と自然環境との間かりや。産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、歴史的観点から説明できる。 3. 社会や自然環境との間かりや。産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、歴史的観点から説明できる。 5. 国家部門世界内で見られる。いかゆる民族問題など、文化の料理に表の場合する諸問題が強が高いた。 1. 産業活動/歴代業・水産業・鉱工業・高等・サービス業等)などの人間活動の歴史的発展過程の地域的特性、海産業を20分集別がよらした。 「海豚・サービス業等)などの人間活動の歴史的発展過程の地域的特性、海産業な20分集別が会にして、近日の実現が特性、海産業な20分集別が会にして、近日にた影響について説明できる。 1. 産業活動/歴代業・水産業・鉱工業・高等・サービス業等)などの人間活動の歴史の発展過程の地域的特性、海産業と20分集別がよらに入ぼした影響について説明できる。 2. 人間活動と自然環境に同りに、近上影響について説明できる。 4. 日本を含む世界の様々な生活で、使力的表現を展して、たいで、一般の分産が展出のほと、たいのよりの発展が自然環境に関係でする。 3. 社会や自然環境に調和した産業をなどの発展が上会に入ぼした影響について、歴史的観点から表現できる。 4. 日本を含む世界の様々な生活、たいで、一般でありたの場内でした。 対策できる。 4. 日本を含む世界の様々な生活、したいで、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で			
開設学科 調査年 (一般科目) 対象学年 2 週時間数 2 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			
通年 週時間数 通年			
製料書/教材 野洋温世界史』(山川出版社)/必要に応じて適宜紹介する 坂下 俊彦 野連目標 「正 産業部が農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等)などの人間活動の歴史的発展過程の地域的特性、産業などの発展がた影響について設明できる。 3. 社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みを開発した。以下、歴史的観点から説明できる。 3. 社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みに対して、歴史的観点から説明できる。 3. 社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みに対して、歴史的観点から説明できる。 5. 国家部田画家がて見られるいわゆる民族問題など、文化のお園に記句する諸問題について、歴史的観点から説明できる。 6. 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを説明できる。 7. 一ブリック 「産業活動(農牧業、水産業 鉱工業・商業・サービス業等) などの人間活動の歴史の発展過程の地域的特性、産業などの発展が会ないる場合とした影響について援助できる。 2. 人間活動かの歴史の発展過程の地域的特性、産業などの発展が社会に及ほした影響について援助できる。 2. 人間活動と自然実現との関わら説明できる。 3. 社会や自然環境に関する経験に入意に関する基本的な問題が解け、医影響について、歴史的観点から説明できる。 3. 社会や自然環境に関する原発所は一般実施に入るに入いた影響について、歴史的観点がら説明できる。 3. 社会や自然環境に調和した産業発展に同じた現在までの取り組みに対した影響について、歴史的観点を表の発展的影響に入るについて、歴史的観点を表していて、歴史的観点を表していて、歴史的観点が見たる。 4. 日本を含む世界の様々な生活の、対理、大会や自然環境に関する経験について、歴史的観点を表していて、歴史的観点が見たる。 5. 国家部の様々な生活の、対理、大会に向け、現代表に対して、経験の関連が解け、ため、一般である場所が関が使け、これて、歴史的観点から説明できる。 5. 国家部の様々な生活の、対理、大会や自然環境に関する基本的な問題が解け、ため、一般に対して、歴史的観点が見ない、これに対しない、歴史的観点が必要に対して、歴史的観点が必要に対して、歴史的観点が必要に対して、歴史的観点が必要に対し、と述を表をとの大切活を観か解けない、国家部を中国家内で見られる、いたのから説明できる。 5. 国家部は中国家内で見られる、いたのから説明できる。 5. 国家部は中国家内で見られる、いたのから説明できる。 6. 文化の多様性を認識し、互いて、歴史的観点が多述で、ため、一般に対しない、国家の関連が解けがない、国家部を中国家がと、文化の知識が解けない、国家部を中国家がと、文化の制造の解析が対してい、歴史的観点が多述を、文化の関連が関連、反応、一般に対していて、歴史的観点が多述を、一般に対しない、一般に対しな			
担当教員 坂下 俊彦 到達目標 1 産業活動 農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等)などの人間活動の歴史的発展過程の地域的特性、産業などの発展力 た影響について影明できる。 3. 社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて3世界できる。 4. 日本を含む世界の複々な生活文化、民族・崇数などの文化的指導院に入いて、歴史的観点から説明できる。 6. 文化の多様性を認識し、回いの文化を尊重することの大切さを説明に改図する諸問題について、歴史的観点から説明できる。 1 産業活動 農牧業、水産業、鉱工業 商業・サービス業等)などの人間活動の歴史的発展過程の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について説明できる。 2 成別した影響について説明できる。 3. 社会や自然環境に対した企業等)などの人間活動の歴史的発展過程の地域的特性、産業などの発展が社会に及び人間活動を自然環境について説明できる。 2 本の美術を関するとの大切が表現した影響について説明できる。 3. 社会や自然環境について説明できる。 3. 社会や自然環境について説明できる。 4. 出まる自然環境にの関わりた。素質について、歴史的観点から説明できる。 3. 社会や自然環境に図れて、歴史の影観について、歴史的観点から説明できる。 3. 社会や自然環境に図れて、歴史の影響、経済を含め、経済に同から説明できる。 3. 社会や自然環境に調和した産業が及り、展示の発展が自然環境に関和した産業を発展に向けた現在までの歌り組合か、のいて、歴史的観点から説明できる。 3. 社会や自然環境に関和した産業を発展について、歴史的観点から説明できる。 3. 社会や自然環境に関和した産業を含めた関切が持つ。 1 本を含む世界の様々な生活文化、民族、宗教などの文化的諸事条に向けた現在までの歌り組合が表現に同いて、歴史的観点から説明できる。 5. 国家間と見のでは、たまなどの発展が自然環境に関する基本的な問題が解ける。 2 本のの意味な関できる。 2 、大の全様性を認識し、互い、の、歴史の観点が多ないとのが自身について、歴史的観点が多ないの関切が解ける。 3. 社会や自然環境に関和した産業発展に向けた現在までの歌り組合が表現を表現を図りが解ける。 3. 社会や自然環境に関和した産業発度に向けた現在までの歌り組合が表現を表現を関する基本的な問題が解ける。 3. 社会や自然環境に関和した産業発度に向けた現在までの歌り組合が表現を表現を見から関連が解ける。 3. 社会や自然環境に関和した産業発度に向けた現在までの歌り組合が表現を表現を見から関連が解ける。 3. 社会や自然環境に関和した産業発度に向けた現在までの歌り組合が表現を表現を見から関連が解ける。 3. 社会や自然環境に関する基本的な問題が解ける。 3. 社会や自然環境に関する基本的な問題が解ける。 4. 日本を含む世界の様ななどの文化的諸事条に向けた現在までの歌り組合が表現を表現といて、歴史的観点が多点が解ける。 4. 日本を含む世界の様なままなどの発展が指する。 4. 日本を含む世界の様な生まる。 4. 日本を含む世界の様な生まる。 4. 日本を含む世界の様なままなどの発展が指する。 4. 日本を含む世界の様な生まる。 4. 日本を含む世界の様なままる。 4. 日本を含む世界の様なままなどの発度が確すする。 4. 日本を含む世界の様なままなどの発度が確すする。 4. 日本を含む世界の様なままなどの発度が解する。 4. 日本を含む世界の様なままなどの発度が解する。 4. 日本を含む世界の様なままなどの発度が解する。 4. 日本を含む世界の様なままなどの発度が確すまため、定様を表現を見からいままなどの、2. 日本を含む性質を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を			
1. 産業活動(無牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等)などの人間活動の歴史的発展過程の地域的特性、産業などの発展力 た影響について説明できる。 2. 人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ばした影響について、歴史的観点から説明できる。 3. 社会や自然環境との関わりた産業発展に向けた現在までの取り組みたこついて、歴史的観点から説明できる。 5. 国家間や国家内で見られる、いかの全様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを説明できる。 1. 産業活動(無牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等)などの人間活動の歴史的発展過程の地域的特性、産業などの発展が込会などの人間活動の歴史的発展過程の地域的特性、産業などの発展が込会などの人間活動の歴史的発展過程の地域的特性、産業などの発展が込会などの人間活動の歴史的発展過程の地域的特性、産業などの発展が込会などの人間活動の歴史的発展過程の地域的特性、産業などの発展が入会に及ぼした影響について説明できる。 2. 人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及びした影響について、歴史的観点から説明できる。 2. 人間活動と自然環境との関わりた、産業が定の発展が自然環境との関わらいの発展が自然環境に及びした影響について、歴史的観点がら説明できる。 3. 社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みたらいて、歴史的観点がら説明できる。 4. 会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みたいた影響について、歴史的観点がら説明できる。 5. 中に対しまれます。 と会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みたい、に対した影響について、歴史的観点が自然まなどの文化的諸事象について、歴史的観点が自然まなどの文化的諸事象について、歴史的観点が多速を含む世界の様なな生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的観点が多速本的な問題が解ける。 5. 東京世の世界の世界の学校と表述の表述を含まれな問題が解ける。 1. 本を含む世界の様なな生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的観点が多速本的な問題が解ける。 1. 本を含む世界の様なな生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的観点が多速本的な問題が解ける。 1. 本を含む世界の様なな生活文化、自然・宗教などの文化的諸事象について、歴史的観点が多速本的な問題が解ける。 1. 本を含む世界の様なな生活文化、自然・宗教などの文化的諸事象について、歴史的観点が多速を含む表述の表述を表述を記述し、可以の文化を尊重することの大切さを説明できる。 2. 水の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さる諸問題について、歴史的観点が多速が解ける。 2. 水の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さる諸問題について、歴史的観点が発ける。 3. 社会や自然環境に顕和した産業発展が解ける。 3. 社会や自然環境に顕和した産業発度でして、歴史の様な性を認識していて、歴史的観点が解ける。 3. 社会や自然環境に関連など、文化の利益に関連が解ける。 3. 社会や自然環境に関連など、文化の利益に関連が解ける。 3. 社会や自然環境に顕現るが発しまる。 4. 世界の様な生活文化、定様に表述を必要が表述を表述を必要が表述を表述を表述を表述を表述を必要が表述を表述を表述を必要が表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表			
1. 産業活動(農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等)などの人間活動の歴史的発展過程の地域的特性、産業などの発展がた影響について、歴史的観点から説明できる。 2. 人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に入ぼした影響について、歴史的観点から説明できる。 4. 日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的観点から説明できる。 5. 国家間や国家外で見られる。いかの全民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から説明できる。 6. 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを説明できる。 7. 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを説明できる。 8. 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを説明できる。 1. 産業活動(農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等)などの人協的特性、産業などの発展が社会に及した影響に対して、歴史的発展が社会に及した影響について、歴史的発展が社会に及した影響について、歴史的観点から能性、産業などの発展が社会に及した影響について、歴史的観点が見にした影響について、歴史的観点が見にして、企業の発展が自然環境に及ぼした影響について、歴史的観点が見る。 1. 人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境と及ぼした影響について、歴史的観点が見ばした影響について、歴史的観点が見ばした影響について、歴史的観点から説明できる。 3. 社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みに対して、担い説明できる。 4. 日本を含む世界の様々な生活、力に、こいて、歴史的観点から説明できる。 4. 日本を含む世界の様々な生活、力に、こいて、歴史的観点から説明できる。 4. 日本を含む世界の様々な生活、力に、こいて、歴史的観点から説明できる。 5. 国家間や国家内で見られる。いかの名民族問題など、文化的相違に起因する最もがは問題が解ける。 日本を含む世界の様々な生活文化、大能、宗教などの文化的諸事等、事をいさいて、歴史的観点から説明できる。 日本を含む世界の様々な生活文化、民族、宗教などの文化的諸事の収入、歴史的観点から説明できる。 日本を含む世界の様々な生活文化、民族、宗教などの文化的諸事の収入、歴史的観点が見まれた。歴史的観点が発することの大切きを説明できる。 日本を含む世界の様々な生活文化、民族、宗教などの文化的諸事の収入、歴史の観点から説明できる。 日本を含む世界の様々な生活文化、民族、宗教などの文化的諸事の収入、歴史の観点から説明できる。 日本を含む世界の様々な生活文化、民族、宗教などの文化的諸事の収入、歴史の観点から説明できる。 日本を含む世界の様々な生活文化、民族、宗教などのなべれの諸事を、自然を含む、関する基本的な問題が解ける。 日本を含む世界の様々を生活文化、民族、宗教などのなどの諸事がは、選本的な問題が解ける。 日本を含む世界の様々を生活文化、民族、宗教などの文化的諸事がは、選本的な問題が解ける。 日本を含む世界の様々を建立、文化の多様性を認識し、互いの文文化の多様性を認識し、互いの、文化の多様性を認識し、互いの文文化の多様性を認識し、互いの、文化の多様性を認識し、互いの、文化の多様性を認識し、互いの、文化の多様性を認識し、互いの、文化の多様性を認識し、互いの、文化の多様性を認識し、互いの、文化の多様性を認識し、互いの、文化の多様性を認識し、互いの、文化の多様性を認識し、互いの、文化の多様を認述を必然を認識しまれた。 日本を含む世界の様々など、文化の多様を表述を含むと思いなど、文化の多様を表述を含むといて、歴史の教育が対ないる。 日本を含む世界の様々を生活文化、大変の発展が自然を表述を表述を表述を含む、表			
た影響について説明できる。 3. 社会や自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、歴史的観点から説明できる。 5. 国家間や国教団境との関わりで、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、歴史的観点から説明できる。 6. 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを説明できる。 7. 工業等がより、大産業、鉱工業があり、大産業、鉱工業等がより、大人間活動の歴史的発展が関係でして、歴史的観点から説明できる。 1. 産業活動(農牧薬、水産業、鉱工業等)、などの人間活動の歴史的発展が関係の地域的特化、産業などの免験が生まる。 2. 人間活動と自然環境との関わりで、産業の発展が自然環境にの関わりた、企業の発展が自然環境にの関わりた、企業の発展が自然環境にの関わりた。企業の発展が自然環境にの関わりた。企業の発展が自然環境に及ぼした影響について、歴史的観点から説明できる。 3. 社会や自然環境に調和した産業発発医に向けた現在までの取り組みに、反ばした影響について、歴史的観点がありませ、大き響について、歴史的観点がありませ、大き響について、歴史的観点がありませ、大き響について、歴史的観点がありませ、大き響について、歴史的観点がありませ、大き響について、歴史的観点が多様などの文化的活動、自然環境との関わりた。企業の発展が自然環境に及ぼした影響について、歴史的観点がありませ、大き響について、歴史的観点がありませ、大き響について、歴史的観点がありませ、大きが自然環境に調和した産業発発のについて、歴史的観点があら説明できる。 4. 日本を含む世界の様々な生活で、取り組みについて説明できる。 4. 日本を含む世界の様々な生活が、について、歴史的観点から意味できる。 5. 国家間や国家内で見られる、いからる民族問題など、文化的相違に定している説明できる。 5. 国家間や国家内で見られる、いから名民族問題など、文化的相違に定していて、歴史的観点から意味できる。 1. 東部性の国家内で見られる、いから名民族問題など、文化的相違に定していて、歴史的観点から説明できる。 1. 大きの教性を認識し、互いて、歴史的観点から最小の意味性を認識し、互いて、歴史的観点から最小の意味性を認識し、互いて、歴史的観点から最小の意味性を認識し、互いで、企業の表別が解ける。 1. 人間性国家内で見られる、いから名民族問題など、文化的相違に定因する諸問題について、歴史的観点から影明できる。 2. 人間活動を自然などの文化的諸・反応・宗教などの文化的語から、は応患が解ける。 2. 人間語のなり、大きの表別を持ちいる。文化の表情を記載が解ける。 2. 人間語のなり、大きの表別を持ちいるの表情を記述のいる。文化の多様性を認識し、互いで、企業を含む、これて、歴史的観点が多様することの大切さに関することの大切さに関するとの文化を尊重することの大切さに関するとの大の特性を認識していて、歴史的観点から説明できる。 3. 社会や自然な境が表別を作ると、大きの情報が表して、概念の発展が目をがありませ、ためでは、ためでは、ためでは、ためでは、ためでは、ためでは、ためでは、ためでは			
理想的な到達レベルの目安 標準的な到達レベルの目安 標準的な到達レベルの目安 標準に対している。 本到達レベルの目安 本到達レベルの目安 工業、商業・サービス業等)などの人間活動の歴史的発展過程の地域的特性、産業などの発展が社会に及に反形響について説明できる。 2 人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及、 に対した影響について、歴史的観点が発展が関係が関係に対した影響について、歴史的観点を対象環境に別和した産業系 との予度がは気にした影響について、歴史的観点が発射できる。 3 社会や自然環境に調和した産業系 発展に向けた現在までの取り組みに対策性に対して、 こので、 こので、 こので、 こので、 こので、 こので、 こので、 こので	が社会に及ぼし		
1. 産業活動(農牧業、水産業、鉱工業 商業・サービス業等)などの人間活動の歴史的発展過程の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について説明できる。 2. 人間活動と自然環境との関わりや人産業の発展が社会に及ぼした影響について、歴史的観点から説明できる。 3. 社会や自然環境に別和した産業の発展が自然環境に別にした選集での取り組みに影響について、歴史的観点がら説明できる。 4. 日本を含む世界の様々生活での取り組みに入いて、民族・宗教などの文化的語事業について説明できる。 4. 日本を含む世界の様々生活での取り組みに入いて、民族・宗教などの文化的語事業について、歴史的観点から説明できる。 5. 国家間や国家内で見られる、い力の名民族問題など、文化的相違に定して、素質の観点から説明できる。 5. 国家間や国家内で見られる、い力の名民族問題など、文化的相違に違しに対して、文化の多様性を認識し、互いの文化、医療・宗教などの文化的語事象について、歴史的観点から説明できる。 6. 文化の多様性を認識し、互いの文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを観点できる。 6. 文化の多様性を認識し、互いの文化で尊重することの大切さを認明できる。 6. 文化の多様性を認識し、互いの文化できる。 6. 文化の多様性を認識し、互いの文化で専重することの大切さを認明できる。 6. 文化の多様性を認識し、互いの文化で専重することの大切さを認明できる。 6. 文化の多様性を認識し、互いの文化で専重することの大切さを認明できる。 6. 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを認明できる。 6. 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さに関する基本的な問題が解ける。 6. 文化のき様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さに関する基本的な問題が解ける。 6. 文化のき様性を認識し、互いの文化を尊重するとの大の表述を認識し、互いの文化の音楽を表述を認識している。 6. 文化のき様性を認識し、互いの文化の音楽を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を			
工業、商業・サービス業等)などの人間活動の歴史的発展過程の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について説明できる。 2. 人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が出会に及ぼした影響について説明できる。 2. 人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が出会に及ぼした影響について説明できる。 3. 社会や自然環境に関わいて、歴史的観点 別・位置の特別できる。 3. 社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組力に対して説明できる。 3. 社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組力に対して説明できる。 4. 日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的観点から影明できる。 4. 日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的観点から説明できる。 4. 日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的観点から説明できる。 5. 国家間や国家内で見られる。いわりる民族問題など、文化的相違に違に起因する諸問題について、歴史的観点から説明できる。 6. 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを説明できる。 6. 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの方切さを説明できる。 6. 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの方切さを説明できる。 6. 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの方切さを説明できる。 6. 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの方切さを説明できる。 6. 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの方切さを説明できる。 6. 文化の多様性を認識し、互いの文様に表記識し、互いの文格性を認識し、互いの文様に表記識し、互いの文格性を認識と互いの表述の意味が解ける。 6. 文化の多様性を認識と互いの多様性を認識と互いの多様性を認識と互いの表述の表述を説明できる。 6. 文化の多様性を認識し、互いの文様に表記識し、石いの文様に表記識し、「互いの文様性を認識し、「互いの文様性を認識し、「互いの多様性を認識」といの多様性を認識し、「互いの多様性を認識」といの多様性を認識し、「互いの多様性を認識」といの多様性を認識し、「互いの多様性を認識」といの多様性を認識し、「互いの多様性を認識」といの多様性を認識し、「互いの多様性を認識」といの多様性を認識し、「互いの多様性を認識」といの多様性を認識し、「互いの多様性を認識」といの多様性を認識し、「互いの多様性を認識」といの多様性を認識し、「互いの多様性を認識」といの多様性を認識し、「互いの多様性を認識」といの多様性を認識し、「互いの多様性を認識」といの多様性を認識し、「互いの多様性を認識」といの多様性を認識し、「互いの多様性を認識」といの多様性を認識し、「互いの多様性を認識」といの多様性を認識し、「互いの多様性を認識」といの表述を対していて、歴史の表述を対していていて、関すなどの文化の表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表			
りや、産業の発展が自然環境に及ぼした際にしたが高端できる。 3. 社会や自然環境に関和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて、歴史的観点から説明できる。 4. 日本を含む世界の様々な生活 文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的観点から説明できる。 4. 日本を含む世界の様々な生活 文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的観点から説明できる。 5. 国家間や国家内で見られる。いわりる民族問題など、文化の相違に起因する諸問題について、歴史的観点から説明できる。 5. 国家間や国家内で見られる。いわりる民族問題など、文化の相違に起因する諸問題について、歴史的観点から説明できる。 6. 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを説明できる。 6. 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを説明できる。 6. 大化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを説明できる。 6. 大化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切きる。 6. 大化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを説明できる。 6. 大化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを説明できる。 6. 大化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを説明できる。 6. 大化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを説明できる。 6. 大化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを説明できる。 6. 大化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを説明できる。 6. 大化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さに関する基本的な問題が解ける。 6. 大化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さに関する基本的な問題が解ける。 6. 大化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの説明できる。 6. 大化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの説明できる。 6. 大化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの説明できる。 6. 大化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの計画を対した。 6. 大化の多様性を認識し、互いの文でも考を書を持つ。 6. 大部は財政・大田性・大田性・大田性・大田性・大田性・大田性・大田性・大田性・大田性・大田性	等) などの人 過程の地域的 展が社会に及		
業発展に向けた現在までの取り組みに 内について説明できる。	環境に及ぼし 史的観点から		
文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的観点から説明できる。 5. 国家間や国家内で見られる、いわりる民族問題など、文化的相違に違に起因する諸問題について、歴史的観点から説明できる。 6. 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを説明できる。 5. 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを説明できる。 6. 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを説明できる。 7 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを説明できる。 7 本の文化を尊重することの大切さを記録し、互いの文化を尊重することの大切さを説明できる。 7 本の到達目標項目との関係 「人間性」実践性」国際性 教育方法等 ・歴史的な視点から人間、社会、文化について多面的に理解し、国際社会の一員として社会的諸問題の解えた。人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追求しながら、技術者として社会に貢達素養を培う。・人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追求しながら、技術者として社会に貢達素養を培う。・人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追求しながら、技術者として社会に貢達素養を培う。・人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追求しながら、技術者として社会に貢達表養を培う。・人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追求しながら、技術者として社会に貢達表養を培う。・人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追求しながら、技術者として社会に貢養表養を培う。・人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追求しながら、技術者として社会に貢養表養を培う。・成績は、定期試験50%(前期定期試験20%)、判達度試験(中間試験)30%(前	の取り組みに		
いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、歴史的製点から説明できる。 6. 文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを説明できる。 グ化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを説明できる。 グ中の到達目標項目との関係 「人間性」 実践性 国際性 教育方法等 ・歴史的な視点から人間、社会、文化について多面的に理解し、国際社会の一員として社会的諸問題の解決を持ち、幸福とは何かを追求しながら、技術者として社会に貢献素養を培う。・人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追求しながら、技術者として社会に貢献素養を培う。・人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追求しながら、技術者として社会に貢献素養を培う。・・授業は、主として教科書を用いる講義形式で進める。・・ 近端は、定期試験50%、後期定期試験30%)、到達度試験(中間試験)30%(前額ではおいた。 200 日間に対しておいた。 200 日間に対して、 200 日間に対して	文化的諸事象		
の文化を尊重することの大切さを 化を尊重することの大切さを説明 化を尊重することの大切さに関す 化を尊重することの記事できる。 名基本的な問題が解ける。 名基本的な問題が解ける。 名基本的な問題が解ける。 名基本的な問題が解する。 名本的な問題が解する。 名本的な問題が解する。 名本のは同意ない。 名本のはのはのはのはのはのはない。 名本のはのはのはのはない。 名本のはのは	文化的相違にいて、歴史的		
I 人間性 II 実践性 II 国際性 教育方法等 - 歴史的な視点から人間、社会、文化について多面的に理解し、国際社会の一員として社会的諸問題の解え 体的に貢献する自覚と素養を培う。 ・ 人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追求しながら、技術者として社会に貢育素養を培う。 ・ 授業は、主として教科書を用いる講義形式で進める。 ・ 成績は、定期試験50%(前期定期試験20%、後期定期試験30%)、到達度試験(中間試験)30%(前	大切さに関す		
I 人間性 II 実践性 II 国際性 教育方法等 - 歴史的な視点から人間、社会、文化について多面的に理解し、国際社会の一員として社会的諸問題の解え 体的に貢献する自覚と素養を培う。 ・ 人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追求しながら、技術者として社会に貢育素養を培う。 ・ 授業は、主として教科書を用いる講義形式で進める。 ・ 成績は、定期試験50%(前期定期試験20%、後期定期試験30%)、到達度試験(中間試験)30%(前			
・歴史的な視点から人間、社会、文化について多面的に理解し、国際社会の一員として社会的諸問題の解決体的に貢献する自覚と素養を培う。 ・人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追求しながら、技術者として社会に貢献素養を培う。 ・授業は、主として教科書を用いる講義形式で進める。 ・成績は、定期試験50%(前期定期試験20%、後期定期試験30%)、到達度試験(中間試験)30%(前後			
概要 体的に貢献する自覚と素養を培う。 ・人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追求しながら、技術者として社会に貢育素養を培う。 ・授業は、主として教科書を用いる講義形式で進める。 ・成績は、定期試験50%(前期定期試験20%、後期定期試験30%)、到達度試験(中間試験)30%(前			
・成績は、定期試験50%(前期定期試験20%、後期定期試験30%)、到達度試験(中間試験)30%(前行			
授業の進め方・方法 15%)、課題等20%での割合で評価する。合格点は60点以上である。尚、評価が60点に達しない者には、末(試験範囲:1年間の授業内容)に実施する。再試験を実施した場合、上記に掲げた各試験の割合の合語の点数を2:1の割合で再評価する。但し、この場合、評価の上限は60点とする。	再試験を学年 計と、再試験		
グログラス は			
授業の属性・履修上の区分	%=		
□ アクティブラーニング□ ICT 利用□ 遠隔授業対応□ 実務経験のあるま	以負による授業		
授業計画			
週 授業内容 週ごとの到達目標			
1週 イントロダクション 世界史を学ぶ意義について			
2週 ヨーロッパ世界の拡大 大航海時代の到来によって一体化へと向	 かう世界の形		
3週 ルネサンスと宗教改革① ルネサンスと宗教改革について説明でき	る。		
4週 ルネサンスと宗教改革② ルネサンスと宗教改革について説明でき	る。		
前期 1stQ 5週 ルネサンスと宗教改革③ ルネサンスと宗教改革(ついて説明でき	る。		
6週 ヨーロッパ主権国家体制の形成① 主権国家の形成期に生まれた絶対王政の説明できる。			
プ週ーロッパ王権国家体制の形成と説明できる。	主権国家の形成期に生まれた絶対王政の確立について		
8週 ヨーロッパ主権国家体制の展開① 主権国家体制の展開について説明できる			

		9週	ヨーロッパ主権国家	 体制の展開②		主権国家体制の展開	 開について説明でる	きる。	
		10週	産業革命による社会	の変容		産業革命が起こった 響について説明で	こ背景とその展開、 きる。	社会に与えた影	
		11週	市民革命と国民国家	市民革命と国民国家の形成①			フランス革命とっ の形成について説明	トポレオン戦争等 月できる。	
	2ndQ	12週	市民革命と国民国家	市民革命と国民国家の形成②			フランス革命とつ の形成について説明	月できる。	
			市民革命と国民国家の形成③			アメリカ独立革命、フランス革命とナポレオン戦争等を通して国民国家の形成について説明できる。			
		14週	ナショナリズムの形	成①		ナショナリズムのチ	形成について説明で	ごきる。	
		15週	ナショナリズムの形	成②		ナショナリズムのチ	形成について説明で	できる。 	
		16週	定期試験						
		1週	帝国主義の時代①			帝国主義の成立・原アジアの変動にいる	て説明できる。		
		2週	帝国主義の時代②			帝国主義の成立・原アジアの変動にいる	展開と列強によるt C説明できる。	世界分割の状況と	
		3週	帝国主義の時代③			帝国主義の成立・原アジアの変動にいる	展開と列強によるt て説明できる。	世界分割の状況と	
		4週	第一次世界大戦①			ヴェルサイユ体制の レジーム変革につい		欠世界大戦前後の	
	3rdQ	5週	第一次世界大戦②			ヴェルサイユ体制の レジーム変革につい	 の樹立など、第一次 ハて説明できる。	欠世界大戦前後の	
	٥٠٩٧	6週	第一次世界大戦③			ヴェルサイユ体制の レジーム変革につい		欠世界大戦前後の	
		7週	第二次世界大戦①			世界恐慌等の経済的 次世界大戦に至った 国際連合など現代の がどのように影響を	り背景や民族対立な こ背景を理解し説の の国際的枠組みに、	月できる。また、 第二次世界大戦	
		8週	第二次世界大戦②			世界恐慌等の経済的背景や民族対立など複眼的に第二次世界大戦に至った背景を理解し説明できる。また、 国際連合など現代の国際的枠組みに、第二次世界大戦がどのように影響を与えたかを説明できる。			
		9週	第二次世界大戦③	第二次世界大戦③			内背景や民族対立な こ背景を理解し説明 の国際的枠組みに、 を与えたかを説明で	月できる。また、 第二次世界大戦	
後期	後期 4thQ		第二次世界大戦④	各二次世界大戦④			内背景や民族対立な こ背景を理解し説明 の国際的枠組みに、 を与えたかを説明で	月できる。また、 第二次世界大戦	
			大戦後の世界①	戦後の世界①		1991年のソビエト連邦崩壊以前、国際政治を規定しいた東西対立 = 冷戦構造についての理解を深めるとともに、92年以後、グローバリゼーションの展開とリージョナリズムの伸長が同時進行する現代世界について説明できる。			
			大戦後の世界②			1991年のソビエト連邦崩壊以前、国際政治を規定していた東西対立 = 冷戦構造についての理解を深めるとともに、92年以後、グローバリゼーションの展開とリージョナリズムの伸長が同時進行する現代世界について説明できる。			
		13週	大戦後の世界③	大戦後の世界③			1991年のソビエト連邦崩壊以前、国際政治を規定していた東西対立=冷戦構造についての理解を深めるとともに、92年以後、グローバリゼーションの展開とリージョナリズムの伸長が同時進行する現代世界について説明できる。		
		14週	大戦後の世界④	4		1991年のソビエト連邦崩壊以前、国際政治を規定しいた東西対立=冷戦構造についての理解を深めるとももに、92年以後、グローバリゼーションの展開とリジョナリズムの伸長が同時進行する現代世界について説明できる。			
		15週	大戦後の世界⑤	大戦後の世界⑤			連邦崩壊以前、国 线構造についての5 グローバリゼーシ 長が同時進行する5	ョンの展開とリー	
	<u></u>	16週	定期試験						
評価割合	<u> </u>	•							
1 IM 0 1 F		定期試験	到達度試験(中間試験)	課題等				合計	
総合評価害		50	30	20	0	0	0	100	
基礎的能力		50 50	30	20	0	0	0	100	
専門的能力)	0	0	0	0	0	0	
分野横断的			0	0	0	0	0	0	
22 23 DEMIN	- ,,,,,	-	1 -	1 -	1.5		1.	1 -	

苫小牧		 等専門学校	開講年度の令和	 l03年度 (2	.021年度)	授業科目		
科目基礎		3 (31 3 3 1/2		<u> </u>		1221111		
科目番号	LIDTK	0034			科目区分	一般 / 必修		
授業形態		授業			単位の種別と単位	, "		
開設学科					対象学年	2		
開設期		通年	1 (///////////////////////////////////		週時間数	2		
教科書/教	 ᡮᡮ	『詳説世界						
担当教員	נאן	坂下 俊彦		y icilio Cie	五加川テン			
到達目標	<u> </u>	170 1 10/2						
1. 産業活 た影響にこ 2. 社会や 3. 社会や 4. 日家間	動(農牧業、 ついて説明で 動と自然環 り自然環境に で含む世界の 間や国家内で	ごきる。 環境との関わり こ調和した産動 O様々な生活り で見られる、(工業、商業・サービス業) や、産業の発展が自然現業発展に向けた現在までの 文化、民族・宗教などのないかゆる民族問題など、な) 文化を尊重することの)	環境に及ぼしが の取り組みにで 文化的諸事象に 文化的相違に	た影響について、原 ついて説明できる。 こついて、歴史的 起因する諸問題にご	歴史的観点から説明		
ルーブリ	<u> </u>		-					
			理想的な到達レベルの	目安	標準的な到達レヘ	いいの目安	未到達レベルの目安	
工業、商業 の人間活動 域的特性、	美・サービス かの歴史的発 産業などの	、水産業、鉱 ス業等)など 終展過程の地 O発展が社会 Nて説明でき	産業活動(農牧業、水産 、商業・サービス業等 間活動の歴史的発展過 特性、産業などの発展 ばした影響について説)などの人 程の地域的 が社会に及	産業活動(農牧業、 、商業・サービス 間活動の歴史的発 特性、産業などの ぼした影響に関す が解ける。)発展が社会に及	産業活動(農牧業、水産業、鉱工業 、商業・サービス業等) などの人 間活動の歴史的発展過程の地域的 特性、産業などの発展が社会に及 ぼした影響に関する基本的な問題 が解けない。	
りや、産業 ぼした影響 から説明で	美の発展が自 響について、 ごきる。	環境との関わ 自然環境に及 歴史的観点	人間活動と自然環境と 、産業の発展が自然環 た影響について、歴史 説明できる。	境に及ぼし 的観点から	た影響について、 基本的な問題が解	然環境に及ぼし 歴史的観点から なる。	人間活動と自然環境との関わりや 、産業の発展が自然環境に及ぼし た影響について、歴史的観点から 基本的な問題が解けない。	
業発展に向みについて	可けた現在ま こ説明できる		社会や自然環境に調和 展に向けた現在までの ついて説明できる。	取り組みに	社会や自然環境に 展に向けた現在ま 関する基本的な問	そでの取り組みに 問題が解ける。	社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みに関する基本的な問題が解けない。	
4. 日本を含む世界の様々な生活 文化、民族・宗教などの文化的諸 事象について、歴史的観点から説 明できる。			日本を含む世界の様々 、民族・宗教などの文 について、歴史的観点 きる。	化的諸事象	日本を含む世界の 、民族・宗教など について、歴史的 な問題が解ける。	の文化的諸事象	日本を含む世界の様々な生活文化 、民族・宗教などの文化的諸事象 について、歴史的観点から基本的 な問題が解けない。	
いわゆる民族問題など、文化的相 ゆ 違に起因する諸問題について、歴 起			国家間や国家内で見らゆる民族問題など、文を起因する諸問題につい 観点から説明できる。	れる、いわ 化的相違に て、歴史的	国家間や国家内で ゆる民族問題など 起因する諸問題に 観点から基本的な	ご、文化的相違に こついて、歴史的	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起する諸問題について、歴史的観点から基本的な問題が解けない。	
	重すること	認識し、互い Cの大切さを	文化の多様性を認識し 化を尊重することの大 できる。		文化の多様性を認 化を尊重すること る基本的な問題か	この大切さに関す	文化の多様性を認識し、互いの文 化を尊重することの大切さに関す る基本的な問題が解けない。	
学科の到	達目標項	目との関係	 系				•	
I 人間 Ⅱ 実践 Ⅲ 国際 教育方法	性 性 							
概要	- 13	体的に貢献	ぱする自覚と素養を培う。 かや科学技術の役割と影響				して社会的諸問題の解決に向けて主 支術者として社会に貢献する自覚と	
授業の進め	か方・方法	・成績は、 15%)、 末(試験 の点数を2	課題等20%での割合で評 0囲:1年間の授業内容) :1の割合で再評価する。	期試験20%、 価する。合格 に実施する。 但し、この場	後期定期試験30% 点は60点以上であ 再試験を実施した 合、評価の上限は	5る。尚、評価が6 5場合、上記に掲に 560点とする。	(中間試験) 30%(前後期各1回、各 0点に達しない者には、再試験を学年 げた各試験の割合の合計と、再試験	
注意点	- III	の成果を問	3頃より新聞を読み、社会 引う。また、長期休業中に				尚、年4回時事問題論述としてそ 果す。	
		<u>と上の区分</u>	_		Ι			
□ アクテ	<u>ィブラーニ</u>	ング	□ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業	
授業計画	<u> </u>				,			
		週	受業内容			週ごとの到達目標		
		1週 -	イントロダクション			世界史を学ぶ意義	について	
		2週	ヨーロッパ世界の拡大				によって一体化へと向かう世界の形	
						成過程について説		
			レネサンスと宗教改革①	<u> </u>			改革について説明できる。	
			レネサンスと宗教改革②				改革について説明できる。	
前期	1stQ	5週	レネサンスと宗教改革③				改革について説明できる。	
		6週 :	ヨーロッパ主権国家体制の	の形成①		説明できる。	に生まれた絶対王政の確立について	
		7週 :	ヨーロッパ主権国家体制の	一口ッパ主権国家体制の形成②			に生まれた絶対王政の確立について	
	8週 ヨーロッパ主権国家体制の展開①					主権国家体制の展開について説明できる。		

		9週	ヨーロッパ主権国家	 体制の展開②		主権国家体制の展開	 開について説明でる	きる。	
		10週	産業革命による社会	の変容		産業革命が起こった 響について説明で	こ背景とその展開、 きる。	社会に与えた影	
		11週	市民革命と国民国家	市民革命と国民国家の形成①			フランス革命とっ の形成について説明	トポレオン戦争等 月できる。	
	2ndQ	12週	市民革命と国民国家	市民革命と国民国家の形成②			フランス革命とつ の形成について説明	月できる。	
			市民革命と国民国家の形成③			アメリカ独立革命、フランス革命とナポレオン戦争等を通して国民国家の形成について説明できる。			
		14週	ナショナリズムの形	成①		ナショナリズムのチ	形成について説明で	ごきる。	
		15週	ナショナリズムの形	成②		ナショナリズムのチ	形成について説明で	できる。 	
		16週	定期試験						
		1週	帝国主義の時代①			帝国主義の成立・原アジアの変動にいる	て説明できる。		
		2週	帝国主義の時代②			帝国主義の成立・原アジアの変動にいる	展開と列強によるt C説明できる。	世界分割の状況と	
		3週	帝国主義の時代③			帝国主義の成立・原アジアの変動にいる	展開と列強によるt て説明できる。	世界分割の状況と	
		4週	第一次世界大戦①			ヴェルサイユ体制の レジーム変革につい		欠世界大戦前後の	
	3rdQ	5週	第一次世界大戦②			ヴェルサイユ体制の レジーム変革につい	 の樹立など、第一次 ハて説明できる。	欠世界大戦前後の	
	٥٠٩٧	6週	第一次世界大戦③			ヴェルサイユ体制の レジーム変革につい		欠世界大戦前後の	
		7週	第二次世界大戦①			世界恐慌等の経済的 次世界大戦に至った 国際連合など現代の がどのように影響を	り背景や民族対立な こ背景を理解し説の の国際的枠組みに、	月できる。また、 第二次世界大戦	
		8週	第二次世界大戦②			世界恐慌等の経済的背景や民族対立など複眼的に第二次世界大戦に至った背景を理解し説明できる。また、 国際連合など現代の国際的枠組みに、第二次世界大戦がどのように影響を与えたかを説明できる。			
		9週	第二次世界大戦③	第二次世界大戦③			内背景や民族対立な こ背景を理解し説明 の国際的枠組みに、 を与えたかを説明で	月できる。また、 第二次世界大戦	
後期	後期 4thQ		第二次世界大戦④	各二次世界大戦④			内背景や民族対立な こ背景を理解し説明 の国際的枠組みに、 を与えたかを説明で	月できる。また、 第二次世界大戦	
			大戦後の世界①	戦後の世界①		1991年のソビエト連邦崩壊以前、国際政治を規定しいた東西対立 = 冷戦構造についての理解を深めるとともに、92年以後、グローバリゼーションの展開とリージョナリズムの伸長が同時進行する現代世界について説明できる。			
			大戦後の世界②			1991年のソビエト連邦崩壊以前、国際政治を規定していた東西対立 = 冷戦構造についての理解を深めるとともに、92年以後、グローバリゼーションの展開とリージョナリズムの伸長が同時進行する現代世界について説明できる。			
		13週	大戦後の世界③	大戦後の世界③			1991年のソビエト連邦崩壊以前、国際政治を規定していた東西対立=冷戦構造についての理解を深めるとともに、92年以後、グローバリゼーションの展開とリージョナリズムの伸長が同時進行する現代世界について説明できる。		
		14週	大戦後の世界④	4		1991年のソビエト連邦崩壊以前、国際政治を規定しいた東西対立=冷戦構造についての理解を深めるとももに、92年以後、グローバリゼーションの展開とリジョナリズムの伸長が同時進行する現代世界について説明できる。			
		15週	大戦後の世界⑤	大戦後の世界⑤			連邦崩壊以前、国 线構造についての5 グローバリゼーシ 長が同時進行する5	ョンの展開とリー	
	<u></u>	16週	定期試験						
評価割合	<u> </u>	•							
1 IM 0 1 F		定期試験	到達度試験(中間試験)	課題等				合計	
総合評価害		50	30	20	0	0	0	100	
基礎的能力		50 50	30	20	0	0	0	100	
専門的能力)	0	0	0	0	0	0	
分野横断的			0	0	0	0	0	0	
22 23 DEMIN	- ,,,,,	-	1 -	1 -	1.5		1.	1 -	

		 等専門学校	開講年度	令和03年度 (2	 2021年度)	授業科目		
科目基礎		<u> </u>	Z/ - E 40//	13小LUS	2021+12)			
<u>17 山 </u>	CIH+K	0035			科目区分	一般 / 必何		
授業形態			授業			#日区分		
開設学科			創造工学科(一般科目)			2	_	
開設期		通年	(/32/1111/		対象学年 週時間数	2		
教科書/教		『詳説世界		 t) /必要に応じて通	1			
担当教員		坂下 俊彦	7.0	-, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,				
到達目標	<u> </u>	1 11 11 11 11						
た影響にて 2. 人間記 3. 社会や 4. 日本を 5. 国家間	Oいて説明で 動と自然環 自然環境に で含む世界の 間や国家内で	ごきる。 環境との関わり ご調和した産業 O様々な生活文 ご見られる、い	や、産業の発展が 発展に向けた現存 化、民族・宗教ないかのる民族問題な	が自然環境に及ぼし Eまでの取り組みに Aどの文化的諸事象	た影響について、。 ついて説明できる について、歴史的 起因する諸問題に	歴史的観点から説 。 観点から説明でき		
ルーブリ	リック				_			
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レイ	ベルの目安	未到達レベルの目安	
工業、商業 の人間活動 域的特性、	美・サービス かの歴史的発 産業などの	、水産業、鉱 ス業等)など 経展過程の地 O発展が社会 いて説明でき	、商業・サービス 間活動の歴史的教	、水産業、鉱工業 ス業等)などの人 発展過程の地域的 の発展が社会に及 いて説明できる。	、商業・サービス 間活動の歴史的教 特性、産業などの	、水産業、鉱工業 ス業等)などの人 発展過程の地域的 の発展が社会に及 する基本的な問題	産業活動(農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等)などの人間活動の歴史的発展過程の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響に関する基本的な問題が解けない。	
りや、産業	きの発展が自 響について、	環境との関わ 自然環境に及 歴史的観点	一、産業の発展が	環境との関わりや 自然環境に及ぼし 歴史的観点から	一、産業の発展が関	環境との関わりや 自然環境に及ぼし 歴史的観点から 解ける。	人間活動と自然環境との関わりや 、産業の発展が自然環境に及ぼし た影響について、歴史的観点から 基本的な問題が解けない。	
業発展に向 みについて	可けた現在ま こ説明できる		展に向けた現在さついて説明できる		展に向けた現在る関する基本的な問		社会や自然環境に調和した産業発 展に向けた現在までの取り組みに 関する基本的な問題が解けない。	
文化、民族	ま・宗教なと	D様々な生活 どの文化的諸 内観点から説	日本を含む世界(、民族・宗教なる について、歴史的 きる。	の様々な生活文化 どの文化的諸事象 的観点から説明で	一、民族・宗教なる	D様々な生活文化 どの文化的諸事象 内観点から基本的	日本を含む世界の様々な生活文化 、民族・宗教などの文化的諸事象 について、歴史的観点から基本的 な問題が解けない。	
5. 国家間や国家内で見られる、 いわゆる民族問題など、文化的相 違に起因する諸問題について、歴 史的観点から説明できる。		ゆる民族問題なる	で見られる、いわ ど、文化的相違に について、歴史的 きる。	ゆる民族問題なる	で見られる、いわ ど、文化的相違に こついて、歴史的 よ問題が解ける。	国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に 起因する諸問題について、歴史的 観点から基本的な問題が解けない。		
6. 文化の の文化を尊 説明できる	重すること	認識し、互い この大切さを	文化の多様性を記 化を尊重することできる。	認識し、互いの文 との大切さを説明	文化の多様性を記 化を尊重すること る基本的な問題が	忍識し、互いの文 との大切さに関す が解ける。	文化の多様性を認識し、互いの文 化を尊重することの大切さに関す る基本的な問題が解けない。	
学科の到	」達目標項	目との関係	Ŕ					
I 人間 II 実践 II 国際 教育方法	性 性 							
概要	<u> </u>	体的に貢献	する自覚と素養をや科学技術の役割	培う。			して社会的諸問題の解決に向けて主 技術者として社会に貢献する自覚と	
授業の進め	方・方法	・授業は、 ・成績は、 15%)、誤 末(試験範 の点数を2:	主として教科書を 定期試験50%(前 課題等20%での割; 囲:1年間の授業 1の割合で再評価	合で評価する。合格 (内容) に実施する する。但し、この ^り	後期定期試験30% 各点は60点以上です 。再試験を実施した 場合、評価の上限に	5る。尚、評価が6 た場合、上記に掲り は60点とする。	(中間試験) 30% (前後期各1回、各 10点に達しない者には、再試験を学给 げた各試験の割合の合計と、再試験	
注意点 授業の属	雪性 • 屠鸠	・学生は日 の成果を問 8上の区分	頃より新聞を読み う。また、長期休	y、社会問題や社会 、業中には新聞1面	情勢に関心をもつ。 のコラム欄を読み。	よう心がけること。 、まとめる作業を ************************************	。尚、年4回時事問題論述としてそ 果す。	
	イブラーニ		□ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応	- N	□ 実務経験のある教員による授業	
	 Ū							
		週 授				週ごとの到達目標		
			ントロダクション			世界史を学ぶ意義		
						大航海時代の到来	によって一体化へと向かう世界の形	
]ーロッパ世界の拡	4/		成過程について説	明できる。	
3週			/ネサンスと宗教改	女革①			改革について説明できる。	
			/ネサンスと宗教改				改革について説明できる。	
前期	1stQ	5週 ル	/ネサンスと宗教改	女革③		ルネサンスと宗教	改革について説明できる。	
		6週 =	ヨーロッパ主権国家	家体制の形成①		説明できる。	に生まれた絶対王政の確立について	
			コーロッパ主権国家			主権国家の形成期に生まれた絶対王政の確立について説明できる。		
		8週 =	ヨーロッパ主権国家	水体制の展開①		王権国家体制の展	開について説明できる。	

		9週	ヨーロッパ主権国家	 体制の展開②		主権国家体制の展開	 開について説明でる	きる。	
		10週	産業革命による社会	の変容		産業革命が起こった 響について説明で	こ背景とその展開、 きる。	社会に与えた影	
		11週	市民革命と国民国家	市民革命と国民国家の形成①			フランス革命とっ の形成について説明	トポレオン戦争等 月できる。	
	2ndQ	12週	市民革命と国民国家	市民革命と国民国家の形成②			フランス革命とつ の形成について説明	月できる。	
			市民革命と国民国家の形成③			アメリカ独立革命、フランス革命とナポレオン戦争等を通して国民国家の形成について説明できる。			
		14週	ナショナリズムの形	成①		ナショナリズムのチ	形成について説明で	ごきる。	
		15週	ナショナリズムの形	成②		ナショナリズムのチ	形成について説明で	できる。 	
		16週	定期試験						
		1週	帝国主義の時代①			帝国主義の成立・原アジアの変動にいる	て説明できる。		
		2週	帝国主義の時代②			帝国主義の成立・原アジアの変動にいる	展開と列強によるt C説明できる。	世界分割の状況と	
		3週	帝国主義の時代③			帝国主義の成立・原アジアの変動にいる	展開と列強によるt て説明できる。	世界分割の状況と	
		4週	第一次世界大戦①			ヴェルサイユ体制の レジーム変革につい		欠世界大戦前後の	
	3rdQ	5週	第一次世界大戦②			ヴェルサイユ体制の レジーム変革につい	 の樹立など、第一次 ハて説明できる。	欠世界大戦前後の	
	٥٠٩٧	6週	第一次世界大戦③			ヴェルサイユ体制の レジーム変革につい		欠世界大戦前後の	
		7週	第二次世界大戦①			世界恐慌等の経済的 次世界大戦に至った 国際連合など現代の がどのように影響を	り背景や民族対立な こ背景を理解し説の の国際的枠組みに、	月できる。また、 第二次世界大戦	
		8週	第二次世界大戦②			世界恐慌等の経済的背景や民族対立など複眼的に第二次世界大戦に至った背景を理解し説明できる。また、 国際連合など現代の国際的枠組みに、第二次世界大戦がどのように影響を与えたかを説明できる。			
		9週	第二次世界大戦③	第二次世界大戦③			内背景や民族対立な こ背景を理解し説明 の国際的枠組みに、 を与えたかを説明で	月できる。また、 第二次世界大戦	
後期	後期 4thQ		第二次世界大戦④	各二次世界大戦④			内背景や民族対立な こ背景を理解し説明 の国際的枠組みに、 を与えたかを説明で	月できる。また、 第二次世界大戦	
			大戦後の世界①	戦後の世界①		1991年のソビエト連邦崩壊以前、国際政治を規定しいた東西対立 = 冷戦構造についての理解を深めるとともに、92年以後、グローバリゼーションの展開とリージョナリズムの伸長が同時進行する現代世界について説明できる。			
			大戦後の世界②			1991年のソビエト連邦崩壊以前、国際政治を規定していた東西対立 = 冷戦構造についての理解を深めるとともに、92年以後、グローバリゼーションの展開とリージョナリズムの伸長が同時進行する現代世界について説明できる。			
		13週	大戦後の世界③	大戦後の世界③			1991年のソビエト連邦崩壊以前、国際政治を規定していた東西対立=冷戦構造についての理解を深めるとともに、92年以後、グローバリゼーションの展開とリージョナリズムの伸長が同時進行する現代世界について説明できる。		
		14週	大戦後の世界④	4		1991年のソビエト連邦崩壊以前、国際政治を規定しいた東西対立=冷戦構造についての理解を深めるとももに、92年以後、グローバリゼーションの展開とリジョナリズムの伸長が同時進行する現代世界について説明できる。			
		15週	大戦後の世界⑤	大戦後の世界⑤			連邦崩壊以前、国 线構造についての5 グローバリゼーシ 長が同時進行する5	ョンの展開とリー	
	<u></u>	16週	定期試験						
評価割合	<u> </u>	•							
1 IM 0 1 F		定期試験	到達度試験(中間試験)	課題等				合計	
総合評価害		50	30	20	0	0	0	100	
基礎的能力		50 50	30	20	0	0	0	100	
専門的能力)	0	0	0	0	0	0	
分野横断的			0	0	0	0	0	0	
22 23 DEMIN	- ,,,,,	-	1 -	1 -	1.5		1.	1 -	

苫小:	牧工業高	等専門学校	開講年度 令和03年度 (2	 2021年度)	授業科目		
科目基础							
科目番号		0036		科目区分	一般 / 必修	3	
授業形態		授業		単位の種別と単位			
開設学科		創造工学	科(一般科目)	対象学年	2		
開設期		通年		週時間数	3		
教科書/教	材	教科書書)、自	: 新井一道他著「新微分積分 I 」(大E 作プリント	日本図書) 補助教		「新微分積分 I 問題集」(大日本図	
担当教員		藤島 勝弘	<u> </u>				
到達目	票						
1) 関数 2) いろ 3) 関数 4) 定種	の極限、微いるな関数 いろな関数 の変動とそ 分と不定積	7分係数、導閉 7の導関数(3 7の応用(関数	次の内容を理解して基本的な計算問題 関数 三角関数、逆三角関数、対数関数、指数 数の増減・極値、曲線の凹凸・変曲点、 分法、部分積分法		ె .		
ルーブ	リツク			1#3### 15 71D# 1		+70*1 - 20 -	
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レク		未到達レベルの目安	
評価項目	1		「関数の極限、微分係数、導関数」を理解して色々な計算問題を解 くことができる。	関数の極限、 」を理解して基準 解くことができる	微分係数、導関数 本的な計算問題を る。	「 関数の極限、微分係数、導関数 」を理解して基本的な計算問題を 解くことができない。	
評価項目	2		「いろいろな関数の導関数(三角 関数、逆三角関数、対数関数、指 数関数)」を理解して色々な計算 問題を解くことができる。	関数、逆三角関	数の導関数(三角 数、対数関数、指 解して基本的な計 とができる。	「いろいろな関数の導関数(三角 関数、逆三角関数、対数関数、指 数関数)」を理解して基本的な計 算問題を解くことができない。	
評価項目	3		「関数の変動とその応用(関数の増減・極値、曲線の凹凸・変曲点、速度と加速度)」を理解して色々な計算問題を解くことができる。	増減・極値、曲線 、速度と加速度)	その応用(関数の 線の凹凸・変曲点 」を理解して基 を解くことができ	「関数の変動とその応用(関数の 増減・極値、曲線の凹凸・変曲点 、速度と加速度)」を理解して基 本的な計算問題を解くことができ ない。	
評価項目4 、部分積分法 を理解し			「定積分と不定積分、置換積分法 、部分積分法」を理解して色々な 計算問題を解くことができる。	定積分と不定積金部分積分法」を引力積分法」を引力である。 計算問題を解くる	理解して基本的な	「定積分と不定積分、置換積分法 、部分積分法」を理解して基本的 な計算問題を解くことができない 。	
学科の	到達目標耳	頁目との関	係				
I 人間 工 実置 工 国間	間性 浅性 祭性						
教育方法	法等						
概要		1) 関数 2) いる 3) 関数	分は工学の基礎である。次の内容を理 対の極限、微分係数、導関数 らいろな関数の導関数(三角関数、逆三 対の変動とその応用(関数の増減・極値 責分と不定積分、置換積分法、部分積分	通関数、対数関数 、曲線の凹凸・変	4、指数関数)		
授業の進	め方・方法	−−−きる。授	業では次々に新しい概念や考え方に接 業は座学講義と問題演習を中心に進め の成績が60点未満のものに対して再試 行う。	、必要に応じて課	題を課して基礎的記	†笪力・応用力の養成を図る。	
注意点		一旦つま するよう	工学の基本であり、1年で学んだ数学 I ずくと先に進むのが困難となるので、 心がけること。数学は、学生諸君が今 る知識を習得し、またその応用力を養	日々の予習・復習 後学んでいく工学	の習慣を身につけ、 の基礎として位置:	授業の進み方は1年次よりも速く、 授業の内容はその日のうちに理解 びけられる。継続的学習により数学	
授業の	属性・履何	多上の区分 アンティア アンティ アンディ アンディ アンディ アンディ アンディ アンディ アンティ アンティ アンティ アンティ アンティ アンティ アングラ アング アンティ アンティ アンティ アンティ アンティ アンティ アンティ アンティ		_		1	
□ アクラ	ティブラーニ	ニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	<u></u>	□ 実務経験のある教員による授業	
授業計	画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
		1週	関数とその性質、関数の極限		簡単な場合につい [*] る。	て、関数の極限を求めることができ	
		2週	微分係数、導関数		求めることができ		
		3週	導関数の性質		がができる。	公式を用いて、導関数を求めること	
1stQ 4週 5週 6週 7週		4週	三角関数の導関数		三角関数の導関数を求めることができる。		
		5週	指数関数の導関数、練習問題		指数関数の導関数	を求めることができる。	
		6週	合成関数の導関数、対数関数の導関数		合成関数・対数関	数の導関数を求めることができる。	
		7週	逆三角関数とその導関数		逆三角関数を理解 とができる。	し、逆三角関数の導関数を求めるこ	
		8週	関数の連続、練習問題			ーーーー 用して証明することができる。	
		9週	接線と法線			て、関数の接線の方程式を求めるこ	
	2ndQ	10週	関数の増減			 用して、極値を求め、グラフの概形 る。	
		11週	 極大と極小		関数の増減表を利	用して、極値を求め、グラフの概形	
			<u> </u>		を描くことができ	<u> </u>	

		12週	関数の最大と最小			極値を利用して、 ができる。	関数の最大値・最小値を求めること		
		13週	不定形の極限、練	不定形の極限、練習問題			ロピタルの定理を用いて極限値を求めることができる。		
		14週	高次導関数			高次導関数を求め	かることができる。		
	15週		曲線の凹凸、練習	問題		2次の導関数を利 できる。	J用して、グラフの凹凸を調べることが		
		16週	前期定期試験						
		1週	媒介変数表示と微	分法			表示を理解し、媒介変数を利用して、 りることができる。		
		2週	媒介変数表示と微	分法			表示を理解し、媒介変数を利用して、 かることができる。		
		3週	速度と加速度			微分法を用いて選	速度・加速度を求めることができる。		
	3rdO	4週	平均値の定理、練	習問題		平均値の定理を理	里解できる。		
	SruQ	5週	不定積分			不定積分の定義をとができる。	を理解し、簡単な不定積分を求めるこ		
6週		6週	定積分の定義	定積分の定義			定積分の定義を理解し、簡単な定積分を求めることが できる。		
	7週		微分積分法の基本	微分積分法の基本定理			里を理解できる。		
		8週	定積分の計算	定積分の計算			求めることができる。		
後期		9週	いろいろな不定積	分の公式	不定積分の定義を理解し、簡単な不定積分を求める とができる。				
		10週	いろいろな不定積	分の公式		不定積分の定義をとができる。	を理解し、簡単な不定積分を求めるこ		
		11週	練習問題		不定積分・定積分の基本的な計算ができ 置換積分用いて、不定積分や定積分を求 きる。		分の基本的な計算ができる。		
	411.0	12週	置換積分法				不定積分や定積分を求めることがで		
	4thQ	13週	置換積分法	置換積分法			置換積分用いて、不定積分や定積分を求めることがで きる。		
	14週 15週		部分積分法				不定積分、定積分の部分積分法を理解し、積分計算に 応用することができる。		
			部分積分法、練習	問題		不定積分、定積分の部分積分法を理解し、積分計算に応用することができる。			
	16週 後期定期試験								
評価割る	合								
			定期試験	達成度試験	調	思 等	合計		
総合評価	割合		50	25	2.	5	100		
基礎的能:	 カ	<u> </u>	50	25	2.	5	100		
専門的能:	 カ	()	0	0		0		
分野横断	的能力)	0	0		0		

評価項目1			
科目出音	H/WZIN/		
提案的			
開設学科 間面工学科 (一般科目) 対象学年 2 2 2 3 3 3 3 3 3 3			
調整			
数科書/教材 教 科書: 高遠前大曲書 「新基礎数字」、「新線形代数」 (大日本図書) 補助教材: 高遠前大他着担当教員 伊藤 方治 (大日本図書) (大日本図書) 相り教材: 高遠前大他着担当教員 伊藤 方治 (大日本図書) (大日本図書) 自作プリント (中藤 方治 1) 図形 (2 次時線) と式、 2 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7			
担当教員 「伊藤が八郎の理学」(大日本的語)、自行シリンド 到達目標 次の所含を理解して基本的な計算問題を解くことができる。 1) 図形(2 次曲線)と式 2) 場合の数と数列 3) スクトル 4) 行列 ループリック 「理想的な到達レベルの目安 「選挙の政制を対して、して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対	「新基礎数学問題集		
到達目標 次の吟音を理解して基本的な計算問題を解くことができる。 1) と関係(2次曲線)と式。 3) よのかりと説例 4) 行列 ルーブリック			
1 回豚 (2 次曲線) と式 2 湯合の飲と数列 3 / ベクトル 4 / 行列 1 / 行列 1 / できる。			
理想的な到達レベルの目安 標準的な到達レベルの目安 標準的な到達レベルの目安 下図形(2次由線)と式)を理解 「図形(2次由線)と式)を理解 「図形(2次由線)と式)を理解 「図形(2次由線)と式)を理解 「図形(2次由線)と式)を理解 「図形(2次中域)ができる。 「場合の数と数列」を理解して基本的な計算問題を解くことができる。 「場合の数と数列」を理解して基本的な計算問題を解くことができる。 「パクトル」を理解して色々な計算問題を解くことができる。 「イクトル」を理解して色々な計算問題を解くことができる。 「行列」を理解して色々な計算問題を解くことができる。 「行列」を理解して色々な計算問題を解くことができる。 「行列」を理解して色々な計算問題を解くことができる。 「行列」を理解して色々な計算問題を解くことができる。 「行列」を理解して多本的な計算問題を解くことができる。 「行列」を理解して多本的な計算問題を解くことができる。 「行列」を理解して多本的な計算問題を解くことができる。 「行列」を理解して多本的な計算問題を解くことができる。 「行列」を理解して多本のな計算問題を解くことができる。 「行列」を理解して多本のなが、			
評価項目1			
評価項目1			
評価項目2	曲線)と式」を理解 計算問題を解くこと		
算問題を解くことができる。 計算問題を解くことができる。 計算問題を解くことができる。 計算問題を解くことができる。 計算問題を解くことができる。 計算問題を解くことができる。 計算問題を解くことができる。	数列」を理解して基 題を解くことができ		
野神町垣日 関連を解くことができる。 問題を解くことができる。 問題を解くことができる。 問題を解くことができる。 問題を解くことができる。 問題を解くことができる。 問題を解くことができる。 問題を解くことができる。 問題を解くことができる。 問題を解くことになり、多くの問題を解くことによって理解を決して基準の構造を表現を表現した。 「図形(2次曲線)と式」、「場合の数と数列」、「ベクトル」、「行列」の基本概念を理解し、核くことを学ぶ。 数学の授業では次々に新しい概念や考え方に接することになり、多くの問題を解くことによって理解を表しました。 投業の提供と呼ば高度に問題演習を中心に進め、必要に応じて課題を課して基準的背景が、応用がいた。 1年で学んだ数学 I Aおよび数学 I Bの知識を要する。 投業の進み方は中学時代よりも遠く、一旦のが困難となるので、日々の予留・復習の習慣を身につけ、授業の内容はその日のうちに理解するよう 投業の属性・履修上の区分 ② 遠隔授業対応 ② 遠隔授業対応 ② 実務経験の授業計画 辺 との到達目標 いろいろな2次曲線 辺ごとの到達目標 いろいろな2次曲線 辺ごとの到達目標 切物線、楕円、双曲線の図形的なきる。 2週 いろいろな2次曲線 放物線、楕円、双曲線の図形的なきる。 次物線、楕円、双曲線の図形的なきる。 次の場線 域を不等式で表すことができる。 6週 練習問題 2次曲線、領域に関する基本的な問題が、場合の数 場合の数に見する基本的な問題が、現面は 1週 にものを含った。 11週 に現定理 「項定理を用いて多項式を展開で 11週 に現で理 「項定理を用いて多項式を展開で 11週 に現で理 「項定理を用いて多項式を展開で 11週 に現で	を理解して基本的な くことができない。		
学科の到達目標項目との関係 I 人間性 I 実践性 II 国際性 教育方法等 概要	解して基本的な計算 とができない。		
Ⅱ 実践性 ■ 国際性 教育方法等 概要			
概要 「図形 (2 次曲線) と式」、「場合の数と数列」、「ベクトル」、「行列」の基本概念を理解し、核			
(本) (**)			
数学の授業では次字に新しい概念や考え方に接することになり、多くの問題を解くことによって理解さる。授業は定学連議義と問題演習を中心に進め、必要に応じて課題を課して基礎的計算力・応用力の学業の成績が60点未満のものに対して再試験を実施する場合がある。この場合、再試験75%, 再評価を行う。 注意点 1年で学んだ数学 I Aおよび数学 I Bの知識を要する。授業の進み方は中学時代よりも速く、一旦つが困難となるので、日々の予習・復習の習慣を身につけ、授業の内容はその日のうちに理解するよご授業の属性・履修上の区分 ② ICT 利用 ② 遠隔授業対応 ③ 東務経験の ② 連びとの到達目標 が物線、楕円、双曲線の図形的なきる。 3週 2次曲線の接線 が物線、楕円、双曲線の図形的なきる。 3週 2次曲線の接線 が物線、楕円、双曲線の図形的なきる。 5週 不等式と領域 「数物線、楕円、双曲線の接線の方できる。 6週 練習問題 2次曲線 「領達財人会について、不等式の表域を不等式で表すことができる。 6週 練習問題 2次曲線 領域を不等式で表すことができる。 8週 順列 簡単な場合について、編合せの計算の数と表さるとができる。 8週 順列 簡単な場合について、組合せの計算の 第一項定理を用いて多項式を展開で 10週 いろいろな順列 コ項定理 □ 項定理を用いて多項式を展開で 11週 □ 項定理 □ 項定理を用いて多項式を展開で □ 項定理を用いて多項式を展開で □ 12週 練習問題 □ 2ndQ	様々な計算問題を解		
が困難となるので、日々の予習・復習の習慣を身につけ、授業の内容はその日のうちに理解するよう 授業の属性・履修上の区分	の養成を図る。 課題等25%の割合で		
□ アクティブラーニング □ ICT 利用 □ 遠隔授業対応 □ 実務経験の 授業計画 □ 週 授業内容 週ごとの到達目標 放物線、楕円、双曲線の図形的なきる。	Dますくど先に進むの う心がけること。		
授業計画 週 授業内容 週ごとの到達目標 放物線、楕円、双曲線の図形的なきる。 2週 いろいろな2次曲線 放物線、楕円、双曲線の図形的なきる。 3週 2次曲線の接線 放物線、楕円、双曲線の接線の方できる。 6週 不等式と領域 衛単な場合について、不等式の表域を不等式で表すことができる。 6週 練習問題 2次曲線、領域に関する基本的な問題を表表するとができる。 8週 順列 衛甲な場合について、源列の計算 9週 組合せ 衛甲な場合について、順列の計算 9週 組合せ 衛甲な場合について、順列の計算 9週 組合せ 衛甲な場合について、順列の計算 9週 組合せ 衛甲な場合について、組合せの計 10週 いろいろな順列 11週 二項定理 二項定理を用いて多項式を展開で 12週 練習問題 場合の数に関する基本的な問題が			
週 授業内容 週ごとの到達目標 放物線、楕円、双曲線の図形的なきる。	のある教員による授業		
週 授業内容 週ごとの到達目標 放物線、楕円、双曲線の図形的なきる。 次加線の質形的なきる。 次加線の接線 放物線、楕円、双曲線の図形的なきる。 次加線の接線 放物線、楕円、双曲線の接線の方できる。 次加線の接線 放物線、楕円、双曲線の接線の方できる。 京週 不等式と領域 簡単な場合について、不等式の表域を不等式で表すことができる。 6週 練習問題 2次曲線、領域に関する基本的な問題が 次四線の強調を表するとができる。 次四線に関する基本的な問題が 次四線に関する基本的な問題が 次回線に関する基本的な問題が 次回線に関する基本的な同様の法則を利用して、数を数えることができる。 の場面を表していて、順列の計算 の場面を表していて、順列の計算 の場面を表していて、組合せの計算 の場面を表していて、組合せの計算 の場面を表していて、組合せの計算 の場面を表していて、組合せの計算 では、表面を表していて、組合せの計算 では、表面を表面を表面を表面を表面を表面を表面を表面を表面を表面を表面を表面を表面を表			
1週 いろいろな 2 次曲線 放物線、楕円、双曲線の図形的なきる。 2次曲線の接線 放物線、楕円、双曲線の図形的なきる。 3週 2次曲線の接線 放物線、楕円、双曲線の接線の方できる。 6週 不等式と領域 類域を不等式で表すことができる。 6週 練習問題 2次曲線、領域に関する基本的な問題を表するとができる。 6週 練習問題 2次曲線、領域に関する基本的な問題を表するとができる。 8週 順列 簡単な場合について、順列の計算 9週 組合せ 簡単な場合について、組合せの計算 10週 いろいろな順列 円順列、重複順列、同じものを含る。 11週 二項定理 二項定理を用いて多項式を展開で 2ndQ 複習問題 場合の数に関する基本的な問題が			
2週 いろいろな 2 次曲線	性質の違いを区別で		
1stQ 2次曲線の接線 2次曲線の接線 2次曲線の接線の方できる。 放物線、楕円、双曲線の接線の方できる。 6週 不等式と領域 簡単な場合について、不等式の表域を不等式で表すことができる。 6週 練習問題 2次曲線、領域に関する基本的な問題を表するとができる。 8週 順列 簡単な場合について、順列の計算。 10週 いろいろな順列 11週 二項定理 二項定理を用いて多項式を展開で 2ndQ 2ndQ 2次曲線、複習問題 2次曲線、領域に関する基本的な問題が	放物線、楕円、双曲線の図形的な性質の違いを区別で		
1stQ 4週 不等式と領域 簡単な場合について、不等式の表域を不等式で表すことができる。 5週 不等式と領域 簡単な場合について、不等式の表域を不等式で表すことができる。 6週 練習問題 2次曲線、領域に関する基本的な問題ができる。 7週 場合の数 簡単な場合について、順列の計算の計算の計算の過程を表現できる。 9週 組合せ 簡単な場合について、組合せの計算の過度できる。 10週 いろいろな順列 円順列、重複順列、同じものを含える。 11週 二項定理 二項定理を用いて多項式を展開でまる。 2ndQ 練習問題 場合の数に関する基本的な問題が	放物線、楕円、双曲線の接線の方程式を求めることが		
5週 不等式と領域 簡単な場合について、不等式の表域を不等式で表すことができる。 6週 練習問題 2次曲線、領域に関する基本的な問題を教えることができる。 12週 練習問題 12週 練習問題 12週 練習問題 12週 標習問題 12週 標習問題 12週 標習問題 12週 標習問題 12週 標習問題	簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領		
前期 7週 場合の数 積の法則と和の法則を利用して、 数を数えることができる。 8週 順列 簡単な場合について、順列の計算 9週 組合せ 簡単な場合について、組合せの計 10週 いろいろな順列 円順列、重複順列、同じものを含 る。 11週 二項定理 二項定理を用いて多項式を展開で 2ndQ 12週 練習問題 場合の数に関する基本的な問題が	簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領		
7週 場合の数	 問題が解ける。		
8週 順列 簡単な場合について、順列の計算 9週 組合せ 簡単な場合について、組合せの計	簡単な事象の場合の		
9週組合せ簡単な場合について、組合せの計10週いろいろな順列円順列、重複順列、同じものを含 る。2ndQ11週二項定理二項定理を用いて多項式を展開で 場合の数に関する基本的な問題が	数を数えることができる。 簡単な場合について、順列の計算ができる。		
10週 いろいろな順列 る。 11週 二項定理 二項定理を用いて多項式を展開で 2ndQ 12週 練習問題 場合の数に関する基本的な問題が	簡単な場合について、組合せの計算ができる。		
11週二項定理二項定理を用いて多項式を展開で2ndQ12週練習問題場合の数に関する基本的な問題が	む順列の計算ができ		
2ndQ 12週 練習問題 場合の数に関する基本的な問題が			
211002			
	<u>/フ+マノ ゚Qノ</u> ٥		
14週 等差数列 等差数列の一般項やその和を求め	ることができる		
15週 等比数列、練習問題 等比数列の一般項やその和を求め			
15週 寺比数列、練首同題 寺比数列の一板項やその相を求め 16週 前期定期試験	<u> </u>		
後期 3rdQ 1週 いろいろな数列 総和記号を用いた簡単な数列の和る。	 を求めることができ		

			1			1		
		2週	漸化式と数学的帰納法、	練習問題	漸化式で表された数列の- 。数学的帰納法を用いた証	-般項を求めることができる E明ができる。		
		3週	ベクトル、ベクトルの			ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。		
		4週	ベクトルの成分		平面ベクトルの成分表示が 簡単な計算ができる。	ができ、成分表示を利用して		
		5週	ベクトルの内積		平面ベクトルの内積を求め	りることができる。		
		6週	ベクトルの平行と垂直、			†を利用して問題を解くこと		
		7週		直線のベクトル方程式、平面ベクトルの線形独立・線		媒介変数による直線の方程式を求めることができる。 平面ベクトルの線形独立を理解し、それに関する問題 が解ける。		
8		8週	空間座標、ベクトルの原	空間座標、ベクトルの成分、ベクトルの内積		空間ベクトルの成分表示ができ、成分表示を利用して 簡単な計算ができる。空間ベクトルの内積を求めるこ とができる。		
	9週 直線の方程式、平面の方程式		方程式	空間内の直線・平面の方程	空間内の直線・平面の方程式を求めることができる。			
		10週	球の方程式、空間ベク 習問題			ができる。空間ベクトルの線 関する問題が解ける。		
		11週	行列の定義、行列の和	・差、数との積	行列の定義を理解し、行列を求めることができる。	行列の定義を理解し、行列の和・差・スカラーとの積 を求めることができる。		
	4thO	12週	行列の積、転置行列		行列の積を求めることがて	行列の積を求めることができる。		
		13週	逆行列、練習問題		逆行列の定義を理解し、2次の正方行列の逆行列を求めることができる。			
		14週	消去法、逆行列と連立:	1 次方程式	消去法を用いて連立方程式を解くことができる。			
	15週 行列の階数、練習問題			行列の階数を求めることか				
	16週 後期定期試験							
評価割合	ì							
			定期試験	達成度試験	 課題等	合計		
総合評価割合 5		50	 	25	100			
基礎的能力	基礎的能力 50		50	25	25	100		
専門的能力	J		0	0	0	0		
分野横断的	能力		0	0	0	0		
•			•			•		

苫小牧工業高等専門学校 開講年度 令和03年度 (021年度)	授業科	目 数学ⅡA(電気電子系)	
科目基礎情報							
科目番号	0038			科目区分	一般	/ 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	複 履修	単位: 3	
開設学科	創造工学科 (一般科目)			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	3		
教科書/教材	教 科 書:新井一道他著「新微分積分 I 」(大日本図書) 補助教材:新井一道他著「新微分積分 I 問題集」(大日本図 書)、自作プリント					道他著「新微分積分 I 問題集」(大日本図	
担当教員	高橋 労太						
到達目標							
微分・積分は工学の基礎である。次の内容を理解して基本的な計算問題を解くことができる。 1) 関数の極限、微分係数、導関数 2) いろいろな関数の導関数(三角関数、逆三角関数、対数関数、指数関数) 3) 関数の変動とその応用(関数の増減・極値、曲線の凹凸・変曲点、速度と加速度) 4) 定積分と不定積分、置換積分法、部分積分法							

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	「関数の極限、微分係数、導関数」を理解して色々な計算問題を解くことができる。	「関数の極限、微分係数、導関数」を理解して基本的な計算問題を解くことができる。	「 関数の極限、微分係数、導関数 」を理解して基本的な計算問題を 解くことができない。
評価項目2	「いろいろな関数の導関数(三角関数、逆三角関数、対数関数、指数関数)」を理解して色々な計算問題を解くことができる。	「いろいろな関数の導関数(三角 関数、逆三角関数、対数関数、指 数関数)」を理解して基本的な計 算問題を解くことができる。	「いろいろな関数の導関数(三角 関数、逆三角関数、対数関数、指 数関数)」を理解して基本的な計 算問題を解くことができない。
評価項目3	「関数の変動とその応用(関数の 増減・極値、曲線の凹凸・変曲点 、速度と加速度)」を理解して色 々な計算問題を解くことができる 。	「関数の変動とその応用(関数の増減・極値、曲線の凹凸・変曲点、速度と加速度)」を理解して基本的な計算問題を解くことができる。	「関数の変動とその応用(関数の増減・極値、曲線の凹凸・変曲点、速度と加速度)」を理解して基本的な計算問題を解くことができない。
評価項目4	「定積分と不定積分、置換積分法 、部分積分法」を理解して色々な 計算問題を解くことができる。	定積分と不定積分、置換積分法、 部分積分法」を理解して基本的な 計算問題を解くことができる。	「定積分と不定積分、置換積分法 、部分積分法」を理解して基本的 な計算問題を解くことができない 。

学科の到達目標項目との関係

- 人間性 実践性 国際性
- ${\rm I\hspace{-.1em}I\hspace{-.1em}I}$

教育方法等

- 微分・積分は工学の基礎である。次の内容を理解して基本的な計算問題を解くことができる。
 1) 関数の極限、微分係数、導関数
 2) いろいろな関数の導関数(三角関数、逆三角関数、対数関数、指数関数)
 3) 関数の変動とその応用(関数の増減・極値、曲線の凹凸・変曲点、速度と加速度)
 4) 定積分と不定積分、置換積分法、部分積分法

授業の進め方・方法

数学の授業では次々に新しい概念や考え方に接することになり、多くの問題を解くことによって理解を深めることができる。授業は座学講義と問題演習を中心に進め、必要に応じて課題を課して基礎的計算力・応用力の養成を図る。 学業成績の成績が60点未満のものに対して再評価を行う場合がある。この場合、再試験80%、課題等20%の割合で再評 価または再評価試験のみで再評価する。

注意点

概要

微積分は工学の基本であり、1年で学んだ数学 I Aおよび数学 I Bの知識を要する。授業の進み方は1年次よりも速く、一旦つまずくと先に進むのが困難となるので、日々の予習・復習の習慣を身につけ、授業の内容はその日のうちに理解するよう心がけること。数学は、学生諸君が今後学んでいく工学の基礎として位置づけられる。継続的学習により数学の確固たる知識を習得し、またその応用力を養うことは非常に重要である。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング □ ICT 利用 □	〕遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業
-------------------------	---------	------------------

П		
П	1400 444 = T.	ж.
ı	投金金工	IĦI

		週	授業内容	週ごとの到達目標		
		1週	関数とその性質、関数の極限	簡単な場合について、関数の極限を求めることができる。		
		2週	微分係数、導関数	微分係数の意味や、導関数の定義を理解し、導関数を 求めることができる。		
		3週	導関数の性質	積・商の導関数の公式を用いて、導関数を求めること がができる。		
	1stQ	4週	三角関数の導関数	三角関数の導関数を求めることができる。		
		5週	指数関数の導関数、練習問題	指数関数の導関数を求めることができる。		
前期		6週	合成関数の導関数、対数関数の導関数	合成関数・対数関数の導関数を求めることができる。		
103743		7週	逆三角関数とその導関数	逆三角関数を理解し、逆三角関数の導関数を求めることができる。		
		8週	関数の連続、練習問題	中間値の定理を利用して証明することができる。		
		9週	接線と法線	簡単な場合について、関数の接線の方程式を求めることができる。		
2nd	2ndQ	10週	関数の増減	関数の増減表を利用して、極値を求め、グラフの概形 を描くことができる。		
		11週	極大と極小	関数の増減表を利用して、極値を求め、グラフの概形 を描くことができる。		

		12週	関数の最大と最小			極値を利用して、 ができる。	関数の最大値・最小値を求めること		
		13週	不定形の極限、練習	問題		ロピタルの定理を用いて極限値を求めることができる。			
		14週	高次導関数			高次導関数を求めることができる。			
		15週	曲線の凹凸、練習問	題		2次の導関数を利用できる。	用して、グラフの凹凸を調べることが		
		16週	前期定期試験						
		1週	媒介変数表示と微分	法		関数の媒介変数表 その導関数を求め	示を理解し、媒介変数を利用して、 ることができる。		
		2週	媒介変数表示と微分	法		関数の媒介変数表 その導関数を求め	示を理解し、媒介変数を利用して、 ることができる。		
		3週	速度と加速度	速度と加速度			度・加速度を求めることができる。		
	3rdO	4週	平均値の定理、練習	問題		平均値の定理を理	解できる。		
	SiuQ	5週	不定積分			不定積分の定義をとができる。	理解し、簡単な不定積分を求めるこ		
	6週	定積分の定義	定積分の定義			解し、簡単な定積分を求めることが			
		7週	微分積分法の基本定	'理		微積分の基本定理を理解できる。			
		8週	定積分の計算			簡単な定積分を求	めることができる。		
後期		9週	いろいろな不定積分	いろいろな不定積分の公式		不定積分の定義をとができる。	理解し、簡単な不定積分を求めるこ		
		10週	いろいろな不定積分	の公式	不定積分の定義を理解し、簡単な不定積分を求める とができる。				
		11週	練習問題	練習問題			不定積分・定積分の基本的な計算ができる。		
	444-0	12週	置換積分法	置換積分法		置換積分用いて、不定積分や定積分を求めることがで きる。			
	4thQ	13週	置換積分法				置換積分用いて、不定積分や定積分を求めることができる。		
		14週	部分積分法				不定積分、定積分の部分積分法を理解し、積分計算に 応用することができる。		
		15週	部分積分法、練習問	題		不定積分、定積分の部分積分法を理解し、積分計算に応用することができる。			
		16週	後期定期試験						
評価割る	 合								
		Į.	E期試験	達成度試験	彭	果題等	合計		
総合評価	割合	3	0	30	4	.0	100		
基礎的能:	カ	3	0	30	4	-0	100		
専門的能:	カ	0		0	0		0		
分野横断	的能力	0	<u> </u>	0	0	<u> </u>	0		

日日経日前的	生小!		等再門学校	文 開講年度 令和03年度 (2	 0021年度)		数学ⅡB(電気電子系)	
## 1985			<u>ハエいカル</u>	A 大学でOHicl I Xi-Lettini I	······································			
安東			0030		科目区分	—	修	
調査					1	·		
銀科 第1 一 一 一 一 一 一 一 一 一				:科 (一般科目)				
製料 製料 製料 2、高速向水地管 阿恵建樹学 1、新統部代数 1、八日本図書)植物教材:高速原水地管 「新田健教学科歴 1、新統保代数的解集 1 大日本図書)、日イブリント 1 新統 2 大日本図書) 1、新統保代数的解集 1 大日本図書)、日本の教育 2 大日本図書) 1 中の公社 2 大日本図書 2 大日			i	יור (יויאניי) דיי				
1		 女材	教科書		泉形代数」(大日本			
別途目標					作ノリント			
日原代 (2 次曲線) と式			13 110 1112					
理的に到達レベルの目安	1) 図形	(2次曲線) の数と数列 トル		問題を解くことができる。				
「四郎(2次嶋線)と式、を理解 しきなら対す関連を解くことができる。	ルーブ!	リック						
「一日の女は対国問題を解くこと」 「一日本の女は対国関題を解くこと」 「三名のの女と教列」を理解して基本のなけ対国関題を解くこかできる。 「場合の数と教列」を理解して基本のなけ 「特別」を理解して基本のなけ 「特別」を理解して基本のなけ 「特別」を理解して基本のなけ 「特別」を理解して基本のなけ 「特別」を理解して基本のなけ 「特別」を理解して基本のなけ 「特別」を理解して基本のなけ 「特別」を理解して基本のなけ 「特別」を解くことができる。 「特別」を解くことができる。 「特別」を解くことができる。 「特別」を解くことができる。 「特別」の基本概念を理解し、様々な計算問題を 「大別」の基本概念を理解し、様々な計算問題を 「大別」の基本概念を理解し、様々な計算問題を 「ことを字、、								
中国	評価項目	1		して色々な計算問題を解くことが	して基本的な計算	別)と式」を理解 問題を解くこと	「図形(2次曲線)と式」を理解 して基本的な計算問題を解くこと ができない。	
評価期間日 日間間を解くことができる。 計算問題を解くことができる。 計算問題を解くことができる。 計算問題を解くことができる。 計算問題を解くことができる。 計算問題を解くことができる。 計算問題を解くことができる。 計算問題を解くことができる。 対容的 と関係 ことができる。 計算問題を解くことができる。 計算問題を解くことができる。 計算問題を解くことができる。 日初り と関係 ことができる。 日初り と関係 ことができる。 日初り と関係 日初り と関係 ことができる。 日初り と関係 日初り と関係 日初り と関係 日初り と関係 日初り と関係 日初り と関係 日初り と対しています。	評価項目	2		「場合の数と数列」を理解して色 々な計算問題を解くことができる。	本的な計算問題を]」を理解して基 注解くことができ	「場合の数と数列」を理解して基本的な計算問題を解くことができない。	
関語を解くことができる。	評価項目	3		算問題を解くことができる。	計算問題を解くこ	ことができる。	「ベクトル」を理解して基本的な 計算問題を解くことができない。	
対の到達目標項目との関係	評価項目	4		「行列」を理解して色々な計算問 題を解くことができる。	「行列」を理解し 問題を解くことが	ノて基本的な計算 べできる。	「行列」を理解して基本的な計算 問題を解くことができない。	
型業性 教育方法等	学科の	到達目標工	頁目との関					
教育方法等	Ⅱ 実品	浅性						
要案の進め方・方法	 概要		「図形(2次曲線)と式」、「場合の数と数列	」、「ベクトル」、	「行列」の基本	概念を理解し、様々な計算問題を解	
下の属性・ 履修上の区分	授業の進	め方・方法	数学の授 きる。授 学業成績 再評価を	業では次々に新しい概念や考え方に接 業は座学講義と問題演習を中心に進め の成績が60点未満のものに対して再試 行う。	、必要に応じて課題 験を実施する場合/	!を課して基礎的がある。この場合	計算力・応用力の養成を図る。 6、再試験75%,課題等25%の割合 ⁻	
□ アクティブラーニング □ ICT 利用 □ 遠隔授業対応 □ 実務経験のある教員による □ 漢字 計画 □ 授業内容 □ 過ごとの到達目標	注意点		が困難と	がに数子 I Aのよび数子 I Bの知識を数なるので、日々の予習・復習の習慣を:	そりる。投業の進み 身につけ、授業の内	方は中子時代より	プも迷く、一旦 フますく と光に進む0 ちに理解するよう心がけること。	
授業計画	授業の	属性・履何	多上の区分	`				
週 授業内容 週ごとの到達目標	□ アクラ	ティブラーニ	ニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授	
週 授業内容 週ごとの到達目標	₩₩₩	画						
1週 いろいろな 2 次曲線	汉未可以	<u> </u>	调	授業内容	;	調ごとの到達日標	<u> </u>	
1stQ 1stQ					7	放物線、楕円、水		
1stQ 1stQ 2次曲線の接線 2次曲線の接線の方程式を求めることできる。					7	放物線、楕円、双曲線の図形的な性質の違いを区別で		
1stQ 4週 不等式と領域 簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり域を不等式で表すことができる。 5週 不等式と領域 簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり域を不等式で表すことができる。 6週 練習問題、達成度試験 2次曲線、領域に関する基本的な問題が解ける。 7週 場合の数 積の法則を利用して、簡単な事象の場合数を数えることができる。 8週 順列 簡単な場合について、順列の計算ができる。 9週 組合せ 簡単な場合について、組合せの計算ができる。 10週 いろいろな順列 口順列、重複順列、同じものを含む順列の計算ができる。 11週 二項定理 二項定理を用いて多項式を展開できる。 11週 二項定理 二項定理を用いて多項式を展開できる。 12週 練習問題、達成度試験 場合の数に関する基本的な問題が解ける。 13週 数列 数列の定義が理解できる。 14週 等差数列 等差数列 等差数列の一般項やその和を求めることができる。 15週 等比数列、練習問題 等比数列の一般項やその和を求めることができる。 15週 前期定期試験 総和記号を用いた簡単な数列の和を求めることができる。					7	放物線、楕円、双曲線の接線の方程式を求めることが		
5週 不等式と領域 簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり 域を不等式で表すごとができる。 6週 練習問題、達成度試験 2次曲線、領域に関する基本的な問題が解ける。 積の法則と和の法則を利用して、簡単な事象の場合 数を数えることができる。 8週 順列 簡単な場合について、順列の計算ができる。 9週 組合せ 簡単な場合について、組合せの計算ができる。 10週 いろいろな順列 円順列、重複順列、同じものを含む順列の計算ができる。 11週 二項定理 二項定理を用いて多項式を展開できる。 11週 二項定理 二項定理を用いて多項式を展開できる。 12週 練習問題、達成度試験 場合の数に関する基本的な問題が解ける。 13週 数列 数列の定義が理解できる。 14週 等差数列 等差数列の一般項やその和を求めることができる。 15週 等比数列、練習問題 等比数列の一般項やその和を求めることができる。 15週 第比数列、練習問題 第比数列の一般項やその和を求めることができる。 15週 前期定期試験 総和記号を用いた簡単な数列の和を求めることができる。		1stO	4週		í	簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領		
1月 1月 1月 1月 1月 1月 1月 1月			5週	不等式と領域	Í	 簡単な場合につい	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
別期 1月 1月 1月 1月 1月 1月 1月 1			6週					
8週 順列 簡単な場合について、順列の計算ができる。 9週 組合せ 簡単な場合について、組合せの計算ができる。 10週 いろいろな順列	前期		7週	場合の数				
9週 組合せ 簡単な場合について、組合せの計算ができる。	177747			順列				
2ndQ 10週 いろいろな順列								
2ndQ 11週 二項定理 二項定理を用いて多項式を展開できる。 12週 練習問題、達成度試験 場合の数に関する基本的な問題が解ける。 13週 数列 数列の定義が理解できる。 14週 等差数列 等差数列の一般項やその和を求めることができる。 15週 等比数列、練習問題 等比数列の一般項やその和を求めることができる。 16週 前期定期試験 総和記号を用いた簡単な数列の和を求めることができる。					1	円順列、重複順列		
2ndQ 12週 練習問題、達成度試験 場合の数に関する基本的な問題が解ける。 13週 数列 数列の定義が理解できる。 14週 等差数列 等差数列の一般項やその和を求めることができる。 15週 等比数列、練習問題 等比数列の一般項やその和を求めることができる。 16週 前期定期試験 総和記号を用いた簡単な数列の和を求めることができる。							- 名頂式を展問できる	
13週 数列 数列の定義が理解できる。								
14週 等差数列 等差数列の一般項やその和を求めることができる。		2ndQ			<u> </u>			
15週等比数列、練習問題等比数列の一般項やその和を求めることができる。16週前期定期試験総和記号を用いた簡単な数列の和を求めることができる。								
16週 前期定期試験 ※期 3rdO 1週 (2017年) 1月 (2017年) 2017年 1月 ※期 3rdO 1月 (2017年) 1月 (2017年) 2017年 1月 (2017年) 2017年 1月 (2017年) 2017年 1月 (2017年)							·	
※期 3rdO 1週 いろいろな数列 総和記号を用いた簡単な数列の和を求めることがで					= [等比数列の一般項やその和を求めることができる。		
					1	総和記号を田いた	- 簡単か数列の和を求めスプレがで=	
	後期 ————	3rdQ	1週	いろいろな数列 			- 「□」 - 、 ・ひ×v / 3 × 7 (日 で 4) v / . の C (1) . C (

		2週	漸化式と数学的帰納法、	練習問題、達成度試験	漸化式で表された数列の- 。数学的帰納法を用いた証	-般項を求めることができる E明ができる。		
		3週	ベクトル、ベクトルの演	寅 算		ベクトルの基本的な計算(和きさを求めることができる。		
		4週	ベクトルの成分		平面ベクトルの成分表示か 簡単な計算ができる。	でき、成分表示を利用して		
	5週		ベクトルの内積		平面ベクトルの内積を求め	oることができる。		
		6週	ベクトルの平行と垂直、	ベクトルの図形への応用	ベクトルの平行・垂直条件ができる。	や利用して問題を解くこと		
7週		7週		- 京娘のベクトリナヤナ - 東京ベクトリの娘形独立 - 娘		武を求めることができる。 理解し、それに関する問題		
		8週	空間座標、ベクトルの成			「でき、成分表示を利用して 「ベクトルの内積を求めるこ		
		9週	直線の方程式、平面の方	方程式	空間内の直線・平面の方程	武を求めることができる。		
		10週	球の方程式、空間ベクト 習問題、達成度試験	〜ルの線形独立・線形従属、練	球の方程式を求めることができる。空間ベクトルの線形独立を理解し、それに関する問題が解ける。			
		11週	行列の定義、行列の和・	行列の定義、行列の和・差、数との積		行列の定義を理解し、行列の和・差・スカラーとの積 を求めることができる。		
	4thO	12週	行列の積、転置行列		行列の積を求めることができる。			
	2	13週	逆行列、練習問題、達成		逆行列の定義を理解し、2次の正方行列の逆行列を求めることができる。			
		14週	消去法、逆行列と連立 1	l 次方程式	消去法を用いて連立方程式	消去法を用いて連立方程式を解くことができる。		
		15週	行列の階数、練習問題		行列の階数を求めることか	べきる。		
		16週	後期定期試験					
評価割合	 ì					<u> </u>		
			定期試験	達成度試験		合計		
総合評価割合 50		50	 	25	100			
基礎的能力]		50	25	25	100		
専門的能力)		0	0	0	0		
分野横断的	能力		0	0	0	0		

苫小牧工業高等専門学校		ξ	開講年度	令和03年度 (2021年度)		授	業科目	数学 II A(情報科学・工学系)	
科目基礎	情報								
科目番号		0040				科目区分		一般 / 必	修
授業形態		授業				単位の種別と単位	立数	履修単位:	3
開設学科		創造工学	科 (-	一般科目)		対象学年		2	
開設期		通年				週時間数		3	
教科書/教材	i	教 科 書 書)、自			微分積分Ⅰ」(大日 	· 本図書) 補助教	材:新	井一道他著	f「新微分積分Ⅰ問題集」(大日本図
担当教員		上木 政美	Ē						
到達目標									
微分・積分は工学の基礎である。次の内容を理解して基本的な計算問題を解くことができる。 1) 関数の極限、微分係数、導関数 2) いろいろな関数の導関数(三角関数、逆三角関数、対数関数、指数関数) 3) 関数の変動とその応用(関数の増減・極値、曲線の凹凸・変曲点、速度と加速度) 4) 定積分と不定積分、置換積分法、部分積分法									
ルーブリ	ック		-m	40.46 i v 70.4 i		I=34445 1 x 7:13 + 1			
				想的な到達レイ		標準的な到達レ/ 「関数の極限、			未到達レベルの目安
評価項目1] :	関数の極限、 を理解して色々 ことができる。	微分係数、導関数 な計算問題を解	対数の極限、 」を理解して基準 解くことができる	本的な記	数、導関数 十算問題を 	「関数の極限、微分係数、導関数 」を理解して基本的な計算問題を 解くことができない。
評価項目2			関数	数、逆三角関数	数の導関数(三角 牧、対数関数、指 なして色々な計算 ができる。	「いろいろな関関数、逆三角関数 数関数)」を理解 算問題を解くこれ	数、対数 解して基	放関数、指 基本的な計	関数、逆三角関数、対数関数、指数関数)」を理解して基本的な計算問題を解くことができない。
評価項目3			増、	減・極値、曲線 速度と加速度)	その応用(関数の 泉の凹凸・変曲点 」を理解して色 なくことができる	「関数の変動と 増減・極値、曲線 、速度と加速度) 本的な計算問題を る。	泉の凹凸	3・変曲点 里解して基	「 関数の変動とその応用(関数の 増減・極値、曲線の凹凸・変曲点 、速度と加速度)」を理解して基 本的な計算問題を解くことができ ない。
評価項目4			l, i		責分、置換積分法 空理解して色々な ことができる。	定積分と不定積分 部分積分法」を理 計算問題を解くる	里解して	て基本的な	「定積分と不定積分、置換積分法 、部分積分法」を理解して基本的 な計算問題を解くことができない 。
学科の到	達目標項	目との関	係						
I 人間 Ⅱ 実践 Ⅲ 国際	性								
教育方法									
概要		1) 関数 2) いろ 3) 関数	の極いるなの変	限、微分係数、 な関数の導関数 動とその応用	る。次の内容を理解 導関数 (三角関数、逆三 (関数の増減・極値 関数の構成・を値 でする。 は、一つでは、 は、一つでは、 は、このでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	角関数、対数関数 、曲線の凹凸・変			
授業の進め	方・方法	数学の授 きる。授 学業成績 再評価を	業では 業は の成績 行う。	は次々に新しい ≚学講義と問題 責が60点未満の	概念や考え方に接っ 演習を中心に進め、)ものに対して再試。	することになり、: 必要に応じて課 験を実施する場合	題を課! がある	して基礎的 。この場合	ことによって理解を深めることがで 計算力・応用力の養成を図る。 、再試験75%,課題等25%の割合で
注意点		一旦つま	ずくと 心がに	と先に進むのが ナること。数学	1年で学んだ数学 I 困難となるので、E は、学生諸君が今後 たその応用力を養	日々の予習・復習の 後学んでいく工学の	の習慣を	を身につけ として位置	授業の進み方は1年次よりも速く、 、授業の内容はその日のうちに理解 づけられる。継続的学習により数学
授業の属	性・履修	上の区分							
□ アクテ	ィブラーニ	 ング		ICT 利用		☑ 遠隔授業対応	,		□ 実務経験のある教員による授業
	 ī								
型に来ない	1	週		 为容		I	调ブレ	の到達目標	5
		1週		ゴロ とその性質、関	 数の極限		簡単な		って、関数の極限を求めることができ
		2週		係数、導関数					P、導関数の定義を理解し、導関数を る。
		3週	導関数	 数の性質			求めることができる。		
	1stQ	4週	三角	 関数の導関数					なを求めることができる。
		5週		関数の導関数、	練習問題				なを求めることができる。
前期		6週	合成	関数の導関数、	対数関数の導関数		合成関	数・対数関	数の導関数を求めることができる。
133743		7週	逆三角	角関数とその導	関数		逆三角 とがで		望し、逆三角関数の導関数を求めるこ
		8週	関数の	の連続、練習問	題				用して証明することができる。
		9週	接線。	と法線			簡単なとがで		つて、関数の接線の方程式を求めるこ
	2ndQ	10週	関数の	の増減				増減表を利 ことができ	J用して、極値を求め、グラフの概形 Fる。
	11週	極大。	大と極小			関数の増減表を利用して、極値を求め、グラフの概形 を描くことができる。			

		12週	関数の最大と最小			極値を利用して、 ができる。	関数の最大値・最小値を求めること		
		13週	不定形の極限、練	習問題		ロピタルの定理を用いて極限値を求めることができる。			
		14週	高次導関数			高次導関数を求めることができる。			
		15週	曲線の凹凸、練習	問題		2次の導関数を利 できる。	J用して、グラフの凹凸を調べることが		
		16週	前期定期試験						
		1週	媒介変数表示と微	分法			表示を理解し、媒介変数を利用して、 りることができる。		
		2週	媒介変数表示と微	分法			表示を理解し、媒介変数を利用して、 めることができる。		
		3週	速度と加速度			微分法を用いて選	速度・加速度を求めることができる。		
	3rdO	4週	平均値の定理、練	習問題		平均値の定理を理	里解できる。		
	SruQ	5週	不定積分			不定積分の定義をとができる。	を理解し、簡単な不定積分を求めるこ		
	6週	定積分の定義	定積分の定義			里解し、簡単な定積分を求めることが			
		7週	微分積分法の基本	 定理		微積分の基本定理を理解できる。			
		8週	定積分の計算			簡単な定積分を求めることができる。			
後期		9週	いろいろな不定積	いろいろな不定積分の公式		不定積分の定義を理解し、簡単な不定積分を求めることができる。			
		10週	いろいろな不定積	分の公式	不定積分の定義を理解し とができる。		を理解し、簡単な不定積分を求めるこ		
		11週	練習問題	練習問題 置換積分法		不定積分・定積分の基本的な計算ができる。			
	411.0	12週	置換積分法			置換積分用いて、不定積分や定積分を求めることができる。			
	4thQ	13週	置換積分法				置換積分用いて、不定積分や定積分を求めることがで きる。		
		14週	部分積分法				不定積分、定積分の部分積分法を理解し、積分計算に 応用することができる。		
		15週	部分積分法、練習	問題		不定積分、定積分の部分積分法を理解し、積分計算に 応用することができる。			
		16週	後期定期試験						
評価割る	合								
			定期試験	達成度試験	調	思 等	合計		
総合評価	割合		50	25	2.	5	100		
基礎的能:	 カ	<u> </u>	50	25	2.	5	100		
専門的能:	 カ	()	0	0		0		
分野横断	的能力)	0	0		0		

	牧工業高 	等専門学校	開講年度	令和03年度(2	2021年度)	授業科目	数学ⅡB(情報科学・工学系)	
科目基础	礎情報							
科目番号	•	0041			科目区分	一般 / 必	修	
授業形態		授業			単位の種別と単位	拉数 履修単位	: 3	
開設学科		創造工学科	(一般科目)		対象学年	2		
開設期		通年			週時間数	3		
教科書/教	数材		高遠節夫他著「新 形代数問題集」(線形代数」(大日本 作プリント	区書) 補助教材	:高遠節夫他著「新基礎数学問題集	
担当教員	•	有馬 隆司						
到達目標	標							
次の内容 1) 図形	を理解して (2次曲線 の数と数列 トル		題を解くことがで	きる。				
ルーブ	リック							
			理想的な到達レイ	ベルの目安	標準的な到達レイ	ジルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目	1		「図形(2次曲線 して色々な計算限できる。	泉)と式」を理解 問題を解くことが	「図形(2次曲線 して基本的な計算 ができる。	泉)と式」を理解 算問題を解くこと	「図形(2次曲線)と式」を理解して基本的な計算問題を解くことができない。	
評価項目	2		「場合の数と数列	列」を理解して色 解くことができる	「場合の数と数列本的な計算問題を	リ」を理解して基 と解くことができ	「場合の数と数列」を理解して基本的な計算問題を解くことができ	
評価項目	3							
評価項目	4		「行列」を理解し 題を解くことが		「行列」を理解し 問題を解くことだ		「行列」を理解して基本的な計算 問題を解くことができない。	
学科の	 到達目標I	 頁目との関係			11-302 C/3T \ C C/3		1, 3/2 C/3 C C/6V · 0	
I 人間 工 実置	間性 浅性 際性							
教育方法								
		[図形 (2	か出給) レー・					
瓜女		くことを学 数学の授業	では次々に新しい	概念や考え方に接		多くの問題を解く		
概要 授業の進 注意点	め方・方法	くことを学。 数学の授業 きる。授業 学業成績の 再評価を行	ぶ。 では次々に新しい は座学講義と問題 成績が60点未満の う。 ご数学 I Aおよび	概念や考え方に接 演習を中心に進め ものに対して再記 数学 I Bの知識を	することになり、 、必要に応じて課 は験を実施する場合 要する。授業の進み	多くの問題を解く 題を課して基礎的 がある。この場合 *方は中学時代よ	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 計算力・応用力の養成を図る。 合、再試験80%,課題等20%の割合 りも速く、一旦つまずくと先に進むる	
授業の進 注意点		くことを学 数学の授業 きる。授業 学業成績の 再評価を行 1年で学んた が困難とな	ぶ。 では次々に新しい は座学講義と問題 成績が60点未満の う。 ご数学 I Aおよび	概念や考え方に接 演習を中心に進め ものに対して再記 数学 I Bの知識を	することになり、 、必要に応じて課 は験を実施する場合 要する。授業の進み	多くの問題を解く 題を課して基礎的 がある。この場合 *方は中学時代よ	ことによって理解を深めることがで 計算力・応用力の養成を図る。 合、再試験80%,課題等20%の割合	
授業の進 注意点 授業の「	属性・履何	くことを学 数学の授業 きる。授業 学業成績の 再評価を行 1年で学んが が困難とな	ぶ。 では次々に新しい は座学講義と問題 成績が60点未満の う。 ご数学 I Aおよび るので、日々の子	概念や考え方に接 演習を中心に進め ものに対して再記 数学 I Bの知識を	することになり、 、必要に応じて課 は験を実施する場合 要する。授業の進み 身につけ、授業の[多くの問題を解く 質を課して基礎的がある。この場合 *方は中学時代よ 内容はその日のう	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 計算力・応用力の養成を図る。 合、再試験80%,課題等20%の割合 りも速く、一旦つまずくと先に進むでちに理解するよう心がけること。	
授業の進 注意点 授業の[くことを学 数学の授業 きる。授業 学業成績の 再評価を行 1年で学んが が困難とな	ぶ。 では次々に新しい は座学講義と問題 成績が60点未満の う。 ご数学 I Aおよび	概念や考え方に接 演習を中心に進め ものに対して再記 数学 I Bの知識を	することになり、 、必要に応じて課 は験を実施する場合 要する。授業の進み	多くの問題を解く 質を課して基礎的がある。この場合 *方は中学時代よ 内容はその日のう	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 計算力・応用力の養成を図る。 合、再試験80%,課題等20%の割合 りも速く、一旦つまずくと先に進むで ちに理解するよう心がけること。	
授業の進 注意点 授業の[□ アクラ	属性・履(ティブラーコ	くことを学 数学の授業 きる。授業 学業成績の 再評価を行 1年で学んが が困難とな	ぶ。 では次々に新しい は座学講義と問題 成績が60点未満の う。 ご数学 I Aおよび るので、日々の子	概念や考え方に接 演習を中心に進め ものに対して再記 数学 I Bの知識を	することになり、 、必要に応じて課 は験を実施する場合 要する。授業の進み 身につけ、授業の[多くの問題を解く 質を課して基礎的がある。この場合 *方は中学時代よ 内容はその日のう	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 計算力・応用力の養成を図る。 合、再試験80%,課題等20%の割合 りも速く、一旦つまずくと先に進むで ちに理解するよう心がけること。	
受業の進注意点 受業の同じ アクラ	属性・履(ティブラーコ	くことを学 数学の授業 きる。授業 学業成績の 再評価を行 1年で学んだ が困難とな 修上の区分	ぶ。 では次々に新しい は座学講義と問題 成績が60点未満の う。 ご数学 I A およびるので、日々の予 ☑ ICT 利用	概念や考え方に接 演習を中心に進め ものに対して再記 数学 I Bの知識を	することになり、()、必要に応じて課 、 、必要に応じて課 、 、 、 、 している場合 要する。授業の進み ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	多くの問題を解く 題を課して基礎的がある。この場合 がある。この場合 か方は中学時代よ 内容はその日のう	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 計算力・応用力の養成を図る。 お、再試験80%,課題等20%の割合 りも速く、一旦つまずくと先に進むの ちに理解するよう心がけること。	
授業の進 注意点 授業の[属性・履(ティブラーコ	くことを学 数学の授業 きる。授業 学業成績の 再評価を行 1年で学んだ が困難とな 修上の区分	ぶ。 では次々に新しい は座学講義と問題 成績が60点未満の う。 ご数学 I Aおよび るので、日々の子	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を 習・復習の習慣を	することになり、1 、必要に応じて課 は験を実施する場合 要する。授業の進み 身につけ、授業の原	多くの問題を解く 題を課して基礎的がある。この場合 か方は中学時代よ か容はその日のう 週ごとの到達目標 放物線、楕円、列	□ 実務経験のある教員による授	
授業の進 注意点 授業の[□ アクラ	属性・履(ティブラーコ	くことを学 数学の授業 きる。授業 学業成績の 再評価を行 1年で学んが が困難とな 修上の区分 ニング	ぶ。 では次々に新しい は座学講義と問題 成績が60点未満の う。 ご数学 I Aおよびるので、日々の予 ☑ ICT 利用	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を認 習・復習の習慣を	することになり、 、必要に応じて課 は験を実施する場合 要する。授業の進み ・身につけ、授業の原	多くの問題を解く 質を課して基礎的がある。この場合 ・方は中学時代よ ・方は中学時代よ 内容はその日のう 週ごとの到達目標 放物線、楕円、別 きる。	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 合、再試験80%,課題等20%の割合 のも速く、一旦つまずくと先に進むで ちに理解するよう心がけること。 □ 実務経験のある教員による授 □ 実務経験のある教員による授	
授業の進 注意点 授業の[□ アクラ	属性・履(ティブラーコ	くことを学、数学の授業学の授業学業の。再評価を行1年で学んが困難とない修上の区分ニング週1週い2週い	ぶ。 では次々に新しい は座学講義と問題 成績が60点未満の う。 ご数学 I Aおよび るので、日々の予 ☑ ICT 利用 業内容 ろいろな 2 次曲線	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を認 習・復習の習慣を	することになり、1 、必要に応じて課 は験を実施する場合 要する。授業の進み 身につけ、授業の原	多くの問題を解く 類を課して基礎的がある。この場合 か方は中学時代より 内容はその日のう 過ごとの到達目標 放物線、楕円、別 きる。 放物線、楕円、別 きる。	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 合、再試験80%,課題等20%の割合 のも速く、一旦つまずくと先に進むで ちに理解するよう心がけること。 □ 実務経験のある教員による授 □ 実務経験のある教員による授 □ 無線の図形的な性質の違いを区別で □ ないますでは、これをは、これをは、これをは、これをは、これをは、これをは、これをは、これを	
授業の進 注意点 授業の[□ アクラ	属性・履(ティブラーコ	くことを学 数学の授業学 支きる。授業学 学業価を行 1年で学んが 水困難とな 修上の区分 ニング 週 1週 2週 3週 2	ぶ。 では次々に新しい は座学講義と問題 成績が60点未満の う。 ご数学 I Aおよび るので、日々の予 ☑ ICT 利用 業内容 ろいろな2次曲総	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を認 習・復習の習慣を	することになり、 、必要に応じて課 域験を実施する場合 要する。授業の進み 身につけ、授業の 図 遠隔授業対応	多くの問題を解く 類を課して基礎的がある。この場合 か方は中学時代より 内容はその日のう 過ごとの到達目標 放物線、楕円、別 きる。 放物線、楕円、別 きる。 放物線、楕円、別 きる。	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 会、再試験80%,課題等20%の割合りも速く、一旦つまずくと先に進むできたに理解するよう心がけること。 □ 実務経験のある教員による授 □ 実務経験のある教員による授 □ 実務経験のある教員による授 □ 、工業経験の関形的な性質の違いを区別で □ 、工業なの表す領域を求めたり命	
授業の進 注意点 授業の[□ アクラ	属性・履 <u>(</u> ティブラー <u>:</u> 画	くことを学業 数学の授業業の授業等の表現 再評価を行 1年で学んな 修上の区分 こング 週 1週 2週 3週 4週	ぶ。 では次々に新しい は座学講義と問題 成績が60点未満の う。 ご数学 I Aおよび るので、日々の予 ② ICT 利用 業内容 ろいろな2次曲総 次曲線の接線	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を認 習・復習の習慣を	することになり、 、必要に応じて課 域験を実施する場合 要する。授業の進み 身につけ、授業の 図 遠隔授業対応	多くの問題を解く 類を課してこの場合 がある。この場合 か方は中学時代よった。 内容はその日のう 過ごとの到達目標 放物線、楕円、別きる。 放物線、楕円、別きる。 放物線、楕円、別きる。 放物線、楕円、別きる。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 会、再試験80%,課題等20%の割合りも速く、一旦つまずくと先に進むでちに理解するよう心がけること。 □ 実務経験のある教員による授 □ 実務経験のある教員による授 □ 実務経験のある教員による授 □ 大田線の図形的な性質の違いを区別で □ ス曲線の図形的な性質の違いを区別で □ ス曲線の図形的な性質の違いを区別で □ スートラングできる。	
授業の進 注意点 授業の[□ アクラ	属性・履 <u>(</u> ティブラー <u>:</u> 画	くことを学業学の授業学の授業学の授業学の表示。	ぶ。では次々に新しいは座学講義と問題成績が60点末満のう。ご数学IAおよびるので、日々の予図ICT利用 業内容ろいろな2次曲総ろいろな2次曲総次曲線の接線等式と領域	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を認 習・復習の習慣を	することになり、1 、必要に応じて課 は験を実施する場合 要する。授業の進み 身につけ、授業の原 図 遠隔授業対応	多くの問題を解く 類を課してこの場合 がある。 か方は中学時代の日のう 過ごとの到達目標 放物線、楕円、別 放物線、楕円、別 放物線、楕円、別 放物線、楕円、別 放物線、楕円、別 でき単な、場合にで表す。 簡単な、等場式にで表す。 域を不等場式でで表す。 域域を不等、。 は域を不等、。 は域を不等、。 は域を不等、。 は域を不等、。 は域を不等、。 は域を不等、。 は域を不等、。 は域を不等、。 は域を不等、。 は域を不等、。 は域を不等、。 は域を不等、。 は域を不等、。 は、。 は、。 は、。 は、。 は、。 は、。 は、。 は	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。	
受業の進 主意点 授業の原 アクラ	属性・履 <u>(</u> ティブラー <u>:</u> 画	 くことを学業業学の授績を行ります。 事事評価を行りを対している 事事評価を対したが困難分 上の区分 こング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 練 	ぶ。 では次々に新しい は座学講義と問題 成績が60点末満の う。 ご数学 I Aおよび るので、日々の予 ☑ ICT 利用 業内容 ろいろな2次曲総 スいるな2次曲総 次曲線の接線 等式と領域 等式と領域	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を認 習・復習の習慣を	ますることになり、1000 必要に応じて課業が は験を実施する場合 要する。授業の進み 身につけ、授業の原図 図 遠隔授業対応	多くの問題を解く 類を課してこの場合 がある。 か方は中学時代の日のう 過ごとの到達目標 放物線、楕円、別 放物線、楕円、別 放物線、楕円、別 放物線、楕円、別 放物線、楕円、別 でき単な、場合にで表す。 簡単な、等場式にで表す。 域を不等場式でで表す。 域域を不等、。 は域を不等、。 は域を不等、。 は域を不等、。 は域を不等、。 は域を不等、。 は域を不等、。 は域を不等、。 は域を不等、。 は域を不等、。 は域を不等、。 は域を不等、。 は域を不等、。 は域を不等、。 は、。 は、。 は、。 は、。 は、。 は、。 は、。 は	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 、 再試験80%,課題等20%の割合 りも速く、一旦つまずくと先に進むで っちに理解するよう心がけること。 □ 実務経験のある教員による授 取曲線の図形的な性質の違いを区別で 取曲線の接線の方程式を求めることができる。 いて、不等式の表す領域を求めたり会すことができる。 関する基本的な問題が解ける。 法則を利用して、簡単な事象の場合の	
受業の進 主意点 授業の原 アクラ	属性・履 <u>(</u> ティブラー <u>:</u> 画	くことを学業業の行法を 2 を	ぶ。では次々に新しいは次々に新しいは座学講義と問題成績が60点未満のう。ご数学 I Aおよびるので、日々の予図 ICT 利用 業内容 ろいろな2次曲総 スート	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を認 習・復習の習慣を	することになり、1 、必要に応じて課 は験を実施する場合 要する。授業の進み 身につけ、授業の原 図 遠隔授業対応	多くの問題を解ぐります。 多を課してこの場合を開してこの場合を課してこの場合を課してこの場合を関してこの場合を関係を表する。 あたけれている。 かからの目ができます。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 ができ単不等場合式でにてきる。 できるででである。 できるででである。 できるででである。 できるででである。 できるででである。 できるででである。 できるででである。 できるででである。 できるででである。 できるででである。 できるである。 できるでである。 できるでである。 できるでである。 できるである。 できるである。 できるである。 できるでである。 できる	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 、 再試験80%,課題等20%の割合 りも速く、一旦つまずくと先に進むで っちに理解するよう心がけること。 □ 実務経験のある教員による授 取曲線の図形的な性質の違いを区別で 取曲線の接線の方程式を求めることができる。 いて、不等式の表す領域を求めたり会すことができる。 関する基本的な問題が解ける。 法則を利用して、簡単な事象の場合の	
受業の進 主意点 授業の原 アクラ	属性・履 <u>(</u> ティブラー <u>:</u> 画	くことを学業業の子の授稿を行する。成権を行う。成権を行う。成権を行う。以後に対する。とは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	ぶ。では次々に新しいは深々に新しいは座学講義と問題成績が60点末満のう。ご数学 I A およびるので、日々の予図 ICT 利用 業内容 ろいろな 2 次曲線 ろいろな 2 次曲線の接線 等式 と領域 等式 と領域 習問題 合の数	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を認 習・復習の習慣を	することになり、1000 必要に応じて課業ではいる場合を実施する場合を実施する場合をする。授業の進み身につけ、授業の原図を関係を対応	多くの問題を解ぐります。 ・方は中学の日のうりでは、 ・方は中学の日のうりでは、 ・方は中学の日のうりでは、 がある。 がある。 なかる。 なかきないででは、 なかきないででは、 をはないでは、 をはないでは、 をはないでは、 をはないでは、 をはないでは、 をはないでは、 をはないでは、 ででは、 をはないでは、 をはないでは、 ででは、 をはないでは、 ででは、 ででは、 をはないでは、 ででいる。 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 でいる。 でい。 でいる。 でい。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でい。 でい。 でい。 でい。 でい。 でい。 でい。 でい	ことによって理解を深めることがでます。 ことによって理解を深めることができる。 いちに理解するよう心がけること。 「実務経験のある教員による授」 実務経験のある教員による授 、実務経験のある教員による授 、実務経験のある教員による授 、大学芸の表す領域を求めたりできる。 いて、不等式の表す領域を求めたりできる。 に、不等式の表す領域を求めたりできる。 に、不等式の表す領域を求めたりできる。 に、不等式の表す領域を求めたりできる。 に対して、簡単な事象の場合のできる。	
授業の進注意点 授業の原 □ アクラ	属性・履 <u>(</u> ティブラー <u>:</u> 画	S	ぶ。では次々に新しいは次々に新しいは座学講義と問題成績が60点末満のう。ご数学IAおよびるので、日々の予図ICT利用 業内容 ろいろな2次曲総クスと領域 等式と領域 等式と領域 等式と領域 の数 列	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を認 習・復習の習慣を	することになり、1000 必要に応じて課業ではいる場合を実施する場合を実施する場合をする。授業の進み身につけ、授業の原図を関係を対応	多くの問題を解析的 では、	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 会、再試験80%,課題等20%の割合的も速く、一旦つまずくと先に進むっちに理解するよう心がけること。 □ 実務経験のある教員による授 実務経験のある教員による授 ス曲線の図形的な性質の違いを区別で ス曲線の図形的な性質の違いを区別で ス曲線の接線の方程式を求めることができる。 いて、不等式の表す領域を求めたり行って、不等式の表す領域を求めたり行って、不等式の表す領域を求めたり行って、不等式の表す領域を求めたり行って、不等式の表す領域を求めたり行って、不等式の表す領域を求めたり行って、できる。	
授業の進 注意点 授業の[□ アクラ	属性・履 <u>(</u> ティブラー <u>:</u> 画	S	ぶ。では次々に新しいは次々に新しいはは次々に新しいはは変講義と問題成う。ご数字I A およびるので、日々の予図 ICT 利用 業内容 ろいろな2次曲総ろいろな2次曲総の接線 等式と領域 等式と領域 習問題 合の数 列合せ ろいろな順列	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を認 習・復習の習慣を	することになり、1000 必要に応じて課業ではいる場合を実施する場合を実施する場合をする。授業の進み身につけ、授業の原図を関係を対応	多くの問題を解める。 を課してこの場合を開いてこの場合を課してこの場合を課してこの場合では、 か方はは中学の日のうるでは、 がある。は、 がある。は、 がある。は、 がある。は、 がある。は、 がある。は、 を対するでは、 を対するにでも、 で簡単な、 ででも、 ででする。 ででする。 ででも、 ででする。 ででも、 ででする。 でです。 ででする。 ででする。 でですででも、 ででする。 でですででも、 ででする。 ででするででも、 ででするででも、 ででするででも、 でですででも、 でですででも、 ででするででも、 でですででも、 でですでですででも、 でですででですでですででですででですででですででででででででででででででで	ことによって理解を深めることがでは、再は験80%、課題等20%の割合いも速く、一旦つまずくと先に進むっちに理解するよう心がけること。 □ 実務経験のある教員による授 実務経験のある教員による授 実務経験のある教員による授 は出線の図形的な性質の違いを区別では、不等式の表す領域を求めたりできる。 いて、不等式の表す領域を求めたりできる。 に関する基本的な問題が解ける。 は則を利用して、簡単な事象の場合のできる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。	
授業の進注意点 授業の原 □ アクラ	属性・履(ティブラー <u>:</u> 画	S	ぶ。 では次々に新しい は次々に新しい は次々に新しい はなが 講義と問題 成う。 ご数字 I A および るので、日々の予 ② ICT 利用 業内容 ろいろな2次曲総 ろいろな2次曲総 等式と領域 等式と領域 等式と領域 3 問題 合の数 列合 ろいろな順列 項定理	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を認 習・復習の習慣を	ますることになり、1000 必要に応じて課業は験を実施する場合要する。授業の進み。 対策の道 は 遠隔授業対応	多くの間とは、	ことによって理解を深めることがでは、再試験80%、課題等20%の割合いも速く、一旦つまずくと先に進むっちに理解するよう心がけること。 □ 実務経験のある教員による授 実務経験のある教員による授 実務経験のある教員による授 は、大学式の表す領域を求めたり会すことができる。 いて、不等式の表す領域を求めたり会すことができる。 は関する基本的な問題が解ける。 は関を利用して、簡単な事象の場合のできる。 いて、順列の計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。	
授業の進注意点 授業の原 □ アクラ	属性・履 <u>(</u> ティブラー <u>:</u> 画	S	ぶ。 では次々に新しい は次々に新しい は次々に新しい は次々に新しい は強が60点末満の ご数学 I A および るので、日々の予 図 ICT 利用 業内 ろいろな2次曲総	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を認 習・復習の習慣を	ますることになり、 、 必要に応じて課 は験を実施する場合 要する。授業の進 身につけ、授業の 図 遠隔授業対応	多くの問題を解する。 の問題では、 の問題では、 の問題では、 の問題では、 のの日のでは、 のの日のでは、 のの日のでは、 のの日のでは、 のの日のでは、 のの日のでは、 のの日のでは、 のの日のでは、 のの日のでは、 のの。 ののは、 ののは、 ののは、 ののは、 ののは、 ののは、 ののは、 ののは、 ののは、 ののは、	ことによって理解を深めることができる。 コというできる。 コとができる。 コとができる。 コとができる。 コとができる。 コとができる。 コン、不等式の表す領域を求めたり行うとができる。 コン、不等式の表す領域を求めたり行うとができる。 コン、不等式の表す領域を求めたり行うとができる。 コン、不等式の表す領域を求めたり行うとができる。 コン、不等式の表す領域を求めたり行うできる。 コン、相合せの計算ができる。 コン、組合せの計算ができる。	
受業の進 主意点 授業の原 アクラ	属性・履(ティブラー <u>:</u> 画	Sunt	ぶ。 では次々に新しい では次々に新しい では次々に新しい は成績が60点末満の ご数学 I A および るので、日々の予 図 ICT 利用 業内 ろい 3な2次曲総 次出線の接線 等式と領域 等式と領域 等式と領域 の列 合せ ろいろなり 項定理 関 列 可 可 関 関 列	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を認 習・復習の習慣を	ますることになり、 意味では、 必要に応じて課業が要に応じて課金を実施する場合では、 授業の進み。 身につけ、授業の原理を対応のでは、 できる。 授業が必要する。 授業の政治のでは、 対策の政治のでは、 対策の政治の政治の政治の政治の政治の政治の政治の政治の政治の政治の政治の政治の政治の	多くの思います。 ・大内容は では、 ・大内容は では、 ・大りのでは、	ことによって理解を深めることがでます。	
受業の進 主意点 受業の原 アクラ	属性・履(ティブラー <u>:</u> 画	S	ぶ。では次々に新しい版 (本) には次々に新しい版 (本) には次々に新しい版 (本) に対して (本) に対	概念や考え方に接めている。 「はっぱん」 「は	ますることになり、 意味では、 必要に応じて課業が要に応じて課金を実施する。授業の進み。 はままでは、 一切では、	多くの間とない。 ・内容はようない。 ・内容はようない。 ・内容はようない。 ・内容はようない。 ・内容はようない。 ・内容はたった。 ・同ののでは、 ・のでは、	ことによって理解を深めることができる。 ことによって理解を深めることができる。 は、再試験80%,課題等20%の割合のも速く、一旦つまずくと先に進むっちに理解するよう心がけること。 「実務経験のある教員による投票 、大田線の図形的な性質の違いを区別では、不等式の表す領域を求めたり行ったができる。 いて、不等式の表す領域を求めたり行ったができる。 に関する基本的な問題が解ける。 は則を利用して、簡単な事象の場合のできる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、知らなの計算ができる。 にある。 ことができる。 ことができる。 ことができる。 ことができる。 ことができる。 ことができる。 ことができる。 ことができる。 ことができる。	
授業の進注意点 授業の原 □ アクラ	属性・履(ティブラー <u>:</u> 画	S	ぶ。では次々に表しいます。では次々講覧のでは、次々講覧のでは、次々講覧のでは、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	概念や考え方に接めている。 「はっぱん」 「は	ますることになり、 意味では、 必要に応じて課業が要に応じて課金を実施する。授業の進み。 はままでは、 一切では、	多くの間とない。 ・内容はようない。 ・内容はようない。 ・内容はようない。 ・内容はようない。 ・内容はようない。 ・内容はたった。 ・同ののでは、 ・のでは、	ことによって理解を深めることがでます。	
受業の進 主意点 授業の原 アクラ	属性・履(ティブラー <u>:</u> 画	S	ぶ。では次々に新しい版 (本) には次々に新しい版 (本) には次々に新しい版 (本) に対して (本) に対	概念や考え方に接めている。 「はっぱん」 「は	ますることになり、1000 必要に応じて課業を実施する場合では、必要に応じて課業の進みである。授業の進みでは、1000 は、1000 では、1000 で	多では、 の間してこのは、 の間してこのは、 が内容は、 か内容は、 のの日のでででででででででででででででででででででででででででででででででで	ことによって理解を深めることができる。 ことによって理解を深めることができる。 は、再試験80%,課題等20%の割合のも速く、一旦つまずくと先に進むっちに理解するよう心がけること。 「実務経験のある教員による投票 、大田線の図形的な性質の違いを区別では、不等式の表す領域を求めたり行ったができる。 いて、不等式の表す領域を求めたり行ったができる。 に関する基本的な問題が解ける。 は則を利用して、簡単な事象の場合のできる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、知らなの計算ができる。 にある。 ことができる。 ことができる。 ことができる。 ことができる。 ことができる。 ことができる。 ことができる。 ことができる。 ことができる。	

		2週	漸化式と数学的帰納法、	練習問題	漸化式で表された数列の- 。数学的帰納法を用いた証	-般項を求めることができる E明ができる。		
		3週	ベクトル、ベクトルの演	寅算		ベクトルの基本的な計算(和きさを求めることができる。		
		4週	ベクトルの成分		平面ベクトルの成分表示か 簡単な計算ができる。	「でき、成分表示を利用して		
		5週	ベクトルの内積		平面ベクトルの内積を求め	oることができる。		
		6週	ベクトルの平行と垂直、	ベクトルの図形への応用	ベクトルの平行・垂直条件ができる。	や利用して問題を解くこと		
	7週			京領のベクトリナヤナ 東京ベクトリの領形独立 領		武を求めることができる。 理解し、それに関する問題		
[8週	空間座標、ベクトルの反			「でき、成分表示を利用して 「ベクトルの内積を求めるこ		
		9週	直線の方程式、平面の方	5程式	空間内の直線・平面の方程	武を求めることができる。		
		10週	球の方程式、空間ベクト 習問題	〜ルの線形独立・線形従属、練	球の方程式を求めることができる。空間ベクトルの線形独立を理解し、それに関する問題が解ける。			
		11週	行列の定義、行列の和・	 行列の定義、行列の和・差、数との積		行列の定義を理解し、行列の和・差・スカラーとの積 を求めることができる。		
	4thO	12週	行列の積、転置行列		行列の積を求めることができる。			
	2	13週	逆行列、練習問題		逆行列の定義を理解し、2次の正方行列の逆行列を求めることができる。			
		14週	消去法、逆行列と連立 1	l 次方程式	消去法を用いて連立方程式を解くことができる。			
		15週	行列の階数、練習問題		行列の階数を求めることか	^バ できる。		
		16週	後期定期試験					
評価割合	<u></u>							
			定期試験	達成度試験	課題等	合計		
総合評価割合 50		50	30	20	100			
基礎的能力]		50	30	20	100		
専門的能力)		0	0	0	0		
分野横断的	能力		0	0	0	0		
				•				

苫小牧	女工業高等	等専門学校	開講年度	令和03年度 (2	2021年度)	授業科目	数学ⅡA(応用化学・生物系)	
科目基礎	情報		•					
科目番号				科目区分	一般 / 必修			
受業形態_		授業	 		単位の種別と単位		3	
開設学科 開設期		剧這上子和 通年	創造工学科(一般科目) 通年		対象学年 週時間数	3		
数科書/教	材	教科書:	教 科 書:新井一道他著「新微分積分 I」(大日本図書) 補書)、自作プリント				皆「新微分積分 I 問題集」(大日本図	
□当教員		高橋 労太	12 22 1					
到達目標	Ē	•						
1) 関数の 2) いろい 3) 関数の 4) 定積の	の極限、微: いろな関数の の変動とその 分と不定積	分係数、導関 の導関数(三 の応用(関数	数 角関数、逆三角関	で基本的な計算問題 数、対数関数、指数 線の凹凸・変曲点、	(関数)	ত ঃ		
レーブリ	<u> リック </u>		1四+日40+2701キ1	***	本がたわまいでいます。	» II ФПФ	ナがよしが生み口点	
			理想的な到達レ	<u>ベルの目安</u> 微分係数、導関数	標準的な到達レク	シルの目安 微分係数、導関数	未到達レベルの目安 「関数の極限、微分係数、導関数	
平価項目1			」を理解して色 くことができる。	々な計算問題を解	」 ドラスの極限、1 」を理解して基本 解くことができる	いいな計算問題を		
平価項目2			関数、逆三角関	別数の導関数(三角 数、対数関数、指 解して色々な計算 ができる。	「いろいろな関数 関数、逆三角関数 数関数)」を理解 算問題を解くこと	WUて基本的な計	「いろいろな関数の導関数(三純関数、逆三角関数、対数関数、指 関数、逆三角関数、対数関数、指数関数)」を理解して基本的な計算問題を解くことができない。	
评価項目3	「関数の変動とその応用(関数の 増減・極値、曲線の凹凸・変曲点 増減・極値、曲線の凹凸・変曲点			泉の凹凸・変曲点 」を理解して基	「関数の変動とその応用(関数な 増減・極値、曲線の凹凸・変曲点 、速度と加速度)」を理解して基 本的な計算問題を解くことができ ない。			
で 「定積分と不定積分、間 評価項目4 、部分積分法」を理解し 計算問題を解くことがで			を理解して色々な	定積分と不定積分 部分積分法」を理 計算問題を解くこ	聖解して基本的な	「定積分と不定積分、置換積分法 、部分積分法」を理解して基本的 な計算問題を解くことができない		
 学科の到	達日標項	 頁目との関(系				0	
I 人間 II 実践 III 国際	性 性							
教育方法	等							
既要		1)関数 2)いろ 3)関数	の極限、微分係数、 いろな関数の導関 の変動とその応用	5る。次の内容を理例 、導関数 数(三角関数、逆三 (関数の増減・極値 換積分法、部分積分	角関数、対数関数 、曲線の凹凸・変	、指数関数)		
受業の進め	方・方法	きる。授業 学業成績の	*は座学講義と問題	夏演習を中心に進め、 のものに対して再評	・必要に応じて課題	顔を課して基礎的	ことによって理解を深めることがで 計算力・応用力の養成を図る。 試験80%、課題等20%の割合で再	
主意点		一旦つます	げくと先に進むのた いがけること。数学	が困難となるので、	日々の予習・復習 <i>0</i> 後学んでいく工学 <i>0</i>	の習慣を身につけ の基礎として位置	授業の進み方は1年次よりも速く、 、授業の内容はその日のうちに理解 づけられる。継続的学習により数学	
		<u>多上の区分</u>	T					
」アクテ	ィブラーニ	ンク	☑ ICT 利用		□ 遠隔授業対応		☑ 実務経験のある教員による授	
受業計画	ī							
	1	週				 週ごとの到達目標		
			関数とその性質、関	関数の極限			・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
		2週 往	微分係数、導関数				P、導関数の定義を理解し、導関数を Eる。	
		3週 🗓	算関数の性質)公式を用いて、導関数を求めること	
	1stQ	4週	三角関数の導関数				対を求めることができる。	
		H	旨数関数の導関数、			指数関数の導関数を求めることができる。		
前期			合成関数の導関数、 逆三角関数とその導	対数関数の導関数 ^{直関数}		合成関数・対数関数の導関数を求めることができる。 逆三角関数を理解し、逆三角関数の導関数を求める。		
						とができる。	UDL 7=100+2-11"	
			関数の連続、練習問 妾線と法線	<u> </u>		中間値の定理を利用して証明することができる。 簡単な場合について、関数の接線の方程式を求めるこ		
	2ndQ		要素と			とができる。 関数の増減表を利用して、極値を求め、グラフの概形		
	21100	10/2	ヘ」メ ハ マノ ・ 日 // W		を描くことができ 関数の増減表を利	きる。 川用して、極値を求め、グラフの概用		

関数の増減表を利用して、極値を求め、グラフの概形 を描くことができる。

11週

極大と極小

		12週	関数の最大と最小			極値を利用して、 ができる。	関数の最大値・最小値を求めること		
		13週	不定形の極限、練習	問題		ロピタルの定理を用いて極限値を求めることができる。			
		14週	高次導関数			高次導関数を求めることができる。			
		15週	曲線の凹凸、練習問	題		2次の導関数を利用できる。	用して、グラフの凹凸を調べることが		
		16週	前期定期試験						
		1週	媒介変数表示と微分	法		関数の媒介変数表 その導関数を求め	示を理解し、媒介変数を利用して、 ることができる。		
		2週	媒介変数表示と微分	法		関数の媒介変数表 その導関数を求め	示を理解し、媒介変数を利用して、 ることができる。		
		3週	速度と加速度	速度と加速度			度・加速度を求めることができる。		
	3rdO	4週	平均値の定理、練習	問題		平均値の定理を理	解できる。		
	SiuQ	5週	不定積分			不定積分の定義をとができる。	理解し、簡単な不定積分を求めるこ		
	6週	定積分の定義	定積分の定義			解し、簡単な定積分を求めることが			
		7週	微分積分法の基本定	'理		微積分の基本定理を理解できる。			
		8週	定積分の計算			簡単な定積分を求	めることができる。		
後期		9週	いろいろな不定積分	いろいろな不定積分の公式		不定積分の定義をとができる。	理解し、簡単な不定積分を求めるこ		
		10週	いろいろな不定積分	の公式	不定積分の定義を理解し、簡単な不定積分を求める とができる。				
		11週	練習問題	練習問題			不定積分・定積分の基本的な計算ができる。		
	444-0	12週	置換積分法	置換積分法		置換積分用いて、不定積分や定積分を求めることがで きる。			
	4thQ	13週	置換積分法				置換積分用いて、不定積分や定積分を求めることができる。		
		14週	部分積分法				不定積分、定積分の部分積分法を理解し、積分計算に 応用することができる。		
		15週	部分積分法、練習問	題		不定積分、定積分の部分積分法を理解し、積分計算に 応用することができる。			
		16週	後期定期試験						
評価割る	 合				<u></u>				
		Į.	E期試験	達成度試験	彭	果題等	合計		
総合評価	割合	3	0	30	4	.0	100		
基礎的能:	カ	3	0	30	4	-0	100		
専門的能:	カ	0		0	0		0		
分野横断	的能力	0	<u> </u>	0	0	<u> </u>	0		

	牧工業高質	等専門学校	開講年度	令和03年度(2	2021年度)	授業科目	数学ⅡB(応用化学・生物系)	
科目基礎	礎情報		•					
科目番号	•	0043			科目区分	一般 / 必	修	
授業形態		授業			単位の種別と単位	位数 履修単位	: 3	
開設学科		創造工学科	(一般科目)		対象学年	2		
開設期		通年			週時間数	3		
教科書/教	数材	」、「新線	高遠節夫他著「新 形代数問題集」(基礎数学」、「新 大日本図書)、自	線形代数」(大日本 作プリント	図書) 補助教材	:高遠節夫他著「新基礎数学問題集	
担当教員		伊藤 芳浩						
1) 図形	を理解して (2次曲線 の数と数列 トル	基本的な計算問)と式	題を解くことがて	きる。				
ルーブ	リック		_					
			理想的な到達レク	ベルの目安	標準的な到達レイ	ベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目	1		「図形(2次曲線 して色々な計算局 できる。	泉)と式」を理解 問題を解くことが	「図形(2次曲線 して基本的な計算 ができる。	泉)と式」を理解 算問題を解くこと	「図形(2次曲線)と式」を理解して基本的な計算問題を解くことができない。	
評価項目	2			列」を理解して色 解くことができる	「場合の数と数列本的な計算問題を る。	リ」を理解して基 を解くことができ		
評価項目	3		「ベクトル」を ¹ 算問題を解くこ	里解して色々な計 とができる。	「ベクトル」を理計算問題を解くる	型解して基本的な ことができる。	「ベクトル」を理解して基本的な 計算問題を解くことができない。	
評価項目	4		「行列」を理解し 題を解くことが	ノて色々な計算問 できる。	「行列」を理解し 問題を解くことだ	ノて基本的な計算 ができる。	「行列」を理解して基本的な計算 問題を解くことができない。	
学科の	到達目標工	項目との関係	<u> </u>					
Ⅱ 実記	間性 浅性 終性							
教育方法	法等							
概要		「図形(2)	次曲線)と式」、					
		くことを学ん数学の授業	<u>ぶ。</u> では次々に新しい	概念や考え方に接		多くの問題を解く		
注意点	め方・方法	数学の授業 きる。授業 学業成績の 再評価を行 1年で学んた が困難とな	ぶ。 では次々に新しい は座学講義と問題 成績が60点未満の う。 ご数学 I Aおよび	概念や考え方に接 演習を中心に進め ものに対して再記 数学 I Bの知識を	することになり、 、必要に応じて課 は験を実施する場合 要する。授業の進み	多くの問題を解く 題を課して基礎的 がある。この場合 *方は中学時代よ	ことによって理解を深めることがで 計算力・応用力の養成を図る。 合、再試験75%,課題等25%の割合	
注意点		数学の授業 きる。授業 学業成績の 再評価を行 1年で学んだ	ぶ。 では次々に新しい は座学講義と問題 成績が60点未満の う。 ご数学 I Aおよび	概念や考え方に接 演習を中心に進め ものに対して再記 数学 I Bの知識を	することになり、 、必要に応じて課 は験を実施する場合 要する。授業の進み	多くの問題を解く 題を課して基礎的 がある。この場合 *方は中学時代よ	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 計算力・応用力の養成を図る。 な、再試験75%,課題等25%の割合 りも速く、一旦つまずくと先に進むの	
注意点 授業の)		数学の授業 きる。授業 学業成績の 再評価を行 1年で学んた が困難とな	ぶ。 では次々に新しい は座学講義と問題 成績が60点未満の う。 ご数学 I Aおよび	概念や考え方に接 演習を中心に進め ものに対して再記 数学 I Bの知識を	することになり、 、必要に応じて課 は験を実施する場合 要する。授業の進み	多くの問題を解く 質を課して基礎的がある。この場合 *方は中学時代よ 内容はその日のう	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 計算力・応用力の養成を図る。 計、再試験75%,課題等25%の割合 りも速く、一旦つまずくと先に進むで ちに理解するよう心がけること。	
主意点 授業の 」アク :	属性・履(ティブラー:	数学の授業 きる。授業 学業成績の 再評価を行 1年で学んた が困難とな	ぶ。 では次々に新しい は座学講義と問題 成績が60点未満の う。 ご数学 I Aおよび るので、日々の子	概念や考え方に接 演習を中心に進め ものに対して再記 数学 I Bの知識を	することになり、 、必要に応じて課 は験を実施する場合 要する。授業の進み 身につけ、授業の[多くの問題を解く 質を課して基礎的がある。この場合 *方は中学時代よ 内容はその日のう	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 計算力・応用力の養成を図る。 計、再試験75%,課題等25%の割合 りも速く、一旦つまずくと先に進むで ちに理解するよう心がけること。	
注意点 授業の □ アクラ	属性・履(ティブラー:	数学の授業 きる。授業 学業成績の 再評価を行 1年で学んた が困難とな 多上の区分	ぶ。 では次々に新しい は座学講義と問題 成績が60点未満の う。 ご数学 I A およびるので、日々の予 ☑ ICT 利用	概念や考え方に接 演習を中心に進め ものに対して再記 数学 I Bの知識を	することになり、()、必要に応じて課 、 、必要に応じて課 、 、 、 、 している場合 要する。授業の進み ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	多くの問題を解く 題を課して基礎的がある。この場合 か方は中学時代よ 内容はその日のう	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 計算力・応用力の養成を図る。 は、再試験75%,課題等25%の割合 のも速く、一旦つまずくと先に進むで ちに理解するよう心がけること。	
主意点 授業の 」アク :	属性・履(ティブラー:	数学の授業 きる。授業 学業成績の 再評価を行 1年で学んた が困難とな 多上の区分	ぶ。 では次々に新しい は座学講義と問題 成績が60点未満の う。 ご数学 I Aおよび るので、日々の子	概念や考え方に接 演習を中心に進め ものに対して再記 数学 I Bの知識を	することになり、1 、必要に応じて課 は験を実施する場合 要する。授業の進み 身につけ、授業の原	多くの問題を解く 質を課して基礎的がある。この場合 か方は中学時代よ か容はその日のう	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 合、再試験75%,課題等25%の割合 のも速く、一旦つまずくと先に進むで ちに理解するよう心がけること。	
主意点 授業の 」アク :	属性・履(ティブラー:	数学の授業 きる。授業 学業成績の 再評価を行 1年で学んた が困難とな 修上の区分	ぶ。 では次々に新しい は座学講義と問題 成績が60点未満の う。 ご数学 I A およびるので、日々の予 ☑ ICT 利用	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を 習・復習の習慣を	することになり、1 、必要に応じて課 は験を実施する場合 要する。授業の進み 身につけ、授業の原	多くの問題を解く 題を課して基礎的がある。この場合 か方は中学時代よ か容はその日のう 週ごとの到達目標 放物線、楕円、3	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 合、再試験75%,課題等25%の割合 のも速く、一旦つまずくと先に進むで ちに理解するよう心がけること。	
注意点 授業の □ アクラ	属性・履(ティブラー:	数学の授業 きる。授業 学業成績の 再評価を行 1年で学んたが困難とない 多上の区分 ニング 週 授 1週	ぶ。 では次々に新しい は座学講義と問題 成績が60点未満の う。 ご数学 I Aおよびるので、日々の予 ☑ ICT 利用	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を認 習・復習の習慣を	することになり、 、必要に応じて課 は験を実施する場合 要する。授業の進み ・身につけ、授業の原	多くの問題を解く 題を課して基礎的がある。この場合 か方は中学時代よ 内容はその日のう 週ごとの到達目標 放物線、楕円、別 きる。 放物線、楕円、別	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 合、再試験75%,課題等25%の割合 のも速く、一旦つまずくと先に進むで ちに理解するよう心がけること。 □ 実務経験のある教員による授 □ 無線の図形的な性質の違いを区別で	
注意点 授業の □ アクラ	属性・履(ティブラー:	数学の授業 きる。授業 学業成績の 再評価を行 1年で学んた が困難とな 修上の区分 ニング	ぶ。 では次々に新しい は座学講義と問題 成績が60点未満の う。 ご数学 I Aおよび るので、日々の予 ☑ ICT 利用 業内容 ろいろな 2 次曲線	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を認 習・復習の習慣を	することになり、1 、必要に応じて課 は験を実施する場合 要する。授業の進み 身につけ、授業の原	多くの問題を解く 類を課して基礎的がある。この場合 か方は中学時代より 内容はその日のう 過ごとの到達目標 放物線、楕円、別 きる。 放物線、楕円、別 きる。	□ 実務経験のある教員による授	
注意点 授業の □ アクラ	属性・履(ティブラー:	数学の授業 きる。授業 学業成績の 再評価を行 1年で学んだ が困難とな 多上の区分 ニング 週	ぶ。 では次々に新しい は座学講義と問題 成績が60点未満の う。 ご数学 I Aおよび るので、日々の予 ☑ ICT 利用 業内容 ろいろな2次曲総	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を認 習・復習の習慣を	することになり、 、必要に応じて課 域験を実施する場合 要する。授業の進み 身につけ、授業の 図 遠隔授業対応	多くの問題を解く 類を課して基礎的がある。この場合 か方は中学時代より 内容はその日のう 過ごとの到達目標 放物線、楕円、系 きる。 放物線、楕円、系 きる。 放物線、楕円、系 をある。	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 お、再試験75%,課題等25%の割合 のも速く、一旦つまずくと先に進むで 方に理解するよう心がけること。 □ 実務経験のある教員による授 関 な曲線の図形的な性質の違いを区別で な曲線の図形的な性質の違いを区別で な曲線の図形的な性質の違いを区別で な曲線の接線の方程式を求めることが ないて、不等式の表す領域を求めたり命	
注意点 授業の □ アクラ	属性・履 <u>(</u> ティブラー <u>:</u> 画	数学の授業 きる。授業 学業成績の 再評価を行 1年で学んな 多上の区分 こング 週 1週 い 3週 2 4週 不 5週	ぶ。 では次々に新しい は座学講義と問題 成績が60点未満の う。 ご数学 I Aおよび るので、日々の予 ② ICT 利用 業内容 ろいろな2次曲総 次曲線の接線	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を認 習・復習の習慣を	することになり、1 、必要に応じて課 は験を実施する場合 要する。授業の進み 身につけ、授業の原 図 遠隔授業対応	多くの問題を解く 類を課してこの場合 がある。この場合 が方は中学時代よう か方は中学時代よう か容はその日のう が物線、 放物線、 放物はる。 放物はる。 放物はる。 放物はる。 放物はる。 放物はる。 放物はる。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がはきる。 がはきる。 がはきる。 ができる。 ができる。 ができる。 ができる。 ができる。 ができる。 ができる。 ができる。 ができる。 ができる。 ができる。 ができる。 ができる。 ができる。 ができる。 ができる。 ができる。 がしている。 はしている。 はしている。 はしている。 はしている。 はしている。 はしている。 はしている。	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 か、再試験75%,課題等25%の割合 のも速く、一旦つまずくと先に進むで ちに理解するよう心がけること。 □ 実務経験のある教員による授 図曲線の図形的な性質の違いを区別で 図曲線の図形的な性質の違いを区別で 図曲線の接線の方程式を求めることができる。 って、不等式の表す領域を求めたり合 すことができる。	
主意点 授業の 」アク :	属性・履 <u>(</u> ティブラー <u>:</u> 画	数学の授業 きる。授業 学業成績の 再評価を行 1年で学んな 多上の区分 こング 週 1週 い 3週 2 4週 不 5週	ぶ。では次々に新しいは座学講義と問題成績が60点末満のう。ご数学IAおよびるので、日々の予図ICT利用 業内容ろいろな2次曲総ろいろな2次曲総次曲線の接線等式と領域	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を認 習・復習の習慣を	することになり、1 、必要に応じて課 は験を実施する場合 要する。授業の進み 身につけ、授業の原 図 遠隔授業対応	多くの問題を解く 類を課してこの場合 がある。 か方は中学時日のう 過ごとの到達目標 放物線、 た方は物線、 を放物線、 を放物線、 を放物線、 を放物線、 をできな場合である。 ができなな等場合でである。 域を不等場合でである。 域域を不等場合でである。 は域を不等。 は域を不等。 は域を不等。 は域を不等。 は域を不等。 は域をないます。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 か、再試験75%,課題等25%の割合のも速く、一旦つまずくと先に進むできに理解するよう心がけること。 □ 実務経験のある教員による授 は無線の図形的な性質の違いを区別では、不等式の表す領域を求めたり行ことができる。 いて、不等式の表す領域を求めたり行ことができる。 関する基本的な問題が解ける。	
主意点 授業の □ アクラ	属性・履 <u>(</u> ティブラー <u>:</u> 画	数学の授業 きる。授業 が接業 が困難とな 多上の区分 ニング 週	ぶ。 では次々に新しい は座学講義と問題 成績が60点末満の う。 ご数学 I Aおよび るので、日々の予 ☑ ICT 利用 業内容 ろいろな2次曲総 スいるな2次曲総 次曲線の接線 等式と領域 等式と領域	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を認 習・復習の習慣を	することになり、1 、必要に応じて課 は験を実施する場合 要する。授業の進み 身につけ、授業の原 図 遠隔授業対応	多くの問題を解く 類を課してこの場合 が方は中学時日のう 過ごとの到達目標 放物。 放物る。 放物る。 放物る。 放物る。 放物る。 放物るの場合でである。 放物をなな等場合式でにでまる。 できりずにでする。 できりずにでする。 できりずにでする。 できりずにでする。 できりずにでする。 できりずにでする。 できりずにでする。 できりずにでする。 できりずにでする。 できりずにでする。 できりずにでする。 できりずにでする。 できりずにでする。 できりがある。 はいました。 できりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいました。 できりがある。 にいまりがある。 にいました。 できりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいました。 にいまりた。 にいました。 にいまた。 にいまた。 にいまた。 にいまた。 にいまた。 にいまた。 にした。 にした。 にした。 にした。 にした。 にした。 にした。 にした。 にした。 にした。 にした。 にした。 にした。 にした。 にし	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 か、再試験75%,課題等25%の割合のも速く、一旦つまずくと先に進むできに理解するよう心がけること。 □ 実務経験のある教員による授 実務経験のある教員による授 は無線の図形的な性質の違いを区別では、不等式の表す領域を求めたり行ことができる。 いて、不等式の表す領域を求めたり行ことができる。 関する基本的な問題が解ける。 は則を利用して、簡単な事象の場合のできる。	
主意点 受業の 〕 アク・ 受業計	属性・履 <u>(</u> ティブラー <u>:</u> 画	数学の授業	ぶ。では次々に新しいは次々に新しいは座学講義と問題成績が60点未満のう。ご数学 I Aおよびるので、日々の予図 ICT 利用 業内容 ろいろな2次曲総 スート	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を認 習・復習の習慣を	することになり、1 、必要に応じて課 は験を実施する場合 要する。授業の進み 身につけ、授業の原 図 遠隔授業対応	多くの問題を解く 類を課してこの場合 が方は中学時日のう 過ごとの到達目標 放物。 放物る。 放物る。 放物る。 放物る。 放物る。 放物るの場合でである。 放物をなな等場合式でにでまる。 できりずにでする。 できりずにでする。 できりずにでする。 できりずにでする。 できりずにでする。 できりずにでする。 できりずにでする。 できりずにでする。 できりずにでする。 できりずにでする。 できりずにでする。 できりずにでする。 できりずにでする。 できりがある。 はいました。 できりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいました。 できりがある。 にいまりがある。 にいました。 できりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいまりがある。 にいました。 にいまりた。 にいました。 にいまた。 にいまた。 にいまた。 にいまた。 にいまた。 にいまた。 にした。 にした。 にした。 にした。 にした。 にした。 にした。 にした。 にした。 にした。 にした。 にした。 にした。 にした。 にし	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 か、再試験75%,課題等25%の割合 のも速く、一旦つまずくと先に進むいちに理解するよう心がけること。 □ 実務経験のある教員による授 は無線の図形的な性質の違いを区別では、不等式の表す領域を求めたり続いて、不等式の表す領域を求めたり続いて、不等式の表す領域を求めたり続いて、不等式の表す領域を求めたり続いて、不等式の表す領域を求めたり続いて、不等式の表す領域を求めたり続いて、不等式の表す領域を求めたり続いて、所質な事象の場合の場合の場合の場合の場合の場合の表すに対して、簡単な事象の場合の	
主意点 授業の □ アクラ	属性・履 <u>(</u> ティブラー <u>:</u> 画	数学の授業 学学業成績を行 1年で学んな 沙田難とな 多上の区分 ニング 週 1週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 順	ぶ。では次々に新しいは深々に新しいは座学講義と問題成績が60点末満のう。ご数学 I A およびるので、日々の予図 ICT 利用 業内容 ろいろな 2 次曲線 ろいろな 2 次曲線の接線 等式 と領域 等式 と領域 習問題 合の数	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を認 習・復習の習慣を	することになり、1000 必要に応じて課業ではいる場合を実施する場合を実施する場合をする。授業の進み身につけ、授業の原図を関係を対応	多くの問題を解ぐ 類を課してこの場合を がある。 か方は中学の日のう がわ容はその日のう がわ容はその日のう がわる。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 ないで簡単を、 がは、 にで、 でで、 でで、 ででで、 がいきがないで、 ででは、 ででで、 がいきがないでで、 ででは、 でででは、 でででで、 でででで、 でででで、 でででで、 でででで、 でででで、 でででで、 でででで、 でででで、 ででででで、 でででで、 ででで、 ででで、 ででで、 ででで、 ででで、 ででで、 で、	ことによって理解を深めることができる。 にはって理解を深めることができる。 に対験75%,課題等25%の割合のも速く、一旦つまずくと先に進むっちに理解するよう心がけること。 「実務経験のある教員による授業を認める。 は関係の対象の対象の対象を受けて、不等式の表す領域を求めたり行ったができる。 にて、不等式の表す領域を求めたり行ったができる。 関する基本的な問題が解ける。 は則を利用して、簡単な事象の場合のできる。	
注意点 授業の □ アクラ 授業計	属性・履 <u>(</u> ティブラー <u>:</u> 画	数学の授業	ぶ。では次々に新しいは次々に新しいは座学講義と問題成績が60点末満のう。ご数学IAおよびるので、日々の予図ICT利用 業内容 ろいろな2次曲総クスと領域 等式と領域 等式と領域 等式と領域 の数 列	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を認 習・復習の習慣を	することになり、1000 必要に応じて課業ではいる場合を実施する場合を実施する場合をする。授業の進み身につけ、授業の原図を関係を対応	多くの問題を解ぐ 類を課してこの場合 がある。 か方はは中その日のう ででは、 で簡域を下でで、 がある。 がある。 ないまさいないででで、 がある。 がある。 ないまさいないでで、 がある。 ないまでで、 ででで、 ででで、 ででで、 でで、 でで、 でで、 で	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 合、再試験75%,課題等25%の割合のも速く、一旦つまずくと先に進むっちに理解するよう心がけること。 □ 実務経験のある教員による授 関本線の図形的な性質の違いを区別では、不等式の表す領域を求めたり合うことができる。 いて、不等式の表す領域を求めたり合うことができる。 は則を利用して、簡単な事象の場合のできる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。	
注意点 授業の □ アクラ 授業計	属性・履 <u>(</u> ティブラー <u>:</u> 画	数学の授業 当きる。 別様で学んな 多上の区分 コ年で学んな 多上の区分 コカリカリカリカリカリカリカリカリカリカリカリカリカリカリカリカリカリカリカリ	ぶ。では次々に新しいは次々に新しいはは次々に新しいははないでは次々に新しいははないでは四季では一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を認 習・復習の習慣を	することになり、1000 必要に応じて課業ではいる場合を実施する場合を実施する場合をする。授業の進み身につけ、授業の原図を関係を対応	多くの問題を解ぐ 類を課してこの場合を がある。 か方はは中学の日のう では、 ででは、 ででは、 ででは、 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 ないで簡単を、 がは、 にてで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 か、再試験75%,課題等25%の割合のも速く、一旦つまずくと先に進むっちに理解するよう心がけること。 □ 実務経験のある教員による授 実務経験のある教員による授 ス曲線の図形的な性質の違いを区別で ス曲線の図形的な性質の違いを区別で ス曲線の接線の方程式を求めることができる。 いて、不等式の表す領域を求めたり行ことができる。 以上とができる。 以上とができる。 以上とができる。 以上によりによって、簡単な事象の場合のできる。 いて、順列の計算ができる。	
主意点 授業の □ アクラ	属性・履(ティブラー <u>:</u> 画 1stQ	数学の授業 当きる。 対域を が困難と が困難と が困難と が困難と が困難と が困難と が固 3週 1週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 二	ぶ。 では次々に新しい は次々に新しい は次々に新しい はなが 講義と問題 成う。 ご数字 I A および るので、日々の予 ② ICT 利用 業内容 ろいろな2次曲総 ろいろな2次曲総 等式と領域 等式と領域 等式と領域 3 問題 合の数 列合 ろいろな順列 項定理	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を認 習・復習の習慣を	ますることになり、1000 必要に応じて課業は験を実施する場合要する。授業の進み。 対策の道 は 遠隔授業対応	多くの問題を確める。 ・大内容はその日の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 合、再試験75%,課題等25%の割合のも速く、一旦つまずくと先に進むっちに理解するよう心がけること。 □ 実務経験のある教員による授 関本線の図形的な性質の違いを区別 図曲線の図形的な性質の違いを区別 図曲線の接線の方程式を求めることができる。 いて、不等式の表す領域を求めたり行ってとができる。 関する基本的な問題が解ける。 は則を利用して、簡単な事象の場合のできる。 いて、順列の計算ができる。 いて、順列の計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 リ、同じものを含む順列の計算ができる。 「関列の計算ができる。」 「同じものを含む順列の計算ができる。」 「同じものを含む順列の計算ができる。」 「の目じものを含む順列の計算ができる。」 「の目にものを含む順列の計算ができる。」 「会項式を展開できる。」	
主意点 授業の □ アクラ	属性・履 <u>(</u> ティブラー <u>:</u> 画	数学の授業 当きる。 別様で学んだが困難ととが 多上の区分 コ週 コ週 コ週 コ週 コ週 コ週 コ週 コ週 コ週 コ週	ぶ。 では次々に新しい は次々に新しい は次々に新しい は次々に新しい は強が60点末満の ご数学 I A および るので、日々の予 図 ICT 利用 業内 ろいろな2次曲総	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を認 習・復習の習慣を	ますることになり、 、 必要に応じて課 は験を実施する場合 要する。授業の進 身につけ、授業の 図 遠隔授業対応	多くの問題を確める。 の問してこの場合では、 の問してこの場合では、 の目してこの場合では、 の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 六、再試験75%,課題等25%の割合のも速く、一旦つまずくと先に進む方に理解するよう心がけること。 □ 実務経験のある教員による授い。 □ 実務経験のある教員による授い。 □ 実務経験のある教員による授い。 □ 実務経験のある教員による授い。 □ 実務経験のある教員による授い。 □ 実務経験のある教員による授い。 □ 実務経験のある教員による授い。 □ 実務経験のある教員による授い。 □ 実務経験のある教員による授い。 □ 実務経験のある教員による授い。 □ 実務経験のある教員による授い。 □ 実務経験のある教員による授い。 □ 実務経験のある教員による授い。 □ によりな世界の表す領域を求めたり行いできる。 □ によりできる。 □ によりの計算ができる。 □ に、順列の計算ができる。 □ に、順列の計算ができる。 □ に、順列の計算ができる。 □ に、間ができる。 □ に、間がいまがに、日に、日に、日に、日に、日に、日に、日に、日に、日に、日に、日に、日に、日に	
主意点 授業の □ アクラ	属性・履(ティブラー <u>:</u> 画 1stQ	数学の。授業 等学の。 表示の区 1年で学んな 多上の区 1週 い 1週 い 3週 2 4週 不 5週 不 6週 不 6週 不 6週 編 7週 場 8週 9週 1 10週 い 11週 二 11週 二 12週 数	ぶ。 では次々に新しい では次々に新しい では次々に新しい は成績が60点末満の ご数学 I A および るので、日々の予 図 ICT 利用 業内 ろい 3な2次曲総 次出線の接線 等式と領域 等式と領域 等式と領域 の列 合せ ろいろなり 項定理 関 列 可 可 関 関 列	概念や考え方に接 演習を中心に進め)ものに対して再記 数学 I Bの知識を認 習・復習の習慣を	ますることになり、 意味では、 必要に応じて課業が要に応じて課金を実施する場合では、 授業の進み。 身につけ、授業の原理を対応のでは、 できる。 授業が必要する。 授業の政治のでは、 対策の政治のでは、 対策の政治の政治の政治の政治の政治の政治の政治の政治の政治の政治の政治の政治の政治の	多くの思います。 ・大内容は では、 ・大内容は では、 ・大のの では、 ・大のでは、	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 は、再試験75%,課題等25%の割合のも速く、一旦つまずくと先に進む方に理解するよう心がけること。 □ 実務経験のある教員による投票 図曲線の図形的な性質の違いを区別では、不等式の表す領域を求めたり行ったができる。 いて、不等式の表す領域を求めたり行ったができる。 いて、不等式の表す領域を求めたり行ったができる。 いて、不等式の表す領域を求めたり行ったができる。 いて、相合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。	
主意点 授業の □ アクラ	属性・履(ティブラー <u>:</u> 画 1stQ	数学の授業 数学の。授績を行 1年で学んな 多上の区 シング 週 1週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 11週 11週 11週 11週 11	ぶ。では次々に新しい版 (本) には次々に新しい版 (本) には次々に新しい版 (本) に対して (本) に対	概念や考え方に接めている。 「はっぱん」 「は	ますることになり、 意味では、 必要に応じて課業が要に応じて課金を実施する。授業の進み。 はままでは、 一切では、	多くの思います。 ・内容は、大内容は、大内容は、大内容は、大内容は、大内容は、大内容は、大内容は、大	ことによって理解を深めることができる。 ことによって理解を深めることができる。 は、再試験75%,課題等25%の割合のも速く、一旦つまずくと先に進む方に理解するよう心がけること。 □ 実務経験のある教員による投票 図曲線の図形的な性質の違いを区別では場の接線の方程式を求めることができる。 いて、不等式の表す領域を求めたり行ことができる。 いて、不等式の表す領域を求めたり行ことができる。 いて、不等式の表す領域を求めたり行ことができる。 いて、個別の計算ができる。 いて、順列の計算ができる。 いて、順列の計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 こを項式を展開できる。 る基本的な問題が解ける。 こを項式を展開できる。 こを項式を展開できる。 こを項式を展開できる。 こを項式を展開できる。 こを項式を展開できる。 こを項式を展開できる。	
注意点 授業の □ アクラ 授業計	属性・履(ティブラー <u>:</u> 画 1stQ	数学の。 対域を 対域を 対域を がを 多きのでで がを 多上ので 過 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 10週 11週 11週 11週 11週 11週 11	ぶ。では次々に表しいます。では次々講覧のでは、次々講覧のでは、次々講覧のでは、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	概念や考え方に接めている。 「はっぱん」 「は	ますることになり、 意味では、 必要に応じて課業が要に応じて課金を実施する。授業の進み。 はままでは、 一切では、	多くの思います。 ・内容は、大内容は、大内容は、大内容は、大内容は、大内容は、大内容は、大内容は、大	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 は、再試験75%,課題等25%の割合のも速く、一旦つまずくと先に進む方に理解するよう心がけること。 □ 実務経験のある教員による授助。 □ によの表す領域を求めたり行きる。 □ ことができる。 □ によの表す領域を求めたり行きる。 □ により、により、により、により、により、により、により、により、により、により、	
注意点 授業の)	属性・履(ティブラー <u>:</u> 画 1stQ	数学の。 要きる 素が困難と 多上の区分 こング 週 1週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 11週 11週 11週 11週 11週 11週 11週	ぶ。では次々に新しい版 (本) には次々に新しい版 (本) には次々に新しい版 (本) に対して (本) に対	概念や考え方に接めている。 「はっぱん」 「は	ますることになり、1000 必要に応じて課業を実施する場合では、必要に応じて課業の進みである。授業の進みでは、1000 は、1000 では、1000 で	多で課る。 の間してこの時代の の間してこの時代の の間してこの時代の のの目のでは、 で簡単を関する。 でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	ことによって理解を深めることがで計算力・応用力の養成を図る。 は、再試験75%,課題等25%の割合のも速く、一旦つまずくと先に進む方に理解するよう心がけること。 □ 実務経験のある教員による授 関本線の図形的な性質の違いを区別では、不等式の表す領域を求めたり行ったができる。 対する基本的な問題が解ける。 は則を利用して、簡単な事象の場合なができる。 いて、順列の計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 いて、組合せの計算ができる。 このできる。	

			1			1
		2週	漸化式と数学的帰納法、	練習問題	漸化式で表された数列の- 。数学的帰納法を用いた証	-般項を求めることができる E明ができる。
		3週	ベクトル、ベクトルの	東 算		ベクトルの基本的な計算(和 きさを求めることができる。
		4週	ベクトルの成分		平面ベクトルの成分表示が 簡単な計算ができる。	ができ、成分表示を利用して
		5週	ベクトルの内積		平面ベクトルの内積を求め	りることができる。
		6週	ベクトルの平行と垂直、	ベクトルの図形への応用	ベクトルの平行・垂直条件ができる。	†を利用して問題を解くこと
		7週	直線のベクトル方程式、形従属、練習問題、達成	平面ベクトルの線形独立・線 成度試験	媒介変数による直線の方程 平面ベクトルの線形独立を が解ける。	記式を求めることができる。 空理解し、それに関する問題
		8週	空間座標、ベクトルの原	成分、ベクトルの内積	空間ベクトルの成分表示が 簡単な計算ができる。空間 とができる。	ができ、成分表示を利用して 別ベクトルの内積を求めるこ
		9週	直線の方程式、平面のフ	方程式	空間内の直線・平面の方程	呈式を求めることができる。
		10週	球の方程式、空間ベク 習問題	トルの線形独立・線形従属、練	球の方程式を求めることが 形独立を理解し、それに関	ができる。空間ベクトルの線 関する問題が解ける。
		11週	行列の定義、行列の和	・差、数との積	行列の定義を理解し、行列を求めることができる。	川の和・差・スカラーとの積
	4thO	12週	行列の積、転置行列		行列の積を求めることができる。 逆行列の定義を理解し、2次の正方行列の逆行列を求めることができる。	
		13週	逆行列、練習問題			
		14週	消去法、逆行列と連立:	1 次方程式	消去法を用いて連立方程式	式を解く <i>こと</i> ができる。
		15週	行列の階数、練習問題		行列の階数を求めることか	ができる。
		16週	後期定期試験			
評価割合	ì					
			定期試験	達成度試験	 課題等	合計
総合評価割	 合		50	 	25	100
基礎的能力	J		50	25	25	100
専門的能力	J		0	0	0	0
分野横断的	能力		0	0	0	0
•			•			•

苫小!	牧工業高	等専門学校	開講年度 令和03年度 (2	2021年度)	授業科目	数学ⅡA(都市・環境系)	
科目基础	楚情報						
科目番号		0044		科目区分	一般 / 必修	7	
授業形態		授業		単位の種別と単位			
開設学科		創造工学	科(一般科目)	対象学年	2		
開設期		通年		週時間数	3		
教科書/教	材	教科書書)、自	: 新井一道他著「新微分積分 I 」(大E 作プリント	日本図書) 補助教		「新微分積分 I 問題集」(大日本図	
担当教員		金野 幸					
<u></u> 到達目		1	-				
微分・積 1) 関数 2) いろ 3) 関数 4) 定積	分は工学の数の極限、微いろな関数で変動とそれで表現と不定積	付係数、導展の の導関数(3 の応用(関係の応用(関係)	次の内容を理解して基本的な計算問題 関数 三角関数、逆三角関数、対数関数、指数 数の増減・極値、曲線の凹凸・変曲点、 分法、部分積分法		ెవె.		
ルーブ!	リック		田相のもから かしのロウ	一種が生めたいかいます		ナかなし ベルの日ウ	
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レ		未到達レベルの目安	
評価項目	1		「関数の極限、微分係数、導関数」を理解して色々な計算問題を解 くことができる。	関数の極限、 」を理解して基準 解くことができ	微分係数、導関数 本的な計算問題を る。	「 関数の極限、微分係数、導関数 」を理解して基本的な計算問題を 解くことができない。	
評価項目	2		「いろいろな関数の導関数(三角 関数、逆三角関数、対数関数、指 数関数)」を理解して色々な計算 問題を解くことができる。	関数、逆三角関	数の導関数(三角 数、対数関数、指 解して基本的な計 とができる。	「いろいろな関数の導関数(三角 関数、逆三角関数、対数関数、指 数関数)」を理解して基本的な計 算問題を解くことができない。	
評価項目	3		「関数の変動とその応用(関数の 増減・極値、曲線の凹凸・変曲点 、速度と加速度)」を理解して色 々な計算問題を解くことができる 。	増減・極値、曲線 、速度と加速度)	その応用(関数の 線の凹凸・変曲点)」を理解して基 を解くことができ	「関数の変動とその応用(関数の 増減・極値、曲線の凹凸・変曲点 、速度と加速度)」を理解して基 本的な計算問題を解くことができ ない。	
評価項目	4		「定積分と不定積分、置換積分法 、部分積分法」を理解して色々な 計算問題を解くことができる。	定積分と不定積 部分積分法」を 計算問題を解く	理解して基本的な	「定積分と不定積分、置換積分法 、部分積分法」を理解して基本的 な計算問題を解くことができない 。	
学科の	到達目標耳	頁目との関]係				
I 人間 工 工 国 国	間性 浅性 祭性						
教育方法	法等						
概要		1) 関数 2) いる 3) 関数	分は工学の基礎である。次の内容を理 枚の極限、微分係数、導関数 らいろな関数の導関数(三角関数、逆三 枚の変動とその応用(関数の増減・極値 責分と不定積分、置換積分法、部分積分		女、指数関数)		
授業の進	め方・方法	一きる。授	業では次々に新しい概念や考え方に接 業は座学講義と問題演習を中心に進め の成績が60点未満のものに対して再討 行う。	、必要に応じて課	題を課して基礎的記	+隻力・応用力の養成を図る。	
注意点		一旦つま するよう	工学の基本であり、1年で学んだ数学 ずくと先に進むのが困難となるので、 心がけること。数学は、学生諸君が今 る知識を習得し、またその応用力を養	日々の予習・復習 後学んでいく工学	の習慣を身につけ、 の基礎として位置:	授業の進み方は1年次よりも速く、 授業の内容はその日のうちに理解 びけられる。継続的学習により数学	
授業の原	属性・履何	多上の区分	1				
□ アクラ	ティブラーニ	ニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	<u>7</u>	□ 実務経験のある教員による授業	
授業計画	画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
		1週	関数とその性質、関数の極限		簡単な場合についる。	て、関数の極限を求めることができ	
		2週	微分係数、導関数		微分係数の意味や 求めることができ	ー っ、導関数の定義を理解し、導関数を きる。	
		3週	導関数の性質		積・商の導関数の公式を用いて、導関数を求めること がができる。		
	1stQ	4週	三角関数の導関数		三角関数の導関数を求めることができる。		
		5週	指数関数の導関数、練習問題		指数関数の導関数を求めることができる。		
		6週	合成関数の導関数、対数関数の導関数	ζ	合成関数・対数関	数の導関数を求めることができる。	
計田					合成関数・対数関数の導関数を求めることができる。 逆三角関数を理解し、逆三角関数の導関数を求めるこ		
前期		7週	逆三角関数とその導関数		ーレボブユマ	0 1 1 2 2 1 1 2 2 1 1 2 2 1 2 2 1 2	
前期					とができる。		
前期		7週8週	逆三角関数とその導関数 関数の連続、練習問題、前期中間試験	(達成度試験)	中間値の定理を利	用して証明することができる。	
前期				(達成度試験)	中間値の定理を利, 簡単な場合につい とができる。	用して証明することができる。 て、関数の接線の方程式を求めるこ	
前期	2ndQ	8週	関数の連続、練習問題、前期中間試験	(達成度試験)	中間値の定理を利 簡単な場合につい とができる。 関数の増減表を利 を描くことができ	用して証明することができる。 て、関数の接線の方程式を求めるこ 用して、極値を求め、グラフの概形	

		12週	関数の最大と最小			極値を利用して、関数の ができる。	最大値・最小値を求めること		
		13週	不定形の極限、練習問題	镇		ロピタルの定理を用いて	極限値を求めることができる		
		14週	高次導関数			高次導関数を求めることができる。			
		15週	曲線の凹凸、練習問題			2次の導関数を利用して、 できる。	グラフの凹凸を調べることが		
		16週	前期定期試験						
		1週	媒介変数表示と微分法			関数の媒介変数表示を理 その導関数を求めること	解し、媒介変数を利用して、 ができる。		
		2週	媒介変数表示と微分法			関数の媒介変数表示を理 その導関数を求めること:	解し、媒介変数を利用して、 ができる。		
		3週	速度と加速度			微分法を用いて速度・加	速度を求めることができる。		
	3rdQ	4週	平均値の定理、練習問題	<u>頸</u>		平均値の定理を理解でき	る。		
	SiuQ	5週	不定積分			不定積分の定義を理解したができる。	、簡単な不定積分を求めるこ		
		6週	定積分の定義	定積分の定義		定積分の定義を理解し、 できる。	簡単な定積分を求めることが		
		7週	微分積分法の基本定理	微分積分法の基本定理		微積分の基本定理を理解できる。			
		8週	定積分の計算、後期中間	定積分の計算、後期中間試験(達成度試験)			簡単な定積分を求めることができる。		
後期		9週	いろいろな不定積分の分	いろいろな不定積分の公式		不定積分の定義を理解し、簡単な不定積分を求めるこ とができる。			
		10週	いろいろな不定積分の分	大 公		不定積分の定義を理解したができる。	、簡単な不定積分を求めるこ		
		11週	練習問題		不定積分・定積分の基本的な計算ができる。				
	4+60	12週	置換積分法	置換積分法			置換積分用いて、不定積分や定積分を求めることがで きる。		
	4thQ	13週	置換積分法			置換積分用いて、不定積 きる。	分や定積分を求めることがで		
		14週	部分積分法			不定積分、定積分の部分積分法を理解し、積分計算に 応用することができる。			
		15週	部分積分法、練習問題			不定積分、定積分の部分積分法を理解し、積分計算に 応用することができる。			
		16週	後期定期試験						
評価割合	<u> </u>								
		立	E期試験	達成度試験	Ē	果題等	合計		
総合評価害	門合	3	5	35	3	30	100		
基礎的能力	J	3	5	35	3	30	100		
専門的能力	<u> </u>	0		0	C		0		
分野横断的	的能力	0	<u> </u>	0	C)	0		

	牧工業高	等専門学	校 開講年度 令和03年度 (2	2021年度)	授業科目	数学 II B(都市・環境系)	
科目基础				T			
科目番号		0045		科目区分	一般 / 必何		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位:	3	
開設学科			学科(一般科目)	対象学年 2			
開設期		通年		週時間数	3		
教科書/教	 教 科 書:高遠節夫他著「新基礎数学」、「新線形代数] 」、「新線形代数問題集」(大日本図書)、自作ブリン				書) 補助教材	: 高遠節夫他著「新基礎数学問題集	
旦当教員		藤島 勝	弘				
到達目	_						
1) 図形	(2次曲線) の数と数列 トル	基本的な計)と式	算問題を解くことができる。				
ルーブ	リック						
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベル	の目安	未到達レベルの目安	
評価項目	1		「図形(2次曲線)と式」を理解して色々な計算問題を解くことができる。	「図形(2次曲線) して基本的な計算問 ができる。	と式」を理解 題を解くこと	「図形(2次曲線)と式」を理解して基本的な計算問題を解くことができない。	
評価項目	2		「場合の数と数列」を理解して色々な計算問題を解くことができる。	「場合の数と数列」 本的な計算問題を解 る。	を理解して基 くことができ	「場合の数と数列」を理解して基本的な計算問題を解くことができない。	
評価項目	3		「ベクトル」を理解して色々な計 算問題を解くことができる。	「ベクトル」を理解計算問題を解くこと	ができる。	「ベクトル」を理解して基本的な 計算問題を解くことができない。	
評価項目	4		「行列」を理解して色々な計算問 題を解くことができる。	「行列」を理解して 問題を解くことがで		「行列」を理解して基本的な計算 問題を解くことができない。	
	到達目標」	項目との	関係 				
	間性 浅性 祭性						
教育方法	法等						
概要			(2次曲線)と式」、「場合の数と数列 を学ぶ。	」、「ベクトル」、「	行列」の基本は	既念を理解し、様々な計算問題を解	
授業の進	め方・方法	数学のきる。 きる。 学業成 再評価	受業では次々に新しい概念や考え方に接 受業は座学講義と問題演習を中心に進め 債の成績が60点未満のものに対して再試 を行う。	することになり、多く 、必要に応じて課題を は験を実施する場合があ	の問題を解くる 課して基礎的 る。この場合	ことによって理解を深めることがで 計算力・応用力の養成を図る。 、再試験75%,課題等25%の割合・	
注意点	- 11 - 12	が困難	んだ数学IAおよび数学IBの知識を となるので、日々の予習・復習の習慣を	要する。授業の進み方(身につけ、授業の内容	は中学時代より はその日のう?)も速く、一旦つまずくと先に進むの ちに理解するよう心がけること。	
	属性・履作 ティブラーニ		分 ☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授	
	アイフ ノー-	<u></u>		丛		□ 天伤柱駅ののる教具による技	
授業計	画						
		週	授業内容	週ご	ごとの到達目標		
		1週	いろいろな2次曲線	放物		曲線の図形的な性質の違いを区別て	
		2週	いろいろな2次曲線		別線、楕円、双	は一般の図形的な性質の違いを区別で	
		3週	2 次曲線の接線	放物	放物線、楕円、双曲線の接線の方程式を求めることだってきる。		
	1stQ	4週	不等式と領域	簡単域を	簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領 域を不等式で表すことができる。		
		5週	不等式と領域		簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり行 域を不等式で表すことができる。		
		6週	練習問題	2次	曲線、領域に関	関する基本的な問題が解ける。	
前期		7週	場合の数		積の法則と和の法則を利用して、簡単な事象の場合の数を数えることができる。		
		8週	順列		数を数えることができる。 簡単な場合について、順列の計算ができる。		
		9週	組合せ		-	て、組合せの計算ができる。	
		10週	いろいろな順列	巴川		、同じものを含む順列の計算ができ	
		11週	二項定理	ි. - _{Ti}	5定理を用いて		
	2 15		7			多頃れて展開できる。 基本的な問題が解ける。	
	2ndQ	12週	練習問題				
		13週	数列		の定義が理解		
		14週	等差数列			<u>やその和を求めることができる。</u>	
		15週	等比数列、練習問題 前期定期試験		L	やその和を求めることができる。	
				8公工	記号を用いた	 簡単な数列の和を求めることができ	
後期 ————	3rdQ	1週	いろいろな数列	極利 る。	₁┅ᄀʹℭጠV ነ/c	167十、40分と、1707年17日、日本・1707年17	

			1			1
		2週	漸化式と数学的帰納法、	練習問題	漸化式で表された数列の- 。数学的帰納法を用いた証	-般項を求めることができる E明ができる。
		3週	ベクトル、ベクトルの	東 算		ベクトルの基本的な計算(和 きさを求めることができる。
		4週	ベクトルの成分		平面ベクトルの成分表示が 簡単な計算ができる。	ができ、成分表示を利用して
		5週	ベクトルの内積		平面ベクトルの内積を求め	りることができる。
		6週	ベクトルの平行と垂直、	ベクトルの図形への応用	ベクトルの平行・垂直条件ができる。	†を利用して問題を解くこと
		7週	直線のベクトル方程式、形従属、練習問題、達成	平面ベクトルの線形独立・線 成度試験	媒介変数による直線の方程 平面ベクトルの線形独立を が解ける。	記式を求めることができる。 空理解し、それに関する問題
		8週	空間座標、ベクトルの原	成分、ベクトルの内積	空間ベクトルの成分表示が 簡単な計算ができる。空間 とができる。	ができ、成分表示を利用して 別ベクトルの内積を求めるこ
		9週	直線の方程式、平面のフ	方程式	空間内の直線・平面の方程	呈式を求めることができる。
		10週	球の方程式、空間ベク 習問題	トルの線形独立・線形従属、練	球の方程式を求めることが 形独立を理解し、それに関	ができる。空間ベクトルの線 関する問題が解ける。
		11週	行列の定義、行列の和	・差、数との積	行列の定義を理解し、行列を求めることができる。	川の和・差・スカラーとの積
	4thO	12週	行列の積、転置行列		行列の積を求めることができる。 逆行列の定義を理解し、2次の正方行列の逆行列を求めることができる。	
		13週	逆行列、練習問題			
		14週	消去法、逆行列と連立:	1 次方程式	消去法を用いて連立方程式	式を解く <i>こと</i> ができる。
		15週	行列の階数、練習問題		行列の階数を求めることか	ができる。
		16週	後期定期試験			
評価割合	ì					
			定期試験	達成度試験	 課題等	合計
総合評価割	 合		50	 	25	100
基礎的能力	J		50	25	25	100
専門的能力	J		0	0	0	0
分野横断的	能力		0	0	0	0
•			•			•

———— 苫小	牧工業高	等専門学校	文 開講年度	令和03年度(2	2021年度)	授	業科目	化学Ⅱ
<u> </u>			,	(-	/	, ,,,,,		
科目番号		0046			科目区分			X
授業形態		授業			単位の種別と単位			
開設学科					対象学年		2	
開設期		通年	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		週時間数		2	
教科書/勃		「化学基	一一一	B林館 / 補助教材	1:「改訂 スタラ	ディノー	ト化学」	第一学習社
担当教員		大島 和治	告,奥田 弥生,平野 博	人,古崎 毅,長田 光	司	-		
到達目	標		,	,,				
の法則を ・学習の ・物きる。 ・ ・ 実験を	利用して解 過程で、特 ついての化 通じて、身	くことができ にグラフや表 学的理解がエ	そる。 そなどから関数関係や	っ一般的な傾向など 月の基礎となること	を読み取る「洞察 を認識し、「化学	力」を身 的な手法	引に付ける。 法が科学技行	析の発展に重要であること」を理解
<u>ルーノ</u>	ルーブリック 理想的な到達レベルの目安 標				標準的な到達レク	ベルの目	安	未到達レベルの目安
を理解し		な法則、原理 基礎的な問題 。	関題集の応用関	題が独力で解ける	プリントの問題題・ワークの問題で解ける。	・教科書	の節末問	プリントの問題・教科書の節末問題・ワークの問題の4割以上が独力で解けない。
		<u>.</u> 項目との関]係		1 2/31/1/ (5/			7.5 (2.2.1.7)
Ⅱ 実	間性 浅性 際性							
概要		 ・圧力に や化学物 活で役に	「よって、身の回りの こよる変化についての I質を合成するための)様々な有機材料・)理解、材料や環境)工業的なプロセス	無機材料の微細構 中の微量物質の分 の概要についての	造や性質 析手法に 理解を深	質についての こついての そめることが	レで理解する学問である。化学を学 の系統的な理解、物質の状態の温度 里解、有機・無機の様々な化学反応 ができる。これらの知識は、日常生 どの分野の技術者として活動するた
 授業の進	め方・方法	授業は、		ノトを使って進める	。教科書・ワーク	・電卓お	3よびプリ2	ントを入れるファイルホルダーを毎
				フキフの利用や	++1/1/1 下皿+キ+) じゅ	ハモヘナ	よの甘林	レキンス学明元ナス
授業の		授業は、 成績評価 。この場 修上の区分	各自が十分な復習を 結果60点に満たない 合、再試験の結果を	/ 学生のうち、受講	前提に進める。 態度および課題提 価を行う。	出状況だ		に対しては再試験を行う場合がある
授業の □ アク・	ティブラーニ	授業は、 成績評価 。この場 修上の区分	各自が十分な復習を 結果60点に満たない 合、再試験の結果を	行っていることを ハ学牛のうち、受講	前提に進める。 態度および課題提	出状況だ		に対しては再試験を行う場合がある
授業の □ アク・	ティブラーニ	授業は、成績評価。この場を上の区分	各自が十分な復習を 結果60点に満たない 合、再試験の結果を 図 ICT 利用	行っていることを ハ学牛のうち、受講	前提に進める。 態度および課題提 価を行う。	出状況太	が良好な者	に対しては再試験を行う場合がある
授業の □ アク・	ティブラーニ	授業は、成績評価。この場別を上の区分のことが	各自が十分な復習を 結果60点に満たない 合、再試験の結果を	行っていることを ハ学牛のうち、受講	前提に進める。 態度および課題提 価を行う。	過ごとの	が良好な者の	に対しては再試験を行う場合がある □ 実務経験のある教員による授業
授業の □ アク・	ティブラーニ	授業は、成績評価。この場修上の区分ニング	各自が十分な復習を 結果60点に満たない 合、再試験の結果を 図 ICT 利用 授業内容 pH指示薬と中和	行っていることを ハ学牛のうち、受講	前提に進める。 態度および課題提 価を行う。	週ごとの 代表的が応につい 中和点を	が良好な者 の到達目標 なおて理解で を理解し、	に対しては再試験を行う場合がある □ 実務経験のある教員による授業 変色域について説明できる。中和反きる 酸・塩基の濃度と体積から中和滴定
授業の □ アク・	ティブラーニ	授業は、成績評価。この場際上の区分	各自が十分な復習を 結果60点に満たない 合、再試験の結果を 図 ICT 利用 授業内容 pH指示薬と中和 中和滴定	だ行っていることを い学生のうち、受講 さもって成績の再評	前提に進める。 態度および課題提 価を行う。	出状況ができる。とのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	が良好な者 の到達目標 はおて理解し、 を理解計算 を記書る	に対しては再試験を行う場合がある □ 実務経験のある教員による授業 変色域について説明できる。中和反きる 酸・塩基の濃度と体積から中和滴定ができる。代表的な中和曲線の特徴
	ディブラー <u>:</u> 画	授業は、成績評価。この場修上の区分ニング	各自が十分な復習を 結果60点に満たない 合、再試験の結果を 図 ICT 利用 授業内容 pH指示薬と中和	だ行っていることを い学生のうち、受講 さもって成績の再評	前提に進める。 態度および課題提 価を行う。	出状況ができない。とのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	が良好な者 の到達目標とではいた を理解論 をるできるとなっていり にはていた。 でもないでは、 ののでは、 。	に対しては再試験を行う場合がある □ 実務経験のある教員による授業 変色域について説明できる。中和反きる 酸・塩基の濃度と体積から中和滴定ができる。代表的な中和曲線の特徴 反応について理解できる。代表的なきる
授業の □ アク・	ティブラーニ	授業は、成績評価。この場際上の区分	各自が十分な復習を 結果60点に満たない 合、再試験の結果を 図 ICT 利用 授業内容 pH指示薬と中和 中和滴定	だ行っていることを い学生のうち、受講 さもって成績の再評	前提に進める。 態度および課題提 価を行う。	出状況ができない。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	が良好な者 の到達 京栗解、 をるでも、なででは、質ででは、でででででいていていていていていていていていていていていていていていていていて	に対しては再試験を行う場合がある □ 実務経験のある教員による授業 変色域について説明できる。中和反きる 酸・塩基の濃度と体積から中和滴定ができる。代表的な中和曲線の特徴 反応について理解できる。代表的なきる いて酸化と還元の定義を説明できる
授業の □ アク・	ディブラー <u>:</u> 画	授業は、価値 が成立の区分 ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週	各自が十分な復習を 結果60点に満たない 合、再試験の結果を 図 ICT 利用 授業内容 pH指示薬と中和 中和滴定 塩と酸・塩基との原	を行っていることを い学生のうち、受講 ともって成績の再評	前提に進める。態度および課題提価を行う。	出状況がでいた。というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	が 良好な者 の 到達 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三	に対しては再試験を行う場合がある □ 実務経験のある教員による授業 変色域について説明できる。中和反きる 酸・塩基の濃度と体積から中和滴定ができる。代表的な中和曲線の特徴 反応について理解できる。代表的なきる いて酸化と還元の定義を説明できる。 明できる。 づいて酸化還元反応を説明できる。
授業の □ アク・	ディブラー <u>:</u> 画	修上が多ります。	各自が十分な復習を 結果60点に満たない 合、再試験の結果を 図 ICT 利用 授業内容 pH指示薬と中和 中和滴定 塩と酸・塩基との反酸化と還元の定義 酸化と還元の定義 酸化数の変化と酸化 酸化還元反応式	を行っていることを い学生のうち、受講 ともって成績の再評	前提に進める。態度および課題提価を行う。	出状況ができた。 のでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	が 良好な 対 お 一 の 型 造 に 理 の で ・ い で も で に で に で に で に で に で に で に で に に に に に に に に に に に に に	に対しては再試験を行う場合がある □ 実務経験のある教員による授業 変色域について説明できる。中和反きる 酸・塩基の濃度と体積から中和滴定ができる。代表的な中和曲線の特徴 反応について理解できる。代表的なきる いて酸化と還元の定義を説明できる 明できる。 づいて酸化還元反応を説明できる。 作ることができる。
授業の □ アク・	ディブラー <u>:</u> 画	修上グ 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	各自が十分な復習を 結果60点に満たない 合、再試験の結果を 図 ICT 利用 授業内容 pH指示薬と中和 中和滴定 塩と酸・塩基とのが 酸化と還元の定義 酸化数の変化と酸化 酸化還元反応式 酸化還元滴定	を行っていることを い学生のうち、受講 ともって成績の再評	前提に進める。態度および課題提価を行う。	出状況ができた。 のでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	が 良好な 対 お 一 の 型 造 に 理 の で ・ い で も で に で に で に で に で に で に で に で に に に に に に に に に に に に に	に対しては再試験を行う場合がある □ 実務経験のある教員による授業 変色域について説明できる。中和反きる 酸・塩基の濃度と体積から中和滴定ができる。代表的な中和曲線の特徴 反応について理解できる。代表的なきる いて酸化と還元の定義を説明できる。 明できる。 づいて酸化還元反応を説明できる。
授業の □ アク・ 授業計	ディブラー <u>:</u> 画	修上グ 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	各自が十分な復習を 結果60点に満たない。 合、再試験の結果を 図 ICT 利用 授業内容 pH指示薬と中和 中和滴定 塩と酸・塩基とのの 酸化と還元の定義 酸化数の変化と酸(酸化還元反応式 酸化還元反応式 酸化還元河定 達成度評価試験	を行っていることを か学生のうち、受講 ともって成績の再評 反応 と剤・還元剤の反応	前提に進める。態度および課題提価を行う。	出状況がというでは、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切	が 良好ない を 超が を を を を を を で ・い 受 の で の で に に に に に に に に に に に に に	に対しては再試験を行う場合がある □ 実務経験のある教員による授業 変色域について説明できる。中和反きる 酸・塩基の濃度と体積から中和滴定ができる。代表的な中和曲線の特徴 反応について理解できる。代表的なきる いて酸化と還元の定義を説明できる。 づいて酸化還元反応を説明できる。 づいて酸化還元反応を説明できる。 作ることができる。 論計算を行うことができる
授業の □ アク・ 授業計	ディブラー <u>:</u> 画	修上グ 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	各自が十分な復習を 結果60点に満たない 合、再試験の結果を 図 ICT 利用 授業内容 pH指示薬と中和 中和滴定 塩と酸・塩基とのが 酸化と還元の定義 酸化数の変化と酸化 酸化還元反応式 酸化還元滴定	を行っていることを か学生のうち、受講 ともって成績の再評 反応 と剤・還元剤の反応	前提に進める。態度および課題提価を行う。	出状況がとの対応を塩塩電・酸化化還え酸化化還えていた。	が 良好な か 到 まい を るご・い 受 この で に で に の で に の で に の で に の で の の で の の の で の の の で の の の の の の の の の の の の の	に対しては再試験を行う場合がある □ 実務経験のある教員による授業 変色域について説明できる。中和反きる 酸・塩基の濃度と体積から中和滴定ができる。代表的な中和曲線の特徴 反応について理解できる。代表的なきる いて酸化と還元の定義を説明できる。 づいて酸化還元反応を説明できる。 ずいて酸化還元反応を説明できる。 作ることができる。 論計算を行うことができる。
授業の □ アク・ 授業計	ディブラー <u>:</u> 画	修上グ 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	各自が十分な復習を 結果60点に満たない。 合、再試験の結果を 図 ICT 利用 授業内容 pH指示薬と中和 中和滴定 塩と酸・塩基とのの 酸化と還元の定義 酸化数の変化と酸(酸化還元反応式 酸化還元反応式 酸化還元河定 達成度評価試験	を行っていることを い学生のうち、受講 ともって成績の再評 対応 と剤・還元剤の反応	前提に進める。態度および課題提価を行う。	出状況がとの対応を塩塩電・酸化化還え酸化化還えていた。	が 良 対 計 で を る で と で し い で し で し で の の で の で の の の の の の の の の の の の の	に対しては再試験を行う場合がある □ 実務経験のある教員による授業 変色域について説明できる。中和反きる 酸・塩基の濃度と体積から中和滴定ができる。代表的な中和曲線の特徴 反応について理解できる。代表的なきる いて酸化と還元の定義を説明できる。 づいて酸化還元反応を説明できる。 づいて酸化還元反応を説明できる。 作ることができる。 論計算を行うことができる
授業の □ アク・ 授業計	ディブラー <u>:</u> 画	修 を を を を を を を を を を を を を	各自が十分な復習を 結果60点に満たない 合、再試験の結果を 図 ICT 利用 授業内容 pH指示薬と中和 中和滴定 塩と酸・塩基とのの 酸化と還元の定義 酸化数の変化と酸化酸化還元反応式 酸化還元反応式 酸化還元阿式 酸化還元阿試験 金属の酸化還元反応	を行っていることを い学生のうち、受講 ともって成績の再評 対応 と剤・還元剤の反応	前提に進める。態度および課題提価を行う。	出状況が、これでは、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切	が	に対しては再試験を行う場合がある □ 実務経験のある教員による授業 変色域について説明できる。中和反きる 酸・塩基の濃度と体積から中和滴定ができる。代表的な中和曲線の特徴 反応について理解できる。代表的なきる いて酸化と還元の定義を説明できる。 可いて酸化還元反応を説明できる。 できる。 づいて酸化還元反応を説明できる。 作ることができる。 論計算を行うことができる。
授業の □ アク・ 授業計	ディブラー <u>:</u> 画	修上グ 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	各自が十分な復習を 結果 60点に満たない 合、再試験の結果を 図 ICT 利用 授業内容 pH指示薬と中和 中和滴定 塩と酸・塩基とのの 酸化と還元の定義 酸化数の変化と酸化 酸化還元反応式 酸化還元反応式 酸化還元反応式 酸化還元反応式 酸化還元反応式 酸化還元反応式 金属の酸化還元反応	を行っていることを い学生のうち、受講 ともって成績の再評 対応 と剤・還元剤の反応	前提に進める。態度および課題提価を行う。	出 週 代応 中にを 塩塩 電。酸酸酸酸 金 金て電主 ボで とのかつ 点け明酸つ の対 とに 子 化化 化 化 属 属説 池な いき いき	が	に対しては再試験を行う場合がある □ 実務経験のある教員による授業 変色域について説明できる。中和反きる 酸・塩基の濃度と体積から中和滴定ができる。代表的な中和曲線の特徴 反応について理解できる。代表的なきる いて酸化と還元の定義を説明できる。 可いて酸化還元反応を説明できる。 がいて酸化還元反応を説明できる。 向について説明できる。 反応について式明できる。 反応についてイオン化傾向に基づい について説明できる。
授業の □ アク・ 授業計	ティブラー: 画 1stQ	修 を を を を を を を を を を を を を	各自が十分な復習を 結果 60点に満たない 合、再試験の結果を 図 ICT 利用 授業内容 PH指示薬と中和 中和滴定 塩と酸・塩基とのが 酸化と還元の定義 酸化数の変化と酸化酸化還元反応式 酸化還元層定 達成度評価試験 金属の酸化還元反応 金属の酸化還元反応 電池の原理・反応	を行っていることを い学生のうち、受講 ともって成績の再評 対応 と剤・還元剤の反応	前提に進める。態度および課題提価を行う。	出出が、過代応中にを塩塩電。酸酸酸酸金金で電主がで大きな的のでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	が	に対しては再試験を行う場合がある □ 実務経験のある教員による授業 変色域について説明できる。中和反きる 酸・塩基の濃度と体積から中和滴定ができる。代表的な中和曲線の特徴 反応について理解できる。代表的なきる いて酸化と還元の定義を説明できる。 明できる。 適いて酸化還元反応を説明できる。 作ることができる。 論計算を行うことができる。 向について説明できる。 反応についてイオン化傾向に基づいについて説明できる。 について説明できる。 について説明できる。
授業の □ アク・ 授業計	ティブラー: 画 1stQ	修上グ 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 10週 11週 11週	各自が十分な復習を 結果60点に満たない。 合、再試験の結果を 図 ICT 利用 授業内容 PH指示薬と中和 中和滴定 塩と酸・塩基とのが 酸化と還元の定義 酸化数の変化と酸化 酸化還元反応式 酸化還元河流定 達成度評価試験 金属の酸化還元反応 金属の酸化還元反応 電池の原理・反応 実験	を行っていることを い学生のうち、受講 ともって成績の再評 対応 と剤・還元剤の反応	前提に進める。態度および課題提価を行う。	出出 週 代応中にを 塩塩 電。 酸酸酸酸酸 金金工電主 ボでト 電 大で 大きで 気がらいる はいます かいきで 気がまる かいきで 気がまる かいきで 気がまる かいき で しょう かいき かいき で しょう かいき かいき で しょう かいき しょう	が	に対しては再試験を行う場合がある □ 実務経験のある教員による授業 変色域について説明できる。中和反 酸・塩基の濃度と体積から中和滴定 ができる。代表的な中和曲線の特徴 反応について理解できる。代表的な さる いて酸化と還元の定義を説明できる。 明できる。 できる。 できる。 できる。 のについて説明できる。 たることができる。 論計算を行うことができる。 反応についてイオン化傾向に基づい について説明できる。 について説明できる。 について説明できる。 フルで記明できる。 ことができる。
授業の □ アク・ 授業計	ティブラー: 画 1stQ	修 を を を を を を を を を を を を を	各自が十分な復習を 結果 60点に満たない 合、再試験の結果を 図 ICT 利用 授業内容 PH指示薬と中和 中和滴定 塩と酸・塩基とのが 酸化と還元の定義 酸化数の変化と酸化酸化還元反応式 酸化還元滴定 達成度評価試験 金属の酸化還元反応 電池の原理・反応 実験 電気分解	を行っていることを か学生のうち、受講 さもって成績の再評 を応 と剤・還元剤の反応	前提に進める。態度および課題提価を行う。	出 週代応中にを塩塩電。酸酸酸酸 金金て電主 ボでト電フ で表に和お説とに子 化化化化属属説池な ルきで気 ア ののの明の電 夕る説 グララ	が	に対しては再試験を行う場合がある □ 実務経験のある教員による授業 変色域について説明できる。中和反きる 酸・塩基の濃度と体積から中和滴定ができる。代表的な中和曲線の特徴 反応について理解できる。代表的なきる いて酸化と還元の定義を説明できる。 明できる。 適いて酸化還元反応を説明できる。 作ることができる。 論計算を行うことができる。 向について説明できる。 反応についてイオン化傾向に基づいについて説明できる。 について説明できる。 について説明できる。
授業の □ アク・	ティブラー: 画 1stQ	修 を を を を を を を を を を を を を	各自が十分な復習を 結果50点に満たない。 合、再試験の結果を 図 ICT 利用 授業内容 PH指示薬と中和 中和滴定 塩と酸・塩基とのの 酸化と還元の定義 酸化と還元の定義 酸化と還元原応式 酸化還元原応式 酸化還元原の酸化還元反応 電池の原理・反応 実験 電気分解 ファラデーの法則	を行っていることを か学生のうち、受講 さもって成績の再評 を応 と剤・還元剤の反応	前提に進める。態度および課題提価を行う。	出出の場合では、現代ので	が	に対しては再試験を行う場合がある □ 実務経験のある教員による授業 変色域について説明できる。中和反きる 酸・塩基の濃度と体積から中和滴定ができる。代表的な中和曲線の特徴 反応について理解できる。代表的な いて酸化と還元の定義を説明できる いて酸化と還元の定義を説明できる。 作ることができる。 論計算を行うことができる 向について説明できる。 反応についてイオン化傾向に基づい について説明できる。 だいて説明できる。 プルで記明できる。 について説明できる。 でいて説明できる。 について説明できる。 でいて説明できる。 について説明できる。
授業の □ アク・ 授業計	ティブラー: 画 1stQ	修正 1週 1週 2週 3週 4週 3週 4週 5週 6週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 15週	各自が十分に満たない。 会に、一方のは、一方のは、一方のは、一方のは、一方のは、一方のに、一方のに、一方のに、一方のに、一方のに、一方のに、一方ので、一方ので、一方ので、一方ので、一方ので、一方ので、一方ので、一方ので	を行っていることを か学生のうち、受講 をもって成績の再評 を を を を を を を を を を を を を	前提に進める。態度および課題提価を行う。	出 週 代応 中にを 塩塩 電。 酸酸 酸 酸 金 金て 電主 ボでト 電 フ 電明 状状 ご 表に 和お説 とに 子 化化 化化 属 属説 池な ルきで 気 ア 気で 態 ス の の明 の電 「夕る説 グラ 分き」 変 変 で の の明 の電 「夕る説 好 ラ 分き」 変 変 で の の明 の で で の の の の の の の の の の の の の	が	に対しては再試験を行う場合がある □ 実務経験のある教員による授業 変色域について説明できる。中和反きる 酸・塩基の濃度と体積から中和滴定ができる。代表的な中和曲線の特徴 反応について理解できる。代表的なきる いて酸化と還元の定義を説明できる。 明できる。 のいて酸化還元反応を説明できる。 作ることができる。 論計算を行うことができる 向について説明できる。 について説明できる。 について対力と似傾向に基づいについて説明できる。 について説明できる。 について説明できる。 でいてが明できる。 について説明できる。 について説明できる。 について説明できる。 について説明できる。 について説明できる。

		3週	気体の圧力			凝縮現象について と温度・圧力の関係	里解できる。状態図 系について説明でき	図から、状態変化 きる。
		4週				ボイル・シャルルの法則について理解できる。これを 用いた計算ができる		
		5週	気体の状態方程式			気体定数、気体のな 合気体について方		
		6週 3	理想気体と実在気体			理想気体と実在気化	本の違いについて理	工解し説明できる
		7週 🥻	容解度の計算			物質の溶解度についの析出量について		包和溶液の冷却時
		8週 🕽	建成度評価試験					
	9週 希薄溶液の性質				沸点上昇・凝固点に ができる	降下について説明で	でき、必要な計算	
		10週 🧍	希薄溶液の性質2			浸透圧について説明	明でき、必要な計算	算ができる
		11週	コロイド溶液の性質			代表的なコロイドの種類や沈殿現象、ブラウン運動・ チンダル現象について説明できる。		
	4thO	12週	マ 応熱と熱化学方程式			反応熱について分類でき、熱化学方程式を作ることが できる。		
		13週	へスの法則と結合エ	ネルギー		へスの法則を使って反応熱を計算できる。結合エネル ギーや解離エネルギーから反応熱を計算できる。		
		14週 1	化学反応の速さと濃	度・圧力・温度		化学反応の速さと濃度・圧力・温度について説明できる。		
		15週 1	化学反応速度式					
		16週	定期試験					
評価割合	ì							
	達期	成度評価・定 試験	小テスト・課題 ・レポート					合計
総合評価害	合 80		20	0	0	0	0	100
基礎的能力	J 80		20	0	0	0	0	100
専門的能力	0		0	0	0	0	0	0
分野横断的	能力 0		0	0	0	0	0	0

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2	2021年度)	授業科目	物理 I	
科目基礎情報							
科目番号	H目番号 0047			科目区分	一般 / 必	修	
授業形態	授業	授業			数 履修単位	: 2	
開設学科	創造工学科(一般科目)		対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	柴田洋一その他5名著「カ学I」大日本図書 /「カ学I問題集」大日本図書						
担当教員 加藤 初儀,長澤 智明,野口 勉,山下 徹,當摩 栄路,有馬 隆司							
到達日煙							

|到達日標

- 1. 力について理解し、物体の運動を求めることができる。 2. 運動量について理解し、運動量保存則を用いて速度を求めることができる。 3. 力学的エネルギー保存則を理解し、位置エネルギーと運動エネルギーを求めることができる。 4. 万有引力の法則を理解し、万有引力による運動と位置エネルギーを求めることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
カについて理解し、物体の運動を 求めることができる。	物体の運動を求めることができる。	いくつかの場合について、物体の 運動を求めることができる。	カについて理解し、物体の運動を 求めることができない。
運動量について理解し、運動量保 存則を用いて速度を求めることが できる。	運動量保存則を用いて速度を求め ることができる。	いくつかの場合について、運動量 保存則を用いて速度を求めること ができる。	運動量保存則を用いて速度を求め ることができない。
力学的エネルギー保存則を理解し 、位置エネルギーと運動エネルギ ーを求めることができる。	位置エネルギーと運動エネルギー を求めることができる。	いくつかの場合について、位置エ ネルギーと運動エネルギーを求め ることができる。	位置エネルギーと運動エネルギー を求めることができない。
万有引力の法則を理解し、万有引力による運動と位置エネルギーを 求めることができる。	万有引力による運動と位置エネル ギーを求めることができる。	いくつかの場合について、万有引 カによる運動と位置エネルギーを 求めることができる。	万有引力による運動と位置エネル ギーを求めることができない。

学科の到達目標項目との関係

- I 人間性 Ⅱ 実践性 Ⅲ 国際性

教育方法等

MHMM	
概要	物理学において最も基本となる力、運動方程式、運動量、仕事、力学的エネルギー、単振動について学習する。ここで学ぶことは物理 II、応用物理の基礎となる。各週座学2時間とする。
授業の進め方・方法	分野ごとに講義によって内容を確認し、演習によって詳細を理解できるように授業を構成する。予習復習は、各自が積極的に行うこと。授業中の演習に備えて、定規・関数電卓を用意すること。
注意点	単に公式を覚えるだけではなく、物理学の学習を通じて自然現象を系統的・論理的に考えていく能力を養い、広く自然の諸現象を科学的に解明するための物理的な考え方を身につけて欲しい。理解を深めるためには、自学自習により演習問題を多く解くことは有効である。その際、単に公式に数字を代入して問題を解くのではなく、現象をイメージしながら解くことが重要である。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業
--------------	----------	----------	------------------

授業計画	受業計画								
		週	授業内容	週ごとの到達目標					
		1週	カの性質	カの合成と分解を理解し、力のベクトルの計算ができる。 カのつりあいについて理解し、合力が計算できる。					
		2週	カの性質	重力と弾性力について理解し、それらの力による運動 が計算できる。					
		3週	カの性質	抗力と摩擦力について理解し、それらの力による運動 を計算できる。					
	1stQ	4週	運動の三法則	慣性の法則と運動方程式を理解し、運動が計算できる 。					
		5週	運動の三法則	作用反作用の法則について理解し、運動が計算できる。					
		6週	運動方程式の応用	運動の三法則を理解し、運動方程式を立てることができ、運動が計算できる。					
<u> →</u>		7週	達成度試験(前期中間試験)						
前期		8週	力積と運動量	運動量を理解し、運動量を計算できる。					
		9週	力積と運動量	力積を理解し、力積を計算できる。					
		10週	カ積と運動量	運動量が力積によって変化することを理解し、運動量 変化を計算できる。					
		11週	運動量の保存則	直線上を運動する物体の衝突で運動量が保存すること を理解し、運動量を計算できる。					
	2ndQ	12週	運動量の保存則	平面上を運動する物体の衝突で運動量が保存すること を理解し、運動量を計算できる。					
		13週	反発係数	床や壁との直衝突の前後で速度が変化することを理解 し、反発係数が計算できる。					
		14週	反発係数	床や壁との直衝突の前後で速度が変化することを理解 し、反発係数が計算できる。					
		15週	反発係数とエネルギー保存則	完全弾性衝突以外では衝突後に物体の力学的エネルギーが減少し,減少分は熱となることを説明できる.					

		16週	前期定期試験						
		1週	仕事と仕事率			物理における仕事を理解	し、仕事率を計算できる。		
		2週	運動エネルギー	運動エネルギー		運動している物体がエネルギーを持っていることを理解し、運動エネルギーを求めることができる。			
		3週	位置エネルギー			重力による位置エネルギ・ を求めることができる。	ーを理解し、位置エネルギー		
		4週	位置エネルギー			弾性力による位置エネルーを求めることができる。	ギーを理解し、位置エネルギ		
	3rdQ	5週	力学的エネルギー			運動エネルギーと位置エルギーであることを理解できる.	ネルギーの合計が力学的エネ し、力学的エネルギーが計算		
		6週	力学的エネルギー			重力と弾性力が保存力でる 算できる。	あることを理解し、仕事が計		
後期		7週	力学的エネルギー			動摩擦力が保存力でないことを理解し、仕事が計算できる.			
		8週	達成度試験(後期中間	『験)					
		9週	等速円運動			等速円運動の速度と角速度を理解し、計算できる。			
		10週	等速円運動				等速円運動の加速度と向心力を理解し、計算できる。		
		11週	等速円運動			遠心力を理解し、計算できる。			
		12週	単振動				単振動を理解し、速度と加速度を計算できる。		
	4thQ	13週	単振動			ばね振り子と単振り子を理解し、周期と振動数を計算 できる。			
		14週	万有引力				惑星の運動が万有引力で説明できることを理解し、万 有引力を計算できる。		
		15週	万有引力	万有引力			万有引力による位置エネルギーを理解し、運動を計算 できる。		
	16週		後期定期試験	後期定期試験					
評価割合	<u> </u>								
			定期試験	達成度試験	1	小テスト・課題等	合計		
総合評価害	副合		30	30	4	10	100		
基礎的能力	ל		30	30	4	10	100		
専門的能力	ל		0	0	C)	0		
分野横断的	的能力		0	0	C)	0		

-1.1 .1.44	-	* 	. 88=# /	÷ \	22左座 /2	2024 左座)	1400	; ₩	壮 秦 #
		等專門学校	開講年月	支 令和し	J3年度 (z	2021年度)	技	業科目	体育Ⅱ
科目基礎	当有我	100.40				THE C		40. / \	. Let
科目番号		0048 実験・実	33			科目区分 単位の種別と単	(/ - 	一般/必	
授業形態 開設学科		_				1112安X	履修単位	.: 2	
開設子科			科(一般科目)			対象学年		2	
	L-4					週時間数		2	
教科書/教	М	なし	<u> </u>						
担当教員		中島 広基	\$						
すすんで傾 目標とする	さや運動にて 建康の増進と な。	いての理解 体力の向上	と運動の合理的 を図り、継続的	な実践を通 に生涯を通	して、計画 じて明るく	的に運動する習慣 豊かな活力ある生	買を身に E活を営	つけ、集団 むことがて	団における責任と義務を理解し、自身できる能力や態度を身につけることを
ルーブリ	リック					T			1
			理想的な到達			標準的な到達レ			未到達レベルの目安
運動技能・	意欲(主体	¤性)	多様な種目に って取り組む 習得できる。			多様な種目にお 取り組むととも 習得できる。	いて意名に標準的	欲を持って 的な技能を	│ 意欲を持って運動に取り組むこ。 │ ができず、基本的な技能を習得 │ きない。
自主的継続	的学習(主	(体性)	自ら進んで傾図り、継続的できる。			教員の指示によ 向上を図り、継 ことができる。			
安全管理行	示動(主体性	Ē)	自己や周囲の活動を行うこ 回避するだけ動を予防する	ことができる	る。危険を	自己や周囲の安 活動を行うこと 避することがで	゙ができ、	意しながら 危険を回	自己の安全に留意した活動を行っことができない。
集団行動力チームワー	」(主体性、 -ク)	合意形成、	集団では、代別では、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学の	方向性につけられている。 するでは、 おの意見を こかでしまる。 こかでは、 こかでもいる。 これでは、 これでも、 これでも、 これでも、 これでも、 これでも、 これでも、 これでも、 これでも、 これでも、 これでも、 これでも、 これでも、 これでも これでも これでも これでも も これでも も これでも も も も も も も も も も も も も も も も も も も	ついて責任 この大切さ ご尊重した コンや協調	集団の目指す方向性について責任 感をもって自ら示すことの大切さ と、他者の意見を尊重した適切な コミュニケーションや協調・共同 を意識した行動の大切さが理解で きる。		との大切さ した適切な 品調・共同	感をもって自ら示すことの大切。 と、他者の意見を尊重した適切が コミュニケーションや協調・共同
		目との関	•	, ,		C & 0			CC-80%
I 人間 II 実践 III 国際	性								
教育方法									
概要	4.13	一人で健康	の増進と体力の	白上を図り、	、牛涯を诵	じて明るく豊かだ	ど活力あ	る生活を営	ら習慣を教授するとともに、自らすで さむことができる能力や態度を育成で)意見を尊重した適切なコミュニケ-
授業の進め	方・方法	で構成されたら自主とがある。	れたグループに 性と協調性をも ため担当教員の 隔授業対応の必	おいて、練 って授業を 指示に従う。 要性が生じ	習・試合を すすめるこ こと。 た場合は、	どのように行うか と。また、週毎の 	が検討し が授業計 ickBoar	、合意に基 画について	配とにグループを構成する。各種目 でき計画的かつ安全に十分配慮した は、天候等諸条件により変更する。 教材提供を行い、到達目標に準じ各
注意点		受が日おきを底、によりでは、これを変が、日のでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	けるにあたって 黒ゴムの物は禁 頃から健康管理 いて携帯電話や る。 らの移動にあた 注意すること。	は、運動着は)とする。 とっぱい とっぱい とっぱい とっぱい とっぱい スポーツ スマートファイ は貴重 感染 予防の	、屋内・屋タ 。 に関わるメ オンなどの! 品(現金等	ト運動靴を用意すディア情報や関連 ディア情報や関連 端末機器は使用し)を各自のロッカ	ること。 連書籍な しない。 コーで施	どに関心を これらの物 錠の元管理	靴については指定靴もしくは淡色系 持ち、予備知識を得ておくこと。 別を授業中に許可なく使用することに 関し、教室内に放置することのない。 トフォン類やロッカーキーを含め、6
		育準備室	での預かりはし	ません。					
授業の属	性・履修	上の区分							
☑ アクテ	ィブラーニ	ング	□ ICT 利用			☑ 遠隔授業対応	心		□ 実務経験のある教員による投
授業計画	1	\ I	15.114 1 =				Le "		_
		週	授業内容				+	の到達目標	
		1週	前期ガイダンス ※遠隔授業にな			応方法について	・身がほこ。 ・主性・	の筋肉・ できる。 1行動時の 1ナ禍におり E内や友人「	けを理解することができる。 関節の柔軟性を高め安全に運動する。 整列が迅速的確にできる。 ける日常の運動の重要性を理解でき 間(SNS)での分野横断的能力(・チームワーク)向上の実践方法等 る。
前期 1stQ		2週	ドミントン・卓ス・ソフトテニ 定) 所属種目で活動 ※遠隔授業の場	重目群①(バレーボール・バスケットス ントン・卓球・フットサル・ソフトボー ノフトテニス・ドッジボールの中から 重目で活動内容の検討・計画・実践 扇授業の場合:自宅で実践可能な運動で (Boardの様式により報告する。			・ し 全 ※ ・ や を ラ コ 友 プ を プ し る で う り る り る り る り る り る り る り る り る り る り	群の構成(ぶら種目を) 分配慮しが 対応の場合 対心におい との交流。 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	こおいて、周囲と話し合いの中で協 決定し、その種目の中で計画的かつ ながら活動を実践することができる

	3週	指定種目群①(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・フットサル・ソフトボール・テニス・ソフトテニス・ドッジボールの中から複数種目指定) 所属種目で活動内容の検討・計画・実践 ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、BlackBoardの様式により報告する。	・種目群の構成において、周囲と話し合いの中で協調しながら種目を決定し、その種目の中で計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 ※遠隔対応の場合 ・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
	4週	指定種目群①(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・フットサル・ソフトボール・テニス・ソフトテニス・ドッジボールの中から複数種目指定) 所属種目で活動内容の検討・計画・実践 ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、 BlackBoardの様式により報告する。	・種目群の構成において、周囲と話し合いの中で協調しながら種目を決定し、その種目の中で計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
	5週	指定種目群①(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・フットサル・ソフトボール・テニス・ソフトテニス・ドッジボールの中から複数種目指定) 所属種目で活動内容の検討・計画・実践 ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、BlackBoardの様式により報告する。	・種目群の構成において、周囲と話し合いの中で協調しながら種目を決定し、その種目の中で計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
	6週	指定種目群①(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・フットサル・ソフトボール・テニス・ソフトテニス・ドッジボールの中から複数種目指定) 所属種目で活動内容の検討・計画・実践 ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、BlackBoardの様式により報告する。	・種目群の構成において、周囲と話し合いの中で協調しながら種目を決定し、その種目の中で計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
	7週	指定種目群①(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・フットサル・ソフトボール・テニス・ソフトテニス・ドッジボールの中から複数種目指定) 所属種目で活動内容の検討・計画・実践 ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、BlackBoardの様式により報告する。	・種目群の構成において、周囲と話し合いの中で協調しながら種目を決定し、その種目の中で計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
	8週	特別種目群(学生会行事との連携) 春季体育大会練習 ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、 BlackBoardの様式により報告する。	・春季体育大会で実施される種目について、主体的に練習に取り組むことでクラスの団結力を高めることができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
	9週	指定種目群①(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・フットサル・ソフトボール・テニス・ソフトテニス・ドッジボールの中から複数種目指定) 所属種目で活動内容の検討・計画・実践 ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、BlackBoardの様式により報告する。	・種目群の構成において、周囲と話し合いの中で協調しながら種目を決定し、その種目の中で計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
2.10	10週	指定種目群①(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・フットサル・ソフトボール・テニス・ソフトテニス・ドッジボールの中から複数種目指定) 所属種目で活動内容の検討・計画・実践 ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、BlackBoardの様式により報告する。	・種目群の構成において、周囲と話し合いの中で協調しながら種目を決定し、その種目の中で計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
2ndQ	11週	指定種目群①(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・フットサル・ソフトボール・テニス・ソフトテニス・ドッジボールの中から複数種目指定) 所属種目で活動内容の検討・計画・実践 ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、BlackBoardの様式により報告する。	・種目群の構成において、周囲と話し合いの中で協調しながら種目を決定し、その種目の中で計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 ※遠隔対応の場合 ・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
	12週	バドミントン・卓球・バスケットボール・バレー指定種目群①(パレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・フットサル・ソフトボール・テニス・ソフトテニス・ドッジボールの中から数種目指定)所属種目で活動内容の検討・計画・実践※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、BlackBoardの様式により報告する。	・種目群の構成において、周囲と話し合いの中で協調しながら種目を決定し、その種目の中で計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。

		13週	指定種目群①(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・フットサル・ソフトボール・テニス・ソフトテニス・ドッジボールの中から複数種目指定) 所属種目で活動内容の検討・計画・実践 ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、BlackBoardの様式により報告する。	・種目群の構成において、周囲と話し合いの中で協調しながら種目を決定し、その種目の中で計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
		14週	指定種目群①(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・フットサル・ソフトボール・テニス・ソフトテニス・ドッジボールの中から複数種目指定) 所属種目で活動内容の検討・計画・実践 ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、 BlackBoardの様式により報告する。	・種目群の構成において、周囲と話し合いの中で協調しながら種目を決定し、その種目の中で計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
		15週	指定種目群①(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・フットサル・ソフトボール・テニス・ソフトテニス・ドッジボールの中から複数種目指定) 所属種目で活動内容の検討・計画・実践 ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、BlackBoardの様式により報告する。	・種目群の構成において、周囲と話し合いの中で協調しながら種目を決定し、その種目の中で計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 ※遠隔対応の場合 ・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族 ・カロナ禍における日常生活の制約下において、家族 を学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
		16週		
		1週	グループワーク(4種類の合意種目群の設定と配属種目の決定) 種目ごとに活動内容の検討・計画・実践 ※遠隔授業になった場合の授業への対応方法について	・これまでの授業から、集団にとって適切な種目群を討議し、配属グループが構成できる。 ※遠隔対応の場合 ・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族 ・カロナ禍における日常生活の制約下において、家族 を大との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さ を学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、 計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することがで きる。
		2週	合意種目群①〜④ 種目ごとの活動実践・見直し ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、 BlackBoardの様式により報告する。	・それぞれ構成された種目グループで、活動にあたっての方針や方法を討議し、改善を要する部分を適宜見直すことができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
		3週	合意種目群①~④ 種目ごとの活動実践・見直し ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、 BlackBoardの様式により報告する。	・それぞれ構成された種目グループで、活動にあたっての方針や方法を討議し、改善を要する部分を適宜見直すことができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
後期	3rdQ	4週	合意種目群①~④ 種目ごとの活動実践・見直し ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、 BlackBoardの様式により報告する。	・それぞれ構成された種目グループで、活動にあたっての方針や方法を討議し、改善を要する部分を適宜見直すことができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
		5週	合意種目群①〜④ 種目ごとの活動実践・見直し ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、 BlackBoardの様式により報告する。	・それぞれ構成された種目グループで、活動にあたっての方針や方法を討議し、改善を要する部分を適宜見直すことができる。 ※遠隔対応の場合・・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
		6週	合意種目群①~④ 種目ごとの活動実践・見直し ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、 BlackBoardの様式により報告する。	・それぞれ構成された種目グループで、活動にあたっての方針や方法を討議し、改善を要する部分を適宜見直すことができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
		7週	合意種目群①~④ 種目ごとの活動実践・見直し ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、 BlackBoardの様式により報告する。	・それぞれ構成された種目グループで、活動にあたっての方針や方法を討議し、改善を要する部分を適宜見直すことができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。

15週 プリ傾倒的能力にV2 (自主性・白息形成・デームソー 的能力について自己評価できる。									
9週 会議性目群①~②		8週	冬季体育大会 ※遠隔授業の	:練習)場合:自宅で実践可能な	3運動を実践し、	練習にる際に大いた計画	:取り組むことでクラ :。 !対応の場合 !対禍における日常生 !との交流と話し合! !、自宇内もしくはほ	5スの団結力を高めることが E活の制約下において、家族 Nの中で協調と協同の大切さ 記りでの実践可能な運動を、	
10回 会責権目はつ~(4) 後国ことの活動実践・見面し ※適隔投産の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、 日宅で実践可能な運動を実践し、 日宅で実践可能な運動を実践し、 日本でまの制り下において、 下記 ※適の 11回 ※適の 12回 2回 2回 ※適の 12回 2回 2回 2回 2回 2回 2回 2		9週	種目ごとの活 ※遠隔授業の	:動実践・見直し)場合:自宅で実践可能な	ぶ運動を実践し、	・て直※・やを計	:針や方法を討議し、 :とができる。 !対応の場合 !との交流と話し合し 、:、自宅内もしくはほ	改善を要する部分を適宜見 三活の制約下において、家族 いの中で協調と協同の大切さ 別辺での実践可能な運動を、	
11週		10週	種目ごとの活 ※遠隔授業の	動実践・見直し 場合:自宅で実践可能な	は運動を実践し、	てのす。この方ででは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、こ	針や方法を討議し、 とができる。 対がである 対がである日常生 いとの交流と話し合い 、自宅内もしくはほ	改善を要する部分を適宜見 三活の制約下において、家族 いの中で協調と協同の大切さ 引辺での実践可能な運動を、	
4thQ 12週		11週	種目ごとの活 ※遠隔授業の	動実践・見直し)場合 : 自宅で実践可能な	≩運動を実践し、	てのす遠に大のするというでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	:針や方法を討議し、 :とができる。 !対応の場合 ! さの交流と話し合し :、自宅内もしくはほ	改善を要する部分を適宜見 三活の制約下において、家族 いの中で協調と協同の大切さ 部辺での実践可能な運動を、	
13週	4thQ	12週	種目ごとの活 ※遠隔授業の	:動実践・見直し)場合:自宅で実践可能な	ぶ運動を実践し、	てのす遠に大ででは、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一	計や方法を討議し、 とができる。 対がにの場合 との交流と話し合い 、自字内もしくはほ	改善を要する部分を適宜見 三活の制約下において、家族 いの中で協調と協同の大切さ 記がでの実践可能な運動を、	
14週		13週	種目ごとの活 ※遠隔授業の	動実践・見直し 場合:自宅で実践可能な	ぶ運動を実践し、	ての方針や方法を討議し、改善を要する部分を適宜見直すことができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家がや友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切を学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することが			
15週 総まとめ 分野横断的能力Lv2 (自主性・合意形成・チームワー ク) についての自己評価 16週 ー		14週	種目ごとの活 ※遠隔授業の	動実践・見直し)場合:自宅で実践可能な	ぶ運動を実践し、	ての方針や方法を討議し、改善を要する部分を適宜」 直すことができる。 ※遠隔対応の場合 ・コロナ禍における日常生活の制約下において、家が や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切。 を学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、 計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することが			
評価割合 運動技能・意欲 自主的継続的学習 安全管理行動 集団行動力 合計 総合評価割合 5 30 30 35 100 基礎的能力 5 30 30 20 85 専門的能力 0 0 0 0 0		15週	分野横断的能	わLv2(自主性・合意形の自己評価	成・チームワー	・年間の授業を通じて、本授業で求められる分野横断 的能力について自己評価できる。			
運動技能・意欲 自主的継続的学習 安全管理行動 集団行動力 合計 総合評価割合 5 30 30 35 100 基礎的能力 5 30 30 20 85 専門的能力 0 0 0 0 0		16週							
運動技能・意欲 自主的継続的学習 安全管理行動 集団行動力 合計 総合評価割合 5 30 30 35 100 基礎的能力 5 30 30 20 85 専門的能力 0 0 0 0 0	評価割合	•	•			•			
総合評価割合 5 30 30 35 100 基礎的能力 5 30 30 20 85 専門的能力 0 0 0 0 0	- : the H 2 H	運動技術	 能・意欲	自主的継続的学習	安全管理行動		集団行動力	合計	
基礎的能力530302085専門的能力0000	総合評価割合								
				30	30		20	85	
\\ \P\Z\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	専門的能力	0		0	0		0	0	
分野傾断的能力 0 0 0 0 15 15	分野横断的能力	0		0	0		15	15	

芷小	、牧工学草:	 等専門学校	開講年度	令和03年度 (2		授業科目	 化学 II(応用化学・生物系)	
科目基礎		サイニ・		いれいり 十 /又(2	.ULI <u>干/又</u>)		110千里(心内10千:土彻木)	
科目番号		0049			科目区分		公修	
授業形態		授業			単位の種別と単位			
開設学科	-		(一般科目)		対象学年	2 2	<u> </u>	
開設期	•	前期	, 2011111/		週時間数	前期:4		
教科書/教	 教材	「化学基礎	」、「化学」 啓		<u>これ間数</u> :「改訂 スタデ		第一学習社	
担当教員		大島 和浩		7 113-73 37.13		11033		
到達目	標							
の : : : : : : : : : : : : :	利用して解)過程で、特 :ついての化 :通じて、身	くことができる にグラフや表な 学的理解が工業	。 とどから関数関係や 材料の開発・利用	。 一般的な傾向など	を読み取る「洞察! を認識し、「化学!	力」を身に付ける 的な手法が科学	技術の発展に重要であること」を理解	
ルーブ	リック		理想的な到達レ	ベルの日安	標準的な到達レイ	シリの日安		
ル学に朗	オス甘木的	 な法則、原理	理想的は到達レ	インルの日女	プリントの問題・		7 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 -	
を理解し	」。 の とができる ことができる	基礎的な問題	問題集の応用問 。 。	題が独力で解ける	関・ワークの問題 で解ける。		り フラントの问題・教科書の即不同 り 題・ワークの問題の4割以上が独 力で解けない。	
学科の	到達目標」	項目との関係	Ŕ					
Ⅱ 実記	間性 践性 際性							
教育方法	法等							
概要		ぶことによ ・圧力によ や化学物質 活で役に立	って、身の回りの る変化についての を合成するための)様々な有機材料・タ)理解、材料や環境。)工業的なプロセス(無機材料の微細構え 中の微量物質の分れ の概要についてのヨ	造や性質についで 折手法について⊄ 理解を深めるこ々	ベルで理解する学問である。化学を学 ての系統的な理解、物質の状態の温度 の理解、有機・無機の様々な化学反応 とができる。これらの知識は、日常生 などの分野の技術者として活動するた	
授業の進	め方・方法	いはTeams	sを利用して配布す	する。			ること。演習課題等はBlack Boardあ	
注意点		授業は、各 成績評価結	自が十分な復習を 果60点に満たない	マ行っていることをネ	前提に進める。 態度および課題提		礎となる学問である。 者に対しては再試験を行う場合がある	
授業の	属性・履の	<u>「。こりがこ</u> 修上の区分						
	ティブラーニ		☑ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応		☑ 実務経験のある教員による授業	
授業計	面							
又未引	<u>岡</u>	週 授				週ごとの到達目	煙	
					-		<u>伝</u> 応について理解できる。中和反応を量	
		1週 酸	・塩基の中和		酸塩基の中和及心について達解できる。中和別 論的に説明できる			
		2週 中	中和滴定と塩			代表的な中和反応について、中和滴定の方法と量論計算ができる。用いる指示薬について正しく選択できる。中和によって生じる塩の分類ができる。		
		3週 酸	酸化と還元の定義・酸化数の変化と酸化剤・還 反応					
	1stQ	4週 酸	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	金属のイオン化傾向		酸化還元反応式を作ることができる。金属のイオン傾向について説明でき、金属の水や酸との反応についてイオン化傾向に基づいて説明できる。		
		5週 電	池の原理・反応			電池の原理・反応について説明できる。 主な電池について説明できる。		
品田		6週 電	気分解とファララ	デーの法則・達成度	評価試験	た計算ができる を行い、レポー 格できる	て説明でき、ファラデーの法則を使っ。ダニエル電池と起電力に関する実態トを作成できる。達成度評価試験に会	
前期 		7週 状	態変化とエネルキ	ドー・気体の圧力		状態変化におけるエネルギー収支について理解できる。 、気液平衡について理解し、説明できる。		
		8週 違	童 成度評価試験			第7週までの内容について達成度評価試験に合格でき		
		[5] [5]	1000支計111100000000000000000000000000000			<u> </u>		
			はなの体積変化			ボイル-シャルル	レの法則に基づいて気体の圧力・体積いて説明でき、適切き計算できる。	
		9週 気	体の体積変化	・理想気体と実在気	体	ボイル-シャル川 温度の関係につ 気体定数、気体 合気体について	レの法則に基づいて気体の圧力・体積。	
	2ndQ	9週 気	体の体積変化		体	ボイル-シャルル 温度の関係につ 気体定数、気体 合気体について 体と実在気体の 物質の溶解度に	レの法則に基づいて気体の圧力・体積いて説明でき、適切き計算できる。 の大態方程式を理解し、単一および涯方程式を理解し、単一および涯方程式を理解し、単一および涯方程式を用いた計算ができる。理想気	
	2ndQ	9週 気 10週 気 11週 溶	体の体積変化		体 方程式	ボイル-シャルル 温度の関係に 気体定数、気体 会気体にる体 いいて 体 り いが いいで いいで いいで いいで いいで いいで いいで いいで いいで	レの法則に基づいて気体の圧力・体積いて説明でき、適切き計算できる。 の状態方程式を理解し、単一および浮方程式を用いた計算ができる。理想気違いについて理解し説明できる ついて計算できる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	

		14週 化学反応の速さ					化学反応の速さと濃度・圧力・温度の関係について説 明できる。			
		15週	化	ご学反応速度論・実	験		データから化学反応速度式を決定することができる。 沈殿生成・反応速度に関する実験を行い、レポートを 作成できる			
		16週	定	期試験						
評価割合	評価割合									
	達成度評価試験		験	WEB達成度評価 課題					合計	
総合評価割	許価割合 60			40	0	0	0	0	100	
基礎的能力 60			40	0	0	0	0	100		
専門的能力	的能力 0		0	0	0	0	0	0		
分野横断的	能力	0		0	0	0	0	0	0	

	 \牧丁業高	 等専門学校	開講年度	令和04年度 (2	2022年度)	授業科目	
	礎情報	13 131 33 121	1.13213 1.22	11-12-1-2		320101112	
科目番号		0050			科目区分	一般 /	/ 必修
授業形態	į.	授業			単位の種別と単位		単位: 2
開設学科	4	創造工学科	(一般科目)		対象学年	3	
開設期		通年			週時間数	2	
教科書/	教材	『改訂版現	代文B』(数研出	版)/参考図書は道	宣宜紹介する		
担当教員		山際 明利					
到達目							
2、文学	的な文章に	ついて、その登	場人物、情景、心	と捉えることができ い情などを捉えるこ 長現上の特色を捉え	とができる。		
ルーブ	リック						
			理想的な到達レ	ベルの目安(優)	標準的な到達レヘ	ジルの目安(良)) 未到達レベルの目安(不可)
		ついて、その 捉えることが		ついて、その論理 的確に捉えること	論理的な文章につの展開や要旨をあることができる	る程度的確に	
登場人物	的な文章に M、情景、心 ぶできる。	ついて、その 情などを捉え		ついて、その登場 情などを的確に捉 る。	文学的な文章につ 人物、情景、心情 的確に捉えること	などをある程	登場 文学的な文章について、その登場 呈度 人物、情景、心情などを的確に捉 えることができない。
文体や修		法を理解し、 現上の特色を 。		法を理解し、文体 現上の特色を的確 できる。	語句の意味、用法 や修辞などの表現 程度的確に捉える	上の特色をあ	ある や修辞などの表現上の特色を的確
学科の	到達目標	項目との関係	ŧ				
Ⅱ 実	間性 践性 際性						
教育方	法等						
概要		豊かにする	の様々な文章や作 態度を育てる。ま 度を育てる。	品を読解し鑑賞す た、言語文化に対	る能力を高めるとと する関心を深め、言	ともに、ものの 言語感覚を豊か	の見方、感じ方、考え方を深め、人生を かにし、積極的に国語を尊重してその向
授業の進	₤め方・方法	基本的に 中間達成	は講義形式の一斉 度試験35%、定算	明試験40%、提出認	課題20%、授業中 <i>σ</i>)発言記録5%	論の時間を設定する。 の割合で評価する。合格点は60点である がある。但し、再試験を受けた場合の成
注意点		教科書、	ノートは毎時間、	成績か60点未満の 続くも、60点を上 国語便覧、国語辞 授業後は教授され	典等は、必要に応し	で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	
	属性・履						
	ティブラー		☑ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
	7	週 授]:		目標
		1. 1週 2.	オリエンテーショ 評論 -1 未来世代への			授業の目的・語句の意味、	方針等を理解する。 用法を理解し、的確に使うことができる
			-1 未来世代への			とができる。	ものの見方、感じ方、考え方を深めるこ
		3週 2-	-2 日本語は非論	理的か		文章を読んで とができる。	ものの見方、感じ方、考え方を深めるこ
	1stQ	4週 2-	-2 日本語は非論	理的か		とができる。	展開に注意して、主題や要旨を捉えるこ
		5週 2-	-3 偶然とは何か	\		0	用法を理解し、的確に使うことができる
			-3 偶然とは何か			とができる。	ものの見方、感じ方、考え方を深めるこ
		/迴 (-3 偶然とは何か 達成度試験)	\		文章の構成や とができる。	展開に注意して、主題や要旨を捉えるこ
前期			小説 ·1 夏目漱石につ	いて	:	夏目漱石に関	する事項を記憶する。
		9週 3-	-2 こころ			文学的な文章 意味、用法を 登場人物のも とができる。	について、それを展開する上での語句の 的確に理解することができるとともに、 のの見方、感じ方、考え方を理解するこ
	2240	10週 3-	-2 こころ		:	 文学的な文章 意味、用法を	について、それを展開する上での語句の 的確に理解することができるとともに、 のの見方、感じ方、考え方を理解するこ
	2ndQ	11週 3-	-2 こころ			意味、用法を	について、それを展開する上での語句の 的確に理解することができるとともに、 のの見方、感じ方、考え方を理解するこ
		12週 3-	-2 こころ			意味、用法を	について、それを展開する上での語句の 的確に理解することができるとともに、 のの見方、感じ方、考え方を理解するこ

			1					
		13週	3-2 こころ			意味、	な文章について、それを 用法を的確に理解するこ 物のものの見方、感じ方 きる。	ことができるとともに、
		14週	3-2 こころ			意味、	な文章について、それを 用法を的確に理解するこ 物のものの見方、感じ方 きる。	ことができるとともに、
		15週	3-2 こころ			意味、	な文章について、それを 用法を的確に理解するこ 物のものの見方、感じ方 きる。	ことができるとともに、
		16週	前期定期試験					
		1週	4.評論 4-1 「である	3] ことと「する」こと		語句の。	意味、用法を理解し、的	確に使うことができる
		2週	4-1 「である	3] ことと「する」こと		文章を とがで	読んでものの見方、感じ きる。	方、考え方を深めるこ
		3週	4-1 「である	3] ことと「する」こと		文章を とがで	読んでものの見方、感じ きる。	方、考え方を深めるこ
	3rdQ	4週	4-1 「である	3] ことと「する」こと		とがで		
		5週	4-2 無常とい	うこと		文章を とがで	読んでものの見方、感じ きる。	方、考え方を深めるこ
		6週	4-2 無常とい	うこと		文章を とがで	読んでものの見方、感じ きる。	方、考え方を深めるこ
		7週	4-3 無常とい (達成度試験)			文章を とがで	読んでものの見方、感じ きる。	方、考え方を深めるこ
		8週	5.小説 5-1 森鷗外に	こついて		森鷗外	に関する事項を記憶する	•
		9週	5-2 舞姫			文学的 意味、 登場人 とがで	な文章について、それを 用法を的確に理解する <i>こ</i> 物のものの見方、感じ方 きる。	展開する上での語句の とができるとともに、 、考え方を理解するこ
後期		10週	5-2 舞姫			文学的 意味、 登場人 とがで	な文章について、それを 用法を的確に理解するこ 物のものの見方、感じ方 きる。	展開する上での語句の とができるとともに、 、考え方を理解するこ
		11週	5-2 舞姫			文学的 意味、 登場人 とがで	な文章について、それを 用法を的確に理解するこ 物のものの見方、感じ方 きる。	展開する上での語句の とができるとともに、 、考え方を理解するこ
	4thQ	12週	5-2 舞姫			文学的 意味、 登場人 とがで	な文章について、それを 用法を的確に理解するこ 物のものの見方、感じ方 きる。	展開する上での語句の とができるとともに、 、考え方を理解するこ
		13週	5-2 舞姫			意味、	な文章について、それを 用法を的確に理解するこ 物のものの見方、感じ方 きる。	ことができるとともに、
		14週	5-2 舞姫			意味、	な文章について、それを 用法を的確に理解するこ 物のものの見方、感じ方 きる。	とができるとともに、
		15週	5-2 舞姫			意味、	な文章について、それを 用法を的確に理解するこ 物のものの見方、感じ方 きる。	ことができるとともに、
		16週	後期定期試験					
評価割合	<u> </u>							
		中間達成		定期試験	提出課題		発言	合計
総合評価害	 引合	35		40	20		5	100
一般的能力	J	35		40	20		5	100

苫小牛	女工業高等	 等専門学村	交 開講年度 令和04年度	(2022年度)	授業科目	政治・経済
科目基礎		<u> </u>	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	(, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
科目番号		0051		科目区分	一般 / 必	修
授業形態		授業		単位の種別と単位	位数 履修単位:	2
開設学科		創造工学	科 (一般科目)	対象学年	3	
開設期		通年		週時間数	2	
教科書/教	材			籍)/参考図書:必	要に応じて適宜紹	介する
担当教員		佐々木き	彩,多田 光宏			
到達目標				=400		
2. 資本主 3. 現代社 4. 今日の 5. 環境問	主義経済の特 社会の政治的 の国際的な政 問題、資源	寺質や財政 り・経済的記 な治・経済の ・エネルギ-	国憲法の成り立ちやその特性について ・金融などの機能、経済面での政府の 替課題、および公正な社会の実現に向 り仕組みや、国家間の結びつきの現状 -問題、南北問題、人口・食糧問題と 地球的諸課題の解決に向けた現在ま	役割について説明で けた現在までの取り とそのさまざまな背 いった地球的諸課題	組みについて説明 景について説明で とその背景につい	きる。
ルーブリ	ノック					
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レ	ベルの目安	未到達レベルの目安
	治の基本原 なちやその特 る。			民主政治の基本が の成り立ちやその本的な問題が解し	京理、日本国憲法 の特性に関する基 ける。	民主政治の基本原理、日本国憲法 の成り立ちやその特性に関する基 本的な問題が解けない。
融などの格	義経済の特 幾能、経済i ハて説明でる	面での政府の		は、などの機能、経済	持質や財政・金融 斉面での政府の役 的な問題が解ける	資本主義経済の特質や財政・金融 などの機能、経済面での政府の役 割に関する基本的な問題が解けない。
課題、お。 向けた現在 て説明でき		土会の実現に り組みについ	、および公正な社会の実現に向い た現在までの取り組みについて訪 明できる。	大および公正なた現在までの取本的な問題が解		現代社会の政治的・経済的諸課題 、および公正な社会の実現に向け た現在までの取り組みに関する基 本的な問題が解けない。
組みや、国 とそのさる 明できる。		がつきの現れ 景について記	が、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について説明できる。	みや、国家間の経済そのさまざまながら的な問題が解ける	_ :	今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状と そのさまざまな背景に関する基本 的な問題が解けない。
題、南北間いった地域のいて説明		・食糧問題のとその背景に	ヒ 1、南北問題、人口・食糧問題とし	N 、南北問題、人I つた地球的諸課 する基本的な問題		環境問題、資源・エネルギー問題 、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景に関する基本的な問題が解けない。
地球的諸談	P和・国際版 果題の解決の 別組みについ	こ向けた現在	国際平和・国際協力の推進、地球 的諸課題の解決に向けた現在まで の取り組みについて説明できる。	🎇 的諸課題の解決(協力の推進、地球 に向けた現在まで する基本的な問題	国際平和・国際協力の推進、地球 的諸課題の解決に向けた現在まで の取り組みに関する基本的な問題 が解けない。
学科の至 I 人間 II 実践 II 国際	鮏	目との関	月係			
教育方法	法等					
概要		社会科学 主体的に 人間活動 養を培う		いて多面的に理解し ち、幸福とは何かを 	、国際社会の一員 追究しながら、技 	術者として社会に貢献する自覚と素
授業の進め	か方・方法		は、配付プリントを用いて、主に講義。 ぎを行う。	形式で進める。適宜	、練習問題を取り	人れて、党講者の埋解度を確認しな
注意点		・授業 <i>の</i> ・教科書 ・成績に	D理解を深めるために、新聞・ニュー	習を行うこと。 %、課題等10%を	総合して評価する	。学業成績が60点未満の者に対して
	属性・履修		1			T
□ アクテ	・ィブラーニ	ング	☑ ICT 利用	□ □ 遠隔授業対応	<u>,</u>	□ 実務経験のある教員による授業
1₩ 4 ₩=1 →						
授業計画	<u> </u>	T _E	授業 中容		ロブレスがキロロ	5
		週	授業内容		週ごとの到達目標	<u>、</u> 経済システムが私たちの生活を支えて
		1週	政治・経済を学ぶために		いることを、具体 きる。	Mを通して理解し説明することがで
		2週	法の支配①		に、それに伴う人	則の確立を理解し説明できるととも 権獲得の歴史、民主主義国家の成立 合体制について理解し説明することが
前期	1stQ	3週	法の支配②		に、それに伴う人 、世界の主な政治 できる。	限別の確立を理解し説明できるととも 権獲得の歴史、民主主義国家の成立 合体制について理解し説明することが
		4週	法の支配③		に、それに伴う人	則の確立を理解し説明できるととも 権獲得の歴史、民主主義国家の成立 合体制について理解し説明することが

		5週	日本国憲法の制定の	と基本原理①		明治憲法と日本国院について理解し説	憲法の差異、日本 明することができ	国憲法の基本原理 る。
		6週	日本国憲法の制定の	と基本原理②		明治憲法と日本国際について理解し説	憲法の差異、日本	国憲法の基本原理
		7週	日本国憲法の制定の	と基本原理③		明治憲法と日本国際について理解し説	憲法の差異、日本 明することができ	国憲法の基本原理 る。
		8週	基本的人権の保障の	1)		法の下の平等、自lった事例を通して		
		9週	基本的人権の保障の	2)		法の下の平等、自lった事例を通して	 由権、社会権等に	 ついて、実際に起
		10週	基本的人権の保障の	3		法の下の平等、自lった事例を通して		
		11週	基本的人権の保障の	4)		法の下の平等、自lった事例を通して	主権、社会権等に 理解し、説明する	ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
	2ndQ	12週	日本の政治機構①			国会・内閣・裁判 ることができる。	所等の機能につい	て理解し、説明す
		13週	日本の政治機構②			国会・内閣・裁判がることができる。	所等の機能につい	て理解し、説明す
		14週	日本の政治機構③			国会・内閣・裁判 ることができる。	所等の機能につい	て理解し、説明す
		15週	日本の政治機構④			国会・内閣・裁判 ることができる。	所等の機能につい	て理解し、説明す
		16週	定期試験					
		1週	現代の国際政治①			国際社会の変遷、[明することができ		について理解し説
		2週	現代の国際政治②			国際社会の変遷、[明することができ	国際機構の役割等 る。	について理解し説
		3週	現代の国際政治③			国際社会の変遷、[明することができ	国際機構の役割等 る。	について理解し説
		4週	現代経済の成り立ち	ちとしくみ①		三つの経済主体(し、ひとつの循環 きる。企業を中心 経済活動と景気と る。	システムとなって とした市場メカニ	いることを説明で ズムの観点から、
	3rdQ	5週	現代経済の成り立た	ちとしくみ②		三つの経済主体(し、ひとつの循環 きる。企業を中心 経済活動と景気と る。	システムとなって	いることを説明で
		6週	現代経済の成り立ち	ちとしくみ③		三つの経済主体(し、ひとつの循環 きる。企業を中心 経済活動と景気と る。	システムとなって とした市場メカニ	いることを説明で ズムの観点から、
		7週	現代経済の成り立ち	ちとしくみ④		三つの経済主体(し、ひとつの循環 きる。企業を中心 経済活動と景気と	システムとなって とした市場メカニ	いることを説明でズムの観点から、
後期		8週	現代経済の成り立た	ちとしくみ⑤		三つの経済主体(こし、ひとつの循環である。企業を中心経済活動と景気と	システムとなって とした市場メカニ	いることを説明で ズムの観点から、
		9週	経済政策①			財政政策と金融政策を通じて社会の		
		10週	経済政策②			財政政策と金融政策を通じて社会の	策のしくみを理解 安定化をどう図る:	し、また、租税政 かを理解し説明で
		11週	国際経済のしくみの	i)		企業のグローバル しくみを理解し説! をするための国際 ができる。	明できる。また、「	国際間の利害調整
	4thQ	12週	国際経済のしくみの	2)		企業のグローバル しくみを理解し説! をするための国際ができる。	明できる。また、「	国際間の利害調整
		13週	現代社会の諸問題の	1)		日本社会・国際社会 考察することができ		について検討し、
		14週	現代社会の諸問題の	2)		日本社会・国際社会 考察することがで		 について検討し、
		15週	現代社会の諸問題の	3		日本社会・国際社会 考察することがで	会が抱える諸課題	 について検討し、
		16週	定期試験					
評価割合	<u></u>							
	定	期試験	達成度試験	課題				合計
総合評価	割合 50)	40	10	0	0	0	100
基礎的能力)	40			0	0	100

専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

<u>п</u> .ј.	牧工業高	等専門学校	開講年度	令和04年度 (2	2022年度)	授業	美科目	英語ⅢA(機械系)
科目基礎								
4目番号		0052			科目区分		-般 / 必	修
受業形態		授業			単位の種別と単位		愛修単位:	3
設学科		創造工学科	(一般科目)		対象学年	3		
設期		通年			週時間数		前期:2 後	• • •
效科書/教	材	教科書: Sc グ教材: 各	ience for Everyの 種プリント	one [金星堂] / 复	!期課題:Rabbit-F	Proof Fer	nce [Oxf	ord University Press] /リーディン
⊒当教員		東 俊文						
引達目標								
2. 半易 3. 英文	な英文を迅速 教材の読解	速かつ大量に読	んで、その内容を	を理解しながら、英 を日本語で説明でき 問題を知ることがで	る。	み取れる	•	
レーブリ	ノツク		理相的+>型(专)	<u>~ 1 の日内</u>	無準約+>列達1	~ II		ナ 到 寺 し が 山 の 口 ウ
			理想的な到達レ	<u>ヘルの日安</u> 級レベルの語彙・	標準的な到達レクラック 英検準 2級~2			未到達レベルの目安 英検準2級~2級レベルの語彙・
P価項目:	1		文法・文構造を	級レベルの語彙・ 理解しながら、一 を正確に読み取れ	英快年と級〜27 文法・文構造を 本的な英文内容 る。	理解しなが	がら、基	英標等 2 級~ 2 級レバルの語彙・ 文法・文構造を理解しながら、基本的な英文内容を正確には読み取れない。
平価項目2	2			迅速かつ大量に読 を日本語で説明で	平易な英文を迅流で、その内容をl る。	速かつ大調 日本語で記	量に読ん 説明でき	平易な英文を迅速かつ大量に読んでも、その内容を日本語で説明できない。
平価項目3	3			を通して、国内お 情や諸問題を深く る。	英文教材の読解 よび海外の諸事 を知ることが出	青や諸問題		英文教材の読解を通しても、国内 および海外の諸事情や諸問題の概 要を知ることが出来ない。
学科の至 I 人間 Ⅱ 実践 Ⅲ 国際	引性 	項目との関係						
业 <u>国际</u> 数育方法								
既要		教科書を使 プリントを 2本立てで る。	って語彙や文構造 使って大量の平易 行なう。また教科	きが難しめの英文を 見な英文を直読直解 抖書授業では、文法	分析的に理解する で迅速に理解する や英作文の演習問	精読授業 多読・速 題を数多	(Intens 読授業(くこなす	ive Reading)と、英文副読本や配布 Extensive and Rapid Reading)の ことにより、英語基礎力の充実を図
		一一【司曰主士华》	いく。各Unit 終 [⁻]	了後に小テストを実	€施する。			
受業の進& 	め方・方法	順に進めては、「副読本等」では、「副読本等」では、「一郎では、「「」」では、「「」」では、「「」」では、「「」」では、「「」」では、「「」」では、「「」」では、「「」」では、「「」」では、「」」では、「「」」では、「「」」では、「」」では、「「」」では、「」では、「	いく。各Unit 終 の多読速読授業】 を記入する。教室 精読授業】 名し	了後に小テストを実 図書館授業では を授業では、配布さ 	E施する。 、各自が選んだ英 れた初見の英文を 	文副読本 迅速に直 the Artic	を自分の 読直解し 	ペースで読み、「読書記録手帳」に、設問に答えて理解度を確認する。 図・復習が最も重要である。予習では
受業の進む	め方・方法	順に進めて 【副読本等録 感想や記録 【教科書の 辞書を引き 【副読事 、い。豊 、初見の英文	いく。各Unit 終の多読速読授業】を記入する。教籍に対策】を記入する。教育を記入する。教育を記入する。教育を記述の多談の多談の多談の多談の多談の多談の多談の表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表	了後に小テストを 図書館授業では を授業では、配布さ Jnit 2 ~ 3 ページ目 学理解、復習では英 図書館授業では 買しながら、出来る せずにフレーズごと	に施する。 、各自が選んだ英れた初見の英文を の英文(Reading 文の音読・筆写と に自分の好みとした でけ日本語に訳さ 英語の語順のまま	文 副 読 the Artic 語 が ず 理 が ず 理	を自解し にle)の努 にle)の努 記 にまとが 大 は に に に に に に に に に に に に に	ペースで読み、「読書記録手帳」に、設問に答えて理解度を確認する。
	め方・方法	順には は は は は は は は は は は ま は ま ま ま ま ま ま ま	いく。各Unit 終 のの表示を記する。 を記する。 を記する。 特にでいる。 特には、 一で接いる。 を記する。 をというでは、 一で接いる。 をいうでは、 一で関いる。 をいうでは、 では、 では、 では、 では、 のがあたいし、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には	了後に小テストをは 図書には、配布を 図書では、配布を を受けます。 Init 2 ~ 復習で業で のででででででででできる。 ででででできる。 のでででできる。 のでででできる。 のででできる。 のででできる。 のででできる。 のででできる。 のでできる。 のでできる。 のででできる。 のででできる。 のででできる。 のでできる。 のででできる。 のでできる。 のででできる。 のでできる。 のででできる。 のででできる。 のででできる。 のできる。 のでき。 のでき。 のでできる。 のでき。 のできる。 のできる。 のでできる。 のでき。 のでできる。 のでできる。 のでできる。 のでできる。 のでできる。 のでできる。 のでできる。 のでできる。 のでできる。 のでできる。 のでできる。 のでできる。 のでできる。 のででできる。 のでできる。 のででできる。 のでできる。 のででできる。 のでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	に施する。 、各自が選んだ英 れた初見の英文 の英文音・好きの の英文音・ の英音がのないでは の英で語のがいました。 ではけるである。 の英語のないでは、 ではいる。 のもいる。 のもいる。 ではいる。 のもいる。 のもいる。 のもいる。 のもいる。 ではいる。 のものものものものものものものものものものものものものものものものものものも	文迅 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	を読	ペースで読み、「読書記録手帳」に、設問に答えて理解度を確認する。 図・復習が最も重要である。予習ではること。 本を選んで英文読書を楽しんでほしするのがポイント。教室授業では、
注意点 受業の原	属性・履修	順に関語が (連請を) (連請を) (連請を) (連請を) (本語を)	いく。各Unit 終のの表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表	了後に小テストを 図書に 図書には、配布さ 図書では、配布さ Init 2 ~ 3 ページは 原理解解とのででででで のはないのでででででで のの評に のの評しは がいりして がいりでででで ののではでいると のの評価点に がののでは ののではでして ののでして のので ののでして ののでして ののでして ののでして のので ののでして ののでして ののでして のので のので のので のので のので のので のので のの	に施する。 、各自が選んだ英を れた初見の英文(Reading 文の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。	文迅 the Ancient the Ancient 本直 the Ancient 大調で 大期で 大期で 大期で ・1。	を読	ペースで読み、「読書記録手帳」に、設問に答えて理解度を確認する。 望・復習が最も重要である。予習ではること。 本を選んで英文読書を楽しんでほしするのがポイント。教室授業では、切。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
意点 受業の原		順に関語が (連請を) (連請を) (連請を) (連請を) (本語を)	いく。各Unit 終 のの表示を記する。 を記する。 を記する。 特にでいる。 特には、 一で接いる。 を記する。 をというでは、 一で接いる。 をいうでは、 一で関いる。 をいうでは、 では、 では、 では、 では、 のがあたいし、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には	了後に小テストを 図書に 図書には、配布さ 図書では、配布さ Init 2 ~ 3 ページは 原理解解とのででででで のはないのでででででで のの評に のの評しは がいりして がいりでででで ののではでいると のの評価点に がののでは ののではでして ののでして のので ののでして ののでして ののでして ののでして のので ののでして ののでして ののでして のので のので のので のので のので のので のので のの	に施する。 、各自が選んだ英 れた初見の英文 の英文音・好きの の英文音・ の英音がのないでは の英で語のがいました。 ではけるである。 の英語のないでは、 ではいる。 のもいる。 のもいる。 ではいる。 のもいる。 のもいる。 のもいる。 のもいる。 ではいる。 のものものものものものものものものものものものものものものものものものものも	文迅 the Ancient the Ancient 本直 the Ancient 大調で 大期で 大期で 大期で ・1。	を読	ペースで読み、「読書記録手帳」に、設問に答えて理解度を確認する。 望・復習が最も重要である。予習ではること。 本を選んで英文読書を楽しんでほしするのがポイント。教室授業では、切。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
意点 受 業の 原 アクラ	<u> </u>	順に関語が (連請を) (連請を) (連請を) (連請を) (本語を)	いく。各Unit 終のの表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表	了後に小テストを 図書に 図書には、配布さ 図書では、配布さ Init 2 ~ 3 ページは 原理解解とのででででで のはないのでででででで のの評に のの評しは がいりして がいりでででで ののではでいると のの評価点に がののでは ののではでして ののでして のので ののでして ののでして ののでして ののでして のので ののでして ののでして ののでして のので のので のので のので のので のので のので のの	に施する。 、各自が選んだ英を れた初見の英文(Reading 文の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。	文迅 the Ancient the Ancient 本直 the Ancient 大調で 大期で 大期で 大期で ・1。	を読	ペースで読み、「読書記録手帳」に、設問に答えて理解度を確認する。 望・復習が最も重要である。予習ではること。 本を選んで英文読書を楽しんでほしするのがポイント。教室授業では、切。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
:意点 受 業の 原] アクラ	<u> </u>	順に関係を表する。 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	いく。各Unit 終の名法・ の多読を記入する。 精読授業】 を記入する。 精読授ら読を記して、 情読が多読・して、 に対して、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが	了後に小テストを 図書に 図書には、配布さ 図書では、配布さ Init 2 ~ 3 ページは 原理解解とのででででで のはないのでででででで のの評に のの評しは がいりして がいりでででで ののではでいると のの評価点に がののでは ののではでして ののでして のので ののでして ののでして ののでして ののでして のので ののでして ののでして ののでして のので のので のので のので のので のので のので のの	に施する。 、各自が選んだ英を れた初見の英文(Reading 文の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。	文迅 the Aのに語す Aのに語す 大期る ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	を読 に得つまこ 課:こ に得つまこ 課後の 予め読解大 予2合	ペースで読み、「読書記録手帳」に、設問に答えて理解度を確認する。 望・復習が最も重要である。予習ではること。 本を選んで英文読書を楽しんでほしするのがポイント。教室授業では、切。 習状況)40%の割合で評価する。とする。 、再試験の成績は定期試験と到達度
t意点 受 業の 原] アクラ	<u> </u>	順に記録 (本語) (本語) (本語) (本語) (本語) (本語) (本語) (本語)	いく。各Unit 終 の多記、 を記読する を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を	了後に小テストをするというでは、 図書館というでは、 図書では、配子では、 図書では、配子では、 図書館というでは、 図書館が、 一ジは、 図書館が、 一ジは、 一ジは、 一ジは、 一ジは、 一ジは、 一ジは、 一ジは、 一ジは	に施する。 、各自が選んだ英を れた初見の英文(Reading 文の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。	文迅 the Aのに語す 本直 大語べず理 大前す 大期る で で で で で で で た の で に の で に の で に の で の で の で の で の で の の で の の の の の の の の の の の の の	を読 に得つまこ 課:こ	、設問に答えて理解度を確認する。 習・復習が最も重要である。予習ではること。 本を選んで英文読書を楽しんでほしするのがポイント。教室授業では、切。 習状況)40%の割合で評価する。とする。 、再試験の成績は定期試験と到達度 「実務経験のある教員による授業
注意点 受 業の 原 〕 アクラ	<u> </u>	順に記さい でき録 できない できない できない できない できない がった できない がった できない がった できない がった できない かった しょう はんしょう はんしょく はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょく はんしょう はんしょく はんしん はんしょく はんしょく はんしょく はんしん はんしょく はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんし	いく。各Unit 終の名は、終の名法・法・法・公司を記入する。 を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を	了後に小テストを 図書館授業では 記書では、配布 - ジャイン - ジ	に施する。 、各自が選んだ英を れた初見の英文(Reading 文の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。	文迅 ・ the Artiです理 ・ で が で が で が で が で が で が で の に 語す ト 助る ・ も の で に あっ の に 語す ト あっ の に 語す の の の の の の の の の の の の の	を読 に得つまご 課:こ 到容の旧 で	ペースで読み、「読書記録手帳」に、設問に答えて理解度を確認する。 図・復習が最も重要である。予習ではること。 本を選んで英文読書を楽しんでほしするのがポイント。教室授業では、切。 習状況)40%の割合で評価する。とする。、再試験の成績は定期試験と到達度 しま務経験のある教員による授業 しながら読むことがことができる。こいて理解することができる。こいて理解することができる。こいて理解することができる。こ
注意点 受 業の 原 〕 アクラ	<u> </u>	順に記さい でき録 できない できない できない できない できない できない がった できない がった できない がった できない がった できない かった しょう はんしょう はんしょく はんしょう はんしょう はんしょく はんしょう はんしょく はんしん はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしん はんしょく はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしょく はんしん はんしん はんしん はんし	いく。各Unit 終の名 の多記入する を記えする。 精読が多語では が多続・して に対して にがる にがる にがる にがる にがる にがる にがる にがる	了後に小テストを 図書館授業では 記書では、配布	に施する。 、各自が選んだ英を れた初見の英文(Reading 文の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。	文迅 ・ は語べず理 ・ で が で 大師 で 大師 で 大師 で 大師 で 大師 で 大師 で 大師 で 大師 で 大師 で 大師 大師 で 大い で 大い で も も の も で も の る の る る る る る る る る る る る る る	を読 に得つまこ 課:こ 到容の 容の 容	ペースで読み、「読書記録手帳」に、設問に答えて理解度を確認する。 図・復習が最も重要である。予習ではること。 本を選んで英文読書を楽しんでほしするのがポイント。教室授業では、切。 図状況)40%の割合で評価する。とする。、再試験の成績は定期試験と到達度 しながら読むことがことができる。こいて理解することができる。こいて理解することができる。こいて理解することができる。こいて理解することができる。
t意点 受 業の 原] アクラ	属性・履作 ティブラー <u>=</u>	順に記さい でき録 できない できます にいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる は	いく。各Unit 終のという。 を記えする。 精読でいる。 精読で変数を 情に対して にが にが にでして にてして にでして にて にでして にでして にでして にでして にでして にでして にでして にでして にでして にでして にて にでして にでして にでして にでして にでして にでして にでして にでして にでして にでして にて にて にて にて にて にて にて にて にて に	了後に小テストを 図書に 図書に 図書では、配布	に施する。 、各自が選んだ英を れた初見の英文(Reading 文の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。	文迅 th語べず理 デて施 週 英使 英使 英受 英受 三二	を読 に得つまこ 課:こ 9 2 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 2	ペースで読み、「読書記録手帳」に、設問に答えて理解度を確認する。 望・復習が最も重要である。予習ではること。 本を選んで英文読書を楽しんでほしするのがポイント。教室授業では、切。 習状況)40%の割合で評価する。 、再試験の成績は定期試験と到達度 しながら読むことがことができる。 しながら読むことがことができる。 しながら読むことがことができる。 しながら読むことがことができる。 しながら読むことがことができる。
受業の原 アクラ	<u> </u>	順に副語や は	いく。各Unit 終の名。 を記えする。 精読の表記する。 精読が多いで授を記して に対して にでして にて にでして にでして にでして にでして にでして にでして にでして にでして にでして にでして にてして にでして にて にて にて にて にて にて にて にて にて に	了後に小テストを 図書には、配布 図書では、配布 図書では、配布 図書では、配布 図書では、配布 図 図	に施する。 、各自が選んだ英を れた初見の英文(Reading 文の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。 の英文(表達等という。	文迅 th語べず理 デて施 週 英使 英使 英受 英受 英接副速 em 彙ル英解 ス前す ご 文役 文役 文動 文動 文動 文続 を動 を態を態を調を動き、 の 内詞 内詞 内に 内に 内に	を読 に得つまこ 課:こ 9 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	ペースで読み、「読書記録手帳」に、設問に答えて理解度を確認する。 望・復習が最も重要である。予習ではること。 本を選んで英文読書を楽しんでほしするのがポイント。教室授業では、切。 習状況)40%の割合で評価する。、再試験の成績は定期試験と到達度 しながら読むことがことができる。 しながら読むことがことができる。こいて理解することができる。 しながら読むことがことができる。 にしながら読むことがことができる。 にしながら読むことがことができる。 にしながら読むことがことができる。 にしながら読むことがことができる。 にしながら読むことがことができる。
受業の原 アクラ	属性・履作 ティブラー <u>=</u>	順に副語や	いく。各Unit 終のという。 を記入する。 精読で表示する。 精読で表示する。 精読で表示する。 精読で表示する。 情にが多にでする。 を記入する。 特にでする。 はなの様として 現明達 評のでは、 には、定とといる。 は、では、 には、では、 には、では、 には、は、 には、は、 には、は、 には、 には、 には、	了後に小テストを 図書にいます。 図書では、配布	に施する。 、	文迅	を読 に得つまこ 課:こ 9 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	ペースで読み、「読書記録手帳」に、設問に答えて理解度を確認する。 図・復習が最も重要である。予習ではること。 本を選んで英文読書を楽しんでほしするのがポイント。教室授業では、切。 図状況)40%の割合で評価する。、再試験の成績は定期試験と到達度 しながら読むことがことができる。こいて理解することができる。こいて理解することができる。こいて理解することができる。こいて理解することができる。ことができる。これがら読むことがことができる。これがら読むことがことができる。これがら読むことができる。これがら読むことができる。これがら読むことができる。これがら読むことができる。これがら読むことができる。これがら読むことができる。これがら読むことができる。これがら読むことができる。これがら読むことができる。
主意点 受 業 の原	属性・履作 ティブラー <u>=</u>	順に副語や	いく。各Unit 終のという。 で表示を記入する。 精読でいる。 精読ではいる。 精読ではいる。 特にが多にして、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には	了後に小テストを実 図書館授業では、配布 図書館授業では、配布 Init 2 ~ 3 ページは 野理解書館では、配子 図書館授出プロージでは の、到達語らしない の、到達高合は、ない のでもの点にを 記さ換えて再評価を では、の説明) Power! Power! Malaria? Malaria?	議施する。 、	文迅	を読 に得っまこ 課:こ 到 容の 容の 容つ 容つ 容つ 容つ 容の	ペースで読み、「読書記録手帳」に、設問に答えて理解度を確認する。 望・復習が最も重要である。予習ではること。 本を選んで英文読書を楽しんでほしするのがポイント。教室授業では、切り。 習状況)40%の割合で評価する。とする。、再試験の成績は定期試験と到達度 しながら読むことがごとができる。 しながら読むことがことができる。 しながら読むことがことができる。 しながら読むことがことができる。 しながら読むことがことができる。 しながら読むことがことができる。
受業の原 アクラ	属性・履作 ティブラー <u>=</u>	順「「感感」を 「はいでで 「はいで 「はいでで にで 「はいでで にでで にでで にでで にでで にでで にでで にでで	いく。各Unit 終のという。 で表示を記入する。 精読でいる。 精読ではいる。 精読ではいる。 特にが多にして、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には	了後に小テストを 図書にいます。 図書では、配布	議施する。 、	文迅	を読 に得っまこ 課:こ ――――――――――――――――――――――――――――――――――	ペースで読み、「読書記録手帳」に、設問に答えて理解度を確認する。 望・復習が最も重要である。予習ではること。 本を選んで英文読書を楽しんでほしするのがポイント。教室授業では、切り。 習状況)40%の割合で評価する。とする。、 再試験の成績は定期試験と到達度 しながら読むことができる。こついて理解することができる。こついて理解することができる。こしながら読むことがことができる。にしながら読むことがことができる。にしながら読むことがことができる。と解することができる。と解することができる。といながら読むことがことができる。といながら読むことがことができる。といながら読むことがことができる。といながら読むことがことができる。といながら読むことがことができる。といながら読むことがことができる。といながら読むことがことができる。といながら読むことがことができる。といながら読むことがことができる。
受業の原 アクラ	属性・履作 ティブラー <u>=</u>	順「「 順「 順「 に翻や 「 で 等録 「 で 等録 「 で 等録 で で 等録 で で で 等録 で で で で で で で で で で で で で	いく。各Unit 終のの記入。 名Unit 終のの記入 を記述する。 教育 を記述する。 教育 に対 定数 を記述 を記述 を記述 に対 定数 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	了後に小テストを実 図書にいます。 図書では、配布 ジャでは ジャでは ジャででででででででででででででででででででででででででで	議施する。 、	文迅 は語べず理 デて施 週 英使 英使 英受 英受 英接 英接 英動 英動 英丁副速 自彙ル英解 ス前す ご 文役 文役 文動 文動 文続 文続 文名 文名 文記 た のに語す ト期る と を動 を態 を態 を調 を詞 を詞 を詞 をの 大語 大に	を読 le得つまこ 課:こ 到 容の 容の 容つ 容つ 容つ 容つ 容つ 容し 容の	ペースで読み、「読書記録手帳」に、設問に答えて理解度を確認する。 図・復習が最も重要である。予習ではること。 本を選んで英文読書を楽しんでほしするのがポイント。教室授業では、切。 図状況)40%の割合で評価する。、再試験の成績は定期試験と到達度 しながら読むことがことができる。 しながら読むことがことができる。こついて理解することができる。 しながら読むことがことができる。ことができる。 にしながら読むことがことができる。 にしながら読むことがことができる。 にしながら読むことがことができる。 にしながら読むことができる。 にしながら読むことができる。 にしながら読むことができる。 にしながら読むことができる。 にしながら読むことができる。

						黄立を由窓を理解しただる	こきおフレがフレが示さて
		11週	Unit 6 Asteroi	d Special Delivery			ら読むことがことができる。 ついて理解することができる
		12週	Unit 6 Asteroi	d Special Delivery		英文を内容を理解しながら To不定詞の基本的用法に	ら読むことがことができる。 ついて理解することができる
		13週	Unit 7 "Dung	Beetle" Car Powered by Poop	1	英文を内容を理解しながら 分詞ついて理解することが	ら読むことがことができる。 ができる。
		14週	Unit 7 "Dung	Beetle" Car Powered by Poop	ı	英文を内容を理解しながら 分詞ついて理解することが	ら読むことがことができる。 ができる。
		15週	夏期課題導入			夏期課題の物語の主要登場 課題ワークシートへの取組 動機付けが得られる。	易人物と粗筋が理解できる。 且みを通じて、英文読書への
		16週	前期定期試験				
		1週	夏期課題テスト 多読速読演習			平易な物語を直読直解して中できる。初見の説明文の四択問題の正解を選べる。	て楽しみながら英文読書に集 D意味内容を素早く理解し、
		2週	多読速読演習			平易な物語を直読直解して中できる。初見の説明文の四択問題の正解を選べる。	C楽しみながら英文読書に集 D意味内容を素早く理解し、
		3週	Unit 8 Robot 9	Scientist		英文を内容を理解しながら 疑問詞+不定詞について理	ら読むことがことができる。 里解することができる。
	3rdO	4週	Unit 9 Skyscra	aper Farms		英文を内容を理解しながら 仮定法について理解するこ	ら読むことがことができる。 ことができる。
	StuQ	5週	多読速読演習			平易な物語を直読直解して中できる。初見の説明文の四択問題の正解を選べる。	C楽しみながら英文読書に集 D意味内容を素早く理解し、
		6週	多読速読演習			平易な物語を直読直解して中できる。初見の説明文の四択問題の正解を選べる。	C楽しみながら英文読書に集 D意味内容を素早く理解し、
		7週	Unit 10 Thank	s to Your Twin Brother		英文を内容を理解しながら 比較について理解すること	ら読むことがことができる。 とができる。
後期		8週	Unit 11 Butter 後期到達度試験	flies Find a Cure		英文を内容を理解しながら 仮主語について理解するこ	ら読むことがことができる。 ことができる。
		9週	多読速読演習			平易な物語を直読直解して 中できる。初見の説明文の 四択問題の正解を選べる。	C楽しみながら英文読書に集 D意味内容を素早く理解し、
		10週	多読速読演習			平易な物語を直読直解して中できる。初見の説明文の四択問題の正解を選べる。	C楽しみながら英文読書に集 D意味内容を素早く理解し、
		11週	Unit 12 Warni	ng: Sticky Dust!		英文を内容を理解しながら 形容詞と副詞について理解	う読むことがことができる。 解することができる。
	4thQ	12週	Unit 13 From	the Jungles of Mount Samkos	5	英文を内容を理解しながら 関係代名詞の非制限用法に る。	ら読むことがことができる。 こついて理解することができ
		13週	多読速読演習				て楽しみながら英文読書に集 D意味内容を素早く理解し、
		14週	多読速読演習 Unit 14 The B	irth of an Ocean		英文を内容を理解しながら 現在完了進行形について理	ら読むことがことができる。 里解することができる。
		15週	Unit 15 A Hea	rt That Doesn't Beat		英文を内容を理解しながら過去完了形について理解す	ら読むことがことができる。 することができる。
		16週	後期定期試験				
評価割合	<u> </u>		1				
			定期試験	到達度試験	名	各種テスト・課題提出物・ 予習状況など	合計
総合評価書			30	30		0	100
基礎的能力	<u></u>		30	30	4	.0	100

科目目記録 10053 1015分 105	苫小:		等専門学	校 開講年度 令和04年度	 (2022年度)	授業科目	
### 1							
数報	科目番号		0053		科目区分	一般 / 必修	\$
	授業形態		授業				
製料書)対対	開設学科		創造工	学科(一般科目)	対象学年	3	
選問 (開設期		通年		週時間数	2	
到連目標 一般的な文文の資を日本性で説明できる。 一般的な文文の対解や聴動だらき。 一般的な文文の対解や聴動だらき。 一般的な文文の対解や聴動だらき。 一般的な文文の対解や聴動だらき。 一般的な文文の対解や聴動だらき。 一般的な文文の対解や聴動だらき。 一般的な文文の対解や聴動だらき。 一般的な文文の対解や更動だら、できまってECICだおいて400点以上の原何が可能となる基礎力を確認できる。 一般的な文文の対解や更新だら、「競子文法 「一般的な文文の対解を日本体で、 一般的な文文の対解を日本なで、 一般的な文文の対解を日本なで、 一般的な文文の対解や聴動が正常 「一般的な文文の対解や聴力できる。」 一般的な文文の対解や聴動が正常 「一般的な文文の対解や聴動が正常 「一般的な文文の対解や聴動が正常 「一般的な文文の対解や聴動が正常 」 「一般的な文文の対解や聴動が正常 「一般的な文文の対解や聴動が正常 」 「一般的な文文の声を対象活解や聴力 」 「一般的な文文の対解や聴動が正常 」 「一般的な文文の声を地域ができる。」 「一般的な文文の声を地域ができる。」 「一般的な文文の声を地域ができない」 「一般的な文文の声を地域ができない」 「一般的な文文の声を地域ができない」 「一般的な文文の声を地域ができない」 「一般的な文文の声を地を関するない」 「一般的な文文の声を地を関するない」 「一般的な文文の声を地を関するない」 「一般的な文文の声を地をできない」 「一般的な文文の声を地を地域ができる。」 「一般的な文文の声を地をできない」 「一般的な文文の声を地を表現力を確認 」 「一般的な文文の声を表现 「一般的な文文の声をを知る。」 「一般的な文文の声を知る。」 「一般的な文文の声を表现 「一般的な文文 「一般的な文文の声を表现 「一般的な文文 「一般的な文文文 「一般的な文文文 「一般的な文文文 「一般的な文文文文》 「一般的な文文文》 「一般的な文文文文》 「一般的な文文文文》 「一般的な文文文》 「一般的な文文文文》 「一般的な文文文文》 「一般的な文文文文》 「一般的な文文文》 「一般的な文文文》 「一般的な文文文》 「一般的な文文文》 「一般的な文文文》 「一般的な文文文》 「一般的な文文文》 「一般的な文文文》 「一般的な文文文》 「一般的文文文文》 「一般的文文文文》 「一般的文文文文》 「一般的文文文文》 「一般的文文文文》 「一般的文文文文文文》 「一般的文文文文文文》 「一般的文文文文》 「一般的文文文文文文文文文文文》 「一般的文文文文文文文文文文文文文文文文文文文文文文文文文文文》 「一般的文文文文文文文文文文文文文文文文文文文文》 「一般的文文文文文文文文文文文文文文文文文文文文文文文文文文文文文文文文文文文文	教科書/教	数材	教科書 語」(:高山芳樹「TOEIC Bridge: Training 大修館),「TOEIC Bidge 公式ガイド	j Tips」(南雲堂) ブック」国際ビジネ	/参考図書 : 中邑光 スコミュニケーショ	出男、他(編集)「ジーニアス総合英 ヨン協会
1 一般的は英文の向電を目共享で観覚できる。 2 ・機等のは美で大変・特別できる。 3 ・機等のは美文の活剤や機関ができる。 3 ・機等のは美文の活剤や機関ができる。 3 ・機等のは美文の活剤や機関ができる。 4 ・機能的な単元によって、発酵で世後するTOEICにおいて400点以上の取得が可能となる基礎力を確認できる。 ループリック 理想的な製造し、シャンの活剤や機関ができる。 4 ・機能的な関連し、シャンの事を目本語では 明にきる。 一般的は英文の内容を日本語で就 明にきる。 一般的は英文の内容を日本語で就 明にきる。 一般的は英文の内容を日本語で就 明にきる。 一般的は英文の内容を日本語で就 明にきる。 一般のは英文の内容を日本語で就 原本のより 開いてきる。 一般のは英文の政内容を日本語で就 呼できない 一般の東文の法別で地解が加速 一般の東文の法別で地解が加速 一般の東文の法別で地解が加速 一般の東文の法別で地解が加速 一般の東文の法別で地解が加速 一般の東文の大学・中央の学習にたいわいて400点以上の服务が可能となる基礎力を確 とって、第4章を計 世界の学習にないおいて400点以上の服务でほどにおいて400点以上の服务では形で地形が上できる。 一般の東文の法別で地形が加速 との服务で目指する基礎力を確認 できる。 「「経験力」「支援力」「支援力」「表現力を保証できる。 「日本の本文学社」 大郎性 美術者 50年に「おいて400点以上の服务でまた」」 人間性 実施者 50年に「おいて400点以上の服务するだめにこおいて400点以上の服务するだめにとおいまない。 第5年 1 日間では 実施者 50年に「おいて400点」」 大郎性 三 国間では 実施者 50年に「おいて400点」」 大郎性 三 国間では 実施者 50年に「おいて400点」」 大郎性 20年の東京教育と対しておいて400点以上の服务で表別であるとの表別ではまる。 「日本の本文学社会の機能力をプレイスのよりではないまない。」 「英雄の地がないまないまない。」 「日本の本文学社会の場別ではまないまない。」 「日本の本文学社会の場別ではまないまない。」 「日本の本文学社会の場別ではまないまない。」 「日本の本文学社会の場別ではまないまない。」 「日本の本文学社会の場別を表別ではまないまない。」 「日本の本文学社会の場別を表別ではまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないま	担当教員		松田 奏	秦保			
2. 標準的は単純や検文、語語・文法を理解できる。 3. 一般的な英文の解神や解析ができる。 1. 一切リック	到達目標	標					
理理的と到達しペリルの目室(目)	2. 標準 3. 一般 4. 継続	的な単語や 的な英文の 的な学習に)構文、語法)読解や聴解	・文法を理解できる。 ができる。	点以上の取得が可能	となる基礎力を確認	ごできる 。
一般的以東文の内容を日本語で正	ルーフ	リック					
神画項目2 種に設明できる。 朝できる。 朝できる。 朝できる。 野田画目2 種産的な単語が構み、語法・文法 型車のはに建解できる。 野田画目3 無差のな単語が構み、語法・文法 の基本を理解できる。 一般的な英文の語が中地解ができる。 一般の記述とを取得するためにも必要な基地の定義を目指す。 「ファスカー」に対しています。 「大田 大田 大				` '	- 		
一般的以及文の誘線や聴線が正確 にできる。 一般的以及文の誘線や聴線が正確 にできる。 一般的以及文の誘線や聴線が正確 にできる。 一般的以及文の誘線や聴線ができ 物ができる。 一般的以及文の誘線や聴線ができ 物ができる。 一般的以及文の誘線や聴線ができ 物ができる。 一般的以及文の誘線や聴線ができ 物ができる。 一般的以及文の誘線や聴線ができ 物ができる。 一般的のより内能となる最後力を伸 を終するTOEICにおいて400点以上の収得内可能となる最後力を伸 にできる。 学科の到達目標項目との関係 1 人間性 実践性 国国際性 教育方とに必要な基態力の定義を目指す。 「経典力」「文法力」「無視力」「聴解力」を総合的に森成し、第4学年で受験するTOEICにおいて400点以上の収得と目前はる基礎力を伸 できない。 学科の到達目標項目との関係 1 人間性 実践性 国国際性 教育方と対し必要な基態力の定義を目指す。 「おらし、上を収得するために必要な基態力の定義を目指す。 「投票力」「文法力」「無視し必要な基態力の定義を目指す。 「大価様な必認対性治療験を関係する。・学業成場がののよりに対して自我が表もいるの場かでは必要な多ためのプリント海温等をプリントを高きを入りたがある。この場合、学年に1回悪地一類刺激のが構造で深めるためのブリント海温等を入り入して自我体を実施する場合がある。この場合、学年に1回悪地一類刺激の影響に対理を深めためのブリント海温等を入り入して自我体を実施する場合がある。この場合、学年に1回悪地一類刺激の影響に対理を取るしたがクリントを関係する。学表の場合のに対して自我体を実施する場合がある。この場合、学年に1回悪地一類刺激の影響に関わられて、学報が必要が表すらの表末湯からのようで見入て再評価を行う。 1) 英語力の様と呼んの表に実現が整定との場合である。 は一次の場から表別による規則 関連を関し、日本制の語彙問題に対しまれて 「対して利用」 国 漫画的がらトとックの理样ができる。英文を誘解し質問に答え タリの UNIT1 自一品詞の語彙問題(熱詞) 動語の意味と語法を理解し、同一品詞の語彙問題に答えられる。 現を修御し、文を関する。 文を使得し、文格語かられる。 現を修御・文を関する。 文をと誘解し質問に答えられる。 別 UNIT4 によい観音を以入判断(1) 語句から状況の推測ができる。英文をと誘解し質問に答えられる。 別 UNIT5 人物の動作表現/スキャーング(1) と場面で感覚にある。ことを得り、文を向しまれに影響、と高力の意味を覚え、同一品詞の語彙問題に答えられる。 はいいでは多ないの意味を覚え、同一品詞の語彙問題に答えられる。 はいいでは多ないの意味を覚え、同一品詞の語彙問題に答えられる。 はいいでは多ないの意味を覚え、同一品詞の語彙問題に答えられる。	評価項目	1				内容を日本語で説	
	評価項目	2		標準的な単語や構文、語法・文法 を正確に理解できる。	標準的な単語や の基本を理解で	構文、語法・文法 きる。	標準的な単語や構文、語法・文法 を理解できない。
課題のは学習によって、第4学年で製造する「DEICにおいて400点以上の取得を目指せる最適力を構設として10取得を目指せる基礎力を構設として10取得を目指せる基礎力を構設として10取得を目指せる基礎力を構設としてきる。 学科の型1連目標項目との関係	評価項目	3				基本的な読解や聴	
学科の到達目標項目との関係 I 人間性 II 実践性 III 国際性 教育方法等 概要	評価項目	4		継続的な学習によって,第4学年 受験するTOEICにおいて400点以 上の取得が可能となる基礎力を確	で 継続的な学習に 受験するTOEIC 上の取得を目指	において400点以	継続的な学習によって,第4学年で受験するTOEICにおいて400点以上の取得を目指せる基礎力を確認
	 学科の3	到達日標	項目との	<u> </u>	•		•
概要 「語彙力」「法論力」「誘線力」「聴解力」を総合的に音成し、第4学年で受験するTOEICテストにおいて、スコア 400点以上を取得するために必要な基礎力の定着を目指す。	I 人間	間性 践性	- <u>X</u>	NATION .			
概要 「語彙力」「法論力」「誘線力」「聴解力」を総合的に音成し、第4学年で受験するTOEICテストにおいて、スコア 400点以上を取得するために必要な基礎力の定着を目指す。	教育方法	 法等					
400点以上を取得するために必要な基礎力の定着を目指す。		-	「語彙	力」「文法力」「読解力」「聴解力」	を総合的に養成し、	第4学年で受験する	TOEICテストにおいて、スコア
□ アクティブラーニング □ ICT 利用 □ 遠隔授業対応 □ 実務経験のある教員による授助 □ アクティブラーニング □ ICT 利用 □ 遠隔授業対応 □ 実務経験のある教員による授助 □ 関連 □ UNIT1 身の回りの物・場所の名称 □ 身の回りの物や場所の名称を音声で認識できる。 □ UNIT1 同一品詞の語彙問題(動詞) □ 動詞の意味と語法を理解し、同一品詞の語彙問題に答えられる。 □ UNIT2 wh疑問文への応答 □ UNIT3 語句からの状況判断(1) □ ISI □ UNIT3 語句からの状況判断(1) □ ISI □ UNIT3 派生語(動詞・形容詞・名詞) □ ISI □ UNIT3 派生語(動詞・形容詞・名詞) □ ISI □ UNIT4 yes/no疑問文への応答 □ Yes/no疑問文への応答 □ UNIT5 人物の動作表現/スキャニング(1) □ ISI □ UNIT5 人物の動作表現/スキャニング(1) □ ISI □ UNIT6 正しい語形の選択(動詞) □ UNIT6 回しい語形の選択(動詞) □ UNIT6 正しい語形の選択(動詞) □ ISI □ UNIT7 選択・付加疑問文への応答 □ ISI □ UNIT7 選択・付加疑問文への応答 □ ISI □ UNIT7 選択・付加疑問文への応答 □ ISI □ UNIT7 □ ISI □ UNIT8 □ ISI □ UN	注意点		1) 英語 2) 積板	吾力の維持・向上のため、主体的な学習 亟的な姿勢で問題演習に取り組むこと。	習を継続すること。	験の成績に置き換え	工再評価を行う。
授業計画	授業の	属性・履	修上の区	分			
週週 授業内容 週ごとの到達目標 1週 UNIT1 身の回りの物・場所の名称 身の回りの物や場所の名称を音声で認識できる。 2週 UNIT1 同一品詞の語彙問題 (動詞) 動詞の意味と語法を理解し、同一品詞の語彙問題に答 3週 UNIT2 wh疑問文への応答 如外疑問文に応答できる 語句からトピックの類推ができる。英文を読解し質問に答えられる。 15週 UNIT3 語句からの状況判断 (1) 語句から状況の推測ができる。英文を聞き質問に答え 5週 UNIT3 派生語 (動詞・形容詞・名詞) 振生語 (動詞・形容詞・名詞) を修得し、文構造から 近以に記詞を選ぶことができる。 10週 UNIT4 にの疑問文への応答 20以 10週 UNIT5 人物の動作表現/スキャニング (1) 表場の記述を得する。 スキャニングで英文から必要な情報を探し、質問に答えられる。 10週 UNIT6 会話表現からの状況判断 (1) 名場面で頻繁に使われる表現を修得し、英文を聞き質問に答えられる。 11週 UNIT6 正しい語形の選択 (動詞) 文脈から適切な時制や態を理解し、正しい語形の選択 (動詞) 2mから適切な時制や態を理解し、正しい語形の選択 (動詞) 2mから適切な時制や態を理解し、正とい語形の選択 (動詞) 2mから適切な時制や態を理解し、正とい語形の選択 (動詞) 2mから適切な時制や態を理解し、正とい語形の選択 (動詞) 2mから適切な時制や態を理解し、正とい語形の選択 (動詞) 2mから適切な時間や態を理解し、変文を聞き取り、質問に答えられる。 2mの話彙問題に答えられる。 2mの記述過せる。 2mの記述者の、 2mの記述者の、 2mの記述者の、 2mの記述者の、 2mの記述者の、 2mの記述者の、 2mの記述者の、 2mの記述者の、	□ アクラ	ティブラー	ニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	ប់	□ 実務経験のある教員による授業
週週 授業内容 週ごとの到達目標 1週 UNIT1 身の回りの物・場所の名称 身の回りの物や場所の名称を音声で認識できる。 2週 UNIT1 同一品詞の語彙問題 (動詞) 動詞の意味と語法を理解し、同一品詞の語彙問題に答 3週 UNIT2 wh疑問文への応答 如外疑問文に応答できる 語句からトピックの類推ができる。英文を読解し質問に答えられる。 15週 UNIT3 語句からの状況判断 (1) 語句から状況の推測ができる。英文を聞き質問に答え 5週 UNIT3 派生語 (動詞・形容詞・名詞) 振生語 (動詞・形容詞・名詞) を修得し、文構造から 近以に記詞を選ぶことができる。 10週 UNIT4 にの疑問文への応答 20以 10週 UNIT5 人物の動作表現/スキャニング (1) 表場の記述を得する。 スキャニングで英文から必要な情報を探し、質問に答えられる。 10週 UNIT6 会話表現からの状況判断 (1) 名場面で頻繁に使われる表現を修得し、英文を聞き質問に答えられる。 11週 UNIT6 正しい語形の選択 (動詞) 文脈から適切な時制や態を理解し、正しい語形の選択 (動詞) 2mから適切な時制や態を理解し、正しい語形の選択 (動詞) 2mから適切な時制や態を理解し、正とい語形の選択 (動詞) 2mから適切な時制や態を理解し、正とい語形の選択 (動詞) 2mから適切な時制や態を理解し、正とい語形の選択 (動詞) 2mから適切な時制や態を理解し、正とい語形の選択 (動詞) 2mから適切な時間や態を理解し、変文を聞き取り、質問に答えられる。 2mの話彙問題に答えられる。 2mの記述過せる。 2mの記述者の、 2mの記述者の、 2mの記述者の、 2mの記述者の、 2mの記述者の、 2mの記述者の、 2mの記述者の、 2mの記述者の、							
1週	授業計	画					
2週 UNIT1 同一品詞の語彙問題 (動詞) 表られる。 3週 UNIT2 wh疑問文への応答			週	授業内容		週ごとの到達目標	
1stQ			1週	UNIT1 身の回りの物・場所の名称		身の回りの物や場	所の名称を音声で認識できる。
1stQ			2调	 UNIT1 同一品詞の語彙問題(動詞)			を理解し、同一品詞の語彙問題に答
1stQ							
1stQ			3週	UNITZ WN錠向又への心合			
1stQ 5週 UNIT3 語句からの状況判断 (1) 語句から状況の推測ができる。英文を聞き質問に答えられる。 6週 UNIT3 派生語 (動詞・形容詞・名詞) を修得し、文構造から 派生語 (動詞・形容詞・名詞)を修得し、文構造から 近しい品詞を選ぶことができる。 10週 UNIT4 yes/no疑問文への応答 yes/ no疑問文に適切に応答できる。			4週	UNIT2 トピックの類推			の類推ができる。央人を読胜し負向
1月 1月 1月 1月 1月 1月 1月 1月		1stQ	5週	UNIT3 語句からの状況判断(1)		語句から状況の推	測ができる。英文を聞き質問に答え
7週 UNIT4 yes/no疑問文への応答 yes/ no疑問文に適切に応答できる。 8週 UNIT4 同一品詞の語彙問題(名詞)			6週	UNIT3 派生語(動詞・形容詞・名詞	司)	派生語(動詞・形正しい品詞を選ぶ	
10週 UNIT6 会話表現からの状況判断 (1)			7週	UNIT4 yes/no疑問文への応答			
前期			8週	UNIT4 同一品詞の語彙問題(名詞)		結びつく語句と共	に名詞の意味を覚え、同一品詞の語
2ndQ	前期		9週	UNIT5 人物の動作表現/スキャニン	ング (1)	様々な動作表現を スキャニングで英	
2ndQ UNIT6 正しい語形の選択(動詞) 文脈から適切な時制や態を理解し、正しい語形の選択問題(動詞)に答えられる。 12週 UNIT7 選択・付加疑問文への応答 選択・付加疑問文に適切に応答できる。 13週 UNIT7 同一品詞の語彙問題(形容詞・副詞) 修飾する語句と共に形容詞・副詞の意味を覚え、同一品詞の語彙問題に答えられる。 14週 UNIT8 日時・数量の聞き取り 英文の中の日時・数量を聞き取り、質問に答えられる。 15週 UNIT8 スキミング(1) スキミングで英文の概要や要点を把握し、質問に答え			10週	UNIT6 会話表現からの状況判断(1	.)	各場面で頻繁に使	われる表現を修得し、英文を聞き質
2ndQ 12週 UNIT7 選択・付加疑問文への応答 選択・付加疑問文に適切に応答できる。 13週 UNIT7 同一品詞の語彙問題(形容詞・副詞) 修飾する語句と共に形容詞・副詞の意味を覚え、同一品詞の語彙問題に答えられる。 英文の中の日時・数量を聞き取り、質問に答えられる。 英文の中の日時・数量を聞き取り、質問に答えられる。 スキミングで英文の概要や要点を把握し、質問に答え			11週	UNIT6 正しい語形の選択(動詞)		文脈から適切な時	
13週 UNIT7 同一品詞の語彙問題(形容詞・副詞)		2ndQ	12调	UNIT7 選択・付加疑問文への応答			
14週 UNIT8 日時・数量の聞き取り 英文の中の日時・数量を聞き取り、質問に答えられる。 15週 UNIT8 フォミング (1) スキミングで英文の概要や要点を把握し、質問に答え					司・副詞)	修飾する語句と共	に形容詞・副詞の意味を覚え、同一
			14週	UNIT8 日時・数量の聞き取り			
1 140/2 101410711 777 147			15週	UNIT8 スキミング (1)		。 スキミングで英文 られる。	

		16週	前期定期試験		既習事項を整理できる。	
		1週	UNIT9 人物や物の状態	表現	状態を表す形容詞を覚え、 識できる。	人物や物の状態を音声で認
		2週	UNIT9 正しい語形の選	択(形容詞・副詞)	形容詞と副詞の用法を修行 に答えられる。	导し、正しい語形の選択問題
		3週	UNIT10 発言に対するE	自然な応答	英文を聞き発言内容や意思	図を理解し、適切な応答がで
3	BrdO	4週	UNIT10 同一品詞の語彙	ᡎ問題(前置詞)	前置詞の意味と用法を修行 答えられる。	导し、同一品詞の語彙問題に
		5週	UNIT11 語句からの状況 状況判断 (2)	兄判断(2)・会話表現からの	英文を聞き語句や会話表現答えられる。	見から状況を推測し、質問に
		6週	UNIT11 英語の語順での	の読解	英語の語順での読解ができ られる。	きる。英文を読み質問に答え
		7週	UNIT12 否定疑問文に	対する応答(1)	否定疑問文を聞き、適切が	ふ応答ができる。
		8週	UNIT12 正しい語形の)	選択(不定詞・動名詞・分詞)	不定詞・動名詞・分詞の原 選択問題に答えられる。	用法を修得し、正しい語形の
後期		9週	UNIT12 正しい語形の)	選択(不定詞・動名詞・分詞)	不定詞・動名詞・分詞の原 選択問題に答えられる。	用法を修得し、正しい語形の
		10週	UNIT13 位置関係を表す	す表現/スキャニング(2)	声で認識できる。	导し、人や物の位置関係を音 必要な情報を探し、質問に答
		11週	UNIT14 英語の語順での	の聴解	英語の語順での聴解ができ られる。	きる。英文を聞き質問に答え
4	łthQ	12週	UNIT14 同一品詞の語 詞)	ᡎ問題(疑問詞・関係詞・接続	疑問詞・関係詞・接続詞の 語彙問題に答えられる。	の用法を修得し、同一品詞の
		13週	UNIT14 同一品詞の語 詞)	ᡎ問題(疑問詞・関係詞・接続	疑問詞・関係詞・接続詞の 語彙問題に答えられる。	の用法を修得し、同一品詞の
		14週	UNIT15 否定疑問文に	対する応答(2)	否定疑問文を聞き、適切が	ふ応答ができる。
		15週	UNIT15 スキミング(2	2)	スキミングで英文の概要 ^も られる。	や要点を把握し、質問に答え
	-	16週	後期定期試験		既習事項を整理できる。	
評価割合						
			定期試験	演習	課題等	合計
総合評価割合	<u> </u>		60	20	20	100
基礎的能力			60	20	20	100
専門的能力			0	0	0	0

<u> </u>	牧工業高額	等専門学校	開講年度		2022年度)	授業科	4目 14	英語ⅢA(都市・	環境系)
<u>日子</u> 科目基礎		ען ננוניני	1/1007 1/3	13-110 1 1 12 (2022 1/2)		<u> </u>	(HP)	יאריטטארי
4日番号	~11.7TA	0054			科目区分	— _А	 g / 必修		
受業形態		授業			単位の種別と単位		<u>x / 30 15</u> 8単位: 3		
記学科			——————————— 科(一般科目)		対象学年	3			
]][]]] 設期		通年	11 (3211-7		週時間数		月:2 後期]:4	
対書/教	材		Science for Everyo 各種プリント	ne[金星堂]/夏	更期課題:Rabbit-F] /リーディン
当教員		堀 登代彦							
引達目標	 票								
 L . 英検準 2 . 平易な	集2級〜2系 は英文を迅 改材の読解を	級レベルの語 速かつ大量に を通して、海	彙・文法・文構造を 読んで、その内容を 外の様々な事情や問	理解しながら、英 日本語で説明でき 題を知ることがて	文内容を正確に読 る。 ごきる。	み取れる。			
<u> </u>	797		理想的な到達レイ	日安	標準的な到達レ/	 バルの日安		未到達レベルの目室	7
			英検準2級~2約		英検準2級~2約		五急 .	英検準2級~2級し	
F価項目1	<u> </u>		英候等と級〜と報 文法・文構造を理 般的な英文内容を る。	軽解しながら、一	文 文法・文構造を理 本的な英文内容を る。	里解しながら	う、基	文様学と級ペと級に 文法・文構造を理解 本的な英文内容を』 れない。	昇しながら、基
平価項目2	2		一般的な英文を達 んで、その内容を きる。	弘速かつ大量に読 日本語で説明で	平易な英文を迅速で、その内容をEる。	速かつ大量に 日本語で説明	こ読ん 月でき	平易な英文を迅速だでも、その内容をE きない。	
平価項目3	3		英文教材の読解を よび海外の諸事情 知ることが出来る	青や諸問題を深く	英文教材の読解を よび海外の諸事情を知ることが出来	を通して、国 青や諸問題 <i>の</i>	国内お	英文教材の読解を通 および海外の諸事情 要を知ることが出来	青や諸問題の概
学科の至]達目標功	頁目との関	•						
I 人間 Ⅱ 実践 Ⅲ 国際	引性 美性								
<u>一一点的</u> 效育方法									
既要		2本立て る。	使って語彙や文構造を使って大量の平易で行なう。また教科	が難しめの英文を な英文を直読直解 書授業では、文法	分析的に理解する。 で迅速に理解する。 や英作文の演習問	精読授業(] 多読・速読 題を数多く。	intensiv 受業(E こなすこ	re Reading)と、英 xtensive and Rapid とにより、英語基礎	文副読本や配る I Reading)の を力の充実を図
				:+ (C 0° ->"	ハールト) た 話:	皇1左=刃 巨っ	ታ≣±ሐፖ	サナ東西の知識 +	> トラギ8日8日で宝习习
受業の進む	め方・方法	順に進め	の精読授業】 各Ui ていく。各Unit 終了 等の多読速読授業】 録を記入する。教室	~後に小テストを 図書館授業では	€施する。 は、各自が選んだ英∑	文副読本を	自分のへ	文法事項の解説、お ースで読み、「読書 設問に答えて理解度	記録手帳」に
	か方・方法	順【感 性読や 対書副。見成だ再 が表に、 である。 が表に、 である。 である。 である。 では、 である。 では、 でもい。 では、 でもい。 では、 でもい。 では、 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 では、 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 では、 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。	でいく。各Unit 終行等の多読速読授業】 名いの多読速 を記入 で 表述 で 表述 を おいま で まま かった で まま かった で まま かった で まま かった で まま で で まま で で まま で で まま で で まま いった	後に小きにでをはるでをはるでをはるでででではではではではででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででで<l>でででででででででででででででででででででででででで</l>	に、各自が選んだ英語、各自が選んだ英語、大きなでは、「Reading 文文を記念」である。 「の英文で記念がいる。」では、「大きなのでは、「大きない」では、「大きない」では、「大きない」では、「大きない」では、「大きない」では、「大きない」が、その他(さきない)が、大きない。「大きない」では、「ない」では、「大きない」では、「ない、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない、「ない」では、「ない、「ない、「ない、」では、「ない、」では、「ない、「ない、」では、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、」では、「ない、「ない、」では、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、」では、「ない、「ない、」では、「ない、「ない、」では、「ない、「ない、」では、「ない、「ない、」では、「ない、「ない、「ない、」では、「ない、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、「ないい、」では、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、「ないい、」では、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、「ない、」では、いい、	文副読本を 迅速に直読i the Article 語彙の習得 ベルに合っ ず英語のま 理解するこ	自 分 の の の い の い の い の い い い に ま に ま に ま に に ま に に に に に に に に に に に に に	・クリスで読み、「読書設問に答えて理解度・復習が最も重要でこと。 を選んで英文読書を るのがポイント。教	記録手帳」にまた確認する。 ある。予習では を楽しんでほし 文室授業では、
注意点		順【感 【辞【い初 ※た ※武験の本記 書引本富英 評定験成	でいく。各Unit 終了等の多読速読授業】 等の多読速読授業】 の精読授業】 で特別ででいる。 の精読が多読を記入ででいる。 の特別でではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、の	後に小きにでをはるでをはるでをはるでででではではではではででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででで<l>でででででででででででででででででででででででででで</l>	に、各自が選んだ英語、各自が選んだ英語、大きなでは、「Reading 文文を記念」である。 は、各自が選んだ英語の英文を記念が、「Reading というののでは、「では日本語では、「では、これでは、これでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	文副読本を 迅速に直読i the Article 語彙の習得 ベルに合っ ず英語のま 理解するこ	自 分 の の の い の い の い の い い い に ま に ま に ま に に ま に に に に に に に に に に に に に	・クリスで読み、「読書設問に答えて理解度・復習が最も重要でこと。 を選んで英文読書を るのがポイント。教	記録手帳」にまた確認する。 ある。予習では を楽しんでほし 文室授業では、
E意点 受業の属	属性・履何	順【感 【辞書副。見 成だ再験 区 上の と かんこ と かん	ていく。各Unit 終了 等の多読速読授業】 録を記入する。教 の精読授業】 各Uri きなが多読速読を記入ででいる。 等の多読を可とでいる。 等の多読を可している。 等の多読を可している。 等の多読を可している。 等のをはいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。	後に小きにでをはるでをはるでをはるでででではではではではででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででで<l>でででででででででででででででででででででででででで</l>	に、各自が選んだ英語、各自が選んだ英語、大きなでは、「Reading 文文を記念」である。 は、各自が選んだ英語の英文を記念が、「Reading というののでは、「では日本語では、「では、これでは、これでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	文副 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	自 分 の の の い の い の い の い い い に ま に ま に ま に に ま に に に に に に に に に に に に に	・復習が最も重要で・復習が最も重要でこと。 ・を選んで英文読書をるのがポイント。教 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	記録手帳」に を確認する。 ある。予習でに 楽しんでほし 文室授業では、 合で評価する。 別試験と到達度
意点		順【感 【辞書副。見 成だ再験 区 上の と かんこ と かん	でいく。各Unit 終了等の多読速読授業】 等の多読速読授業】 の精読授業】 で特別ででいる。 の精読が多読を記入ででいる。 の特別でではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 の特別ではいる。 のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、の	後に小きにでをはるでをはるでをはるでででではではではではででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででで<l>でででででででででででででででででででででででででで</l>	に施する。 は、各自が選んだ英語、 は、各自が選んだ英語の英文(Reading は、自分の音語・筆写という。 ではは日本語順のままでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 をはいるでは、 ではないるでは、 ではないるでは、 ではないるでは、 ではないるではないるではないるではないるではないるではないるではないるではないる	文副 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	自 分 の の の い の い の い の い い い に ま に ま に ま に に ま に に に に に に に に に に に に に	・クリスで読み、「読書設問に答えて理解度・復習が最も重要でこと。 を選んで英文読書を るのがポイント。教	記録手帳」に を確認する。 ある。予習でに 楽しんでほし 文室授業では、 合で評価する。 別試験と到達度
・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	<u> </u>	順【感 【辞書副。見 成だ再験 区 上の と かんこ と かん	ていく。各Unit 終了 等の多読速読授業】 録を記入する。教 の精読授業】 各Uri きなが多読速読を記入ででいる。 等の多読を可とでいる。 等の多読を可している。 等の多読を可している。 等の多読を可している。 等のをはいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。	後に小きにでをはるでをはるでをはるでででではではではではででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででで<l>でででででででででででででででででででででででででで</l>	に施する。 は、各自が選んだ英語、 は、各自が選んだ英語の英文(Reading は、自分の音語・筆写という。 ではは日本語順のままでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 をはいるでは、 ではないるでは、 ではないるでは、 ではないるでは、 ではないるではないるではないるではないるではないるではないるではないるではないる	文副 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	自 分 の の の い の い の い の い い い に ま に ま に ま に に ま に に に に に に に に に に に に に	・復習が最も重要で・復習が最も重要でこと。 ・を選んで英文読書をるのがポイント。教 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	記録手帳」に を確認する。 ある。予習でに と楽しんでほし 文室授業では、 合で評価する。 別試験と到達度
- 意点 受 業 の原 アクテ	<u> </u>	順【感 【辞【い初 ※た※試 の と	ていく。各Unit 終了 等の多読速読授業】 録を記入する。教 の精読授業】 各Uri きなが多読速読を記入ででいる。 等の多読を可とでいる。 等の多読を可している。 等の多読を可している。 等の多読を可している。 等のをはいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。	後に小きにでをはるでをはるでをはるでででではではではではででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででででで<l>でででででででででででででででででででででででででで</l>	に、各自が選んだ英語の英文(Reading 文の英音語・好の表別の英文(Reading 文の英語・分の表別の表別を表別を表別の表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表	文副 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	自直))ことまと 題後の のし 予め読解大 予12合 の人、 習る本す切 習と、	・復習が最も重要で・復習が最も重要でこと。 ・を選んで英文読書をるのがポイント。教 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	記録手帳」に を確認する。 ある。予習でに と楽しんでほし 文室授業では、 合で評価する。 別試験と到達度
意点 受 業 の原 アクテ	<u> </u>	順【感 【辞【い初 ※た無談 区 分 ※ 注 の ※ 注	ていく。各Unit 終了等級を記入する。 ・	ででは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	に、各自が選んだ英語の英文(Reading 文の英音語・好の表別の英文(Reading 文の英語・分の表別の表別を表別を表別の表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表	文記 記 記 記 the Article Article Article 第 の の の の の の の の の の の の の	自直 のでは の	・一人で読み、「読書 設問に答えて理解度 ・復習が最も重要で ・を選んで英文読書を るのがポイント。 割 はまる。 ・電試験の成績は定期 □ 実務経験のある	記録手帳」に を確認する。 ある。予習では と楽しんではし、 文室授業では、 合で評価する。 自試験と到達度 教員による授
t意点 受業の原] アクテ	<u> </u>	順【感 想 教を記 と 教を記 と 教を記 と 教を読 と の 様し試の 区 と かんだ 再験 区 と かん	ていく。各Unit 終了等の名表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表	7後に小デストをでは、 では、	に、各自が選んだ英語の英文(Reading 文の英音語・好の表別の英文(Reading 文の英語・分の表別の表別を表別を表別の表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表	文迅 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	自直)) こたまと 題後の 達 を用 を	・復習が最も重要で ・復習が最も重要でこと。 ・を選んで英文読書を るのがポイント。割 は、3 40%の割合する。 再試験の成績は定期	記録手帳」に を確認する。 ある。予習でに 楽しんでほし、 全で評価する。 試験と到達度 教員による授
注意点 受 業 の属 〕 アクテ	<u> </u>	順【感 想 報	ていく。各Unit 終了 等の多読速読授業】 の多読速記入する。教室 の精読授業】 各Uri きなが多読を記入する。 を持たが多読をでででででいる。 でででででいる。 でででででいる。 でででででいる。 でででででいる。 でででではいる。 でででででいる。 でででではいる。 ででででいる。 ででででいる。 ででででいる。 でででできる。 でででできる。 でででできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 ででは、 ででできる。 ででは、 ででできる。 ででは、 ででできる。 ででは、 ででできる。 ででは、 ででは、 ででできる。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	7後に小デス でデス業で布さ ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 のででは、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 ののでで、 のので、 ので、	に、各自が選んだ英語の英文(Reading 文の英音語・好の表別の英文(Reading 文の英語・分の表別の表別を表別を表別の表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表	文迅 は は は は は は は は に に に に に に に に に に に に に	自直)) こたまと 題後の 達 を用 を用 をい 分解	・	記録手帳」に を確認する。 ある。予習では、 を変授業では、 合で評価する。 引試験と到達度 教員による授 なさきる。 ことがでる。 ことがでる。 ことができる。
・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	属性・履値 =ィブラー= ■	順【感 想 報	ていく。各Unit 終了等の多読速読授業】 「等の多読速読授業】 「の多読速読授業】 「の考えででである。 「ないるでででできるでは、できなが多読を記入する。 「ではないるでででできるでは、できるででででででででででででででででででででできます。 「「は、「は、「は、「は、「は、」」 「「は、「は、「は、」」 「「は、「は、」」 「「は、「は、」」 「「は、」」 「は、」 「は、、」 「は、、、、、、、、、、	で で で で で で で で で で で で で で	に、各自が選んだ英語の英文(Reading 文の英音語・好の表別の英文(Reading 文の英語・分の表別の表別を表別を表別の表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表	文迅 th語ペず理 テて施 週 英使 英使 英受 英受 副速 c Arti習合のる ・1 。	自直) のこたまと 題後の 達 を用 を用 をい をい 分解 の努副理が ・期場 目 理法 理法 理て 理て のし、 習る本すり 習と、 標 解に 解理 解理 (解) 解して 解理 解理 (解) かい きょう しょう かい きょう しょう かい きょう しょう かい きょう しょう しょう はんしょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう	・復習が最も重要でいるとといる。 ・復習が最も重要でいるととので、一次でででである。 ・でででは、ででででででできます。 ・でででででできませる。 ・ででででできませる。 ・でででできませる。 ・ででできませる。 ・ででできませる。 ・でできませる。 ・でできませる。 ・でできる。 ・でできる。 ・でできる。 ・でできる。 ・でできる。 ・でできる。 ・でできる。	記録手帳」に を確認する。 ある。予習では 楽しんでほし、 全で評価する。 記試験と到達度 教員による授 なさきる。 ことがでる。 ことがでる。 ことができる。
意点 受業の原 アクテ 受業計画	<u> </u>	順【感 想	TUNく。各Unit 終了等級を記入する。 等録を記入する。教室 の精読授業】 各Unit 終了 の精読授業】 各Unit 2 An End to Unit 2 An End to Unit 3 Spiders in	で で で で で で で で で で で で で で	に施する。 は、各自が選んだ英語の英文(Reading では、人名)の英文(Reading では、人名)の英文(Reading では、人名)の英文(Reading では、人名)の一般では、一般では、その他(名)を表している。 「は、その他(名)を表している。 「は、その他)を表している。 「は、その他)を表している。 「は、その他)を表している。 「は、その他)では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	文出 the artial control contro	自直)) こたまと 題後の 達 を用 を用 をい をい をい か の し 習る本す切 予と 標 解に 解に 解理	・復習が最も重要で ・復習が最も重要で ・復習が最も重要で ・を選んで英文 決議書を るのがポイント。 『はいで 英文 読書を るのがポイント。 『はいの の割れする。 『はいの の割れずる。 のはながら では、 「本の では、 「本の では、 「本の では、 「本の では、 「本の では、 「ないて 理解 を 「ない で は、 「ない で とき とき が こと きい で こと きい で 「ない ない で こと きい で こと きい で こと きい で 「ない ない で こと きい で こと をい で こと で こと をい で こと で こと をい で こ	記録手帳」に を確認する。 ある。予習でに 楽しんでほし、 全で評価する。 記試験と到達度 教員による授 なささでる。 こがことがでる。 ことができる。 ことができる。 ことができる。
送業の属 ファクテ 受業計画	属性・履値 =ィブラー= ■	順【感 と	ていく。各Unit 終了等の多読速読授業】 「等の多読速読授業】 「の多読速読授業】 「の多読速読度業】 「の考えがある。教室 「の精読授業】 「内書ながらまでです。 「大力では、一定のは、一定のは、一定のは、一定ののでは、では、一定のでは、では、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいで	後回書に小テストをでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	に施する。 は、各自が選んだ英語ない。 は、各自が選んだ英語ない。 はの英文(Reading を対象のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	文迅 th語ペず理 テて施 週 英使 英使 英受 英受 英接 英接副速 e 彙ル英解 ス前す ご 文役 文役 文動 文動 文続 文続 表直 Clayona ト1。 の 内詞 内詞 の 唇口 唇口 を 同 を 同 を 同 を 同 を 同 を 同 を 同 を 同 を 同 を	自直) のこたまと 題後の 達 を用 を用 をい をい をい をい をい のし、 習る本す切 習と、 標 解に 解に 解理	・復習が最も重要で ・復習が最も重要で ・復習が最も重要で ・を選がポイント。 『状況)40%の割合する。 『状況)40%の割合する。 のががら読むする。 「実務経験のある」 「実務経験のある」 「ながて理解することさい。 「ながで理解することさい。」 「ながることさい。」 「なするがここられていながらことさい。」 「なするがらことさい。」 「なするがらことさい。」 「なするがる。」 「なずることさる。 「なずることがる。」 「なずることさる。 「なずることがる。」 「なずることがる。」 「なずることさる。 「なずることがる。」 「なずることなる。	記録手帳」に を確認する。 ある。予習では、 次室授業では、 合で評価する。 試験と到達度 教員による授 なできる。 こがことがでる。 ことができる。 ことができる。 ことができる。 ことができる。 ことができる。 ことができる。
主意点 受業の属	属性・履値 =ィブラー= ■	順【感 と 対	ていく。各Unit 終了等の多読速読授業】 「等の多読速読授業】 「ないする。教室 の精読授業】 各Urit を表現である。教室 の精読授業】 各Urit を表現である。 「大学自恵・丁で大学を表現である。 「大学を表現である。 「は、ままままままままままままままままままままままままままままままままままま	ででは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	に、各自が選んだ英語の英文(Reading では、各自が選んだ英語の音分の本語順のままでは、このでは、その他(各種学のでは、では、その他のでは、では、その他のでは、では、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そので	文迅 性語代ず理 テて施 週 英使 英使 英受 英受 英接 英接 英語 中華 大田	自直) こたまと 題後の 達 を用 を用 をい を と	・復習が最も重要で ・復習が最も重要で ・復習が最も重要で ・復選がポイント。 『状況)40%の割合する。 『状況)40%の割合する。 『状況)40%の割合する。 ながて理解験のある 「実務経験のある」 「ないて呼ばれる。 「ないてがらこらときときがいる。 「なするがらこらことがいる。 「なするがらこうながらこうながらこうがころ。 」にないながらこうがころ。 」になるのがある。	記録手帳」に を確認する。 ある。予習では、 文字授業では、 合で評価する。 記試験と到達度 教員による授 かきるでる。 こでとがきる。 ことができる。 こととができる。 こととができる。 こととができる。 こととができる。
送業の属 ファクテ 受業計画	属性・履値 =ィブラー= ■	順【感	ていく。各Unit 終了等の多読速読授業】 「等の多読速読授業】 各Urit を記入する。教室 の精読授業】 各Urit を記述のきながある。 「一」 に対して を記述のでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	ででは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	に、各自が選んだ英語の英文(Reading では、各自が選んだ英語の音分の本語順のままでは、このでは、その他(各種学のでは、では、その他のでは、では、その他のでは、では、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そので	文迅 性語べず理 テて施 週 英使 英使 英受 英受 英接 英接 英動 英副速 自彙ル英解 ス前す ご文役 文役 文動 文動 文続 文続 文名 文志直 に習合のる ・1。 の 内詞 を動 を態 を態 を詞 を の 内詞 内包 内に 内に 内に 内に 内で	a	・復習が最も重要で ・復習が最も重要で ・復習が最も重要で ・復習が最も重要で を選がポイント ・を選がポイント ・のの割ける ・ででは、ででは、ででは、ででは、ででは、ででは、ででは、ででは、ででは、ででは	記録手帳」に を確認する。 ある。予習でし 次室授業でする。 試験と到達度 教員による授 ででるできる。 こができる。 こができる。 ことがでできる。 ことがでできる。 こととがでできる。 こととがでできる。 こととができる。 こととといる。 こととといる。 こととといる。 こととといる。 こととといる。 こととといる。 こととといる。 こととといる。 ことととといる。 こととといる。 こととといる。 こととといる。 ことととといる。 ことととといる。 こととといる。 ことととととととととととととととととととととととととととととととととととと
主意点 受業の原 」アクテ 受業計画	属性・履値 =ィブラー= ■	順【感	ていく。各Unit 終了等級を記入する。教室 の精読授業】 各Unit 終了の多読速読授業】 各Unit がら速速でを終める。 で一般をできながらいます。 で一般をできながらいます。 では、一般をできる。 では、一般をできる。 では、一般をできる。 では、一般をできる。 では、一般をできる。 では、 「「「「「「「「「「「「」」」」 「「「」」 「「」 「」 「「」 「「」 「「」 「「」 「「」 「「」 「「」 「「」 「」 「「」 「「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「「」 「」	ではいます。 「後回書では、配布されています。 「知書では、配布されています。 「知理解します。」 「知理解します。」 「知理解します。」 「知理解します。」 「知理解します。」 「知理解します。」 「知理解します。」 「記録をします。」 「記録をしませる。 「記録をします。」 「記述をします。」 「記述をします。」 「記述をします。」 「記述をします。」 「記述をします。」 「記述をします。」 「記述をします。」 「記述をします。」 「記述をしまする。」 「記述をしまするまする。」 「記述をしまするまする。」 「記述をしまするまする。」 「記述をしまするまする。」 「記述をしまするまする。」 「記述をしまするまする。」 「記述をしまするまするまする。」 「記述をしまするまするまするまするまするまするまするまするまするまするまするまするまするま	に、各自が選んだ英語の英文(Reading では、各自が選んだ英語の音分の本語順のままでは、このでは、その他(各種学のでは、では、その他のでは、では、その他のでは、では、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そので	文記 性語でず理 テて施 週 英使 英使 英受 英受 英接 英接 英動 英動 英副速 自彙ル英解 ス前す ご 文役 文役 文動 文動 文続 文名 文名 京志 に習合のる ・1。 とを動を動を動を態を態を誇を誇った詞を詞を詞を詞を記していて、内に、内に、内に、内に、内に、内に、内に、内に、内に、内に、内に、内に、内に、	自直) のこたまと 題後の 達 を用 を用 をい	・復習が最も重要ではとこときときときがる。ながる。からこときときときながのになるがあるがあるがあるがあるがあるがあるがあるがあるがあるがあるがあるがあるがある	記録手帳」にまた確認する。 ある。予習でに 決室授業 価 到達度 制試験と到達度 割試験と 引き。 きる。 さんできる。 さんできる。 さんがことがきできまる。 こことができまる。 こことができまた。 こことがいきまた。 こことがいきまた。 こことができまた。 こことがきまた。 こことがきまた。 こことがきまた。 こことがきまた。 こことができた。 こことがきまた。 こことがきまた。 こことができまた。 こことができまた。 こことができたいきまた。 こことができまた。 こことができまた。 こことができたいきまた。 こことができたいきたいできた。 こことができたいきたいきたいできた。 こことができたいできたいできたいできたいできたいできたいできたいできたいできたいできたい

		_	1			1	
		11週	Unit 6 Asteroid Spe	ecial Delivery			ら読むことがことができる。 ついて理解することができる
		12週	Unit 6 Asteroid Spe	ecial Delivery		英文を内容を理解しながら To不定詞の基本的用法に	ら読むことがことができる。 ついて理解することができる
		13週	Unit 7 "Dung Beetl	e" Car Powered by Poop		英文を内容を理解しながら 分詞ついて理解することが	ら読むことがことができる。 ができる。
		14週	Unit 7 "Dung Beetl	e" Car Powered by Poop		英文を内容を理解しながら 分詞ついて理解することが	ら読むことがことができる。 ができる。
		15週	夏期課題導入			夏期課題の物語の主要登場課題ワークシートへの取締動機付けが得られる。	易人物と粗筋が理解できる。 且みを通じて、英文読書への
		16週	前期定期試験				
		1週	夏期課題テスト 多読速読演習			平易な物語を直読直解して中できる。初見の説明文の四択問題の正解を選べる。	て楽しみながら英文読書に集 D意味内容を素早く理解し、
		2週	多読速読演習			平易な物語を直読直解して中できる。初見の説明文の四択問題の正解を選べる。	て楽しみながら英文読書に集 D意味内容を素早く理解し、
		3週	Unit 8 Robot Scien	tist		英文を内容を理解しながら 疑問詞+不定詞について理	ら読むことがことができる。 里解することができる。
	3rdO	4週	Unit 9 Skyscraper	Farms		英文を内容を理解しながら 仮定法について理解する	ら読むことがことができる。 ことができる。
	SidQ	5週	多読速読演習			平易な物語を直読直解して 中できる。初見の説明文の 四択問題の正解を選べる。	て楽しみながら英文読書に集 D意味内容を素早く理解し、
		6週	多読速読演習			平易な物語を直読直解して 中できる。初見の説明文の 四択問題の正解を選べる。	て楽しみながら英文読書に集 D意味内容を素早く理解し、
		7週	Unit 10 Thanks to	Your Twin Brother		英文を内容を理解しながら 比較について理解すること	ら読むことがことができる。 とができる。
後期		8週	Unit 11 Butterflies 後期到達度試験	Find a Cure		英文を内容を理解しながら 仮主語について理解するこ	う読むことがことができる。 ことができる。
		9週	多読速読演習			平易な物語を直読直解して中できる。初見の説明文の四択問題の正解を選べる。	C楽しみながら英文読書に集 D意味内容を素早く理解し、
		10週	多読速読演習			平易な物語を直読直解して 中できる。初見の説明文の 四択問題の正解を選べる。	て楽しみながら英文読書に集 D意味内容を素早く理解し、
		11週	Unit 12 Warning: 9	Sticky Dust!		英文を内容を理解しながら 形容詞と副詞について理解	ら読むことがことができる。 解することができる。
	4thQ	12週	Unit 13 From the J	ungles of Mount Samkos		英文を内容を理解しながら 関係代名詞の非制限用法に る。	ら読むことがことができる。 こついて理解することができ
		13週	多読速読演習				て楽しみながら英文読書に集 D意味内容を素早く理解し、
		14週	多読速読演習 Unit 14 The Birth o	of an Ocean		英文を内容を理解しながら 現在完了進行形について理	ら読むことがことができる。 里解することができる。
		15週	Unit 15 A Heart Th	at Doesn't Beat		英文を内容を理解しながら過去完了形について理解す	ら読むことがことができる。 することができる。
		16週	後期定期試験				
評価割合	<u> </u>						
			到達度試験(中間試験)	定期試験	名	ら種テスト・課題提出物・ 予習状況など	合計
総合評価割	割合		30	30		.0	100
基礎的能力	ל		30	30	4	0	100

	牧工業高	╗╗╗	校 開講年度 令和04年度	(2022年度)	授業科目	英語ⅢB(都市・環境系)
	礎情報			,		
科目番号	<u> </u>	0055		科目区分	一般 / 必修	<u> </u>
授業形態	į.	授業		単位の種別と単位	拉数 履修単位:	2
開設学科	ļ		学科(一般科目)	対象学年	3	
開設期		通年		週時間数	2	
教科書/教		語」(: 高山芳樹「TOEIC Bridge: Training 大修館),「TOEIC Bidge 公式ガイド	g Tips」(南雲堂)/ ブック」国際ビジネス	´参考図書 : 中邑光 〈コミュニケーショ	男、他(編集)「ジーニアス総合英 ン協会
担当教員		鈴木 修	<u> </u>			
到達目	標					
2. 標準 3. 一般 4. 継続	的な単語や 的な英文の 的な学習に	P構文、語法 対読解や聴解	語で説明できる。 ・文法を理解できる。 ができる。 4学年で受験するTOEICにおいて400。	点以上の取得が可能と	なる基礎力を確認	できる。
ルーブ	リック			I		Tarana a
			理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レク		未到達レベルの目安(不可)
評価項目	11		一般的な英文の内容を日本語でI 確に説明できる。	E 一般的な英文の内 明できる。	容を日本語で説	一般的な英文の内容を日本語で説 明できない。
評価項目	12		標準的な単語や構文、語法・文法 を正確に理解できる。	法 標準的な単語や構 の基本を理解でき	賛文、語法・文法 ₹る。	標準的な単語や構文、語法・文法 を理解できない。
評価項目	13		一般的な英文の読解や聴解が正确 にできる。	権 一般的な英文の基 解ができる。	基本的な読解や聴	一般的な英文の読解や聴解ができない。
評価項目	14		継続的な学習によって,第4学年 受験するTOEICにおいて400点以 上の取得が可能となる基礎力を研 認できる。	で 継続的な学習によ 受験するTOFIC	って, 第4学年で こおいて400点以 さる基礎力を確認	継続的な学習によって,第4学年で受験するTOEICにおいて400点以上の取得を目指せる基礎力を確認できない。
 学科の	到達目標	項目との				
I 人間		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	200			
教育方法						
캜(13/3/ 概要	<u>-</u>	「語彙	カ」「文法力」「読解力」「聴解力」 以上を取得するために必要な基礎力の	を総合的に養成し、第	 第4学年で受験する	TOEICテストにおいて、スコア
注意点		1) 英語 2) 積極	録60%、演習20%、課題等20%の割。この場合,学年末に1回実施し,再語力の維持・向上のため、主体的な学習的な姿勢で問題演習に取り組むこと。	習を継続すること。	の成績に置き換え	て再評価を行う。
授業の	属性・履	修上の区分	ਰੇ			
□ アク:	ティブラー	ニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応		
+∞ *** =T:						□ 実務経験のある教員による授業
授業計	<u> </u>					□ 実務経験のある教員による授
		T _i	極業中容		'田ブ L 자제'축무듐	□ 実務経験のある教員による授業
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
		1週	UNIT1 身の回りの物・場所の名称	:	身の回りの物や場所	所の名称を音声で認識できる。
		_			身の回りの物や場所	所の名称を音声で認識できる。
		1週	UNIT1 身の回りの物・場所の名称)	身の回りの物や場所 動詞の意味と語法を	・ 所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答
		1週 2週	UNIT1 身の回りの物・場所の名称 UNIT1 同一品詞の語彙問題(動詞))	身の回りの物や場所動詞の意味と語法えられる。 wh疑問文に応答で語句からトピックの	所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答
	1stQ	1週 2週 3週	UNIT1 身の回りの物・場所の名称 UNIT1 同一品詞の語彙問題(動詞) UNIT2 wh疑問文への応答		身の回りの物や場所動詞の意味と語法である。 wh疑問文に応答で語句からトピックに答えられる。	を理解し、同一品詞の語彙問題に答
	1stQ	1週 2週 3週 4週	UNIT1 身の回りの物・場所の名称 UNIT1 同一品詞の語彙問題(動詞) UNIT2 wh疑問文への応答 UNIT2 トピックの類推)	身の回りの物や場所動詞の意味と語法えられる。 wh疑問文に応答で語句からトピックに答えられる。 語句からトピックに答えられる。 語句から状況の推進られる。	所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 きる の類推ができる。英文を読解し質問 則ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造から
	1stQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週	UNIT1 身の回りの物・場所の名称 UNIT1 同一品詞の語彙問題(動詞) UNIT2 wh疑問文への応答 UNIT2 トピックの類推 UNIT3 語句からの状況判断(1) UNIT3 派生語(動詞・形容詞・名詞)	身の回りの物や場所動詞の意味と語法でえられる。 wh疑問文に応答で語句からトピックに答えられる。 語句から状況の推定である。 語句から状況の推定られる。 派生語(動詞・形	所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 きる の類推ができる。英文を読解し質問 則ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造から ことができる。
	1stQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	UNIT1 身の回りの物・場所の名称 UNIT1 同一品詞の語彙問題(動詞) UNIT2 wh疑問文への応答 UNIT2 トピックの類推 UNIT3 語句からの状況判断(1) UNIT3 派生語(動詞・形容詞・名詞 UNIT4 yes/no疑問文への応答	可)	身の回りの物や場所動詞の意味と語法で表られる。 wh疑問文に応答で語句からトピックでに答えられる。 語句から状況の推定 語句から状況の推定られる。 派生語(動詞・形で正しい品詞を選ぶで yes/ no疑問文に通	所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 きる の類推ができる。英文を読解し質問 則ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造から ことができる。
前期	1stQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週	UNIT1 身の回りの物・場所の名称 UNIT1 同一品詞の語彙問題(動詞) UNIT2 wh疑問文への応答 UNIT2 トピックの類推 UNIT3 語句からの状況判断(1) UNIT3 派生語(動詞・形容詞・名詞) 司)	身の回りの物や場所動詞の意味と語法で表られる。 wh疑問文に応答で語句からトピックでに答えられる。 語句から状況の推定的なる。 語句から状況の推定がある。 派生語(動詞・形ではしい品詞を選ぶではいる。 yes/ no疑問文に通結びつく語句と共に 彙問題に答えられ	所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 ききる の類推ができる。英文を読解し質問 則ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造から ことができる。 通切に応答できる。 こ名詞の意味を覚え、同一品詞の語
前期	1stQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	UNIT1 身の回りの物・場所の名称 UNIT1 同一品詞の語彙問題(動詞) UNIT2 wh疑問文への応答 UNIT2 トピックの類推 UNIT3 語句からの状況判断(1) UNIT3 派生語(動詞・形容詞・名詞 UNIT4 yes/no疑問文への応答) 詞)) ング (1)	身の回りの物や場所動詞の意味と語法でえられる。 wh疑問文に応答で語句からトピックに答えられる。 語句から状況の推られる。 派生語(動詞・形正しい品詞を選ぶ yes/ no疑問文に通 精びつく語句と共 環問題に答えられる。	所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 ききる の類推ができる。英文を読解し質問 則ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造から ことができる。 通切に応答できる。 こ名詞の意味を覚え、同一品詞の語
前期	1stQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	UNIT1 身の回りの物・場所の名称 UNIT1 同一品詞の語彙問題(動詞) UNIT2 wh疑問文への応答 UNIT2 トピックの類推 UNIT3 語句からの状況判断(1) UNIT3 派生語(動詞・形容詞・名詞 UNIT4 yes/no疑問文への応答 UNIT4 同一品詞の語彙問題(名詞)) 詞)) ング(1)	身の回りの物や場所動詞の意味と語法で表される。 wh疑問文に応答で語句からトピックに答えられる。 語句から大況の推定がある。 証生語(動詞・形正しい品詞を選ぶではいるに答えられる。 がままれる。 はないはいないである。 はないないである。 はないないである。 はないないないである。 はないないないないないない。	所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 ききる の類推ができる。英文を読解し質問 則ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造から ことができる。 近切に応答できる。 こ名詞の意味を覚え、同一品詞の語 る。
前期		1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	UNIT1 身の回りの物・場所の名称 UNIT1 同一品詞の語彙問題(動詞) UNIT2 wh疑問文への応答 UNIT2 トピックの類推 UNIT3 語句からの状況判断(1) UNIT3 派生語(動詞・形容詞・名詞 UNIT4 yes/no疑問文への応答 UNIT4 同一品詞の語彙問題(名詞) UNIT5 人物の動作表現/スキャニ) 同)) ング (1)	身の回りの物や場所 動詞の意味と語法 えられる。 wh疑問文に応答で 語句かられる。 inを与れる。 inを与れる。 inを与れる。 inを与れる。 inを与れる。 inを与れる。 inを与れる。 yes/ no疑語句とに 接いのくに 接いのくに はいのくに はいるに はいるに はいるに はいるに はいるに はいるに はいるに はいる	所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 ききる の類推ができる。英文を読解し質問 則ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造から ことができる。 近切に応答できる。 こ名詞の意味を覚え、同一品詞の語 る。 修得する。 文から必要な情報を探し、質問に答 われる表現を修得し、英文を聞き質 問や態を理解し、正しい語形の選択
前期	1stQ 2ndQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	UNIT1 身の回りの物・場所の名称 UNIT1 同一品詞の語彙問題(動詞) UNIT2 wh疑問文への応答 UNIT2 トピックの類推 UNIT3 語句からの状況判断(1) UNIT3 派生語(動詞・形容詞・名詞 UNIT4 yes/no疑問文への応答 UNIT4 同一品詞の語彙問題(名詞) UNIT5 人物の動作表現/スキャニ) 詞)) ング (1)	身の回りの物や場所 動詞の意味と語法 えられる。 wh疑問文に応答で 語句からいといった に答えらいたといった に答えらいた。 語句かる。 話句かる。 (動詞・形だい yes/ no疑語句文に 接ない 要はがつ題は動作表がで 要はがので はない はない はない はない はない はない はない はない はない はない	所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 ききる の類推ができる。英文を読解し質問 則ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造からことができる。 近切に応答できる。 こ名詞の意味を覚え、同一品詞の語 る。 修得する。 文から必要な情報を探し、質問に答 われる表現を修得し、英文を聞き質 問や態を理解し、正しい語形の選択
前期		1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	UNIT1 身の回りの物・場所の名称 UNIT1 同一品詞の語彙問題(動詞) UNIT2 Wh疑問文への応答 UNIT2 トピックの類推 UNIT3 語句からの状況判断(1) UNIT3 派生語(動詞・形容詞・名詞 UNIT4 yes/no疑問文への応答 UNIT4 同一品詞の語彙問題(名詞) UNIT5 人物の動作表現/スキャニ UNIT6 会話表現からの状況判断(1) UNIT6 正しい語形の選択(動詞))	身の回りの物や場所動詞の高。。wh疑問文に応答で語句かられる。語句かられる。語句かられる。語句かられる。語句かられる。語句かられる。動詞を選が、またいの疑問文に通知が、またいの疑問文に通知が、またいの疑問文に通ばないのではない。はいるというではない。というではない。というではない。というではない。というでは、またいのでは、またいのでは、またいのでは、またいのでは、またいのでは、またいのでは、またいのでは、またいのでは、またが、は、またいのでは、またが、またが、は、またが、またが、は、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが	所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 ききる の類推ができる。英文を読解し質問 則ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造から ことができる。 近切に応答できる。 こ名詞の意味を覚え、同一品詞の語 る。 修する。 文から必要な情報を探し、質問に答 われる表現を修得し、英文を聞き質 別や態を理解し、正しい語形の選択 えられる。 こ適切に応答できる。 この適切に応答できる。
前期		1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	UNIT1 身の回りの物・場所の名称 UNIT1 同一品詞の語彙問題(動詞) UNIT2 wh疑問文への応答 UNIT2 トピックの類推 UNIT3 語句からの状況判断(1) UNIT3 派生語(動詞・形容詞・名詞 UNIT4 yes/no疑問文への応答 UNIT4 同一品詞の語彙問題(名詞) UNIT5 人物の動作表現/スキャニ UNIT6 会話表現からの状況判断(1) UNIT6 正しい語形の選択(動詞) UNIT7 選択・付加疑問文への応答) 詞) ング (1) 1)	身の回りの物や場所 動詞のではという。 動詞のでは、 かられる。 いからいらいでは、 いからいらいでは、 いからいらいでは、 いからいらいでは、 いからいらいでは、 いからいでは、 いからいでは、 いからいでは、 いからいでは、 いからいでは、 いからいでは、 いからいでは、 いからいでは、 いからいでは、 いからいでは、 いからいでは、 いからいでは、 いからいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 ききる の類推ができる。英文を読解し質問 則ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造から ことができる。 近切に応答できる。 こ名詞の意味を覚え、同一品詞の語 る。 修存する。 文から必要な情報を探し、質問に答 われる表現を修得し、英文を聞き質 問や態を理解し、正しい語形の選択 えられる。 こ適切に応答できる。 この適切に応答できる。

		16週	前期定期試験		既習事項を整理できる。	
		1週	UNIT9 人物や物の状態	表現	状態を表す形容詞を覚え、 識できる。	人物や物の状態を音声で認
		2週	UNIT9 正しい語形の選	択(形容詞・副詞)	形容詞と副詞の用法を修行 に答えられる。	导し、正しい語形の選択問題
		3週	UNIT10 発言に対するE	自然な応答	英文を聞き発言内容や意思	図を理解し、適切な応答がで
3	BrdO	4週	UNIT10 同一品詞の語彙	ᡎ問題(前置詞)	前置詞の意味と用法を修行 答えられる。	导し、同一品詞の語彙問題に
		5週	UNIT11 語句からの状況 状況判断 (2)	兄判断(2)・会話表現からの	英文を聞き語句や会話表現答えられる。	見から状況を推測し、質問に
		6週	UNIT11 英語の語順での	の読解	英語の語順での読解ができ られる。	きる。英文を読み質問に答え
		7週	UNIT12 否定疑問文に	対する応答(1)	否定疑問文を聞き、適切が	ふ応答ができる。
		8週	UNIT12 正しい語形の)	選択(不定詞・動名詞・分詞)	不定詞・動名詞・分詞の原 選択問題に答えられる。	用法を修得し、正しい語形の
後期		9週	UNIT12 正しい語形の)	選択(不定詞・動名詞・分詞)	不定詞・動名詞・分詞の原 選択問題に答えられる。	用法を修得し、正しい語形の
		10週	UNIT13 位置関係を表す	す表現/スキャニング(2)	声で認識できる。	导し、人や物の位置関係を音 必要な情報を探し、質問に答
		11週	UNIT14 英語の語順での	の聴解	英語の語順での聴解ができ られる。	きる。英文を聞き質問に答え
4	łthQ	12週	UNIT14 同一品詞の語 詞)	ᡎ問題(疑問詞・関係詞・接続	疑問詞・関係詞・接続詞の 語彙問題に答えられる。	の用法を修得し、同一品詞の
		13週	UNIT14 同一品詞の語 詞)	ᡎ問題(疑問詞・関係詞・接続	疑問詞・関係詞・接続詞の 語彙問題に答えられる。	の用法を修得し、同一品詞の
		14週	UNIT15 否定疑問文に	対する応答(2)	否定疑問文を聞き、適切が	ふ応答ができる。
		15週	UNIT15 スキミング(2	2)	スキミングで英文の概要 ^も られる。	や要点を把握し、質問に答え
	-	16週	後期定期試験		既習事項を整理できる。	
評価割合						
			定期試験	演習	課題等	合計
総合評価割合	<u> </u>		60	20	20	100
基礎的能力			60	20	20	100
専門的能力			0	0	0	0

苫小牧	女工業高等	等専門学校	5	開講年度	令和04年度 (2	2022年度)	授	業科目	英語ⅢA)	(応用化学	・生物系
科目基礎	計報				•		-		<u>, </u>		
科目番号	LIDTK	0056				科目区分		一般 / 必(修		
授業形態		授業				単位の種別と単位	 付数	履修単位:			
開設学科			科(一般科目)		対象学年		3			
開設期		通年				週時間数		前期:2 後	———— 期:4		
教科書/教	材	教科書: グ教材:			one [金星堂] /夏	•	Proof Fe	ence [Oxfo	ord Univer	sity Press] /	′リーディン
担当教員		東 俊文									
到達目標	<u> </u>										
1. 英検準 2. 平易な	■2級~2級 ↓英文を迅速	ひべルの語 かつ大量に 通して、海	彙・ 読ん 外の	文法・文構造を で、その内容を 様々な事情や問	注理解しながら、英 注日本語で説明でき 問題を知ることがで	文内容を正確に読 る。 きる。	み取れる	る。			
ルーブリ	Jック										
			理	型想的な到達レイ	ベルの目安	標準的な到達レ	ベルの目]安	未到達レ	ベルの目安	
評価項目1			文船	と法・文構造をF	級レベルの語彙・ 理解しながら、一 を正確に読み取れ	英検準2級~2系 文法・文構造を 本的な英文内容 る。	理解した	よがら、基	文法・文	級〜2級レベル 構造を理解した 文内容を正確し	ながら、基
評価項目2			ہ اع	して、その内容を きる。	迅速かつ大量に読 を日本語で説明で	平易な英文を迅 で、その内容を る。	速かつが 日本語で	大量に読ん で説明でき	平易な英 でも、そ きない。	文を迅速かつた の内容を日本記	大量に読ん 語で説明で
評価項目3			٦	草文教材の読解₹ よび海外の諸事情 □ることが出来る	を通して、国内お 青や諸問題を深く る。	英文教材の読解 よび海外の諸事情を知ることが出	情や諸問	て、国内お 問題の概要	および海	の読解を通して 外の諸事情や記 ことが出来ない	諸問題の概
学科の到	達目標項	目との関	 係								
Ⅰ 人間 黒 実践 Ⅲ 国際	件										
教育方法											
概要	- 13	教科書を プリント 2本立て る。	使っ を使 で行	て語彙や文構造 って大量の平易 なう。また教科	が難しめの英文を な英文を直読直解 書授業では、文法	分析的に理解する で迅速に理解する や英作文の演習問	精読授第 多読・選 題を数	業(Intens 速読授業(多くこなす	ive Readin Extensive ことにより	g)と、英文副 and Rapid Re 、英語基礎力 <i>の</i>	l読本や配布 ading) の D充実を図
授業の進め	か方・方法	順に進め	てい	く。各Unit 終了 多読速読授業】	nit (6ページでワ 7後に小テストを実 図書館授業では 野業では、配布さ	施する。 、各自が選んだ英	文副読え	本を自分の	ペースで読	み、「読書記録	录手帳 に
注意点		辞書を引 【副読本い。豊富初見の英	きな 等の な す 文 に	がら自力で内容 多読速読授業】 絵・写真を参照 対して逐語訳せ	nit 2 ~ 3 ページ目 理解、復習では英 図書館授業では しながら、出来る ずにフレーズごと	文の音読・筆写と 、自分の好みとレ だけ日本語に訳さ 英語の語順のまま	語彙の ベルに ず英語 理解する	習得に努め 合った副読 のまま理解 ることが大	ること。 本を選んで するのがポ 切。	英文読書を楽し イント。教室技	ンんでほし 受業では、
		※成績評 ただし定 ※再試験 試験の成	伽: 期試 人 人 人 人	正期試験30% 験と到達度試験 評価: 評価が 計60%) に置	6、到達度試験30 6の評価割合は、授 60点に達しない 1き換えて再評価を	%、その他(各種 業時数に比例させ 者には再試験を実 行なう。	アスト て前期 施する。	・課題・予 1:後期2 。この場合	省状況)4 とする。 、再試験の	0%の割合で記	評価 9 る。 倹と到達度
授業の属	[性・履修										
	- イブラーニ			」ICT 利用		□ 遠隔授業対応	<u>. </u>		□ 実務約	経験のある教員	 員による授業
	<u> </u>	<u> </u>									
授業計画	 I						·				
		週	授業	内容			週ごと	の到達目標	Ę		
		1週	ガイ Unit	´ダンス(シラノ t 1 Chocolate	(スの説明) Power!		英文を 使役動	内容を理解 詞の用法に	しながら読 ついて理解	むことがこと; することがで	 ができる。 きる。
		2週	Unit	t 1 Chocolate	Power!		英文を 使役動	:内容を理解 詞の用法に	ながら読 ついて理解	むことがこと? することがで	ができる。 きる。
		3週	Unit	t 2 An End to	Malaria?		受動態	について理	解すること		
		4週	Unit	t 2 An End to	Malaria?		受動態	について理	解すること		
前期	1stQ	5週	Unit	t 3 Spiders in	Space?		接続詞	について理	解すること		
		6週		t 3 Spiders in	•		接続詞	について理	解すること		
		7週	Tex	t!	ressed or Annoye		英文を 動名詞	:内容を理解 について理	引いながら読 解すること	むことがこと; ができる。	ができる。
		8週	Text		ressed or Annoye	d? Talk, Don't	動名詞	について理	解すること		
	2ndQ	9週	Unit	t 5 Speeding :	Sharks					むことがこと 関解することが	

		Ι			古立名	・	
		10週	Unit 5 Speeding	g Sharks	That	D様々な用法につい	<u>ヽて理解することができる。</u>
		11週	Unit 6 Asteroid	Special Delivery	英文を To不知。	と内容を理解しなが 定詞の基本的用法に	ら読むことがことができる。 こついて理解することができる
		12週	Unit 6 Asteroid	Special Delivery	英文を To不知。	内容を理解しなが に詞の基本的用法に	ら読むことがことができる。 こついて理解することができる
		13週	Unit 7 "Dung B	eetle" Car Powered by Poop		c内容を理解しなが いて理解すること	ら読むことがことができる。 ができる。
		14週	Unit 7 "Dung B	eetle" Car Powered by Poop	分詞っ	Oいて理解すること	
		15週	夏期課題導入		夏期語 課題「 動機付	₹題の物語の主要登 フークシートへの取 けけが得られる。	場人物と粗筋が理解できる。 組みを通じて、英文読書への
		16週	前期定期試験				
		1週	夏期課題テスト 多読速読演習		中でき 四択問	きる。初見の説明文 問題の正解を選べる	
		2週	多読速読演習		中でき	は物語を直読直解し きる。初見の説明文 問題の正解を選べる	て楽しみながら英文読書に集 の意味内容を素早く理解し、 。
		3週	Unit 8 Robot So	cientist			ら読むことがことができる。 理解することができる。
	3rdQ	4週	Unit 9 Skyscrap	per Farms		と内容を理解しなが まについて理解する	ら読むことがことができる。 ことができる。
	SidQ	5週	多読速読演習		中でき	は物語を直読直解し きる。初見の説明文 問題の正解を選べる	で楽しみながら英文読書に集 の意味内容を素早く理解し、
		6週	多読速読演習		中でき	は物語を直読直解し きる。初見の説明文 問題の正解を選べる	て楽しみながら英文読書に集 の意味内容を素早く理解し、 。
		7週	Unit 10 Thanks	to Your Twin Brother		と内容を理解しなが こついて理解するこ	ら読むことがことができる。 とができる。
後期		8週	Unit 11 Butterf 後期到達度試験	lies Find a Cure	英文を 仮主語	と内容を理解しなが 唇について理解する	ら読むことがことができる。 ことができる。
		9週	多読速読演習		中でき	は物語を直読直解し きる。初見の説明文 問題の正解を選べる	て楽しみながら英文読書に集 の意味内容を素早く理解し、 。
		10週	多読速読演習		中でき	は物語を直読直解し きる。初見の説明文 問題の正解を選べる	て楽しみながら英文読書に集 の意味内容を素早く理解し、 。
		11週	Unit 12 Warnin	g: Sticky Dust!			ら読むことがことができる。 解することができる。
	4thQ	12週	Unit 13 From tl	ne Jungles of Mount Samko	英文を 関係代 る。	と内容を理解しなが は名詞の非制限用法	ら読むことがことができる。 について理解することができ
		13週	多読速読演習		中でき	は物語を直読直解し る。初見の説明文 問題の正解を選べる	て楽しみながら英文読書に集 の意味内容を素早く理解し、 。
		14週	多読速読演習 Unit 14 The Bir	th of an Ocean	英文を		ら読むことがことができる。 理解することができる。
		15週	Unit 15 A Hear	t That Doesn't Beat			ら読むことがことができる。 することができる。
		16週	後期定期試験				
評価割合	Ì						
			定期試験	到達度試験	各種テス 予習状況	スト・課題提出物・ Rなど	合計
総合評価書	<u>—</u> 削合		30	30	40		100
基礎的能力	J		30	30	40		100

白小	牧工業高	等専門学校	開講年度	令和04年度 (2	2022年度)	授業科目	英語ⅢB(応用化学・生物系)
科目基础	礎情報						
科目番号		0057			科目区分	一般 / 必何	
授業形態		授業			単位の種別と単位	拉数 履修単位:	2
開設学科		創造工学科	4(一般科目)		対象学年	3	
開設期		通年			週時間数	2	
教科書/教			讪芳樹「TOEIC E 館),「TOEIC Bi	Bridge: Training Ti dge 公式ガイドブッ	ips」(南雲堂)/ y ク」国際ビジネス	′参考図書 : 中邑州 スコミュニケーショ	男、他(編集)「ジーニアス総合英 1ン協会
担当教員		松田 奏保					
2. 標準日 3. 一般日 4. 継続日	的な英文の 的な単語や 的な英文の 的な学習に	内容を日本語で 構文、語法・5 読解や聴解がで よって,第4学	て法を理解できる。 ごきる。	ICにおいて400点り	(上の取得が可能と	こなる基礎力を確認	Rできる。
ルーブ!	リック		TM+845+>70+1		## <i>\th.</i> +5 +5 \\ \	*** • O O O O O	+ 70.51 - 20.11 0 12 0 (7.7.7)
			理想的な到達レイ	(,	標準的な到達レグ	- ' '	未到達レベルの目安(不可)
評価項目:	1		一般的な英文のF 確に説明できる。	内容を日本語で正	一般的な英文の内 明できる。	内容を日本語で説	一般的な英文の内容を日本語で説 明できない。
評価項目2	2			 構文、語法・文法	標準的な単語や構の基本を理解でき	講文、語法・文法 きる。	標準的な単語や構文、語法・文法を理解できない。
評価項目:	3			売解や聴解が正確		基本的な読解や聴	一般的な英文の読解や聴解ができない。
評価項目。	4		継続的な学習に。 受験するTOEIC	よって,第4学年で において400点以 となる基礎力を確	継続的な学習によ 受験するTOEICに 上の取得を目指し できる。	たって, 第4学年で こおいて400点以 せる基礎力を確認	継続的な学習によって,第4学年で受験するTOEICにおいて400点以上の取得を目指せる基礎力を確認できない。
		項目との関係	Ę.				
I 人間 Ⅱ 実践 Ⅲ 国際	間性 浅性 密性						
奴百刀。 概要	Д (「文法カ」「詩解	 }カ」「聴解カー <i>を</i> 約	※全的に養成し、 答		 TOEICテストにおいて、スコア
授業の進。 注意点	め方・方法 		この場合, 字年末に の維持・向上のた。 な姿勢で問題演習	[1回実施し, 冉試験 め、主体的な学習を	段の成績は定期試験	るためのブラブド/	製習等を行う。 5のに対して再試験を実施する場合 て再評価を行う。
授業のほ	富性, 履	修上の区分	310109714414	07,13270000			
	ティブラー:		□ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応		
+∞ ** =±							□ 実務経験のある教員による授業
授業計画	<u> </u>						□ 実務経験のある教員による授業
	+	VEI 15	7 **				
			受業内容			週ごとの到達目標	
			受業内容 JNIT1 身の回りの	物・場所の名称		週ごとの到達目標 身の回りの物や場	所の名称を音声で認識できる。
		1週 し			:	週ごとの到達目標 身の回りの物や場 動詞の意味と語法	所の名称を音声で認識できる。
		1週 U 2週 U	JNIT1 身の回りの JNIT1 同一品詞の	語彙問題(動詞)		週ごとの到達目標 身の回りの物や場 動詞の意味と語法 えられる。	所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答
		1週 U 2週 U 3週 U	JNIT1 身の回りの	語彙問題(動詞)		週ごとの到達目標 身の回りの物や場 動詞の意味と語法 えられる。 wh疑問文に応答で 語句からトピック	所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 ごきる
	1stQ	1週 L 2週 L 3週 L 4週 L	JNIT1 身の回りの JNIT1 同一品詞の JNIT2 wh疑問文へ	語彙問題 (動詞) への応答 類推	1	週ごとの到達目標 身の回りの物や場 動詞の意味と語法 えられる。 wh疑問文に応答で 語句からトピック に答えられる。 語句から状況の推	所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 できる の類推ができる。英文を読解し質問
	1stQ	1週 L 2週 L 3週 L 4週 L	JNIT1 身の回りの JNIT1 同一品詞の JNIT2 wh疑問文へ JNIT2 トピックの JNIT3 語句からの	語彙問題 (動詞) への応答 類推		週ごとの到達目標身の回りの物や場動詞の意味と語法えられる。 wh疑問文に応答で語句からトピックに答えられる。 語句からトピックに答えられる。 語句から状況の推られる。 派生語(動詞・形	所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 できる の類推ができる。英文を読解し質問 測ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造から
	1stQ	1週 L 2週 L 3週 L 4週 L 5週 L	JNIT1 身の回りの JNIT1 同一品詞の JNIT2 wh疑問文へ JNIT2 トピックの JNIT3 語句からの	語彙問題 (動詞) への応答 類推 状況判断 (1) 詞・形容詞・名詞)		週ごとの到達目標 身の回りの物や場 動詞の意味と語法 えられる。 wh疑問文に応答で 語句からトピック に答えられる。 語句から状況の推 られる。 派生語(動詞・形 正しい品詞を選ぶ	所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 できる の類推ができる。英文を読解し質問 測ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造から ことができる。
	1stQ	1週 L 2週 L 3週 L 4週 L 5週 L	JNIT1 身の回りの JNIT1 同一品詞の JNIT2 wh疑問文へ JNIT2 トピックの JNIT3 語句からの JNIT3 派生語(動 JNIT4 yes/no疑問	語彙問題 (動詞) への応答 類推 状況判断 (1) 詞・形容詞・名詞)		週ごとの到達目標身の回りの物や場動詞の意味と語法えられる。 wh疑問文に応答で語句からトピックに答えられる。 語句から状況の推られる。 派生語(動詞・形正しい品詞を選ぶ yes/ no疑問文には	所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 できる の類推ができる。英文を読解し質問 測ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造から ことができる。 動切に応答できる。 に名詞の意味を覚え、同一品詞の語
前期	1stQ	1週 L 2週 L 3週 L 4週 L 5週 L 5週 L 5週 L 5週 L 5週 L 5週 L 5	JNIT1 身の回りの JNIT1 同一品詞の JNIT2 wh疑問文へ JNIT2 トピックの JNIT3 語句からの JNIT3 派生語(動 JNIT4 yes/no疑問 JNIT4 同一品詞の	語彙問題 (動詞) の応答 類推 状況判断 (1) 詞・形容詞・名詞) 可文への応答 語彙問題 (名詞)		週ごとの到達目標身の回りの物や場動詞の意味と語法えられる。 wh疑問文に応答で語句からトピックに答うからが、の推らにいいのができまい。 wh疑問文に応答でいた。 おものが、 はいいのが、 はいいいのが、 はいいいのが、 はいいいのが、 はいいいのが、 はいいいのが、 はいいいのが、 はいいのが、 はいいいのが、 はいいいのが、 はいいいのが、 はいいいのが、 はいいいのが、 はいいのが、 はいのが、 はいいのが、 はいいいのが、 はいいいのが、 はいいのが、 はいいのが、 はいいのが、 はいいいのが、 はいいのが、 はいいのが、 はいいのが、 はいいのが、 はいいのが、 はいいのが、 はいいいのが、 はいいのが、 はいいいのが、 はいいのが、 はいいのが、 はいいいのが、 はいいいのが、 はいいいのが、 はいいいのが、 はいいいいのが、 はいいいのが、 はいいいのが、 はいいいのはいいのが、 はいいいのが、 はいいいのが、 はいいいのはいいいのはいいいいのはいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい	所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 できる の類推ができる。英文を読解し質問 測ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造から ことができる。 適切に応答できる。 に名詞の意味を覚え、同一品詞の語 る。
前期	1stQ	1週 L 2週 L 3週 L 4週 L 5週 L 5週 L 5週 L 5週 L 5週 L 5週 L 5	JNIT1 身の回りの JNIT1 同一品詞の JNIT2 wh疑問文へ JNIT2 トピックの JNIT3 語句からの JNIT3 派生語(動 JNIT4 yes/no疑問 JNIT4 同一品詞の	語彙問題 (動詞) への応答 類推 状況判断 (1) 詞・形容詞・名詞)	ÿ (1)	週ごとの到達目標身の回りの物や場動詞の意味と語法えられる。 wh疑問文に応答で語句からトピックに答うからが、この推られる。 (動詞の意味と語法表がない。) (は一般のでは、これを表しい。) (は一般のでは、これを表して、これを含まされを表して、これを表もなる。これを、まるなる。これを表もなる。これを表もなる。これを、まるなるなる。これを、まるなる。これを、まるなる。これを、まるなる。こ	所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 できる の類推ができる。英文を読解し質問 測ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造からことができる。 適切に応答できる。 に名詞の意味を覚え、同一品詞の語 る。 修得する。 文から必要な情報を探し、質問に答
前期	1stQ	1週 L 2週 L 3週 L 4週 L 5週 L 5週 L 5週 L 5週 L 5週 L 5週 L 5	JNIT1 身の回りの JNIT1 同一品詞の JNIT2 wh疑問文へ JNIT2 トピックの JNIT3 語句からの JNIT3 派生語(動 JNIT4 yes/no疑問 JNIT4 同一品詞の JNIT5 人物の動作	語彙問題 (動詞) の応答 類推 状況判断 (1) 詞・形容詞・名詞) 可文への応答 語彙問題 (名詞)	ÿ (1)	週ごとの到達目標 身の回りの物や場動詞の意味と語法えられる。 wh疑問文に応答で 語句からられる。 語句からられるの推らいと語いる。 (語句かる) (話句かる) (話句のる) (話句のとではいるができる。 (動詞をはいかでは、 (はいがでは、 (はいがではいがではいがではいがではいがでは、 (はいがではいがではいがではいがではいがではいがではいがではいがではいがではいがで	所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 できる の類推ができる。英文を読解し質問 関ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造からことができる。 適切に応答できる。 に名詞の意味を覚え、同一品詞の語 る。 文から必要な情報を探し、質問に答 われる表現を修得し、英文を聞き質
前期		1週 L 2週 L 3週 L 4週 L 5週 L 5週 L 5週 L 5週 L 5週 L 5週 L 5	JNIT1 身の回りの JNIT1 同一品詞の JNIT2 wh疑問文へ JNIT2 トピックの JNIT3 語句からの JNIT3 派生語(動 JNIT4 yes/no疑問 JNIT4 同一品詞の JNIT5 人物の動作	語彙問題 (動詞)	τ̈ (1)	週ごとの到達目標 身の回りの物や場動詞の意味と語法えられる。 wh疑問文に応答で 語句からられる。 語句からられるの推らいと語いる。 (語句かる) (話句かる) (話句のる) (話句のとではいるができる。 (動詞をはいかでは、 (はいがでは、 (はいがではいがではいがではいがではいがでは、 (はいがではいがではいがではいがではいがではいがではいがではいがではいがではいがで	所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 できる の類推ができる。英文を読解し質問 測ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造から ことができる。 適切に応答できる。 に名詞の意味を覚え、同一品詞の語 る。 修得する。 文から必要な情報を探し、質問に答 われる表現を修得し、英文を聞き質
前期	1stQ 2ndQ	1週 L 2週 L 3週 L 4週 L 5週 L 5週 L 5週 L 5週 L 5週 L 5週 L 5	JNIT1 身の回りの JNIT1 同一品詞の JNIT2 wh疑問文へ JNIT2 トピックの JNIT3 語句からの JNIT3 派生語(動 JNIT4 同一品詞の JNIT4 同一品詞の JNIT5 人物の動作	語彙問題 (動詞) の応答 類推 状況判断 (1) 詞・形容詞・名詞) 立への応答 語彙問題 (名詞) 表現/スキャニング らの状況判断 (1) の選択 (動詞)	プ (1)	週ごとの到達目標身の回りの物や場動詞の回りの物と語法えられる。 wh疑問られる。 を対しられる。 を対しられる。 を対したといる。 を対したが、のができる。 を対している。 がはいる。 がはいる。 がはいるができる。 をはいる。 をはいるができる。 をはいるができる。 をはいるができる。 をはいるができる。 をはいるができる。 をはいるがでする。 をはいるができる。 をはいる。 をはいるができる。 をはいる。 をはいるができる。 をはいる。 をは、 をはいる。 をはい。 をはいる。 をはいる。 をはいる。 をはいる。 をはいる。 をはいる。 をし	所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 できる の類推ができる。英文を読解し質問 測ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造からことができる。 適切に応答できる。 に名詞の意味を覚え、同一品詞の語る。 修得する。 文から必要な情報を探し、質問に答われる表現を修得し、英文を聞き質 制や態を理解し、正しい語形の選択 えられる。 に適切に応答できる。
前期		1週 L 2週 L 3週 L 4週 L 5週 L 5週 L 5週 L 5週 L 11週 L 12週 L 12	JNIT1 身の回りの JNIT1 同一品詞の JNIT2 wh疑問文へ JNIT2 トピックの JNIT3 語句からの JNIT3 派生語(動 JNIT4 同一品詞の JNIT4 同一品詞の JNIT6 会話表現か JNIT6 正しい語形 JNIT7 選択・付加	語彙問題 (動詞) の応答 類推 状況判断 (1) 詞・形容詞・名詞) 立への応答 語彙問題 (名詞) 表現/スキャニング らの状況判断 (1) の選択 (動詞)	ブ (1) 副詞)	週ごとの到達目標 身のの動えの回うでは、 動詞のののでは、 を回りの物と語をでする。 を対している。 がは、 を対している。 がは、 がは、 がは、 がは、 がいる。 がい。 がいる。	所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 できる の類推ができる。英文を読解し質問 測ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造から ことができる。 適切に応答できる。 に名詞の意味を覚え、同一品詞の語 る。 修得する。 文から必要な情報を探し、質問に答 われる表現を修得し、英文を聞き質 制や態を理解し、正しい語形の選択 えられる。 に適切に応答できる。 に形容詞・副詞の意味を覚え、同一
前期		1週 L 2週 L 3週 L 4週 L 5週 L 5週 L 5週 L 13週 L 1	JNIT1 身の回りの JNIT1 同一品詞の JNIT2 wh疑問文へ JNIT2 トピックの JNIT3 語句からの JNIT3 派生語(動 JNIT4 同一品詞の JNIT4 同一品詞の JNIT6 会話表現か JNIT6 正しい語形 JNIT7 選択・付加	語彙問題 (動詞)	ブ (1)	週ごとの到達を受ける。 別のののでは、 別のののでは、 別のののでは、 別のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 できる の類推ができる。英文を読解し質問 測ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造から ごとができる。 適切に応答できる。 に名詞の意味を覚え、同一品詞の語 る。 修得する。 文から必要な情報を探し、質問に答 われる表現を修得し、英文を聞き質 制や態を理解し、正しい語形の選択 えられる。 に適切に応答できる。 に適切に応答できる。

		16週	前期定期試験		既習事項を整理できる。	
		1週	UNIT9 人物や物の状態	表現	状態を表す形容詞を覚え、 識できる。	人物や物の状態を音声で認
		2週	UNIT9 正しい語形の選	択(形容詞・副詞)	形容詞と副詞の用法を修行 に答えられる。	导し、正しい語形の選択問題
		3週	UNIT10 発言に対するE	自然な応答	英文を聞き発言内容や意思	図を理解し、適切な応答がで
3	BrdO	4週	UNIT10 同一品詞の語彙	ᡎ問題(前置詞)	前置詞の意味と用法を修行 答えられる。	导し、同一品詞の語彙問題に
		5週	UNIT11 語句からの状況 状況判断 (2)	兄判断(2)・会話表現からの	英文を聞き語句や会話表現答えられる。	見から状況を推測し、質問に
		6週	UNIT11 英語の語順での	の読解	英語の語順での読解ができ られる。	きる。英文を読み質問に答え
		7週	UNIT12 否定疑問文に	対する応答(1)	否定疑問文を聞き、適切が	ふ応答ができる。
		8週	UNIT12 正しい語形の)	選択(不定詞・動名詞・分詞)	不定詞・動名詞・分詞の原 選択問題に答えられる。	用法を修得し、正しい語形の
後期		9週	UNIT12 正しい語形の)	選択(不定詞・動名詞・分詞)	不定詞・動名詞・分詞の原 選択問題に答えられる。	用法を修得し、正しい語形の
		10週	UNIT13 位置関係を表す	す表現/スキャニング(2)	声で認識できる。	导し、人や物の位置関係を音 必要な情報を探し、質問に答
		11週	UNIT14 英語の語順での	の聴解	英語の語順での聴解ができ られる。	きる。英文を聞き質問に答え
4	łthQ	12週	UNIT14 同一品詞の語 詞)	ᡎ問題(疑問詞・関係詞・接続	疑問詞・関係詞・接続詞の 語彙問題に答えられる。	の用法を修得し、同一品詞の
		13週	UNIT14 同一品詞の語 詞)	ᡎ問題(疑問詞・関係詞・接続	疑問詞・関係詞・接続詞の 語彙問題に答えられる。	の用法を修得し、同一品詞の
		14週	UNIT15 否定疑問文に	対する応答(2)	否定疑問文を聞き、適切が	ふ応答ができる。
		15週	UNIT15 スキミング(2	2)	スキミングで英文の概要 ^も られる。	や要点を把握し、質問に答え
	-	16週	後期定期試験		既習事項を整理できる。	
評価割合						
			定期試験	演習	課題等	合計
総合評価割合	<u> </u>		60	20	20	100
基礎的能力			60	20	20	100
専門的能力			0	0	0	0

一 白川は	牧工業高等	 等専門学校	開講年度	令和04年度(2022年度)	授業科	目 英語	吾ⅢA(雷	気電子系)
4日基礎				, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,				- · -	
<u>-101年7</u> 4目番号	3.1-1P	0058			科目区分	一般	/ 必修		
受業形態		授業			単位の種別と単位		/ ~ // 単位: 3		
制設学科			科(一般科目)		対象学年	3			
設期		通年			週時間数	前期	2 後期:4	ı	
対書/教	材		Science for Everyo 各種プリント	one [金星堂] / §	夏期課題:Rabbit-P	Proof Fence	[Oxford	Jniversity I	Press] /リーディ
⊒当教員		堀 登代彦							
引達目標	票								
. 英検 ^達 2. 平易が 3. 英文教	教材の読解を	級レベルの語 速かつ大量に を通して、海	彙・文法・文構造を 読んで、その内容を 外の様々な事情や問	を理解しながら、 ウェ アロ本語で説明できる のできることができます。 のできます。 できまれることができます。	文内容を正確に読 る。 <u>で</u> きる。	み取れる。			
υ - フ :	<u> フック</u>		理想的な到達レ	 ベルの日安	標準的な到達レ/	 バルの日安		 到達レベル	 の日安
				級レベルの語彙・					<u>ッロダ</u> 2級レベルの語彙・
萨価項目1	1		文法・文構造を理解しながら、一般的な英文内容を正確に読み取れる。		文法・文構造を理	英検準2級~2級レベルの語彙・ 文法・文構造を理解しながら、基 本的な英文内容を正確に読み取れる。		法・文構造	2級レバルの結果・ を理解しながら、星 容を正確には読み取
平価項目2	2			迅速かつ大量に読 を日本語で説明で	平易な英文を迅速で、その内容をEる。	速かつ大量に 日本語で説明	読ん 平でき でき		迅速かつ大量に読ん 容を日本語で説明で
平価項目3	3		英文教材の読解	を通して、国内お 情や諸問題を深く る。	英文教材の読解を よび海外の諸事情を知ることが出来	を通して、国 青や諸問題の	力お英概要を	よび海外の	解を通しても、国内 諸事情や諸問題の概 が出来ない。
学科の至]達目標項	頁目との関	係						
I 人間 Ⅱ 実践 Ⅲ 国際	浅性						_		
女育方法									
既要		2本立て る。	使って語彙や文構造 を使って大量の平易 で行なう。また教科	が難しめの英又を 別な英文を直読直解 料書授業では、文法	がが的に理解する。 『で迅速に理解する』 『で英作文の演習問』	精読授業(Ir 多読・速読授 題を数多くこ	tensive 業(Exte なすこと	Reading) と Insive and I により、英語	こ、央又副読本や配 Rapid Reading)の 語基礎力の充実を図
		【教科書	の精読授業】 各U	nit(6ページでワ	ンセット)を、語	 彙確認、長文	 読解、文	法事項の解認	 説、および問題演習
受業の進め	め方・方法	順に進め	の精読授業】 各U ていく。各Unit 終 等の多読速読授業】 録を記入する。教室	了後に小テストを乳 図書館授業では	実施する。 は、各自が選んだ英)	文副読本を自	分のペー	スで読み、	「読書記録手帳」に
	め方・方法	順【感 性読や 対書副。見成だ再 が表に、 である。 が表に、 である。 である。 である。 では、 である。 では、 でもい。 では、 でもい。 では、 でもい。 では、 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 では、 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 では、 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。 でもい。	でいく。各Unit 終 等の多読を記入する。 を記入する。 の考読する。 の精読である。 の精読がら速真を の持続がら速真変を がある。 を の持続がの多続・して に に に に に に に に い の に い の に い の に い の に い の に い の に い の に い に い	了後に小テストを記述を記述された。 図書では、配子ではません。 ではまでは、配子ではません。 のはは2~、復留授出ではない。 のはは2~、復留授出ではる。 のはではません。 のはではる。 のはではる。 のはではる。 のはではる。 のはではる。 のはではる。 のはではる。 のはではる。 のは、のいかには、のいがには、のいがには、のいかには、のいがは、のいがは、のいがは、のいがは、のいがは、のいがは、のいがは、のいが	実施する。 は、各自が選んだ英語 は、各自が選んだ英語 は、各自が選んだ英語 は、その英文 は、での英音がのないです。 は、だけ日本語順のはできる。 ではいるでは、その他のできる。 では、その他のできる。 では、その他のできる。 では、その他のできる。 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	文副読本を自 迅速に直読直 the Article) 語彙の習得に で が 英語のまま 理解すること	分解 かい かい かい かい かい かい かい かい かい いっぱい かい	スで読み、 問に答えて5 复習が最も重 と。 選んで英文i のがポイン	「読書記録手帳」に 理解度を確認する。 重要である。予習で 読書を楽しんでほし ト。教室授業では、
注意点		順【感 【辞【い初 ※た ※武験の本記 書引本富英 評定験成	ていく。各Unit 終 等の多読速読える。 教を記入する。 の精読授業】 の精読授業】 で 時間で で が多読を の を がりを い で が り き 等なの を が り き 等なの を い で に に に に に に に に に に い に に に い に に に に	了後に小テストを記述を記述された。 図書では、配子ではません。 ではまでは、配子ではません。 のはは2~、復留授出ではない。 のはは2~、復留授出ではる。 のはではません。 のはではる。 のはではる。 のはではる。 のはではる。 のはではる。 のはではる。 のはではる。 のはではる。 のは、のいかには、のいがには、のいがには、のいかには、のいがは、のいがは、のいがは、のいがは、のいがは、のいがは、のいがは、のいが	実施する。 は、各自が選んだ英語 は、各自が選んだ英語 は、各自が選んだ英語 は、その英文 は、での英音がのないです。 は、だけ日本語順のはできる。 ではいるでは、その他のできる。 では、その他のできる。 では、その他のできる。 では、その他のできる。 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	文副読本を自 迅速に直読直 the Article) 語彙の習得に で が 英語のまま 理解すること	分解 かい かい かい かい かい かい かい かい かい いっぱい かい	スで読み、 問に答えて5 复習が最も重 と。 選んで英文i のがポイン	「読書記録手帳」に 理解度を確認する。 重要である。予習で 読書を楽しんでほし ト。教室授業では、
注意点 受業の原	属性・履何	順【感 【辞書副。見 成だ再験 区 上の と かんこ と かん	ていく。各Unit 終 等の多読速記録を記入する。教 の精読授業】 で 時間では の特別がでいる。 の精読授業】 で で 等の多に の 等のがでいる。 の 特別がでいる。 の に いるで に の。 に し に し に し に し に し に し に し に し に し に	了後に小テストを記述を記述された。 図書では、配子ではません。 ではまでは、配子ではません。 のはは2~、復留授出ではない。 のはは2~、復留授出ではる。 のはではません。 のはではる。 のはではる。 のはではる。 のはではる。 のはではる。 のはではる。 のはではる。 のはではる。 のは、のいかには、のいがには、のいがには、のいかには、のいがは、のいがは、のいがは、のいがは、のいがは、のいがは、のいがは、のいが	実施する。 は、各自が選んだ英された初見の英文(Reading 可文の音読・筆写といる。 は、自分の本語によったがけ日の語に、 で、一方のでは、 で、一方のでは、 で、その他(各世では、 で、その他(各世では、 では、 で、ここに別をまり、 で、ここにり、 で、ここにり、 で、ここにり、 で、ここにり、 で、ここにり、 で、ここにり、 で、ここにり、 で、	文迅 対 記 を自直 the Article) は 語 で が で に 語 で で の で の で の の で の の の の の の の の の の の の の	分解 かい かい かい かい かい かい かい かい かい いっぱい かい	スで読み、 問に答えてI 复習が最も重 。 選んで英文: のがポイン : 況) 40% る。 試験の成績(「読書記録手帳」に 理解度を確認する。 重要である。予習で 読書を楽しんでほし ト。教室授業では、 の割合で評価する。 は定期試験と到達度
意点		順【感 【辞書副。見 成だ再験 区 上の と かんこ と かん	ていく。各Unit 終 等の多読速読える。教 の表読を記入する。教 の精読授業】 で 時間で で の特読が多読を の を の を の を の を の を の を の を の を の を の	了後に小テストを記述を記述されています。 図書では、配子では、記書では、配子では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	実施する。 は、各自が選んだ英語 は、各自が選んだ英語 は、各自が選んだ英語 は、その英文 は、での英音がのないです。 は、だけ日本語順のはできる。 ではいるでは、その他のできる。 では、その他のできる。 では、その他のできる。 では、その他のできる。 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	文迅 対 記 を自直 the Article) は 語 で が で に 語 で で の で の で の の で の の の の の の の の の の の の の	分解 かい かい かい かい かい かい かい かい かい いっぱい かい	スで読み、 問に答えてI 复習が最も重 。 選んで英文: のがポイン : 況) 40% る。 試験の成績(「読書記録手帳」に 理解度を確認する。 重要である。予習で 読書を楽しんでほし ト。教室授業では、
:意点 受 業の 原] アクテ	<u> </u>	順【感 【辞書副。見 成だ再験 区 上の と かんこ と かん	ていく。各Unit 終 等の多読速記録を記入する。教 の精読授業】 で 時間では の特別がでいる。 の精読授業】 で で 等の多に の 等のがでいる。 の 特別がでいる。 の に いるで に の。 に し に し に し に し に し に し に し に し に し に	了後に小テストを記述を記述されています。 図書では、配子では、記書では、配子では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	実施する。 は、各自が選んだ英された初見の英文(Reading 可文の音読・筆写といる。 は、自分の本語によったがけ日の語に、 で、一方のでは、 で、一方のでは、 で、その他(各世では、 で、その他(各世では、 では、 で、ここに別をまり、 で、ここにり、 で、ここにり、 で、ここにり、 で、ここにり、 で、ここにり、 で、ここにり、 で、ここにり、 で、	文迅 対 記 を自直 the Article) は 語 で が で に 語 で で の で の で の の で の の の の の の の の の の の の の	分解 かい かい かい かい かい かい かい かい かい いっぱい かい	スで読み、 問に答えてI 复習が最も重 。 選んで英文: のがポイン : 況) 40% る。 試験の成績(「読書記録手帳」に 理解度を確認する。 重要である。予習で 読書を楽しんでほし ト。教室授業では、 の割合で評価する。 は定期試験と到達度
- 意点 受 業 の原 アクテ	<u> </u>	順【感 【辞【い初 ※た※試 の と	ていく。各Unit 終 等の多読速記録を記入する。教 の精読授業】 で 時間では の特別がでいる。 の精読授業】 で で 等の多に の 等のがでいる。 の 特別がでいる。 の に いるで に の。 に し に し に し に し に し に し に し に し に し に	了後に小テストを記述を記述されています。 図書では、配子では、記書では、配子では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	実施する。 は、各自が選んだ英語 の英文(Reading 文文の英語・学の表記を の英文音語・好みでは、 ではけるでは、 ではいるでは、 ではないるでは、 ではないるでは、 ではないるでは、 ではないるでは、 ではないるでは、 ではないるではないるではないるではないるではないるではないるではないるではないる	文迅 対 記 を自直 the Article) は 語 で が で に 語 で で の で の で の の で の の の の の の の の の の の の の	分解	スで読み、 問に答えてI 复習が最も重 。 選んで英文: のがポイン : 況) 40% る。 試験の成績(「読書記録手帳」に 理解度を確認する。 重要である。予習で 読書を楽しんでほし ト。教室授業では、 の割合で評価する。 は定期試験と到達度
- 意点 受 業 の原 アクテ	<u> </u>	順【感 【辞【い初 ※た無談 区 分 ※ 注 の ※ 注	ていく。各Unit 終 等級を記入する。 を記読する。 の特読である。 の特読である。 の特別で表現である。 の特別である。 の特別である。 の特別である。 の特別である。 の特別である。 の特別である。 の特別である。 の特別である。 の特別である。 の特別である。 の特別である。 の特別である。 の特別である。 の特別である。 の特別である。 の特別である。 の特別である。 の特別である。 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、	了後に小テス学では 図書では、	実施する。 は、各自が選んだ英語 の英文(Reading 文文の英語・学の表記を の英文音語・好みでは、 ではけるでは、 ではいるでは、 ではないるでは、 ではないるでは、 ではないるでは、 ではないるでは、 ではないるでは、 ではないるではないるではないるではないるではないるではないるではないるではないる	文迅 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	分解 D のい P ののい P の	スで読み、T 間に答えてT 夏智が最も 変のがポイイン (別) 40% 表試験の成績(実務経験の がら読むこ	「読書記録手帳」に 理解度を確認する。 理要である。予習で 読書を楽しんでほし ト。教室授業では、 の割合で評価する。 ま定期試験と到達度 かある教員による授
注意点 受 業の 厚 〕 アクテ	<u> </u>	順【感 想 教を記 と 教を記 と 教を記 と 教を読 と の 様し試の 区 と かんだ 再験 区 と かん	ていく。各Unit 終 等の名。教 等の多読速記入する。教 の精読授業】 を の精読授業】 を の精読授業】 を の特別が意味写 の 等の多を が可 に の を は の を は の を は の を は の に に に に に に に に に に に に に に に に に に	了後に小テストを記録という。 図書では、配子では、記録では、配子では、記書では、記書では、記述では、記述のででは、記述を記述しない。 のは、記述では、記述では、記述では、記述では、記述では、記述では、記述では、記述で	実施する。 は、各自が選んだ英語ない。 は、各自が選んだ英語ない。 は、各自が選んだ英語ない。 は、第一次の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方では、一方で一方の一方で一方で一方で一方で一方で一方で一方で一方で一方で一方で一方で一方で一方で一	文出、 対記では は は は は は は は は は は は は は	分解 DSS副理が ・期場 PSS副理が ・期場 EIII法理 に BI で BI で BI で BI に BI EI EI EI EI EI EI EI E	スで読み、TBに答えてEBと選が最も重と選がよってがよいでイン、 20% (20%) (20	「読書記録手帳」に 理解度を確認する。 理要である。予習で 読書を楽しんでほし ト。教室授業では、 の割合で評価する。 は定期試験と到達度 のある教員による授
注意点 受 業の 厚 〕 アクテ	<u> </u>	順【感 想 報	ていく。各Unit 終 等の名。 等の多読速記入する。 の精読授業】 の精読授業】 の精読授業】 の精読授業】 の精読授業】 で授業の表 でで要素 でで要素 で関連を に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	了後に小テストを記 図書には、 図書では、 Init 2 ~ 3 ページは 受業では、 「Aでででは 日本でででま とす。 「Aでででま とす。 「Aででは では では では では では でで でる とす。 「Aでで でで でま でい で で で で で で で で る。 の の の は の は の の の に う に う の ら し る。 の ら う の ら う の ら う う の ら う う う う う の う う う う	実施する。 は、各自が選んだ英語ない。 は、各自が選んだ英語ない。 は、各自が選んだ英語ない。 は、第一次の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方では、一方で一方の一方で一方で一方で一方で一方で一方で一方で一方で一方で一方で一方で一方で一方で一	文迅 朝 京 武 武 大 世 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	分解 DSS副理が ・期場 ・ Bakaty S2合 標解に解に解理 ・ Bakaty B2合 標解に解に解理 ・ DO しつした。	スで読み、TB	「読書記録手帳」に理解度を確認する。 変要である。予習で 読書を楽しんでほし ト。教室授業では、 の割合で評価する。 は定期試験と到達度 Dある教員による授 とがことができる。 とがことができる。 とがことができる。
i意点 受 業の 厚] アクテ	属性・履信 =ィブラー= 画	順【感 想 報	ていく。各Unit 終 等の名。 等の多読速記入する。 物 の精読授業】 各U で 等の を が多読を記入する。 の 特読授自力 で 受きの を が の た が の た が の た が の た が の た い た に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に	了後に小テストを記 図書には、 図書では、 には 2 ~ 3 ページはでは 経費 図を 3 ページはでは のは 2 ~ 4 復館 投 の 3 ページはでは の 3 ページはでは の 3 ページはでは の 4 のでで 第 3 代 の 3 では の 4 の 1 の 点 の 5 の 点 の 6 の 点 の 5 で 1 の 点 の 5 で 1 で の 6 の 点 の 7 でで まと の 7 ででまと の 8 できない の 7 ででまと の 8 できない の 8 できない で 8 できない で 9 できない の 7 ででまと の 8 できない の 8 できない で 9 で 9 で り 9 で り 9 で り 9 で り 9 で り り 9 で り 9	実施する。 は、各自が選んだ英語ない。 は、各自が選んだ英語ない。 は、各自が選んだ英語ない。 は、第一次の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方では、一方で一方の一方で一方で一方で一方で一方で一方で一方で一方で一方で一方で一方で一方で一方で一	文出、 the Article Arti	分解 DSS副理が ・期場	ス問に	「読書記録手帳」に理解度を確認する。 変要である。予習で 読書を楽しんでほし ト。教室授業では、 の割合で評価する。 は定期試験と到達度 Dある教員による授 とがことができる。 ととがことができる。 ととがことができる。 ととがことができる。
注意点 受業の原] アクラ	<u> </u>	順【感 想	ていく。各Unit 終 等の名。 等の多読速記入する。 物 の精読授業】 各U容 等の表記、する。 の精読授業】 各U容 等の海線・して 変 が多読・写で変 が がら読速真を語 がらででで が に いたと値 に いたと値 に いたで が の に いたで いたで いたで いたと の に いたと の に いた に いた に いた に いた に いた に いた に いた に	了後に小テストを記録という。 「図書には、	実施する。 は、各自が選んだ英語 は、各自が選んだ英語 は、各自が選んだ英語 は、名前の英文(Reading Eix)をは、また初見の英文の音がの表記では、またがは、その他(各種のでは、その性のでは、その性のでは、その性のでは、その性のでは、その性のでは、そのは、一般では、またが、そのは、自然を表記では、またが、というでは、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが	文出 the Article () () () () () () () () () (分解 の努副理が ・期場 一段 では、理が、理が、理が、理が、理が、理が、理が、理が、理が、理が、理が、理が、理が、	ス問に と選の 沈る試験 実務 にかてがてがるがるがるがる かっこる こる こでこらこ らこ いっぱん かんかん がん がる がん がん がん かん がん がん かん がん がん かん がん かん がん かん かん がん かん	「読書記録手帳」に 理解度を確認する。 要である。予習で 読書を楽しんでほした。 教室授業では、 の割合で評価する。 は定期試験と到達度 ひある教員による授 とがことができる。 ととがことができる。 ととがことができる。 とうる。 とがことができる。 ときる。 ときる。 ときる。 ときる。 ときる。 ときる。 ときる。 と
注意点 受業の原 コ <i>アク</i> ラ	属性・履信 =ィブラー= 画	順【感 と	ていく。各Unit 終等の多読速語で表示を記入する。教室記入する。教室の特読授業】 を受ける では できながらいます では できながらいます では できながらいます では できながらいます では では できながらいます では できない では できない では できない では できない では できない できない できない できない できない できない できない できない	了後に小テストを記録という。 図書には、配子では、記書では、配子では、記書では、配子ででは、記字理解書が、ロージは、記書では、記書では、記書では、記書では、記書では、記書では、記書では、記書で	実施する。 は、各自が選んだ英語 は、各自が選んだ英語 は、各自が選んだ英語 は、各自が選んだ英語 は、自分の英文(Reading とは、また 自分の表面に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象を表現である。 「「一」では、「「一」では、「」では、「一」では、「一」では、「一」では、「一」では、「一」では、「一」では、「一」では、「一」では、「一」では、「一」では、「」では、「」では、「」では、「」では、「」では、「」では、「」では、「	文出 the Article		ス問 して いっぱい でいて いっぱい でいる いっぱい でいる いっぱい でいる いっぱい でいる いっぱい かん いっぱい かんしん いっぱい かん いっぱい かんしん いっぱい いっぱい かん いっぱい かんしん いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱ	「読書記録手帳」に理解度を確認する。 要である。予習で 読書を楽りしんでほし、 の割合で評価する。 は定期試験と到達度 ひある教員による授 とがことができる。 ととがこできる。 とことができる。 とさる。ことができる。 ときる。ことができる。
主意点 受 業 の原	属性・履信 =ィブラー= 画	順【感 と 対	ていく。各Unit 終等の名。教室の表示を記入する。教室の表示を記入する。教室の精読授業】 を関係を認定を認定を認定を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を	了後に小テストを記録にいます。 図書には、配子では、記書では、配子では、記書では、配子ででは、記字理解書では、記字ででででででででででででででいる。 の 到達度は、このでででででででででいる。 の の の は で で で で で で で で で で で で で で で で	実施する。 は、各自が選んだ英語 は、各自が選んだ英語の英文(Reading in it is it i	文出 the Article		ス問 して で こで こ	「読書記録手帳」に 理解度を確認する。 要である。 予習で 意書を楽室授業である。 予習で は、 の割合で評価する。 は定期試験と到達度 ひある教員による授 とがさがことがでる。 きっととととといことができる。 ときる。 ときる。 ときる。 ときる。 とがことができる。 ときる。 とがことができる。 とがことができる。 とがことができる。
注意点 受業の原] アクラ	属性・履信 =ィブラー= 画	順【感	ていく。各Unit 終等の名。教室の表示を記入する。教室の名。教室の精読授業】 を関係を記入する。教室の精読授業】 を関係を対して、大田・田田・田田・田田・田田・田田・田田・田田・田田・田田・田田・田田・田田・田	了後に小テストを記録にいます。 図書には、配子では、記書では、配子では、記書では、配子ででは、記字理解書では、記字ででででででででででででででいる。 の 到達度は、このでででででででででいる。 の の の は で で で で で で で で で で で で で で で で	実施する。 は、各自が選んだ英語 は、各自が選んだ英語の英文(Reading in it is it i	文刊 th語ペず理 テて施 週 英使 英使 英受 英受 英接 英接 英動副速 には Arのに語す ト期る ご 文役 文役 文動 文動 文続 文紀 本語 には Pro で で 文役 文の 文動 文続 文紀 本語 とを動 を動 を態 を詞 を詞 を詞を詞を詞を詞を詞を詞を詞を詞を詞を詞を詞をする。 の 内詞 内詞 内に 内に 内に 内に 内に 内に 内に クロ 容の	分解 ア の の の の の の の の の の の の の の の の の の の	ス問	「読書記録手帳」に 理解度を確認する。 一要である。予習で 読書を楽室授業である。 でほし、 の割合で評価する。 は定期試験と到達度 の割合で評価する。 はたいできる。 といとができる。 といとができる。 ときとができる。 ときる。とができる。 とがことができる。 ときる。とができる。 とがことができる。
注意点 受業の原] アクラ	属性・履信 =ィブラー= 画	順【感	ていく。各Unit 終 等録を記入する。教室 の精読技業】 各U容 意味を記入する。教室 の精読授算力で授業と ででする。 に、 いて、 に、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 し、 し、 し、 し、 し、 し、 し、 し、 し、 し、 し、 し、 し、	了後に小テストを記録にいます。 図書には、配布されています。 図書には、配布されています。 図書には、配布されています。 図書には、配布されています。 図書には、記ずにフレースでは、記ずにフレースでは、記録である。 のは、到達度はは、ないでは、記録である。 のは、到達度には、記録である。 でスの説明) Power! Malaria? Malaria? Space? Space? ressed or Annoyed ressed ressed or Annoyed ressed ressed or Annoyed ressed ressed or Annoyed ressed	実施する。 は、各自が選んだ英語 は、各自が選んだ英語の英文(Reading in it is it i	文迅 th語ペず理 テて施 週 英使 英使 英受 英受 英接 英接 英動 英動 英副速 e 彙ル英解 ス前す ご 文役 文役 文動 文動 文続 文統 文名 文表	分解 の努副理が ・期場 して 理法・理法・理法・理で、理で、理で、理で、理で、理で、理で、理で、理で、理で、理で、理で、理で、理	ス問	「読書記録手帳」に 理解度を確認する。 一要である。予習で 読書を楽室授業である。 でほし、 の割合で評価する。 は定期試験と到達度 の割合で評価する。 はたいできる。 といとができる。 といとができる。 ときとができる。 ときる。とができる。 とがことができる。 ときる。とができる。 とがことができる。

		_	1			1	
		11週	Unit 6 Asteroid Spe	ecial Delivery			ら読むことがことができる。 ついて理解することができる
		12週	Unit 6 Asteroid Spe	ecial Delivery		英文を内容を理解しながら To不定詞の基本的用法に	ら読むことがことができる。 ついて理解することができる
		13週	Unit 7 "Dung Beetl	e" Car Powered by Poop		英文を内容を理解しながら 分詞ついて理解することが	ら読むことがことができる。 ができる。
		14週	Unit 7 "Dung Beetl	e" Car Powered by Poop		英文を内容を理解しながら 分詞ついて理解することが	ら読むことがことができる。 ができる。
		15週	夏期課題導入			夏期課題の物語の主要登場課題ワークシートへの取締動機付けが得られる。	易人物と粗筋が理解できる。 且みを通じて、英文読書への
		16週	前期定期試験				
		1週	夏期課題テスト 多読速読演習			平易な物語を直読直解して中できる。初見の説明文の四択問題の正解を選べる。	て楽しみながら英文読書に集 D意味内容を素早く理解し、
		2週	多読速読演習			平易な物語を直読直解して中できる。初見の説明文の四択問題の正解を選べる。	て楽しみながら英文読書に集 D意味内容を素早く理解し、
		3週	Unit 8 Robot Scien	tist		英文を内容を理解しながら 疑問詞+不定詞について理	ら読むことがことができる。 里解することができる。
	3rdO	4週	Unit 9 Skyscraper	Farms		英文を内容を理解しながら 仮定法について理解する	ら読むことがことができる。 ことができる。
	SidQ	5週	多読速読演習			平易な物語を直読直解して 中できる。初見の説明文の 四択問題の正解を選べる。	て楽しみながら英文読書に集 D意味内容を素早く理解し、
		6週	多読速読演習			平易な物語を直読直解して 中できる。初見の説明文の 四択問題の正解を選べる。	て楽しみながら英文読書に集 D意味内容を素早く理解し、
		7週	Unit 10 Thanks to	Your Twin Brother		英文を内容を理解しながら 比較について理解すること	ら読むことがことができる。 とができる。
後期		8週	Unit 11 Butterflies 後期到達度試験	Find a Cure		英文を内容を理解しながら 仮主語について理解するこ	う読むことがことができる。 ことができる。
		9週	多読速読演習			平易な物語を直読直解して中できる。初見の説明文の四択問題の正解を選べる。	C楽しみながら英文読書に集 D意味内容を素早く理解し、
		10週	多読速読演習			平易な物語を直読直解して 中できる。初見の説明文の 四択問題の正解を選べる。	て楽しみながら英文読書に集 D意味内容を素早く理解し、
		11週	Unit 12 Warning: 9	Sticky Dust!		英文を内容を理解しながら 形容詞と副詞について理解	ら読むことがことができる。 解することができる。
	4thQ	12週	Unit 13 From the J	ungles of Mount Samkos		英文を内容を理解しながら 関係代名詞の非制限用法に る。	ら読むことがことができる。 こついて理解することができ
		13週	多読速読演習				て楽しみながら英文読書に集 D意味内容を素早く理解し、
		14週	多読速読演習 Unit 14 The Birth o	of an Ocean		英文を内容を理解しながら 現在完了進行形について理	ら読むことがことができる。 里解することができる。
		15週	Unit 15 A Heart Th	at Doesn't Beat		英文を内容を理解しながら過去完了形について理解す	ら読むことがことができる。 することができる。
		16週	後期定期試験				
評価割合	<u> </u>						
			到達度試験(中間試験)	定期試験	名	ら種テスト・課題提出物・ 予習状況など	合計
総合評価割	割合		30	30		.0	100
基礎的能力	<u></u>		30	30	4	0	100

苫小*	牧工業高	等専門学	校 開講年度 令和04年度	(2022年度)	授業科目	英語ⅢB(電気電子系)
科目基础						
科目番号		0059		科目区分	一般 / 必修	<u> </u>
授業形態		授業		単位の種別と単位	拉数 履修単位:	2
開設学科		創造工	学科(一般科目)	対象学年	3	
開設期		通年		週時間数	2	
教科書/教	材	教科書 語」(: 高山芳樹「TOEIC Bridge: Training 大修館),「TOEIC Bidge 公式ガイドフ	Tips」(南雲堂) / ブック」国際ビジネス	′参考図書 : 中邑光 スコミュニケーショ	男、他(編集)「ジーニアス総合英 ン協会
担当教員		松田 奏	保			
到達目標	票					
2. 標準的 3. 一般的 4. 継続的	的な単語や 的な英文の 的な学習に)構文、語法)読解や聴解	語で説明できる。 ・文法を理解できる。 ができる。 4学年で受験するTOEICにおいて400点	以上の取得が可能と	ごなる基礎力を確認	できる。
ルーブリ	リック					
			理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レイ	` '	未到達レベルの目安(不可)
評価項目:	1		一般的な英文の内容を日本語で正 確に説明できる。	一般的な英文のP 明できる。	内容を日本語で説	一般的な英文の内容を日本語で説 明できない。
評価項目2	2		標準的な単語や構文、語法・文法 を正確に理解できる。	標準的な単語や構 の基本を理解でき	構文、語法・文法 きる。	標準的な単語や構文、語法・文法 を理解できない。
評価項目:	3		一般的な英文の読解や聴解が正確 にできる。	一般的な英文の基 解ができる。	基本的な読解や聴	一般的な英文の読解や聴解ができ ない。
評価項目4	4		継続的な学習によって,第4学年 受験するTOEICにおいて400点以 上の取得が可能となる基礎力を確 認できる。	で 継続的な学習に 受験するTOFIC	kって, 第4学年で こおいて400点以 せる基礎力を確認	継続的な学習によって,第4学年で受験するTOEICにおいて400点以上の取得を目指せる基礎力を確認できない。
 学科のŦ	到達日標	項目との				
	間性 浅性	<u>XII C - XI</u>				
教育方法	 法等					
概要		「語彙	カ」「文法力」「読解力」「聴解力」な 以上を取得するために必要な基礎力の気		- 第4学年で受験する	TOEICテストにおいて、スコア
注意点		1) 英語 2) 積極	録60%、演習20%、課題等20%の割合。この場合,学年末に1回実施し,再試 動力の維持・向上のため、主体的な学習 動力の維持・向上のため、主体的な学習 動的な姿勢で問題演習に取り組むこと。 後の時には英和辞書を必ず持参すること	目を継続すること。	の放網に直き換え	C. 冉評価を行う。
授業の原	属性・履	修上の区:	分			
□ アクラ	ティブラー	ニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
授業計画	画					
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
		1週	UNIT1 身の回りの物・場所の名称		身の回りの物や場	所の名称を音声で認識できる。
		2週	UNIT1 同一品詞の語彙問題(動詞)			を理解し、同一品詞の語彙問題に答
			UNIT2 wh疑問文への応答		えられる。	i キフ
		3週		+	wh疑問文に応答で	ごる の類推ができる。英文を読解し質問
		4週	UNIT2 トピックの類推		に答えられる。	の規則がくさる。大人で説所し負向
	1stQ	5週	UNIT3 語句からの状況判断(1)		 語句から状況の推 られる。	
					りれる。	則ができる。英文を聞き質問に答え
		6週	UNIT3 派生語(動詞・形容詞・名詞	3)		容詞・名詞)を修得し、文構造から
		6週 7週	UNIT3 派生語(動詞・形容詞・名詞 UNIT4 yes/no疑問文への応答	1)	派生語(動詞・形	容詞・名詞)を修得し、文構造から ことができる。
				1)	派生語(動詞・形 正しい品詞を選ぶ yes/ no疑問文に返 結びつく語句と共	動切に応答できる。 こ名詞の意味を覚え、同一品詞の語
前期		7週	UNIT4 yes/no疑問文への応答	グ (1)	派生語(動詞・形 正しい品詞を選ぶ yes/ no疑問文に通 結びつく語句と共 彙問題に答えられ 様々な動作表現を	容詞・名詞)を修得し、文構造からことができる。 通切に応答できる。 に名詞の意味を覚え、同一品詞の語る。 と得する。
前期		7週 8週	UNIT4 yes/no疑問文への応答 UNIT4 同一品詞の語彙問題(名詞)	グ (1)	派生語(動詞・形正しい品詞を選ぶ yes/ no疑問文に近 結びつく語句と共 彙問題に答えられ 様々な動作表現を スキャニングで英 えられる。	容詞・名詞)を修得し、文構造からことができる。 動切に応答できる。 で名詞の意味を覚え、同一品詞の語る。
前期		7週 8週 9週	UNIT4 yes/no疑問文への応答 UNIT4 同一品詞の語彙問題(名詞) UNIT5 人物の動作表現/スキャニン	グ(1)	派生語(動詞・形正しい品詞を選ぶ yes/ no疑問文に返 結びつく語句と共 景問題に答えられ 様々な動作表現を スキャニングで英 えられる。 各場面で頻繁に使 問に答えられる。	容詞・名詞)を修得し、文構造からことができる。 動切に応答できる。 こ名詞の意味を覚え、同一品詞の語る。 修得する。 文から必要な情報を探し、質問に答 われる表現を修得し、英文を聞き質 制や態を理解し、正しい語形の選択
前期	2ndQ	7週 8週 9週 10週	UNIT4 yes/no疑問文への応答 UNIT4 同一品詞の語彙問題(名詞) UNIT5 人物の動作表現/スキャニン UNIT6 会話表現からの状況判断(1	グ(1)	派生語(動詞・形正しい品詞を選ぶ yes/ no疑問文に通 結びつく語句と共 貴問題に答えられ 様々な動作表現を 様ネキヤニングで英 えられる。 各場面で頻繁に使 問に答えられる。 文脈から適切な時間題(動詞)に答	容詞・名詞)を修得し、文構造からことができる。 動切に応答できる。 こ名詞の意味を覚え、同一品詞の語る。 修得する。 文から必要な情報を探し、質問に答 われる表現を修得し、英文を聞き質 制や態を理解し、正しい語形の選択
前期	2ndQ	7週 8週 9週 10週 11週	UNIT4 yes/no疑問文への応答 UNIT4 同一品詞の語彙問題(名詞) UNIT5 人物の動作表現/スキャニン UNIT6 会話表現からの状況判断(1 UNIT6 正しい語形の選択(動詞)	(1) (1))	派生語(動詞・形正しい品詞を選ぶ yes/ no疑問文に選結びつ気に答えられ 着問題に答えられ 様々ないこのを持ちたりを 様キャイる。 各場である。 各場にから動詞)に使い でりたい。 文脈のは、 でした。 文脈のは、 でした。 文にして、 でした。 でした。 でした。 でした。 でした。 でした。 でした。 でした。	容詞・名詞)を修得し、文構造からことができる。 動切に応答できる。 こ名詞の意味を覚え、同一品詞の語る。 修得する。 文から必要な情報を探し、質問に答 われる表現を修得し、英文を聞き質 制や態を理解し、正しい語形の選択 えられる。 に適切に応答できる。 こ形容詞・副詞の意味を覚え、同一
前期	2ndQ	7週 8週 9週 10週 11週 12週	UNIT4 yes/no疑問文への応答 UNIT4 同一品詞の語彙問題(名詞) UNIT5 人物の動作表現/スキャニン UNIT6 会話表現からの状況判断(1 UNIT6 正しい語形の選択(動詞) UNIT7 選択・付加疑問文への応答	(1) (1)) (1) (1) (1) (1)	派生語(動詞・形正しい品詞を選ぶ yes/ no疑問文に通 結びつく語句と共 精別を選動作表現を 様々なかに答えられ。 様々なかに 表現を 大キャイる。 各場でが の の の の の の の の の の の の の の の の の の の	容詞・名詞)を修得し、文構造からことができる。 動切に応答できる。 こ名詞の意味を覚え、同一品詞の語る。 修得する。 文から必要な情報を探し、質問に答 われる表現を修得し、英文を聞き質 制や態を理解し、正しい語形の選択 えられる。 こ適切に応答できる。 こ形容詞・副詞の意味を覚え、同一

		16週	前期定期試験		既習事項を整理できる。	
		1週	UNIT9 人物や物の状態	表現	状態を表す形容詞を覚え、 識できる。	人物や物の状態を音声で認
		2週	UNIT9 正しい語形の選	択(形容詞・副詞)	形容詞と副詞の用法を修行 に答えられる。	导し、正しい語形の選択問題
		3週	UNIT10 発言に対するE	自然な応答	英文を聞き発言内容や意思	図を理解し、適切な応答がで
3	BrdO	4週	UNIT10 同一品詞の語彙	ᡎ問題(前置詞)	前置詞の意味と用法を修行 答えられる。	导し、同一品詞の語彙問題に
		5週	UNIT11 語句からの状況 状況判断 (2)	兄判断(2)・会話表現からの	英文を聞き語句や会話表現答えられる。	見から状況を推測し、質問に
		6週	UNIT11 英語の語順での	の読解	英語の語順での読解ができ られる。	きる。英文を読み質問に答え
		7週	UNIT12 否定疑問文に	対する応答(1)	否定疑問文を聞き、適切が	ふ応答ができる。
		8週	UNIT12 正しい語形の)	選択(不定詞・動名詞・分詞)	不定詞・動名詞・分詞の原 選択問題に答えられる。	用法を修得し、正しい語形の
後期		9週	UNIT12 正しい語形の)	選択(不定詞・動名詞・分詞)	不定詞・動名詞・分詞の原 選択問題に答えられる。	用法を修得し、正しい語形の
		10週	UNIT13 位置関係を表す	す表現/スキャニング(2)	声で認識できる。	导し、人や物の位置関係を音 必要な情報を探し、質問に答
		11週	UNIT14 英語の語順での	の聴解	英語の語順での聴解ができ られる。	きる。英文を聞き質問に答え
4	łthQ	12週	UNIT14 同一品詞の語 詞)	ᡎ問題(疑問詞・関係詞・接続	疑問詞・関係詞・接続詞の 語彙問題に答えられる。	の用法を修得し、同一品詞の
		13週	UNIT14 同一品詞の語 詞)	ᡎ問題(疑問詞・関係詞・接続	疑問詞・関係詞・接続詞の 語彙問題に答えられる。	の用法を修得し、同一品詞の
		14週	UNIT15 否定疑問文に	対する応答(2)	否定疑問文を聞き、適切が	ふ応答ができる。
		15週	UNIT15 スキミング(2	2)	スキミングで英文の概要 ^も られる。	や要点を把握し、質問に答え
	-	16週	後期定期試験		既習事項を整理できる。	
評価割合						
			定期試験	演習	課題等	合計
総合評価割合	<u> </u>		60	20	20	100
基礎的能力			60	20	20	100
専門的能力			0	0	0	0

苫小牧	女工業高等	等専門学校	ξ	開講年度	令和04年度 (2	2022年度)	授	業科目	英語ⅢA)	(情報科	料学・工学系
科目基礎	数 計量報								,		
科目番号	LIDTK	0060				科目区分		一般 / 必(修		
授業形態		授業				単位の種別と単位	 位数	履修単位:			
開設学科			科 (一般科目)		対象学年		3			
開設期		通年				週時間数		前期:2 後	———— 期:4		
教科書/教	材			nce for Everyo	one [金星堂] /夏	-	Proof F	ence [Oxfo	ord Univer	sity Press	s] /リーディン
担当教員		東 俊文									
到達目標	Ē										
1. 英検準 2. 平易な	■2級~2級 ↓英文を迅速	なレベルの語 なかつ大量に と通して、海	彙・ 読ん 外の	文法・文構造を で、その内容を 様々な事情や問	理解しながら、英 日本語で説明でき 問題を知ることがで	文内容を正確に読 る。 きる。	み取れる	る。			
ルーブリ	Jック										
			理	里想的な到達レイ	ベルの目安	標準的な到達レ	ベルの目]安	未到達レ	ベルの目	 安
評価項目1			文 船	文法・文構造をF	吸レベルの語彙・ 里解しながら、一 を正確に読み取れ	英検準2級~25 文法・文構造を 本的な英文内容 る。	理解した	よがら、基	文法・文	構造を理解	レベルの語彙・ 解しながら、基 正確には読み取
評価項目2			A	しで、その内容を きる。	迅速かつ大量に読 を日本語で説明で	平易な英文を迅 で、その内容を る。	速かつが日本語で	大量に読ん で説明でき	平易な英 でも、そ きない。	文を迅速 の内容をl	かつ大量に読ん 日本語で説明で
評価項目3			۱J	英文教材の読解を よび海外の諸事性 記ることが出来る	を通して、国内お 青や諸問題を深く る。	英文教材の読解よび海外の諸事を知ることが出	情や諸問	て、国内お 問題の概要	および海	の読解を 外の諸事 ことが出	通しても、国内 情や諸問題の概 来ない。
学科の到	」達目標項	目との関	係								
Ⅰ 人間 黒 実践 Ⅲ 国際	件										
教育方法											
概要	- 13	教科書を プリント 2本立て る。	使っ を使 で行	て語彙や文構造 って大量の平易 なう。また教科	が難しめの英文を な英文を直読直解 書授業では、文法	分析的に理解する で迅速に理解する や英作文の演習問	精読授詞 多読・記 題を数	業(Intens 速読授業(多くこなす	ive Readin Extensive に ことにより	g)と、英 and Rapid 、英語基研	を文副読本や配布 d Reading)の 楚力の充実を図
授業の進め	か方・方法	順に進めて制造本	てい	く。各Unit 終了 多読速読授業】	nit (6ページでワ 7後に小テストを実 図書館授業では 図書館授業では、配布さ	態施する。 、各自が選んだ英	文副読	本を自分の	ペースで読	み、「読書	書記録手帳1に
注意点		辞書を引 【副読本い。豊富初見の英	き等なすった。	がら自力で内容 多読速読授業】 絵・写真を参照 対して逐語訳せ	nit 2 ~ 3 ページ目 理解、復習では英 図書館授業では しながら、出来る ずにフレーズごと	文の音読・筆写と 、自分の好みとレ だけ日本語に訳さ 英語の語順のまま	語彙の ベルに ず英語 理解する	習得に努め 合った副読 のまま理解 ることが大	ること。 本を選んで するのがポ 切。	英文読書で イント。 教	を楽しんでほし 教室授業では、
		※成績評 ただし定 ※再試験 試験の成	伽斯と 類と 積(正期試験30% 験と到達度試験 評価: 評価が 計60%) に置	6、到達度試験30 の評価割合は、授 60点に達しない き換えて再評価を	%、その他(各種 業時数に比例させ 者には再試験を実 行なう。	Eテスト て前期 施する。	・課題・予 1:後期2 。この場合	省状況)4 とする。 、再試験の	び%の割 式績は定期	当で評価 9 る。 期試験と到達度
授業の属	[性・履修	上の区分									
	イブラーニ			ICT 利用		☑ 遠隔授業対応	<u></u>		□ 実務総	<u> 圣験</u> のある	る教員による授業
	<u> </u>	<u> </u>									
授業計画	 I						·				
		週	授業	内容			週ごと	の到達目標			
		1週	ガイ	'ダンス(シラ/ t 1 Chocolate	(スの説明) Power!		英文を 使役動	内容を理解 詞の用法に	しながら読 ついて理解	むことが すること	ことができる。 ができる。
		2週	Unit	t 1 Chocolate	Power!		英文を 使役動	:内容を理解 詞の用法に	とながら読 さいて理解	むことが すること	ことができる。 ができる。
		3週	Unit	t 2 An End to	Malaria?		受動態	について理	解すること	ができる	
		4週	Unit	t 2 An End to	Malaria?		英文を 受動態	内容を理解について理	しながら読 解すること	むことが ができる	ことができる。
前期	1stQ	5週	Unit	t 3 Spiders in	Space?		接続詞	について理	解すること	ができる	
		6週		t 3 Spiders in	•		接続詞	について理	解すること	ができる	
		7週	Tex	t!	essed or Annoye		英文を 動名詞	:内容を理解 について理	引いながら読 解すること	むことが ができる	ことができる。 。
		8週	Tex		essed or Annoye	d? Talk, Don't	動名詞	について理	解すること	ができる	
	2ndQ	9週	Unit	t 5 Speeding :	Sharks						ことができる。 ことができる。

		Ι			古立名	・	
		10週	Unit 5 Speeding	g Sharks	That	D様々な用法につい	<u>ヽて理解することができる。</u>
		11週	Unit 6 Asteroid	Special Delivery	英文を To不知。	と内容を理解しなが 定詞の基本的用法に	ら読むことがことができる。 こついて理解することができる
		12週	Unit 6 Asteroid	Special Delivery	英文を To不知。	内容を理解しなが に詞の基本的用法に	ら読むことがことができる。 こついて理解することができる
		13週	Unit 7 "Dung B	eetle" Car Powered by Poop		c内容を理解しなが いて理解すること	ら読むことがことができる。 ができる。
		14週	Unit 7 "Dung B	eetle" Car Powered by Poop	分詞っ	Oいて理解すること	
		15週	夏期課題導入		夏期語 課題「 動機付	₹題の物語の主要登 フークシートへの取 けけが得られる。	場人物と粗筋が理解できる。 組みを通じて、英文読書への
		16週	前期定期試験				
		1週	夏期課題テスト 多読速読演習		中でき 四択問	きる。初見の説明文 問題の正解を選べる	
		2週	多読速読演習		中でき	は物語を直読直解し きる。初見の説明文 問題の正解を選べる	て楽しみながら英文読書に集 の意味内容を素早く理解し、 。
		3週	Unit 8 Robot So	cientist			ら読むことがことができる。 理解することができる。
	3rdQ	4週	Unit 9 Skyscrap	per Farms		と内容を理解しなが まについて理解する	ら読むことがことができる。 ことができる。
	SidQ	5週	多読速読演習		中でき	は物語を直読直解し きる。初見の説明文 問題の正解を選べる	で楽しみながら英文読書に集 の意味内容を素早く理解し、
		6週	多読速読演習		中でき	は物語を直読直解し きる。初見の説明文 問題の正解を選べる	て楽しみながら英文読書に集 の意味内容を素早く理解し、 。
		7週	Unit 10 Thanks	to Your Twin Brother		と内容を理解しなが こついて理解するこ	ら読むことがことができる。 とができる。
後期		8週	Unit 11 Butterf 後期到達度試験	lies Find a Cure	英文を 仮主語	と内容を理解しなが 唇について理解する	ら読むことがことができる。 ことができる。
		9週	多読速読演習		中でき	は物語を直読直解し きる。初見の説明文 問題の正解を選べる	て楽しみながら英文読書に集 の意味内容を素早く理解し、 。
		10週	多読速読演習		中でき	は物語を直読直解し きる。初見の説明文 問題の正解を選べる	て楽しみながら英文読書に集 の意味内容を素早く理解し、 。
		11週	Unit 12 Warnin	g: Sticky Dust!			ら読むことがことができる。 解することができる。
	4thQ	12週	Unit 13 From tl	ne Jungles of Mount Samko	英文を 関係代 る。	と内容を理解しなが は名詞の非制限用法	ら読むことがことができる。 について理解することができ
		13週	多読速読演習		中でき	は物語を直読直解し る。初見の説明文 問題の正解を選べる	て楽しみながら英文読書に集 の意味内容を素早く理解し、 。
		14週	多読速読演習 Unit 14 The Bir	th of an Ocean	英文を		ら読むことがことができる。 理解することができる。
		15週	Unit 15 A Hear	t That Doesn't Beat			ら読むことがことができる。 することができる。
		16週	後期定期試験				
評価割合	Ì						
			定期試験	到達度試験	各種テス 予習状況	スト・課題提出物・ Rなど	合計
総合評価書	<u>—</u> 削合		30	30	40		100
基礎的能力	J		30	30	40		100

	牧工業高	等専門学校	開講年度	令和04年度 (2	.022年度)	授業科目	英語ⅢB(情報科学・工学系)
科目基础	楚情報						
科目番号		0061			科目区分	一般 / 必修	
授業形態		授業			単位の種別と単位		2
開設学科			(一般科目)		対象学年	3	
開設期		通年		1.::d== . T::::= . T	週時間数 (吉爾常) (1	2	'田 M - / / / / / / / / / /
教科書/教	材	教科書:高 語」(大修	i山方倒 TTOEIC B 館),「TOEIC Bi	Bridge: Training T dge 公式ガイドブッ	ips」(開雲星)/マ y ク」国際ビジネス	参考図書: 中色光 コミュニケーショ	男、他(編集)「ジーニアス総合英 ョン協会
担当教員		松田 奏保					
2. 標準的 3. 一般的 4. 継続的	的な英文の 的な単語や 的な英文の 的な学習に	内容を日本語で 構文、語法・文 読解や聴解がで よって,第4学	て法を理解できる。 ごきる。	ICにおいて400点以	(上の取得が可能と)	なる基礎力を確認	2できる。
ルーブ!	リック		理想的な到達レ	ベルの日空(値)	標準的な到達レベ	リの日空(白)	
			+	ヘルの日女(愛) 内容を日本語で正	保集的な到達レバ 一般的な英文の内		未到達レベルの目安(不可) 一般的な英文の内容を日本語で説
評価項目:	1		確に説明できる。		明できる。	合で日本品で記	明できない。
評価項目2	2		標準的な単語や構	構文、語法・文法 きる。	標準的な単語や構造の基本を理解でき	文、語法・文法	標準的な単語や構文、語法・文法 を理解できない。
評価項目:	3		1	読解や聴解が正確	一般的な英文の基準ができる。		一般的な英文の読解や聴解ができない。
評価項目4	4		継続的な学習に。 受験するTOEIC	よって, 第4学年で において400点以 となる基礎力を確	継続的な学習によ 受験するTOEICに 上の取得を目指せ できる。	おいて400点以	継続的な学習によって,第4学年で受験するTOEICにおいて400点以上の取得を目指せる基礎力を確認できない。
		項目との関係	•				
I 人間 Ⅱ 実践 Ⅲ 国際	間性 浅性 ^{然供}						
概要	A 11	 「語彙力」	 「文法力」「読解		 総合的に養成し、第		・TOEICテストにおいて、スコア
授業の進む 注意点	め方・方法 		この場合, 学年末に	1回実施し,冉試験	へ合の壁解を床める ご評価する。学業成績 の成績は定期試験の	ためのフラフトが 績が60点未満のす の成績に置き換え	展開でいた。
		2) 積極的	な姿勢で問題演習	め、主体的な学習を に取り組むこと。 必ず持参すること。	継続すること。		- C
授業の属	三性・履	2) 積極的 3) 授業の	な姿勢で問題演習	め、主体的な学習を に取り組むこと。 必ず持参すること。	継続すること。		- C + 7 9 Iuu C J > 0
	属性・履(ティブラー:	2) 積極的 3) 授業の 修上の区分	な姿勢で問題演習	に取り組むこと。	継続すること。 ☑ 遠隔授業対応		
□ アクラ	ティブラーニ	2) 積極的 3) 授業の 修上の区分	な姿勢で問題演習時には英和辞書を	に取り組むこと。			
□ アクラ	ティブラーニ	2) 積極的; 3) 授業の 修上の区分 ニング	な姿勢で問題演習時には英和辞書を	に取り組むこと。	☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
□ アクラ	ティブラーニ	2) 積極的; 3) 授業の 修上の区分 ニング	な姿勢で問題演習時には英和辞書をの は英和辞書をの □ ICT 利用 受業内容	に取り組むこと。 必ず持参すること <u>。</u>	☑ 遠隔授業対応	週ごとの到達目標	□ 実務経験のある教員による授業
□ アクラ	ティブラーニ	2) 積極的; 3) 授業の 修上の区分 ニング	な姿勢で問題演習時には英和辞書を	に取り組むこと。 必ず持参すること <u>。</u>	☑ 遠隔授業対応 遅	型ごとの到達目標 引の回りの物や場	□ 実務経験のある教員による授業 「の名称を音声で認識できる。
□ アクラ	ティブラーニ	2) 積極的; 3) 授業の 修上の区分 二ング 週 担 1週 U	な姿勢で問題演習時には英和辞書をの は英和辞書をの □ ICT 利用 受業内容	に取り組むこと。 必ず持参すること。 物・場所の名称	② 遠隔授業対応 週 貞	型ごとの到達目標 引の回りの物や場	□ 実務経験のある教員による授業 「の名称を音声で認識できる。
□ アクラ	ティブラーニ	2) 積極的: 3) 授業の 修上の区分 こング 週	な姿勢で問題演習時には英和辞書を □ ICT 利用	に取り組むこと。 必ず持参すること。 物・場所の名称 語彙問題(動詞)	② 遠隔授業対応 退 身	週ごとの到達目標 引の回りの物や場 カ詞の意味と語法	□ 実務経験のある教員による授業 「の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答
□ アクラ	ティブラーニ	2) 積極的; 3) 授業の 修上の区分 二ング 週	な姿勢で問題演習時には英和辞書を □ ICT 利用 □ ICT 利用 □ ICT 利用 □ ICT 利用 □ ICT 利用	に取り組むこと。 必ず持参すること。 物・場所の名称 語彙問題(動詞) への応答	図 遠隔授業対応 退 身 へ 記	型ごとの到達目標 計の回りの物や場 計詞の意味と語法 もられる。 小疑問文に応答で ものからトピック	□ 実務経験のある教員による授業 所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答
□ アクラ	ティブラーニ	2) 積極的: 3) 授業の 修上の区分 三ング 週	な姿勢で問題演習時には英和辞書を □ ICT 利用 ②業内容 INIT1 身の回りの INIT1 同一品詞の INIT2 wh疑問文へ	に取り組むこと。 必ず持参すること。 物・場所の名称 語彙問題(動詞) の応答	図 遠隔授業対応 退 身 へ 記 記	過ごとの到達目標 計詞の意味と語法 とられる。 小疑問文に応答で 語句からトピック で考えられる。 語句から状況の推	□ 実務経験のある教員による授業 所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 できる の類推ができる。英文を読解し質問
□ アクラ	ディブラー <u>:</u> 画	2) 積極的: 3) 授業の 修上の区分 二ング 週	な姿勢で問題演習時には英和辞書を INIT1 身の回りの INIT1 身の回りの INIT1 同一品詞の INIT2 wh疑問文へ INIT2 トピックの INIT3 語句からの INIT3 語句からの	に取り組むこと。 必ず持参すること。 物・場所の名称 語彙問題(動詞) の応答	☑ 遠隔授業対応 退 () () () () () () ()	過ごとの到達目標 計の回りの物や場 計詞の意味と語法 さられる。 け疑問文に応答で 哲句からトピック で答えられる。 哲句から状況の推 である。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	□ 実務経験のある教員による授業 所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 できる の類推ができる。英文を読解し質問 測ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造から
□ アクラ	ディブラー <u>:</u> 画	2) 積極的: 3) 授業の	な姿勢で問題演習時には英和辞書を ICT 利用 W業内容 WIT1 身の回りの WIT1 同一品詞の WIT2 wh疑問文へ WIT3 語句からの WIT3 派生語(動	に取り組むこと。 必ず持参すること。 物・場所の名称 語彙問題 (動詞) への応答 類推 状況判断 (1) 詞・形容詞・名詞)	図 遠隔授業対応 退 身 素 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	過ごとの到達目標 計の回りの物や場 計詞の意味と語法 さられる。 いが疑問文に応答で 語句からトピック 一答えられる。 語句から状況の推 される。 では語(動詞・形 にいいいに にいいいに ではいいに ではいいに できまる。	□ 実務経験のある教員による授業 所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 できる の類推ができる。英文を読解し質問 測ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造から ことができる。
□ アクラ	ディブラー <u>:</u> 画	2) 積極的: 3) 授業の	な姿勢で問題演習時には英和辞書を □ ICT 利用 ②業内容 INIT1 身の回りの INIT1 同一品詞の INIT2 wh疑問文へ INIT2 トピックの INIT3 語句からの INIT3 派生語(動 INIT4 yes/no疑問	に取り組むこと。 必ず持参すること。 物・場所の名称 語彙問題 (動詞) の応答 類推 状況判断 (1) 詞・形容詞・名詞)	☑ 遠隔授業対応 遅 貞 素、 w 誤 に が ゴ 火 糸	過ごとの到達目標 かの回りの物や場 かい でいる いっぱい でいる いっぱい でいる いっぱい でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でき いい	□ 実務経験のある教員による授業所の名称を音声で認識できる。を理解し、同一品詞の語彙問題に答 できるの類推ができる。英文を読解し質問 測ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造からことができる。 適切に応答できる。 に名詞の意味を覚え、同一品詞の語
□ アクラ	ディブラー <u>:</u> 画	2) 積極的: 3) 授業のi 1 2 2 3 2 3 3 2 4 3 4 4 4 4 4 4 4 4	な姿勢で問題演習時には英和辞書を ICT 利用 W業内容 INIT1 身の回りの INIT1 同一品詞の INIT2 wh疑問文へ INIT3 語句からの INIT3 派生語(動 INIT4 yes/no疑問	に取り組むこと。 必ず持参すること。 物・場所の名称 語彙問題 (動詞) への応答 類推 状況判断 (1) 詞・形容詞・名詞) 対への応答 語彙問題 (名詞)	図 遠隔授業対応 退 員 重え い 記 に 部 が 五 り 経 類 を を り り り り り り り り り り り り り り り り り	型ごとの到達目標子の回りの物や場が開かる。 かられる。 が疑問文に応答で を含えられる。 を行うから状況の推 を行る。 を行る。 を対しているが をがまままでしているが をがしているが をがしているが をがっているが をがしなが をがしなが をがしながらが をがしながらが をがしながらが をがしながらが をがしなが	□ 実務経験のある教員による授業所の名称を音声で認識できる。を理解し、同一品詞の語彙問題に答 できるの類推ができる。英文を読解し質問 できる。英文を聞き質問に答え を調・名詞)を修得し、文構造からことができる。 適切に応答できる。 に名詞の意味を覚え、同一品詞の語る。
□ アクラ	ディブラー <u>:</u> 画	2) 積極的: 3) 授業の	な姿勢で問題演習時には英和辞書を INIT I JA INIT	に取り組むこと。 必ず持参すること。 物・場所の名称 語彙問題(動詞) の応答 類推 状況判断(1) 詞・形容詞・名詞) 対への応答 語彙問題(名詞) 表現/スキャニング	□ 遠隔授業対応 □ 遠隔授業対応 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	型ごとの到達目標 計画の意味と語法 ではいる。 が疑問文に応答で を持つかられる。 が経問ないに応答で を持つからが、況の推 ではいる。 をはいる。 をはいるでで をがいるでは、 をはいるでで をがいるでは、 をはいるでで をいるで をいる をいるで をいるで をいるで をいるで をいるで をいるで をいるで をいるで をいるで をいるで をいる をいる をいるで をいるで をいる をいる をいる をいる をいる をいる をい をいる をいる	□ 実務経験のある教員による授業 所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 できる の類推ができる。英文を読解し質問 関ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造から ことができる。 適切に応答できる。 に名詞の意味を覚え、同一品詞の語 る。 修得する。 文から必要な情報を探し、質問に答
□ アクラ	ディブラー <u>:</u> 画	2) 積極的: 3) 授業のi 1回 1回 1回 1回 1回 1回 1回 1	な姿勢で問題演習時には英和辞書を □ ICT 利用 ②業内容 INIT1 身の回りの INIT1 同一品詞の INIT2 wh疑問文へ INIT3 語句からの INIT3 派生語(動 INIT4 yes/no疑問 INIT4 同一品詞の INIT5 人物の動作 INIT5 人物の動作	に取り組むこと。 必ず持参すること。 物・場所の名称 語彙問題(動詞) への応答 類推 状況判断(1) 詞・形容詞・名詞) 可文への応答 語彙問題(名詞) 表現/スキャニンク らの状況判断(1)	□ 遠隔授業対応 □ 遠隔授業対応 □ 貞 ■ 素 □ w □ 記(こ) ※ 演 ボーン、 を見し	型ごとの到達目標 計画の意味と語法 が見りの物や場 が見りないる。 が疑問文に応答で を含えられ、況の推 を含えられ、況の推 をがいる。 をはいる。 をはいる。 をはいるとには、 をはいるとには、 をはいると、 をはいるとは、 をはいるとは、 をはいるとは、 をはいるとは、 をはいるとは、 をはいるとは、 をはいるとは、 をはいるとは、 をはいるとは、 をはいるとは、 をはいるとは、 をはいるとは、 をはいるとは、 をはいるとは、 をはいるとは、 をはいるとは、 をはいるとは、 をはいるとは、 をはいるとないる。 をはいるとないる。 をはいるとないる。 をは	□ 実務経験のある教員による授業 所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 できる の類推ができる。英文を読解し質問 関ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造から ことができる。 適切に応答できる。 に名詞の意味を覚え、同一品詞の語 る。 修得する。 文から必要な情報を探し、質問に答 われる表現を修得し、英文を聞き質
□ アクラ	ライブラー <u>:</u> 画	2) 積極的: 3) 授業の	な姿勢で問題演習時には英和辞書を INIT I JA INIT	に取り組むこと。 必ず持参すること。 物・場所の名称 語彙問題(動詞) への応答 類推 状況判断(1) 詞・形容詞・名詞) 可文への応答 語彙問題(名詞) 表現/スキャニンク らの状況判断(1)	□ 遠隔授業対応 □ 遠隔授業対応 □ 貞 ■ 素 ○ W 記 に に に に に に に に に に に に に	型ごとの到達目標 をの回りの物や語法 が疑問文に応答で を行うない。 が疑問文に応答で を対かららい。 を行うない。 を行うない。 を対かる。 を対かる。 を対かる。 を対かる。 を対かる。 を対かる。 を対かる。 を対かる。 を対かる。 を対かる。 を対かる。 を対かる。 を対かる。 を対し、 をがし、 を	□ 実務経験のある教員による授業 所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 できる の類推ができる。英文を読解し質問 測ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造から ことができる。 適切に応答できる。 に名詞の意味を覚え、同一品詞の語 る。 修得する。 文から必要な情報を探し、質問に答 われる表現を修得し、英文を聞き質 制や態を理解し、正しい語形の選択 えられる。
□ アクラ	ディブラー <u>:</u> 画	2) 積極的: 3) 授業の	な姿勢で問題演習時には英和辞書を □ ICT 利用 ②業内容 INIT1 身の回りの INIT1 同一品詞の INIT2 wh疑問文へ INIT3 語句からの INIT3 派生語(動 INIT4 yes/no疑問 INIT4 同一品詞の INIT5 人物の動作 INIT5 人物の動作	に取り組むこと。 必ず持参すること。 物・場所の名称 語彙問題(動詞) の応答 類推 状況判断(1) 詞・形容詞・名詞) 引文への応答 語彙問題(名詞) 表現/スキャニング らの状況判断(1) の選択(動詞)	□ 遠隔授業対応 返 重 素 、 い 記 に に が に が に が が に に が が に に が に に に に に に に に に に に に に	型ごとの到達目標 をの回りではといい。 をいいのでは、といいでは、 をはいいのでは、といいでは、 をはいいのでは、 をはいいのでは、 をはいいのでは、 をはいいのでは、 をはいいのでは、 をはいいのでは、 をはいいのでは、 をはいいのでは、 をはいいのでは、 をはいいがは、 をはいいがは、 をはいがはいがは、 をはいがはいがはいがはいがはいがはいがはいがはいがはいがはいがはいがはいがはいがは	□ 実務経験のある教員による授業 所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 できる の類推ができる。英文を読解し質問 測ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造から ことができる。 切に応答できる。 に名詞の意味を覚え、同一品詞の語 る。 (では、文本のできる。) ではいいできる。 では、文本のできる。 に名詞の意味を覚え、同一品詞の語 る。 を得する。 なから必要な情報を探し、質問に答 われる表現を修得し、英文を聞き質 制や態を理解し、正しい語形の選択 えられる。 に適切に応答できる。
□ アクラ	ライブラー <u>:</u> 画	2) 積極的: 3) 授業の 1 の区分 1 の	は姿勢で問題演習時には英和辞書を □ ICT 利用 ②業内容 INIT1 身の回りの INIT1 同一品詞の INIT2 wh疑問文へ INIT3 語句からの INIT3 派生語(動 INIT4 pes/no疑問 INIT4 同一品詞の INIT5 人物の動作 INIT6 会話表現か INIT6 正しい語形	に取り組むこと。 必ず持参すること。 物・場所の名称 語彙問題(動詞) の応答 類推 状況判断(1) 詞・形容詞・名詞) 引文への応答 語彙問題(名詞) 表現/スキャニング らの状況判断(1) の選択(動詞)	□ 遠隔授業対応 □ 遠隔授業対応 □ 貞重ス □ W 記に □ 記と 派	型ごとの到達自物と語言との可能を表する。 を対している。 がいいのでは、 がいいのでは、 がいいのでは、 がいいのでは、 がいいのでは、 がいいのでは、 でいいのでいいのでは、 でいいのでいいのでいいのでは、 でいいのでいのでいいのでは、 でいいのでいのでいいのでいのでいのでいのでいのでいのでいのでいのでいのでいのでい	□ 実務経験のある教員による授業 所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 できる の類推ができる。英文を読解し質問 測ができる。英文を聞き質問に答え 容詞・名詞)を修得し、文構造から ことができる。 適切に応答できる。 に名詞の意味を覚え、同一品詞の語 る。 修得する。 文から必要な情報を探し、質問に答 われる表現を修得し、英文を聞き質 制や態を理解し、正しい語形の選択 えられる。 に適切に応答できる。 に適切に応答できる。 にだ容詞・副詞の意味を覚え、同一答えられる。
	ライブラー <u>:</u> 画	2) 積極的: 3) 授業の 1 の区分 1 の	は姿勢で問題演習時には英和辞書を □ ICT 利用 ②業内容 INIT1 身の回りの INIT1 同一品詞の INIT2 wh疑問文へ INIT3 語句からの INIT3 派生語(動 INIT4 pes/no疑問 INIT4 同一品詞の INIT5 人物の動作 INIT6 会話表現か INIT6 正しい語形	に取り組むこと。 必ず持参すること。 物・場所の名称 語彙問題(動詞) の応答 類推 状況判断(1) 詞・形容詞・名詞) 引文への応答 語彙問題(名詞) 表現/スキャニンク らの状況判断(1) の選択(動詞) 疑問文への応答 語彙問題(形容詞・	□ 遠隔授業対応 □ 遠隔授業対応 □ 貞重ス □ W 記 に 記・	型ごとの到達を をいることのののは をいることでは、 をはいるでする。 をはいるでする。 をはいるでする。 をはいるでする。 をはいるでする。 をはいるできる。 とはいるできる。 とないるできる。 とないるできる。 とないるできる。 とないるでもな。 とないるでもな。 とないるでもな。 とないるできる。 とないるでもな。 とないるでもな。 とないるでもな。 とないるでな。 とないるでもな。 とないるでもな。 とないるでもな。 とないるでもな。 とないるでもな。 とないるでもな。 とないるでもな。 とないるでもな。 とないる。	□ 実務経験のある教員による授業 「所の名称を音声で認識できる。 を理解し、同一品詞の語彙問題に答 「きるの類推ができる。英文を読解し質問 「測ができる。英文を聞き質問に答え 「容詞・名詞)を修得し、文構造から ことができる。 「の切に応答できる。 「に名詞の意味を覚え、同一品詞の語る。 「後得する。 「なから必要な情報を探し、質問に答われる表現を修得し、英文を聞き質 制や態を理解し、正しい語形の選択えられる。 「に形容詞・副詞の意味を覚え、同一

		16週	前期定期試験		既習事項を整理できる。			
		1週	UNIT9 人物や物の状態	表現	状態を表す形容詞を覚え、 識できる。	人物や物の状態を音声で認		
		2週	UNIT9 正しい語形の選	択(形容詞・副詞)	形容詞と副詞の用法を修行 に答えられる。	导し、正しい語形の選択問題		
		3週	UNIT10 発言に対するE	自然な応答	英文を聞き発言内容や意思	図を理解し、適切な応答がで		
3	BrdO	4週	UNIT10 同一品詞の語彙	ᡎ問題(前置詞)	前置詞の意味と用法を修行 答えられる。	导し、同一品詞の語彙問題に		
		5週	UNIT11 語句からの状況 状況判断 (2)	兄判断(2)・会話表現からの	英文を聞き語句や会話表現答えられる。	見から状況を推測し、質問に		
		6週	UNIT11 英語の語順での	の読解	英語の語順での読解ができ られる。	きる。英文を読み質問に答え		
		7週	UNIT12 否定疑問文に	対する応答(1)	否定疑問文を聞き、適切が	ふ応答ができる。		
		8週	UNIT12 正しい語形の)	選択(不定詞・動名詞・分詞)	不定詞・動名詞・分詞の原 選択問題に答えられる。	用法を修得し、正しい語形の		
後期		9週	UNIT12 正しい語形の)	選択(不定詞・動名詞・分詞)	不定詞・動名詞・分詞の原 選択問題に答えられる。	用法を修得し、正しい語形の		
		10週	UNIT13 位置関係を表す	す表現/スキャニング(2)	声で認識できる。	导し、人や物の位置関係を音 必要な情報を探し、質問に答		
		11週	UNIT14 英語の語順での	の聴解	英語の語順での聴解ができ られる。	英語の語順での聴解ができる。英文を聞き質問に答え られる。		
4	łthQ	12週	UNIT14 同一品詞の語 詞)	ᡎ問題(疑問詞・関係詞・接続	疑問詞・関係詞・接続詞の 語彙問題に答えられる。	の用法を修得し、同一品詞の		
		13週	UNIT14 同一品詞の語 詞)	ᡎ問題(疑問詞・関係詞・接続	疑問詞・関係詞・接続詞の 語彙問題に答えられる。	の用法を修得し、同一品詞の		
		14週	UNIT15 否定疑問文に	対する応答(2)	否定疑問文を聞き、適切が	ふ応答ができる。		
		15週	UNIT15 スキミング(2	2)	スキミングで英文の概要 ^も られる。	や要点を把握し、質問に答え		
	-	16週	後期定期試験		既習事項を整理できる。			
評価割合								
			定期試験	演習	課題等	合計		
総合評価割合	<u> </u>		60	20	20 100			
基礎的能力			60	20	20 100			
専門的能力			0	0	0	0		

苫小牛	·····································	 等専門学校	開講年度 令和04年度(授業科目	 国語Ⅲ(電気電子系)
科目基礎			, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			
科目番号	∠ID+X	0062		科目区分	一般 / 必修	冬
授業形態		授業		単位の種別と単位		
開設学科			科(一般科目)	対象学年	3	
開設期		通年		週時間数	2	
教科書/教	***		現代文B』(数研出版)/参考図書は	1	12	
担当教員	(1/2)	蓼沼 正美		旭田和川する		
到達目標	5		:			
1. 論理的 2. 文学的 3. 語句の	りな文章にで りな文章にで の意味、用法	ついて、その	論理の展開や要旨を捉えることができ 登場人物、情景、心情などを捉えるこ 文体や修辞などの表現上の特色を捉え	ことができる。		
ルーブリ	ノック		T	T		T
			理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベ		未到達レベルの目安(不可)
評価項目:	1		論理的な文章について、その論理 の展開や要旨を的確に捉えること ができる。	論理的な文章につ の展開や要旨をあ えることができる	る程度的確に捉 。	論理的な文章について、その論理 の展開や要旨を的確に捉えること ができない。
評価項目 2	2		文学的な文章について、その登場 人物、情景、心情などを的確に捉 えることができる。	文学的な文章につ 人物、情景、心情 的確に捉えること	などをある程度	文学的な文章について、その登場 人物、情景、心情などを的確に捉 えることができない。
評価項目3	3		語句の意味、用法を理解し、文体 や修辞などの表現上の特色を的確 に捉えることができる。	語句の意味、用法 や修辞などの表現 程度的確に捉える	上の特色をある	語句の意味、用法を理解し、文体 や修辞などの表現上の特色を的確 に捉えることができない。
学科の至	別達目標項	目との関	 係			
I 人間 Ⅱ 実践 Ⅲ 国際	鮏					
教育方法	 法等					
概要	- · · · · ·	豊かにする	降の様々な文章や作品を読解し鑑賞す る態度を育てる。また、言語文化に対 態度を育てる。	る能力を高めるとと する関心を深め、言	さに、ものの見だ 語感覚を豊かにし	方、感じ方、考え方を深め、人生を し、積極的に国語を尊重してその向
授業の進め	か方・方法	評価にを通算平成	には講義形式の一斉授業の形態を取る ついては、中間試験35%、定期試験4 均して年間評価を求める。合格点は66 ることがある。この場合、再試験の成 60点を上限とする。	0%、提出課題等25 0点である。なお、育 績は定期試験の成績	%の割合で評価す 前期成績及び学年 [に置き換えて再]	ける。学年末に前期成績と後期成績と 末成績が60点未満の場合は、再試験 評価を行う。再評価を受けた場合の
注意点	alth . 居化	教科音・ ず授業前 上の区分	、ノートは毎時間、国語便覧、国語辞 に目を通しておき、授業後は教授され	音寺は、必安に心し た内容を確認しなか	、	る。投棄で扱う教材については、必ちたっておくようにすること。
	- イブラーニ		☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
1= 11/-1 =						
授業計画	1					
		週	授業内容	ù	固ごとの到達目標	
			オリエンテーション 論理的表現(評論)を読む 「手の変幻」(清岡卓行)		受業の目的・方針 吾句の意味、用法	等を理解する。 を理解し、的確に使うことができる
		2週	「手の変幻」 (清岡卓行)		とができる。	の見方、感じ方、考え方を深めるこ
		3週	「手の変幻」 (清岡卓行)		<u>とができる。</u>	の見方、感じ方、考え方を深めるこ
ı	1stQ	4週	「手の変幻」(清岡卓行)		とができる。	に注意して、主題や要旨を捉えるこ
		5週	「胆力について」(内田樹)	0		の見方、感じ方、考え方を深めるこ
		6週	「胆力について」(内田樹)		<u>とができる。</u>	に注意して、主題や要旨を捉えるこ
前期		7週	「胆力について」(内田樹) 	-	とができる。 これまでの授業内	容について、様々な角度から説明す
		9週			3 <i>ことができる。</i> 吾句の意味、用法	を理解し、的確に使うことができる
		10週	「科学者とは何か」(村上陽一郎):	プロント教材	 文章を読んでもの とができる。	の見方、感じ方、考え方を深めるこ
		11週	「科学者とは何か」(村上陽一郎):	プロント教材		の見方、感じ方、考え方を深めるこ
ı	2ndQ	12週	「科学者とは何か」(村上陽一郎):	プリント教材。	吾句の意味、用法	を理解し、的確に使うことができる
		13週	「科学者とは何か」(村上陽一郎):	フリント教物	とができる。	の見方、感じ方、考え方を深めるこ
		14週	「科学者とは何か」(村上陽一郎):	プロント教材	文章を読んでもの	の見方、感じ方、考え方を深めるこ

		15週	「科学者とは何か」(村上陽一郎):プリント教材	文章の構成や展開に注意しとができる。	して、主題や要旨を捉えるこ
		16週	(前期定期試験)			
		1週	文学的表現(小説)を 余裕派及び夏目漱石に		余裕派及び夏目漱石につい	ヽて理解することができる。
		2週	「こころ」(夏目漱石))	文学的な文章について、名意味、用法を的確に理解する場人物のものの見方、原とができる。	それを展開する上での語句の することができるとともに、 感じ方、考え方を理解するこ
		3週	「こころ」(夏目漱石))	文学的な文章について、名意味、用法を的確に理解で登場人物のものの見方、原とができる。	それを展開する上での語句の することができるとともに、 感じ方、考え方を理解するこ
	3.40	4週	「こころ」(夏目漱石))	文学的な文章について、名意味、用法を的確に理解す 登場人物のものの見方、原 とができる。	それを展開する上での語句の することができるとともに、 感じ方、考え方を理解するこ
	3rdQ	5週	「こころ」(夏目漱石))	文学的な文章について、名意味、用法を的確に理解する場人物のものの見方、原とができる。	それを展開する上での語句の することができるとともに、 遂じ方、考え方を理解するこ
		6週	「こころ」(夏目漱石))	文学的な文章について、 意味、用法を的確に理解す 登場人物のものの見方、原 とができる。	それを展開する上での語句の することができるとともに、 遂じ方、考え方を理解するこ
		7週	「こころ」(夏目漱石))	文学的な文章について、名意味、用法を的確に理解る登場人物のものの見方、原とができる。	それを展開する上での語句の することができるとともに、 感じ方、考え方を理解するこ
		8週	中間試験		これまでの授業内容についることができる。	いて、様々な角度から説明す
後期		9週	「こころ」(夏目漱石))	文学的な文章について、そ 意味、用法を的確に理解す	それを展開する上での語句の することができるとともに、 遂じ方、考え方を理解するこ
		10週	「こころ」(夏目漱石))	意味、用法を的確に理解す	それを展開する上での語句の することができるとともに、 感じ方、考え方を理解するこ
		11週	「こころ」(夏目漱石))	意味、用法を的確に理解す	それを展開する上での語句の することができるとともに、 遂じ方、考え方を理解するこ
	4thQ	12週	「こころ」(夏目漱石))	意味、用法を的確に理解す	それを展開する上での語句の することができるとともに、 遂じ方、考え方を理解するこ
		13週	「こころ」(夏目漱石))	意味、用法を的確に理解す	それを展開する上での語句の することができるとともに、 感じ方、考え方を理解するこ
		14週	「こころ」(夏目漱石))	意味、用法を的確に理解する 登場人物のものの見方、原 とができる。	それを展開する上での語句の することができるとともに、 感じ方、考え方を理解するこ
		15週	「こころ」(夏目漱石))		それを展開する上での語句の することができるとともに、 遂じ方、考え方を理解するこ
		16週	(後期定期試験)			
評価割合	<u> </u>				T	
			定期試験	中間試験	課題	合計
総合評価書	副合		40	35	25	100
一般的能力	<u></u>		40	35	25	100

苫小	牧工業高	 等専門学校	交 開講年度 令和04年度 (2	2022年度)	授業科目	国語Ⅲ(応用化学・生物系)
科目基础	礎情報					
科目番号		0063		科目区分	一般 / 必何	· 多
授業形態		授業		単位の種別と単位	立数 履修単位:	2
開設学科		創造工学	学科(一般科目)	対象学年	3	
開設期		通年		週時間数	2	
教科書/教	效材	『現代文	(B』(数研出版)/参考図書は適宜紹介	介する		
担当教員		原田 直信	呆美,時田 紗緒里			
到達目	標					
2、文学 3、漢字	的な文章をや語句他、	読んで、登場	質構造と筆者の主張を理解して説明する 易人物の心情や情景描写を理解して説明 まを理解して適切な表現で文章を書くこ]することができる		
ルーブリ	リック					1
			理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レイ		未到達レベルの目安(不可)
と筆者の ことがで	主張を理解 きる	で、文章構造して説明する	る と筆者の主張を理解して自分の意 見・考えを持つことができる	と筆者の主張を きる	売んで、文章構造 既ね理解し説明で	論理的な文章について構造と筆者 の主張を理解していない
文学的な の心情や すること	情景描写を	で、登場人物 理解して説明 	が 文学的な文章を読んで、登場人物 の心情や情景描写を理解して自分 の意見・考えを持つことができる	文学的な文章を記 の心情や情景描望 明できる	売んで、登場人物 写を概ね理解し説	文学的な文章について登場人物の 心情や情景描写を読みとることが できない
	切な表現で	表現技法を理文章を書くる			文章表現技法を概 を書くことができ	適切な表現で文章を書くことがで きない
学科の	到達目標	項目との関	『			
I 人間 工 実置 工 国間	間性 浅性 終性					
教育方法	法等					
概要		近代以 、さらに 他者の考	、限の文章を対象とする。論理的な文章 文章を読んで自分の意見を持ち論を立 たとの比較ができるようにする。また	・文学的な文章に てることを目標と 、漢字・語句の知	ついて、文意を読 <i>。</i> する。そのために、 識の基礎を身につい	み取り自分の言葉で説明できること . 意見・論を書く機会を多く設けて けて適切な文章を書けるようにする
授業の進	め方・方法	・主体的	体で進め、積極的に意見交換や発表の な取り組みを重視し、ポートフォリオ	を作成し提出して		
注意点		・配当分 当分の 6 ・教科書	t定期試験40%、達成度試験20%、ポー かの評価点が6割に満たない場合は、再 割を上限とする。 は、ノートは毎時間、国語便覧、国語辞 は必須ではないが、復習を行い授業の定	試験を実施するこ 典等は、必要に応	とがある。但し、ネ	再試験を受けた場合の評価点は、配
授業の	属性・履備	修上の区分	}			
☑ アクラ	ティブラーニ	ニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
授業計	画					
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
		1週	オリエンテーション/評価方法及びポー いて	ートフォリオにつ		等を理解している
		2週	「日本語とは非論理的か」(野矢茂樹))	客観的論理的な文 取り理解できる	章(言語)について筆者の主張を読み
		3週	「日本語とは非論理的か」(野矢茂樹))		章(言語)について筆者の主張を読み の意見・論を持つことができる
		4週	「知識社会という幻想」(西垣通)		客観的論理的な文 を読み取り理解で	章(情報・社会)について筆者の主張 きる
	1stQ	5週	「知識社会という幻想」(西垣通)		客観的論理的な文 を読み取り理解し る	章(情報・社会)について筆者の主張、自分の意見・論を持つことができ
		6週	「「文化が違う」とは何を意味する <i>の</i>)	か?」(岡真理	客観的論理的な文 取り理解できる	章(文化)について筆者の主張を読み
前期		7週	「「文化が違う」とは何を意味する <i>の</i> 」)	か?」(岡真理	客観的論理的な文 取り、自分の意見 とができる	章(文化)について筆者の主張を読み・論を他者に伝わるよう表現するこ
		8週	達成度試験		これまでの授業内	容を確認する。
		9週	テスト返却/近代文学史		近代文学史の大ま	かな流れを理解し説明できる
		10週	「こころ」(夏目漱石)		文学的な文章(小詞 理解できる	说)について登場人物の心情や変化を
		11週	「こころ」(夏目漱石)		文学的な文章(小詞 理解できる	说)について登場人物の心情や変化を
	2ndQ	12週	「こころ」(夏目漱石)		文学的な文章(小詞 理解できる	说)について登場人物の心情や変化を
		13週	「こころ」(夏目漱石)		理解できる	说)について登場人物の心情や変化を
		14週	 「こころ」(夏目漱石)		文学的な文章(小語 理解し、自分の意	说)について登場人物の心情や変化を

		15週	「こころ」(夏目漱石)		文学的な文章(小説)につい 理解し、自分の意見・論を	て登場人物の心情や変化を 持つことができる
		16週	前期定期試験		これまでの授業内容を確認	ける
		1週	テスト返却/「である」。	ことと「する」こと(丸山真男	客観的論理的な文章(社会) 取り理解できる	について筆者の主張を読み
		2週	「である」ことと「する	5] こと(丸山真男)	客観的論理的な文章(社会) 取り理解できる	について筆者の主張を読み
		3週	「である」ことと「する	5」こと(丸山真男)	客観的論理的な文章(社会) 取り理解し、自分の意見・	について筆者の主張を読み 論を持つことができる
	3rdQ	4週	「顔の所有」(鷲田清一	-)	客観的論理的な文章(思想) 取り理解し、自分の意見・	について筆者の主張を読み 論を持つことができる
		5週	「顔の所有」(鷲田清一	-)	客観的論理的な文章(思想) 取り理解することができる	について筆者の主張を読み
		6週	近代文学史		前期の内容を踏まえつつ、 を理解し説明できる	近代文学史の大まかな流れ
後期		7週	文学的表現(小説)を読	む 「舞姫」(森鷗外)	擬古文の特徴を知り、小説 ることができる	の時代背景を理解し説明す
後期		8週	中間試験		これまでの授業内容を確認	はな
		9週	「舞姫」(森鷗外)		擬古文の特徴を知り、小説 きる	め内容を読解することがで
		10週	「舞姫」(森鷗外)		登場人物の心情とその変化	どを読み取ることができる
		11週	「舞姫」(森鷗外)		登場人物の心情とその変化	どを読み取ることができる
		12週	「舞姫」(森鷗外)		登場人物の心情とその変化	どを読み取ることができる
	4thQ	13週	「舞姫」(森鷗外)		時代的背景を踏まえ、現代 を比較し違いを理解し説明	こと作中時代とのものの見方 目することができる
		14週	「舞姫」(森鷗外)		時代的背景を踏まえ、現代 を比較し違いを理解して訪	と作中時代とのものの見方 説明することができる
		15週	「舞姫」(森鷗外)		作品を通して文学的文章に 適切に表現することができ	
		16週	後期定期試験		これまでの授業内容を確認	こする。
評価割合	ì					
			定期試験	達成度試験	ポートフォリオ	合計
総合評価割	合		40	20	40	100
一般的能力)		40	20	40	100

苫小华		等専門学校	交	令和04年度 (2022年度)	授業科	4目 国	 国語Ⅲ(都市・顼	
科目基礎				, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,					
科目番号	ACTION IN	0064			科目区分	—— 斜	 殳 / 必修		
授業形態		授業			単位の種別と単位	-	<u>~ / ~ //</u> 8単位: 2		
開設学科			4科(一般科目)		対象学年	3			
開設期		通年			週時間数	2			
教科書/教	 (材	『現代文	ZB』(数研出版)/	参考図書は適宜紹	介する				
担当教員		時田 紗							
到達目標	<u> </u>	'							
1、論理的 2、文学的 3、漢字	的な文章を 的な文章を や語句他、	読んで、登場	質構造と筆者の主張を 易人物の心情や情景 まを理解して適切なま	苗写を理解して説明	目することができる				
ルーブリ	<u> </u>								
			理想的な到達レ		標準的な到達レ			未到達レベルの目	支(不可)
と筆者の3	主張を理解 きる	で、文章構造して説明する	る と筆者の主張を 見・考えを持つ		論理的な文章を記述を と筆者の主張を きる	読んで、文章 既ね理解し記	章構造 说明で 	論理的な文章につい の主張を理解してい	いない
の心情やはすることが	情景描写を ができる	で、登場人物 理解して説明 	月 の心情や情景描 の意見・考えを	読んで、登場人物 写を理解して自分 持つことができる	文学的な文章を の心情や情景描 明できる			文学的な文章につい 心情や情景描写を記 できない	いて登場人物の 売みとることが
	切な表現で	表現技法を理文章を書くる	型 漢字や語句他、 解して適切な表 とができる	文章表現技法を理 現で文章を書くこ	漢字や語句他、これ は理解して文章を る			適切な表現で文章をきない	を書くことがで
学科の至	到達目標工	項目との関	[係						
I 人間 実践 国際 教育方法	美性 発性								
概要	Д .,	、さらに	以降の文章を対象とで 文章を読んで自分の きえとの比較ができる	D意見を持ち論を立	てることを目標と	する。そのた	ために、	意見・論を書く機会	金多く設けて
授業の進む	め方・方法		三体で進め、積極的に 日な取り組みを重視し			もらう。			
注意点		で評価す ・配当分の 6 ・教科書	は定期試験40%、達に期試験40%、達にある。 合格点は60点での評価点が 6割にごうの評価点が 6割にごうまた しょうしょう 割を上限とする。 そのではないが、役割ではないが、役割ではないが、役割ではないが、	である。 満たない場合は、再 国語便覧、国語群	京試験を実施するこ 辞典等は、必要に応	とがある。ん	但し、再	試験を受けた場合の	
授業の属	属性・履作	多上の区分	}						
☑ アクテ	-ィブラーニ	ニング	☑ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応	<u>,</u>		□ 実務経験のある	教員による授業
授業計画	<u> </u>								
		週	授業内容			週ごとの到	達目標		
		 1週	オリエンテーション	ン/評価方法及びポ	ートフォリオにつ	授業の目的	・方針等	穿を理解している	
		2週	「日本語とは非論」	里的か」(野矢茂樹)	 客観的論理 取り理解で		章(言語)について筆	当の主張を読み
		3週	「日本語とは非論理	里的か」(野矢茂樹)	取り理解し	·、自分 <i>0</i>	章(言語)について筆 D意見・論を持つこ	とができる
	1stQ	4週	「知識社会というな	幻想」(西垣通)		を読み取り	理解でき		
	13(Q	5週	「知識社会という	幻想」(西垣通)				意(情報・社会)につい 自分の意見・論を	
		6週	「「文化が違う」。	とは何を意味するの	Dか?」(岡真理	取り理解で	きる	を(文化)について筆	
前期		7週	「「文化が違う」。	とは何を意味するの	Dか?」(岡真理	客観的論理 取り、自分 とができる	的な文章 の意見・	き(文化)について筆で ・論を他者に伝わる。	者の主張を読み よう表現するこ
		8週	達成度試験			これまでの	授業内容	学を確認する。	
		9週	テスト返却/近代文)な流れを理解し説!)について登場人物の	
		10週	「こころ」(夏日)			理解できる 文学的な文	章(小説	,)について登場人物の	
	2ndQ	12週	「こころ」(夏目)				章(小説)について登場人物の	の心情や変化を
		13週	「こころ」(夏日)				章(小説)について登場人物の	の心情や変化を
		14週	「こころ」(夏目)			理解できる 文学的な文 理解し、自	章(小説)について登場人物の 見・論を持つことが	 D心情や変化を できる
		1				生がし、日	ルツ思り	5 聞で対しててい	(CQ

		15週	「こころ」(夏目漱石)		文学的な文章(小説)につい 理解し、自分の意見・論を	て登場人物の心情や変化を 持つことができる
		16週	前期定期試験		これまでの授業内容を確認	ける
		1週	テスト返却/「である」。	ことと「する」こと(丸山真男	客観的論理的な文章(社会) 取り理解できる	について筆者の主張を読み
		2週	「である」ことと「する	5] こと(丸山真男)	客観的論理的な文章(社会) 取り理解できる	について筆者の主張を読み
		3週	「である」ことと「する	5」こと(丸山真男)	客観的論理的な文章(社会) 取り理解し、自分の意見・	について筆者の主張を読み 論を持つことができる
	3rdQ	4週	「顔の所有」(鷲田清一	-)	客観的論理的な文章(思想) 取り理解し、自分の意見・	について筆者の主張を読み 論を持つことができる
		5週	「顔の所有」(鷲田清一	-)	客観的論理的な文章(思想) 取り理解することができる	について筆者の主張を読み
		6週	近代文学史		前期の内容を踏まえつつ、 を理解し説明できる	近代文学史の大まかな流れ
後期		7週	文学的表現(小説)を読	む 「舞姫」(森鷗外)	擬古文の特徴を知り、小説 ることができる	の時代背景を理解し説明す
後期		8週	中間試験		これまでの授業内容を確認	はな
		9週	「舞姫」(森鷗外)		擬古文の特徴を知り、小説 きる	め内容を読解することがで
		10週	「舞姫」(森鷗外)		登場人物の心情とその変化	どを読み取ることができる
		11週	「舞姫」(森鷗外)		登場人物の心情とその変化	どを読み取ることができる
		12週	「舞姫」(森鷗外)		登場人物の心情とその変化	どを読み取ることができる
	4thQ	13週	「舞姫」(森鷗外)		時代的背景を踏まえ、現代 を比較し違いを理解し説明	こと作中時代とのものの見方 目することができる
		14週	「舞姫」(森鷗外)		時代的背景を踏まえ、現代 を比較し違いを理解して訪	と作中時代とのものの見方 説明することができる
		15週	「舞姫」(森鷗外)		作品を通して文学的文章に 適切に表現することができ	
		16週	後期定期試験		これまでの授業内容を確認	こする。
評価割合	ì					
			定期試験	達成度試験	ポートフォリオ	合計
総合評価割	合		40	20	40	100
一般的能力)		40	20	40	100

苫小华		 等専門学校	交 開講年度 令和0	 4年度 (2022年度)	授業科目	 国語Ⅲ(情報科学・工学系)	
科目基礎		13 131 3 3 12	1.0213 1.22 1.114	(==== 1 /2)	32321311		
科目番号	CIIII	0065		科目区分	一般 / 必修	3	
授業形態		授業		単位の種別と単位			
開設学科			△科(一般科目)	対象学年	3		
開設期		通年	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	週時間数	2		
教科書/教	 材	『現代文	ZB』(数研出版)/参考図書	は適宜紹介する	<u>'</u>		
担当教員		時田 紗					
到達目標		'					
1、論理的 2、文学的 3、漢字や	りな文章を りな文章を で語句他、	読んで、登場	章構造と筆者の主張を理解して 易人物の心情や情景描写を理解 まを理解して適切な表現で文章	解して説明することができる。			
ルーブリ	<u> </u>					1	
			理想的な到達レベルの目			未到達レベルの目安(不可)	
と筆者の主	E張を理解 きる	で、文章構造して説明する	る と筆者の主張を理解して 見・考えを持つことがで	自分の意 と筆者の主張を概 きる きる	売んで、文章構造 既ね理解し説明で	論理的な文章について構造と筆者 の主張を理解していない	
	青景描写を	で、登場人物 理解して説明 		して自分 の心情や情景描写	売んで、登場人物 写を概ね理解し説	文学的な文章について登場人物の 心情や情景描写を読みとることが できない	
	刀な表現で:	表現技法を理文章を書くる		技法を理 漢字や語句他、文を書くこ ね理解して文章を る	文章表現技法を概を書くことができ	適切な表現で文章を書くことができない	
学科の至]達目標耳	頁目との関	月 係				
I 人間 II 実践 II 国際 教育方法	i性 9性 						
概要	∆ √	、さらに	文章を読んで自分の意見を持	寺ち論を立てることを目標と ^っ	する。そのために、	り取り自分の言葉で説明できること 意見・論を書く機会を多く設けて けて適切な文章を書けるようにする	
授業の進め	か方・方法		:体で進め、積極的に意見交換 な取り組みを重視し、ポート		もらう。		
注意点		で評価す ・配当分 当分の 6 ・教科書	「る。合格点は60点である。	場合は、再試験を実施するこ。 覧、国語辞典等は、必要に応し	とがある。但し、評	课題等、含eポートフォリオ)の割合 身試験を受けた場合の評価点は、配 3こと。	
授業の属	属性・履何	多上の区分	}				
☑ アクテ	ィブラーニ	ニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業	
授業計画	1						
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
		1週		法及びポートフォリオにつ	授業の目的・方針	等を理解している	
		2週	いて 「日本語とは非論理的か」(客観的論理的な文 取り理解できる	章(言語)について筆者の主張を読み	
		3週	「日本語とは非論理的か」((主)人(及(団)	取り理解し、自分	章(言語)について筆者の主張を読みの意見・論を持つことができる	
	1stQ	4週	「知識社会という幻想」(西	1/年進)	を読み取り理解で	章(情報・社会)について筆者の主張 きる 章(情報・社会)について筆者の主張	
	1300	5週	「知識社会という幻想」(西			早(情報・社会)について単名の主張 、自分の意見・論を持つことができ	
		6週	「「文化が違う」とは何を類		取り理解できる	章(文化)について筆者の主張を読み	
前期		7週	「「文化が違う」とは何を類	意味するのか?」(岡真理	客観的論理的な文 取り、自分の意見 とができる	章(文化)について筆者の主張を読み ・論を他者に伝わるよう表現するこ	
		8週	達成度試験		これまでの授業内		
		9週	テスト返却/近代文学史 「こころ」(夏目漱石)		文学的な文章(小説	かな流れを理解し説明できる (i)について登場人物の心情や変化を	
		11週	「こころ」(夏目漱石)		理解できる 文学的な文章(小説 理解できる	(2)について登場人物の心情や変化を	
	2ndQ	12週	「こころ」(夏目漱石)			(4)について登場人物の心情や変化を	
	1	——	+		理解できる 文学的な文章(小説)について登場人物の心情や		
		13週	「こころ」(夏目漱石)		文学的な文章(小説 理解できる	?)について登場人物の心情や変化を	

		15週	「こころ」(夏目漱石)		文学的な文章(小説)につい 理解し、自分の意見・論を	て登場人物の心情や変化を 持つことができる
		16週	前期定期試験		これまでの授業内容を確認	ける
		1週	テスト返却/「である」。	ことと「する」こと(丸山真男	客観的論理的な文章(社会) 取り理解できる	について筆者の主張を読み
		2週	「である」ことと「する	5] こと(丸山真男)	客観的論理的な文章(社会) 取り理解できる	について筆者の主張を読み
		3週	「である」ことと「する	5」こと(丸山真男)	客観的論理的な文章(社会) 取り理解し、自分の意見・	について筆者の主張を読み 論を持つことができる
	3rdQ	4週	「顔の所有」(鷲田清一	-)	客観的論理的な文章(思想) 取り理解し、自分の意見・	について筆者の主張を読み 論を持つことができる
		5週	「顔の所有」(鷲田清一	-)	客観的論理的な文章(思想) 取り理解することができる	について筆者の主張を読み
		6週	近代文学史		前期の内容を踏まえつつ、 を理解し説明できる	近代文学史の大まかな流れ
後期		7週	文学的表現(小説)を読	む 「舞姫」(森鷗外)	擬古文の特徴を知り、小説 ることができる	の時代背景を理解し説明す
後期		8週	中間試験		これまでの授業内容を確認	はな
		9週	「舞姫」(森鷗外)		擬古文の特徴を知り、小説 きる	め内容を読解することがで
		10週	「舞姫」(森鷗外)		登場人物の心情とその変化	どを読み取ることができる
		11週	「舞姫」(森鷗外)		登場人物の心情とその変化	どを読み取ることができる
		12週	「舞姫」(森鷗外)		登場人物の心情とその変化	どを読み取ることができる
	4thQ	13週	「舞姫」(森鷗外)		時代的背景を踏まえ、現代 を比較し違いを理解し説明	こと作中時代とのものの見方 目することができる
		14週	「舞姫」(森鷗外)		時代的背景を踏まえ、現代 を比較し違いを理解して訪	と作中時代とのものの見方 説明することができる
		15週	「舞姫」(森鷗外)		作品を通して文学的文章に 適切に表現することができ	
		16週	後期定期試験		これまでの授業内容を確認	こする。
評価割合	ì					
			定期試験	達成度試験	ポートフォリオ	合計
総合評価割	合		40	20	40	100
一般的能力)		40	20	40	100

苫八华			開講年度	 ì和04年度 (2	(022年度)	押	業科目	日本語 I
科目基础		<u> </u>		<u>МИОТТИХ (2</u>	·022—/义)	ענ ן	** 1714	L/4\00 I
科目番号	-112110	0066			科目区分		一般 / 必何	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
授業形態		授業			単位の種別と単位	边数	履修単位:	
開設学科		創造工学科	斗(一般科目)	·	対象学年		3	
開設期		通年			週時間数		2	
教科書/教	材		ドカ試験 模試と対策	N3』、『日本	語総まとめ』シリ	ーズ(アルク出版)、その他授業中に指示
担当教員	_	時田 紗緒	里,平野 摂子					
到達目標		L== 45 1 ·						
2、日本で	生活する上	本語能力を身 で必要な文化	につける 近的知識を身につける					
ルーブリ	ノック		_					
	1518	1 == 600	理想的な到達レベル		標準的な到達レク			未到達レベルの目安
1、N3合 につける	格相当の日 	本語能力を身	N3合格相当の日本 についている	語能力が十分身 	N3合格相当の日 についている	本語能 	:力が概ね身 	N3合格相当の日本語能力が身につ いていない
2、日本で的知識を見	**生活する上 身につける	で必要な文化	ン 日本で生活する上で 知識が十分身につい	 ご必要な文化的 \ている	日本で生活する上知識が概ね身につ	こで必要	要な文化的 いる	日本で生活する上で必要な文化的知識が身についていない
		目との関係			1			
I 人間 Ⅱ 実践 Ⅲ 国際	引性 浅性 祭性							
教育方法	去等							
概要		本科目は留む、書く、 。また、E の内容を扱	留学生履修科目である。 話す、聞く、四技能: 日本で生活する上で必! 及うこともある。	。日本語能力試験をバランスよく!要な文化的知識?	険(JLPT)N3 身につけさせること 習得させるため、名	3合格相 とを目 会話の組	目当の力を身 指し、N3試 練習も行う。	Iにつけさせることを目的とする。読 は験対策として問題演習と解説を行う 、なお、学生のレベルに応じN2相当
授業の進む	め方・方法	・日本語能 ・必要に加 用する。	 能力試験対策として、	しい日本語』(h	こよって進める。 https://www.nhk	.or.jp,	/lesson/ja/	/)等のインターネット上の教材を活
注意点		・成績は、		話練習を含めた 価を行うことがも	授業への取り組みためる。再評価の場合	方30% 今は上「	の総合評価 限を60点と	ī。60点以上を合格とする。 する。
授業の属	属性・履修	多上の区分						
☑ アクテ	ニィブラーニ	ング	☑ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応			□ 実務経験のある教員による授業
授業計画	劃	l.m. T						
ı		1	受業内容	<u></u> ウコタァ^			の到達目標	
			イントロダクション、					国のことを説明できる 中で触れる日本語の文章を読み、理
		2週	日常で触れる文章の読	解 ————————————————————————————————————		解する	ことができ	বি
		3週	日常で触れる文章の読	解			で生活する ことができ	中で触れる日本語の文章を読み、理 る
		4週	日常で触れる文章の読	解		日本語 解する	で生活する ことができ	中で触れる日本語の文章を読み、理 る
	1stQ	5週 [日常で触れる文章の読	 解			で生活する ことができ	中で触れる日本語の文章を読み、理 る
		6週 [———— 解		日本語		中で触れる日本語の文章を読み、理
		7週	 N3模試 演習と解説	文法		N3模	武の文法の	問題についての問題を解き、解説を聞 ることができる。
		8週	 N3模試① 演習と解詞			N3模		
前期		9週	N3模試① 演習と解詞			N3模	式の語彙につ	ついての問題を解き、解説を聞いて内
			N3模試① 演習と解記	•		N3模		問題についての問題を解き、解説を聞
			N3模試① 演習と解記			N 3模	試の長文読	ることができる。 解についての問題を解き、解説を聞い ストギアオス
						N3模	試の長文読ん	ことができる。 解についての問題を解き、解説を聞い ストギできる。
	2ndQ		N3模試① 演習と解記			N3模	試の長文読ん	ことができる。 解についての問題を解き、解説を聞い ストボできる。
			N3模試① 演習と解記			N 3模	試の長文読ん	ことができる。 解についての問題を解き、解説を聞い ストギアオス
			N3模試① 演習と解記			N3模	試の長文読ん	ことができる。 解についての問題を解き、解説を聞い
			KECH	,,		(内容	を埋解する	<u>ことができる。</u>
		16週	 N3模試① 演習と解詞	 兑 聴解				ついての問題を解き、解説を聞いて内 ができる。
後期	3rdQ						解すること 試の聴解に1	かできる。 ついての問題を解き、解説を聞いて内
		2週	N3模試① 演習と解詞	兀 均均用生			解すること	

		3週	N 3模試①	演習と解説	聴解			N3模試の聴解につ 容を理解することが	いての問題を解き、解説を聞いて内ができる。
		4週	N3模試②	演習と解説	文法			N3模試の文法の問いて内容を理解する	題についての問題を解き、解説を聞 ることができる。
		5週	N 3模試②	演習と解説	文法			N3模試の文法につ 容を理解することが	いての問題を解き、解説を聞いて内ができる。
		6週	N 3模試②	演習と解説	語彙			N3模試の語彙につ 容を理解することが	いての問題を解き、解説を聞いて内 ができる。
		7週	N 3模試②	演習と解説	語彙			N3模試の語彙の問いて内容を理解する	題についての問題を解き、解説を聞ることができる。
		8週	N 3模試②	演習と解説	長文読解			N3模試の長文読解 て内容を理解するこ	についての問題を解き、解説を聞い ことができる。
		9週	N 3模試②	演習と解説	長文読解			N3模試の長文読解 て内容を理解するこ	についての問題を解き、解説を聞い ことができる。
		10週	N 3模試②	演習と解説	長文読解			N3模試の長文読解 て内容を理解するこ	についての問題を解き、解説を聞い ことができる。
		11週	N3模試②	演習と解説	長文読解			N3模試の長文読解 て内容を理解するこ	についての問題を解き、解説を聞いことができる。
4	łthQ	12週	N 3模試②	演習と解説	長文読解			N3模試の長文読解 て内容を理解するこ	についての問題を解き、解説を聞い ことができる。
		13週	N 3模試②	演習と解説	聴解			N3模試の聴解につ 容を理解することだ	いての問題を解き、解説を聞いて内ができる。
		14週	N3模試②	演習と解説	聴解			N3模試の聴解につ 容を理解することだ	いての問題を解き、解説を聞いて内ができる。
		15週	N3模試 約	総まとめ				N3模試を実践形式	で時間内に解くことができる
		16週							
評価割合									
			授業内課	題		授業参加(会	会話	棟習を含む)	合計
総合評価割合	<u></u>		70			30			100
基礎的能力			70			30			100

苫小*	牧工業高	等専門学校	開講年度 令和0	4年度 (2	2022年度)	授	業科目	数学ⅢA
斗目基础	楚情報							
4目番号		0067			科目区分		一般 / 必	修
受業形態		授業			単位の種別と単	位数	履修単位:	: 4
開設学科		創造工学	科(一般科目)		対象学年		3	
制設期		通年			週時間数		4	
枚科書/教	材	I 問題集	高遠節夫他著「新微分積分」 」, 「新微分積分Ⅱ問題集」 教出版)、高等学校用の学習	(大日本[図書). 自作プリ	ント/参	考図書:	か教材:高遠節夫他著「新微分積分 「新版微分積分 I 」, 「新版微分積: 習参考書「微分積分」など
⊒当教員		金野 幸吉	5,村本 充,柏瀬 陽彦					
関数の l. いろい l. 2重積が l. 1階微が	ろな関数を 近似やべき ろな関数の 分に関する 分方程式及び	級数を理解し 偏微分を求る 問題を解くこ	とができ、図形の面積・体積 レ、基本的な関数の近似式や かることができ、辺便を応用 とができる。 数線形微分方程式を解くこと	マクローリ した問題を	ン展開を求めるこ 解くことができる	る。 ことがで る。	: :きる。	
<u>レーブ!</u>	<u> </u>				T			
			理想的な到達レベルの目	安	標準的な到達し			未到達レベルの目安
平価項目:	1		いろいろな関数を積分すでき、図形の面積・体積 関する問題を解くことが	や長さに	いろいろな関数でき、図形の面関する基本的なできる。	積・体積	責や長さに	できない。また、図形の面積・6 積や長さに関する基本的な問題を 解くことができない。
平価項目2	2		関数の近似式とべき級数 2変数関数の近似式を理 数の近似式や偏微分に関 を解くことができる。	解し、関	関数の近似式と 2変数関数の近 数の近似式や偏 的な問題を解く	似式を理 微分に関	理解し、関 闘する基本	関数の近似式とべき級数展開、 2変数関数の近似式を理解することができない。また、関数の近似式や偏微分に関する問題を解くことができない。
平価項目3	3		いろいろな関数の偏微分 ことができ、いろいろな いて全微分や極値を求め できる。	関数につ	いろいろな関数 ことができ、簡 全微分や極値を る。	の偏微が 単な関数 求めるこ	うを求める 対について ことができ	いろいろな関数の偏微分を求めることができない。また、全微分や極値を求めることができない。
平価項目4	4		変数変換を含む重積分を ことができる。重積分を 形の体積や平均を求める きる。	計算する 用いて図 ことがで	簡単な重積分を きる。重積分を や平均を求める	用いて図	図形の体積	簡単な重積分を計算することができない。重積分を用いて図形の付積や平均を求めることができない。
平価項目:	5		1階及び2階微分方程式を ができる。	解くこと	基本的な1階及び 解くことができ		分方程式を	基本的な1階及び2階微分方程式 解くことができない。
I 人間 Ⅱ 実践 Ⅲ 国際	引性 浅性	頁目との関	川 木					
教育方法	去等							
既要		2年次ま ぶ。	に習得した微分法・積分法を活用して、積分の応用、関数の級数展開、偏微分法、2重積分、微分方程式を等					
受業の進む	め方・方法	授業は教 。また、	科書に沿って行い、計算方法 計算演習などの課題を課すこ	まを習得す? ことがある。	るための演習およ 。	び理解	度を確認す	るための達成度試験を適宜実施する
点意主		2年で学 学業成績 再評価を		なるので適 対して再試	宜復習して授業に 験を実施する場合	-望むこ 3がある	と。 。この場合	合、再試験80%、課題等20%の割合
受業の属	<u> </u>	多上の区分	·					
	ティブラーニ		☑ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応	2		□ 実務経験のある教員による授
受業計画	<u> </u>	<u> </u>	Γ					
		週	授業内容				の到達目標	•
		1週	積分の計算:置換積分・部分	分積分の応	用	計算で	きる。	情分を用いていろいろな関数の積分
		2週	積分の計算:いろいろな関係		<u>, </u>	分数関 算でき		数を含むいろいろな関数の積分を
		3週	積分の計算:いろいろな関数 達成度試験	図の槙分(2	.)			いろいろな関数の積分を計算できる
	1stQ	4週	積分の応用:図形の面積、ほ	曲線の長さ		積分を ができ		図形の面積や曲線の長さを用いるこ
前期		5週	積分の応用:立体の体積 達成度試験					Z体の体積を求めることができる。
6週		6週	いろいろな応用:媒介変数割	表示による	図形	ことが	できる。	1た図形の面積や曲線の長さを求め
		7週	いろいろな応用:極座標に。			とがで	きる。	・図形の面積や曲線の長さを求める
		8週	いろいろな応用:広義積分、 達成度試験	変化率と	積分	広義積 の関係	分を求める を理解して	ることができる。また、変化率と積 こいる。
	2nd0	9週	関数の展開:多項式による	近似(1)		関数の。	1次近似式	及び2次近似式を求めることができ
	2ndQ	10週	 関数の展開:多項式による〕	丘似(2)		指定さ	れた自然数	ynに対して、関数のn次近似式を求

10週

関数の展開:多項式による近似(2)

指定された自然数nに対して、関数のn次近似式を求めることができる。

		11週	関数の展開:数列の極限	艮、級数	数列の極限及び級数の収る。	束・発散を調べることができ		
		12週	関数の展開:べき級数と	ニマクローリン展開	べき級数の収束条件を理 開を求めることができる	解し、関数のマクローリン展。		
		13週	関数の展開:オイラーの 達成度試験)公式	オイラーの公式を理解し 分することができる。	、複素数の値を取る関数を微		
		14週	偏微分法:2変数関数、	偏導関数	2変数関数の定義域と値域を求めることができる。	域を理解し、2変数関数の曲面 偏導関数を計算することがで		
		15週	偏微分法:全微分 達成度試験		全微分の意味を理解し、ができる。	関数の全微分を計算すること		
		16週	前期定期試験					
		1週	偏微分法:合成関数の微	数分法	合成関数の微分法を用い ることができる。	て、関数を微分及び偏微分す		
		2週	偏微分の応用:高次偏導	算関数	第2次偏導関数を求める	ことができる。		
		3週	偏微分の応用:極大・極	区小	2変数関数の極大・極小を	と判定することができる。		
		4週	偏微分の応用:条件つき 達成度試験	を極値問題 ()	条件のもとで関数の極値	を求めることができる。		
	3rdQ	5週	2重積分:2重積分の計	†算(1)	2 重積分を累次積分に直して計算することができる。			
		6週	2 重積分: 2 重積分の記 達成度試験	†算(2)	累次積分の積分順序の変 積分を用いて基本的な図 る。	累次積分の積分順序の変更をすることができる。2重 積分を用いて基本的な図形の体積を求めることができ る。		
		7週	変数の変換と重積分: 極	図座標による2重積分	極座標による2重積分を	計算することができる。		
.44 ₩D		8週	変数の変換と重積分: 変 達成度試験	变数变换	変数変換することによってきる。	て2重積分を計算することが		
後期		9週	1階微分方程式:微分方	5程式の意味、微分方程式の解	微分方程式の一般解及び	微分方程式の一般解及び特殊解の意味を理解している。		
		10週	1階微分方程式:変数分)離形	変数分離形の微分方程式を解くことができる。			
		11週	1階微分方程式:同次形		同次形の微分方程式を解くことができる。			
		12週	1階微分方程式:1階線達成度試験	達成度試験 ; ; ; ; ; ; ; ; ; ; ; ; ; ; ; ; ; ; ;		定数変化法を用いて、1階線形微分方程式を解くこと ができる。		
	4thQ	13週	2階微分方程式:微分方			2 階微分方程式の一般解・特殊解の意味を理解し、斉次・非斉次の場合の線形微分方程式の一般解の形を説明することができる。		
		14週	2 階微分方程式:定数係	系数斉次線形微分方程式	定数係数斉次線形微分方程式を解くことができる。			
		15週	2階微分方程式:定数係達成度試験	系数非斉次線形微分方程式	定数係数非斉次線形微分	定数係数非斉次線形微分方程式を解くことができる。		
		16週	後期定期試験					
評価割合								
			定期試験	達成度試験	課題	合計		
総合評価書	 割合		50	30	20	100		
基礎的能力	ל		50	30	20	100		
専門的能力			0	0	0	0		
分野横断的能力			0	0	0	0		

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2	2022年度)	授業科目	物理Ⅱ		
科目基礎情報								
科目番号	0069			科目区分	一般 / 必修			
授業形態				単位の種別と単位数	数 履修単位	: 2		
開設学科	創造工学科(一般科目)			対象学年	3			
開設期	開設期通年			週時間数	2			
教科書/教材 柴田洋一ほか5名著「熱・波動」大日本図書								
担当教員 上場 一慶,長田 光司					·			

- 1. 熱,熱容量,熱量保存則,ボイル・シャルルの法則等の概念を理解して,熱現象に関する基礎的な計算ができる. 2. 仕事,熱及び熱力学第一法則の法則を理解し,気体の状態変化や熱機関に関する基礎的な計算ができる. 3. 波に関する諸量(波長,周期,振動数,波の速さ等)の概念を具体的な波動現象で求めることができる. 4. 音と光に関する諸現象を,重ね合わせ,反射・透過・回折等の概念を用いて説明でき,簡単な計算ができる.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)
熱の基礎的物理量を理解する.	熱現象に関する基礎的な計算がで きる.	熱現象に関する基礎的な事項が説 明できる.	熱現象に関する基礎的な事項が説 明できない.
熱力学第一法則の法則を理解し ,気体の状態変化や熱機関に関す る基礎的計算ができる.	気体の状態変化や熱機関に関する 基礎的計算ができる.	気体の状態変化や熱機関に関する 基礎的な事項が説明できる.	気体の状態変化や熱機関に関する 基礎的な事項が説明できない.
波に関する諸量の概念を具体的な 波動現象で求めることができる.	種々の波に関して波長,周期,振動数,波の速さ等の基礎的物理量が計算できる。	波長,周期,振動数,波の速さ等 の基礎的物理量の説明ができる.	波長,周期,振動数,波の速さ等の基礎的物理量の説明ができない。
音と光に関する諸現象を、重ね合わせ、反射・透過・回折等の概念を用いて理解する.	音と光に関する諸現象を,重ね合わせ,反射・透過・回折等の概念 を用いて説明でき,簡単な計算ができる.	音と光に関する諸現象を,重ね合わせ,反射・透過・回折等の概念を用いて説明できる.	音と光に関する諸現象を,重ね合わせ,反射・透過・回折等の概念を用いて説明できない.

学科の到達目標項目との関係

- I 人間性 II 実践性 III 国際性

教育方法等

概要	前期では、熱現象について議論する。熱運動と温度の関係、熱容量とこれらに関係する熱現象、さらに熱力学第一法則と気体の状態変化等の関係を論じ、熱機関に関する種々の物理量の算出方法を解説する。後期では、波動現象について議論する。波動の種類(横波・縦波)とこれらに共通する物理量である長、周期、振動数、波の速さ等について論じる。さらに音波と光波について議論し、固有振動や共振現象・屈折・反射・回折や干渉について論じ、波動の基本的性質を解説する。
授業の進め方・方法	分野ごとに講義によって内容を確認し,演習によって詳細を理解できるように授業を構成する.授業中の演習参加の機会は,授業時間内に全員に対して与える.予習復習は,各自が積極的に行うこと.授業中の演習に備えて,定規・関数電卓を用意すること.
注意点	授業では、物理公式によりさまざまな物理量が相互に関係していることを学ぶことが必要である。このためには、公式を正確に覚えることが重要である。単に、物理量の次元(単位)を覚えることだけでは不十分である。また、物理の理解の為には、数学の文字式の計算を多用する。さらに、2 学年と3 学年の物理の内容は、数学とともに、4 学年以降での応用物理などの理解のたい必要となる。再試験を実施する場合がある。この場合、再試験の点数を定期試験等の点数に置き換えて再評価を行う

授業の属性・履修上の区分

	□ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業
--	--------------	----------	----------	------------------

授業計画	

1XXIII				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
		1週	熱と温度	分子や原子の熱運動が絶対温度と関連していることを 理解する.
		2週	温度・熱容量	熱量の保存則を用いて熱容量や比熱を求めることができる.
		3週	相変化と潜熱	物理系の状態変化に,潜熱が関連することもあり得る ととを理解する.
	1stQ	4週	熱量の保存則	熱量の保存則を用いて熱容量や比熱を求めることができる.
		5週	ボイル・シャルルの法則	ボイルの法則,シャルルの法則を用いて気体の状態変化を理解する.
<u></u>		6週	ボイル・シャルルの法則	ボイルの法則,シャルルの法則を用いて気体の状態変化を表現できる.
前期		7週	状態方程式	状態方程式を用いて気体の変化を定量的に求めること ができる.
		8週	前期中間達成度試験	
		9週	熱力学第一法則	気体の内部エネルギーは、気体に与える仕事と熱によって変化することを理解する.
		10週	気体の状態変化	定積変化,定圧変化,等温変化,断熱変化を理解する
	2ndQ	11週	気体の状態変化	気体の分子運動と状態変化の関連について知る.
		12週	熱と仕事	定積変化と定圧変化について理解する.
		13週	熱と仕事	等温変化と断熱変化を理解する.
		14週	熱機関	熱機関の基礎と熱効率について理解する.

		15週	熱機関			カルノー機関なきるようになる		関についての計算がで		
		16週	前期定期試験							
		1週	正弦波			波に関する諸量)を具体的な波	(波長,周期, 動現象で求める。	辰動数,波の速さ等 ことができる.		
		2週	重ね合わせの原理			重ね合わせの原解する.	理をもちて, 定ち	常波の発生について理		
		3週	重ね合わせの原理			定常波について! 説明できる.	持徴的な現象(胎	复や節などの形成)を		
	3rdQ	4週	反射・干渉			自由端・固定端 ら説明できる.	支射および干渉 <i>た</i>	が重ね合わせの原理か		
		5週	音の性質			波動としての音 ップラー効果を		て理解し, うなりやド		
		6週	固有振動と共振	固有振動と共振			気柱の振動に対して,固有振動と共振に関する計算が できる.			
後期		7週	固有振動と共振			気柱の振動に対 できる.	気柱の振動に対して,固有振動と共振に関する計算ができる.			
		8週	後期中間達成度試験							
		9週	光			分散,スペクトル,散乱、偏光について説明できる.				
		10週	光の反射・屈折			反射・屈折の法	反射・屈折の法則を用いた計算ができる.			
		11週	光の回折と干渉	光の回折と干渉			光の回折と干渉の現象が説明できる.			
		12週	光の回折と干渉	光の性質		回折・干渉にか	回折・干渉にかんする計算ができる.			
	4thQ	13週	光の性質			自然光と偏光の違いについて説明できる.				
		14週	幾何光学			凸レンズ, 凹レンズ, 凹面鏡, 凸面鏡の公式を導出できる.				
		15週	光の性質			幾何光学を用い	幾何光学を用いた鏡やレンズに関する計算ができる.			
		16週	後期中間試験							
評価割合										
		試験	中間達成度試験	相互評価	態度	ポートフォリス	† その他	合計		
総合評価割合 4		40	40	0	0	0	20	100		
基礎的能力	<u></u> ქ	40	40	0	0	0	20	100		
専門的能力	<u></u> _	0	0	0	0	0	0	0		
分野横断的	勺能力	0	0	0	0	0	0	0		

生小野	6丁举宫9	 §専門学校	開講年度	令和04年度(2022年度)	拇:	 業科目	体育Ⅲ
		┰╗ ╗╅	、一河畔十汉	文 十 下UIII'ti		ָּצנ ן	*1111	LLL. C3 TT
科目番号	と 1月羊以	0070			科目区分			修
<u>17日日 </u>		実験・実	<u> </u>		単位の種別と単位			•
開設学科			<u>=</u>		対象学年	IT XX	3	
開設期		通年	רויאניי דו		週時間数		2	
教科書/教	 材	なし			Z=1 DX			
担当教員	113	中島 広基						
<u></u>	<u> </u>	1122	•					
2.自ら進ん 3.自己や周 4.集団の目	ルで健康増進 関囲の安全に 目指す方向性	₤や体力向上 ニ留意しなが	任感をもって自らテ	望を行うことがて できる。危険を回	`きる。 避するだけでなく	、不安全 見を尊重	とな行動を 重した適切	予防することができる。 なコミュニケーションや協調・共同
ルーブリ	リック							
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レ	ベルの目	安	未到達レベルの目安
運動技能・	意欲(主体	村生)		ハて高い意欲を持 ともに高い技能を	多様な種目におい 取り組むとともい 習得できる。			意欲を持って運動に取り組むことができず、基本的な技能を習得できない。
自主的継続	も も も も も も も も も も も も も も も も も も も	上体性)	自ら進んで健康 ^は 図り、継続的に ² できる。	曽進や体力向上を 学習を行うことが	教員の指示により 向上を図り、継続 ことができる。			健康増進や体力向上を図ることができず、継続的に学習を行うことができない。
安全管理行	· 丁動(主体性	±)	活動を行うことが	全に留意しながら ができる。危険を なく、不安全な行 とができる。	自己や周囲の安全 活動を行うことができ	ができ、	しながら 危険を回	自己の安全に留意した活動を行うことができない。
集団行動力 チームワー	コ(主体性、 -ク)	合意形成、	感をもって自られる。 も尊重しつつ適は ションをとりなれる。 り上げ、集団とし	句性について責任 示し、他者の意見 刃なコミュニケー がら合意形成を作 して協調・共同を することができる	集団の目指す方に感をもうしている。 を専動しているではいる。 も等事したりないりといる。 り上げ、動をとるでは行動をといる。 解できる。	示し、他 切な合意 して協調	2者の意見 シュニケー 気形成を作 り・共同を	集団の目指す方向性について責任 感をもって自ら示し、他者の意見 も尊重しつつ適切なコミュニケー ションをとりながら合意形成を作 り上げ、集団として協調・共同を 促す行動の大切さを理解ができな い。
 学科の到	達日標頂	目との関	。 径		h+ CC &			V 10
I 人間 Ⅱ 実践 Ⅲ 国際	性 性							
教育方法	寺					T-1-1-15	R51 77	
概要		団の目指	す方向性について責 を作り上げ、集団と	[任感をもって目ら	示し、他者の意見	も尊重し	ノつつ適切	慣を教授するとともに,自らすすんでたができる能力や態度を育成する。集なコミュニケーションをとりながられらを実践することができる能力や
授業の進め	方・方法	で構成されがら自主とがある。	れたグループにおい 性と協調性をもって ため担当教員の指示	って、練習・試合を 授業をすすめるこ に従うこと。 が生じた場合は、	どのように行うか と。また、週毎の TeamsおよびBlad	検討し、 授業計画 ckBoard	合意に基 画について	ごとにグループを構成する。各種目 づき計画的かつ安全に十分配慮しな は、天候等諸条件により変更するご 数材提供を行い、到達目標に準じ各自
注意点		(靴底がまた、日) ※教室か う十分に 育準備室	黒ゴムの物は禁止) 頃から健康管理やス らの移動にあたって	とする。 【ポーツに関わるメ [は貴重品(現金等 『予防の観点から、	ディア情報や関連)を各自のロッカ	書籍なる 一で施鉛	ごに関心を 記の元管理	化については指定靴もしくは淡色系持ち、予備知識を得ておくこと。 し、教室内に放置することのないよフォン類やロッカーキーを含め、体
		<u> </u>	□ ICT #II⊞		C 돌면ᄧᄴᆉᅷ	-		□ 中数収酔のセフサミニ トフザギ
凶 アクテ	ィブラーニ	ンソ	□ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応	γ		□ 実務経験のある教員による授業
授業計画	ī							
以未可巴	4	週				调ブレ	 の到達目標	<u> </u>
		4 \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	前期ガイが、フェフトしい工運動		が方法について	・ 体 体 体 が で ・ ・ ・ ・ ・ ・ 。 ・ を に に に に に に に に に に に に に	の位置づけの筋肉・関うる。 である。 で動ける。 で動けである。 がある。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 で	でまった。 けを理解することができる。 関節の柔軟性を高め安全に運動する準 を列が迅速的確にできる。 ける日常の運動の重要性を理解できる 引(SNS)での分野横断的能力(自 チームワーク)向上の実践方法等に
前期	1stQ	2週	指定種目群①(バレ ドミントン・卓球・ ス・ソフトテニス・ 定) 所属種目で活動内容 ※遠隔授業の場合: BlackBoardの様式	・フットサル・ソフ・ドッジボールの中 ・ドッジボールの中 ・ ・ ・ 自宅で実践可能な	7トボール・テニコから複数種目指 2対に変数をはまます。 3世間によった。	つ・し全※・やをいて目が十隔日人び	理解できる。 群の構成をはいる。 はいますが、 はいまがはいまがはいまがは、 はいまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいまが	5。 こおいて、周囲と話し合いの中で協調 R定し、その種目の中で計画的かつ安 がら活動を実践することができる。

	3週	指定種目群①(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・フットサル・ソフトボール・テニス・ソフトテニス・ドッジボールの中から複数種目指定) 所属種目で活動内容の検討・計画・実践 ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、BlackBoardの様式により報告する。	・種目群の構成において、周囲と話し合いの中で協調しながら種目を決定し、その種目の中で計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 ※遠隔対応の場合 ・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
	4週	指定種目群①(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・フットサル・ソフトボール・テニス・ソフトテニス・ドッジボールの中から複数種目指定) 所属種目で活動内容の検討・計画・実践 ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、 BlackBoardの様式により報告する。	・種目群の構成において、周囲と話し合いの中で協調しながら種目を決定し、その種目の中で計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
	5週	指定種目群①(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・フットサル・ソフトボール・テニス・ソフトテニス・ドッジボールの中から複数種目指定) 所属種目で活動内容の検討・計画・実践 ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、BlackBoardの様式により報告する。	・種目群の構成において、周囲と話し合いの中で協調しながら種目を決定し、その種目の中で計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
	6週	指定種目群①(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・フットサル・ソフトボール・テニス・ソフトテニス・ドッジボールの中から複数種目指定)所属種目で活動内容の検討・計画・実践※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、BlackBoardの様式により報告する。	・種目群の構成において、周囲と話し合いの中で協調しながら種目を決定し、その種目の中で計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 ※遠隔対応の場合 ・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
	7週	指定種目群①(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・フットサル・ソフトボール・テニス・ソフトテニス・ドッジボールの中から複数種目指定) 所属種目で活動内容の検討・計画・実践 ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、BlackBoardの様式により報告する。	・種目群の構成において、周囲と話し合いの中で協調しながら種目を決定し、その種目の中で計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
	8週	特別種目群(学生会行事との連携) 春季体育大会練習 ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、 BlackBoardの様式により報告する。	・春季体育大会で実施される種目について、主体的に 練習に取り組むことでクラスの団結力を高めることが できる。 ※遠隔対応の場合 ・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族 や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さ を学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、 計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することがで きる。
	9週	指定種目群①(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・フットサル・ソフトボール・テニス・ソフトテニス・ドッジボールの中から複数種目指定)所属種目で活動内容の検討・計画・実践※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、BlackBoardの様式により報告する。	・種目群の構成において、周囲と話し合いの中で協調しながら種目を決定し、その種目の中で計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
	10週	指定種目群①(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・フットサル・ソフトボール・テニス・ソフトテニス・ドッジボールの中から複数種目指定) 所属種目で活動内容の検討・計画・実践 ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、BlackBoardの様式により報告する。	・種目群の構成において、周囲と話し合いの中で協調しながら種目を決定し、その種目の中で計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
2ndQ	11週	指定種目群①(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・フットサル・ソフトボール・テニス・ソフトテニス・ドッジボールの中から複数種目指定) 所属種目で活動内容の検討・計画・実践 ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、BlackBoardの様式により報告する。	・種目群の構成において、周囲と話し合いの中で協調しながら種目を決定し、その種目の中で計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や五口ナ禍における日常生活の制約下において、家族を対し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
	12週	指定種目群①(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・フットサル・ソフトボール・テニス・ソフトテニス・ドッジボールの中から複数種目指定) 所属種目で活動内容の検討・計画・実践 ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、BlackBoardの様式により報告する。	・種目群の構成において、周囲と話し合いの中で協調しながら種目を決定し、その種目の中で計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。

		13週	指定種目群①(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・フットサル・ソフトボール・テニス・ソフトテニス・ドッジボールの中から複数種目指定) 所属種目で活動内容の検討・計画・実践 ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、BlackBoardの様式により報告する。	・種目群の構成において、周囲と話し合いの中で協調しながら種目を決定し、その種目の中で計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
		14週	指定種目群①(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・フットサル・ソフトボール・テニス・ソフトテニス・ドッジボールの中から複数種目指定) 所属種目で活動内容の検討・計画・実践 ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、 BlackBoardの様式により報告する。	・種目群の構成において、周囲と話し合いの中で協調しながら種目を決定し、その種目の中で計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
		15週	指定種目群①(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・フットサル・ソフトボール・テニス・ソフトテニス・ドッジボールの中から複数種目指定) 所属種目で活動内容の検討・計画・実践 ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、BlackBoardの様式により報告する。	・種目群の構成において、周囲と話し合いの中で協調しながら種目を決定し、その種目の中で計画的かつ安全に十分配慮しながら活動を実践することができる。 ※遠隔対応の場合 ・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族 ・カロナ禍における日常生活の制約下において、家族 を学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
		16週		
		1週	グループワーク(4種類の合意種目群の設定と配属種目の決定) 種目ごとに活動内容の検討・計画・実践 ※遠隔授業になった場合の授業への対応方法について	・これまでの授業から、集団にとって適切な種目群を討議し、配属グループが構成できる。 ※遠隔対応の場合 ・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族 ・カロナ禍における日常生活の制約下において、家族 を大との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さ を学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、 計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することがで きる。
	3rdQ	2週	合意種目群①〜④ 種目ごとの活動実践・見直し ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、 BlackBoardの様式により報告する。	・それぞれ構成された種目グループで、活動にあたっての方針や方法を討議し、改善を要する部分を適宜見直すことができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
		3週	合意種目群①~④ 種目ごとの活動実践・見直し ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、 BlackBoardの様式により報告する。	・それぞれ構成された種目グループで、活動にあたっての方針や方法を討議し、改善を要する部分を適宜見直すことができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
後期		4週	合意種目群①~④ 種目ごとの活動実践・見直し ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、 BlackBoardの様式により報告する。	・それぞれ構成された種目グループで、活動にあたっての方針や方法を討議し、改善を要する部分を適宜見直すことができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
		5週	合意種目群①〜④ 種目ごとの活動実践・見直し ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、 BlackBoardの様式により報告する。	・それぞれ構成された種目グループで、活動にあたっての方針や方法を討議し、改善を要する部分を適宜見直すことができる。 ※遠隔対応の場合・・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
		6週	合意種目群①~④ 種目ごとの活動実践・見直し ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、 BlackBoardの様式により報告する。	・それぞれ構成された種目グループで、活動にあたっての方針や方法を討議し、改善を要する部分を適宜見直すことができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。
		7週	合意種目群①~④ 種目ごとの活動実践・見直し ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、 BlackBoardの様式により報告する。	・それぞれ構成された種目グループで、活動にあたっての方針や方法を討議し、改善を要する部分を適宜見直すことができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。

分野横断的能力	0		0	0		5	5		
専門的能力	0		0	0		0	0		
基礎的能力	15		30	30		20	9		
総合評価割合	15		30	30		25	1	00	
	運動技	能・意欲	自主的継続的学習	安全管理行動		集団行動力	<u></u>	清十	
評価割合									
	16週	, , , , , ,							
	15週		能力Lv3(自主性・合意形 ての自己評価	が、チームワー	・年間	の授業を通じて、 について自己評価		求められる分野横断	
	14週	種目ごとの流流を表現である。	合意種目群①~④ 種目ごとの活動実践・見直し ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、 BlackBoardの様式により報告する。		・それぞれ構成された種目グループで、活動にあたっての方針や方法を討議し、改善を要する部分を適宜見直すことができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族や友人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。				
	13週	種目ごとの流流を表現である。	合意種目群①~④ 種目ごとの活動実践・見直し ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、 BlackBoardの様式により報告する。			・それぞれ構成された種目グループで、活動にあたっての方針や方法を討議し、改善を要する部分を適宜見直すことができる。 ※遠隔対応の場合・コロナ禍における日常生活の制約下において、家族・カロナ禍における日常生活の制約下において、家族を人との交流と話し合いの中で協調と協同の大切さを学び、自宅内もしくは周辺での実践可能な運動を、計画的かつ安全に十分配慮しながら実践することができる。			
4thQ	12週 台島村 種目ご ※遠隔		合意種目群①~④ 種目ごとの活動実践・見直し ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、 BlackBoardの様式により報告する。		ての方です。 である である である でんしょう でんしょう でんしょう でんしょう でんしょう しんしょう しんしょく しんしん しんしょく しんしん しんしん	針や方法を討議し とができる。 対応の場合 け禍における日常 との交流と話し合 、、自宅内もしくは	、改善を 3生活の制いの中で は周辺での	プで、活動にあたっ 要する部分を適宜見 約下において、家族 協調と協同の大動を、 ち 実践することがで ち 実践することがで	
	11週	種目ごとの流 ※遠隔授業の	合意種目群①〜④ 種目ごとの活動実践・見直し ※遠隔授業の場合:自宅で実践可能な運動を実践し、 BlackBoardの様式により報告する。			針や方法を討議し とができる。 対応の場合 けつ禍における日常 との交流と話し合 、、自宅内もしくは	、改善を 生活の制 いの中で は周辺での	プで、活動にあたっ 要する部分を適宜見 約下において、家族 協調と協同の大切さ 実践可を り実践することがで	
	10週	※遠隔授業の	①~④ 舌動実践・見直し 刀場合:自宅で実践可能な の様式により報告する。	3運動を実践し、	・てのする である である でんしょう でんしょう でんしょう でんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょ しんり かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう しゅう かんしょう かんしょう しゅう しゅう かんしょう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅ	受けが方法を討議している。 できる。 対応の場合 けがにおける日常 との交流と話し合い、自宅内もしくは	、改善を 生活の制 いの中で は周辺での	プで、活動にあたっ 要する部分を適宜見 約下において、家族 協調と協同の大切さ 実践可能な運動を、 ら実践することがで	
	9週	※遠隔授業の	①〜④ 舌動実践・見直し D場合:自宅で実践可能が の様式により報告する。	3運動を実践し、	ての方でする。 である である である である でんし	針や方法を討議し とができる。 対応の場合 け禍における日常 との交流と話し合 、自宅内もしくは	、改善を 3生活の制 いの中で は周辺での	プで、活動にあたっ 要する部分を適宜見 約下において、家族 協調と協同の大切さ 実践可能な運動を、 ら実践することがで	
	8週	冬季体育大会 ※遠隔授業の	(学生会行事との連携) 会練習 り場合:自宅で実践可能だ の様式により報告する。	3運動を実践し、	練習にる※・・ やまでを学び	「取り組むことでク ・。 対応の場合 Iナ禍における日常 、との交流と話し合 、、自宅内もしくは	プラスの団 3生活の制 いの中で は周辺での	について、主体的に結力を高めることが 約下において、家族協調と協同の大切さ、 実践可能な運動を、 ら実践することがで	
					1				

<u></u>	女工業高等	等 再門学校	開講年度	令和05年度 (2	2023年度)	授業科目	英語IV C	
科目基礎								
科目番号		0071			科目区分	一般 /	必修	
受業形態		授業			単位の種別と単位	立数 学修隼	绝位: 4	
開設学科		創造工学	科(一般科目)		対象学年	4		
開設期		通年			週時間数	2		
教科書/教	材	REVISEI ト公式問	D EDITION-"(成美 題集 新形式問題対応	堂) /学カテスト	、:"TOEIC-IP"(国	RT-UP COURS 国際ビジネスコミュニ	SE FOR THE TOEIC L&r TEST - - - ケーション協会)/参考図書:「TOEICテフ	
担当教員		佐藤 奈々	恵					
2) 標準 3) 一 4) 継網	般的な英文(き的な単語や 般的な英文(売的な学習に 語の音声と記	o文法を理解 の読解や聞き こよってTOE	は	100点取得が可能と)概要を深く理解で	なる力を確認でき きる。	る。		
<u> </u>	,,,		理想的な到達レ	 ベルの目安(優)	標準的な到達レイ	 ベルの目安(良)) 未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1				内容を日本語で説	基本的な英文の明できる。			
評価項目2	<u>.</u>			文法を理解できる	基本的な単語やな。	文法を理解でき		
評価項目3	3		一般的な平易な 取りができる。	英文の読解や聞き	基本的な英文の記 できる。	読解や聞き取り	が 基本的な英文の読解や聞き取りかできない。	
評価項目4	ļ		ト・スコア400点 る力を確認でき		継続的な学習に。 ト・スコア400点 とができる力を研	点取得を目指す	こ ト・スコア400点取得を目指すことができない。	
評価項目5	;			述による国内事情 要を深く理解でき	英語の音声と記述 ・海外事情の概要	述による国内事 要を理解できる	英語の音声と記述による国内事情 ・海外事情の概要を理解できない。	
学科の至	達目標項	目との関	•		ı		0	
Ⅱ 実践	性 2 Ⅱ 身	、間性 ミ践性 国際性						
教育方法	 5等							
概要		レベルに	達する英語力の定着	を目指す。			に養成し、TOEICテスト・スコア400 身に付けられるように指導する。	
授業の進め	か方・方法	授の(登録) では、 では、 では、 では、 では、 では、 はと はに はに がいます かいます かいます かいます かいます かいます かいます かいます か	習を中心に進め、語 行う。 .トのUnit 6.10.12は 、自分の英語力を確 表記)を実施する。	野泉の学習,文法事は自習範囲とする。 はいるために前期でいるを でいるために、後 でいるために、後 では、演習等 25%、演習等 25%、再試験を実施す	項の確認, リスニ 解答は適宜配布す ・後期の中間にTC 期に全員が英語学: 6、英語学カテスト る場合がある。(ング・ボイン るので、自学E DEIC模擬テス カテスト(TO >20%の割合で その場合、年	らなる伸張を目指す。 への解説, リーディング・ストラテジー 自習の教材として活用すること) ト(シラバスでは「TOEIC問題演習 EIC-IP)を受験する。 だ行う。 夏末に1回実施)	
注意点		・革語力	向上に向け、日常的は常に辞書を持参し 予習・復習を徹底し 、授業計画で示した	か白学白習に努め	スこと.		3.	
		を 上の区分						
] アクテ	-ィブラーニ	ング	☑ ICT 利用		□ 遠隔授業対応	<u>5</u>	□ 実務経験のある教員による授	
]							
~~~~ E		週	授業内容			週ごとの到達	 目標	
		1週	ガイダンス			TOEICの出題 現時点におけ	Hば 形式・傾向を理解できる。 る自分の英語力を把握した上で、 目標(目標スコア)を設定することが [・]	
		2週	 文の構造 予習の進め方			英文の構造を		
<del></del>		3週	Unit 1. Transport	ation and Informa	ation	「交通と情報	ニアン・ロップ・ロップ・ロップ・ロップ・ロップ・ロップ・ロップ・ロップ・ロップ・ロップ	
前期	1stQ	4週	Unit 1. Transport	ation and Informa		「交通と情報	案内」に関する英文を聴解・読解する。 疑問代名詞や進行形などの用法を理解	
		5週	Unit 1. Transport	ation and Informa	ation	「交通と情報	案内」に関する英文を聴解・読解する。 疑問代名詞や進行形などの用法を理解	
		6週	Unit 2. Instruction	ns and Explanatio	ins		」に関する英文を聴解・読解することだ 詞や完了形、態などの用法を理解できる。	
	1	L				~		

分野横断的			0		0	0		0	
基礎的能力			55 0		0	0		0	
総合評価害			55		25	2		100	
			定期試	<b>は験</b>	演習(TOEIC問題演習 ①②)等	_	語学カテスト	合計	
評価割合	ì								
	16週 後期定期試験					解し、それらを活用・運用で			
		15週	Uı	nit 11. Sports and Ex	kercise		「運動・フィットネス」(	こ関する英文を聴解・読解す 問文や完了形などの用法を理	
		14週	Uı	nit 11. Sports and Ex	kercise	「運動・フィットネス」に関する英文を聴解・診ることが出来る。否定疑問文や完了形などの用法解できる。		こ関する英文を聴解・読解す 問文や完了形などの用法を理	
	4thQ	13週	Uı	nit 11. Sports and Ex	kercise		「運動・フィットネス」に	この用点を注解できる。 こ関する英文を聴解・読解す 問文や完了形などの用法を理	
		12週	Uı	nit 9. Culture and En	tertainment			 英文を聴解・読解する <i>こと</i> が	
		11週		nit 9. Culture and En	-			 英文を聴解・読解することが	
		9週		nit 9. Culture and En 			出来る。完了形や仮定法な	<b>よどの用法を理解できる。</b>	
後期		8週		OEIC問題演習②			解度・習熟度を確認するこ	て、これまでの子質内容の理 ことができる。 英文を聴解・読解することが	
/// HP		7週		nit 8. Medical Treatn	nent and Insurance	「医療・保険」に関する英文を聴解・読解することが 出来る。There〜やWho〜の用法を理解できる。 TOEIC問題の演習を通して、これまでの学習内容の理			
		6週	Uı	Unit 8. Medical Treatment and Insurance			「医療・保険」に関する英文を聴解・読解することが出来る。There〜やWho〜の用法を理解できる。		
		5週	Uı	nit 7. Invitation			できる。	英文を聴解・読解することが 法助動詞などの用法を理解	
	3rdQ	4週		Unit 7. Invitation			できる。	英文を聴解・読解することが 法助動詞などの用法を理解	
		3週	Uı	nit 7. Invitation	nvitation		「招待・案内」に関する英文を聴解・読解することが 出来る。疑問副詞や副詞、法助動詞などの用法を理解 できる。		
		2週	Uı	nit 5. Communication	n		「通信・コミュニケーショ 読解することが出来る。3 用法を理解できる。	ョン」に関する英文を聴解・ 雪定疑問や形容詞、限定詞の	
		1週	Uı	nit 5. Communication	n		「通信・コミュニケーショ 読解することが出来る。2 用法を理解できる。	ョン」に関する英文を聴解・ 否定疑問や形容詞、限定詞の	
		16週	前	期定期試験				解し、それらを活用・運用で	
		15週	Uı	nit 4. Business Scene	9		「ビジネス」に関する英文	文を聴解・読解することが出 時・場所・数の表現を理解	
		14週	Uı	nit 4. Business Scene	9		「ビジネス」に関する英文	文を聴解・読解することが出 時・場所・数の表現を理解	
	2ndQ _{13週}		Uı	Unit 4. Business Scene			「ビジネス」に関する英文 来る。疑問副詞の用法や、 できる。	文を聴解・読解することが出 時・場所・数の表現を理解	
		12週	Uı	nit 3. Eating and Dri	nking	「飲食」に関する英文を聴解・読解することが出来る。 過去形の用法や文の構造について理解できる。			
		11週	Uı	nit 3. Eating and Dri	nking		「飲食」に関する英文を职 。過去形の用法や文の構造	感解・読解することが出来る 造について理解できる。	
		10週	Uı	nit 3. Eating and Dri	nking		「飲食」に関する英文を职 。過去形の用法や文の構造	密解・読解することが出来る 造について理解できる。	
		9週	T	OEC問題演習①			TOEIC問題の演習を通し 解度・習熟度を確認するこ	て、これまでの学習内容の理 ことができる。	
		8週	Uı	nit 2. Instructions ar	nd Explanations		「指示と説明」に関する第 出来る。助動詞や完了形、。	英文を聴解・読解することが 態などの用法を理解できる	
		7週	Uı	nit 2. Instructions ar	nd Explanations		1 指示と説明」に関する多出来る。助動詞や完了形、。	英文を聴解・読解することが 態などの用法を理解できる	

	等専門学校	党 開講年度 令和05年度	要(2023年度)	授業科目			
科目基礎情報		1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	( / / / / / / / / / / / / /	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			
科目番号	0072		科目区分	一般/選択	7		
受業形態	授業		単位の種別と単位				
 開設学科	創造工学	· 科 (一般科目)	対象学年	4			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書:佐々木彩ほか『法律学への案内(第2版)』八千代出版、レジュメ・資料を配布/参考図書:内田貴『民法 I 〜IV』東京大学出版会、平嶋竜太他『入門 知的財産法』有斐閣、盛岡一夫『知的財産法概説〔第5版〕』法学書院 水町有一郎『労働法 等6版』有斐閣、升田淳『最新PL関係 判例と実務』民事法研究会/参考資料:田中英夫『実定学入門〔第3版〕』東京大学出版会、『ジュリスト』有斐閣(各号及び別冊(判例百選))、『基本法コンメンタール日本評論社(各法)、P.G. ヴィノグラドフ(末延三次・伊藤正己訳)『法における常識』岩波文庫、Paul Vinogradoff,Common sense in law, Oxford University Press							
	佐々木系	<u> </u>	•				
1. 民主政治の基本 2. 現代社会の法的	諸課題、およ	∄憲法の成り立ちやその特性につい び公正な社会の実現に向けた現在 『、法令・学説・判例を正確に駆使	までの取り組みについる	C説明できる。 文章で表わすこ。	とができる。		
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベ		未到達レベルの目安		
1.民主政治の基本 憲法の成り立ちやそ て説明できる。	▼原理、日本国 その特性につい	国 民主政治の基本原理、日本国語 の成り立ちやその特性について 明できる。	意法 民主政治の基本原の成り立ちやその 本的な問題が解け	)特性に関する基	民主政治の基本原理、日本国憲法 の成り立ちやその特性に関する基 本的な問題が解けない。		
2. 現代社会の法的 び公正な社会の実現 までの取り組みにつ る。	に向けた現在	-  坑  (社会の広門語味は、のよし	「正な仕去の夫現に	向けた現在まで	現代社会の法的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについての基本的な問題が解けない。		
3. バランスのとれ 、法令・学説・判例 して問題の解決を導 わすことができる。	りを正確に駆倒	▼   令・学説・判例を正確に駆使し	ノて │令・学説・判例を	江確に駆使して 採決を導き、文章	バランスのとれた法的思考で、法 令・学説・判例を正確に駆使して 基本的な問題の解決を導き、文章 で表わすことができない。		
学科の到達目標	項目との関	係					
I 人間性 1 I I 実践性 2 II II 国際性 3 III	人間性 実践性 国際性						
 教育方法等							
概要	とを目指	視点から人間、社会、文化につい する自覚と素養を培う。人間活動 社会に貢献する自覚と素養を培う し、「『法』とは何か」について ンドを培う。	て多面的に理解し、国際 や科学技術の役割と影響 。「法律」を学ぶ基盤と 考えた後、実生活に起り	祭社会の一員として 響に関心を持ち、≤ として、まずは、決 ) うる実定法学上の	こ社会的諸問題の解決に向けて主体 幸福とは何かを追求しながら、技術 法学の基礎理論を確実に理解するこ D解決方法を習得することで、リー		
授業の進め方・方法	求めるほ  ・この科   常の授業	か、練習問題を取り入れて、受講  目は学習単位科目のため、事前・	者の理解度を確認しなた 事後学習としてレポート	がら授業を行う。 ►等の課題等を課し	ノ、受講生に対して質問への応答を ノ、評価の対象とする。この他、日 勉強時間を総合し、60時間の自学自		
注意点	持ち、自習を行の六法を・成績は	分で考え、法的観点から結論を導  うこと。授業 後は復習を  携行することが望ましい。	き出してみてほしい。技 しっかり行い、分からな 6、課題20%を総合して	受業で扱う項目にて よい点は質問に来る 評価する。学業成	E内容については、特に問題意識を Oいては、配布資料等を用いて自学 ること。なお、授業においては最新 は績が60点未満の者に対しては再試 -ス		
			wで1] ノ。120、舟評伽	シンドスロのところ	'ఎం		
文未り周任・優 ] アクティブラー		☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授		
544=1 <del></del>							
受業計画	I.m	I.e.w. i -	1.				
	週	授業内容		週ごとの到達目標			
	1週	1. 法とは何か①		裁判所のしくみに゛	基準となる法の解釈や適用の問題、 ついて、日本国憲法の基本原理を趾 、説明することができる。		
				法の分類 裁判の	基準となる法の解釈や適用の問題、		

授業計	画			
		週	授業内容	週ごとの到達目標
		1週	1. 法とは何か①	法の分類、裁判の基準となる法の解釈や適用の問題、 裁判所のしくみについて、日本国憲法の基本原理を踏 まえた上で理解し、説明することができる。
		2週	1. 法とは何か②	法の分類、裁判の基準となる法の解釈や適用の問題、 裁判所のしくみについて、日本国憲法の基本原理を踏 まえた上で理解し、説明することができる。
		3週	2. 住生活と法①	日常的に行われる売買契約を通じて、権利と義務との 関係、意思表示(心裡留保、虚偽表示等)について理 解し、説明することができる。
後期	3rdQ	4週	2. 住生活と法②	私法上、「人」は、いつをもって生まれたとみなすか (権利能力の始期)について、「胎児の権利能力」に 関する事例を通して理解し説明することができる。
		5週	2. 住生活と法③	私法上、「人」は、いつをもって死亡したとみなすのか(権利能力の終期)について、「失踪宣告」等の事例を通して理解し、説明することができる。
		6週	3. 交通事故と法①	交通事故等の事例を通して、一般的不法行為に基づい て損害賠償請求をする方法を説明することができる。
		7週	3. 交通事故と法②	交通事故等の事例を通して、特殊な不法行為に基づい て損害賠償請求をする方法を説明することができる。
		8调	到達度試験	

	9週		4. 製造物責任		製造物責任法が制定するま 法の内容について理解し、	での過程および製造物責任 説明することができる。		
		10週	5. 労働と法①		労働法の全体像について理る。	[解し、説明することができ		
		11週	5. 労働と法②		労働法の要である労働基準 ることができる。	法について理解し、説明す		
	4thQ	12週	6. 婚姻と法		親等の範囲、婚姻の一般的、婚姻の効力、離婚の方法について理解し説明するこ	日成立要件と実質的成立要件 (協議離婚〜裁判離婚)等 ことができる。		
		13週	7. 相続と法		法定相続(相続人の範囲、 言相続(遺留分、遺言の程 し説明することができる。	法定相続分の計算等)、遺 [類等)についについて理解		
		14週	8. 知的財産法①			通して、特許権を中心とす 背し説明することができる。		
		15週	8. 知的財産法②			知的財産権に関する事例を通して、特許権の他、著作権等についても理解し説明することができる。		
		16週	定期試験					
評価割合	ì							
			定期試験	達成度試験	課題	合計		
総合評価割	<u></u> ]合		40	40	20	100		
基礎的能力	]		40	40	20	100		
専門的能力	J		0	0	0	0		
分野横断的	能力		0	0	0	0		

苫小	牧工業高	等専門学	校開講年度	令和05年度(	2023年度)	授	業科目	哲学	
科目基礎		13 131 3 3	N   1/13E13 1 /2	TISTINGS TIX (			<u> </u>	, m 3	
科目番号		0073			科目区分		 一般 / 選		
授業形態		授業			単位の種別と単	1. 公米			
開設学科			 学科(一般科目)		対象学年	片江致			
	†		子科 ( 双科日)		1 2 2 2 1		2		
開設期	/h.i.i.	前期			週時間数		2		
教科書/教		ATT VI	<u> </u>						
担当教員		多田 光	运						
到達目	標								
る自覚と	:素養を培う	0						問題の解決に向けて主体的 する自覚と素養を培う。	りに貢献す
ルーブ	リック								
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達し	ノベルのE	安	未到達レベルの目安	
解し、そ	学の基本用 れを用いて とができる	自分の考え	፟ 異料等を収集した	く理解し、自分で た上で、基本用語 、自分の考えを述 る。	講義の内容をる 語を適切に使用 述べることがで	よく理解し 用し、自分	/、基本用	講義の内容を理解しよう	
解し、そ	学の基本用 れを用いて とができる	自分の考え	賃 │資料等を収集しア	く理解し、自分で た上で、基本用語 、自分の考えを述 る。	講義の内容をる 語を適切に使用 述べることがで	目し、白ケ			
解し、そ	理の基本用 れを用いて とができる	自分の考え	理 講義の内容をより 資料等を収集し	く理解し、自分で た上で、基本用語 、自分の考えを述	講義の内容を る語を適切に使用述べることがで	目し、自分	/ 基本用 ↑の考えを	講義の内容を理解しよう 独りよがりな自分の考え。	
学科の	到達目標	項目との	 関係						-
I 人間 II 実践	」 引性 1 I 実性 2 II	人間性 実践性 国際性							
教育方法	法等								
概要		現代の取り上	の倫理に関わる諸問題 ずられるよど バクスは	を取り上げ、その	各々について倫理	理学がどの	Dように考	えようとしているのかを請	講義する。
				は、生命倫理、環境					
授業の進	め方・方法	内容だしい。	が多岐に渡る為、適宜	ロプリントを配布す	るので、教科書(	は使用した	よい。 たた	し、参考図書に目を通すこ	
注意点		内容 しい。 トで、後 ・ でを ・ でで を き で で も で も で も で も で も で も で も た つ に つ い こ っ と っ と っ と っ と っ と っ と っ と っ と っ と っ	が多岐に渡る為、適宜 ックスとして取り上け 注意深く考えなければ 数解の中から最適解を 者は講義中に取り上け する時間を必ず持ち、 ては、講義中に課すし	Iプリントを配布す する現代の諸問題に する現代の諸問題に というない。という となめる工学の思考 すられたトピックス 自分でノートにま	るので、教科書(は、明確な一つのも、これののも、これののに)方法と類似していたに関連するニューにとめる等、自学に	は使用したの解答ができる。 の解答ができる。 の解答ができる。 の解答ができる。 の解答ができる。 の解答ができる。 の解答ができる。 の解答ができる。 の解答ができる。 の解答ができる。 の解答ができる。 の解答ができる。 の解答ができる。 の解答ができる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののでき。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののできる。 ののでき。 ののでき。 ののでき。 ののできる。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。	よい。ただ 存在する訳 である。 いたを抱き	し、参考図書に目を通すこれではない。それ故に、受講ることは、完全な唯一の正、講義時間外にも自分の考(学修単位のため必須)。	構者は「自 E解ではな そえを検討
注意点 授業の)	め方・方法   	内容 しい。 トピ 分で で 養講 ・整理 につい 修上の区	が多岐に渡る為、適宜 ックスとして取り上け 注意深く考えなければ 数解の中から最適解を 者は講義中に取り上け する時間を必ず持ち、 ては、講義中に課すし	Iプリントを配布す する現代の諸問題に する現代の諸問題に というない。という となめる工学の思考 すられたトピックス 自分でノートにま	るので、教科書(は、明確な一つのも、これののも、これののに)方法と類似していたに関連するニューにとめる等、自学に	は使用した の解答が行 問題ない いるの に 同 音 習 に 取 り る 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	よい。ただ 存在する訳 である。 いたを抱き	ではない。それ故に、受詞ることは、完全な唯一の正、 、	精者は「自 E解ではな きえを検討 その成果
注意点 授業の □ アクラ	属性・履行	内容 しい。 トピ 分で で 養講 ・整理 につい 修上の区	が多岐に渡る為、適宜 ックスとして取り上げ 注意深く考えなければ 数解の中から最適解を 者は講義中に取り上げ する時間を必ず持ち、 ては、講義中に課すし か	Iプリントを配布す する現代の諸問題に する現代の諸問題に というない。という となめる工学の思考 すられたトピックス 自分でノートにま	るので、教科書(は、明確な一つのも、これらの時方法と類似していた関連するニューとめる等、自学によって評価する	は使用した の解答が行 問題ない いるの に 同 音 習 に 取 り る 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	よい。ただ 存在する訳 である。 いたを抱き	ではない。それ故に、受講 ることは、完全な唯一の正 、講義時間外にも自分の考 (学修単位のため必須)。	精者は「自 E解ではな きえを検討 その成果
注意点 授業の □ アクラ	属性・履行	内容。 りい。 りで、受整理に につい 修上の区グ	が多岐に渡る為、適宜  ックスとして取り上げ 注意深く考えなければ 数解の中から最適解を 者は講義中に取り上げ する時間を必ず持ち、 ては、講義中に課すし 分	Iプリントを配布す する現代の諸問題に する現代の諸問題に というない。という となめる工学の思考 すられたトピックス 自分でノートにま	るので、教科書(は、明確な一つのも、これらの時方法と類似していた関連するニューとめる等、自学によって評価する	は使用した の解答が行 問題ない いるの に 同 音 習 に 取 り る 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	よい。ただ 存在する訳 である。 いたを抱き	ではない。それ故に、受講 ることは、完全な唯一の正 、講義時間外にも自分の考 (学修単位のため必須)。	精者は「自 E解ではな きえを検討 その成果
注意点 授業の □ アク・	属性・履行	内容 しい。 トピ 分で で 養講 ・整理 につい 修上の区	が多岐に渡る為、適宜 ックスとして取り上げ 注意深く考えなければ 数解の中から最適解を 者は講義中に取り上げ する時間を必ず持ち、 ては、講義中に課すし か	Iプリントを配布す する現代の諸問題に する現代の諸問題に というない。という となめる工学の思考 すられたトピックス 自分でノートにま	るので、教科書(は、明確な一つのも、これらの時方法と類似していた関連するニューとめる等、自学によって評価する	は使用した の解答がに 問題群に 引るス等に 取り る。 応	よい。ただ 存在する訳 である。 いたを抱き	ではない。それ故に、受講ることは、完全な唯一の正 、講義時間外にも自分の考 (学修単位のため必須)。	精者は「自 E解ではな きえを検討 その成果
注意点 授業の □ アク・	属性・履行	内容。 りい。 りで、受整理に につい 修上の区グ	が多岐に渡る為、適宜  ックスとして取り上げ 注意深く考えなければ 数解の中から最適解を 者は講義中に取り上げ する時間を必ず持ち、 ては、講義中に課すし 分	Iプリントを配布す  fる現代の諸問題に がならない。という で求める工学の思考  fられたトピックス 自分でノートにま  レボートや定期試験	るので、教科書(は、明確な一つのも、これらの時方法と類似していた関連するニューとめる等、自学によって評価する	は使用した の解答が行 問題群につ いースマ に取り る。 応 -	ない。ただ 字在する訳 さいてきった。 である。 もいでも の到達目 の の の の の の の の の の の の の	ではない。それ故に、受講ることは、完全な唯一の正 、講義時間外にも自分の考 (学修単位のため必須)。	精者は「自 E解ではな きえを検討 その成果
注意点 授業のI □ アク:	属性・履行	内いトで、受整つにの区グ	が多岐に渡る為、適宜 ックスとして取り上げ 注意深く考えなければ 数解の中から最適解を 者は講義中に取り上げ する時間を必ず持ち、 ては、講義中に課すし か	Iプリントを配布す  する現代の諸問題に  がならない。という  でならないたトピックス  自分でノートにま  レポートや定期試験	るので、教科書(は、明確な一つのも、これらの時方法と類似していた関連するニューとめる等、自学によって評価する	は使用した の解答がにご問題がでいる。 でいる。 でいる。 でいる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	ない。ただ 存在する記 である。 であるをむこと の到達目様 のかな思考の	ではない。それ故に、受講ることは、完全な唯一の正 、講義時間外にも自分の考 (学修単位のため必須)。	精者は「自 E解ではな きえを検討 その成果
注意点 授業のI □ アク:	属性・履行	内いトで、受整で にこの区が 修上の区が 週 1週	が多岐に渡る為、適宜 ックスとして取り上げ 注意深く考えなければ 数解の中から最適解を 皆は講義中に取り上げ する時間を必ず持ち、 ては、講義中に課すし の  ICT 利用  授業内容  1. 倫理学的に考え	ロプリントを配布す する現代の諸問題に がならない。という とである工学の思考 があるエ学のと考 がしたトピックス 自分でノートにま シポートや定期試験 えるとは?	るので、教科書(は、明確な一つのも、これらの時方法と類似していた関連するニューとめる等、自学によって評価する	は使用した の解解性のに可能のでは、 の解析では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	ない。ただ 字在する記 でもいてる。 もいてる。 もいてる。 もいであるを かいと の到達目 がな思考の の基礎理 の基礎理	ではない。それ故に、受談ることは、完全な唯一の正 、講義時間外にも自分の考 (学修単位のため必須)。	精者は「自 E解ではな きえを検討 その成果
注意点 授業のI □ アク:	属性・履行	内い トで、受整 につ 区 を上の区 りょう しょう しょう を は は は は は は は は は は は は は は は は は は	が多岐に渡る為、適宜 ックスとして取り上げ主意深く考えなければ数解の中から最適解を 皆は講義中に取り上げする時間素中に取り上げては、講義中に取り上げては、講義中に別り上げては、講義中に課すしては、講義中に課すしては、講義中に課すしては、講義中に課すしては、講義中に課すしては、講義中に課すしては、講義中に課すしては、議論を表現している。	ロプリントを配布す する現代の諸問題に すならない。といま でならな工学のの思考 がられたトピーックに 自分でフートや 定求める工学の 自分で、 を は、 で の思考 で のといま で のと、 で のと、 で のと、 で のと、 のと、 で のと、 のと、 で のと、 のと、 で のと、 のと、 のと、 のと、 のと、 のと、 のと、 のと、	るので、教科書(は、明確な一つのも、これらの時方法と類似していた関連するニューとめる等、自学によって評価する	は使用した の問題の表別では の問題の表別では の問題の表別では の問題の表別では の問題の表別では のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 の	はい。ただ 存在する訳 であった。 であったもと の到達目標 の知達程で のの基礎理: 理の基本	ではない。それ故に、受講ることは、完全な唯一の正、講義時間外にも自分の考、(学修単位のため必須)。  □ 実務経験のある教員  □ 実務経験のある教員  □ について理解できる。	精者は「自 E解ではな きえを検討 その成果
注意点 授業の □ アク・	属性・履行	内い トで、受整 い に の 区グ に か が が が が が が が が が が が が が が が が が が	が多岐に渡る為、適宜 ックスとして取り上け 注意深く考えなければ 数解の中から最適解を 者は講義中に取り持ち、 ては、講義中に課すし が □ ICT 利用 一 ICT 利用 一 授業内容 1. 倫理学的に考え 2. 倫理学の基礎理 3. 生命倫理の基礎	ロプリントを配布す する現代の諸問題に ずならない。といま ですめるエ学の思考 がられたトピークにま がらかで、カートや定期試験 では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アートを では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと では、アーと	るので、教科書(は、明確な一つのも、これらの時方法と類似していた関連するニューとめる等、自学によって評価する	は使用したがにう間からに取りがにいるに取りがにいるに取りができます。	はい。ただ P在する記 PAL PAL PAL PAL PAL PAL PAL PAL	ではない。それ故に、受講ることは、完全な唯一の正、講義時間外にも自分の考、(学修単位のため必須)。  実務経験のある教員 要  ではない。それ故に、受講義時間外にも自分の考します。  実務経験のある教員 要  できる。 について理解できる。	精者は「自 E解ではな きえを検討 その成果
注意点 授業の □ アク・	属性・履	内い トで、受整 いに で、受整 いに で で で で で で で で で で で で で で で で で で	が多岐に渡る為、適宜 ックスとして取り上け 注意深く考えなければ 数解の中から最適解を する時間をのでがけった。 では、講義中に取り方った。 では、講義中に別り方った。 では、講義中に課すした。 では、 調子のに表える。 1. 倫理学的に考える。 2. 倫理学の基礎理 3. 生命倫理の基礎理 4. 臓器移植(1)	ロプリントを配布す する現代の諸問題に ずならない。といま で求めるエ学の思考 がら台分トレート では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	るので、教科書(は、明確な一つのも、これらの時方法と類似していた関連するニューとめる等、自学によって評価する	は 使用 した がにら に 解題る ス 習 。 応 週 倫 年 臓 脳 臓 器 器 移 移 移 移 移 移 を か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま か	はい。ただ PAC する記 PAC する記 PAC する記 PAC で PAC で P	ではない。それ故に、受調ることは、完全な唯一の正、講義時間外にも自分の考、(学修単位のため必須)。  「実務経験のある教員」  「実務経験のある教員」  「関係を理解できる。 「関係について理解できる。」 「関係について理解できる。」 「関係について理解できる。」 「関係について理解できる。」	精者は「自 E解ではな きえを検討 その成果
注意点 授業の □ アク・	属性・履	内容。 分で、受整型い 修上の区グ 週 1週 2週 3週 4週 5週	が多岐に渡る為、適宜 ックスとして取り上け注意深く考えなけのは注意深く考えなけのなける。 は講話では、講義中に取り上げまる時間を必ず持ち、 では、講義中に取り上げまる時間である。 では、講義中に課すした。 では、講義中に課すした。 では、講義中に課すした。 は、講義中に課すした。 は、講義中に課すした。 は、講義中に課すした。 は、講義中に課すした。 は、講義中に課すした。 は、講義を申に課すした。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	ロプリントを配布す する現代の諸問題に すならない。 といまるエピーックに 自分トトウ定期試験 ならなことは? 理論	るので、教科書(は、明確な一つのも、これらの時方法と類似していた関連するニューとめる等、自学によって評価する	は の問い一言る 応 週 倫 年 臓 臓 臓 臓 臓 臓 臓 臓 縁 移 移 移 移 移 移 移 移 移 移 移	ない。ただっている。ただっている。 やいてる。 やいてる。 やいてる。 やいであい をない かい ない はい かい ない ない ない ない ない ない ない ない はい かい ない はい かい ない はい	ではない。それ故に、受調ることは、完全な唯一の正、講義時間外にも自分のき、(学修単位のため必須)。  「実務経験のある教員」  「実務経験のある教員」  「関係できる。」  「こついて理解できる。」  「こついて理解できる。」  「こついて理解できる。」  「こついて理解できる。」  「こついて理解できる。」  「こついて理解できる。」	構者は「自 E解ではな きえを検討 その成果
注意点 授業の □ アク・	属性・履	内い トで、受整つ   下で、受整つ   下で、受整つ   下で、受整つ   下で、受整つ   下で、受整つ   下で   下で   下で   下で   下で   下で   下で   下	が多岐に渡る為、適宜 ックスとして取り上け 主意深く考えなければ 数解の中から最適解を 者は講義中に必ず持ち ては、 一 ICT 利用 一 ICT 利用 一 接業内容 1. 倫理学のに考え 2. 倫理学の基礎理 3. 生命倫理の基礎理 4. 臓器移植(1) 5. 臓器移植(2) 6. 臓器移植(3)	ロプリントを配布す する現代の諸問題に すならない。 といまるエピーックに 自分トトウ定期試験 ならなことは? 理論	るので、教科書(は、明確な一つのも、これらの時方法と類似していた関連するニューとめる等、自学によって評価する	は の問い一言る 応 週 倫 年 臓 臓 臓 臓 臓 臓 臓 臓 縁 移 移 移 移 移 移 移 移 移 移 移	はい。ただ 存在する記え すてる。抱え の対な思せ の対な歴史を がり基のの がりを がりませる。 であい。 がりままで であい。 がりままで がりままで であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 であい。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる	ではない。それ故に、受談ることは、完全な唯一の正、講義時間外にも自分の考、(学修単位のため必須)。  □ 実務経験のある教員  □ 実務経験のある教員  □ について理解できる。 ■頂について理解できる。 ■頂について理解できる。 ■原について理解できる。	構者は「自 E解ではな きえを検討 その成果
注意点 授業の アクラ	属性・履	内いトで、受整つ   Pour Marie	が多岐に渡る為、適宜  ックスとして取り上げま意深く考え最適に対して 数解の中から取り上げまでは、 数解の中から取り上げます。 する時間であり上げます。 では、講義を中に必ず持ます。 では、講義を中に必ずけます。 「日では、 日本	Tプリントを配布す する現代の諸問題に すならない。といき でならるエ学のの思考 がのまるエンピー 自分でしても 自分でといった。 はなられたした。 はいうでは、 自分では、 を取るとは? 理論	るので、教科書(は、明確な一つのも、これらの時方法と類似していた関連するニューとめる等、自学によって評価する	は かけい 1 当る 応	ない。ただっただっただった。ただったでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	ではない。それ故に、受談ることは、完全な唯一の正、講義時間外にも自分の考、(学修単位のため必須)。  □ 実務経験のある教員  □ 実務経験のある教員  □ について理解できる。 ■頂について理解できる。 ■頂について理解できる。 ■原について理解できる。	構者は「自 E解ではな きえを検討 その成果
注意点 授業の □ アク: 授業計i	属性・履	内いトで、受整つ	が多岐に渡る為、適宜  タクスとして取り上げま意深くもえる最適度は	ロプリントを配布す  する現代の諸問題に すならない。との思えて での思えて でのというに はならるエーピー のでは のに ので	るので、教科書(は、明確な一つのも、これらの時方法と類似していた関連するニューとめる等、自学によって評価する	は かごうに取り を群か等に 週 倫 倫 生 臓 臓 臓 臓 に ご 理 理 命 器 器 器 器 と 床 と 学 学 倫 移 移 移 移 が 前	ない。ただっただった。ただった。ただった。ただった。 また すてる。をいるをいるをいるをいるをいるをいるをはない。 到達思礎基諸問題には、 をは、 は、 は	ではない。それ故に、受調ることは、完全な唯一の正、講義時間外にも自分のき、(学修単位のため必須)。  「実務経験のある教員ではついて理解できる。原について理解できる。原について理解できる。原について理解できる。	構者は「自 E解ではな きえを検討 その成果
注意点 授業の □ アク: 授業計i	属性・履	内い   内で、受整で   一次   で、受整で   一次   で、受整で   一次   一次   一次   一次   一次   一次   一次   一	が多岐に渡る為、適宜 ックスとして取り上け として取り上けは を対して取り上けは を対して取り上けは を対して取り上けは を対して取り上けは をは講覧を中に取り持ち では、講義中にご課すし では、講義中にごます。 「ICT 利用 「授業内容」1. 倫理学の基礎理 3. 生命倫理の基礎理 4. 臓器移植(1) 5. 臓器移植(2) 6. 臓器移植(3) 7. 臓器移植(4) 8. 中間評価 9. 着床前診断	ロプリントを配布す する現代の諸問題に する現代の諸問題に すならない。と である工学のの思考 すら自分トトソート に するとは こまるとは 理論	るので、教科書(は、明確な一つのも、これらの時方法と類似していた関連するニューとめる等、自学によって評価する	は の問い 1 自る 応	ない。ただっただっただっただっただっただっただっただっただったであります。 かいかい 単値 値で かいかい 単値 値で かいかい 単値 値で かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい	ではない。それ故に、受調ることは、完全な唯一の正、講義時間外にも自分の表、(学修単位のため必須)。  「実務経験のある教員では、実務経験のある教員では質を理解できる。」ではではできる。 「関について理解できる。」でいて理解できる。 「関について理解できる。」でいて理解できる。 「関について理解できる。」でいて理解できる。 「関について理解できる。」でいて理解できる。 「関について理解し、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以では、自分の可以のは、自分のは、自分の可以のは、自分のは、自分のは、自分のは、自分のは、自分のは、自分のは、自分のは、自分	情者は「自 E解ではな 考えを検討 その成果 はによる授業 考えをもつ
注意点 授業の □ アク: 授業計i	属性・履	内いトで、受整つ   区が   上の     1週     3週     4週     5週     6週     7週     8週     9週	が多岐に渡る為、適宜 ックスとして取り上ければ 対象に 対象に 対象に 対象に 対象に 対象に 対象に 対象に	ロプリントを配布す する現代の諸問題に する現代の諸問題に すならない。と である工学のの思考 すら自分トトソート に するとは こまるとは 理論	るので、教科書(は、明確な一つのも、これらの時方法と類似していた関連するニューとめる等、自学によって評価する	は か問い 1 自る 応	はい。ただ 字ので見り のかの理値値できい。 かい。ただ 字ので見り のかののですであるをむった。 のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	ではない。それ故に、受調ることは、完全な唯一の正、講義時間外にも自分の表、(学修単位のため必須)。  「実務経験のある教員では、実務経験のある教員では質を理解できる。」ではできる。 「関について理解できる。」でいて理解できる。 「関について理解できる。」でいて理解できる。 「関について理解できる。」でいて理解できる。 「関係について理解できる。」でいて理解できる。 「関係について理解し、自分の可以について理解できる。」 「関係について理解し、自分の可以に対し、自分の可以に対して理解できる。」 「関係について理解し、自分の可以に対し、自分の可以に対して理解できる。」 「関係について理解し、自分の可以に対して理解できる。」 「関係について理解し、自分の可以に対し、自分の可以に対し、自分の可以に対し、自分の可以に対し、自分の可以に対し、自分の可以に対し、自分の可以に対し、自分の可以に対し、自分の可以に対し、自分の可以に対し、自分の可以に対し、自分の可以に対し、自分の可以に対し、自分の可以に対し、自分の可以に対し、自分の可以に対し、自分の可以に対しては対し、自分の可以に対しては対し、自分の可以に対しては、自分の可以に対しては対し、自分の可以に対しては対し、自分の可以に対し、自分の可以に対しては対し、自分の可以に対しては対し、自分の可以に対しては対し、自分の可以に対しては対し、自分の可以に対しては対し、自分の可以に対しては対し、自分の可以に対しては対し、自分の可以に対しては対し、自分の可以に対しては対しては対しては対しまします。	情者は「自 E解ではな 考えを検討 その成果 はによる授業 考えをもつ
注意点 授業の □ アクラ	属性・履	内いトで、受整つ   区が、	が多岐に渡る為、適宜 タクスとして取り上ければ として取り上ければ として取り上げれば として取り上げれば として取り上げれば をはていからに取り持ちすして では、 一 ICT 利用 一 ICT 利用 一 ICT 利用 一 接業内容 1. 倫理学の基礎理 3. 生命解理値(1) 5. 臓器移植(2) 6. 臓器移植(3) 7. 臓器移植(3) 7. 臓器移植(4) 8. 中間評価 9. 着床前診断 11. 着床前診断 12. 尊厳死(1)	ロプリントを配布す する現代の諸問題に する現代の諸問題に すならない。 との思ス すら自分トトウ にする こまの になった になった になった になった になった になった になった になった	るので、教科書(は、明確な一つのも、これらの時方法と類似していた関連するニューとめる等、自学によって評価する	は か問ハー自る 応 週 倫 佐 臓臓臓 臓ご 着 着つ 尊が用 答群か等に 週 倫 倫 生 臓臓臓臓ご 着 着 着つ 尊が がにらに取 ご 理 理 命 器 器 器 器 と 床 床 床ご 厳で しがにらに取 と 学 学 倫 移 移 移 移が 前 前 前と 死き	はい。 ただ すい かい。 ただ すい あい かい。 ただ すい あい かい かい かい で は で で で で で で で で で で で で で で で で で	ではない。それ故に、受調ることは、完全な唯一の正、講義時間外にも自分の表、(学修単位のため必須)。  「実務経験のある教員では、実務経験のある教員では、実務経験のある教員では、実務経験のある教員では、で理解できる。国について理解できる。国について理解できる。国について理解できる。国について理解できる。国について理解できる。国について理解し、自分の制題について理解できる。別題について理解し、自分の制題について理解できる。別題について理解できる。別題について理解できる。別題について理解し、自分のよっている状況について理解し、自分のよっている状況について理解	情者は「自 E解ではな きえを検討 その成果 はによる授業 きえをも つ きえをも つ で まるで な きえを検討 と る で は な きえを を まる で な る で る る る る る る る る る る る る る る る
注意点 授業の □ アクラ	属性・履行ティブラー <u>-</u>	内いトで、受整の区グ   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   9週   11週	が多岐に渡る為、適宜 ツクスと人のでは、 ツクスとくのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カースとのでは、 カーなのでは、 カーなのでは、 カーなのでは、 カーなのでは、 カーなのでは、 カーなのでは、 カーなのでは、 カーなのでは、 カーなのでは、 カーなのでは、 カーなのでは、 カーなのでは、 カーなのでは、 カーなのでは、 カーなのでは、 カーなのでは、 カーなのでは	ロプリントを配布す する現代の諸問題に する現代の諸問題に すならない。といま ではないの思え では のとで では では のと では では で で で で で で で で で で で で で で で で	るので、教科書(は、明確な一つのも、これらの時方法と類似していた関連するニューとめる等、自学によって評価する	は の問い 1 mm 1	はい。 ただ 子ので制り の的の理値値値で 診診診ががる。 対てるをむ 型な基のののののでも 選思礎基諸諸問諸る ののでも 題問問題問。 諸諸語は があるとが があるとが があるとが があるとが のののでも のののでも ののののでも ののののでも ののののでも ののののでも ののののでも ののののでも ののののでも ののののでも ののののでも ののののでも ののののでも ののののでも ののののののでも ののののののののでも のののののののののの	ではない。それ故に、受調ることは、完全な唯一の正、講義時間外にも自分の表、(学修単位のため必須)。  実務経験のある教員 要  ではない。実務経験のある教員 要  できる。 国項について理解できる。 国でいて理解できる。 国について理解できる。 国について理解できる。 国について理解できる。 国について理解できる。 国について理解できる。 のについて理解できる。 国について理解できる。 のについて理解できる。 のについて理解できる。 のについて理解できる。 のについて理解できる。 のについて理解できる。 のについて理解できる。 のについて理解できる。 の問題について理解できる。 の問題について理解できる。 の問題について理解し、自分の について理解をあるとができる。 のについて理解をある。	情者は「自 にはない。 きえを検討果 はによる授業 きえをもつ の考えをも の考えをも
注意点 授業の フクラ	属性・履行ティブラー <u>-</u>	内いトで、受整つ   区が、	が多岐に渡る為、適宜 タクスとして取り上ければ として取り上ければ として取り上げれば として取り上げれば として取り上げれば をはていからに取り持ちすして では、 一 ICT 利用 一 ICT 利用 一 ICT 利用 一 接業内容 1. 倫理学の基礎理 3. 生命解理値(1) 5. 臓器移植(2) 6. 臓器移植(3) 7. 臓器移植(3) 7. 臓器移植(4) 8. 中間評価 9. 着床前診断 11. 着床前診断 12. 尊厳死(1)	ロプリントを配布す する現代の諸問題に する現代の諸問題に すならない。といま ではないの思え では のとで では では のと では では で で で で で で で で で で で で で で で で	るので、教科書(は、明確な一つのも、これらの時方法と類似していた関連するニューとめる等、自学によって評価する	は の問い 1 a k a c a c a c a c a c a c a c a c a c	はい。 ただれ	ではない。それ故に、受調ることは、完全な唯一の正、講義時間外にも自分のき、(学修単位のため必須)。  「実務経験のある教員を理解できる。 同項について理解できる。 同位について理解できる。 同時について理解できる。 「同時について理解できる」 「同時について理解できる」 「同時について理解することができる」 「同時について理解することができる」 「同時について理解することができる」 「同時について理解することができる」 「同時について理解することができる」 「同時について理解することができる」 「同時に対象を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	情者は「自た だだった検討果 きえを検討果 はによる授業 きえをもっ かくなる。 きる。
注意点 授業の □ アク: 授業計i	属性・履行ティブラー <u>-</u>	Provided Head	が多岐に渡る為、適宜 タクスとうない。 タクスとうない。 タクスとうからに必らに取り上れる。 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 、 大きので、 大きので、 、 大きので、 、 大きので、 、 大きので、 、 大きので 、 、 、	ロプリントを配布す する現代の諸問題に する現代の諸問題に すならないことの思考 すら自分トレート に対していた	るので、教科書(は、明確な一つのも、これらの時方法と類似していた関連するニューとめる等、自学によって評価する	は の問い 1 a k a c a c a c a c a c a c a c a c a c	はい。 ただれ	ではない。それ故に、受調ることは、完全な唯一の正、講義時間外にも自分の表、(学修単位のため必須)。  実務経験のある教員 要  ではない。実務経験のある教員 要  できる。 国項について理解できる。 国でいて理解できる。 国について理解できる。 国について理解できる。 国について理解できる。 国について理解できる。 国について理解できる。 のについて理解できる。 国について理解できる。 のについて理解できる。 のについて理解できる。 のについて理解できる。 のについて理解できる。 のについて理解できる。 のについて理解できる。 のについて理解できる。 の問題について理解できる。 の問題について理解できる。 の問題について理解し、自分の について理解をあるとができる。 のについて理解をある。	情者は「自な 学えを検討果 はによる授業 をもっている。 きる。
注意点授業の別では、対策では、対策では、対策では、対策では、対策では、対策では、対策では、対策	属性・履 ティブラー: 画 1stQ 2ndQ	内の区グ   大で、受整い   修上の区グ   過   1週   2週   3週   6週   7週   8週   9週   10週   11週   12週   13週   14週   14週	が多岐に渡る為、適宜 ックスとしまの シクスとしまの シクスとしまの シークスとしまの シークスとしまの シークスとしまの シークスとしまの シークスとしまの はは はは はは はは はは はは はは はは はは は	ロプリントを配布す する現代の諸問題に する現代の諸問題に すならないことの思考 すら自分トレート に対していた	るので、教科書(は、明確な一つのも、これらの時方法と類似していた関連するニューとめる等、自学によって評価する	は D問ハー自QG 応 週 倫 生 臓 臓 臓 臓 ご 着 着つ 尊が 尊 尊 尊 解題るス習。	はい。 ただれ	ではない。それ故に、受調ることは、完全な唯一の正、講義時間外にも自分のき、(学修単位のため必須)。  「実務経験のある教員を理解できる。 同項について理解できる。 同位について理解できる。 同時について理解できる。 「同時について理解できる」 「同時について理解できる」 「同時について理解することができる」 「同時について理解することができる」 「同時について理解することができる」 「同時について理解することができる」 「同時について理解することができる」 「同時について理解することができる」 「同時に対象を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	情者は「自た だだった検討果 きえを検討果 はによる授業 きえをもっ かくなる。 きる。
注意点 授業の □ アクラ	属性・履 ティブラー: 画 1stQ 2ndQ	Provided Head	が多岐に渡る為、適宜 タクスとうない。 タクスとうない。 タクスとうからに必らに取り上れる。 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 、 大きので、 大きので、 、 大きので、 、 大きので、 、 大きので、 、 大きので 、 、 、	ロプリントを配布す する現代の諸問題に する現代の諸問題に すならないことの思考 すら自分トレート に対していた	るので、教科書(は、明確な一つのも、これらの時方法と類似していた関連するニューとめる等、自学によって評価する	は D問ハー自QG 応 週 倫 生 臓 臓 臓 臓 ご 着 着つ 尊が 尊 尊 尊 解題るス習。	はい。 ただれ	ではない。それ故に、受調ることは、完全な唯一の正、講義時間外にも自分の表、(学修単位のため必須)。  「実務経験のある教員」 「実務経験のある教員」 「実務経験のある教員」 「関係できる。」 「はついて理解できる。」 「はついて理解できる。」 「はついて理解できる。」 「はついて理解できる。」 「はついて理解できる。」 「はついて理解できる。」 「はついて理解できる。」 「関題について理解し、自分の表現していて理解できる。」 「関題について理解し、自分の表現していて理解することができる。」 「対象について理解することができる。」 「対象について理解することができる。」 「対象について理解することができる。」 「対象について理解することができる。」 「はいて理解することができる。」 「はいて知识ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	情者は「自た解する。 きる。
注意点授業の別では、対策では、対策では、対策では、対策では、対策では、対策では、対策では、対策	属性・履 ティブラー: 画 1stQ 2ndQ	内い   内で、受整い	が多岐に渡る為、適宜 タクスとうない。 タクスとうない。 タクスとうからに必らに取り上れる。 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 大きので、 、 大きので、 大きので、 、 大きので、 、 大きので、 、 大きので、 、 大きので 、 、 、	ロプリントを配布す する現代の諸問題に する現代の諸問題に すならないことの思考 すら自分トレート に対していた	では、明確な一つののも、と類似していた関連を表示を関するニュ学院によって評価する。 図 遠隔授業対	は D問ハー自QG 応 週 倫 生 臓 臓 臓 臓 ご 着 着つ 尊が 尊 尊 尊 解題るス習。	はい。 ただれ	ではない。それ故に、受調ることは、完全な唯一の正、講義時間外にも自分のき、(学修単位のため必須)。  「実務経験のある教員を理解できる。 同項について理解できる。 同位について理解できる。 同時について理解できる。 「同時について理解できる」 「同時について理解できる」 「同時について理解することができる」 「同時について理解することができる」 「同時について理解することができる」 「同時について理解することができる」 「同時について理解することができる」 「同時について理解することができる」 「同時に対象を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	情者は「自た解する。 きる。
注意点 授業の ファク: 授業計i	属性・履行 ティブラー: 画 1stQ	内い   内で、受整い	が多岐に渡る為、適宜 タクスと	ロプリントを配布す  する現代の諸問題に する現代の諸問題に すならないことの思った でも分トトノート に対していた に対して	るので、教科書(は、明確な一つののも、と類のも、と類似していた関連等に関連等に関連を表示のでは、対していたと対する。日学院によって評価する。	は の問い 1 自る 応	はい。 ただれ	ではない。それ故に、受調ることは、完全な唯一の正、講義時間外にも自分の表、(学修単位のため必須)。  「実務経験のある教員」 「実務経験のある教員」 「実務経験のある教員」 「関係できる。」 「はついて理解できる。」 「はついて理解できる。」 「はついて理解できる。」 「はついて理解できる。」 「はついて理解できる。」 「はついて理解できる。」 「はついて理解できる。」 「関題について理解し、自分の表現していて理解できる。」 「関題について理解し、自分の表現していて理解することができる。」 「対象について理解することができる。」 「対象について理解することができる。」 「対象について理解することができる。」 「対象について理解することができる。」 「はいて理解することができる。」 「はいて知识ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	情者は「自た解する。 きる。

	牧工業高	 等専門学校	開講年度	令和05年度(2	2023年度)	授	業科目	経済学
科目基礎					/			•
科目番号		0074			科目区分		一般 / 選	択
授業形態		授業			単位の種別と単	位数	学修単位	: 2
開設学科		7.237.2.2.3 1	4(一般科目)		対象学年		4	
開設期		後期			週時間数		2	
教科書/教 担当教員	材	夕田 小空	++ L ロフ					
担国教具 <b>到達目</b> 標	<del></del>	多田 光宏,	州工 明士					
①社会科学 ③消費者·	- 学としての約	労働者・市民と	的な事項を説明でき いった様々な側面	きるようになること 町から「自己」を見	、②経済に関する 出し、経済活動と	様々な記の関係は	扁点に対し 生を考える	、て自分なりに考察を深めること。 うことで、現代社会で生きていくため
ルーブリ	Jック							
てい事くです目でにいまくです目ではというです。	認識理解し、 うか事ではいるかい でではいるのが、 でいるを済せるが、 でいるではいる。 ではいる。 ではいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 で	的 前 頭 で は で ま に に に に に に に に に に に に に	できること。自物をできること。 自然を しんしん できること かんしん できること かんしん しんしん しんしん しんしん しんしん しんしん しんしん しんし	ベルの目安(優) 正確に理解し説明 分自身の意見を積 論理的に結論を導 文章表現が適切で	標準的な到達レ 優のレヴェルに 、理解内容が経 て、概ね説明が	到達して 済学的事	こいないが 項につい	未到達レベルの目安(不可) 左記事項に不正確で明確な文章表 現等がなされていない場合。
I 人間	性1Ⅰ~	頁目との関係 人間性 実践性 国際性	<del>K</del>					
教育方法	去等	1						
概要		学習目標 I  E = iii   J	、Ⅱ、Ⅲ 本科 <i>页</i> ABEE基準1学習	)点検項目((環境・ 図・教育到達日標	生産システム工学	」教育ス	プログラム	学習・教育到達目標A-i、A-ⅱ、
授業の進め	め力・力法	ク」での考	す。 『内容の報告や学習 「察・質問・要望に	習内容の確認として は、次回講義でフィ	「振り返り自己チ ードバックします	エック」 。「振り	を合計10 0返り自己	済学について、まずは学問としての 様々な論点を経済学的視点から検討 D回行います。「振り返り自己チェッ チェック」は評価ツールであると同
^{注意点} 授業の属		なお、考察クリーでの考明に教員と	す。 『内容の報告や学習 「察・質問・要望に	<b>羽内容の確認として</b>	「振り返り自己チ ードバックします	ェック」 。「振り 活用し ^て	を合計10 0返り自己	)回行います。「振り返り自己チェッ チェック」は評価ツールであると同
注意点 授業の原 □ アクテ	<u>属性・履信</u> -ィブラーニ	なお、考察クリーでの考明に教員と	です。 客内容の報告や学習 察・質問・要望は のコミュニケーシ	習内容の確認として は、次回講義でフィ	「振り返り自己チードバックします。 有極的に ります。積極的に	ェック」 。「振り 活用し ^て	を合計10 0返り自己	D回行います。「振り返り自己チェッチェック」は評価ツールであると同。
^{注意点} 授業の属	<u>属性・履信</u> -ィブラーニ	なお、考察 ク」での考 時に教員と 多上の区分	す。 終内容の報告や学習 終・質問・要望は たのコミュニケーシ □ ICT 利用	習内容の確認として は、次回講義でフィ	「振り返り自己チードバックします。 有極的に ります。積極的に	エック」。「振り活用して	を合計1 0返り自己 こください	D回行います。「振り返り自己チェッチェック」は評価ツールであると同。 □ 実務経験のある教員による授業
主意点 授業の属 ] アクテ	<u>属性・履信</u> -ィブラーニ	なお、考察クリでの考明に教員と多上の区分	です。 客内容の報告や学習 終予・質問・要望は のコミュニケーシ ICT 利用	習内容の確認として は、次回講義でフィ	「振り返り自己チードバックします。 うります。積極的に ります。 積極的に	エック」 。「振! 活用し ⁻	を合計1に 0返り自己 こください の到達目標	D回行います。「振り返り自己チェッチェック」は評価ツールであると同。 □ 実務経験のある教員による授業
注意点 授業の属 □ アクテ	<u>属性・履信</u> -ィブラーニ	なお、考察 ク」での表 時に教員と 多上の区分 ニング	です。 客内容の報告や学習 終予・質問・要望は のコミュニケーシ ICT 利用	間内容の確認として は、次回講義でフィ ションツールでもあ 学の基礎1:経済学	「振り返り自己チードバックします。 うります。積極的に ります。 積極的に	エック] : 活用して : 活用して 経済 経済学	を合計16 0返り自己 こください の到達目標 学」といき がどのよう	D回行います。「振り返り自己チェッチェック」は評価ツールであると同。 □ 実務経験のある教員による授業
主意点 授業の属 ] アクテ	<u>属性・履信</u> -ィブラーニ	なお、 考察者 ク」での良か 時に教員と 多上の区分 ニング 週 1週 カ 2週 編	です。 R内容の報告や学習 R内容の報告や学習 R内容の報告や学習 R内容の報告や学習 R内容 DICT 利用	個内容の確認として は、次回講義でフィ ションツールでもあ 学の基礎 1 : 経済学 圣済学の誕生	「振り返り自己チードバックします。 ・ドバックします。 ・内ます。 ・積極的に ・ 遠隔授業対応 ・ 本の可能性	ェック」 : 活用して : 活用して 経済 経済にな	を合計1( )返り自己 こください の到達目相 学」といき がどのよう	D回行います。「振り返り自己チェッチェック」は評価ツールであると同 ・
主意点 授業の属 ] アクテ	<u>属性・履信</u> -ィブラーニ	Record   Record	です。 R内容の報告や学習	留内容の確認として は、次回講義でフィ ションツールでもあ 学の基礎 1 : 経済学 圣済学の誕生 圣済学の系譜とその	「振り返り自己チードバックします。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	エックリー 活用して 選ご経済 経済に 三大経	を合計1に の の 到達目 学」という が どのよう る。 済思想の	D回行います。「振り返り自己チェッチェック」は評価ツールであると同 ・ 実務経験のある教員による授業 □ 実務経験のある教員による授業 5学問体系のイメージを掴む。 5に発展してきたのかを説明出来るよ
主意点 受業の属 〕 アクテ	属性・履作 イブラーニ 画	なお、での妻と   なお、での妻と   なお、での妻と   を   を   を   を   を   を   を   を   を	です。 R内容の報告や学習 経際・質問・要望に のコミュニケーシ □ ICT 利用 □ ICT 利用 受業内容 ゴイダンス,経済等 びイダンス,経済等 びがある。 経済学の基礎 2:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済経済経済経済経済 3:経済経済経済経済経済経済経済経済経済経済経済経済経済経済経済経済経済経済経済	間内容の確認として は、次回講義でフィ ションツールでもあ 学の基礎1:経済学 圣済学の誕生 圣済学の系譜とその 31:「ミクロ経済	「振り返り自己チードバックします。 最極的に は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	エックリー ボール で ボール で ボール で バール で に が に が に が に が に が に が に が に に に に に に に に に に に に に	を合計1に の の 到達目 学」という が どのよう る。 済思想の 経済学の特	D回行います。「振り返り自己チェッチェック」は評価ツールであると同 ・ 実務経験のある教員による授業 □ 実務経験のある教員による授業 ご 実務経験のある教員による授業 ご 実務経験のある教員による授業 ご 実務経験のある教員による授業 ご 実務経験のある教員による授業 ご 実務経験のある教員による授業 ご 実務経験のある教員による授業
注意点 授業の原 □ アクテ	<u>属性・履信</u> -ィブラーニ	なっぱい   なっぱい   なっぱい   での   である   である	です。 家内容の報告や学習 終察・質問・要望は のコミュニケーシ □ ICT 利用 □ ICT 利用 受業内容 ゴイダンス,経済等 びイダンス,経済等 びばいる。 経済学の基礎 2:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の著様 3:経済学の基礎 3:経済学の著様 3:経済学の著術 3:経済学の著術学	留内容の確認として は、次回講義でフィ ションツールでもあ 学の基礎 1 : 経済学 圣済学の誕生 圣済学の系譜とその	「振り返り自己チードバックします。 一ドバックします。 積極的に 図 遠隔授業対応 学の可能性 か世界 等学」とは? 等学」の論点	ェッケー ボール	を合計10 20 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30	D回行います。「振り返り自己チェッチェック」は評価ツールであると同 ・ 実務経験のある教員による授業 □ 実務経験のある教員による授業 5学問体系のイメージを掴む。 5に発展してきたのかを説明出来るよ
注意点 授業の属 □ アクテ	属性・履作 イブラーニ 画	なっ   なっ   おっ   で   で   で   で   で   で   で   で   で   で	です。 図内容の報告や学習 経際・質問・要望に のコミュニケーシー □ ICT 利用 □ ICT 利用 受業内容 ゴイダンス,経済・ 経済学の基礎 2:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の表殖子の表殖学の表殖学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の表殖学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の表殖学 3:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の表殖学 3:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の表殖学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済	間内容の確認として は、次回講義でフィ ションツールでもあ 学の基礎1:経済学 経済学の誕生 経済学の系譜とその 31:「ミクロ経済 32:「マクロ経済	「振り返り自己チードバックします。積極的に のます。積極的に 図 遠隔授業対所 の可能性 をの可能性 をの可能性 をの可能性 をの可能性	エ。活 週 『経済に大 ククる 外実 で を 済 で を が 実 の の の の の の の の の の の の の	を合計1000000000000000000000000000000000000	D回行います。「振り返り自己チェッチェック」は評価ツールであると同 ・ 実務経験のある教員による授業 実務経験のある教員による授業 実務経験のある教員による授業 で発展してきたのかを説明出来るように発展してきたのかを説明出来るように要を確認する。 で発展してきたのかを説明出来るように で発展してきたのかを説明出来るように で発展してきたのかを説明とある。 で発展してきたのかを説明出来るように できるように
注意点 授業の原 □ アクテ 授業計画	属性・履作 イブラーニ 画	本名の   本名の   大名の   大名の   本名の   本るの   もる   本る   本る   本る   本る   本る   もる   もる   もる   もる   もる   もる   もる   も	です。 図内容の報告や学習 経際・質問・要望に のコミュニケーシー □ ICT 利用 □ ICT 利用 受業内容 ゴイダンス,経済・ 経済学の基礎 2:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の表殖子の表殖学の表殖学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学	間内容の確認としては、次回講義でフィルションツールでもあった。 学の基礎1:経済学 経済学の誕生 経済学の系譜とその 31:「ミクロ経済 32:「マクロ経済 33:教育と外部性 34:廃棄物の行方	「振り返り自己チードバックします。積極的に のます。積極的に 図 遠隔授業対所 の可能性 をの可能性 をの可能性 をの可能性 をの可能性	エ。活週 「 経う 三 マ な 「 を 「 を 」 で 経済に 大 ク クる 外実 外確 れ と 済 学な 経 口 口。 部感 部認 ま	を合計10 を合り自さい の到達といき がる。 済思想の 経済学の 経済学の 経済学の 経済会。 深いる。 済まの 経済学の になる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 になる。 でいる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 にな。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 にな。 にな。 にな。 に、 にな。 にな。 にな。 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	回行います。「振り返り自己チェッチェック」は評価ツールであると同 チェック」は評価ツールであると同 □ 実務経験のある教員による授業 5学問体系のイメージを掴む。 5に発展してきたのかを説明出来るように発展してきたのかを説明出来るように 変要を確認する。 等徴と市場メカニズムを確認する。 ラス方と基本用語を説明できるように のいて学ぶと同時に応用経済学の意義 こついて理解し、その具体例と対処法 内容を踏まえながら、政府の役割につ
注意点 授業の原 □ アクテ	属性・履作 イブラーニ 画	本名の   本名の   大名の   大名の   本名の   本るの   もる   本る   本る   本る   本る   本る   本る   本る   本	です。 家内容の報告や学習 終察・質問・要望に のコミュニケーシー □ ICT 利用 □ ICT 利用 受業内容 ゴイダンス,経済等 びイダンス,経済等 を消学の基礎 2:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の表殖学の基礎 3:経済学の基礎 3:	間内容の確認として は、次回講義でフィカ 学の基礎1:経済学 圣済学の誕生 圣済学の系譜とその 31:「ミクロ経済 32:「マクロ経済 33:教育と外部性 34:廃棄物の行方 在認	「振り返り自己チードバックします。積極的に のます。積極的に 図 遠隔授業対所 の可能性 をの可能性 をの可能性 をの可能性 をの可能性	エ。活週 「 経う 三 マな 「を こい 国質 ッ 「用 し	をしています。 対しています で解る はいます で解る といます で解る 経済 でいます で解る 経済 でいます で解る 経済 でいます で解る といます で解る 経済 でいます でない かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう はいまい かんしょう かんしょう はいまい かんしょう はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいま	回行います。「振り返り自己チェッチェック」は評価ツールであると同 ・ 実務経験のある教員による授業 実務経験のある教員による授業 実務経験のある教員による授業 で発展してきたのかを説明出来るように発展してきたのかを説明出来るように で発展してきたのかを説明出来るように で発展してきたのかを説明出来るように で発展してきたのかを説明出来るように で発展してきたのかを説明出来るように できるようになる。 では、その具体例と対処法 できるようになる。
注意点 授業の原 □ アクテ 授業計画	属性・履作 イブラーニ 画	A	です。 ②内容の報告や学習 ※別内容の報告や学習 ※察・質問・・要型・ のコニュニケー  □ ICT 利用  ②業内容 ガイダンス,経済 ・経済学の基礎 2:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済・経済を理解する ・関体系を理解する ・関体系を理解する ・関体系を理解する ・関体系を理解する ・関係経済を考える ・国際経済を考える ・国際経済を考える	間内容の確認として は、次回講義でフィカ 学の基礎1:経済学 圣済学の誕生 圣済学の系譜とその 31:「ミクロ経済 32:「マクロ経済 33:教育と外部性 34:廃棄物の行方 在認	「振り返り自己チードバックします。 で、「ボックします。 積極的に で、「大がった」では、 での可能性 のででは、 をの可能性 のででは、 をのででは、 をのででは、 をのででは、 をのででは、 をのででは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をのでは、 をでは、 をでは、 をでは、 をでは、 をでは、 をでは、 をでは、 をでは、 をでは、 をでは、 をでは、	エ。活 週 「 経う 三 ミマな 「を 「を こい 国貿 各の ツ 「用 し ど 済 学な 経 ロ ロ。 部感 部認 ま理 貿の の、	を返く の学がる済経経経す不すで解易構経歴をありだ。 との 想学学 し。済る経るのをの造済史のののののののでは、 当時のでは、 一個のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	回行います。「振り返り自己チェッチェック」は評価ツールであると同 チェック」は評価ツールであると同 「 実務経験のある教員による授
主意点 授業の原 ファクテ 受業計画	属性・履作 イブラーニ 画	A	です。 ②内容の報告や学習 ※別字の報告や学習 ※察・質問・チョーン  □ ICT 利用  ②業内容 ガイダンス,経済 経済学の基礎 2:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済・関係体系を理解する ・ 関係体系を理解する ・ 関係を理解する ・ 関係を表を理解する ・ 関係を表を理解する ・ 関係を表を理解する ・ 関係を表を理解する ・ 関係を表をを理解する ・ 関係を表を理解する ・ 関係を表を表える ・ 国際経済を考える ・ 国際経済を考える・ コープ・・ ロープ・・ ロープ・ロープ・ロープ・ロープ・ロープ・ロープ・ロープ・ロープ・ロープ・ロープ・	留内容の確認としては、次回講義でもあります。 学の基礎1:経済学 経済学の誕生 経済学の新譜とその 31:「ミクロ経済 32:「マクロ経済 33:教育と外部性 34:廃棄物の行方 確認 1:コーヒーの話 2:「途上国」と「 3:国際協力の現在	「振り返り自己チードバックします。 一ドバックします。 積極的に 図 遠隔授業対応 学の可能性 の可能性 の世界 等学」とは? 等学」の論点 を方と外部不経済	エ。活 週 「 経う 三 ミマな 「を 「を こい 国貿 各の 国に ッ 「用 し	をしている。 かいでは、	回行います。「振り返り自己チェッチェック」は評価ツールであると同 チェック」は評価ツールであると同 一 実務経験のある教員による授 三 大き間は、そのかを説明出来るように こ と で と に で きるように こ と で と の と 対処 法 こ と で と の 具体例と対処 法 こ と で と の 具体 の と 対し に さ を は 表 に なる。 こ と で と で と の また は 表 と さ に なる。 こ と が な ぜ 必要な の か 、 説明 出来る ようになる ま き な が な ぜ 必要な の か 、 説明 出来る ようになる こ な が な ぜ 必要な の か 、 説明 出来る ようになる こ な が な ぜ 必要な の か 、 説明 出来る よう に な る こ な が な ぜ 必要な の か 、 説明 出来る よう に な る こ な が な ぜ 必要な の か 、 説明 出来る よう に な る こ な が な ぜ 必要な の か 、 説明 出来る よう に な る こ な が な ぜ 必要な の か 、 説明 出来る よう に な る こ な が な ぜ 必要な の か 、 説明 出来る よう に な る こ な が な ぜ 必要な の か 、 説明 出来る よう に な る こ な が な ぜ 必要な の か 、 説明 出来る よう に な る こ な が な ぜ 必要な の か 、 説明 出来る よう に な る こ な が な ぜ 必要な の か 、 説明 出来る よう に な る こ な ま な か な が な ぜ 必要な の か 、 説明 出来る よう に な る こ な ま な な ま な か な が な ぜ 必要な の か 、 説明 出来る よう に な な ま な か な が な が な が な が な が な が な が な が な が
注意点 授業の原 □ アクテ 授業計画	属性・履作 イブラーニ 画	A	です。 ②内容の報告や学習 ※別字の報告や学習 ※察・質問・チョーン  □ ICT 利用  ②業内容 ガイダンス,経済 経済学の基礎 2:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済学の基礎 3:経済・関係体系を理解する ・ 関係体系を理解する ・ 関係を理解する ・ 関係を表を理解する ・ 関係を表を理解する ・ 関係を表を理解する ・ 関係を表を理解する ・ 関係を表をを理解する ・ 関係を表を理解する ・ 関係を表を表える ・ 国際経済を考える ・ 国際経済を考える・ コープ・・ ロープ・・ ロープ・ロープ・ロープ・ロープ・ロープ・ロープ・ロープ・ロープ・ロープ・ロープ・	間内容の確認としては、次回講義でもあります。 学の基礎1:経済学 経済学の誕生 経済学の延生 経済学の系譜とその 31:「ミクロ経済 32:「マクロ経済 33:教育と外部性 34:廃棄物の行方 在認 1:コーヒーの話 2:「途上国」と「	「振り返り自己チードバックします。 一ドバックします。 積極的に 図 遠隔授業対応 学の可能性 の可能性 の世界 等学」とは? 等学」の論点 を方と外部不経済	エ。活週 「 経う 三 ミ マな 「 を 」 「 を 」 こい 国貿 各の 国に メッ 「 用 し ご 経 済に 大 ク クる 外実 外確 れて 際易 国か 際な ガラ振し と 済 学な 経 ロ ロ。 部感 部認 ま理 貿の の、 協る FT	をしている。 かいでは、	回行います。「振り返り自己チェッチェック」は評価ツールであると同 チェック」は評価ツールであると同 一 実務経験のある教員による授 三 大きで、 三 大きでで、 三 大きでできるように こ いて理解し、その具体例と対処法 こ いて理解した上で、現実に行われている ましたよびある状況がなぜ継続してきた こ は差がある状況がなぜ継続してきた こ になる。 こ いる。 こ になる。 こ いる。 こ になる。 こ いる。 こ いる。 いる。 こ いる。 こ いる。 こ いる。 いる。 いる。 いる。 いる。 いる。 いる。 いる。 いる。 いる。 いる。 いる。 いる。 いる。 いる。 いる。 いる。 いる。
注意点 授業の原 □ アクテ 授業計画	属性・履信 イブラーニ 画 3rdQ	A	です。 家内容の報告や学習 ※内容の質問・サーラー	留内容の確認としては、次回講義でもあります。 学の基礎1:経済学 経済学の誕生 経済学の系譜とその 31:「ミクロ経済 32:「マクロ経済 33:教育と外部性 34:廃棄物の行方 確認 1:コーヒーの話 2:「途上国」と「 3:国際協力の現在	「振り返り自己チードバックします。積極的に 一ドバック 積極的に 」 遠隔授業対応 全の可能性 との可能性 をの可能性 をの可能性 をの可能性 をの可能性 をの可能性 をの可能性 をの可能性 をの可能性 をの可能性	エ。活 週 「 経う 三 ミマな 「を 「を こい 国質 各の 国に メ価 現ッ 「用し ご 経 済に 大 ククる 外実 外確 れて 際易 国か 際な ガ出 代ク振し と 済 学な 経 口 口。 部感 部認 ま理 貿の の、協る 阡来 日	の学がる済経経経す不すで解易構経歴力。AS本を返く 到」ど。思済済済る経るのをの造済史のによの 合りだ。 ・ はまず学」。済。学深基的状的枠まう労のでは、 ・ のののののでは、 ・ ののののでは、 ・ のののでは、 ・ ののでは、 のののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、	回行います。「振り返り自己チェッチェック」は評価ツールであると同チェック」は評価ツールであると同意。 □ 実務経験のある教員による授業ので発展してきたのかを説明出来るように発展してきたのかを説明出来るように発展してきたのかを説明できるようにで発展した上で、現実に行われている、表表を踏まえながら、政府の役割について理解した上で、現実に行われている、関を説明できるようになる。これを差がある状況がなぜ継続してきた。まがなぜ必要なのか、説明出来るようのる日本の現状を知り、自分なりに評さる。
主意点 授業の原 ファクテ 受業計画	属性・履信 イブラーニ 画 3rdQ	A	です。 ②内容の報告や学習会 (本)	紹内容の確認として、 は、次回講義でもあった。 学の基礎1:経済学 経済学の誕生 経済学の系譜とその。 31:「ミクロ経済。 32:「マクロ経済。 33:教育と外部性。 34:廃棄物の行方。 在認。 1:コーヒーの話。 2:「途上国」と「 3:国際協力の現在。 31:グローバル化	「振り返り自己チュードバックします。積極的に 図 遠隔授業対応 学の可能性  の世界  学」とは?  学」の論点  に た 生 の に と 外 部 不 経済  に と 地 域 統 合 と 考える	エ。活 週 「 経う 三 ミマな 「を 「を こい 国貿 各の 国に メ価 現 地てッ 「用」 ど 経 済に 大 ク クる 外実 外確 れて 際易 国か 際な ガ出 代 域 「ク振し」と 済 学な 経 ロ ロ。 部感 部認 ま理 貿の の、 協る 阡来 日 格地	の学がる済経経経す不すで解易構経歴力。 Aる 本 差域を返く 到 」 ど。 思済済 済る経るのをの造済史の によのの通言的 ででいる 一個 では、 ののののでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 ののののでは、 のののでは、 のののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 のののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 のののののでは、 のののののでは、 のののののでは、 のののののでは、 のののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 のののでは、 のののでは、 ののののでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 ののでは、	回行います。「振り返り自己チェッチェック」は評価ツールであると同チェック」は評価ツールであると同います。 □ 実務経験のある教員による授業 □ 実際を確認する。 □ で発展してきたのかを説明出来るように発展したとで、現実に行われている □ 関を踏まえながら、政府の役割につる。 □ に関連した上で、現実に行われている □ 関連を説明できるようになる。 □ に対したがなぜ必要なのか、説明出来るようになる。 □ ではいまするようになる。 □ ではいまする。 □
主意点 授業の原 ファクテ 受業計画	属性・履信 イブラーニ 画 3rdQ	本ク時	です。 ②内容の報告や学習会 (本)	留内容の確認としては、次回講義でもあった。 学の基礎1:経済学 経済学の誕生 経済学の系譜とその。 31:「ミクロ経済。 32:「マクロ経済。 33:教育と外部性。 34:廃棄物の行方。 在認。 1:コーヒーの話。 2:「途上国」と「。 3:国際協力の現在。 31:グローバル化。 32:「働き方」を	「振り返り自己チュードバックします。積極的に 図 遠隔授業対応 学の可能性  の世界  学」とは?  学」の論点  に た 生 の に と 外 部 不 経済  に と 地 域 統 合 と 考える	エ。活 週 「 経う 三 ミマな 「を 「を こい 国貿 各の 国に メ価 現 地てッ 「用」 ど 経 済に 大 ク クる 外実 外確 れて 際易 国か 際な ガ出 代 域 「ク振し」と 済 学な 経 ロ ロ。 部感 部認 ま理 貿の の、 協る 阡来 日 格地	の学がる済経経経す不すで解易構経歴力。 Aる 本 差域を返く 到 」 ど。 思済済 済る経るのをの造済史の によのの通言的 ででいる 一個 では、 ののののでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 ののののでは、 のののでは、 のののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 のののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 のののののでは、 のののののでは、 のののののでは、 のののののでは、 のののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 のののでは、 のののでは、 ののののでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 ののでは、	回行います。「振り返り自己チェッチェック」は評価ツールであると同 チェック」は評価ツールであると同 ・
主意点 受業の原 ファクテ 受業計画	属性・履信 イブラーニ 画 3rdQ	A	です。 ②内容の報告や要型 ジャック	留内容の確認としては、次回講義でもあった。 学の基礎1:経済学 経済学の誕生 経済学の系譜とその。 31:「ミクロ経済。 32:「マクロ経済。 33:教育と外部性。 34:廃棄物の行方。 在認。 1:コーヒーの話。 2:「途上国」と「。 3:国際協力の現在。 31:グローバル化。 32:「働き方」を	「振り返り自己チュードバックします。積極的に 図 遠隔授業対応 学の可能性  の世界  学」とは?  学」の論点  に た 生 の に と 外 部 不 経済  に と 地 域 統 合 と 考える	エ。活 週 「 経う 三 ミマな 「を 「を こい 国貿 各の 国に メ価 現 地てッ 「用」 ど 経 済に 大 ク クる 外実 外確 れて 際易 国か 際な ガ出 代 域 「ク振し」と 済 学な 経 ロ ロ。 部感 部認 ま理 貿の の、 協る 阡来 日 格地	の学がる済経経経す不すで解易構経歴力。 Aる 本 差域を返く 到 」 ど。 思済済 済る経るのをの造済史の によのの通言的 ででいる 一個 では、 ののののでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 ののののでは、 のののでは、 のののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 のののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 のののののでは、 のののののでは、 のののののでは、 のののののでは、 のののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 のののでは、 のののでは、 ののののでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 ののでは、	回行います。「振り返り自己チェッチェック」は評価ツールであると同かった。 □ 実務経験のある教員による授うで発展してきたのかを説明出来るように発展してきたのかを説明出来るように発展してきたのかを説明出来るようでででである。 これを確認する。 これで学ぶと同時に応用経済学の意識について理解し、その具体例と対処法できるようになる。 これを確認する。 これを確認し、特別できるようになる。 これを表がある状況がなぜ継続してきた。 これを表があるがなぜ必要なのか、説明出来るよう これを確認し、特別できるよう。 これを確認し、特別できる。 これを記し、特別ではいまする。 これを記し、特別ではいまする。 これを記し、特別ではいまする。 これを記し、特別できるよう。 これを記し、特別ではいまする。 これを記し、特別ではいまする。 これを記し、特別ではいまする。 これを記していまする。 これを記していまする。 これを記していまする。 これを記していまする。 これを記していまする。 これを記述する。 これを記述するにはいまする。 これを記述する。 これを記述する これを記述する。 これを記述する これを述述する これを述述される これを述述する

総合評価割合	50	0	0	10	40	0	100
基礎的能力	50	0	0	10	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

生小组	<b></b>	等専門学校	文 開講年度	令和05年度(2	2023年度)		日本史	
<u></u>		<del>उरा। 15</del> 7	入   肋冊十次	マ <del>ハト</del> COUNTI	2023年1又)		山个人	
科目番号	<b>近1月刊</b>	0075			科目区分	一般 / 選	to	
授業形態		授業			単位の種別と単位			
開設学科					対象学年	4		
開設期		後期	11 ( 321111)		週時間数	2		
教科書/教	树	「ルイス	自作プリント/参考 〈=フロイスの日本覚 〈閤」(中公新書)、	書」(中公新書)	<ul><li>網野善彦「日本</li></ul>	社会の歴史(上	・中・下)」(岩波新書)、山室恭子	
担当教員		坂下 俊	彦,多田 光宏					
2) 史料 3) 特定 4) 多様 5) 文化 6) 文化 7) 歴史	的用語・制度を解釈できるの制度や出現な生活文化、 の制度に起これが自違に起これの多様性を記述の多様性を記述の方法。	る 来事あるいに 民族・宗教 因する諸問題 忍識し、互い	機に関して説明できる は一定の史料から、戦 などの文化的諸事象 風について、歴史的観 いの文化を尊重するこ れ代社会の問題点を整	国社会の特質を導 について、歴史的 点から理解できる との重要性を理解	観点から理解できる ! !できる	3 3		
ルーブリ	<u> </u>		1		T		T	
	Marian de	÷+> !» ~ ! ==:	理想的な到達レイ		標準的な到達レク		未到達レベルの目安	
に関して	説明できる	度などの知識	して正確に、論理	里的に説明できる_	基本的用語・制度 して説明できる		基本的用語・制度などの知識に関して説明できない	
	を解釈できる		史料を正確に解釈		史料を解釈できる		史料を解釈できない	
一定の史料を導き出す	料から、戦[ すことができ		の史料から、戦闘     理的に説明できる	国社会の特質を論 3	特定の制度や出来の史料から、戦国 き出すことができ	国社会の特質を導 きる	き出すことができない	
などの文化		民族・宗教 こついて、歴 きる		こついて、歴史的	多様な生活文化、 の文化的諸事象に 観点から理解でき	こついて、歴史的	多様な生活文化、民族・宗教など の文化的諸事象について、歴史的 観点から理解できない	
		因する諸問題 点から理解で		国する諸問題につ 点から論理的に説	文化的相違に起因いて、歴史的観点		文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から理解できない	
	尊重するこ	認識し、互い との重要性を		生を認識し、互いることの重要性を さる	文化の多様性を認 化を尊重すること できる			
		命を用い、現 里することだ	7)歴史批判の7	方法論を用い、現	7) 歴史批判の方 代社会の問題点を できる		7)歴史批判の方法論を用い、現	
学科の登	到達目標項	頁目との関	 ]係		•		•	
I 人間	性1Ⅰ~	人間性 実践性 国際性						
教育万次	去等	1	+1 ^ 1/1445+/	>1 m +1 A -1	////		A	
概要		に向けて ・人間記 素を培 ・上記の 国家のあ	「主体的に貢献する自 動や科学技術の役割 う。 )目標を達するため、	覚と素養を培う。 と影響に関心を持 具体的には日本史	ち、幸福とは何かる 上の転換点とされる	を追究しながら、 る戦国時代を主た	会の一員として社会的諸問題の解決 技術者として社会に貢献する自覚と る対象とし、法・社会・対外関係・ 治以降の日本の近代化についての展	
		・配布資 ・事前学	資料等を用いて、教員 学修として、60時間を	による説明で授業 き要する「関連キ-	を進める。 -ワード調査」を課	す。		
授業の進ん	め方・方法		t到達度試験30%、定	三期試験50%、課題	!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!	調査) 20%の割	合で評価する。合格点は60点以上であ	
J.X.**	7575	に掲げた	^K 60点に達しない者に ・到達度試験・定期試 は60点とする。	は、再試験を学期 験の割合を2/3に	]末(試験範囲:全 王縮し、残り1/3に	授業内容)に実施 再試験の点数を3	西する。再試験を実施した場合、上記 でて再評価する。但し、この場合、評	
注意点		成されて	毎に提示する関連キ  いることを確認する   再調査を求める。	ーワードについて 。また、試験にお	自学自習により調/ いて目標が達成され	べること。調査結 れていることを確	果は授業項目毎に回収し、目標が達 認する。目標が達成されていない場	
授業の属	属性・履修	多上の区分						
□ アクラ	ティブラーニ	ング	□ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業	
授業計画	 <b>ā</b>							
		週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	1. 公儀権力と戦国1-1「イエ」の成立	1社会①		である「公儀」の	単位である「イ工」、中近世の公権力 D特質を理解し、現代社会及び現代に B違点を論理的に説明できる	
後期	3rdQ	2週	1. 公儀権力と戦国1-2「イエ」と公儀			中世社会の基本はである「公儀」のおける権力との対	単位である「イ工」、中近世の公権力 り特質を理解し、現代社会及び現代に B違点を論理的に説明できる	
		3週	1. 公儀権力と戦国				単位である「イエ」、中近世の公権力	

1. 公儀権力と戦国社会の										
1- 公職権力との相違法を受け、現代社会及び現代における権力との相違点を運動し、設定を見い、							中世社会の基本単作である「公儀」の特別である「公儀」の特別である。	位である「イエ」、 持質を理解し、現代 違点を論理的に説明	中近世の公権力 代社会及び現代に 明できる	
6週   2-1 機能内閣の歴史的位置付け							「である「公儀」の	持質を理解し、現(	代社会及び現代に	
7週   2-2 [豊臣惣無事令] と天下統一					的位置付け		「平和」との相違点及び現代社会の問題点を、論理的			
10週   2-3 「万列令う]   「平和」との相違点及び現代社会の問題点を、論理的に説明できる   2-4 「伴天連追放令]   2-8 世			7週 🧵	2. 豊臣平和令② 2-2「豊臣惣無事令」と天下統一 ————————————————————————————————————			「平和」との相違!	た「平和」の意味 [,] 点及び現代社会の[	を理解し、現代の 問題点を、論理的	
10週   2-4 「任天理追放令」		8週					「平和」との相違!	た「平和」の意味を 点及び現代社会の「	を理解し、現代の 問題点を、論理的	
10週   2-5豊臣平和令の歴史的意義			9週	2.豊臣平和令④ 2-4「伴天連追放令 ₋	I		「平和」との相違!	た「平和」の意味 ^を 点及び現代社会の「	を理解し、現代の 問題点を、論理的	
4thQ   11週   1-1明冊封体制・勘合貿易・倭寇   21月   21月					史的意義		「平和」との相違点及び現代社会の問題点を、論理的			
4thQ   12週   1-2「朝鮮出兵」   1-2「朝鮮出兵」   2世曜し、近現代国家と国民のあり方について、論理的に説明できる   13週   3. 豊臣政権の崩壊と江戸幕府の成立③   豊臣政権の崩壊から江戸幕府の成立にいたる政治過程を理解し、近現代国家と国民のあり方について、論理的に説明できる   14週   3. 豊臣政権の崩壊と江戸幕府の成立④   豊臣政権の崩壊から江戸幕府の成立にいたる政治過程を理解し、近現代国家と国民のあり方について、論理的に説明できる   15週   3. 豊臣政権の崩壊と江戸幕府の成立⑤   豊臣政権の崩壊から江戸幕府の成立にいたる政治過程を理解し、近現代国家と国民のあり方について、論理的に説明できる   15週   2 世政権の崩壊から江戸幕府の成立にいたる政治過程を理解し、近現代国家と国民のあり方について、論理的に説明できる   16週 定期試験   2世曜日、近現代国家と国民のあり方について、論理的に説明できる   2世曜日、近現代国家と国民のあり方について、論理的に説明できる   2世曜日、近現代国家と国民のあり方について、論理的に説明できる   2世曜日、近現代国家と国民のあり方について、論理的に説明できる   2世曜日、近現代国家と国民のあり方について、論理的に説明できる   2世曜日、近現代国家と国民のあり方について、論理的に説明できる   2世曜日、近現代国家と国民のあり方について、論理的に説明できる   2世曜日、近現代国家と国民のあり方について、論理のに説明できる   2世曜日、近現代国家と国民のあり方について、論理のは、2世紀日、2世紀日、2世紀日、2世紀日、2世紀日、2世紀日、2世紀日、2世紀日						<b>(1)</b>	を理解し、 近現代	ら江戸幕府の成立し 国家と国民のあり	こいたる政治過程 方について、論理	
13週   3. 壹日以作の朋場と江戸幕府の成立(3)   を理解し、近現代国家と国民のあり方について、論理   14週   3. 豊臣政権の崩壊と江戸幕府の成立(4)   豊臣政権の崩壊から江戸幕府の成立にいたる政治過程   14週   3. 豊臣政権の崩壊と江戸幕府の成立(5)   七4「関ヶ原の戦い」   15週   3. 豊臣政権の崩壊と江戸幕府の成立(5)   豊臣政権の崩壊から江戸幕府の成立にいたる政治過程   15週   1-5「大坂の陣」と「元和偃武」   セ 「元和偃武」   16週   定期試験   定期試験   回達度試験   課題   合計   総合評価割合   50   30   20   0   0   0   0   0   0   0   0	41	thQ	12週	3. 豊臣政権の崩壊と江戸幕府の成立② 1-2「朝鮮出兵」			を理解し、近現代[	ら江戸幕府の成立し 国家と国民のあり	こいたる政治過程 方について、論理	
14週       3. 豊田政権の崩壊と江戸幕府の成立(1-4 「関ケ原の戦い」       を理解し、近現代国家と国民のあり方について、論理的に説明できる         15週       3. 豊臣政権の崩壊と江戸幕府の成立(5) 1-5 「大坂の陣」と「元和偃武」       豊臣政権の崩壊から江戸幕府の成立にいたる政治過程を理解し、近現代国家と国民のあり方について、論理的に説明できる         評価割合       試験 到達度試験 課題 合計総合評価割合 50 30 20 0 0 0 0 100         基礎的能力 50 30 20 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0			13週	3. 豊臣政権の崩壊 -3秀次事件と五大。	と江戸幕府の成立 老制	(3)	を理解し、近現代			
15週   1-5   大坂の陣」と「元和偃武」   を理解し、近現代国家と国民のあり方について、論理   1-6週   定期試験   回達度試験   課題   合計   総合評価割合   50   30   20   0   0   0   100   基礎的能力   50   30   20   0   0   0   0   0   0   0   0						<b>(4)</b>	を理解し、近現代国家と国民のあり方について、論理			
評価割合       試験     到達度試験     課題     合計       総合評価割合     50     30     20     0     0     0     100       基礎的能力     50     30     20     0     0     0     100       専門的能力     0     0     0     0     0     0							を理解し、近現代	ら江戸幕府の成立( 国家と国民のあり)	こいたる政治過程 方について、論理	
試験     到達度試験     課題     合計       総合評価割合     50     30     20     0     0     0     100       基礎的能力     50     30     20     0     0     0     100       専門的能力     0     0     0     0     0     0			16週 5	定期試験						
総合評価割合     50     30     20     0     0     100       基礎的能力     50     30     20     0     0     0     100       専門的能力     0     0     0     0     0     0	評価割合									
基礎的能力     50     30     20     0     0     0     100       専門的能力     0     0     0     0     0     0			È	到達度試験					合計	
専門的能力 0 0 0 0 0 0						+	0	0		
						-	+			
分野横断的能力   0   0   0   0						-		_		
	分野横断的能	[力] 0		0	0	0	0	0	0	

士小	数工業章:	 等専門学校	開講年度	令和05年度 (2	0023年度)		業科目	社会学
科目基础		<del>ひせ</del> い		ロガロひノ十/又(2	-049千/又)	בעני ן	<u>⊼′</u> 11□	上厶丁
科目番号	足旧取	0076			科目区分		 一般 / 選	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
授業形態		授業			単位の種別と単位	-	<u></u>	
開設学科			(一般科目)		対象学年		4	
開設期		前期			週時間数		2	
教科書/教	女材	マックス・	ウェーバー(濱嶋	闘訳) 2012 『権力		(講談社	学術文庫)	
担当教員		多田 光宏,均	反 敏宏					
到達目標	票							
る自覚と	素養を培う。動や科学技	0						背問題の解決に向けて主体的に貢献す ばする自覚と素養を培う。
ルーブ!	ノツク		TITHE 45 + \ 71\ + 1		1#2### 12 7#12# 1		<del></del>	+ 70.41 - 7.11 - 8.12 - 6.17 - 7.1
			理想的な到達レク		標準的な到達した			未到達レベルの目安(不可)
評価項目:	1		, ウェーバーの   よび理論ならび   現代社会の基本	は考え方とともに 社会学の方法論お こそれにもとづく 構造の概念的定式 の使い方を含めて る.	社会学の基本的が , ウェーバーので よび理論ならび 現代社会の基本が について, 大まが ・	社会学の こそれに 構造の概	方法論お もとづく 念的定式	社会子の基本的な考え方とともに , ウェーバーの社会学の方法論お よび理論ならびにそれにもとつさま
学科の発	到達目標I	項目との関係	<del>\</del>					
│Ⅱ 実践	性 2 Ⅱ :	人間性 実践性 国際性						
教育方法	去等							
概要		の時代から	現代までのさまさ	まな学説,理論の	あり方を概観する	とともに	こ, とくに	という問いについて,古代ギリシア マックス・ウェーバーの社会学の方 造の概念的定式を学びます.
授業の進	め方・方法	を読み進め  」とは何か	ます. ウェーバー が理解できるとと	ーバー以前の社会 の「支配の社会学 もに、ウェーバー うになる内容を目	」をつうじて,社 のテキストに書か	識のあり 会学がと れている	方を概観 のような ことと現	するとともに,指定の教科書の内容 学問であるか,社会における「支配 実の社会生活との関係性について主
注意点		注意してほ とはいえ, ながら,現 してどう関	しいと思います. 予習においても復 に生じているさま	習においても、将	来的にひとりの社 象・問題に関心を	会人とし	て社会に	学問としての社会学は、さしあたりですものであるということ、したがっちのではないのだということにまず 主体的にかかわる自分の姿を想像し学習した内容がそうした問題にたい
		修上の区分	1		T			
□ アクラ	ティブラーニ	ニング	□ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応	<u>,</u>		□ 実務経験のある教員による授業
.—	_							
授業計画	<u> </u>	Т. Т.						
			業内容				り到達目標	
		1週 ガ	イダンス					うとすることが理解できる.
		2週 古	代,中世および近	近世における社会の	とらえ方		スユ以則の かが理解で	D時期における社会のとらえ方がどう できる.
		3週 社	会学の成立と実証			コント(	こよる草創	  削期の社会学の考え方とその展開とし  )理論が理解できる.
		4週 社	会学の社会的実践	<b>美への展開としての</b>	社会批判	マルク	スおよび	アドルノの理論をつうじて, 社会のあ 戦とその実践的展開のあり方が理解で
	1stQ		 'エーバー社会学 <i>0</i>				「一のネナイ	
						- <del></del>	( 0) 11.2	会学の概要とその方法論的特徴が理解
			エーバーの社会学	堂:方法論的基礎概	<del></del>	できる. ウェー/ 理解で	「一の社会	会学で用いられる方法論的基礎概念が 会学で用いられる方法論的基礎概念が
					-	ウェー/ 理解でき ひきつご	バーの社会 きる. びき, ウコ	会学で用いられる方法論的基礎概念が ローバーの社会学で用いられる方法論
前期		7週 ウ	エーバーの社会等	之: 方法論的基礎概	念 (つづき)	ウェール 理解でき ひきつつ 的基礎板	「一の社会 きる. びき, ウコ 既念が理解 「一社会	会学で用いられる方法論的基礎概念が ローバーの社会学で用いられる方法論
前期		7週 ウ 8週 ウ	"エーバーの社会学	之:方法論的基礎概 之:方法論的基礎概	念 (つづき)	ウ理を基礎がある。	「一の社会 きる. づき, ウョ 気念が理解 で用いられ でき, ウョ	会学で用いられる方法論的基礎概念が エーバーの社会学で用いられる方法論解できる.
前期		7週 ウ 8週 ウ 9週 ウ	フェーバーの社会等 フェーバーの社会等 フェーバーの社会等	学:方法論的基礎概 学:方法論的基礎概 学:理論的基礎概念	念 (つづき) (つづき)	ウ理 ひ的 ウ, ひ」る 教科書(	「一の社会」 さき、ウラ で思ったが理解 で用いた。 で用きが、 である。	会学で用いられる方法論的基礎概念が  エーバーの社会学で用いられる方法論解できる。  さとしての「理解社会学」の概要がれる概念とともに理解できる。  エーバー社会学としての「理解社会学」で用いられる概念とともに理解できる。
前期	2nd∩	7週 ウ 8週 ウ 9週 ウ	フェーバーの社会等 フェーバーの社会等 フェーバーの社会等	至:方法論的基礎概 至:方法論的基礎概念 至:理論的基礎概念 至:理論的基礎概念	念 (つづき) (つづき)	ウ理 ひ的 ウ 、 ひ 」 る 教内内 で 教内内 で の 、 教内内 で の 、 教内内 の ・ 対内 の ・ 対内 の ・ 対力 の か の か か の か の か の か の か の か の か の か	(一の社会) できたが理解では、 では、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 で	会学で用いられる方法論的基礎概念が  エーバーの社会学で用いられる方法論解できる。  アとしての「理解社会学」の概要がれる概念とともに理解できる。  エーバー社会学としての「理解社会学」で用いられる概念とともに理解できる。
前期	2ndQ	7週 ウ 8週 ウ 9週 ウ 10週 ウ	フェーバーの社会等 フェーバーの社会等 フェーバーの社会等 フェーバーの支配社 フェーバーの支配社	を:方法論的基礎概 を:方法論的基礎概念 を:理論的基礎概念 を:理論的基礎概念 と:理論的基礎概念 社会学:支配の3類類	念 (つづき) (つづき) 世	ウ理 ひ的 ウ , ひ   る 教の 教る 教の 教る 教の 教る 教の 教る 教の 教る 教	( ) さい できる できる かい できる かい	会学で用いられる方法論的基礎概念が エーバーの社会学で用いられる方法論解できる。 学としての「理解社会学」の概要が れる概念とともに理解できる。 エーバー社会学としての「理解社会学 こで用いられる概念とともに理解でき こ、ウェーバーによる「支配の3類型」 きる。
前期	2ndQ	7週 ウ 8週 ウ 9週 ウ 10週 ウ 11週 ウ	フェーバーの社会等 フェーバーの社会等 フェーバーの社会等 フェーバーの対会等 フェーバーの支配社 フェーバーの支配社 フェーバーの支配社	学:方法論的基礎概 学:方法論的基礎概念 学:理論的基礎概念 学:理論的基礎概念 社会学:支配の3類型	念 (つづき) (つづき) 世 配の概要	ウ理 ひ的 ウ, ひ」る 教の 教る 教「中で つく きゅう かん 科内 科・科官 はいる 教の 教る 教「	( ) さい できる できる できる さい できる さい できる さい できる さい できる できる さい できる	会学で用いられる方法論的基礎概念が エーバーの社会学で用いられる方法論 解できる. 学としての「理解社会学」の概要が れる概念とともに理解できる. エーバー社会学としての「理解社会学 こで用いられる概念とともに理解でき こ、ウェーバーによる「支配の3類型」 きる. こ、「合法的支配」の概要が理解でき こ、「合法的支配」の具象化としての

		15週	ウェーバーの支配社会学:民主制にたいする官僚制の 関係			民主制と官僚制との関係および両者の構造的衝突の理 論が理解できる.			
	16週 定期試験								
評価割合									
	試懸	<b></b>	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	70		0	0	0	0	30	100	
基礎的能力	70		0	0	0	0	30	100	
専門的能力	0 0 0 0		0	0	0	0			
分野横断的能力	0		0	0	0	0	0	0	

<del>**</del> /1./#	九工兴市	***	明護大帝   合和05大帝 /	(2022年底)	拉米扒口	第一は日話 4	
		等専門学校	開講年度 令和05年度(	_2023年段)	授業科目	第二外国語 A	
科目基礎	凹甲粒	0077		初日四八	фп. / Na:	340	
科目番号 授業形態		0077 授業		科目区分	一般 / 選       数     学修単位		
開設学科				単位の種別と単位 対象学年	<u> </u>	.: Z	
開設期		前期	字 ( 加文作4日)	週時間数	2		
<u> </u>	**		 小幡敏行「大学一年生のための合格る	1.— -1			
担当教員	423	山際明利		7个四四] 利口四/灰江			
到達目標	<u> </u>	H418X 173113					
1)現代濟 2)漢語拼 3)現代濟 4)現代濟	漢語の発音( 拼音法案の) 漢語の基礎( 漢語の基礎(	規則を記憶し、 的文法事項を記	し、その知識に基づいて正しく発音で、 その知識に基づいて拼音を正しく乳 記憶し、その知識に基づいて基本的な 記憶し、その知識に基づいて基本的な	発音でき、また漢語を 3現代漢語会話を理解	!し、的確に論述	夏文できる。 比できる。	
ルーブリ	ノック		四担仇人到去! 心!! 6日中	####################################		ナが生しがよる口点	
			型想的な到達レベルの目安 	標準的な到達レベ		未到達レベルの目安	
発音の規則	[I]		到達目標を充分に満たしている	到達目標を必要な ている		到達日保を満たしていない	
漢語拼音法	法案の規則		到達目標を充分に満たしている	到達目標を必要なる ている		到達日保を過たしていない	
現代漢語の	の会話		到達目標を充分に満たしている	到達目標を必要なる ている	程度まで満たし 	, 到達目標を満たしていない	
現代漢語文	文の解釈		到達目標を充分に満たしている	到達目標を必要なている	程度まで満たし	, 到達目標を満たしていない	
学科の至	]]達目標 [[] ]	頁目との関係	係				
Ⅲ 国際	性 2 II : 性 3 III [	人間性 実践性 国際性					
教育方法	5等	1=/=== //		44. 74.4.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1			
概要			漢語 (現代中国語・普通話) の習得、			≤する。 E積み重ねる。後半は現代漢語の基本	
注意点		教科書添作 よび提出物 この科目(	勿によって評価する。 は学修単位科目であり、事前・事後等	^{後音ならびに聴解の自}  学習として「教科書添	学自習を行なう  付コンパクトラ	ること。自学自習の成果は口頭試問お ディスクの聴取による聞き取り・発音 か、合計60時間の自学自習時間が必要	
		多上の区分					
□ アクテ	-ィブラーニ	ニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業	
	 5ī						
汉未可匹	1	週		1		····	
		1	1. ガイダンス				
		1週	2. 発音 2-1 音のなりたち			意義と留意点とを理解する。 構造を記憶する。	
		2週	2-2 母音・複母音・鼻母音(韻母	母)	韻母のバリエーションを記憶し、正しく発音で		
		3週	2-3 子音 (声母)	声	声母のバリエーションを記憶し、正しく発音で		
		4週	2-4 軽声・儿化			念を理解し、正しく発音できる。	
	1stQ	5週	2-5 声調の変化 3. 基本会話 / 4 m s		変調の概念を記憶し、正しく変調させるこ。		
		<b>€</b> ;⊞	3-1 你叫什么名字?			問文、動詞述語文の規則を記憶する。 	
		6週	3-2 這叫油条嗎? 3-3 豆漿好喝不好喝?			馬」疑問文の構造を記憶する。 容詞述語文の構造を記憶し、それを用	
		7週	(中間試験)	L C	ヽて正しく論述		
前期		8週	3-4 你家有几口人?	II	こしく論述できる		
		9週	3-5 你是北方人還是南方人?	選 工	st択疑問文、「₹ Eしく論述できる	在」構文の構造を記憶しそれを用いて る。	
		10週	3-6 明天我們去長城玩儿。		動文の構造を 間の言い方を	記憶する。	
		11週	3-7 我有点儿累了。			を記憶し、正しく表現できる。	
	2ndQ	12週	3-8 你以前爬過長城嗎?			を記憶し、正しく解釈できる。	
		13週	3-9 優花、坐着看吧!	豆	J能表現の方法 [®]	用法を記憶し、正しく解釈できる。 を記憶し、正しく表現できる。 	
ı		14週	3-10 山后走出来一箇漂亮姑娘。			較文の構造を記憶する。	
		15週	3-11 這烤鴨味道不錯。	<u>-</u>  2	- 重目的語文の 格種副詞、助詞の	構造を記憶する。 の用法を記憶する。	

	16週	定期試験							
評価割合									
	定期試験	到達度試験	口頭試問	発言	提出課題	合計			
総合評価割合	30	25	25	10	10	100			
基礎的能力	25	25	20	10	10	90			
専門的能力	5	0	5	0	0	10			
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0			

<b>苫</b> 八组		 等専門学校	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	 (023年度)	授業科目		
科目基礎		ל ננוניני	X   17100   X   17100   X   2	.023   12)		73 <u>—</u> 71 <u>—</u> 110	
科目番号	NC IDTK	0078		科目区分	一般/選技	R	
授業形態		授業		単位の種別と単位			
開設学科			·科(一般科目)	対象学年	4		
開設期		後期		週時間数	2		
教科書/教	· 材	Material	of several textbooks combined. Mai	terial will be pro	vided at the begi	nning of each lesson	
担当教員		アンドレ	ア畠山	•			
到達目標							
2. Being	able to rea	ad and und	anding and interacting in simple cor erstand simple text and short stories atements and text listening to a dict	5.			
ルーブリ	ノック						
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レ	ベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	1		Understanding and using grammar very properly.	Understanding grammar prope	and using erly.	Understanding and using grammar not properly.	
評価項目2	2		Understanding simple conversation and narration.	Understanding conversation a	very simple nd narration.	Not understanding very simple conversation and narration.	
評価項目3	3		Understanding the contents of a text very properly.	Understanding text properly.	the contents of a	Not understanding the contents of a text properly.	
学科の至	到達目標耳	頁目との関	[条				
┃ Ⅱ 実践	性2π	人間性 実践性 国際性					
教育方法	去等						
概要			give an understanding of basic Germ rammar will be taught and reviewed				
授業の進む	め方・方法	Spoken ※Re-ev term an ※この科 の自学自	o check on understanding. Dictations German will be practiced using sma aluation: a re-exam is conducted to d final exams (30%+40%=70%) ar 目は学修単位科目のため、事前・事後 習時間が必要である。	Il conversations students whose e replaced with 学習としての課題	at the beginning e evaluation is les re-exam one. を課す。定期試験の	of each lesson and in role plays. is than 60. The scores of mid- のための勉強時間も総合し、60時間	
注意点		Irlace an	s should participate observantly, tak d the aim is to give every student a d. Students will be advised to take a ne to time a small test and dictation	chance to read	Listening will be	practiced by using the material	
授業の原	属性・履修	多上の区分	1			<b>.</b>	
□ アクテ	-ィブラーニ	ニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	2	□ 実務経験のある教員による授業	
1-111-1	_						
授業計画	<u> </u>	E.	T		I		
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
		1週	Introduction, Alphabet, pronouncia	tion, Numbers	Alphabet recogn	ition	
		2週	<ul><li>1. Hello / Greetings</li><li>1-1 Self-introduction</li><li>1-2 Sie / du</li><li>1-3 Weekdays and month</li></ul>		Being able to greet and address someone correctly		
		3週	Personal pronouns, verbs, word     Personal info, yes/no question     Recognizing key sentences	order ns	Asking and answering simple question. Wh – questions and recognizing sentence structure		
		4週	Denial with `nicht`     Irregular verbs     Using nicht structure		Express situation `nicht`	eate complex sentence structures. ns correctly using the word	
	3rdQ	5週	Denial with `nicht`     Irregular verbs     Using nicht structure			eate complex sentence structures. ns correctly using the word	
後期		6週	<ul><li>4. Nouns and articles</li><li>4-1 Definite articles</li><li>4-2 Indefinite articles</li><li>4-3 Negative article</li></ul>		Understanding definite articles (der, die, das), indefinite articles (ein, eine), negative articles (kein, keine) and nouns as well as articles and plural nouns		
		7週	4. Nouns and articles 4-1 Definite articles 4-2 Indefinite articles 4-3 Negative article		indefinite article	lefinite articles (der, die, das), s (ein, eine), negative articles d nouns as well as articles and	
		8週	Midterm exam		piarai riodiis		
	4th O	9週	5. Possessive articles 5-1 Auxiliary verbs 1 5-2 Possessives and nouns		Auxiliary verbs k	e numbers in daily situations. coennen, wollen, werden egular verbs. Usage of possessive ns.	
	4thQ	10週	5. Possessive articles 5-1 Auxiliary verbs 1 5-2 Possessives and nouns		Auxiliary verbs k	e numbers in daily situations. coennen, wollen, werden egular verbs. Usage of possessive ns.	

	11週		6-1 24 hours telling time			Reading and telling time in daily life. Recognizing regular, irregular, aixiliary and separable verbs		
	12週	7. Compare			Liking something, liking	something else better		
	13週		djective depending on articl	e	Being able to describe things and people Compare with others, talk about likes			
	14週	9. Family			Introducing close family	members		
	15週		10.Review and connect		Being able to put all pieces together and listen, read and write German.			
	16週	Endterm exan	า					
評価割合								
		中間試験	定期試験		トラスト・課題・授業参加 など	合計		
総合評価割合		30	40	3	0	100		
基礎的能力	基礎的能力 30		40	3	0	100		
専門的能力		0	0	0	·	0		
分野横断的能力	カ	0	0	0	·	0		

	牧工業高	等専門学校	交 開講年度	令和05年度(	(2023年度)	授業科目	日本事情
科目基础		,		, , / \	,	,	
科目番号		0079			科目区分	一般 / 達	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
授業形態		授業			単位の種別と単位		
開設学科			学科(一般科目)		対象学年	4	2
開設期		前期	רוְיאניי / רוְיאַ		週時間数	2	
נאָעמנאו			・レジュメ・咨判等を	・配布する/参考図			プ日本事情15』the japan times、
教科書/教	牧材	留学牛0	ンプライン ではいる では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	.門』文理閣、『?	フイズ日本事情』(タ	独立行政法人日本	
担当教員		佐々木	彩				
2. 現代	の社会・文日本社会が	「抱える問題」	牧治・経済等に関する 点について説明できる 取り組み、日本語を駆	)。			月できる。
ルーブリ	リック						
			理想的な到達レイ	ベルの目安	標準的な到達レイ	ベルの目安	未到達レベルの目安
治・経済	等に関する 、自国との	(化・歴史・正 基本的な知識 )比較的観点が	哉  経済等に関する碁	と・歴史・政治・ 基本的な知識を習 比較的観点から説	日本の社会・文化経済等に関する基準し、自国との上応説明できる。	基本的な知識を習	
2. 現代 について	日本社会が 説明できる	抱える問題。	点 現代日本社会が打いて説明できる。	包える問題点につ	現代日本社会が持いて一応説明であ	包える問題点にて きる。	現代日本社会が抱える問題点につ いて説明できない。
り組み、	られた課題 日本語を駆 ことができ	に積極的に耳ばして適切に でして適切に である。	取 与えられた課題( こ み、日本語を駆( することができる	こ積極的に取り組 吏して適切に表現 る。		吏して一応適切に	タイプ 与えられた課題に積極的に取り組み、日本語を駆使して適切に表現することができない。
学科の	到達目標	項目との関	<b>月</b> 係				
Ⅱ 実践	!	人間性 実践性 国際性					
教育方法							
概要		本科目は 礎的な知	□識を身につけさせ、	た学生生活を過ご それと同時に、E	ごせるように、日本6日本と自国との差異	の社会、文化、原 についても客観的	A土、歴史、政治、経済等に関する基 りに説明できる力をつけさせることを
授業は、配付資料に基づいた教員による説明、レポート作成に基づいた口頭発表及び討 授業の進め方・方法 での科目は学習単位科目のため、事前・事後学習としてレポート等の課題等を課し、評 、日常の授業のための復習時間を含めて、60時間の自学自習時間が必要である。							
授業の進 	め万・万法	この科目 、日常の	目は学習単位科目のた D授業のための復習時	:め、事前・事後等 間を含めて、60년	学習としてレポート	等の課題等を課し	ひ討論によって進める。 」、評価の対象とする。課題等のほか
注意点		この日常のの日常のの日常のでは、 履修者に接ている できる できる できる できる できる できる できる できる できる でき	目は学習単位科目のたり授業のための復習時は外国人留学生に限定は、日頃より日本語のテーマについて、長後、その内容をレポートを課し、	め、事前・事後等 間を含めて、60년 する。 新聞等に触れ、E 可取発表の準備と に一トとしてまとと 原発表25%、討論	学習としてレボート 時間の自学自習時間 日本の社会問題や社 とするために、図書 りて提出するために、 25%の総合評価で、 25%の総合評価で、	等の課題等を課じが必要である。 会情勢に関心を特館等を利用し、自然の国書館等を利用し、自然の目的にある。	なび討論によって進める。 、、評価の対象とする。課題等のほか 5つよう心がけることが望ましい。 目学自習に取り組むこと。 別し、自学自習に取り組むこと。 別とする。学業成績が60点未満の者に まとが確認できた場合60点とする。
^{注意点} 授業の[	属性・履	この科目、この科目の日常の日常の展修者は展験等で対対の成績して、対して、経験上の区分	目は学習単位科目のたり授業のための復習時は外国人留学生に限定は外国人はり日本語の及うテーマについて、 表後、その内容をレポートを課し、 は、日頃より日本語の、 は、日頃より日本語の、 は、日頃より日本語の、 は、日頃などの、 は、日頃などのでは、 は、日頃などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	め、事前・事後等 間を含めて、60년 する。 新聞等に触れ、E 可取発表の準備と に一トとしてまとと 原発表25%、討論	学習としてレポート: 時間の自学自習時間 日本の社会問題や社: とするために、図書! りて提出するために、 25%の総合評価で、 票準的な到達度レベ	等の課題等を課しが必要である。 会情勢に関心をも館等を利用し、自然のという。 のは、図書館等を利用し、自然のでは、図書館のでは、図書館のでは、例のでは、図書館のできます。	ン、評価の対象とする。課題等のほか 5つよう心がけることが望ましい。 目学自習に取り組むこと。 用し、自学自習に取り組むこと。 各とする。学業成績が60点未満の者に ることが確認できた場合60点とする。
^{注意点} 授業の[		この科目、この科目の日常の日常の展修者は展験等で対対の成績して、対して、経験上の区分	目は学習単位科目のたり授業のための復習時は外国人留学生に限定は、日頃より日本語のテーマについて、長後、その内容をレポートを課し、	め、事前・事後等 間を含めて、60년 する。 新聞等に触れ、E 可取発表の準備と に一トとしてまとと 原発表25%、討論	学習としてレボート 時間の自学自習時間 日本の社会問題や社 とするために、図書 りて提出するために、 25%の総合評価で、 25%の総合評価で、	等の課題等を課しが必要である。 会情勢に関心をも館等を利用し、自然のという。 のは、図書館等を利用し、自然のでは、図書館のでは、図書館のでは、例のでは、図書館のできます。	ン、評価の対象とする。課題等のほか 5つよう心がけることが望ましい。 同学自習に取り組むこと。 用し、自学自習に取り組むこと。 なる。学業成績が60点未満の者に
注意点 <b>授業の</b> 図 アクラ	属性・履 ディブラー:	この科目、この科目の日常の日常の展修者は展験等で対対の成績して、対して、経験上の区分	目は学習単位科目のたり授業のための復習時は外国人留学生に限定は外国人はり日本語の及うテーマについて、 表後、その内容をレポートを課し、 は、日頃より日本語の、 は、日頃より日本語の、 は、日頃より日本語の、 は、日頃などの、 は、日頃などのでは、 は、日頃などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	め、事前・事後等 間を含めて、60년 する。 新聞等に触れ、E 可取発表の準備と に一トとしてまとと 原発表25%、討論	学習としてレポート: 時間の自学自習時間 日本の社会問題や社: とするために、図書! りて提出するために、 25%の総合評価で、 票準的な到達度レベ	等の課題等を課しが必要である。 会情勢に関心をも館等を利用し、自然のという。 のは、図書館等を利用し、自然のでは、図書館のでは、図書館のでは、例のでは、図書館のできます。	ン、評価の対象とする。課題等のほか 5つよう心がけることが望ましい。 目学自習に取り組むこと。 用し、自学自習に取り組むこと。 各とする。学業成績が60点未満の者に ることが確認できた場合60点とする。
注意点 <b>授業の</b> 図 アクラ	属性・履 ディブラー:	この日常の で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	目は学習単位科目のたり授業のための復習時は外国人留学生に限定は、日頃より日本語の大田頃より日本語の大田ででででいていた。 表後、その内容をレルートを課し、 は、日頃より日本語の は、日頃より日本語の は、日頃より日本語の は、日頃より日本語の は、日頃は日本語の は、日頃は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日	め、事前・事後等 間を含めて、60년 する。 新聞等に触れ、E 可取発表の準備と に一トとしてまとと 原発表25%、討論	学習としてレポート: 時間の自学自習時間 日本の社会問題や社: とするために、図書! りて提出するために、 25%の総合評価で、 票準的な到達度レベ	等の課題等を課しが必要である。 会情勢に関心をできる。 会情勢に関心をできる。 会情等を利用し、同意の関係を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を	フ、評価の対象とする。課題等のほか 5つよう心がけることが望ましい。 目学自習に取り組むこと。 閉し、自学自習に取り組むこと。 各とする。学業成績が60点未満の者に 5ことが確認できた場合60点とする。
注意点 <b>授業の</b> 図 アクラ	属性・履 ディブラー:	この科目、この科目の日常の日常の展修者は展験等で対対の成績して、対して、経験上の区分	目は学習単位科目のたり授業のための復習時は外国人留学生に限定は外国人はり日本語の及うテーマについて、 表後、その内容をレポートを課し、 は、日頃より日本語の、 は、日頃より日本語の、 は、日頃より日本語の、 は、日頃などの、 は、日頃などのでは、 は、日頃などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、日間などのでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	め、事前・事後等 間を含めて、60년 する。 新聞等に触れ、E 可取発表の準備と に一トとしてまとと 原発表25%、討論	学習としてレポート: 時間の自学自習時間 日本の社会問題や社: とするために、図書! りて提出するために、 25%の総合評価で、 票準的な到達度レベ	等の課題等を課しが必要である。 会情勢に関心を結等を利用し、同意のとのである。 会情のでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	フ、評価の対象とする。課題等のほか 5つよう心がけることが望ましい。 目学自習に取り組むこと。 別し、自学自習に取り組むこと。 別とする。学業成績が60点未満の者に 別できた場合60点とする。 □ 実務経験のある教員による授業
注意点 <b>授業の</b> 図 アクラ	属性・履 ディブラー:	この日常の で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	目は学習単位科目のたり授業のための復習時は外国人留学生に限定は、日頃より日本語の大田頃より日本語の大田ででででいていた。 表後、その内容をレルートを課し、 は、日頃より日本語の は、日頃より日本語の は、日頃より日本語の は、日頃より日本語の は、日頃は日本語の は、日頃は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日間は日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日本語の は、日	め、事前・事後等間を含めて、60kg する。 する。 新聞辞表の準に触れ、E 一下としてまとしてまとしてまとしてまとい。 対対のでは、対対のである。 対対のである。 対対のである。 対対のである。 対対のである。 対対のである。 対対のである。 対対のである。 対対のである。 対対のである。 対対のである。 対対のである。 対対のである。 対対のである。 対対のである。 対対のである。 対対のである。 対対のである。 対対のである。 対対のである。 対対のである。 対対のである。 対対のである。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 が	学習としてレポート: 時間の自学自習時間 日本の社会問題や社: とするために、図書! りて提出するために、 25%の総合評価で、 票準的な到達度レベ	等の課題等を課しが必要である。 会情勢に関心を結 に関し、記 会情等を利用等を利所を の国点以上 のの一般を のののである。	フ、評価の対象とする。課題等のほか 5つよう心がけることが望ましい。 目学自習に取り組むこと。 閉し、自学自習に取り組むこと。 各とする。学業成績が60点未満の者に 5ことが確認できた場合60点とする。 □ 実務経験のある教員による授業
注意点 授 <b>業</b> の原 図 アクラ	属性・履 ディブラー:	では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 できる。 では、 できる。 では、 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。	目は学習単位科目のたり授業のための復習時は外国人留学生に限定は、日頃より日本語の及うテーマについて、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、大き、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、では、いき、いき、いき、いき、いき、いき、いき、いき、いき、いき、いき、いき、いき、	め、事前・事後等間を含めて、60kg する。 する。 新聞発表に触れ、E 所聞発表してまとして 資発表25%、討論 ルーブリックの様	学習としてレポート: 時間の自学自習時間 日本の社会問題や社: とするために、図書! りて提出するために、 25%の総合評価で、 票準的な到達度レベ	等の課題等を課しが必要である。 会情勢に関心したにはいる。 会情を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を	フ、評価の対象とする。課題等のほか 5つよう心がけることが望ましい。 目学自習に取り組むこと。 別し、自学自習に取り組むこと。 別とする。学業成績が60点未満の者に 別できた場合60点とする。 □ 実務経験のある教員による授業
注意点 授 <b>業</b> の原 図 アクラ	属性・履 ディブラー:	では、	目は学習単位科目のたり授業のための復習時は外国人留学生に限定は、日頃より日本の内容をレイで表後、というでは、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円では、1000円で	め、事前・事後等間を含めて、60kg する。 する。 新聞発表に触れ、E 所聞発表してまとして 資発表25%、討論 ルーブリックの様	学習としてレポート: 時間の自学自習時間 日本の社会問題や社: とするために、図書! りて提出するために、 25%の総合評価で、 票準的な到達度レベ	等の課題等を課し、   の必要を書い、   の必要である。   会情等を書は、   ののの理解を書は、   ののの理解を書い、   のの理解を書い、   のの理解を表すい。   のの理解を表すいます。   のの理解を表する。   ののでは、	フ、評価の対象とする。課題等のほか 5つよう心がけることが望ましい。 目学自習に取り組むこと。 閉し、自学自習に取り組むこと。 各とする。学業成績が60点未満の者に 5ことが確認できた場合60点とする。 □ 実務経験のある教員による授事 漂 いての知識を習得し、自国との相違点 語で的確に表現できる。 方の暮らしについての知識を習得し、
注意点 授業の原 図 アクラ	属性・ <u>履</u> ディブラー: 画	では、	は学習単位科目のたり授業のための復習時は外国人留学生に限定なり、ロロリンスでは、大田頃より日本の内容をレットを課題提出50%、ロロリンボートを課し、  図 ICT 利用  授業内容 日本ってどんな国 都市の暮らし・地方	め、事前・事後等間を含めて、60kでする。 する。 新聞等に触れ、E 新聞等に触れ、E 所見発表してまとして 発表25%、討論 ループリックの様	学習としてレポート: 時間の自学自習時間 日本の社会問題や社: とするために、図書! りて提出するために、 25%の総合評価で、 票準的な到達度レベ	等の必能である。 会には、	
注意点 授業の原	属性・履 ディブラー:	を	は学習単位科目のたり授業のための復習時は外国人留学生に限定しまり、日頃より日本の内容をしていた。 長後、課題提出50%、には、 は、日頃では、日本の内容をした。 は、日頃では、日本の内容をした。 は、日頃では、日本の内容をした。 は、日本の内容をした。 は、日間では、日間では、日間では、日間では、日間では、日間では、日間では、日間で	め、事前・事後等間を含めて、60kg する。 する。 する。 新聞等に触れ、E 所見発表の事情と 所表と25%、討論 所表25%、討論 があっていってのも	学習としてレポート: 時間の自学自習時間 日本の社会問題や社会であるために、図書けて提出するためにであるに、図書けて提出するために変響がある。 ② 「一、「一、「一、「一、「一、「一、「一、」「一、「一、「一、」「一、「一、「一、」「一、「一、「一、」「一、「一、「一、「一、「一、「一、「一、「一、「一、「一、「一、「一、「一、「	等がの必 情等図点 では 1 日本 日自。 食を 季を 学 学 1 日本 日自。 食を 季を 学 学 2 日本 1 日本 日自。 食を 季を 学 2 日本 1 日本 日白。 食を 季を 学 2 日本 1 日本 日白。 食を 季を 学 2 日本 1 日本 日白。 食を 季を 学 2 日本 1 日本 日本 1 日本 1 日本 1 日本 1 日本 1 日本 1	
注意点 授業の原 図 アクラ 授業計	属性・ <u>履</u> ディブラー: 画	を	は学習単位科目のたり授業のための復習時は外国人留学生に限っている。 は外国人留学生に限っている。 は外国人の留学生に限っている。 は外国人の内容をしている。 は大田はママにつ容をしている。 は大田になっている。 は大田になっている。 は大田になっている。 は大田になっている。 は大田になっている。 は大田になっている。 は大田になっている。 は大田になっている。 は大田になっている。 は大田になっている。 は大田になっている。 は大田になっている。 は大田になっている。 は大田になっている。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のできないる。 は、日本のでは、 は、日本のでは、 は、日本のでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	め、事前・事後等間を含めて、60kg する。 する。 する。 新聞等に触れ、E 所見発表の事情と 所表と25%、討論 所表25%、討論 があっていってのも	学習としてレボート: 時間の自学自習時間 日本の社会問題や社会でするために、図書けて提出するためにできまたがでででで、では、図書けてがいた。 図書では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切	等が 会館、 会館、 会館、 会館、 会館、 会館、 会館、 会館、 会館を を を る。 会を を る。 会を を る。 会を を る。 と の 部。 の もし の もし の もし の もし の もし の もし の もし の も	
注意点 授業の原 図 アクラ 授業計	属性・ <u>履</u> ディブラー: 画	を	は学習単位科目のたり 授業のための復習時は外国人留学生に語のでは外国人留学生に語のです。	め、事前・事後等間を含めて、60kg する。 する。 する。 新聞等に触れ、E 所見発表の事情と 所表と25%、討論 所表25%、討論 があっていってのも	学習としてレボート: 時間の自学自習時間 日本の社会問題や社会でするために、図書けて提出するためにできまたがでででで、では、図書けてがいた。 図書では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切	等が 会館、 の必 情等図00を 特等図00を で に利合い。 大 で に利合い。 で に利合い。 で に利合い。 で に利合い。 で に利合い。 で に利合い。 で に利合い。 で に利合い。 で に利合い。 で に利合い。 で に利合い。 で に利合い。 で に利合い。 で に利合い。 で に利合い。 で に利合い。 で に の まで に の まで に の まで に の まで に の に の まで に の まで に の まで に の まで に の まで に の まで に の まで に の まで に の まで に の まで に の まで に の まで に の まで に の まで に の まで に の まで に の まで に の まで に の まで に の まで に の まで に の まで に の まで に の まで に の まで に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の	
注意点 授業の原 図 アクラ	属性・ <u>履</u> ディブラー: 画	を	は学習単位科目のたり授業のための復習時は外国人留学生に限っている。  は外国人留学生に限っている。  は外国人の日本の内容を、以いる。  は外にの内容を、以いる。  はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、はいるでは、は	め、事前・事後等間を含めて、60kg する。 する。 する。 新聞等に触れ、E 所見発表の事情と 所表と25%、討論 所表25%、討論 があっていってのも	学習としてレボート: 時間の自学自習時間 日本の社会問題や社会でするために、図書けて提出するためにできまたがでででで、では、図書けてがいた。 図書では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切	等が 会館、 の必 情等図のを 情等図のを 情等図のを の必 情等図のを のが 情等図のを のが 情等図のを のが 情等図のを で に のが に のが に のが に のが に のが に のが に のが に のが に のが に のが に のが に のが のが に のが のが に のが のが に のが のが に のが のが に のが のが のが のが のが のが のが のが のが のが	
注意点 授業の原 図 アクラ 授業計	属性・ <u>履</u> ディブラー: 画	を に に に に に に に に に に に に に	は学習性位科目のたり 授業のための復習時は外国人留学生に限っている。 は外国人の内容が上の内容を、関連の内容を、関連が、またの内容を、関連が、の内容を、関連が、の内容を、関連が、の方では、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、	め、 事前・す。 第1間を でする。 でする。 等に触れ、 所頭発表のでは、 所表と25%、対論 が表して、 が表して、 が表して、 で表して、 で表して、 で表して、 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 でる。 でる。 でる。 で。 でる。 でる。 でる。 でる	学習としてレボート: 時間の自学自習時間 日本の社会問題や社会であるために、のというで提出するためにであるにあるにあるに対して、会社の公司達度レベン・ 図 遠隔授業対応 登 遠隔授業対応	等が 会館、 の	□ 大評価の対象とする。課題等のほからでは、 □ 大きのでは、 □ 大きののに、 □ 大きののは、 □ 大きのでは、 □ 大きののは、 □ 大きのでは、 □ 大きのでは、 □ 大きのでは、 □ は、 □ について、 □ について、 □ にして、 □ にしていていていていていていていていていていていていていていていていていていてい
注意点 授業の原 図 アクラ 授業計	属性・ <u>履</u> ディブラー: 画	<ul><li>で、 で で で で で で で で で で で で で で で で で で</li></ul>	は学習を持ちていた。  は学習を持ち、	め、 事前・す。 第1間を でする。 でする。 等に触れ、 所頭発表のでは、 所表と25%、対論 が表して、 が表して、 が表して、 で表して、 で表して、 で表して、 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 でる。 でる。 でる。 で。 でる。 でる。 でる。 でる	学習としてレボート: 時間の自学自習時間 日本の社会問題や社会であるために、のというで提出するためにであるにあるにあるに対して、会社の公司達度レベン・ 図 遠隔授業対応 登 遠隔授業対応	等が 会館、 の	ス、評価の対象とする。課題等のほか の大きの心がけることが望ましい。 同学自習に取り組むこと。 同じ、自学自習に取り組むこと。 別とする。学業成績が60点未満の者に の名とが確認できた場合60点とする。 「実務経験のある教員による授養を についての知識を習得し、自国との相違点 語で的確に表現できる。 いての知識を習得し、自国との相違点 にの知識を習得し、自国との相違点 にの知識を習得し、自国との相違点 にで的確に表現できる。 いての知識を習得し、自国との相違点 語で的確に表現できる。 いての知識を習得し、自国との相違点 語で的確に表現できる。 いての知識を習得し、自国との相違点 にもいての知識を習得し、自国との相違点 にもいての知識を習得し、自国との相違点 にもいての知識を習得し、自国との相違点 にもいての知識を習得し、自国との相違点 にもいての知識を習得し、自国との相違点 にもいての知識を習得し、自国との相違点 にもいての知識を習得し、自国との相違点 にもいての知識を習得し、自国との相違点 にもいての知識を習得し、自国との相違点 にもいての知識を習得し、自国との相違点 にもいての知識を習得し、自国との相違点 にもいての知識を習得し、自国との相違点 にもいての知識を習得し、自国との相違点 にもいての知識を習得し、自国との相違点 にもいての知識を習得し、自国との相違点 にもいての知識を習得し、自国との相違点 にもいての知識を習得し、自国との相違点 にもいての知識を習得し、自国との相違点 にもいての知識を習得し、自国との相違点 にもいての知識を習得し、自国との相違点 にもいての知識を習得し、自国との相違点

	12週	「日本の産業構造と経済 る発表	斉」「日本の科学技術」に関す	学生が自国との比較的見地 レゼンを行い、日本語によ ができる。	から課題テーマに関してプ って論理的に議論すること
	13週	日本人の価値観		結婚観・宗教間について理 相違点を認識し、日本語で	I解し、自国民の価値観との ご適切に表現できる。
	14週	現代日本社会の問題		現代日本社会に関する問題 論理的に議論することがて	を認識し、日本語によって ごきる。
	15週	「日本人の価値観」「現 発表	口本人の   恒観」 現1/口本仕去の  0起」に関9る		から課題テーマに関してプ って論理的に議論すること
	16週				
評価割合					
	誤	題	発表	討論	合計
総合評価割合	5	0	25	25	100
基礎的能力	基礎的能力 50		25	25	100
専門的能力	0		0	0	0
分野横断的能力	0		0	0	0

<b>苫</b> 小牧	女工業高等		文	令和05年度 (2	2023年度)	授	 業科目	英会話	
科目基礎						•			
科目番号	1   1   1	0080			科目区分		一般 / 選	 <b></b> 张択	
授業形態		授業			単位の種別と	当位数	学修単位		
<u>投業ル窓</u> 開設学科			料(一般科目)		対象学年	一一叶双	子形毕也 4	4	
			一件 ( 放件日)						
開設期	L-1	前期			週時間数 2 class will be provided on that day.				
教科書/教林	<b>对</b>			Material for each	class will be p	provided	on that c	lay.	
担当教員		アンドレ	・ア 畠山						
到達目標	=								
The goals students a of choice i	for the Er and addition for 5 minu	nglish conv onally by th ites during	ersation classes wine teacher. Useful of the semester.	ll be to encourage expressions and i	e discussions a dioms will be	about sul part pf e	ojects of ach lesso	interest. n. Each s	Topics will be decided by student will present a topic
ルーブリ	リック								
		理想	見的な到達レベルの目	ままりな到達	レベルの目安	最低限の (可)	到達レベ	ルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1		ーの 声を 解し	§ネイティブ・スピー ○プレゼンテーション ○聞いて内容を正しく ノ、説明できる。	y音 ーのプレゼン 、理 声を聞いて、 理解できる。	テーション音 内容を正しく 	ーのプレ 声を聞い ードを把	ティブ・ ゼンテー て、要点 握できる	ション音 やキーワ ·	左記に満たない。
評価項目2		準備 技術 てお	日プレゼンテーション 前・実施に必要な知識 所、語彙を十分に習得 らり、効果的な発表活 ごきる。	ぱつ 準備・実施に 乳 ガボ 語彙を	必要な知識や 習得しており	準備・実技術につ	ゼンテー 施に必要 いて理解 を用いて。	な知識やしており	左記に満たない。
英語 評価項目3 ない、		英語 なと い、	語での質問や応答、説 どのやりとりを適切に 他者と意思疎通を図 とができる。	英語での質問などのやりと	りを、助言が 適切に行うこ 者に考えを伝	英語での	質問が理!	解でき、 ば単文で	左記に満たない。
学科の到	  達日標頂	  目との関		7200070	C 0°				
I 人間性 Ⅱ 実践性	生 1 I 人 生 2 II 実	<u>□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ </u>	11/1						
教育方法									
概要		Enalish.	Students will learn ions, and memoral	n the strategies to	build speech	about th	emselve	s, their fr	ful presentations in iends, favorite places, nunication skills as well as
授業の進め	う方・方法	The clasuseful eduring t ※Re-evterm an ※この科	xpressions, rules, a he course. aluation: a re-exar d final exams (30%	and tips of English m is conducted to 6+40%=70%) ar かため、事前・事後	n presentation students who re replaced with	on topic ose evalu th re-exa	s of inter ation is le m one.	est. Presess than	ties. We will learn some entations will be done 60. The scores of mid- 勉強時間も総合し、60時間
注意点	<b>"</b> 件,层 <i>修</i>	For self- Student and liste To prep Do the a question week. To revie Look ov underst	study; s should get as muening to music in E are for classes; above, and be reac as about material r ew; er the material cov and any new vocab	ich practice listen nglish. Singing so ly to try out new not being understo vered in previous	ongs in English things. Alway: ood. Be ready	n is a gre s bring a to talk a	at way to notebool bout thin	improve k to class gs that h	
		<u>と上の区分</u>				+r <del>t-</del>		Tn =	変々形のセス数号に トスセサ
□ アクテ	ィブラーニ	.ンソ	□ ICT 利用		☑ 遠隔授業対	יטיוני		□ 美	務経験のある教員による授業
	ī								
1又未引世	1	<u>)</u>	<b>極器市</b> 泰			\B1→\\ 1	A PIN + C	læ	
		週	授業内容				の到達目		
		1週	Introduction Getting to know e	ach other		Stude	nts can ii nt topics	ntroduce	themselves in English and
		つ:国	_	GOT OUTE					
		3週	Deciding topics  Keypoints to good	communications		Stude "gesti	nts unde	rstand ho	n and decide on topics.  ow "eye contact" and  nt during any kind of
2645	1stQ	4週	Builing the frame	for a presentation	1	Buildii		ne, from	title to conclusion and
前期		1	I			Talkin	a about l	keywords	and idioms, expressions.
前期	1300	5週	Topic 1				sing the		dia laloms, expressions.
前期	1300	5週 6週	Topic 1 Topic 2			Discus Talkin	ssing the	topic. keywords	and idioms, expressions.
前期	1500		·			Talkin Discus Talkin	ssing the g about l ssing the	topic. keywords topic. keywords	<u> </u>

		9週	Topic 4	Торіс 4		Talking about keywords and idioms, expressions. Discussing the topic.				
		10週	Topic 5			Talking about keywords and idioms, expressions. Discussing the topic.				
		11週	Topic 6			Talking about keywords Discussing the topic.	and idioms, expressions.			
	2ndQ	12週	Topic 7			Talking about keywords and idioms, expressions. Discussing the topic.				
		13週	Topic 8			Talking about keywords Discussing the topic.	and idioms, expressions.			
		14週	Reviewing all			Reviewing topics and discuss rankings a reasons for it.				
		15週	Students' Presenta	Students' Presentation		Students can give effective, well-organized and powerful presentation in English.				
		16週	定期試験							
評価割合	ì									
			中間試験	定期試験	ラ原	プレゼン・課題・授業参加 E	合計			
総合評価割	   合		30	40	3	0	100			
基礎的能力	基礎的能力 30		30	40	3	0	100			
専門的能力	<u></u>	(	0	0	0		0			
分野横断的	能力		0	0	0		0			

苫小!	数工業高額	等専門学校	開講年度	令和05年度(2	 2023年度)	授業	 科曰	英語特論A
科目基础		·- ·- ·- ·- ·- ·- ·- ·- ·- ·- ·- ·- ·- ·	1 1/13/11/1/	1121201120(1		1,10,70	<del></del>	Is sent a him
科目番号	WE IH +IX	0081			科目区分		般 / 選	 択
授業形態		授業			単位の種別と単位		<u>// ( / 人)</u> 修単位:	
開設学科			—————————— 斗(一般科目)		対象学年	4		
開設期		前期			週時間数	2		
教科書/教	材	教科書:E	English Switch(R	obert Hickling / N	· ⁄lisato Usukura, 南	有雲堂)		
担当教員		石川 愛弓			·			
到達目標	 票							
2. 基本的 3. 基本的	的な単語や 的な英語表現 的な学習に、	現を習得する.	た上で,簡単な英文 ことで,簡単な英名	てを正しく書くこと 会話ができる。 とは英検準2級取得	ができる。 のために必要な基例	礎力を確認	₩できる	00
<i>,,</i> ,	<i></i>		理想的な到達レ	 ベルの目安	標準的な到達レイ	 ベルの目安	<u> </u>	未到達レベルの目安 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
==/===	<u> </u>				基本的な英文の記			基本的な英文の読解や聴解ができ
評価項目1	1		できる。	20/31 (	る。	70731 (	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	ない。
評価項目2	2		基本的な単語や で、簡単な英文 がよくできる。	文法を習得した上 を正しく書くこと	基本的な単語やなで、簡単な英文をができる。	文法を習得 を正しく書	した上 くこと	基本的な単語や文法を習得した上で,簡単な英文を正しく書くことができない。
評価項目3	3			現を習得すること 話がよくできる。	基本的な英語表現 で,簡単な英会詞			基本的な英語表現を習得することで, 簡単な英会話ができない。
評価項目4	4		コア400点また(	よって,TOEICス は英検準 2 級を取 能となる基礎力を	継続的な学習に。 コア400点または 得を目指すことが 確認できる。	は英検準 2	級の取	継続的な学習によって, TOEICスコア400点または英検準2級取得を目指すことができない。
学科のす	到達目標工	頁目との関 ^ん	_ l_ ·		·			•
	性 1 I .	人間性 実践性						
並 国際 教育方法	性 3 Ⅲ [	国際性						
水円刀流	ムゼ	英語特論			カー「聴解力」を紹	公合的に姜	.成1.	 TOEICスコア400点または英検準2級
概要		を取得する力の定着を	るために必要な基礎 を目指す学生とする	を力の定着を目指す ら。	。対象者は、専攻権	科入試出願	質格達	成を目指す学生および英語の基礎学 
授業の進む	め方・方法	(基礎的)  定期に単詞	よ作文や発話ができ 語・熟語や既習項目	「る力)の向上を目	指す。テキストとで する。再試験につい	合わせて、	教員の	ともに、読解力や聴解力、表現力 作成した演習問題にも取り組む。不 前期末に1回実施するが,授業への取
		- 1- 1		め、主体的な学習	を継続すること。	*** ***		
注意点			2. 積極的な姿勢で問題演習に取り組むこと。 事項の理解を深めるために復習を徹底して行うこと。 寺は、英和辞書を必ず持参すること。					
八志杰		※再試験の	と再評価: 評価力		者には再試験を実施	施する。こ	この場合	、再試験の成績は復習テストと定期
授業の履	属性・履何	多上の区分						
	ティブラーニ		☑ ICT 利用		□ 遠隔授業対応			□ 実務経験のある教員による授業
			(3/13					
授業計画	画							
		週				週ごとの到	到達目標	
		12国	Pre-Unit. 品詞と語 Unit 1. 現在時制	順、文型		品詞と語		』 型および文法事項の現在時制を理解し きる。
			Unit 2. 可算名詞/	不可算名詞		. —	の可算名	- 00 品詞/不可算名詞を理解し、正しく運
		3週	Unit 3. 前置詞		i			同を理解し、正しく運用できる。
	1stQ	4週				文法事項の	の過去時	 特制を理解し、正しく運用できる。
			Unit 5. 進行形			文法事項の	の進行用	ジを理解し、正しく運用できる。
		6週	Unit 6. 代名詞			文法事項の	の代名詞	同を理解し、正しく運用できる。
		7週	Unit 7. 現在完了			文法事項の	の現在気	記了を理解し、正しく運用できる。
		8週	復習テスト					7容を理解し、それらを正しく活用・
<del>抗</del> 甘用					i	運用できる		크스패션이 교고 스웨드
前期		9週	Unit 8. 接続詞		i			同を理解し、正しく運用できる。 ne going toを理解し、正しく運用でき
前期		10	Unit 9. will/be going to		文法事項のwill/be る。		- · · · · · / U	
前期		10週	Unit 9. will/be go	ing to		る。		
前期			Unit 9. will/be go Unit 10. 比較	ing to			の比較を	で理解し、正しく運用できる。 で理解し、正しく運用できる。
前期		11週		ing to		文法事項の 文法事項の	の受動態	で理解し、正しく運用できる。 影を理解し、正しく運用できる。
前期	2ndQ	11週	Unit 10. 比較			文法事項の 文法事項の	の受動態	で理解し、正しく運用できる。 影を理解し、正しく運用できる。
前期	2ndQ	11週 12週 13週	Unit 10. 比較 Unit 11. 受動態 Unit 12. 動名詞/不			文法事項の 文法事項の 文法事項の	の受動態 の動名詞	で理解し、正しく運用できる。 影を理解し、正しく運用できる。 別/不定詞を理解し、正しく運用できる
前期	2ndQ	11週       12週       13週       14週	Unit 10. 比較 Unit 11. 受動態 Unit 12. 動名詞/不 Unit 13. 助動詞			文法事項 <i>6</i> 文法事項 <i>6</i> 文法事項 <i>6</i> 。 文法事項 <i>6</i>	の受動態の動名詞の動名詞の助動詞の助動詞	で理解し、正しく運用できる。 影を理解し、正しく運用できる。 別不定詞を理解し、正しく運用できる。
前期	2ndQ	11週 12週 13週 14週 15週	Unit 10. 比較 Unit 11. 受動態 Unit 12. 動名詞/不			文法事項の 文法事項の 文法事項の 。 文法事項の 文法事項の	の受動態 の動名詞 の助動詞 の分詞を	で理解し、正しく運用できる。 影を理解し、正しく運用できる。 別/不定詞を理解し、正しく運用できる

評価割合									
	定期試験	復習テスト	課題・小テストなど	合計					
総合評価割合	30	30	40	100					
基礎的能力	30	30	40	100					
専門的能力	0	0	0	0					

	牧工業高等	等専門学校	文 開講年度	令和05年度(	2023年度)	授業科	自 英語特論 B	
科目基础		- "		,	- /		·	
科目番号	Z11311X	0082			科目区分	一般	: / 選択	
受業形態		授業			単位の種別と単位	位数 学修	· 単位: 2	
開設学科		創造工学	料(一般科目)		対象学年	·		
開設期		後期			週時間数	2		
教科書/教	<b>対</b>	Reading	j Insight – 科学技術	析の多様な側面を表	うえる (三修社)	•		
旦当教員		石川 愛弓	7					
到達目	票							
2 . 英文 3 . 標準 4 . 継続I	を通して、5 レベルの語彙	現代の先端的 量や文法事項 よって、TOE	頁を修得した上で、読	情報を得るとともに 抗解の方略を様々な	こ、その内容に関し 公野の英文理解に	適用できる。	えを的確に発信することができる。 战し、英語学力試験等によって自身の学力	
ルーブ!								
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レ	ベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目:	1		英検2級レベルの 構造を理解しな 文内容を正確に	の語彙・文法・文 がら、一般的な英 読み取れる。	英検2級レベルの 構造を理解しな 文内容を正確に	がら、基本的		
評価項目	2		やや難解な英文 読んで、その内 できる。	を迅速かつ大量に 容を日本語で説明	一般的な英文を んで、その内容 きる。			
評価項目:	3		英文教材の読解	を通して、最先端 する諸問題を深く る。	英文教材の読解 の科学技術に関 を知ることが出	する諸問題の	先端 英文教材の読解を通しても、最多	
 学科の3	到達目標耳	頁目との関	<u> </u>		,			
I 人間 Ⅱ 実践	性11~	人間性 実践性 国際性						
业 <u>国际</u> 教育方法		크까.그						
	· · ·	最先端の	 )科学技術などを紹介	 ↑する英文記事を、	英文の文構造に注	 意しながら]		
既要							らかけとしたい。 ら構成されるが、始めに本文の内容確認	
受業の進行 	め方・方法 	※再試験 験と到達 学修単位 1)各U	ストを実施する。 能による再評価の方法 度試験の成績 (60 「科目なので自学自習 の下でのでする。	1%)に置き換えて  B時間の確保は必須 P理解とExercise)	再評価を行なう。     である。その際に   を必ず行なって授	 は下記の学習 業に臨むこと	′。予習実施状況は平常点評価に加わる。	
	<b>属性・履</b> 値	12) 復営	『美施状況は小テスト 『提出を冬期休業明に	、により、里語・又	法・又構造などの	埋解はや習得	援として評価する。 Nら、該当するUnitを割り当てる。	
	ニィブラーニ		」 ☑ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応	<u>-</u>	□ 実務経験のある教員による投	
受業計画	画		1					
	1	週	授業内容			週ごとの到達	<b>達目標</b>	
		1週	Unit 1 大ブームを の開発ついて	- r巻き起こしたイン	·ベーダーゲーム	②段落ごと ③テキスト: ④各UnitのI	整理しながら各文を正確に理解できる。 の要点を把握できる。 全体の流れや内容を把握できる。 Exercise設問に解答することができる。 語彙・語法や文法・構文を身につけられ	
		2週	Unit 1 大ブームを の開発ついて	 で巻き起こしたイン	<u></u> バーダーゲーム	・ ①文構造を整理しながら各文を正確に理解でき ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができ ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけ		
後期 3rdQ		3週	Unit 2 食品ロスと	nit 2 食品ロスと食品廃棄について		・     ① 文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ② 段落ごとの要点を把握できる。 ③ テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④ 各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤ 本文中の語彙・語法や文法・構文を身につい		
		4週	Unit 2 食品ロスと	∠食品廃棄について	:	②段落ごと ③テキスト: ④各UnitのI	整理しながら各文を正確に理解できる。 の要点を把握できる。 全体の流れや内容を把握できる。 Exercise設問に解答することができる。 語彙・語法や文法・構文を身につけられ	
		5週	Jnit 2 食品ロスと食品廃棄について  Jnit 5 「東ロボ」プロジェクトと日本の生徒の読解 カの問題について		1.1. o #./+ o=+#7	⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につけり。  ①文構造を整理しながら各文を正確に理解できる。 ②段落ごとの要点を把握できる。 ③テキスト全体の流れや内容を把握できる。 ④各UnitのExercise設問に解答することができる。 ⑤本文中の語彙・語法や文法・構文を身につける		

		6週	Unit 5 「東ロ: 力の問題につい	ボ」プロジェクトと日本の生徒の て	②段落ごとの要 D読解 ③テキスト全体 ④各UnitのExe	しながら各文を正確に理解できる。 原点を把握できる。 の流れや内容を把握できる。 rcise設問に解答することができる。 食・語法や文法・構文を身につけられる
		7週	Unit 6 あふれっこと	るニュースの中で気をつけておく	②段落ごとの要 くべき ③テキスト全体 ④各UnitのExe	しながら各文を正確に理解できる。 を点を把握できる。 の流れや内容を把握できる。 rcise設問に解答することができる。 な・語法や文法・構文を身につけられる
		8週	到達度試験		·	
		9週	Unit 9 自然か	ら学ぶテクノロジーのヒント	②段落ごとの要 ③テキスト全体 ④各UnitのExe	Uしながら各文を正確に理解できる。 原点を把握できる。 ぶの流れや内容を把握できる。 rcise設問に解答することができる。 ・・語法や文法・構文を身につけられる
		10週	Unit 9 自然か	ら学ぶテクノロジーのヒント	②段落ごとの要 ③テキスト全体 ④各UnitのExe	しながら各文を正確に理解できる。 を記念のではできる。 のではないでは、 のでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、
	11週		Unit 10 コロナ	├禍と私たち	②段落ごとの要 ③テキスト全体 ④各UnitのExe	しながら各文を正確に理解できる。 を記念のではできる。 なの流れや内容を把握できる。 rcise設問に解答することができる。 ない語法や文法・構文を身につけられる
	4thQ	12週	Unit 10 コロナ	Unit 10 コロナ禍と私たち		しながら各文を正確に理解できる。 を点を把握できる。 の流れや内容を把握できる。 rcise設問に解答することができる。 を・語法や文法・構文を身につけられる
		13週	Unit 13 「エミ	シカル・ショッピング」について	②段落ごとの要 ③テキスト全体 ・ ④各UnitのExe	しながら各文を正確に理解できる。 を点を把握できる。 の流れや内容を把握できる。 rcise設問に解答することができる。 を・語法や文法・構文を身につけられる
		14週	Unit 13 「エミ	Unit 13 「エシカル・ショッピング」について		しながら各文を正確に理解できる。 を点を把握できる。 の流れや内容を把握できる。 rcise設問に解答することができる。 を・語法や文法・構文を身につけられる
		15週	Unit 14 ネット	〜産業の開発者たちが語る	②段落ごとの要 ③テキスト全体 ④各UnitのExe	しながら各文を正確に理解できる。 を点を把握できる。 の流れや内容を把握できる。 rcise設問に解答することができる。 ・語法や文法・構文を身につけられる
		16週	定期試験			
評価割合						
2				到達度試験	課題・小テスト・	予習状況 合計
総合評価割			30	30	40	100
基礎的能力			30	30	40	100
専門的能力			0	0	0	0
分野横断的			0	0	0	0
ンコルはいい	רלטנו			10		IO

<b>芷</b> 小\$	7工業高等	 等専門学校	 ₹ 開講年度 令和05年度 (2	 2023年度\	授業科目	 日本語コミュニケーション	
科目基礎		ナ <del>、ナ</del> ・ノナイス	.   開码牛皮   13和03牛皮 (	2023年度)		ロ本品コーエーノ フョフ	
科目番号	<b>アド</b>	0083		科目区分	一般/選択	3	
授業形態		授業		単位の種別と単位			
開設学科			科(一般科目)	対象学年	4	=	
開設期		前期	11 ( //////////////////////////////////	週時間数	2		
教科書/教林	: <del>1</del>	1.557.45	書は用いず、自作プリントほかを使用	1			
担当教員	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		、時田 紗緒里	7 00			
到達目標	<u> </u>	1, - 1,	y-314 424111				
1. スピーラ 2. 適切な記 3. 自分やイ 4. 敬語につ 5. 日本語	チやプレゼ 話題や題材 他人の発表 ついて、そ 検定 2 級程	についての権 をみて反省点 の基本的な性	ンを通じ、自分が伝えたいことをしつ; 構想に従って材料を整理し、意見・主 点をみつけ、次の発表に生かすことが 生質と機能を理解し、場面に応じた使 貫用句・熟語等を含む)を理解し、使	張などを筋道を立て ⁻ できる。 い方ができる。	て表現することが	うできる。	
ルーブリ	ック		四相位为700本1 4711 47日本	無洗約45万011		+70-41 - 21 - 20-0	
<del>                                     </del>			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベ		未到達レベルの目安	
ことを相手	に伝えるこ	か伝えたい ことができる	対じ、聞き子に興味をもだせ、用   意した内容を伝えられる。	準備した内容につい 発表を行い、自分がを話すことができ	が伝えたいこと	途中で話が詰まったり、声が聞こ えなかったり、脈絡のないことを 話したりして何も伝えられない。	
・主張など ことができ	を筋道立てる	整理し、意見 て表現する	を楽しませるスピーチを組み立て られる。	ある程度の準備とはピーチを組み立ては		準備不足で聞き手を楽しませられ ない。	
自分や他人 みつけ、次 できる	、の発表を <i>A</i> での発表に生	→て反省点を Eかすことが	く分析し、次回の発表に生かすこ とができる。	自分や他人の発表の発表に生かすこ	を反省し、次回 とができる。	自分や他人の発表を反省し、次回 の発表に生かすことができない。	
	解し、場面	基本的な性質 同に応じた使		敬語について、そのと機能を理解し、 りい方ができる。		敬語について、その基本的な性質 と機能を理解し、場面に応じた使 い方ができない。	
日本語検定 し、使用す		語彙を理解 ごきる	日本語検定2級程度の語彙を正しく理解し、使用することができる	日本語検定2級程度 程度理解し、使用 る。		日本語検定2級程度の語彙を理解 し、使用することができない。	
I 人間性 Ⅱ 実践性 Ⅲ 国際性	生 1 I 人 生 2 II 実 生 3 II 国	目との関 、間性 。践性 国際性	<u>係</u> 				
教育方法	寺	Te					
概要			適切かつ効果的に表現する能力を育成 んで表現することによって社会生活を			思考力を伸はしつつ言語感見を磨き	
授業の進め	方・方法	ビーチや! ことによ・ 題などを:	として4時間のうち3時間は、プレゼンブレゼンテーション発表について「課って「発表力」を身につける。また、もとにした講義・演習の時間とする。	題・注意点確認 → 残りの1時間は敬語	›準備 →発表 - および語彙に関す	→反省」というプロセスを繰り返す する事柄について、日本語検定の問	
注意点		葉に対す	については、必ず事前に充分な準備を る関心をもつようにすることが望まし	.傾んで闘むこと。ま .い。 国語辞典等の	:た、日吊の言語だ )準備については、	動にあいても、様々な角度から言 適宜指示する。	
授業の属	性・履修	上の区分					
☑ アクティ			☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	-	□ 実務経験のある教員による授業	
		<del></del>					
授業計画	i						
		週	授業内容		   ごとの到達目標		
		1週	1. ガイダンス&スピーチの要点				
			2. スピーチコミュニケーション I (		A	可欠な要素=聞き手の視点について	
			チ準備 (2) テーマスピーチ実技	`	里解することができ	きる。 「準備」「工夫」の重要性を理解し	
	1stQ	4週	(3) テーマスピーチ反省	É			
	ISIQ	5週	3. 敬語法 (1) 敬語について考える		享敬語について、 ² ことができる。	その基本的な性質と機能を理解する	
		6週	(2) 敬語の基本的な性質と機能		敬語について、場面に応じた使い方ができる。		
前期		7週	4. 基礎プレゼンテーション (1) テーション準備		プレゼンテーションやスピーチを通じて、自分が伝え たいことを、しっかりと相手に伝えることができる。		
			(2) テーマプレゼンテーション実技	5	プレゼンテーションやスピーチを通じて、自分が伝えたいことを、しっかりと相手に伝えることができる。		
		9週	(3) テーマプレゼンテーション反省	7 0.	テーマプレゼンテ- Dスピーチの反省 ²	ーションについて的確に評価し、次 を行うことができる。	
		10週	5. 語彙(1)(慣用句・四字熟語等	を今む)	日本語レベル2級程度の語彙を正確に使用するこ		
	2ndQ	11週	5. 語彙(2)(慣用句・四字熟語等	<u>~ 40)</u>	日本語レベル2級程 きる。	<b>程度の語彙を正確に使用することがで</b>	
						て、賛成/反対の立場を明らかにし	

	1	.3週	(2) テーマスト	ピーチ実技		自らの たうえ きる。	主張について、賛成/反 で根拠を述べるという「	対の立場を明らかにし 主張型スピーチ」がで
	1	.4週	(3) テーマスと	ピーチ反省		テーマ の反省	スピーチについて的確に を行うことができる。	評価し、次のスピーチ
	1	.5週	7. 語彙(3)	(慣用句・四字熟語等	を含む)	日本語きる。	レベル2級程度の語彙を	正確に使用することがで
	1	.6週						
評価割合								
		試験		実技	小課題・小テス	<b>١</b>	レポート	合計
総合評価割合		40		30	15		15	100
基礎的能力		40		30	15		15	100
専門的能力		0		0	0		0	0
分野横断的能力	<u></u>	0		0	0		0	0

			校   開講年月			授業科目	現代科学特詞	itti
 科目基(		高等専門学	וא השנויון או	度 │令和05年度 (2	2025一汉)			
科目番号		0084			科目区分	一般/選排	₹	
授業形態		授業			単位の種別と単位数	学修単位:		
開設学科			学科(一般科目)		対象学年	4 4		
開設期	•	後期			週時間数	2		
<u> </u>			 ^f リント		短时间数	2		
担当教員		長澤 復						
到達目		12/+	= 71					
		三性および持	数的か結果について	 :説明することができる	 3			
2. 相対性	主理論の必	が要性および	特徴的な結果につい	いて説明することができ	きる。			
ルーブ	リック							
			理想的な到達	をレベルの目安	標準的な到達レベル	D目安	未到達レベル	- の目安
		および特徴的 することがで	**   里丁刀子の%	が要性と特徴的な結果 目することができる。	量子力学の必要性を ができる。	说明すること	量子力学の必 ができない。	要性を説明すること
		性および特徴 明することだ		)必要性および特徴的 \て説明することがで	相対性理論の必要性 とができる。	を説明するこ	相対性理論のとができない	)必要性を説明するこ \。
	到達日料	票項目との					1	
	<u>划连口化</u> ]性 1 I		1/1/1//					
Ⅱ 実践 国際		実践性						
教育方法	法等	1						
概要		量子力 するか する。	)学と相対性理論は 、いずれも我々の	、現代物理学の柱であ 日常的な直感と反する	る。量子力学はミクロ 結果が多く存在する。	な現象を、相対 本授業では、	付性理論は高工 量子力学と相対	ネルギー現象を記述 性理論の基礎を学習
授業の進	め方・方	法 一二の科	目は学修単位科目	リントを使った説明と のため、事前・事後学 の進備のための勉強時	演習で構成する。 習として課題レポート 間を総合し、60時間の	を課します。 自学自習時間	受業 (30時間) が必要である。	の他に予習復習時間
注意点		李霊虎	続が60占ま港の学	生に対して 再試験を	安たナフ・日ムギナフ			
	属性・履	の成績   で   で   で   で   で   で   で   で   で   で	に置きかえて再評	価を行う。	〔夫施 9 る場合がのる。	この場合、再	試験の成績は遙	能成度試験、定期試験 
		の成績     復修上の区	に置きかえて再評	価を行う。	区実施9 る場合がある。 ☑ 遠隔授業対応	この場合、再		を成度試験、定期試験のある教員による授業
授業のI □ アク <del>:</del>	ティブラ・	の成績     復修上の区	<u> に置きかえて再評</u> 分	価を行う。		この場合、再		
授業のI □ アク <del>:</del>	ティブラ・	の成績 <b>覆修上の区</b>  -ニング	iに置きかえて再評 分 □ ICT 利用	価を行う。	☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験	
授業のI □ アク <del>:</del>	ティブラ・	の成績  優修上の区  -ニング  週	に置きかえて再評分 分 図 ICT 利用	価を行う。	☑ 遠隔授業対応	ごとの到達目標	□ 実務経験	のある教員による授業
授業のI □ アク <del>:</del>	ティブラ・	の成績 <b>覆修上の区</b>  -ニング	iに置きかえて再評 分 □ ICT 利用	価を行う。	☑ 遠隔授業対応 週ご 古典	との到達目標 物理学で説明	□ 実務経験できない現象を	のある教員による授業 で理解する。
授業の	ティブラ・	の成績  優修上の区  -ニング  週	に置きかえて再評分 分 図 ICT 利用	価を行う。	☑ 遠隔授業対応 週ご 古典 ボー	との到達目標 物理学で説明 アの仮説を元	□ 実務経験のできない現象を に水素原子にお	のある教員による授業
授業のI □ アク <del>:</del>	ティブラ・	の成縁  優修上の区  -ニング   週   1週	に置きかえて再評分	価を行う。	☑ 遠隔授業対応 週ご 古典 ボー 導出	との到達目標 物理学で説明 アの仮説を元 することがで	□ 実務経験のできない現象をに水素原子におきる。 方程式の構造と	のある教員による授業 で理解する。
授業のI □ アク <del>:</del>	ラィブラ・	の成縁  優修上の区  -ニング   週   1週   2週	に置きかえて再評分	価を行う。 界 型 一方程式と波動関数の	図 遠隔授業対応 週ご 古典 ボー 導出 シコ 変重 変重 るご	との到達目標 物理学で説明 アの仮説を元 することがで レディンガー ることができる。	□ 実務経験 できない現象を に水素原子にお きる。 方程式の構造と る。 れたときに、仮	のある教員による授業 を理解する。 おける電子軌道の式を と波動関数の解釈を説 立置の期待値を計算す
授業のI □ アク <del>:</del>	ティブラ・	の成縁  優修上の区  -ニング   週   1週   2週   3週	<ul><li>に置きかえて再評分</li><li>分</li></ul>	価を行う。 界 型 一方程式と波動関数の	図 遠隔授業対応 週ご 古典 ボー 導出 ショョョョョョョョョョョョョョョョョョョョョョョョョョョョョョョョョョョョ	との到達目標物理学で説明アの仮説を元でレディンができることが与える。 関数ができる。 に深い井戸型	□ 実務経験 できない現象を に水素原子にお きる。 方程式の構造と る。 れたときに、位 ポテンシャル中	のある教員による授業 で理解する。 おける電子軌道の式を と波動関数の解釈を説 位置の期待値を計算す 中の電子の波動関数と
授業のI □ アク <del>:</del>	ラィブラ・	の成縁  優修上の区   二ング   週   1週   2週   3週   4週	派に置きかえて再評分 □ ICT 利用 □ 授業内容 □ 古典物理学の限 ボーアの原子模 シュレディンガ 物理量の期待値	価を行う。 界 型 一方程式と波動関数の i	図 遠隔授業対応 週ご 古典 ボーリショす ショす 波重ご 無限するこ で移	との到達目標 物理学で説明 アの仮説を元 レディンガーさ ることが与える。 関数ができ とができ に深いキーを ルルギーを	□ 実務経験 できない現象を に水素原子にむ きる。 方程式の構造と る。 れたときに、位 ポテンシャル中 ることができる	のある教員による授業 で理解する。 おける電子軌道の式を と波動関数の解釈を説 位置の期待値を計算す 中の電子の波動関数と
授業の □ アクラ 授業計i	ラィブラ・	の成縁  優修上の区   二ング   週   1週   2週   3週   4週   5週	に置きかえて再評分 図 ICT 利用 授業内容 古典物理学の限 ボーアの原子模 シュレディンガ 物理量の期待値 井戸型ポテンシ	価を行う。 界 型 一方程式と波動関数の i ・ヤル 問題	□ 遠隔授業対応 □ 遠隔授業対応 □ 古典 ボーは ショす ショす 波重の 無限するこ エート として にして にして にして にして にして にして にして に	との到達目標 物理学で説を元で アの仮ことがでいい アるデスとがでいる 関とに次ギポラる。 で深ギポラる。 で深ギポラる。 ででで でで でで でで で で で で で で で で で で で で	□ 実務経験 できない現象を に水素原子におきる。 方程式の構造と る。 れたときに、位 ポテンシャできる ルでの反射率と を通して、共鳴 できる。	のある教員による授業 を理解する。 おける電子軌道の式を と波動関数の解釈を説 位置の期待値を計算す 中の電子の波動関数と 3。
授業の □ アクラ 授業計i	ラィブラ・	の成縁  優修上の区   二ング   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週	に置きかえて再評分 ICT 利用 授業内容 古典物理学の限 ボーアの原子模 シュレディンガ 物理量の期待値 井戸型ポテンシ 1次元での散乱	価を行う。	□ 遠隔授業対応 □ 遠隔授業対応 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	との到達目標明 物理学で説をがしている関とにル型でで記がでいっている。 アするデスとがでいっているでではでいるではでいたがでいった。 で深ギポラのものではでいる。 ででであるでいる。 ででであるではいる。 ででではいるでは、 でででは、 ででは、 ででは、 では、 では、 では、 で	□ 実務経験 できない現象を に水素原子におきる。 方程式の構造とる。 れたときに、位 ポテンシができる ルでの反射率と を通る。 度を確認する。	のある教員による授業 で理解する。 おける電子軌道の式を と波動関数の解釈を説 位置の期待値を計算す 中の電子の波動関数と る。 と透過率を計算するこ 急現象とトンネル効果
授業の □ アクラ 授業計i	ラィブラ・	の成縁  を上の区   一二ング   週 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	[に置きかえて再評分	価を行う。	□ 遠隔授業対応 □ 遠隔授業対応 □ □ 遠隔授業対応 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	との到達を記がしています。 との到達を記がしています。 関とにル型で元明を記がているでは、では、では、といができるでいる。 というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	□ 実務経験 できない現象を に水素原子にま きる。 方程式の構造と る。 れたときに、 化ポテンシがでする。 ルたとうでの反射率と を通して、共 できる。 度を確認する。 光速度不変の 原	のある教員による授業 で理解する。 おける電子軌道の式を と波動関数の解釈を説 位置の期待値を計算す 中の電子の波動関数と と透過率を計算するこ 急現象とトンネル効果
授業の □ アクラ 授業計	ラィブラ・	の成縁  を上の区   一二ング   週 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	に置きかえて再評分	価を行う。  界  三一方程式と波動関数の  「 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	□ 遠隔授業対応 □ 遠隔授業対応 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	をの到達 目標 明アす レる 関と にル型で 元明 論 相る と との 型	できない現象をによる。 たときに、位 ポコニンとが反射率とをできる。 なたとうがでする。 なたとうがでする。 ないでの反射率とをできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 ででできる。 ででできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 ででできる。 ででできる。 ででででででできる。 ででできる。 でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	のある教員による授業 空理解する。 合ける電子軌道の式を 一次動関数の解釈を説 位置の期待値を計算す 中の電子の波動関数と 一、透過率を計算するこ 会別の表したシネル効果 のででは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は
授業の[] アクラ	ラィブラ・	の成縁  でタング   週  1週  2週  3週  4週  5週  6週  7週  8週  9週  10週  11週	に置きかえて再評分	価を行う。  界  三型 ・一方程式と波動関数の  「 ・ヤル ・問題 ・現象 ・度試験 ・ を光速度不変の原理 ・ 対性 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	□ 遠隔授業対応	をの到すで、 物では、 で記をがでいれて、 で記をがでいれて、 で記をがでいれて、 で記をがでいれて、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、	できない現象をによる。 たときに、ないようでである。 れたときに、ないようでの反射率とをできる。 なたとうがの見ができる。 ないである。 ないである。 ないである。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないでできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。	のある教員による授業 空理解する。 合ける電子軌道の式を 一次動関数の解釈を説 位置の期待値を計算す 中の電子の波動関数と 一透過率を計算するこ 急現象とトンネル効果 同理を説明することが 動に理解する。
授業の[] アクラ	ラィブラ・	の成縁  でタング    週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   9週   10週   11週   12週   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   12』   1	に置きかえて再評分	価を行う。  現  ア  ア  ア  ア  ア  ア  ア  ア  ア  の  の  の  の	□ 遠隔授業対応 □ 遠隔授業対応 □ □ 世界 □ □ □ 世界	との理がでしる関とにル型で元明論相るとした。 物アすしる関とにル型で元明論を関すて説といがでいーテる散る野性をといが与き井をいる。 乱こと 達理の変のでいる。 見めれる としか離が がんしょう しょう しょう しょう はいかん はいかん といかん はいかん はいかん といかん はいかん といかん はいかん といかん はいかん といかん はいかん といかん はいかん といかん はいかん はいかん はいかん はいかん はいかん はいかん はいかん は	□ 実務経験 できない現象を にきますの構造と れたときに、位 ポることが反射率と をできる。 れたとうが反射率と をできる。 性について理解する。 といいて変である。	のある教員による授業 で理解する。 おける電子軌道の式を 一次動関数の解釈を説 位置の期待値を計算す でである。 一次の電子の波動関数と 一の電子の波動関数と 一次過率を計算することが 高現象とトンネル効果 同理を説明することが 最的に理解する。 こことを理解する。
授業の □ アクラ 授業計	声ィブラ・ 画 3rdQ	の成縁  でタング    週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   9週   10週   11週   12週   13週   13月   1	に置きかえて再評分	価を行う。  現  ア  ア  ア  ア  ア  ア  ア  ア  ア  の  の  の  の	図 遠隔授業対応 週ご 東 ボ導 ショ 渡る 下 は かん を 子 好き 日 ロー 世 野 重 重	と 物 アす レる 関と にル 型で 元明 論 相る と レ 距 して で で のす かって がで いー テる 散る 野性 で で で で で で で で で で で で で で で で いっこる 散る 野性 で で で で で で で で いー テる 散る 野性 さ ツ が いっこう 音 中求 シ の 寛 理 の 変 ロ っち で で つ で の 変 ロ る 時 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	□ 実務経験 できない現象をにかまる。 にかる。 方るこれたととうが反射をできる。 れたとことが反して、位がまるでは、ではまるでは、ではまるではます。 をできるでは、ではまるではます。 性にいて変な。 性にいて変な。 性にいて変な。	のある教員による授業 で理解する。 おける電子軌道の式を と波動関数の解釈を説 位置の期待値を計算す の電子の波動関数と と透過率を計算することが 意現象とトンネル効果 意理を説明することが 動的に理解する。 ないことを理解する。 のに理解する。
授業の □ アクラ 授業計i	声ィブラ・ 画 3rdQ	の成縁  でタング    週   1週   1週   13週   13週   13週   13週   14週   13週   14週	に置きかえて再評分	価を行う。  「界」 「一方程式と波動関数の」 「 でヤル」 「問題 ・現象 ・度試験 ・など、迷皮を不変の原理 「対性 ・レンツ変換 ・計の遅れ	図 遠隔授業対応 週ご 声が 一	と物アすレる関とにル型で元明論相るとレ 距し相ののでででは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのではでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーの	□ 実務経験  できない現象を にかまる。 におまる。 おたととうが反して。 ないのして。 で度を確度でいて理変を をできる。 ないがあり、はいでは をできる。 ないがられたとうがない。 ないでは ないがられた。 はいいのでは ないでは ないのでは ないので	のある教員による授業 で理解する。 おける電子軌道の式を と波動関数の解釈を説 位置の期待値を計算す の電子の波動関数と と透過率を計算するこ 意現象とトンネル効果 に理解する。 動に理解する。 のに理解する。 のに理解する。 のに理解する。
授業の □ アクラ 授業計i	声ィブラ・ 画 3rdQ	の成縁  でタング    週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   10週   112週   112週   113週   113週   115週   115列	に置きかえて再評分	価を行う。  「界」 「一方程式と波動関数の」 「 でヤル」 「問題 ・現象 ・度試験 ・など、迷皮を不変の原理 「対性 ・レンツ変換 ・計の遅れ	図 遠隔授業対応 週ご 声が 一	と物アすレる関とにル型で元明論相るとレ 距し相ののでででは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのではでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーの	□ 実務経験 できない現象をにかまる。 にかる。 方るこれたととうが反射をできる。 れたとことが反して、位がまるでは、ではまるでは、ではまるではます。 をできるでは、ではまるではます。 性にいて変な。 性にいて変な。 性にいて変な。	のある教員による授業 で理解する。 おける電子軌道の式を と波動関数の解釈を説 位置の期待値を計算す の電子の波動関数と と透過率を計算するこ 意現象とトンネル効果 に理解する。 はのに理解する。 のに理解する。 のに理解する。 のに理解する。
授業の □ アクラ 授業計 後期	更 ardQ 4thQ	の成縁  でタング    週   1週   1週   13週   13週   13週   13週   14週   13週   14週	に置きかえて再評分	価を行う。  「界」 「一方程式と波動関数の」 「 でヤル」 「問題 ・現象 ・度試験 ・など、迷皮を不変の原理 「対性 ・レンツ変換 ・計の遅れ	図 遠隔授業対応 週ご 声が 一	と物アすレる関とにル型で元明論相るとレ 距し相ののでででは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのではでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーの	□ 実務経験  できない現象を にかまる。 におまる。 おたととうが反して。 ないのして。 で度を確度でいて理変を をできる。 ないがあり、はいでは をできる。 ないがられたとうがない。 ないでは ないがられた。 はいいのでは ないでは ないのでは ないので	のある教員による授業 で理解する。 おける電子軌道の式を と波動関数の解釈を説 位置の期待値を計算す の電子の波動関数と る。 と透過率を計算することが 意現象とトンネル効果 に理解する。 る。 る。 はことを理解する。 のに理解する。 のに理解する。 のに理解する。
授業の □ アクラ 授業計 後期	更 ardQ 4thQ	の成縁  でタング    週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   10週   112週   112週   113週   113週   115週   115列	に置きかえて再評分	価を行う。  「界」 「一方程式と波動関数の」 「 でヤル」 「問題 ・現象 ・度試験 ・など、迷皮を不変の原理 「対性 ・レンツ変換 ・計の遅れ	図 遠隔授業対応 週ご 声が 一	と物アすレる関とにル型で元明論相るとレ 距し相ののでででは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのではでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーの	□ 実務経験  できない現象を にかまる。 におまる。 おたととうが反して。 ないのして。 で度を確度でいて理変を をできる。 ないがあり、はいでは をできる。 ないがられたとうがない。 ないでは ないがられた。 はいいのでは ないでは ないのでは ないので	のある教員による授業 で理解する。 おける電子軌道の式を と波動関数の解釈を説 位置の期待値を計算す の電子の波動関数と と透過率を計算するこ 意現象とトンネル効果 に理解する。 動に理解する。 のに理解する。 のに理解する。 のに理解する。
授業の □ アクラ 授業計 後期	更 ardQ 4thQ	の成縁  でタング    週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   10週   112週   112週   113週   113週   115週   115列	に置きかえて再評分	価を行う。  「界」 「一方程式と波動関数の」 「 でヤル」 「問題 ・現象 ・度試験 ・など、迷皮を不変の原理 「対性 ・レンツ変換 ・計の遅れ	図 遠隔授業対応 週ご 声が 一	と物アすレる関とにル型で元明論相るとレ 距し相ののでででは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのではでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーの	□ 実務経験  できない現象を にかまる。 におまる。 おたととうが反して。 ないのして。 で度を確度でいて理変を をできる。 ないがあり、はいでは をできる。 ないがられたとうがない。 ないでは ないがられた。 はいいのでは ないでは ないのでは ないので	のある教員による授業 で理解する。 おける電子軌道の式を と波動関数の解釈を説 位置の期待値を計算す の電子の波動関数と と透過率を計算するこ 意現象とトンネル効果 に理解する。 動に理解する。 のに理解する。 のに理解する。 のに理解する。
授業の「 □ アクラ 授業計「 後期	画 3rdQ 4thQ	の成縁   で   で   で   で   で   で   で   で   で   で	に置きか   図 ICT 利用   授業内容   古典物理学の限   ボーアの   ブール   での   サアの   サアの   サア   での   での   での   での   での   での   での   で	価を行う。  「中ル」 問題 現象 に度試験 と光速度不変の原理 対性 レンツ変換 計の遅れ ・ーの同等性	図 遠隔授業対応 週ご 声が 一	と物アすレる関とにル型で元明論相るとレ 距し相ののでででは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのではでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーの	□ 実務経験  できない現象を にかまる。 におまる。 おたととうが反して。 ないのして。 で度を確度でいて理変を をできる。 ないがあり、はいでは をできる。 ないがられたとうがない。 ないでは ないがられた。 はいいのでは ないでは ないのでは ないので	のある教員による授業 で理解する。 おける電子軌道の式を 一次動関数の解釈を説 位置の期待値を計算す 中の電子の波動関数と 一透過率を計算することが 最初象とトンネル効果 同理を説明することが 最的に理解する。 ることを理解する。 りに理解する。 りに理解する。 りに理解する。 りに理解する。 りに理解する。
授業の原 アクラ 授業計 (	声ィブラー 画 3rdQ 4thQ	の成縁   の区   のの区   ののE	に置きか 図 ICT 利用    授業 内理 の限 ボーン・	価を行う。  「 中 ル 問題 現象 度試験 と 光速度不変の原理 対性 レンツ変換 計の遅れ  「 課題レポート	図 遠隔授業対応 週 古 ボ導 シ明 滅る 照工 階と かまる 開子 段 かまる 子 野 で 間 口 世 運 特 質 質 要 死 質 質 要 死 質 質 要 死 質 買 要 死 質 買 要 死 質 買 要 死 質 買 要 死 質 買 要 死 質 買 要 死 質 買 要 死 質 買 要 死 質 買 要 死 質 買 要 死 質 買 要 死 質 買 要 死 質 買 事 死 質 買 事 死 質 買 事 死 質 買 事 死 質 買 事 死 質 買 事 死 質 買 事 死 質 買 事 死 質 買 事 死 質 買 事 死 質 買 事 死 質 買 事 死 質 買 事 死 質 買 事 死 質 買 事 死 質 買 事 死 質 買 事 死 質 買 事 死 質 買 事 死 質 買 事 死 質 買 事 死 可 可 取 事 か 買 更 死 可 可 取 事 か 買 更 死 可 可 取 事 か 買 更 死 可 可 取 事 か 買 更 死 可 可 取 事 か 買 更 死 可 可 取 事 か 買 更 死 可 可 取 事 か 買 更 ア で に か す か す か す か す か す か す か す か す か す か	と物アすレる関とにル型で元明論相るとレ 距し相ののでででは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのではでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーの	□ 実務経験 できない現象を にき方る。れたといか反に、 がること、こか反に、 できなを れたといか反に、 できなと、 ことのしる。 になってでは いですると ででするの にはいいでを ででする のでででは のでででする ででする ででする ででする ででする ででする ででする でで	のある教員による授業  で理解する。 おける電子軌道の式を と波動関数の解釈を説 立置の期待値を計算す 中の電子の波動関数と と透過率を計算すること 意現象とトンネル効果 に理解する。 ないに理解する。 はいに理解する。
授業のI □ アク <del>:</del>	画 ardQ 4thQ 合 割合 カ	の成縁  でタング    週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   9週   10週   11週   12週   13週   14週   15週   16週   16週   16週   16週	に置きかえて、再評分	価を行う。  「PR」 「PR」 「PR」 「PR」 「PR」 「PR」 「PR」 「PR	図 遠隔授業対応 週ご 声が 一	と物アすレる関とにル型で元明論相るとレ 距し相ののでででは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのではでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーのでは、アカーの	□ 実務経験  できない現象を にき方る。 れいる。 まったといか反しる。 まったといか反しる。 まったといか反しる。 まったといか反しる。 まったといか反しる。 まったといか反しる。 まったといか反しる。 まったといかです。 はったいではった。 はったいではったいではった。 はったいではったいではった。 はったいではったいではった。 はったいではったいではった。 はったいではったいではった。 はったいではったいではった。 はったいではったいではったいではった。 はったいではったいではったいではったいではったいではったいではったいではったいで	のある教員による授業 で理解する。 おける電子軌道の式を と波動関数の解釈を説 位置の期待値を計算す の電子の波動関数と と透過率を計算するこ 意現象とトンネル効果 に理解する。 はに理解する。 はに理解する。 はに理解する。 はに理解する。 はに理解する。 はに理解する。 はは、理解する。 はは、理解する。 はは、理解する。 はは、は、ないに理解する。 は、は、ないに理解する。 は、は、ないに理解する。 は、は、ないに理解する。 は、は、ないに理解する。 は、は、ないに理解する。 は、は、ないに理解する。 は、は、ないに理解する。 は、は、ないに理解する。 は、は、ないに理解する。 は、は、ないに理解する。 は、は、ないに理解する。 は、は、ないに理解する。 は、は、ないに理解する。 は、は、ないに理解する。 は、は、ないに理解する。 は、は、ないに理解する。 は、は、ないに理解する。 は、は、ないに理解する。 は、は、ないに理解する。 は、は、ないに理解する。 は、は、ないに理解する。 は、は、ないに理解する。 は、は、ないに理解する。 は、は、ないに理解する。 は、は、は、ないに理解する。 は、は、は、ないに理解する。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、

<b>芒</b> 小蝌		等専門学校	開講年度	令和05年度 (2	 n23年度\	授	業科目	
科目基礎		<del>」、「一一八人</del>		13和03平皮(2	.025年度)	1 1X	*170	
科目番号		0085			科目区分		一般 / 必修	<u> </u>
授業形態		授業			単位の種別と単	 位数	履修単位:	
開設学科			斗(一般科目)		対象学年		4	
開設期		通年			週時間数		2	
教科書/教	 材	『日本語館	能力試験 模試と対	策N2』、『日本語	総まとめ』シリ-	ーズ(ア	ブルク出版)	、その他授業中に指示
担当教員		時田 紗緒	里,平野 摂子					
到達目標	Ē							
2、日本で	生活する上	本語能力を身 で必要な文化	につける ら的知識を身につけ	る				
ルーブリ	リツク		四相的人不以去!			***!		ナがましいより口点
1 NI2△‡′	タ担当のロー	本語能力を身	理想的な到達レイ	ンルの日女  本語能力が十分身	標準的な到達レーN2合格相当のE			未到達レベルの目安 N2合格相当の日本語能力が身につ
につける	が旧当りログ	半品化力で分	についている	1本品化力力、1 力分	についている	1个品形	7J/J.4M49 <del>3</del>	いていない
2、自分の 現すること	意見を適切 こができる	に日本語で表		辺に日本語で表現 里解してもらうこ	自分の意見を日 意図を相手に伝	本語で表	₹現し概ね ≤ができる	自分の意見を適切に日本語で相手 に伝えることができない
学科の到	」達目標項	目との関係	<del></del>					
I 人間! Ⅱ 実践! Ⅲ 国際!	生 1 I / 生 2 II 身 生 3 III 目	し間性 長践性 国際性						
教育方法	等	1			-			
概要		本科目は留し、N 2名 させること えられるが	留学生履修科目であ 合格相当の力を身に とを目指し、N2試 りを身につけること	る。日本語能力試験ではなる。日本語能力試験ではなることを関して問題が である。 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	験(JLPT)N 目的とする。読む 寅習と解説を行う	3取得者 、書く、 。また、	が、もしくは 話す、聞い 自らの意見	は同等の能力を有する留学生を対象と く、四技能をバランスよく身につけ 見を適切な日本語で表現し相手に伝
授業の進め	方・方法	・授業は、 ・会話練習	『日本語能力試験 習を行うことがある	♥ 模試と対策 N2				
注意点		・成績は、	は外国人留学生に限 授業内課題70%、 ご達しない場合は再	定する。 会話練習を含めた 評価を行うことがる	授業への取り組み ある。再評価の場	→方30% 合は上	の総合評価 限を60点と	ī。60点以上を合格とする。 する。
		<u>と上の区分</u>			1			
☑ アクテ	ィブラーニ	ング	☑ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応	<u>5</u>		□ 実務経験のある教員による授業
14271K= 1 —								
授業計画	<u> </u>	<u> </u>	₩ <b>₩</b> ₩			\⊞ →" ·	クシャンキュー	
		1	<u>受業内容</u> イントロダクション	, 白口切介			の到達目標で自分や自	 国のことを説明できる
				7、日G箱开				<u>国のことを説明できる</u> に対して適切に日本語で意見を表明
		2週	日常で触れる文章			するこ	とができる	にかり、した過少に日本品で思兄で衣明
		3週 [	日常で触れる文章			するこ	与えられたテーマに対して適切に日本語ですることができる	
		4週	日常で触れる文章				れたテーマ とができる	に対して適切に日本語で意見を表明
	1stQ	5週 [	日常で触れる文章			するこ	とができる	
		6週 [	日常で触れる文章			すると	ともに、相	に対して適切に日本語で意見を表明 手に理解してもらうことができる。 を理解することができる。
		7週	N2模試 演習と解	 説 文法		聞いて	内容を理解	問題についての問題を解き、解説をすることができる。
前期		8週	N 2模試① 演習と	解説 文法			式の文法に1 解すること	ついての問題を解き、解説を聞いて内 ができる。
רוּצוּ		9週	N2模試① 演習と	二解説 語彙		N2模i		Oいての問題を解き、解説を聞いて内
		10週	N2模試① 演習と	二解説 語彙		いて内	容を理解す	問題についての問題を解き、解説を聞ることができる。
		11週	N2模試① 演習と	解説 長文読解				解についての問題を解き、解説を聞い ことができる。
	2ndQ	12週	N 2模試① 演習と	解説 長文読解		N 2模i	式の長文読館	ーニルでこと。 解についての問題を解き、解説を聞い ことができる。
		13週	N 2模試① 演習と	解説 長文読解		て内容	を理解する	解についての問題を解き、解説を聞いことができる。
			N 2模試① 演習と			て内容	を理解する	解についての問題を解き、解説を聞い ことができる。 解についての問題を解き、解説を聞い
		15週	N 2模試① 演習と	解説 長文読解				解についての問題を解き、解説を聞い ことができる。
		16週						
後期	3rdQ	1週	N2模試① 演習と	解説 聴解		容を理	解すること	
.~/43	J. 3.4	2週	N 2模試① 演習と	解説 聴解			式の聴解に1 解すること	ついての問題を解き、解説を聞いて内 ができる。

	3週	N2模試① 演習と解説	聴解		N2模試の聴解につ 容を理解することが	いての問題を解き、解説を聞いて内ができる。
	4週	N2模試② 演習と解説	文法		N 2 模試の文法の問 聞いて内容を理解す	問題についての問題を解き、解説を することができる。
	5週	N2模試② 演習と解説	文法		N2模試の文法につ 容を理解することが	いての問題を解き、解説を聞いて内ができる。
	6週	N2模試② 演習と解説	語彙		N2模試の語彙につ 容を理解することが	いての問題を解き、解説を聞いて内ができる。
	7週	N2模試② 演習と解説	語彙		N2模試の語彙の問いて内容を理解する	題についての問題を解き、解説を聞 ることができる。
	8週	N2模試② 演習と解説	長文読解		N2模試の長文読解 て内容を理解するこ	についての問題を解き、解説を聞いことができる。
	9週	N2模試② 演習と解説	長文読解		N2模試の長文読解 て内容を理解するこ	についての問題を解き、解説を聞い ことができる。
	10週	N2模試② 演習と解説	長文読解		N2模試の長文読解 て内容を理解するこ	についての問題を解き、解説を聞い ことができる。
	11週	N2模試② 演習と解説	長文読解		N2模試の長文読解 て内容を理解するこ	についての問題を解き、解説を聞い ことができる。
4thQ	12週	N2模試② 演習と解説	長文読解		N2模試の長文読解 て内容を理解するこ	についての問題を解き、解説を聞い ことができる。
	13週	N2模試② 演習と解説	聴解		N2模試の聴解につ 容を理解することが	いての問題を解き、解説を聞いて内ができる。
	14週	N2模試② 演習と解説	聴解		N2模試の聴解につ 容を理解することが	いての問題を解き、解説を聞いて内ができる。
	15週	N2模試 総まとめ			N2模試を実践形式	で時間内に解くことができる
	16週					
評価割合						
		授業内課題		授業参加(会話	練習を含む)	合計
総合評価割合		70		30		100
基礎的能力		70		30		100

		等専門学校	開講年度 令和05年度 (2		授業科目	数学特別講義	
科目基	礎情報			<del>-</del>			
科目番号		0086		科目区分		一般 / 選択	
授業形態		授業		単位の種別と単位数	学修単位:	2	
開設学科			1(一般科目)	対象学年	4		
開設期		後期		週時間数	2		
教科書/教		桜井基晴	編入数学徹底研究」(聖文新社)/	自作プリント			
担当教員		藤島 勝弘					
到達目	標						
2.2変3.行列 4.確率	数の微分, , 行列式及 及びその応	<b>積分及びその点</b>	5用問題を解くことができる。 5用問題を解くことができる。 夏を解くことができる。 ことができる。				
ルーブ	リック		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベル		未到達レベルの目安	
評価項目	1		1変数の微分,積分及びその応用 問題を8割以上解くことができる 。	1変数の微分,積分 問題を6割以上解く 。	ことができる	1変数の微分,積分及びその応用問題を6割以上解くことができない。	
評価項目	2		2変数の微分,積分及びその応用 問題を8割以上解くことができる 。	2変数の微分,積分 問題を6割以上解く	及びその応用 ことができる	2変数の微分,積分及びその応用問題を6割以上解くことができない。	
評価項目	3		ベクトル,行列,行列式及びその 応用問題を8割以上解くことがで きる。	ベクトル,行列,行 応用問題を6割以上 きる。	列式及びその 解くことがで	ベクトル,行列,行列式及びその 応用問題を6割以上解くことがで きない。	
評価項目	4		確率及びその応用問題を8割以上 解くことができる。	確率及びその応用問 上解くことができる		確率及びその応用問題を6割以上解くことができない。	
学科の	到達目標	項目との関係	Ŕ				
Ⅱ 実践		人間性 実践性 国際性					
		微分積分学	・ (1 亦粉の) と は 人 一		- <del> </del>		
概要		)、確率に 	でついて,1年~3年で学んだ内容を 	積分、微分方程式、複 復習するとともに,そ 	!素関数)、線 <del> </del> :れぞれの分野( 	ド代数学(ベクトル、行列、行列式 こついて発展的な内容を学習します 	
	め方・方法	)、確率に 。 授業は講義 基礎的事項 事前・事後	一ついて, 1年~3年で学んだ内容を 形式で行い、適宜演習を行います。 を確認した上で、主に大学偏入学試 学習として課題を課します。課題及	復習するとともに,そ 験に出題された問題の び定期試験の準備のだ	れぞれの分野( 	こついて発展的な内容を学習します の自学自習時間が必要です。	
授業の進	め方・方法	)、確率に ・ 授業は講事 ・ 接続的・事の ・ のはのは、 ・ ・ 交業が ・ ・ である。	こついて,1年~3年で学んだ内容を 	復習するとともに, そ 験に出題された問題の び定期試験の準備のだ み、授業内容を復習し 総合して評価します。	:れぞれの分野( )解説をします。 :め、60時間の :た上で授業に関	こついて発展的な内容を学習します の自学自習時間が必要です。 塩んで下さい。	
授業の進 注意点		)、確率に ・ 授業は講事 ・ 接続的・事の ・ のはのは、 ・ ・ 交業が ・ ・ である。	でいて、1年~3年で学んだ内容を 形式で行い、適宜演習を行います。 を確認した上で、主に大学偏入学試 学習として課題を課します。課題及 理が必要で・事前に課題に取り組 定期試験60%、課題など40%を で別試験60点未満のものに対して再	復習するとともに, そ 験に出題された問題の び定期試験の準備のだ み、授業内容を復習し 総合して評価します。	:れぞれの分野( )解説をします。 :め、60時間の :た上で授業に関	こついて発展的な内容を学習します の自学自習時間が必要です。 塩んで下さい。	
授業の進 注意点 授業の		)、確率に ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	でいて、1年~3年で学んだ内容を 形式で行い、適宜演習を行います。 を確認した上で、主に大学偏入学試 学習として課題を課します。課題及 習が必要で・事前に課題に取り組 定期試験60%、課題など40%を で成績が60点未満のものに対して再	復習するとともに, そ 験に出題された問題の び定期試験の準備のだ み、授業内容を復習し 総合して評価します。	:れぞれの分野( )解説をします。 :め、60時間の :た上で授業に関	こついて発展的な内容を学習します の自学自習時間が必要です。 塩んで下さい。	
受業の進 注意点 <b>受業の</b> 」アク:	属性・履	)、確率に ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	でいて、1年~3年で学んだ内容を形式で行い、適宜演習を行います。 を確認した上で、主に大学偏入学試学習として課題を課します。課題及習が必要です。事前に課題に取り組定期試験60%、課題など40%を認の成績が60点未満のものに対して再合で再評価を行います。	復習するとともに、そ 験に出題された問題の び定期試験の準備のた み、授業内容を復習し 総合して評価します。 試験を実施する場合か	:れぞれの分野( )解説をします。 :め、60時間の :た上で授業に関	こついて発展的な内容を学習します の自学自習時間が必要です。 臨んで下さい。 合、再試験50%,特別レポート	
受業の進 注意点 <b>受業の</b> 」アク:	属性・履	)、確率に ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	でいて、1年~3年で学んだ内容を形式で行い、適宜演習を行います。 を確認した上で、主に大学偏入学試学習として課題を課します。課題及習が必要です。事前に課題に取り組定期試験60%、課題など40%を認の成績が60点未満のものに対して再合で再評価を行います。	復習するとともに、そのでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	:れぞれの分野( )解説をします。 :め、60時間の :た上で授業に関	ごついて発展的な内容を学習します  の自学自習時間が必要です。  為んで下さい。  合、再試験50%,特別レポート  □ 実務経験のある教員による授	
受業の進 注意点 <b>受業の</b> 」アク:	属性・履	)、確率に 授業は講事 接続 事前・ 毎回績は 表 の 例 の 子・ 成業 成 割 修上の区分 ニング	でいて、1年~3年で学んだ内容を 形式で行い、適宜演習を行います。 を確認した上で、主に大学偏入学試 学習として課題を課します。課題及 学習が必要です。事前に課題に取り組 定期試験60%、課題など40%を で成績が60点未満のものに対して再 合で再評価を行います。	復習するとともに、そのでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	がある。この場 ごとの到達目標	ごついて発展的な内容を学習します  の自学自習時間が必要です。  為んで下さい。  合、再試験50%,特別レポート  □ 実務経験のある教員による授	
受業の進 注意点 <b>受業の</b> 」アク:	属性・履	(の)	でついて、1年~3年で学んだ内容を形式で行い、適宜演習を行います。 東を確認した上で、主に大学偏入学試 大学習として課題を課します。課題及 と学習が必要です。事前に課題に取り組 定期試験60%、課題など40%を での成績が60点未満のものに対して再 会で再評価を行います。 ☑ ICT 利用	復習するとともに、そのでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	がある。この場でとの到達目標ののでは、 では、60時間のでは、100円ででででででいます。 では、60時間のでは、100円ででででできます。 では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、100円では、	こついて発展的な内容を学習します  の自学自習時間が必要です。  塩んで下さい。  合、再試験50%,特別レポート  □ 実務経験のある教員による授業	
受業の進 主意点 受 <b>業</b> の	属性・履	<ul> <li>、確率に</li> <li>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>	でいて、1年~3年で学んだ内容を形式で行い、適宜演習を行います。 を確認した上で、主に大学偏入学試 学習として課題を課します。課題及 習が必要です。事前に課題に取り組 定期試験60%、課題など40%を の成績が60点未満のものに対して再 合で再評価を行います。	復習するとともに、そのでは、一般に出題された問題のでで定期試験の準備のない。 授業内容を復習し、 授業内容を復習し、 記試験を実施する場合がは、 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」	がある。この場でとの では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	ででは、 の自学自習時間が必要です。 なんで下さい。 合、再試験50%,特別レポート □ 実務経験のある教員による授業 解くことができる。	
受業の進 主意点 受 <b>業</b> の	属性・履 ティブラー: 画	<ul> <li>、確率に</li> <li>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>	でいて、1年~3年で学んだ内容を 形式で行い、適宜演習を行います。 を確認した上で、主に大学偏入学試 を確認した上で、主に大学偏入学試 学習として課題を課します。課題及 習が必要です。事前に課題に取り組 定期試験60%、課題など40%を での成績が60点未満のものに対して再 合で再評価を行います。	復習するとともに、そのでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	がある。この場でとのでは、 では、60時間では、た上で授業には、60時間では、た上で授業にはである。この場である。この場である。この場では、100元用問題をは、100元用問題をは、100元用問題をは、100元用問題をは、100元用問題をは、100元用問題をは、100元用問題をは、100元用問題をは、100元用問題をは、100元用問題をは、100元用問題をは、100元用問題をは、100元用問題をは、100元用問題をは、100元用問題をは、100元用問題をは、100元用問題をは、100元用問題をは、100元用問題をは、100元用問題をは、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円には、100元円	ででは、 の自学自習時間が必要です。 ないで下さい。 合、再試験 5 0 %, 特別レポート □ 実務経験のある教員による授業 解くことができる。 題を解くことができる。	
受業の進 主意点 受 <b>業</b> の	属性・履	<ul> <li>(本)</li> <li>(本)</li> <li>(本)</li> <li>(本)</li> <li>(を)</li> <li>(を)</li></ul>	でいて、1年~3年で学んだ内容を記して、1年~3年で学んだ内容を記した上で、主に大学偏入学試を確認した上で、主に大学偏入学試学習として課題を課します。課題及まず必要では、課題など40%を定期試験60%、課題など40%をでの成績が60点未満のものに対して再合で再評価を行います。	復習するとともに、そのでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	がおる。この場でよりの応用問題 責分の応用問題 責分の応用問題	ででは、 できる。	
受業の進 注意点 <b>受業の</b> 」アク:	属性・履 ティブラー: 画	<ul> <li>(本)</li> <li>(本)</li> <li>(本)</li> <li>(本)</li> <li>(を)</li> <li>(を)</li></ul>	でいて、1年~3年で学んだ内容を記して、1年~3年で学んだ内容を記した上で、主に大学偏入学試を確認した上で、主に大学偏入学試学習として課題を課します。課題及認知が多くのが、課題など40%をでの成績が60点未満のものに対して再合で再評価を行います。  ② ICT 利用  ② ICT 利用  ② ICT 利用	復習するとともに, そ	がある。この場では一般では、 がある。この場では、 でとの到達目標がある。この場では、 でとの到達目標がある。この場では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	ででは、 できる。	
受業の進 注意点 <b>受業の</b> 」アク:	属性・履 ティブラー: 画	<ul> <li>・ では は できる できる できます できます できます できます できます できます できます できます</li></ul>	でいて、1年~3年で学んだ内容を記して、1年~3年で学んだ内容を記した上で、主に大学偏入学試を確認した上で、主に大学偏入学試学習として課題を課します。課題及認知が多60%、課題に取り組定期試験60%、課題など40%をごの成績が60点未満のものに対して再合で再評価を行います。  ② ICT 利用  ② ICT 利用	復習するとともに、そのでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	が表る。この場ではののでは、 がある。この場では、 でとの到達目標では、 では、 でとの到達目標では、 での応用問題をは、 での応用問題をは、 での応用問題をは、 でのの応用問題をは、 でののでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでので	こついて発展的な内容を学習します  の自学自習時間が必要です。  高んで下さい。  合、再試験 5 0 %, 特別レポート  □ 実務経験のある教員による授  解くことができる。  題を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。	
受業の進主意点 受業の アクラー 受業計	属性・履 ティブラー: 画	<ul> <li>(本)</li> <li>(本)</li> <li>(本)</li> <li>(を)</li> <li>(を)</li></ul>	でいて、1年~3年で学んだ内容を 形式で行い、適宜演習を行います。 東を確認した上で、主に大学偏入学試 大学習として課題を課します。課題及 と習が必要です。事前に課題に取り 定期試験60%、課題など40%を での成績が60点未満のものに対して再 合で再評価を行います。 図 ICT 利用 のは を業内容 な分法 に積分 に積分 に積分 に積分 に積分 に積分 に積分 に積分	復習するとともに、、そのでは、、そのでは、、そのでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、この	がある。この場ではののでは、 では、60時間では、60時間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年間では、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年には、10年	ででは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	
受業の進 主意点 受業の ファクラ	属性・履 ティブラー: 画	<ul> <li>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>	でいて、1年~3年で学んだ内容を記して、1年~3年で学んだ内容を記した上で、主に大学偏入学試を確認した上で、主に大学偏入学試学習として課題を課します。課題及定期が必要です。事前に課題に取り組定期試験60%、課題など40%をつからのに対して再合で再評価を行います。  ② ICT 利用	復習するとともに、、そのでは、、そのでは、、そのでは、というでは、では、では、というでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	がでれの分野(の解説をします。)を 60時間の 10 で 10	こついて発展的な内容を学習します  D自学自習時間が必要です。  高んで下さい。  合、再試験 5 0 %, 特別レポート  以表別を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。	
受業の進主意点 受業の アクラー 受業計	属性・履 ティブラー: 画	<ul> <li>(を) は (を) では (を) では</li></ul>	でいて、1年~3年で学んだ内容を記して、1年~3年で学んだ内容を記した上で、主に大学偏入学試を確認した上で、主に大学偏入学試学習として課題を課します。課題及認め必要によるののでは、10%を10%を10%を10%を10%を10%を10%を10%を10%を10%を	復習するとともに、、そのでは、、そのでは、、そのでは、、そのでは、は、では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	が成れの分野(の解説をします。との、60時間のた用間の応用問題を対象の応用問題を対象の応用問題を対象の応用問題を対象の応用問題を対象の応用問題を対象の応用問題を対象の応用問題を対象の応用問題を対象の応用問題を対象の応用問題を対象の応用問題を対象の応用問題を対象の応用問題を対象の応用問題を対象の応用問題を対象の応用問題を対象の応用問題を対象の応用問題を対象の応用問題を対象の応用問題を対象の応用問題を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を	ででできる。 を解くことができる。	
受業の進主意点 受業の アクラー 受業計	属性・履 ティブラー: 画	<ul> <li>(を) (を) (を) (を) (を) (を) (を) (を) (を) (を)</li></ul>	でいて、1年~3年で学んだ内容を記して、適宜演習を行います。 を確認した上で、主に大学偏入学試を確認した上で、主に大学偏入学試を習として課題を課します。 課題及 認力 の	復習するとともに、、 ・	・れぞれの分野( )解説をします。 とめ、60時間の た上で授業に思いる。この場 ごとの到達国題に 計分の応用問題 責分の応用問題題 数分の応用問題題 数分の応用問題題 対分の応用問題題 対分の応用問題を 数分の応用問題 対分の応用問題 対分の応用問題 対分の応用問題 対分の応用問題 対分の応用問題 対力の応用問題 対力の応用問題 対力の応用問題 対力の応用問題	ででは、 できる。   を解くことができる。	
受業の進主意点 受業の アクラー 受業計	属性・履 ティブラー: 画 3rdQ	<ul> <li>(本)</li> <li>(本)</li> <li>(本)</li> <li>(本)</li> <li>(を)</li> <li>(を)</li></ul>	でいて、1年~3年で学んだ内容を記して、1年~3年で学んだ内容を記した上で、主に大学偏入学試を確認した上で、主に大学偏入学試学習として課題を課します。課題及認定期試験60%、課題など40%を認め成績が60点未満のものに対して再合で再評価を行います。  ② ICT 利用	復習するとともに、そ 験に出題された問題の び定期試験の準備のた みに受けいででは、 総合して表す。 総合して表す。 に試験を実施する場合が では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	が成れの分野( 解説を10時間の にとめ、60時間の にとい、60時間の にとい、60時間の にとい、60時間の にとい、60時間の にとい、60時間の でとの到達目題 でとの到達目題間 ではかの応用問題題 を数分の応用問題題 数分の応用問題題 数分の応用問題題 数分の応用問題題 数分の応用問題題 数分の応用問題題 数分の応用問題題 数分の応用問題題 数分の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題題 対力の応用問題	でいて発展的な内容を学習しますの自学自習時間が必要です。 高んで下さい。 合、再試験 5 0 %, 特別レポート □ 実務経験のある教員による授業 解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。	
受業の進主意点 受業の アクラ	属性・履 ティブラー: 画	<ul> <li>(本)</li> <li>(本)</li> <li>(本)</li> <li>(本)</li> <li>(を)</li> <li>(を)</li></ul>	でいて、1年~3年で学んだ内容を記して、直直演習を行います。 また で	復習するとともに, そ	でれてれの分野( が解説を 0 時間の が 6 0 時間の で との到達目題 自分の応用問題題 を 2 0 の応用問題題 を 3 0 分の応用問題題 を 3 0 分の応用問題を を 3 0 分の応用問題を 6 0 分の応用に 6 0 分の応用に 7 0 分の応用に 7 0 分の応用に 7 0 分の応用に 8 0 分のを 8 0 分のに 8 0	でいて発展的な内容を学習しますの自学自習時間が必要です。 高んで下さい。 合、再試験 5 0 %, 特別レポート □ 実務経験のある教員による授業 解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。	
受業の進注意点   授業の   授業計	属性・履 ティブラー: 画 3rdQ	<ul> <li>(本)</li> <li>(本)</li> <li>(本)</li> <li>(本)</li> <li>(を)</li> <li>(を)</li></ul>	一ついて、1年~3年で学んだ内容を記して、直直演習を行います。記を確認した上で、主に大学偏入学試を発習として課題を課します。課題及認知必要です。事前に課題に取り給を記念がある。   「と	復習するとともに、 そ	・れぞれの分野( が解説を10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、	ででできる。 を解くことができる。	
授業の進注意点 授業の アクラ	属性・履 ティブラー: 画 3rdQ	<ul> <li>(本)</li> <li>(本)</li> <li>(本)</li> <li>(本)</li> <li>(を)</li> <li>(を)</li></ul>	一ついて、1年~3年で学んだ内容を記して、直直演習を行います。 京を確認した上で、主に大学偏入学試学習として課題を課します。課題及語で対して課題を10%を認めたる。 事前に課題に取りをでの成績が60点未満のものに対して再合で再評価を行います。  ② ICT 利用  ② ICT NT IC	復習するとともに、、そ 験に出題された問題の が定期試験の準備のた が定期試験のを表情のた が定期である場合が が定期である場合が は試験を実施する場合が のででは、 ででは、 のででは、 ででは、 のででは、 のででは、 ででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のでででは、 のでででは、 のででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	が成れの分野( が解説を10時間では、60時間では、60時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、1	こついて発展的な内容を学習します か自学自習時間が必要です。 にはで下さい。 合、再試験 5 0 %,特別レポート は実務経験のある教員による授いできる。 を解くことができる。	
授業の進注意点 授業の □ アクラー 授業計	属性・履 ティブラー: 画 3rdQ	<ul> <li>(を)</li> <li>(を)</li></ul>	でついて、1年~3年で学んだ内容を記して、適宜演習を行います。 を確認した上で、主に大学偏入学試を確認した上で、主に大学偏入学試を確認した上で、事前に課題に取り組定期試験60%、課題など40%をつかが、1000円のである。	復習するとともに、、そ 験に出題された問題の が定期試験の準備のた が定期試験のを表情のた が定期である場合が が定期である場合が は試験を実施する場合が のででは、 ででは、 のででは、 ででは、 のででは、 のででは、 ででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のでででは、 のでででは、 のででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	が成れの分野( が解説を10時間では、60時間では、60時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、1	でついて発展的な内容を学習します の自学自習時間が必要です。 高んで下さい。 合、再試験 5 0 %,特別レポート	
授業の進注意点 授業の 授業計	属性・履 ティブラー: 画 3rdQ 4thQ	<ul> <li>(を)</li> <li>(を)</li></ul>	一ついて、1年~3年で学んだ内容を記して、直直演習を行います。 京を確認した上で、主に大学偏入学試学習として課題を課します。課題及語で対して課題を10%を認めたる。 事前に課題に取りをでの成績が60点未満のものに対して再合で再評価を行います。  ② ICT 利用  ② ICT NT IC	復習するとともに、、そ 験に出題された問題の が定期試験の準備のた が定期試験のを表情のた が定期である場合が が定期である場合が は試験を実施する場合が のででは、 ででは、 のででは、 ででは、 のででは、 のででは、 ででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のでででは、 のでででは、 のででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	が成れの分野( が解説を10時間では、60時間では、60時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、1	でできる。 を解くことができる。 し題を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。	
授業の進注意点 授業の 受業計 授業計	属性・履 ティブラー: 画 3rdQ 4thQ	<ul> <li>(を)</li> <li>(を)</li></ul>	でついて、1年~3年で学んだ内容を記して、適宜演習を行います。 を確認した上で、主に大学偏入学試を確認した上で、主に大学偏入学試を確認した上で、事前に課題に取り組定期試験60%、課題など40%をつかが、1000円のである。	復習するとともに、、そ 験に出題された問題の が定期試験の準備のた が定期試験のを表情のた が定期である場合が が定期である場合が は試験を実施する場合が のででは、 ででは、 のででは、 ででは、 のででは、 のででは、 ででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のででは、 のでででは、 のでででは、 のででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででは、 のでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	が成れの分野( が解説を10時間では、60時間では、60時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、1	でできる。 を解くことができる。 し題を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。	
注意点 授業の	属性・履 ディブラー: 画 3rdQ	<ul> <li>(を)</li> <li>(を)</li></ul>	でいて、1年~3年で学んだ内容を記して、直直演習を行います。記を確認した上で、主に大学偏入学試を確認した上で、主に大学偏入学試を確認した上で、主に大学偏入学試を確認したとで、実題を課します。課題及認定期試験60%、課題など40%を記念がある。  「「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日	復習するとともに, そ	が成れの分野( が解説を10時間では、60時間では、60時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、10時間では、1	でついて発展的な内容を学習します の自学自習時間が必要です。 においてできる。 のでできる。 のでできる。 のを解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 を解くことができる。 しまる。 を解くことができる。 のを解くことができる。 しまる。 を解くことができる。 のは、ことができる。	

苫小牧	女工業高等	等門学校	開講年度	令和06年度 (2	2024年度)	授業科	目 英語VC	
科目基礎	<b> </b>							
4目番号		0087			科目区分	一般	/ 必修	
受業形態		授業			単位の種別と単位	立数 学修	単位: 4	
開設学科			科(一般科目)		対象学年	5		
開設期		通年			週時間数	2		
教科書/教	材		"FISRT TIME TRA 祭ビジネスコミュニケーション恡		DEIC TEST - Revi	sed Edition"	(センゲージラー	ニング), "TOEIC-
担当教員		佐藤 奈々	₹恵,東 俊文					
到達目標	票							
2. 標準的 3. 一般的 4. 継続的 5. 英語の	な単語や文法な英文の読度な学習によっ な学習によっ 音声と記述し 専門、研究	去を理解でき 解や聞き取り ってTOEIC こよる国内	ご説明できる。 きる。 りができる。 テスト・スコア400; 厚情・海外事情の概 繋にわかりやすく英	点以上の取得が可能要を深く理解できる 語でプレゼンテー	能となる力を確認で る。 ションできる。	<b>きる。</b>		
ルーノリ	ノック		I用相的+\A\B	ベルの日本		ベルの日空	土利は、ベ	
			理想的な到達し	ベルの日安 内容を日本語で説	標準的な到達レ/ 基本的な英文のP		未到達レベ 未到達レベ	ルの目安 文の内容を日本語で記
評価項目1	L 		明できる。	アッ合で口 4 岩 (	基本的な英文の/  明できる。	19台で口本語	で説 基本的な失明できない	
平価項目2	<u></u>		標準的な単語や	文法を理解できる	基本的な単語やス	文法を理解で	きる 基本的な単	語や文法を理解できた
			一般的な平易な	 英文の読解や聞き	。  基本的な英文の記	田夫間の知売		文の読解や聞き取りた
評価項目3	3		取りができる。	// ^/ かり / -   日	できる。		できない。	.ヘッかの井(同で払り)
評価項目4	ŀ		継続的な学習に ト・スコア400; 能となる力を確	よってTOEICテス 点以上の取得が可 認できる。	継続的な学習に。 ト・スコア400点 指すことができる。	以上の取得を	を目   歴紀的な子	習によってTOEICテ 400点以上の取得をE できない。
評価項目5	5			述による国内事情 要を深く理解でき	英語の音声と記述・海外事情の概要	北による国内 要を理解でき	#18   V- 61 #-14	と記述による国内事情 の概要を理解できない
評価項目6	5			究について簡潔に 語でプレゼンでき	自分の専門、研究 な英語でプレゼン	究について基 ンできる。		、研究について基本的 プレゼンできない。
Ⅱ 実践 ¹ Ⅲ 国際 教育方法	性 3 Ⅲ 匤	選性 国際性			#-7.10-11-7.19	1	R+07   -+07   -	- (O O 45
概要		知識・技	能を活用しながら、	自分の研究につい	て英語でプレゼン	テーションで	きる力の養成を目	
授業の進め	か方・方法	する埋解 ・小テス 学生は12 また、後 目担当教	を深め、それらに対 ト等を適宜実施する 2月にTOEIC-IP(英 期後半に自分の卒業	対応できる実用的英 る。 「語学カテスト)を 美研究について英語 は研究の概要につい	語力を習得できる。 受験する(結果は でプレゼンテーシ で卒研担当教員と	よう授業を進 学業成績の15 ョンを行う(	める。なお、授業 %として扱う)。 プレゼンの方法・	イングのストラテジーや日常生活の場面に即では必要に応じて課題では必要に応じて課題 評価基準等の説明は利きた英語の知識・技能
		  評価は、  学年末の				OEIC-IP)15 ⁹ 合がある。こ	%、課題・小テス この場合、再試験の	ト等15%の割合で行う 結果は定期試験の結!
注意点		1)学修 る。自学 3)英語 く」伝え	単位:この科目は学 自習:外国語習得に	こは既習事項の反復 ペイントなどを用い こと。	, 学習が不可欠であ て図や表を効果的(	ることを理解 に活用し、自	し、日常的な自学 分の研究について	自習が義務付けられて 自習に努めること。 「簡潔に」「分かり§
授業の属	属性・履修	・ 上の区分	·					
 」アクテ	ーィブラーニ	 ング	☑ ICT 利用		□ 遠隔授業対応	, 	□ 実務経	験のある教員による技
授業計画	<u> </u>							
		週	授業内容			週ごとの到達		
		1週	ガイダンス			きる。		等を理解することが 解することができる。
		 2週	Unit 1. Shopping	1				_{等することができる。} B解することができる。
		3週	Unit 1. Shopping					E解することができる。 B解することができる。
前期	1stQ	4週	Unit 1. Shopping					E解することができる。 B解することができる。
		5週	Unit 2. Daily Life					理解することができ
		6週	Unit 2. Daily Life			<u>。</u> 「日常生活」	に関連する英語を	理解することができ
	i .	1	ı			0		

		7週	Linit 2	Transportation			「六涌」に関	油オス英語を理解:	することができる。		
		8週		Transportation				連する英語を理解			
		9週	Unit 4.	· ·				連する英語を理解			
		10週	Unit 4.					連する英語を理解			
				Meals							
		11週	+					連する英語を理解			
		12週		Meals				連する英語を理解			
	2ndQ	13週	Unit 5.	Meals			「食事」に関連する英語を理解することができる。 「コミュニケーション」に関連する英語を理解するこ				
		14週	Unit 6.	Communication			とができる。				
		15週	Unit 6.	Communication			「コミュニケーション」に関連する英語を理解することができる。				
		16週	前期定	期試験			これまでの学	習内容を理解し、	運用できる。		
		1週	Unit 7.	Fun			「楽しみ」に	関連する英語を理解	解することができる。		
		2週	Unit 7.	Fun			「楽しみ」に	関連する英語を理解	解することができる。		
		3週	Unit 8.	Office Work			「オフィスワ できる。	ーク」に関連する	英語を理解することが		
	3rdQ	4週	Unit 8.	Office Work			「オフィスワーク」に関連する英語を理解することが できる。				
		5週	Unit 9.	Meeting			「会議」に関	連する英語を理解 ⁻	 することができる。		
		6週	Unit 9.	Meeting				連する英語を理解.			
	7週 Unit 10. Travel						「旅行」に関	連する英語を理解	 することができる。		
		8週		). Travel				連する英語を理解			
		9週		1. Finance				連する英語を理解			
		10週	1	1. Finance					<u> </u>		
後期		11週	プレゼ:	プレゼンについて(1)/ Unit 12. Business			簡単な英語を	使い発表できる。	ーポイントなどを使い 理解することができる		
		12週	プレゼ:	プレゼンについて(2) / Unit 12. Business			簡単な英語を	使い発表できる。	ーポイントなどを使い 理解することができる		
	4thQ	13週	プレゼ:	ンについて(3)/	Unit 12. Business		簡単な英語を	使い発表できる。	ーポイントなどを使い 理解することができる		
		14週	プレゼ	ンについて(4)/(	Unit 12. Business		簡単な英語を	使い発表できる。	ーポイントなどを使い 理解することができる		
	15週 プレゼンに				Unit 12. Business		自分の分野の研究についてパワーポイントなどを使い 簡単な英語を使い発表できる。 「ビジネス」に関連する英語を理解することができる				
	1	16週	後期定	期試験			これまでの学	習内容を理解し、済	<ul><li>運用できる。</li></ul>		
評価割合											
FI IMI HIJE		定期試験		英語プレゼンテー ション	英語学力テスト (TOEIC-IP)	課題	・小テスト等		合計		
総合評価割	 訓合	55		15	15	15		0	100		
基礎的能力		55		15	15	15		0	100		
専門的能力		0		0	0	0		0	0		
分野横断的		0		0	0	0		0	0		
ノノエバ (典質)巾	ריסמי	10		10	Io	10		10	10		

<u> </u>	工業高等	専門学校	開講年度	令和06年度 (2	2024年度)	授	業科目	法学
科目基礎	情報							
科目番号		0088			科目区分		一般/選	択
受業形態		授業			単位の種別と単	)種別と単位数 学修単位: 2		
開設学科			斗(一般科目)		対象学年			
明設期 		後期			週時間数		2	
教科書/教林	日本評論社(各法)、P.G. ヴィノグラドフ(未延三次・伊藤 Vinogradoff,Common sense in law, Oxford University Pr						川卌(半川柳	白選))、『基本法コンメンタール』
担当教員		佐々木彩	,	,	•			
到達目標		•						
2. 現代社 3. バラン	会の法的諸 、スのとれた	課題、およる	び公正な社会の実現	その特性について説 見に向けた現在まで 別を正確に駆使して	の取り組みについ	へご説明 で、文章	できる。 で表わすこ	ことができる。
ルーブリ	ック		T田おりもいをいます	~ I o C c	無洗りたないます	^"!! ~ ⁻	<b></b>	+제품! 아무 요무슨
	いかせせに		理想的な到達レ		標準的な到達し			未到達レベルの目安
	(治の基本原) (立ちやその (る。		民王政治の基本/ の成り立ちやその 明できる。	原理、日本国憲法 の特性について説	民主政治の基本 の成り立ちやそ 本的な問題が解	の特性( ける。	こ関する基	民主政治の基本原理、日本国憲法 の成り立ちやその特性に関する基 本的な問題が解けない。
び公正な社	:会の法的諸i :会の実現に[ )組みについ	句けた現在		諸課題、および公 に向けた現在まで いて説明できる。	現代社会の法的 正な社会の実現 の取り組みに関 が解ける。	に向けた	こ現在まで	現代社会の法的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについての基本的な問題が解けない。
法令・学	,スのとれた; 説・判例を〕 解決を導き、 できる。	下確に駆使	令・学説・判例:	た法的思考で、法 を正確に駆使して き、文章で表わす	バランスのとれ 令・学説・判例 基本的な問題の で表わすことが	を正確(解決を	こ駆使して 算き、文章	令・学説・判例を正確に駆使して
学科の到	達目標項	目との関	· 系					
Ⅲ 実践性 国際性	生 2 Ⅱ 実証 生 3 Ⅲ 国際	間性 浅性 祭性						
教育方法	等	T						
概要		的に貢献 [*]   者として   とを目指し	する自覚と素養を培 生会に貢献する自覚	音う。人間活動や科 色と素養を培う。「氵	学技術の役割と影 法律   を学ぶ基盤	響に関い	心を持ち、 、まずは、	,て社会的諸問題の解決に向けて主体 幸福とは何かを追求しながら、技術 法学の基礎理論を確実に理解するこ の解決方法を習得することで、リー
授業の進め	方・方法	求めるほか   ・この科    常の授業	か、練習問題を取り 目は学習単位科目の	)入れて、受講者の ⁾ )ため、事前・事後 [;]	理解度を確認しな 学習としてレポー	がら授 ト等の	業を行う。 課題等を誤	Eし、受講生に対して質問への応答を Bし、評価の対象とする。この他、日 D勉強時間を総合し、60時間の自学自
注意点		持ち、自然を持ち、自然を持ち、自然を持めた。	分で考え、法的観点 うこと。授業 隽行することが望ま 定期試験40%、3	から結論を導き出 後は復習をしっ しい。	してみてほしい。 かり行い、分から !題20%を総合し	授業でおい点の	扱う項目に は質問に来 する。学業	だ内容については、特に問題意識をごいては、配布資料等を用いて自学 ること。なお、授業においては最新成績が60点未満の者に対しては再試する。
授業の属	性・履修	上の区分						
	ィブラーニン	グ	☑ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応	<u></u>		□ 実務経験のある教員による授
受業計画	 ]							
- +=   >		<b></b>				週ごと	の到達目	#
			1. 法とは何か①			法の分 裁判所	類、裁判の	D基準となる法の解釈や適用の問題、 CONT、日本国憲法の基本原理を路 J、説明することができる。
		2週	1. 法とは何か②			法の分裁判所	類、裁判の	D基準となる法の解釈や適用の問題、 こついて、日本国憲法の基本原理を紹
	I -				まえた上で理解し、説明することができ			

授業計	画			
		週	授業内容	週ごとの到達目標
		1週	1. 法とは何か①	法の分類、裁判の基準となる法の解釈や適用の問題、 裁判所のしくみについて、日本国憲法の基本原理を踏 まえた上で理解し、説明することができる。
		2週	1. 法とは何か②	法の分類、裁判の基準となる法の解釈や適用の問題、 裁判所のしくみについて、日本国憲法の基本原理を踏 まえた上で理解し、説明することができる。
		3週	2. 住生活と法①	日常的に行われる売買契約を通じて、権利と義務との 関係、意思表示(心裡留保、虚偽表示等)について理 解し、説明することができる。
後期	3rdQ	4週	2. 住生活と法②	私法上、「人」は、いつをもって生まれたとみなすか (権利能力の始期)について、「胎児の権利能力」に 関する事例を通して理解し説明することができる。
		5週	2. 住生活と法③	私法上、「人」は、いつをもって死亡したとみなすのか(権利能力の終期)について、「失踪宣告」等の事例を通して理解し、説明することができる。
		6週	3. 交通事故と法①	交通事故等の事例を通して、一般的不法行為に基づい て損害賠償請求をする方法を説明することができる。
		7週	3. 交通事故と法②	交通事故等の事例を通して、特殊な不法行為に基づい て損害賠償請求をする方法を説明することができる。
		8週	到達度試験	

		9週	4. 製造物責任		製造物責任法が制定するま 法の内容について理解し、	での過程および製造物責任 説明することができる。
	10週 11週		5. 労働と法①		労働法の全体像について理る。	[解し、説明することができ
			5. 労働と法②		労働法の要である労働基準 ることができる。	法について理解し、説明す
	4thQ	12週	6. 婚姻と法		親等の範囲、婚姻の一般的、婚姻の効力、離婚の方法について理解し説明するこ	日成立要件と実質的成立要件 (協議離婚〜裁判離婚)等 ことができる。
		13週	7. 相続と法		法定相続(相続人の範囲、 言相続(遺留分、遺言の程 し説明することができる。	法定相続分の計算等)、遺 [類等)についについて理解
		14週	8. 知的財産法①			通して、特許権を中心とす 背し説明することができる。
		15週	8. 知的財産法②		知的財産権に関する事例を 権等についても理解し説明	注通して、特許権の他、著作 目することができる。
		16週	定期試験	引試験		
評価割合	ì					
			定期試験	達成度試験	課題	合計
総合評価割	<u></u> ]合		40	40	20	100
基礎的能力	]		40	40	20	100
専門的能力	J		0	0	0	0
分野横断的	能力		0	0	0	0

科目基礎情 科目番号 授業形態 開設期 教科書/教材 担当教員 <b>到達</b> 目標 ム自覚と表養	青報 会験や 対応が 対応が 対応が がの方技 用でる 用でる 用でる 用でる 用でる 用でる 用でる 用でる	か か か か か か か か か か か か か か	(一般科目)  社会、文化について 対した、幸福と 理想的な到達レベスを持ち、幸福と 理想的な内容を使がでました、るのでは、であるでは、であるでは、であるでは、であるでは、であるでは、であるでは、であるでは、であるでは、であるでは、であるでは、であるでは、であるでは、であるでは、であるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるできるでは、できるできるでは、できるできるでは、できるできるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるできない。できないは、できるでは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、できないは、	とは何かを追究の目し、の目し、のの目し、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし	科目区分 単位の種別と 対場時間数 関係 は、 対象 では、	単位数	一般 / 選 学修単位: 5 2 て社会に 安 基考 基考 よの 基考 基考 よっの よっの よっの よっこ。	2 問題の解決(する自覚とする) 未 講強の内が。 講独。 講独。 講独。 講なよがりまする。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またして。 またっと。 またして。 またっと。 またっと。 また。 またっと。 またっと。 また。 また。 また。 また。 また。 また。 また。 また。 また。 また	こ向けて主体的に貢献す 素養を培う。 ベルの目安 容を理解しようとせず、のな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、のな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、のな自分の考えを述べる でな自分の考えを述べる
科授開 教担 到 る ル 生解述 環解述 技解述 学 I II II 教 概 授 注 授 □	会験を対ク 科学培技 からっ術 対き技 本いき 本いき 本いき 本いき 本のをが 基用でる 用でる 用でる 用でる 用でる 用でる 用でる 用でる	授 (型 (型 (型) (型) (型) (型) (型) (型) (型) (型) (型) (型)	社会、文化について	とは何かを追究の目し、の目し、のの目し、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし	単位の種別と 対象時間数 週時間数 にし、ががら、ながの内切って、 で、 で、 を使がを使がを使がを使がを使が を使がを使がを使がをを使が を使がをを使がをを	<ul><li>一者</li><li>して</li><li>しま</li><li>しま</li><li>しま</li><li>くしき</li><li>くしき</li><li>くしき</li><li>くしき</li><li>が対用</li><li>がすり</li><li>がすり</li><li>がすり</li><li>がすり</li><li>が対別</li><li>が対別</li></ul>	学修単位: 5 2 て社会に貢献 は会に貢献 基考 基考 本え 本え 本え にこ。 のよう。 のよう。	2 問題の解決(する自覚とする) 未 講強の内が。 講独。 講独。 講独。 講なよがりまする。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またして。 またっと。 またして。 またっと。 またっと。 また。 またっと。 またっと。 また。 また。 また。 また。 また。 また。 また。 また。 また。 また	素養を培う。 ベルの目安 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる
授開 教担 到 る ル 生解述 環解述 技解述 学 I ■ 取 概 授 注 授 □ 中部 は であるが のをが のをが のをが 違 性性性 等 方 性 1 □ 数 概 授 注 授 □ 中部 は 1 世 1 世 2 世 2 世 2 世 3 世 4 世 4 世 4 世 4 世 4 世 4 世 4 世 4 世 4	会養や 対 が が が が が が が が が が が が が	授 (型 (型 (型) (型) (型) (型) (型) (型) (型) (型) (型) (型)	社会、文化について	とは何かを追究の目し、の目し、のの目し、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし	単位の種別と 対象時間数 週時間数 にし、ががら、ながの内切って、 で、 で、 を使がを使がを使がを使がを使が を使がを使がを使がをを使が を使がをを使がをを	<ul><li>一者</li><li>して</li><li>しま</li><li>しま</li><li>しま</li><li>くしき</li><li>くしき</li><li>くしき</li><li>くしき</li><li>が対用</li><li>がすり</li><li>がすり</li><li>がすり</li><li>がすり</li><li>が対別</li><li>が対別</li></ul>	学修単位: 5 2 て社会に貢献 は会に貢献 基考 基考 本え 本え 本え にこ。 のよう。 のよう。	2 問題の解決(する自覚とする) 未 講強の内が。 講独。 講独。 講独。 講なよがりまする。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またしている。 またして。 またっと。 またして。 またっと。 またっと。 また。 またっと。 またっと。 また。 また。 また。 また。 また。 また。 また。 また。 また。 また	素養を培う。 ベルの目安 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる
開開教担 到 る ル 生解述 環解述 技解述 学 I I I I 教 概 授 注 授 □ I I I I I 教 概 授 注 授 □ I I I I I I I I I I I I I I I I I I	会養や 対 が が が が が が が が が が が が が	創造工学科       前期       多田光宏       現代       東京	社会、文化について	とは何かを追究の目し、の目し、のの目し、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし	対象学年 週時間数   し、国際社会のの   いはがら、技術   標準   義彦で、 義彦で、 義彦で、 義彦で、 表をで、 表をで、 表の通ることが   は、 で、	<ul><li>一者</li><li>して</li><li>しま</li><li>しま</li><li>しま</li><li>くしき</li><li>くしき</li><li>くしき</li><li>くしき</li><li>が対用</li><li>がすり</li><li>がすり</li><li>がすり</li><li>がすり</li><li>が対別</li><li>が対別</li></ul>	5 2 て社会に貢献 社会に貢献 ま考 本えを 基考 本えを 本えを 本えを 本えを まっ の よっ の よっ の よっ の よっ る し よっ る る し る る る る る る る る る る る る る る る る	問題の解決(する自覚と) 未 講強。	素養を培う。 ベルの目安 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる
開教担 到 る ル 生解述 環解述 技解述 学 I II II 教 概 授 注 授 □ 期書/教 目 文 lel J 一 命しべ 境しべ 術しべ 科   百 要 業 アークール 会	会養や 対 が が が が が が が が が が が が が	前期 多田 光宏 現 か と と と また。 大子 に で は で で で で で で で で で で で で で で で で で	社会、文化について	とは何かを追究の目し、の目し、のの目し、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし	週時間数	A	2 て社会の する は対して は対して は対して は対して は対して は対して は対して は対して は対して は対して は対して は対して は対して は対して は対して は対して は対して は対して は対して は対して は対して は対して は対して は対して は対して は対して は対して は対して は対して にがして はずして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがし にがし にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがし にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがして にがし にがし にがし にがし	する自覚と 未到達レ/ 講独。 講独。 講教りの内が 。 講教りの内がが 。 。 まもいりである。 は、ままりないがった。	素養を培う。 ベルの目安 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる
教担 到 る ル 生解述 環解述 技解述 学 I I I I 教 概 授 注 授 □ 料当達 文 見間 ブ 理 そこ 倫、る 者、る の 人実国 方	会養や 対 が が が が が が が が が が が が が	多田 光宏       夏田 光宏       夏田 光宏       夏山 大会       東京 大会	正関心を持ち、幸福と 理想的な到達レベレセ 講義料の内を収集しました。 議科等では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	とは何かを追究の目し、の目し、のの目し、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし	にし、国際社会のにしながら、技術 標準的な到達 講義をである。 講語述 講話が、表の適切ことが 講話が、表の適切ことが 講話が、表の適切ことが は、表のでいるでは、 なくにとが を使が は、表のでにとが は、表のでにとが は、表のでにとが は、表のでは、 なくに、 なくに、 なくに、 なん。 なん。 なん。 なん。 なん。 なん。 なん。 なん。 なん。 なん。	A	て社会的諸 社会に貢献 3g 基考 本え 本え 本え 本え ようの 基考 にこ いかのよう。	する自覚と 未到達レ/ 講雑。 講雑。 講雑。 講教りの内がが 。 講教りの内がが 。 まずいの内がが 。 まずいの内がが 。 まずいの内がが 。 まずいの内がが 。 まずいの内がが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが まずいののよがが 。 まずいののよがが まずいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいのもがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいのののなが まがいのののなが まがいののの。 まがいののののの。 まがいのののののののの。 まがいのののののの。 まがいのののののののののののののののののののののののののののののののののののの	素養を培う。 ベルの目安 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる
担 到 る ル 生解述 環解述 技解述 学 I I I I 教 概 授 注 授 □	会養や 対 が が が が が が が が が が が が が	現点の 現点の は高さい は高さい は高さい は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 に一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一。 は一。 は一。 は一。 は一。 は一。 は一。 は一。	正関心を持ち、幸福と 理想的な到達レベレセ 講義料の内を収集しました。 議科等では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	とは何かを追究の目し、の目し、のの目し、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし	にしながら、技術 標準的な 到達 講語述 講語述 講話述 講話述 講話述 講話述 講話述	A	社会に貢献 ヨ安 本表え 本え	する自覚と 未到達レ/ 講雑。 講雑。 講雑。 講教りの内がが 。 講教りの内がが 。 まずいの内がが 。 まずいの内がが 。 まずいの内がが 。 まずいの内がが 。 まずいの内がが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが まずいののよがが 。 まずいののよがが まずいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいのもがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいのののなが まがいのののなが まがいののの。 まがいののののの。 まがいのののののののの。 まがいのののののの。 まがいのののののののののののののののののののののののののののののののののののの	素養を培う。 ベルの目安 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる
到達 支 目 大 自 大 し 大 自 大 し 大 自 大 し に に た に し に に に に に に に に に に に に に	襲 ⁶ Y ク ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	現点の 現点の は高さい は高さい は高さい は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 に一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一点で、 は一。 は一。 は一。 は一。 は一。 は一。 は一。 は一。	正関心を持ち、幸福と 理想的な到達レベレセ 講義料の内を収集しました。 議科等では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	とは何かを追究の目し、の目し、のの目し、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし	にしながら、技術 標準的な 到達 講語述 講語述 講話述 講話述 講話述 講話述 講話述	A	社会に貢献 ヨ安 本表え 本え	する自覚と 未到達レ/ 講雑。 講雑。 講雑。 講教りの内がが 。 講教りの内がが 。 まずいの内がが 。 まずいの内がが 。 まずいの内がが 。 まずいの内がが 。 まずいの内がが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが まずいののよがが 。 まずいののよがが まずいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいのもがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいのののなが まがいのののなが まがいののの。 まがいののののの。 まがいのののののののの。 まがいのののののの。 まがいのののののののののののののののののののののののののののののののののののの	素養を培う。 ベルの目安 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる
る ル 生解述 環解述 技解述 学 I I I I I 教 概 授 注 授 □ 大自人 ー 命しべ 境しべ 術しべ 科   百 要 業	襲 ⁶ Y ク ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	か か か か か か か か か か か か か か	正関心を持ち、幸福と 理想的な到達レベレセ 講義料の内を収集しました。 議科等では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	とは何かを追究の目し、の目し、のの目し、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし	にしながら、技術 標準的な 到達 講語述 講語述 講話述 講話述 講話述 講話述 講話述	A	社会に貢献 ヨ安 本表え 本え	する自覚と 未到達レ/ 講雑。 講雑。 講雑。 講教りの内がが 。 講教りの内がが 。 まずいの内がが 。 まずいの内がが 。 まずいの内がが 。 まずいの内がが 。 まずいの内がが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが まずいののよがが 。 まずいののよがが まずいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいのもがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいのののなが まがいのののなが まがいののの。 まがいののののの。 まがいのののののののの。 まがいのののののの。 まがいのののののののののののののののののののののののののののののののののののの	素養を培う。 ベルの目安 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる
る ル 生解述 環解述 技解述 学 I I I I 教 概 授 注 授 □ 上解述 環解述 技解述 学 I I I I I 教 概 授 注 授 □ と素動 リ のをが のをが のをが のをが のをが のをが のをが のをが のをが でをが のをが のをが でをが のをが でをが のをが する は 一	襲 ⁶ Y ク ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	か か か か か か か か か か か か か か	正関心を持ち、幸福と 理想的な到達レベレセ 講義料の内を収集しました。 議科等では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	とは何かを追究の目し、の目し、のの目し、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし、ののし	にしながら、技術 標準的な 到達 講語述 講語述 講話述 講話述 講話述 講話述 講話述	A	社会に貢献 ヨ安 本表え 本え	する自覚と 未到達レ/ 講雑。 講雑。 講雑。 講教りの内がが 。 講教りの内がが 。 まずいの内がが 。 まずいの内がが 。 まずいの内がが 。 まずいの内がが 。 まずいの内がが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが 。 まずいののよがが まずいののよがが 。 まずいののよがが まずいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいのもがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののよがが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいののなが まがいのののなが まがいのののなが まがいののの。 まがいののののの。 まがいのののののののの。 まがいのののののの。 まがいのののののののののののののののののののののののののののののののののののの	素養を培う。 ベルの目安 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる
生解述 環解述 技解述 学 I II II 教 概 授 注	DATE OF THE PROPERTY OF THE	・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・	講義の内容をよく理りをよく理りをよった自然を表して、高くをよった。 は	解で分の 解で分の 解で分の は基えを は、あった。 は、あった。 解で分の が、ので分の が、ので分の が、ので分の が、ので分の が、ので分の が、ので分の が、ので分の が、ので分の は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、で、。 は、で、。 は、と、。 は、。 は、。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	講義をの内容にとが 講語述べ 講語が、 講語が、 講語が、	よ用で よ用で よ用で は	ス 基本用 か 考えを 本 大 か 考えを 本 末 を ま ま る 考えを を ま え っ る き る き る き る き る き る き る ら る ら る ら ら ら ら	講義の内容 講義の内容 講義の内容 は、 講義の内容 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる
解述 環解述	を用いてる。	・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・	講義の内容をよく理りをよく理りをよった自然を表して、高くをよった。 講資をできることができまった。 講資をできることができまった。 できることができまった。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる	解で分の 解で分の 解で分の は基えを は、あった。 は、あった。 解で分の が、ので分の が、ので分の が、ので分の が、ので分の が、ので分の が、ので分の が、ので分の が、ので分の は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、でいる。 は、で、。 は、で、。 は、と、。 は、。 は、。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	講義をの内容にとが 講語述べ 講語が、 講語が、 講語が、	よ用で よ用で よ用で は	ス 基本用 か 考えを 本 大 か 考えを 本 末 を ま ま る 考えを を ま え っ る き る き る き る き る き る き る ら る ら ら ら ら ら	講義の内容 講義の内容 講義の内容 は、 講義の内容 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる
解述 環解述 技解述 学れと 増しべ に が のをが のをが のをが のをが のをが のをが で で で で で で の の の の で で の の の の の で の の の の の の の の の の の の の	を用いてる。	・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・分 ・	資料等を収集した上上でを収集した、る。 類ができません。 講義等をできません。 講教等に使ができました。 講教等をはした。 であるの内では、まないでは、できないでである。 は、できません。 は、できません。 は、できません。 は、できません。 は、できません。 は、できません。 は、できません。 は、できません。 は、できません。 は、できません。 は、できません。 は、できません。 は、できません。 は、できません。 は、できません。 ないできません。 は、できません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできません。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできまない。 ないできない。 ないできない。 ないできない。 ないできない。 ないできないできない。 ないできないない。 ないできないない。 ないできないないないないないないないないないないないないないないないないないない	で、の基本スを開語が、のので、のので、のので、のので、のので、ので、ので、ので、ので、ので、ので、の	語述、講語述、講話述、講話述、講話が、存住がを使が、を使が、表でで、のではといっては、教科では、教科では、教科をは、で、ない、教科をは、、教科・で、、教科・で、、教科・で、、教科・で、、教科・で、、教科・で、、教科・で、、教科・で、、教科・で、、教科・で、、教科・で、、教科・で、、教科・で、、教科・で、、教科・で、、教科・で、、教科・で、、教科・で、、教科・で、、教科・で、、教科・で、、教科・で、、教科・で、、教科・で、、教科・で、、教科・で、、教科・で、、教科・・・・・・・・・・	用で よ用で よ用で よ用で よ用で よ用で よ用で よりき くしき くしき 学を 押しる 呼じら が対 用 が対 用 しょ とり から	か考えを	独りよがらいます。 講義の内には、 講義の内には、	りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる
解述 技解述 学 [ ]   ] 教 概 授 注	を用いて自然できる。  の基本用語自然できる。  童目標項  1 I 実 実 国際  3 II 国際	・分 ・ ・分 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ う の 関 性 性 性 地 取 り い り り し い り し い り し い り し り し り り し り り し り り り り	資料等を収集した上でを適けています。 を適けて使用した。 を適けてきる。  講義料等に使用した。 講義料等に使用をよた上げできる。  理に関わるができる。  理に関わるができる。  型に関わるができる。  なることができる。	で、基本用語がある。 「なっちゃく」で、基本用語がある。 「なっちゃく」で、また。 「なっちゃく」では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、できない。 「なっちゃく」では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、できない。 「なっちゃく」では、これでは、できない。 「なっちゃくだっちゃくだっきょう。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」では、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくなっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくだっき。」は、「なっちゃくいっき。」は、「なっちゃくいっき。」は、「なっちゃくいっき。」は、「なっちゃくいっき。」は、これらいっちゃくいき。」は、これらいもい。」は、これらいもいっちゃくいっき。」は、これらいっちゃくいっき。」は、これらいっちゃくいっき。」は、これらいっちゃくいっき。」は、これらいっき。」は、これらいっちゃくいっき。」は、これらいっき。」は、これらいっき。」は、これらいっき。」は、これらいっき。」は、これらいっき。」は、これらいっき。」は、これらいっき。」は、これらいっちゃくっき。」は、これらいっき。」は、これらいっき。」は、これらいっき。」は、これらいっち。」は、これらいっち。」は、これらいっち。これらいっちっき。」は、これらいっちっき。」は、これらいっき。これらいっき。これらいっき。これらいっき。これらいっき。これらいっき。これらいっき。これらいっ	語を適切に使述ることが 講義の内容を表語であることが 各々について倫倫理、技術者倫 るので、教科書	用し、 高ら。 よの はの はの はの はの はの はの はの はの はの は	かきえを  基本用 かあきえを  のようにき とする。	独りよがら、講義の内容を	りな自分の考えを述べる 容を理解しようとせず、 りな自分の考えを述べる ているのかを講義する。
解述 学科の到達 「「」」 教 概要 「注意」 新 概要 「注意」 「注意」 「注意」 「注意」 「注意」 「注意」 「不力」 「注意」 「不力」 「不力」 「不力」 「不力」 「不力」 「不力」 「不力」 「不力	を用いて自然できる。 <b>全目標項</b> 1 I 人 2 II 国 3 II 国	語のできた。 ヨとの関係 間性 場性 現り上でがいる。 いたで、複数解のできた。	資料等を収集した上でを適切に使用し、自然できる。  型に関わる諸問題を取るとができる。  型に関わる諸問題を取るといってある。  なることができる。	で、基本用語分の考えを述取り上げ、その生命倫理、環境リントを配布す見代の諸問題に	語を適切に使 述べることが 各々について倫 倫理、技術者倫 るので、教科書	用し、自5で できる。 理学がどで 理を対象。 は使用し	かまうに考とする。	独りよがい。                 	のな自分の考えを述べる
I 人間性 II 実践性 II 国際性 教育方法等 概要 授業の進め方 注意点 □ アクティン	1 I 人[ 2 II 実i 3 III 国际	間性 浅性 祭性 現代の倫廷 取り上げられ 内容が多しい。 トピックラ く、複数解の で、複数解の	里に関わる諸問題を取れるトピックスは、生 さに渡る為、適宜プリスとして取り上げる野 なく考えなければなら	生命倫理、環境 リントを配布す 現代の諸問題に	倫理、技術者倫 るので、教科書	理を対象。	とする。		
I 人間性 II 実践性 対育方法等 概要 授業の進め方 注意点  「受業の属性 フクティン	1 I 人[ 2 II 実i 3 III 国际	間性 浅性 祭性 現代の倫廷 取り上げられ 内容が多しい。 トピックラ く、複数解の で、複数解の	里に関わる諸問題を取れるトピックスは、生 さに渡る為、適宜プリスとして取り上げる野 なく考えなければなら	生命倫理、環境 リントを配布す 現代の諸問題に	倫理、技術者倫 るので、教科書	理を対象。	とする。		
概要 授業の進め方 注意点 授業の属性 □ アクティン		取り上げられ 内容が多しい。 トピックご 分で」注意 く、複数解の	1るトピックスは、生 支に渡る為、適宜プリ スとして取り上げる野 深く考えなければなら	生命倫理、環境 リントを配布す 現代の諸問題に	倫理、技術者倫 るので、教科書	理を対象。	とする。		
概要 授業の進め方 注意点 授業の属性 □ アクティン		取り上げられ 内容が多しい。 トピックご 分で」注意 く、複数解の	1るトピックスは、生 支に渡る為、適宜プリ スとして取り上げる野 深く考えなければなら	生命倫理、環境 リントを配布す 現代の諸問題に	倫理、技術者倫 るので、教科書	理を対象。	とする。		
注意点 授業の属性 □ アクティン	方・方法	しい。 トピックス 分で」注意派 く、複数解の	スとして取り上げる明 深く考えなければなら	見代の諸問題に			ない。ただ	し、参考図記	書に目を通すことが望ま 
授業の属性		分で」注意%  く、複数解の	架く考えなければなら	見代の諸問題に	け 明確か一つ				
□ アクティン		・整理する	黄義中に取り 上げられ	かる工学の思考 れたトピックス みでノートにま	のも、これらの 方法と類似して に関連するニュ とめる等、自学	問題群に いるから ース等に 自習に取	ついて考え である。 関心を抱き	ることは、タ 、講義時間タ	それ故に、受講者は「目 完全な唯一の正解ではな 外にも自分の考えを検討 のため必須)。その成果
□ アクティン	牛・履修	<u>-</u> 上の区分							
					☑ 遠隔授業対	协		□ 実務終	 経験のある教員による授業
授業計画						3,70			
<u> </u>									
	Ι,	E 125.	W4 -L			\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	~ 7U+ □ H	-	
			業内容				の到達目標		
	<b>—</b>		. 倫理学的に考える	とは?				性質を理解	
	-		. 倫理学の基礎理論					について理	
	-		. 生命倫理の基礎			生命倫	理の基本事	項について	理解できる。
	-		. 臓器移植(1)			臓器移	植の諸問題	について理	解できる。
1s	.stQ	5週 5.	. 臓器移植(2)			臓器移	植の諸問題	[について理	解できる。
	(	5週 6.	. 臓器移植(3)			臓器移	植の問題に	ついて理解	できる。
	[	7週 7.	. 臓器移植(4)				植の諸問題 できる。	について理	解し、自分の考えをもつ
	1	3週 8.	. 中間評価						
前期			. 着床前診断(1)			着床前	診断の諸問	題について	 理解できる。
נפענים	F	-	0. 着床前診断(2)	)					<u> 理解できる。</u> 理解できる。
			1. 着床前診断 (3)			着床前	診断の諸問		<u> </u>
	-			<u>'</u>			ができる。 が問題とな	いている状	況について理解すること
2n	2ndQ		2. 尊厳死(1) 			ができ	る。		
	-		3. 尊厳死(2) 4.						<u>することができる。</u> オススとができる
	F		4. 尊厳死(3)						することができる。 - ロムの考えなものる
			5. 尊厳死(4)			尊厳外とがで		- ノい C 埋解	し、自分の考えをもつこ
		16週 定期	期試験						
評価割合									
		•							
総合評価割合		中間評	(西	定期試験		課題		一一一一	計
基礎的能力	<u></u>	中間評(	価	定期試験		課題 25		<u></u> 合	<u>計</u> )0

科目基础			開講年度 令和06年度(		授業科目	経済学
	楚情報			T	T	
科目番号		0090		科目区分	一般 / 選	銀択
授業形態		授業		単位の種別と単	位数 学修単位	<u>:</u> 2
開設学科		創造工学	科(一般科目)	対象学年	5	
開設期		後期		週時間数	2	
教科書/教	(材					
担当教員		多田 光宏	,村上 明子			
到達目標	票					
②経済学( ③様々な(	の具体的な 側面から「	活かし方を説	説明できるようになること。 明できるようになること。 し経済活動との関係性を考えることで	₹、現代社会で生き	っていくための広い	ハ視野を養うこと。
ルーブリ	ノック			1		
理解し、でではないでは、できます。では、できますがいるのでは、できます。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	説明できて いま理な いに無理な いにが いい いい いい いい いい いい いい いい いい いい いい いい いい	て正確に記識 に記言を にい事とでは にこる実現理ない。 では では では では では では では では では では では では では	理想的な到達レベルの目安(優) 経済学的事項を正確に理解し説明できること。自分自身の意見を積極的に展開し、論理的に結論を導き出している。文章表現が適切であることなど。	標準的な到達レ 優のレヴェルに、理解内容が経て、概ね説明が	到達していないが 済学的事項につい	未到達レベルの目安(不可)  左記事項に不正確で明確な文章表現等がなされていない場合。
学科の発	到達目標	項目との関	係			
Ⅱ 実践 Ⅲ 国際	性 2 Ⅱ 性 3 Ⅲ	人間性 実践性 国際性				
教育方法	去等					
概要		学習目標	I 、II 、III 本科の点検項目((環境・ABEE基準1学習・教育到達目標	生産システム工学	」教育プログラム	△学習・教育到達目標A-ⅰ、A-ⅱ、
注意点		時に教員の	考察・質問・要望は、次回講義でフィ とのコミュニケーションツールでもあ	ードバックします	「。	0回行います。「振り返り自己チェッ 3チェック」は評価ツールであると同
	属性・履( Fィブラー:	修上の区分	更用した「政治・経済」(東京書籍)( 図 ICT 利用		に説明するので、	参考資料として活用してください。
		修上の区分	1	の記載事項を前提	に説明するので、	参考資料として活用してください。
□ アクラ	ティブラーニ	修上の区分	1	の記載事項を前提	に説明するので、	
□ アクラ	ティブラーニ	修上の区分	1	の記載事項を前提	に説明するので、	参考資料として活用してください。  □ 実務経験のある教員による授業
□ アクラ	ティブラーニ	修 <u>上</u> の区分 ニング 週	☑ ICT 利用	の記載事項を前提 図 遠隔授業対応	に説明するので、	参考資料として活用してください。  □ 実務経験のある教員による授業  漂
□ アクラ	ティブラーニ	修上の区分 =ング 週 1週	☑ ICT 利用 授業内容 ガイダンス,経済学の基礎 1:経済学	の記載事項を前提 図 遠隔授業対応	に説明するので、  週ごとの到達目は 授業内容の確認 ジを掴む。  経済学がどのよ	参考資料として活用してください。  □ 実務経験のある教員による授業  票
□ アクラ	ティブラーニ	修上の区分 ニング 週 1週 2週	☑ ICT 利用 授業内容 ガイダンス,経済学の基礎1:経済学 経済学の基礎2:経済学の誕生	の記載事項を前提  ② 遠隔授業対応  ② 徳隔授業対応  学の可能性	に説明するので、 過ごとの到達目 授業内容の確認 ジを掴む。 経済学がどのようになる。	参考資料として活用してください。  □ 実務経験のある教員による授業  標  「経済学」という学問体系のイメー  うに発展してきたのかを説明出来るよ
□ アクラ	ティブラーニ	修上の区分 ニング 週 1週 2週 3週	☑ ICT 利用 授業内容 ガイダンス,経済学の基礎1:経済学 経済学の基礎2:経済学の誕生 経済学の基礎3:経済学の系譜とその	の記載事項を前提 <ul> <li>図 遠隔授業対応</li> <li>学の可能性</li> </ul> つ世界	に説明するので、 週ごとの到達目は 授業内容の確認。 ジを掴む。 経済学がどのようになる。 三大経済思想の	参考資料として活用してください。  □ 実務経験のある教員による授業  漂 「経済学」という学問体系のイメー うに発展してきたのかを説明出来るよ  概要を確認する。
□ アクラ	ティブラーニ	修上の区分 =ング 週 1週 2週 3週 4週	図 ICT 利用 授業内容 ガイダンス,経済学の基礎1:経済学 経済学の基礎2:経済学の誕生 経済学の基礎3:経済学の系譜とその 学問体系を理解する1:「ミクロ経済	の記載事項を前提 図 遠隔授業対応 学の可能性  つ世界 等学」とは?	に説明するので、 週ごとの到達目は 授業内容の確認。 ジを掴む。 経済学がどのようになる。 三大経済思想の ミクロ経済学の マクロ経済学の	参考資料として活用してください。  □ 実務経験のある教員による授業  漂  「経済学」という学問体系のイメー うに発展してきたのかを説明出来るよ  概要を確認する。  特徴と市場メカニズムを確認する。
□ アクラ	ゴー・	修上の区分 ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週	図 ICT 利用 授業内容 ガイダンス,経済学の基礎1:経済学経済学の基礎2:経済学の誕生経済学の基礎3:経済学の系譜とその学問体系を理解する1:「ミクロ経済学問体系を理解する2:「マクロ経済	の記載事項を前提 図 遠隔授業対応 学の可能性  つ世界 等学」とは?	に説明するので、 過ごとの到達目は 授業内容の確認。 ジを掴む。 経済学がどのようになる。 三大経済思想の ミクロ経済学のは マクロ経済学のはなる。	参考資料として活用してください。  □ 実務経験のある教員による授業  漂 「経済学」という学問体系のイメー うに発展してきたのかを説明出来るよ 概要を確認する。 持徴と市場メカニズムを確認する。 考え方と基本用語を説明できるように
□ アクラ	ゴー・	修上の区分 =ング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	図 ICT 利用 授業内容 ガイダンス,経済学の基礎1:経済学 経済学の基礎2:経済学の誕生 経済学の基礎3:経済学の系譜とその 学問体系を理解する1:「ミクロ経済学 学問体系を理解する2:「マクロ経済	の記載事項を前提  ② 遠隔授業対応  ② 遠隔授業対応  ② での可能性  の世界  科学」とは?  科学」の論点	に説明するので、 週ごとの到達目 授業内容の確認。 ジを掴む。 経済学がどのようになる。 三大経済思想の ミクロ経済学の。 マクロ経済学の。 なる。 これまでの学習。 を評価する。	参考資料として活用してください。  □ 実務経験のある教員による授業  漂 「経済学」という学問体系のイメー うに発展してきたのかを説明出来るよ 概要を確認する。 持徴と市場メカニズムを確認する。 考え方と基本用語を説明できるように
□ アクラ	ゴー・	修上の区分 ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	図 ICT 利用 授業内容 ガイダンス,経済学の基礎1:経済学経済学の基礎2:経済学の誕生経済学の基礎3:経済学の系譜とその学問体系を理解する1:「ミクロ経済学問体系を理解する2:「マクロ経済学問体系を理解する3: 教育と外部性	の記載事項を前提 図 遠隔授業対応 学の可能性 D世界 等学」とは? 等学」の論点	に説明するので、 過ごとの到達目は 授業内容の確認 ジを掴む。 経済学がどのようになる。 三大経済思想の マクロ経済学の なる。 これ 正での 学習に を 評価する。 「外感する。	参考資料として活用してください。 □ 実務経験のある教員による授業  漂 「経済学」という学問体系のイメー うに発展してきたのかを説明出来るよ 概要を確認する。 持徴と市場メカニズムを確認する。 考え方と基本用語を説明できるように 内容を踏まえながら、実際の経済政策 ついて学ぶと同時に応用経済学の意義
□ アクラ	ゴー・	修上の区分 ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	図 ICT 利用 授業内容 ガイダンス,経済学の基礎1:経済学 経済学の基礎2:経済学の誕生 経済学の基礎3:経済学の系譜とその 学問体系を理解する1:「ミクロ経済学 学問体系を理解する2:「マクロ経済学 中間総括1:アベノミクスを考える 学問体系を理解する3:教育と外部性 学問体系を理解する4:廃棄物の行力	の記載事項を前提 図 遠隔授業対応 学の可能性 D世界 等学」とは? 等学」の論点	に説明するので、 週ごとの到達目 授業内容の確認。 経済学がどのようにと解うがとのようにと経済学がる。 三大経済第学のはなる。 三クロ経済学のはなる。 これ価する。 「外感する。 「外感する。」にを確認する。 「外感する。」にを確認する。	参考資料として活用してください。 □ 実務経験のある教員による授業  漂 「経済学」という学問体系のイメー うに発展してきたのかを説明出来るよ 概要を確認する。 持徴と市場メカニズムを確認する。 考え方と基本用語を説明できるように 内容を踏まえながら、実際の経済政策 ついて学ぶと同時に応用経済学の意義 について理解し、その具体例と対処法
□ アクラ	ゴー	修上の区分 ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	図 ICT 利用 授業内容 ガイダンス,経済学の基礎1:経済学経済学の基礎2:経済学の誕生経済学の基礎3:経済学の系譜とその学問体系を理解する1:「ミクロ経済学問体系を理解する2:「マクロ経済学問体系を理解する3: 教育と外部性	の記載事項を前提 図 遠隔授業対応 学の可能性 D世界 等学」とは? 等学」の論点	に説明するので、 過ごとの到達目を 授業相の との での ででである。 経済学がる。 三大経済 との とうに経済 といる。 これ価する。 これ価 経済 できる。 「外感 部でする。 「外感 部でする。 「外感 部でする。 「外ででなる。」 「外でである。」 「本確認 質易の基的な できる。 「関 の しまない。」 「ない の しまない できない できない できない できない できない できない できない でき	参考資料として活用してください。  「実務経験のある教員による授業  「経済学」という学問体系のイメー うに発展してきたのかを説明出来るよ  概要を確認する。 持徴と市場メカニズムを確認する。 考え方と基本用語を説明できるように  内容を踏まえながら、実際の経済政策 ついて学ぶと同時に応用経済学の意義 について理解し、その具体例と対処法 を理解した上で、現実に行われている 課題を説明できるようになる。
	ゴー	修上の区分 ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	図 ICT 利用 授業内容 ガイダンス,経済学の基礎1:経済学 経済学の基礎2:経済学の誕生 経済学の基礎3:経済学の系譜とその 学問体系を理解する1:「ミクロ経済学 学問体系を理解する2:「マクロ経済学 中間総括1:アベノミクスを考える 学問体系を理解する3:教育と外部性 学問体系を理解する4:廃棄物の行力	の記載事項を前提 ② 遠隔授業対応 学の可能性  ○世界 等学」とは? 等学」の論点   生 を を を を を を を を を を を を を を を を を	に説明するので、 週ごとの到達目 授業を関わる。 経済にように大経済との。 三大経済経済学の。 こ大経済経済学の。 まのである。 三のでは、でする。 このでは、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、できる。 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、	参考資料として活用してください。  「実務経験のある教員による授業  「経済学」という学問体系のイメー うに発展してきたのかを説明出来るよ  既要を確認する。 持徴と市場メカニズムを確認する。 考え方と基本用語を説明できるように  内容を踏まえながら、実際の経済政策 ついて学ぶと同時に応用経済学の意義 について理解し、その具体例と対処法 を理解した上で、現実に行われている 課題を説明できるようになる。 に格差がある状況がなぜ継続してきた 構造的に説明できるようになる。
□ アクラ	ゴー	修上の区分 ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	図 ICT 利用 授業内容 ガイダンス,経済学の基礎1:経済学経済学の基礎2:経済学の誕生経済学の基礎3:経済学の系譜とその学問体系を理解する1:「ミクロ経済学問体系を理解する2:「マクロ経済学問体系を理解する3:教育と外部性学問体系を理解する4:廃棄物の行為	の記載事項を前提 図 遠隔授業対応 学の可能性  D世界 等学」とは? 等学」の論点  は 方と外部不経済	に説明するので、 週でで、 週でで、 週でで、 週でで、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一を	参考資料として活用してください。  「実務経験のある教員による授業  「経済学」という学問体系のイメー うに発展してきたのかを説明出来るよ 既要を確認する。 持徴と市場メカニズムを確認する。 考え方と基本用語を説明できるように 内容を踏まえながら、実際の経済政策 ついて学ぶと同時に応用経済学の意義 について理解し、その具体例と対処法 を理解した上で、現実に行われている 課題を説明できるようになる。 に格差がある状況がなぜ継続してきた 構造的に説明できるようになる。 グローバル危機の特徴を構造的に説明 る。合わせて、現在懸念されている課
□ アクラ	ゴー	修上の区分 ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	図 ICT 利用 授業内容 ガイダンス,経済学の基礎1:経済学 経済学の基礎2:経済学の誕生 経済学の基礎3:経済学の系譜とその 学問体系を理解する1:「ミクロ経済学 学問体系を理解する2:「マクロ経済学 中間総括1:アベノミクスを考える 学問体系を理解する3:教育と外部性学問体系を理解する4:廃棄物の行 国際経済を考える1:コーヒーの話 国際経済を考える2:「途上国」と	の記載事項を前提 図 遠隔授業対応 学の可能性  D世界 発学」とは? 発学」の論点  は ためかられる。	に説明するので、 週でで、 週でで、 週でで、 週でで、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一般では、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一を	参考資料として活用してください。  「実務経験のある教員による授業  「経済学」という学問体系のイメー うに発展してきたのかを説明出来るよ  既要を確認する。 特徴と市場メカニズムを確認する。 考え方と基本用語を説明できるように  内容を踏まえながら、実際の経済政策 ついて学ぶと同時に応用経済学の意義 について理解し、その具体例と対処法 を理解した上で、現実に行われている 課題を説明できるようになる。 に格差がある状況がなば継続してきた 構造的に説明できるようになる。 グローバル危機の特徴を構造的に説明 る。合わせて、現在懸念されている課 ない幅広い視野と関係指標をもとに、
□ アクラ	ライブラー: 国 3rdQ	修上の区分 ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	図 ICT 利用  授業内容 ガイダンス,経済学の基礎1:経済学 経済学の基礎2:経済学の誕生 経済学の基礎3:経済学の系譜とその 学問体系を理解する1:「ミクロ経済学 学問体系を理解する2:「マクロ経済学 中間総括1:アベノミクスを考える 学問体系を理解する3:教育と外部性学問体系を理解する4:廃棄物の行力 国際経済を考える1:コーヒーの話 国際経済を考える2:「途上国」と 国際経済を考える3:グローバル危機	の記載事項を前提 ② 遠隔授業対応 ③ 遠にの事態 ② 遠にの事態 ③ こと外部不経済 ③ こと外部不経済 ③ こと外部不経済 ③ こと外部不経済	に説明するので、 週でで、 週でで、 週でで、 週でで、 一でで、 週でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、 一でで、	参考資料として活用してください。  「実務経験のある教員による授業  「経済学」という学問体系のイメー うに発展してきたのかを説明出来るよ  既要を確認する。 持徴と市場メカニズムを確認する。 考え方と基本用語を説明できるように  内容を踏まえながら、実際の経済政策 ついて学ぶと同時に応用経済学の意義 について理解し、その具体例と対処法 を理解した上で、現実に行われている 課題を説明できるようになる。 に格差がある状況がなぜ継続してきた 講造的に説明できるようになる。 がローバル危機の特徴を構造的に説明 る。合わせて、現在懸念されている課 ない幅広い視野と関係指標をもとに、 地位を検討する。
□ アクラ	ライブラー: 国 3rdQ	修上の区分 ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	図 ICT 利用  授業内容 ガイダンス,経済学の基礎1:経済学 経済学の基礎2:経済学の誕生 経済学の基礎3:経済学の系譜とその 学問体系を理解する1:「ミクロ経済学 学問体系を理解する2:「マクロ経済学 中間総括1:アベノミクスを考える 学問体系を理解する3:教育と外部性学問体系を理解する4:廃棄物の行力 国際経済を考える1:コーヒーの話 国際経済を考える2:「途上国」と 国際経済を考える3:グローバル危機中間総括2:国際社会から見た日本日本の経済を考える1:イノベーショ	の記載事項を前提 ② 遠隔授業対応 ③ ことの可能性 ⑥	に説明するので、 週でで、 週でで、 週でで、 週でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一般でで、 一でで、 一でで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一でで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一でででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一でで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一でで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一でででで、 一ででで、 一ででで、 一でで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、 一ででで、	参考資料として活用してください。  □ 実務経験のある教員による授業  □ 実務経験のある教員による授業  □ 実務経験のある教員による授業  □ に発展してきたのかを説明出来るように発展してきたのかを説明出来るよいで発展してきたのかを説明出来るよいで表表すと基本用語を説明できるように大容を踏まえながら、実際の経済政策  □ いて学ぶと同時に応用経済学の意義について理解し、その具体例と対処法を理解した上で、現実に行われている課題を説明できるようになる。 □ に格差がある状況がなぜ継続してきた構造的に説明できるようになる。 □ がある状況がながいになる。 □ がある状況がながいになる。 □ がある状況がながまずさいにいる課題を対したとで、現実に行われている。 □ はいにはいますできるようになる。 □ いしたとで、現を懸念されている課ない幅点にい視野と関係指標をもとに、地位を検討する。  □ マーション主導型経済」が求められて
□ アクラ	ライブラー: 国 3rdQ	修上の区分 ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	図 ICT 利用  授業内容 ガイダンス,経済学の基礎1:経済学 経済学の基礎2:経済学の誕生 経済学の基礎3:経済学の系譜とその 学問体系を理解する1:「ミクロ経済学 学問体系を理解する2:「マクロ経済学 中間総括1:アベノミクスを考える 学問体系を理解する3:教育と外部性学問体系を理解する4:廃棄物の行力 国際経済を考える1:コーヒーの話 国際経済を考える2:「途上国」と 国際経済を考える3:グローバル危機中間総括2:国際社会から見た日本 日本の経済を考える2:「働き方」を	の記載事項を前提 ② 遠隔授業対応 ③ ことの可能性 ⑥	に説明するので、 週週では、 週週では、 週週では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一点では、 一は、 一は、 一は、 一は、 一は、 一は、 一は、 一	参考資料として活用してください。  「実務経験のある教員による授業  「経済学」という学問体系のイメー うに発展してきたのかを説明出来るよ  既要を確認する。 特徴と市場メカニズムを確認する。 考え方と基本用語を説明できるように  内容を踏まえながら、実際の経済政策 ついて学ぶと同時に応用経済学の意義 について理解し、その具体例と対処法 を理解した上で、現実に行われている 課題を説明できるようになる。 グローバル危機の特徴を構造的に説明できるようになる。 グローバル危機の特徴を構造的に説明できるようになる。 グローバル危機の特徴を構造的に説明できるようになる。 グロージョン主導型経済」が求められて もかせて、現在懸念されている課 ない幅広い視野と関係指標をもとに、 地位を検討する。  べーション主導型経済」が求められて 意義を説明できるようになる。 慣行を確認し、課題を考察する。 を総括し、今後の活動に役立つであろ
□ アクラ	ライブラー: 国 3rdQ	修上の区分 三ング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	図 ICT 利用  授業内容 ガイダンス,経済学の基礎1:経済学 経済学の基礎2:経済学の誕生 経済学の基礎3:経済学の系譜とその 学問体系を理解する1:「ミクロ経済学 学問体系を理解する2:「マクロ経済学 中間総括1:アベノミクスを考える 学問体系を理解する3:教育と外部性学問体系を理解する4:廃棄物の行力 国際経済を考える1:コーヒーの話 国際経済を考える2:「途上国」と 国際経済を考える3:グローバル危機中間総括2:国際社会から見た日本日本の経済を考える1:イノベーショレナー	の記載事項を前提 ② 遠隔授業対応 ③ ことの可能性 ⑥	に説明するので、 週野学を 経済に 大 ククる れ評外実 外確 際易 国の、にる確 活の近ののる。 がっま価 部感 部認 質のの、にる確 活の近の とって 経済 不す 易構 経歴 起よ認 動国 年か 本の とう は 大 クラ の と の の の の と の で の で の で の で の で の で の	参考資料として活用してください。  「実務経験のある教員による授業  「経済学」という学問体系のイメー うに発展してきたのかを説明出来るよ 問要を確認する。 特徴と市場メカニズムを確認する。 考え方と基本用語を説明できるように 内容を踏まえながら、実際の経済政策 ついて学ぶと同時に応用経済学の意義 について理解し、その具体例と対処法 を理解した上で、現実に行われている 課題を説明できるようになる。 に格差がある状況がなせ継続してきた 構造的に説明できるようになる。 でもわせて、現在懸念されている課 ない幅広い視野と関係指標をもとに、 地位を検討する。 べーション主導型経済」が求められて 意義を説明できるようになる。 慣行を確認し、課題を考察する。 を総括し、今後の活動に役立つであろ

評価割合											
	レポート	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計				
総合評価割合	50	0	0	20	30	0	100				
基礎的能力	50	0	0	20	30	0	100				
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0				
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0				

生八组		等専門学校	文 開講年度	令和06年度 (2	2024年度)	授業科目	日本史
<u> </u>		<del>उस</del> । 1 <del>उ</del>	、	文 <del>(十</del> 00円でに	<u> </u>		山作义
科目番号	上月刊	0091			科目区分		扣
授業形態		授業			単位の種別と単位		
開設学科			料(一般科目)		対象学年	5 5	· <del>-</del>
開設期		後期	TI ( /bxTILI)		週時間数	2	
教科書/教	材	教科書:	自作プリント/参考、= フロイスの日本覚 ・間」(中公新書)、	書」(中公新書)	系「中世政治社会! 、 網野善彦「日本	思想(上・下)」 社会の歴史(上・	・中・下)」(岩波新書)、山室恭子
担当教員		木村 由	€				
2) 史料7 3) 特定6 4) 多様7 5) 文化6 7) 歴史2	的用語・制度を解釈できるの制度や出現な生活文化、 の制度ではよいの相違に起いの多様性を記めの方法。	る 来事あるいに 民族・宗教 因する諸問題 忍識し、互い	はに関して説明できる は一定の史料から、戦などの文化的諸事象 ほについて、歴史的観いの文化を尊重するこれ社会の問題点を整	国社会の特質を導 について、歴史的 点から理解できる との重要性を理解	観点から理解できる ! !できる	3 3	
ルーブリ	<u> </u>				T.—		T
			理想的な到達レイ		標準的な到達レク		未到達レベルの目安
に関して	説明できる	度などの知識 	して正確に、論理	里的に説明できる_	基本的用語・制度して説明できる		基本的用語・制度などの知識に関して説明できない
	を解釈できる		史料を正確に解釈		史料を解釈できる		史料を解釈できない
一定の史料を導き出す	料から、戦[ すことができ		が の史料から、戦闘 理的に説明できる		特定の制度や出来の史料から、戦国 き出すことができ	社会の特質を導 る	き出すことができない
などの文化		民族・宗教 こついて、歴 きる	参議な生活文化、 の文化的諸事象は 観点から論理的は	こついて、歴史的	多様な生活文化、 の文化的諸事象に 観点から理解でき	こついて、歴史的	多様な生活文化、民族・宗教など の文化的諸事象について、歴史的 観点から理解できない
		因する諸問題 点から理解で	文化的相違に起こ いて、歴史的観点 明できる	国する諸問題につ 点から論理的に説	文化的相違に起因いて、歴史的観点		文化的相違に起因する諸問題について、歴史的観点から理解できない
	尊重するこ	認識し、互い との重要性を		生を認識し、互いることの重要性を きる	文化の多様性を認 化を尊重すること できる		6)文化の多様性を認識し、互い の文化を尊重することの重要性を 理解できない
		命を用い、現 里することか	7)歴史批判の7	方法論を用い、現	7)歴史批判の方 代社会の問題点を できる		7) 歴史批判の方法論を用い、現 代社会の問題点を整理することが できない
		頁目との関			1		1 2 2 3 7
Ⅱ 実践 Ⅲ 国際	性 2 II II 性 3 III II	人間性 実践性 国際性					
<u>教育力为</u>	女寺	. 1 77 .	サ 分 科 学 的 お 知 占 わ	.c.l.問	ルについて名声的に	二田紀(三阪分	 :会の一員として社会的諸問題の解決
概要		に向けて ・人間活 素養を培 ・上記の	三主体的に貢献する自 動や科学技術の役割 行う。 D目標を達するため、 Dりかたを検討し、中	覚と素養を培う。 と影響に関心を持 具体的には日本史	ち、幸福とは何かる 上の転換点とされる	を追究しながら、 る戦国時代を主た	法の一員として社会に貢献する自覚と技術者として社会に貢献する自覚とる対象とし、法・社会・対外関係・治以降の日本の近代化についての展
		・配布資 ・事前学	料等を用いて、教員 修として、60時間を	による説明で授業 と要する「関連キー	を進める。 -ワード調査」を課 [:]	<b>す</b> 。	
授業の進ん	め方・方法		到達度試験30%、定	E期試験50%、課題		調査) 20%の割	合で評価する。合格点は60点以上であ
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	73.12	に掲げた	、 60点に達しない者に 到達度試験・定期試 は60点とする。	には、再試験を学期 験の割合を2/3に	]末(試験範囲:全 王縮し、残り1/3に	授業内容)に実施 再試験の点数を3	画する。再試験を実施した場合、上記 でて再評価する。但し、この場合、評
注意点		成されて	毎に提示する関連キいることを確認する 再調査を求める。	ーワードについて 。また、試験にお	ーーー 自学自習により調/ いて目標が達成され	 べること。調査結 つていることを確	果は授業項目毎に回収し、目標が達 認する。目標が達成されていない場
授業の属	属性・履作	多上の区分				_	
 □ アクテ	-ィブラーニ	ング	□ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
授業計画	<u> </u>						
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
		1週	1. 公儀権力と戦国 1-1「イエ」の成立			である「公儀」の	単位である「イエ」、中近世の公権力 )特質を理解し、現代社会及び現代に 目違点を論理的に説明できる
後期	3rdQ	2週	1. 公儀権力と戦国 1-2「イエ」と公儀			中世社会の基本 である「公儀」の おける権力との村	単位である「イエ」、中近世の公権力 特質を理解し、現代社会及び現代に 目違点を論理的に説明できる
		3週	1. 公儀権力と戦国 1-3鎌倉幕府と室町			中世社会の基本質である「公儀」の	単位である「イエ」、中近世の公権力 )特質を理解し、現代社会及び現代に

	4週	1. 公儀権力と 1-4戦国社会と			中世社会の基本! である「公儀」の おける権力との	の特質を理解し	工」、中近世の公権力 、現代社会及び現代に に説明できる			
	5週	1. 公儀権力と 1-5戦国法の特質	戦国社会⑤ 質〜喧嘩両成敗法〜	,	中世社会の基本である「公儀」のおける権力との	の特質を理解し、	工」、中近世の公権力 、現代社会及び現代に に説明できる			
	6週	2. 豊臣平和令 2-1織豊政権の原	① 歴史的位置付け		豊臣政権の目指 「平和」との相談 に説明できる	豊臣政権の目指した「平和」の意味を理解し、現代の 「平和」との相違点及び現代社会の問題点を、論理的 に説明できる				
	7週		② 事令」と天下統一		豊臣政権の目指 「平和」との相談 に説明できる	豊臣政権の目指した「平和」の意味を理解し、現代の 「平和」との相違点及び現代社会の問題点を、論理的 に説明できる				
			3		豊臣政権の目指 「平和」との相 に説明できる					
	9週	2.豊臣平和令2-4「伴天連追加			豊臣政権の目指 「平和」との相 に説明できる	豊臣政権の目指した「平和」の意味を理解し、現代の 「平和」との相違点及び現代社会の問題点を、論理的 に説明できる				
	10週		⑤ D歴史的意義		豊臣政権の目指 「平和」との相談 に説明できる	した「平和」の 違点及び現代社	意味を理解し、現代の 会の問題点を、論理的			
	11週		崩壊と江戸幕府のG ・勘合貿易・倭寇	<b>龙立</b> ①	豊臣政権の崩壊。 を理解し、近現 的に説明できる	から江戸幕府の 代国家と国民の	成立にいたる政治過程 あり方について、論理			
4thQ	12週	3. 豊臣政権の 1-2「朝鮮出兵」	崩壊と江戸幕府の励	龙立②	豊臣政権の崩壊が を理解し、近現の 的に説明できる	から江戸幕府の 代国家と国民の	成立にいたる政治過程 あり方について、論理			
	13週	3. 豊臣政権の 1-3秀次%	崩壊と江戸幕府の励	<b>龙立</b> ③		豊臣政権の崩壊から江戸幕府の成立にいたる政治過程 を理解し、近現代国家と国民のあり方について、論理 的に説明できる				
	14週	3. 豊臣政権の1-4「関ヶ原の質	3. 豊臣政権の崩壊と江戸幕府の成立④ 1-4「関ヶ原の戦い」			豊臣政権の崩壊から江戸幕府の成立にいたる政治過程 を理解し、近現代国家と国民のあり方について、論理 的に説明できる				
	15週	3. 豊臣政権の 1-5「大坂の陣」	崩壊と江戸幕府の6 と「元和偃武」	<b>戊立</b> ⑤		豊臣政権の崩壊から江戸幕府の成立にいたる政治過程 を理解し、近現代国家と国民のあり方について、論理 的に説明できる				
	16週	定期試験								
評価割合				1	T	1				
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリス		合計			
	0	0	0	0	0	0	0			
	0	0	0	0	0	0	0			
13.1 3. 31307 5	0	0	0	0	0	0	0			
分野横断的能力	ß横断的能力 0		0	0	0	0	0			

<b>芷</b> 小奶		 等専門学校	開講年度	令和06年度 (2	2024年度)	授業和		社会学	
<u> </u>		<del>╗╗</del> ╗╅		│ <del>▽</del>	-04寸十/又/	_   JX <del>末</del> 1	<u> </u>	上厶丁	
科目番号	足旧取	0092			科目区分		投 / 選	択	
授業形態		授業			単位の種別と単位		<del>区 / 区</del> 修単位		
開設学科					対象学年		5		
開設期		前期			週時間数	2			
教科書/教	· 材	マックス・	ウェーバー(濱嶋	闘朗訳) 2012 『権力	」と支配』講談社	(講談社学術	前文庫)		
担当教員		多田 光宏,	坂 敏宏						
到達目標	票								
る自覚とする人間活動	素養を培う。 動や科学技術	0						背問題の解決に向けて主体的に貢献す ぱする自覚と素養を培う。	
ルーブリ	ノック		T		T			T	
			理想的な到達レイ		標準的な到達レイ			未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1	1		, ウェーバーの   よび理論ならび(   現代社会の基本	は考え方とともに 社会学の方法論お こそれにもとづく 構造の概念的定式 の使い方を含めて る.	社会学の基本的が , ウェーバーので よび理論ならびに 現代社会の基本を について, 大また。	社会学の方注 こそれにもで 構造の概念的	法論お とづく 的定式	位去子の基本的な考え方とともに ・ウェーバーの社会学の方法論お よび理画ならびにそれにもとつて 現代社会の基本様法の概念的です	
学科の到	到達目標耳	項目との関係	Ŕ						
Ⅱ 実践	性 2 Ⅱ 🥻	人間性 実践性 国際性							
教育方法	去等								
概要		の時代から	現代までのさまさ	ぎまな学説,理論の	あり方を概観する	とともに,	とくに	、という問いについて,古代ギリシア マックス・ウェーバーの社会学の方 造の概念的定式を学びます.	
授業の進め	め方・方法	を読み進め  」とは何か	)ます. ウェーバー )が理解できるとと	ーバー以前の社会 -の「支配の社会学 :もに,ウェーバー :うになる内容を目	」をつうじて,社 のテキストに書か	識のあり方 会学がどの れているこ	を概観 ような とと現	まするとともに、指定の教科書の内容 学問であるか、社会における「支配 まの社会生活との関係性について主	
注意点		科学の一分 てご意いで 注はいう ながら して と がど して と り で り で り で り で り で り で り で り で り で り	・野として,対象と でそうした問題に しいと思います. 予習においても復 に生じているさま	こしての社会現象のこたいする何らかの 「誰といする何らかの	「客観的」な認識 実践的な解決策が 来的にひとりの社 象・問題に関心を	ないし叙述 直接引き出 会人として	をめざ される 社会に	学問としての社会学は、さしあたりですものであるということ、したがったのではないのだということにまずこ主体的にかかわる自分の姿を想像しで学習した内容がそうした問題にたい	
		修上の区分	1		T			1	
□ アクテ	-ィブラーニ	ニング	□ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応	,		□ 実務経験のある教員による授業	
15.11/-1-7									
授業計画	<u> </u>	T. T.							
		<del>                                     </del>	受業内容 *** *** ***			週ごとの到			
		1週 カ	ブイダンス <u></u>					うとすることが理解できる.	
		2週 さ	5代,中世および近	丘世における社会の	とらえ方			D時期における社会のとらえ方がどう できる.	
		3週 社	上会学の成立と実訂	·····································		コントによ	だったかが理解できる. コントによる草創期の社会学の考え方とその展開とし		
				************************************	社会批判	マルクスより方の理論	ふよびフ	の理論が理解できる。 アドルノの理論をつうじて, 社会のあ 歳とその実践的展開のあり方が理解で	
l	1stQ	5週 5	フェーバー社会学の	 D概要		きる. ウェーバー できる.	-の社会	会学の概要とその方法論的特徴が理解	
		6週 ウ	フェーバーの社会等	学:方法論的基礎概	念	ウェーバー 理解できる	5.	会学で用いられる方法論的基礎概念が	
<del>3</del> 5.#□		7週 ウ	フェーバーの社会等	学:方法論的基礎概	念 (つづき)	的基礎概念	が理解		
前期		8週 ウ	フェーバーの社会等	学:理論的基礎概念		,そこで用	いられ	学としての「理解社会学」の概要が 1る概念とともに理解できる. - バー社会党は1000000000000000000000000000000000000	
		9週 ウ	フェーバーの社会等	学:理論的基礎概念	: (つづき)	ひきつづき 」の概要か る.	:, ウコ バ, そこ 	r ーバー社会学としての「理解社会学 こで用いられる概念とともに理解でき	
l		10週 🖰	フェーバーの支配社	社会学:支配の3類	<u> </u>	教科書にそ の内容が理	くして と解でき	て, ウェーバーによる「支配の3類型」 きる.	
	2ndQ	11週 💆	フェーバーの支配社	t会学:合法的支配	ļ	る.		て, 「合法的支配」の概要が理解でき	
		12週 🖰	フェーバーの支配社	t会学:官僚制的支 ————————————————————————————————————	配の概要	「官僚制的	支配」	て,「合法的支配」の具象化としてのの概要が理解できる。	
				上会学:官僚制的支		きる.		て、「官僚制的支配」の特徴が理解で	
		14週 5	フェーバーの支配社 加原理	t会学:官僚制組織 		教科書にそが理解でき		て, 官僚制組織の長所および活動原理 	

	13/5		ウェーバーの支配社会学: 民主制にたいする官僚制の 関係			民主制と官僚制との関係および両者の構造的衝突の理論が理解できる.			
			定期試験						
評価割合									
	試懸	<b></b>	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	70		0	0	0	0	30	100	
基礎的能力	70		0	0	0	0	30	100	
専門的能力	0		0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0		0	0	0	0	0	0	

<del>**</del> /1\#	4.工業官	* 声明 学	門護左帝   今和06左帝 /	(2024年度)	拉米扒口	第一か <b>団</b> 語 A
		等専門学校	開講年度 令和06年度(	_2024年度)	授業科目	第二外国語 A
科目基礎	正	0000		初日匠八	фл. / Nas	
科目番号 授業形態		0093 授業		科目区分	一般 / 選 一般 / 選 一般 / 選	
開設学科				単位の種別と単位 対象学年	.致 子修单位 5	.: Z
開設期		前期	4 ( 加文作4日)	週時間数	2	
<u> </u>	·**		  \幡敏行「大学一年生のための合格る			
担当教員	(12)	山際明利	「一個一人」「八子 キエックにのの日相で		L	
到達目標	<u> </u>	Діју 17313				
1)現代海 2)漢語抗 3)現代海 4)現代海	漢語の発音( 拼音法案の 漢語の基礎 漢語の基礎	規則を記憶し、 的文法事項を記	」、その知識に基づいて正しく発音で その知識に基づいて拼音を正しく 記憶し、その知識に基づいて基本的な 記憶し、その知識に基づいて基本的な	発音でき、また漢語を 3現代漢語会話を理解	解し、的確に論述	夏文できる。 忙できる。
ルーブリ	ノック			1#2#145 to 7012 to 1		+ 70 + 1
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベ		未到達レベルの目安
発音の規則	<b>U</b>		到達目標を充分に満たしている	到達目標を必要な   ている		到達日保を満たしていない
漢語拼音法	法案の規則		到達目標を充分に満たしている	到達目標を必要な ている	程度まで満たし	到達目標を満たしていない
現代漢語の	の会話		到達目標を充分に満たしている	到達目標を必要なている	程度まで満たし	, 到達目標を満たしていない
現代漢語ス	文の解釈		到達目標を充分に満たしている	到達目標を必要なている	程度まで満たし	, 到達目標を満たしていない
学科の至	<u>]達</u> 目標I	項目との関係	系			
Ⅲ 国際	性 2 Ⅱ : 性 3 Ⅲ Ⅰ	人間性 実践性 国際性				
教育方法	5等				L	. =
概要			漢語 (現代中国語・普通話) の習得、			<u>でする。</u> と積み重ねる。後半は現代漢語の基本
注意点		合格点は6 教科書添作 よび提出物	0点である。なお特段の事情有る場合 対のコンパクトディスクを利用して乳がによって評価する。 対ではないで評価する。 は学修単位科目であり、事前・事後等	会を除いて再試験は3 発音ならびに聴解の自 学習として「教科書添	実施しない。 1学自習を行なう 	作業課題提出10%の割合で行なう。 うこと。自学自習の成果は口頭試問お ディスクの聴取による聞き取り・発音 か、合計60時間の自学自習時間が必要
授業の属	属性・履信	多上の区分				
□ アクテ	-ィブラーニ	ニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
	 5ī					
汉未可坚	<u> </u>	週				
			<del>2条内台</del> 1. ガイダンス			
		1週	1. パーノンハ 2. 発音 2-1 音のなりたち			意義と留意点とを理解する。 構造を記憶する。
		2週	2-2 母音・複母音・鼻母音(韻	<del>引</del> )	韻母のバリエー:	ションを記憶し、正しく発音できる。
		3週	2-3 子音 (声母)	Ē	⁼ 母のバリエー:	ションを記憶し、正しく発音できる。
		4週	2-4 軽声・儿化	<b>#</b>	経声・儿化の概念	念を理解し、正しく発音できる。
	1stQ	5週	2-5 声調の変化 3. 基本会話			意し、正しく変調させることができる
		C)E	3-1 你叫什么名字?			問文、動詞述語文の規則を記憶する。 
		6週	3-2 這叫油条嗎? 3-3 豆漿好喝不好喝?			馬」疑問文の構造を記憶する。 窓記述語文の構造を記憶し、それを用
		7週	3-3 豆浆好喝个好喝? (中間試験)	U	ハて正しく論述「	
前期		8週	3-4 你家有几口人?	Ī	Eしく論述できる	
		9週	3-5 你是北方人還是南方人?	j I	選択疑問文、「i Eしく論述できる	
		10週	3-6 明天我們去長城玩儿。	В	車動文の構造を 時間の言い方を	記憶する。
		11週	3-7 我有点儿累了。			を記憶し、正しく表現できる。
	2ndQ	12週	3-8 你以前爬過長城嗎?			を記憶し、正しく解釈できる。
		13週	3-9 優花、坐着看吧!	Ē	可能表現の方法を	用法を記憶し、正しく解釈できる。 を記憶し、正しく表現できる。
ı		14週	3-10 山后走出来一箇漂亮姑娘。			<b>蛟文の構造を記憶する。</b>
		15週	3-11 這烤鴨味道不錯。	-  -  -	二重目的語文の       本種副詞   助詞の	構造を記憶する。 D用法を記憶する。

	16週	定期試験				
評価割合						
	定期試験	到達度試験	口頭試問	発言	提出課題	合計
総合評価割合	30	25	25	10	10	100
基礎的能力	25	25	20	10	10	90
専門的能力	5	0	5	0	0	10
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

科目 基分				L 1 00-#-	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \		1=11/41	. le 1 + l+
関連			等専門字核	開講年度	令机06年度 (2	2024年度)	授業科目	1  日本事情
接受			1			Tau——	Ι.	127 LP
開発学科   回日工学科 (一般科目)								
				TH ( +2 TH = )		, ·		位: 2
新書記・レジュメ・西朝神を動所する人の名を知道・、色々本観に 1/ローズアンプ目本等係 1.51 世 japana times、1 音子生の必要の日本等時人で大型際。 1/フィスド本構画、機力が成人人本学主義機関人及日本語を育むシタープ / フを支着料:独立行政法人人を学生支援機関人及日本語を育むシタープ / フを支着料:独立行政法人人を学生支援機関人及日本語を引きたシーク   全人本   全人本   を入まる。 1 日本の音か   大型   大型   大型   大型   大型   大型   大型   大				料(一般科目)				
###	開設期				==- (0.5:=	-12.		
到達目標 1. 日東の連か、文化、西水、路台、海洋常に関する森木的な知識を習得し、自国との比較判観点から説明できる。 3. 今名の17年級に精神的に取り組み、日本経を整使して適切に表現することができる。 3. 今名の17年級に精神的に取り組み、日本経を整使して適切に表現することができる。 1. 日東の社会、文化、西水、海洋、海洋の大き、東京の地域である。 1. 日東の社会、文化、西水、海洋、海洋の大き、大学、西水、海洋、海洋の大き、大学、西水、海洋、海洋、海洋、海洋、海洋、海洋、海洋、海洋、海洋、海洋、海洋、海洋、海洋、	教科書/勃	<b>枚材</b>	留学生の	ため閣の日本事情入	、門』文理閣、『ク	イズ日本事情』(独	总立行政法人日	]本学生支援機構大阪日本語教育センタ
1. 日本の社会・文化・歴史・政治・経済等に関する基本的な知識を習得し、自国との比較削離点から説明できる。 2. 得人は大きが担くる師庭について認明できる。 2. 有人なおれて課題に関連側に取り組み、日本語を駆使して逆切に表現することができる。 3. 有人なおれて課題に関連側に取り組み、日本語を駆使して逆切に表現することができる。 日本の社会・文化・歴史・政治・経済等に関する基本的な知識を習得し、自国との比較的能力から 5分別できます。対象は関係できる。 日本の社会・文化・歴史・政治・経済等に関する基本的な知識を習得し、自国との比較的能力がらら別的できる。 1 日本の社会・文化・歴史・政治・経済等に関する基本的な知識を習得し、自国との比較的能力がらら別できる。 1 日本の社会・文化・歴史・政治・経済等に関する基本的な知識を習得し、自国との比較的能力がららの。 1 日本の社会・文化・歴史・政治・経済等に関する基本的な知識を習得し、自国との状態的能力やらい 5分別できる。 1 日本の社会・文化・歴史・政治・経済等に関する基本的な知識を習る。 1 日本の社会・文化・歴史・政治・経済等に関する基本的な知識を習る。 1 日本の社会・文化・歴史・政治・経済等に関する基本的な知識を否として必要ができる。 2 現代日本社会が投るる問題点について、成態的できる。 2 現代日本社会が投るる問題点について、成態的できる。 2 またとができる。 2 またとが変に 3 またとが変に 4 またとととでは 4 またとととでは、2 またととととを表現的に対象できる。 2 またとととを表現を表現を表現できる。 2 またととを表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	担当教員		佐々木采	<b>%</b>				
1. 日本の社会・文化・原史・改 治・経済等に関する[基本が入却]識 を認った。日本の社会・文化・原史・改 治・経済等に関する[基本が入却]識 を認った。日本の社会・文化・原史・改 自然のよりの比較的総点から の説明できる。 2. 現代日本社会が抱える問題は、 別代日本社会が抱える問題は、 分 与えられて建設には関的に関する 分 与えられて建設には関する[基本が入功]の表 が表することができる。 2. 現代日本社会が抱える問題は、 別代日本社会が抱える問題は、 分 日本地を駆使して超切に	1. 日本2. 現代	の社会・文	抱える問題点	について説明できる	5.			的できる。
1 日本の社会・文化、歴史・政治	<u>ルーブ</u>	リック				T		T. =0.2 = =
治・経済等に関する基本的な知識を習得し、自国との比較的機品が予報できる。 を設めてきる。 2、現代日本社会が抱える問題点に対している。 対してきる。 3、男子の方に登聴に移動的に取り表している。 対してもるが抱える問題点についている研究を表している。 対してもるが抱える問題点についても変更に移動的に取り相対を表している。 対してもるが抱える問題点についても変更に移動的に取り表します。 対してもるが抱える問題点についても変更に移動的に取り相対を表している。 対してもるが見るとしたできる。 学科の到達目標項目との関係  1 人間性 2 世界の指導を持ているとしたが失る。 対象方とことができる。 対象方とことができる。 学科の到達目標項目との関係  1 人間性 1 人間性 1 人間性 1 人間性 1 人間性 1 人間性 2 世界の指導を対象 1 人間の 2 世界の対象を対象 2 世界の対象を対象 2 世界の対象を対象 2 世界の対象を対象 2 世界の対象と思うしたができる。 対象方とは、 1 国際性 2 世界の進め方・方法 2 世界の指導を対象 2 世界の表したが表していることを対象 2 世界の推断を表しないる。 2 世界の推断方・方法 2 世界の担心を対象を対象 2 世界の推断を表したいた。 2 世界を表しないた。 2 世界の対象をする。 3 課題等のはか 1 世界の推断方・方法 2 世界の推断を表したいた。 2 世界の推断を表したいた。 2 世界の推断を表したいた。 2 世界を表したいた。 3 世界を表したいた。 3 世界を表したいた。 3 世界を表したいた。 3 世界を表しましたが行ることが望ましい、 1 世界を表したいた。 3 世界を表しました。 3 世界を表したいた。 3 世界を表別目に、 6 年間との経過を発用し、 6 年間との経過を表した。 7 年の第2 年の日のとの主意を表した。 7 年の日の日の日の日の組造を習得し、 6 日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日		- 11 0 1				1000		
について延期できる。 いての期できる。 いての期できる。 いての期できる。 いての期できる。 いての対策に持動的に取り相 カー 日本請を駆使して適切に表現 ちっとのようない。 ちっとのは、	治・経済 を習得し	等に関する 、自国との	基本的な知識	は  経済等に関する! ^  得し、自国との!	化・歴史・政治・ 基本的な知識を習 比較的観点から説	経済等に関する基得し、自国との比	本的な知識を	習 経済等に関する基本的な知識を習 一 得し、自国との比較的観点から説
が担かってきる。 学科の到達目標項目との関係  「共和性 1				いて説明できる。	)	現代日本社会が抱いて一応説明でき	える問題点に る。	つ 現代日本社会が抱える問題点につ いて説明できない。
学科の到達目標項目との関係  I 人間性 1 I 人間 I 人間	り組み、	日本語を駆	使して適切に	:  み、日本語を駆作	使して適切に表現	み、日本語を駆使	して一応適切	に み、日本語を駆使して適切に表現
						,		, · ·
機要	Ⅱ 実践 Ⅲ 国際		実践性					
目的とする。	教育力:	<u>法</u> 寺	★10日/+	・本口の学生が女宝!	た学生生活を過ぎ	サストシに 口木の		国十 麻山
世界の進め方・方法 日本の授棄のための復習時間を含めて、60時間の自写自習時間が必要である。 関連等は、明確がは外国人留学生に限定する。 関連修者は外国人留学生に限定する。 関連修者は外国人留学生に限定する。 関連修者は外国人留学生に限定する。 関連修者は外国人留学生に限定する。 関連修者は、日頃より自本語の新聞等に触れ、日本の社会問題や社会情勢に関心をもつよう心がけることが望ましい。 投業で扱うテーマについて、口頭発表の準備をするために、図書館等を利用し、自学自選に取り組むこと。 口頭発表後、その内容をレポートとしてまえために、図書館等を利用し、自学自選に取り組むこと。 の成績は、課題提出50%。口頭発表25%。討論25%の総合評価で、60点以上を合格とする。学業成績が60点未満の者に対して総合レポートを課し、ルーブリックの標準的な到達度レベルを満足していることが確認できた場合60点とする。 授業の属性・履修上の区分 ロアクティブラーニング ロICT 利用 ロ 遠隔授業対応 ロ 実務経験のある教員による授業 授業計画	概要		一般的な知	深口留チェが元笑し 識を身につけさせ、 る。	それと同時に、日	本と自国との差異に	ついても客観	風工、歴史、政治、経済等に関する基 間的に説明できる力をつけさせることを
議修者は、目頃より日本語の新聞尊言触れ、日本の社会問題や社会情勢に関心をもつよう心がけることが望ましい。 授業で扱うテーマについて、口頭発表の準備する方とかに、図書館等を利用し、自学自習に取り組むこと。 成構は、課題担知50%、口部発表25%。就過点25%の総合評価で、60点とを合格とする。学業成績的60点未満の者に 対して総合レポートを課し、ループリックの標準的な到達度レベルを満足していることが確認できた場合60点とする。 授業の属性・履修上の区分 ② アクティブラーニング ② ICT 利用 ② 遠隔授業対応 ③ 実務経験のある教員による授業 授業計画 ③ 授業内容 過ごとの到達目標 1週 日本ってどんな国? 日本語で的確に表現できる。 2週 都市の暮らし・地方の暮らし 日本語で的確に表現できる。 3週 食生活事情 食な認識し、日本語で的確に表現できる。 4週 季節を楽しむ年間行事 気部で観光についての知識を習得し、自国との相違点を認識し、日本語で的確に表現できる。 5週 「日本の生活事情」に関する発表 グ生が事間とついたの知識を習得し、自国との相違点を認識し、日本語で的確に表現できる。 5週 日本の歴史① 気調してアンロの知識を習得し、自国との相違点を認識し、日本語で的確に表現できる。 6週 日本の歴史① 大きな説は、日本語で的確に表現できる。 7週 日本の歴史② 大きな説は、日本語での確に表現できる。 8週 日本の歴史② 日本の歴史についての知識を習得し、自国の伝稿文化との相違点を認識し、日本語で例確に表現できる。 9週 「日本の歴史② 日本の歴史についての知識を習得し、自国の伝稿文化との相違点を認識し、日本語で例確に表現できる。 10回 日本の歴史② 日本の歴史についての知識を習得し、自国との相違点を認識し、日本語で例確に表現できる。 11回 日本の歴史② 日本の歴史についての知識を習得し、自国との相違点を認識し、日本語で例確に表現できる。 11回 日本の歴史② 日本の歴史についての知識を習得し、自国との相違点を認識し、日本語で例確に表現できる。	授業の進	め方・方法	:  この科目	は学習単位科目のた	ため、事前・事後学	習としてレポート等	<b>その課題等を課</b>	及び討論によって進める。 とし、評価の対象とする。課題等のほか
図 アクティブラーニング 図 ICT 利用 図 遠隔授業対応 □ 実務経験のある教員による授業 授業計画  週 授業内容 週ごとの到達目標 1週 日本ってどんな国?	注意点		履修者は授業で扱いのでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	、日頃より日本語の ・ラテーマについて、 後、その内容をレオ 課題提出50%、口頭 合レポートを課し、	)新聞等に触れ、日 口頭発表の準備を ポートとしてまとめ 頂発表25%、討論2	するために、図書館 て提出するために、 25%の総合評価で、	曽等を利用し、 図書館等を利 60点以上を合	自学自習に取り組むこと。 J用し、自学自習に取り組むこと。 -格とする。学業成績が60点未満の者に
授業計画   週   授業内容   週ごとの到達目標						7		□ 宝教経験のある教員による授業
週 授業内容   週ごとの到達目標	<u> </u>	<u> </u>	_ <i></i>			凶 逐腳技業別心		□ 天伤柱駅ののお教員による技术
週 授業内容   週ごとの到達目標	授業計	画						
1週 日本ってどんな国?		Ī	週	授業内容		li		
1世 日本の任意   1世 日本の任意   1世 日本の経済   1世 日本の任義   1世 日本の歴史   1世 日本の歴史   1世 日本の歴史   1世 日本の歴史   1世 日本の歴史   1世 日本の歴史   1世 日本の任義   1世 日本の任義   1世 日本の歴史   1世 日本の歴史   1世 日本の歴史   1世 日本の歴史   1世 日本の任義   1世 日本の任		1						
3週 食生活事情   食生活事情についての知識を習得し、自国との相違点を認識し、日本語で的確に表現できる。			1週	日本つ(とんな国:	?		を認識し、日2 日本の都市と地	▶語で的確に表現できる。 地方の暮らしについての知識を習得し、
1stQ   2mm   2			2週 	都市の暮らし・地方 	うの暮らし	c	,	
1stQ   1stQ   5週   「日本の生活事情」に関する発表   学生が自国との比較的見地から課題テーマに関してプレゼンを行い、日本語によって論理的に議論することができる。   学生が自国との比較的見地から課題テーマに関してプレゼンを行い、日本語によって論理的に議論することができる。   日本の伝統文化   芸能(歌舞伎、落語など)について理解し、自国の伝統文化との相違点を認識し、日本語で適切に表現できる。   日本の歴史①   日本の歴史についての知識を習得し、自国との相違点を認識し、日本語で的確に表現できる。   日本の歴史についての知識を習得し、自国との相違点を認識し、日本語で的確に表現できる。   日本の歴史についての知識を習得し、自国との相違点を認識し、日本語で的確に表現できる。   11週   日本の伝統文化と歴史」に関する発表   日本の産業構造について理解し、自国ととの相違点を認識し、日本語で適切に表現できる。   日本の産業構造について理解し、自国ととの相違点を認識し、日本語で適切に表現できる。   日本の科学技術についての知識を習得し、自国との相			3週	食生活事情		- 7	を認識し、日本	<b>卜語で的確に表現できる。</b>
5週			4週	季節を楽しむ年間行	事			
10週 日本の伝統文化		1stQ	5週	「日本の生活事情」	に関する発表		レゼンを行い、	D比較的見地から課題テーマに関してプ 日本語によって論理的に議論すること
2ndQ   10週   産業構造と経済   日本の科学技術に   日本の科学技術に   日本の科学技術に   日本の科学技術についての知識を習得し、自国との相違点を認識し、日本語で的確に表現できる。   学生が自国との比較的見地から課題テーマに関してプレゼンを行い、日本語によって論理的に議論することができる。   日本の産業構造について理解し、自国ととの相違点を認識し、日本語で適切に表現できる。   日本の科学技術についての知識を習得し、自国との相	前期		6週	日本の伝統文化		1	統文化との相談	落語など)について理解し、自国の伝 違点を認識し、日本語で適切に表現でき
8週 日本の歴史② 日本の歴史(こついての知識を習得し、自国との相違点を認識し、日本語で的確に表現できる。   学生が自国との比較的見地から課題テーマに関してプレゼンを行い、日本語によって論理的に議論することができる。   日本の産業構造について理解し、自国ととの相違点を認識し、日本語で適切に表現できる。   日本の産業構造について理解し、自国ととの相違点を認識し、日本語で適切に表現できる。   日本の科学技術についての知識を習得し、自国との相			7週	日本の歴史①				
9週   「日本の伝統文化と歴史」に関する発表   レゼンを行い、日本語によって論理的に議論することができる。   日本の産業構造について理解し、自国ととの相違点を認識し、日本語で適切に表現できる。   日本の科学技術についての知識を習得し、自国との相			8週	日本の歴史②		E	日本の歴史に1	ンいての知識を習得し、自国との相違点
10月			9週		┴歴史」に関する発	表 し	レゼンを行い、	か比較的見地から課題テーマに関してプロトライン 日本語によって論理的に議論すること
		2ndQ	10週	産業構造と経済			認識し、日本語	吾で適切に表現できる。
particular control of the control of			11週	日本の科学技術				

	12週	「日本の産業構造と経済 る発表	斉」「日本の科学技術」に関す	学生が自国との比較的見地 レゼンを行い、日本語によ ができる。	から課題テーマに関してプ って論理的に議論すること	
13週		日本人の価値観		結婚観・宗教間について理解し、自国民の価値観との 相違点を認識し、日本語で適切に表現できる。		
	14週	現代日本社会の問題		現代日本社会に関する問題 論理的に議論することがて	を認識し、日本語によって ごきる。	
	15週	「日本人の価値観」「現 発表	見代日本社会の問題」に関する	学生が自国との比較的見地 レゼンを行い、日本語によ ができる。	から課題テーマに関してプ って論理的に議論すること	
	16週					
評価割合						
	誤	題	発表	討論	合計	
総合評価割合	5	0	25	25	100	
基礎的能力	5	0	25	25	100	
専門的能力	0		0	0	0	
分野横断的能力	0		0	0	0	

苫//华	女工業高等		開講年度	令和06年度(	 2024年度)	授業科目	英語特論A	
科目基礎		VI ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( (	<u> </u>	11311100172	2021112)			
科目番号	∠ ID+X	0097			科目区分	一般 / 選	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
授業形態		授業			単位の種別と単位			
開設学科			斗(一般科目)		対象学年	5	. 2	
開設期		前期	1 ( /3Д11Ш/		週時間数	2		
教科書/教	·材		nalish Switch (R	Robert Hickling / I	Misato Usukura, 南			
担当教員	.,_	東 俊文,石						
到達目標	<u> </u>	1.1						
1. 基本的 2. 基本的 3. 基本的	りな英文の記りな単語やス りな英語表現	見を習得する。	た上で,簡単な英文 ことで,簡単な英名	文を正しく書くこと 会話ができる。 こは英検準2級取得	こができる。 鼻のために必要な基礎	<b>楚力を確認できる</b>	5.	
ルーブリ	ノック							
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レベ	いの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1				読解や聴解がよく	基本的な英文の読	解や聴解ができ		
可圖次口工	-		できる。		る。		ない。	
評価項目2	2		基本的な単語や で、簡単な英文 がよくできる。	文法を習得した上 を正しく書くこと 	基本的な単語や文 で,簡単な英文を ができる。	法を習得した上: 正しく書くこと 	で,簡単な英文を正しく書くことができない。	
評価項目3	3		で,簡単な英会	現を習得すること 話がよくできる。_	基本的な英語表現で,簡単な英会話	ができる。	で,簡単な英会話ができない。	
評価項目4			継続的な学習に コア400点また! 得することが可 確認できる。	よって,TOEICス は英検準2級を取 能となる基礎力を	継続的な学習によ コア400点または 得を目指すことが 確認できる。	英検進2級の取		
学科の至	引達目標耳	頁目との関 [®]	 係		•		•	
I 人間'	性1Ⅰ~	人間性 実践性						
<ul><li>Ⅲ 国際</li><li>教育方法</li></ul>		国際性						
概要		を取得する	Aでは、「文法力」 るために必要な基礎 を目指す学生とする	壁力の定着を目指す	カ」「聴解力」を総 。対象者は、専攻科	合的に養成し、 料入試出願資格達	TOEICスコア400点または英検準2級 運成を目指す学生および英語の基礎学	
授業の進め	か方・方法	授業はテニー (基礎的) 定期に単記	キストの問題演習を な作文や発話ができ 語・熟語や既習項目	・中心に進め、基礎	指す。テキストと合 !する。再試験につい	)理解を深めると 合わせて、教員の )ては必要により	こともに、読解力や聴解力、表現力 )作成した演習問題にも取り組む。不 前期末に1回実施するが,授業への取	
		1. 英語	りの維持・向上のな	こめ, 主体的な学習	アンファイ	勢で問題演習に耳	取り組むこと。	
注意点			2. 積極的な姿勢で問題演習に取り組むこと。 『項の理解を深めるために復習を徹底して行うこと。 『詩は、英和辞書を必ず持参すること。					
		※再試験。 試験(合語	と再評価: 評価た 計60%)に置き換え	が60点に達しない えて再評価を行う。	者には再試験を実施	でする。この場合	6、再試験の成績は復習テストと定期	
授業の属	属性・履修	多上の区分						
□ アクテ	・イブラーニ	ニング	☑ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業	
授業計画	<u> </u>							
		週	授業内容		ì	周ごとの到達目標	<b>西</b>	
			Pre-Unit. 品詞と語 Unit 1. 現在時制	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		品詞と語順、文類 正しく運用です	型および文法事項の現在時制を理解し きる。	
		2週	Unit 2. 可算名詞/	不可算名詞		文法事項の可算4 用できる。	名詞/不可算名詞を理解し、正しく運	
		3週	Unit 3. 前置詞		2	文法事項の前置記	司を理解し、正しく運用できる。	
	1stQ	4週	Unit 4. 過去時制			文法事項の過去	寺制を理解し、正しく運用できる。	
		<del></del>	Unit 5. 進行形			文法事項の進行肝	ドを理解し、正しく運用できる。	
		H-1	Unit 6. 代名詞				司を理解し、正しく運用できる。	
		7週	Unit 7. 現在完了				完了を理解し、正しく運用できる。	
		8週	復習テスト				内容を理解し、それらを正しく活用・	
前期						運用できる。 ☆は東頂の接続=	ヨ女理解し エレノ第四をキマ	
			Unit 8. 接続詞 Unit 9. will/be go	ing to	3	文法事項のwill/b	司を理解し、正しく運用できる。 pe going toを理解し、正しく運用でき	
						る。 かは車頂の比較な	を理解し 正して海中できて	
			Unit 10. 比較				を理解し、正しく運用できる。	
	2ndQ		Unit 11. 受動態 Unit 12. 動名詞/不				態を理解し、正しく運用できる。 司/不定詞を理解し、正しく運用できる	
					-	) か辻車頂へ叶針=	また細報! エレノ海中ホキマ	
		H	Unit 13. 助動詞				同を理解し、正しく運用できる。 を理解し、正しく運用できる。	
			Unit 14. 分詞				を理解し、正しく運用できる。 内容を理解し、それらを正しく活用・	
		16週	前期定期試験			これまでの子省/ 運用できる。	からでは出来し、てれりで比して泊用・	

評価割合								
	定期試験	復習テスト	課題・小テストなど	合計				
総合評価割合	30	30	40	100				
基礎的能力	30	30	40	100				
専門的能力	0	0	0	0				

<b>芒</b> 小墩		等専門学校	開講年度	令和06年度 (2		授業科目	英語特論 B
科目基礎		<u>X)工口工化</u>	// <del>/ (1</del> ]		-v- 1 <del>-</del> 1×)		
科目番号	ET目羊区	10000			NDEA	фл. / \2a	340
授業形態		0098 授業			科目区分 単位の種別と単位	一般 / 選 立数 学修単位	
開設学科			 斗(一般科目)		1	3 12 1 12	.: 2
開設子科		<u> </u>	4(一放件日)		対象学年 週時間数	5 2	
	++		Timesa Changin	- Manda +>+1 /			
教科書/教	M		rimes, Changing	g worlds 1º205	.読める社会事情 (原	以美呈)	
担当教員		鈴木 修平					
到達目標							
2. 英文を   3. 標準し   4. 継続的	を通して、現 アベルの語彙	見代社会におり 量や文法事項を よって、TOEI	ナる諸問に関する情 を修得した上で、読	<b>読解の方略を様々な</b>	、その内容に関し 分野の英文理解に	適用できる。	り確に発信することができる。 英語学力試験等によって自身の学力
ルーブリ	Jック						
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レイ	ベルの目安	未到達レベルの目安
				の語彙・文法・文	英検2級レベルの		
評価項目1			構造を理解しなが 文内容を正確に	がら、一般的な英 読み取れる。	構造を理解しなた文内容を正確に記	売み取れる。	構造を理解しながら、基本的な英 文内容を正確には読み取れない。
評価項目2				を迅速かつ大量に 容を日本語で説明	一般的な英文を対して、その内容を しまる。	迅速かつ大量に読 を日本語で説明で	
評価項目3	英文教 評価項目3 おける 来る。			を通して、社会に 深く知ることが出	英文教材の読解を おける諸問題の概 出来る。		
学科の到	」達目標耳	頁目との関係 かんしょう かいしょう かいしょう かいしょう かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいがい かいが	 系				
I 人間加 II 実践加	生 1 Ⅰ /	人間性 実践性 国際性					
教育方法		コiw i工					
	<del>177</del>	ナムニギー	+ス製問題を纫介す	マ苗立を 苗立の		一一一一一一一	
概要		について、	・3m回返で稲川9 自分の考えを持つ	つきっかけとしたい	'四果し又広で思誠  。	して江海に注所(	- こしみノにょる。凹吋に、仕云冋起
授業の進め	))) · ))) <u>(</u>	験と到達度 学修単位科 1)語彙・ 2)本文の	料目なので自学自習 文法の定着度合い	) %)に置き換えて 四時間の確保は必須 いを、小テストによ 日分の考えを英語で	再評価を行なう。     である。その際にし  り、評価するため、	は下記の学習を行 、各章の復習が必	る。この場合、再試験の成績は定期試 「なうこと。 必要になる。 、」・「話す」力も求められる。
授業の属	5性。履作		E田でぐ舟が来りい	ルと1回行るフ。			
<u> </u>			☑ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
	1///-	. <i></i>	M ICI ₹i/m			<b>`</b>	□ 大物性酸のめる教具による技术
	<del></del>						
<b>汉未</b> 司四	<u> </u> 	\m   1	W#++				ans
		週	受業内容			週ごとの到達目標のまま	
		1週 🤅	Chapter 1 Smoke マスコットに込めら	y Bear: A Mascot られた意味	: with a Message	。 ②段落ごとの要が ③テキスト全体の	・語法や文法・構文を身につけられる 点を把握できる。 の流れや内容を把握できる。 设問に解答することができる。
		2週 (	Chapter 2 Overto 現光公害とは?	urism is a Problei		①本文中の語彙 。 ②段落ごとの要!	・語法や文法・構文を身につけられる
l			Chapter 3 Gender 哉場での男女平等	r Equality in the V		①本文中の語彙 。 ②段落ごとの要 ③テキスト全体の	・語法や文法・構文を身につけられる
後期	3rdQ	4週 (4	Chapter 4 Changi 多り変わる美の定 <mark>ậ</mark>	ng Definitions of		①本文中の語彙 。 ②段落ごとの要。 ③テキスト全体の	<ul><li>対のに解答することができる。</li><li>・語法や文法・構文を身につけられる</li><li>点を把握できる。</li><li>の流れや内容を把握できる。</li><li>役問に解答することができる。</li></ul>
		5週   I	ntolerance	and Juliet: A Tra Eット』-不寛容に	.	①本文中の語彙 。 ②段落ごとの要	・語法や文法・構文を身につけられる
		6週 (	Chapter 6 Nature	and Health		①本文中の語彙 。	・語法や文法・構文を身につけられる 点を把握できる。 の流れや内容を把握できる。

					0.1.1	
		7週	Chapter 7 Golden Yea 熟年離婚	ars and Silver Divorces	②段落ごとの要点を把握で	できる。
			1 1322 <u>-</u>		③テキスト全体の流れや内 ④各Chapterの設問に解答	N谷を把握できる。 Fすることができる。
		8週	到達度試験			
					①本文中の語彙・語法や文	て法・構文を身につけられる
		9週	Chapter 8 Trees: A G 樹木は自然からの贈り物		。 ②段落ごとの要点を把握で ③テキスト全体の流れや内 ④各Chapterの設問に解答	できる。 内容を把握できる。 らすることができる。
					①本文中の語彙・語法や文	て法・構文を身につけられる
	10週		Chapter 9 Tatoos 刺青の是非		。 ②段落ごとの要点を把握で ③テキスト全体の流れやが ④各Chapterの設問に解答	9容を把握できる。
					①本文中の語彙・語法や文	て法・構文を身につけられる
			Chapter 10 Redefining性別と結婚の新たな定義	g Gender and Marriage 复	。 ②段落ごとの要点を把握で ③テキスト全体の流れや内 ④各Chapterの設問に解答	9容を把握できる。
					①本文中の語彙・語法や文	て法・構文を身につけられる
	4thQ	12週	Chapter 11 All the Lo 孤独なる人々	nely People	。 ②段落ごとの要点を把握で ③テキスト全体の流れや内 ④各Chapterの設問に解答	容を把握できる。
					①本文中の語彙・語法や文	て法・構文を身につけられる
		13週	Chapter 12 Think Before SNS上も急がば回れ	ore You Talk, Text, or Twee	t ②段落ごとの要点を把握で ③テキスト全体の流れや内 ④各Chapterの設問に解答	9容を把握できる。
					①本文中の語彙・語法や文	て法・構文を身につけられる
		14週	Chapter 13 Jeans Go ジーンズのグローバリt	Global! ヹーション	。 ②段落ごとの要点を把握で ③テキスト全体の流れや内 ④各Chapterの設問に解答	容を把握できる。
					①本文中の語彙・語法や文	て法・構文を身につけられる
	15週		Chapter 14 Helping Pe 障がいを持つ人たちへの	eople with Disabilities D支援	。 ②段落ごとの要点を把握で ③テキスト全体の流れや内 ④各Chapterの設問に解答	9容を把握できる。
		16週	定期試験			
評価割合						
		·	定期試験	到達度試験	課題・小テスト・予習状況	合計
総合評価割	合		35		30	100
基礎的能力			35		30	100
専門的能力	1		0	0	0	0

分野横断的能力

	女工業高等	等専門学校	開講年度 令和06年度 (2	2024年度)	授業科目	日本語コミュニケーション
科目基礎	 性情報					
科目番号		0099		科目区分	一般/選択	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		
開設学科			4(一般科目)	対象学年	5	
開設期		前期		週時間数	2	
教科書/教		1	 『は用いず、自作プリントほかを使用	1		
担当教員			時田 紗緒里	- w		
到達目標		J III II //	2 12 1 H			
1. スピー 2. 適切な 3. 自分や 4. 敬語に	・チやプレゼ 注話題や題材 か他人の発表 こついて、そ	についての構 をみて反省点 の基本的な性	を通じ、自分が伝えたいことをしつ。 想に従って材料を整理し、意見・主きをみつけ、次の発表に生かすことが 質と機能を理解し、場面に応じた使り 用句・熟語等を含む)を理解し、使	張などを筋道を立てて できる。 い方ができる。	とができる。 表現することか	うできる。
ルーブレ	ノック					
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベル	<u></u> の目安	未到達レベルの目安
		か伝えたい ことができる	聞き手に注意し、適切な声量と姿勢で、聞き手に興味をもたせ、用意した内容を伝えられる。	準備した内容につい 発表を行い、自分が を話すことができる	伝えたいこと	途中で話が詰まったり、声が聞こ えなかったり、脈絡のないことを 話したりして何も伝えられない。
	ドを筋道立て	選理し、意見 て表現する	周到な準備と構想の下で、聞き手 を楽しませるスピーチを組み立て られる。	ある程度の準備と構 ピーチを組み立てら	想の下で、ス れる。	準備不足で聞き手を楽しませられ ない。
みつけ、か できる	欠の発表に生	→て反省点を Eかすことが	自分や他人の発表を正しく・細かく分析し、次回の発表に生かすことができる。	自分や他人の発表をの発表に生かすこと	ができる。	自分や他人の発表を反省し、次回 の発表に生かすことができない。
敬語につい と機能を理 い方ができ	里解し、場面	基本的な性質 同に応じた使	敬語について、その基本的な性質 と機能を正しく・理論的に理解し 、場面に応じた使い方ができる。	敬語について、その と機能を理解し、場 い方ができる。	面に応じた使	敬語について、その基本的な性質 と機能を理解し、場面に応じた使 い方ができない。
日本語検定2級程度の語彙を理解 し、使用することができる			日本語検定 2 級程度の語彙を正し く理解し、使用することができる	日本語検定2級程度 程度理解し、使用す る。		日本語検定2級程度の語彙を理解し、使用することができない。
学科の到	引達目標項	目との関係	系			
I 人間¶ Ⅱ 実践¶ Ⅲ 国際¶	性 1 I 人性 2 II 実性 3 III 国	、間性 ミ践性 国際性				
教育方法	法等					
概要		日本語で通	<b>通切かつ効果的に表現する能力を育成</b>	し、伝え合う力を高め	るとともに、見	思考力を伸ばしつつ言語感覚を磨き
授業の進め	か方・方法	時間配分とピーチやこことによっ	」で表現することによって社会生活を して4時間のうち3時間は、プレゼン プレゼンテーション発表について「課 って「発表力」を身につける。また、 5とにした講義・演習の時間とする。	・テーション力を高める 題・注意点確認 →準		テう。具体的にはテーマに沿ったス →反省」というプロセスを繰り返す ける事柄について、日本語検定の問
注意点	-	スピーチに 葉に対する	こついては、必ず事前に充分な準備を 5関心をもつようにすることが望まし	積んで臨むこと。また い。 国語辞典等の準	・ 日常の言語流 準備については、	5動においても、様々な角度から言 適宜指示する。
授業の属	属性・履修	<b>上の区分</b>				
	イブラーニ		☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
			•	•		
授業計画	<u> </u>					
		週	受業内容	调;	ごとの到達目標	
				1,750		
		-~-	1. ガイタンス&スピーチの要占	捋	業の進め方. 履	修上の注意などを理解する。
	1	2週	I. ガイダンス&スピーチの要点 2. スピーチコミュニケーションI( F準備	1) テーマスピー よい	ハスピーチに不	修上の注意などを理解する。 可欠な要素=聞き手の視点について きる。
		Z 1 = -		1) テーマスピー よい 理/ スI	ハスピーチに不 解することがで ピーチに必要な 実践することが	可欠な要素=聞き手の視点について きる。 「準備」「工夫」の重要性を理解し できる。
	1ctO	3週 (	2. スピーチコミュニケーション I( F準備	1) テーマスピー よい 理が ス! 	ハスピーチに不 解することがで ピーチに必要な 実践することが	可欠な要素=聞き手の視点について きる。 「準備」「工夫」の重要性を理解し できる。 -チをみて反省点をみつけ、次のス
	1stQ	3週 (4週 (	2.スピーチコミュニケーション I( F準備 2) テーマスピーチ実技	1) テーマスピー よい 理が スパ 。 自 。 尊	ハスピーチに不解することがで ピーチに必要な 実践することが 分や他人のスピ ーチに生かすこ	可欠な要素=聞き手の視点について きる。 「準備」「工夫」の重要性を理解し できる。 -チをみて反省点をみつけ、次のス
	1stQ	3週 (( 4週 (( 5週 :	2. スピーチコミュニケーション I( F準備 2) テーマスピーチ実技 3) テーマスピーチ反省	1) テーマスピー よい 理が スパ 。 自 に 尊 こ。	ハスピーチに不解することがで ピーチに必要な 実践することが 分や他人のスピ ーチに生かすこ 敬語について、 とができる。	可欠な要素 = 聞き手の視点について きる。 「準備」「工夫」の重要性を理解し できる。 ーチをみて反省点をみつけ、次のス とができる。
前期	1stQ	3週     (       4週     (       5週     (       6週     (       7週     (	2. スピーチコミュニケーション I ( F準備 2) テーマスピーチ実技 3) テーマスピーチ反省 3. 敬語法 (1) 敬語について考える	1) テーマスピー よい 理が スパー まま	ハスピーチに不 解することがで ピーチに必要な 実践することが 分や他人のスピーチに生かすこ 放語について、 とができる。 語について、場 レゼンテーショ	可欠な要素=聞き手の視点について きる。 「準備」「工夫」の重要性を理解し できる。 一チをみて反省点をみつけ、次のス とができる。 その基本的な性質と機能を理解する
前期	1stQ	3週 ( 4週 ( 5週 ( 7週 ( 5週 (	2. スピーチコミュニケーション I ( F準備 2) テーマスピーチ実技 3) テーマスピーチ反省 3. 敬語法 (1) 敬語について考える 2) 敬語の基本的な性質と機能 4. 基礎プレゼンテーション (1) テー	1) テーマスピー よい 選り スパー まっぱい まっぱい まっぱい まっぱい まっぱい まっぱい まっぱい まっぱい	ルスマーチに不で ピーチとが要と と 選手するこのスピーチにのこの 実践や他とかすこの が語にできる。 を おいていている。 場にでいて、 とがでいて、 とがでいて、 といっし、 場にできる。 場にできる。 はながでいて、 といっし、 はながでし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっし、 といっと といっと といっと といっと といっと といっと といっと といっ	可欠な要素 = 聞き手の視点についてきる。 「準備」「工夫」の重要性を理解しできる。  一チをみて反省点をみつけ、次のスとができる。 その基本的な性質と機能を理解する 面に応じた使い方ができる。
前期	1stQ	3週 ( 4週 ( 5週 ( 7週 ( 8週 (	2. スピーチコミュニケーション I ( F準備 2) テーマスピーチ実技 3) テーマスピーチ反省 3. 敬語法 (1) 敬語について考える 2) 敬語の基本的な性質と機能 1. 基礎プレゼンテーション (1) テーション準備	1) テーマスピー よい 選切 スパー まっぱい まっぱい まっぱい まっぱい まっぱい まっぱい まっぱい まっぱい	ハスマーチにが デスターチとが でない ではる。 ではる。 では、 では、 でいまがでいい。 でいまがでいい。 でいまがでいい。 でいまがでいい。 でいまがでいい。 でいまがでいます。 でいまがでいます。 でいまがでいます。 はいまがでいます。 はいまがでいます。 はいまがでいます。 はいまがでいます。 はいまがでいます。 はいまがでいます。 はいまがいます。 はいまがいます。 はいまがいます。 はいまがいます。 はいまがいます。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいなる。 はいなる。 はいなる。 はいなる。 はいなる。 はいなる。 はいなる。 はいなる。 はいなる。 はいなる。 はいなる。 はいなる。 はいなる。 はいなる。 はいなる。 はいなる。 はいなる。 はいなる。 はい	可欠な要素=聞き手の視点についてきる。 「準備」「工夫」の重要性を理解しできる。  一手をみて反省点をみつけ、次のスとができる。 その基本的な性質と機能を理解する 面に応じた使い方ができる。 ンやスピーチを通じて、自分が伝えかりと相手に伝えることができる。
前期	1stQ	2.週       3週       (4週       5週       6週       7週       8週       (9週       (	<ol> <li>スピーチコミュニケーション I ( F準備</li> <li>アーマスピーチ実技</li> <li>テーマスピーチ反省</li> <li>敬語法 (1) 敬語について考える</li> <li>敬語の基本的な性質と機能</li> <li>基礎プレゼンテーション (1) テーション準備</li> <li>テーマプレゼンテーション実技</li> </ol>	1) テーマスピー よい理 スパー 自信 自じ・ 一マプレゼンテー プル たい フル たい	不でなが ピュース は 男 コース で なが ピュー	可欠な要素=聞き手の視点についてきる。 「準備」「工夫」の重要性を理解しできる。 一手をみて反省点をみつけ、次のスとができる。 その基本的な性質と機能を理解する 面に応じた使い方ができる。 ンやスピーチを通じて、自分が伝えかりと相手に伝えることができる。 ンやスピーチを通じて、自分が伝えかりと相手に伝えることができる。
前期	1stQ 2ndQ	2.四     5       3週     (       4週     (       5週     :       6週     (       7週     :       8週     (       9週     (       10週     :	2. スピーチコミュニケーション I ( F準備  2) テーマスピーチ実技  3) テーマスピーチ反省  3. 敬語法 (1) 敬語について考える  2) 敬語の基本的な性質と機能  1. 基礎プレゼンテーション (1) テーション準備  2) テーマプレゼンテーション反省	1) テーマスピー     よい理グランド       スパック     ウェーマプレゼンテー       マプレゼンテー     プルトランド       たいます     アーマカンテー       を含む)     日きまます       ローマカンド・ファー     ローマー       を含む)     ローマカンテー       アーマカンド・ファー     ローマカンド・ファー       アーマカンド・ファー     ローマー       アーマカンド・ファー     ローマー       アーマカンド・ファー     ローマー       アーマー     ローマー       アーマー     ローマー       アース・ファー     ロー       アース・ファー     ロー <t< td=""><td>不でなが ピこ 、 場 ー まと かき に で なが ピこ が 要と スター で で で で で で で で で で で で で で で で で で で</td><td>可欠な要素=聞き手の視点についてきる。 「準備」「工夫」の重要性を理解しできる。 一チをみて反省点をみつけ、次のスとができる。 その基本的な性質と機能を理解する 面に応じた使い方ができる。 ンやスピーチを通じて、自分が伝えかりと相手に伝えることができる。 ンやスピーチを通じて、自分が伝えかりと相手に伝えることができる。</td></t<>	不でなが ピこ 、 場 ー まと かき に で なが ピこ が 要と スター で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	可欠な要素=聞き手の視点についてきる。 「準備」「工夫」の重要性を理解しできる。 一チをみて反省点をみつけ、次のスとができる。 その基本的な性質と機能を理解する 面に応じた使い方ができる。 ンやスピーチを通じて、自分が伝えかりと相手に伝えることができる。 ンやスピーチを通じて、自分が伝えかりと相手に伝えることができる。

	1	.3週	(2) テーマスト	ピーチ実技		自らの たうえ きる。	主張について、賛成/反 で根拠を述べるという「	対の立場を明らかにし主張型スピーチ」がで	
	1	.4週	(3) テーマスと	) テーマスピーチ反省			テーマスピーチについて的確に評価し、次のスピーチ の反省を行うことができる。		
	1	.5週	7. 語彙(3)	(慣用句・四字熟語等	を含む)	日本語きる。	レベル2級程度の語彙を	正確に使用することがで	
	1	.6週							
評価割合									
		試験		実技	小課題・小テス	<b>١</b>	レポート	合計	
総合評価割合		40		30	15		15	100	
基礎的能力		40		30	15		15	100	
専門的能力		0		0	0		0	0	
分野横断的能力	<u></u>	0		0	0		0	0	

	拟上未回	高等専門学	校り開講年月	度│令和06年度(2	2024年度)	授業科目 🗄	現代科学特論	
科目基					, , ,			
科目番号		0100			科目区分	一般/選択	?	
授業形態		授業			単位の種別と単位数	学修単位:		
開設学科			 学科(一般科目)		対象学年	5	2	
開設期	1	後期	于付 ( )以付口)		週時間数	2		
	4r+-+		118. k		週时间数	2		
教科書/教		自作プ						
担当教員		長澤 智	'明					
到達目								
2. 相対性	注理論の必	性および特徴 要性および特	的な結果について 徴的な結果につい	ご説明することができる Nて説明することができ	る。 きる。			
ルーブ	リック						I	<b>-</b>
				をレベルの目安	標準的な到達レベル	の目安	未到達レベルの目	目安
		および特徴的な	<del>キ</del>  里丁刀子の化	が要性と特徴的な結果 目することができる。	量子力学の必要性を ができる。	説明すること	量子力学の必要性 ができない。	生を説明すること
相対性理論の必要性および特徴的 な結果について説明することがで きる。			的 相対性理論の で な結果につい きる。	D必要性および特徴的 Nて説明することがで	相対性理論の必要性とができる。	を説明するこ	相対性理論の必要 とができない。	要性を説明するこ
	到達目標	票項目との			-		1	
T 人間	引性 1 I	人間性	70 I/N					
■ 国際 教育方		国際性						
	<u>и <del>П</del></u>			、現代物理学の柱であ				
概要		する。		日常的な直感と反する				
授業の進	め方・方	授業は この科	教員による自作プ 目は学修単位科目 度試験、定期試験	リントを使った説明と のため、事前・事後学 の準備のための勉強時	演習で構成する。 習として課題レポート 間を総合し、60時間の	を課します。排 自学自習時間	受業(30時間)の例 が必要である。	他に予習復習時間
注意点		3年生ま 学業成績 学業成績	でに学習した物理 漬は達成度試験30 漬が60点未満の学	里、数学の基礎知識を前 9%、定期試験30%、訓 生に対して、再試験を				· 亨試験、定期試験
		の成績	に置きかえて再評	価を行う。				
			<b>/</b> \					
		<u>優修上の区</u> を						- フ <u>お</u> 早 <i>に</i> Lフ松坐
	禹日・R		分 ☑ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のあ	5る教員による授業
□ アク	ティブラー				☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のあ	る教員による授業
□ アク	ティブラー					ごとの到達目標	□ 実務経験のあ	る教員による授業
□ アク	ティブラー	- ニング	☑ ICT 利用	界	週		□ 実務経験のあ	
□ アク	ティブラー	-ニング	☑ ICT 利用 授業内容		週 <b>2</b> 古9 ボ-	物理学で説明	できない現象を理解に水素原子における	解する。
□ アク	ティブラー	週 1週	☑ ICT 利用 授業内容 古典物理学の限 ボーアの原子模		週で 古野 ボー 導り 2000年 シュ	物理学で説明 -アの仮説を元  することがで	できない現象を理解に水素原子におけるきる。	解する。 る電子軌道の式を
□ アク	画	週 1週 2週	☑ ICT 利用 授業内容 古典物理学の限 ボーアの原子模	型	週こ 古野 ボー 導り 解釈 ショ 取動	物理学で説明 -アの仮説を元 けることがで レディンガー: ることができ	できない現象を理解に水素原子におけるきる。	解する。 る電子軌道の式を 動関数の解釈を説
	ティブラー	週 1週 2週 3週	図 ICT 利用 授業内容 古典物理学の限 ボーアの原子模 シュレディンガ	型 一方程式と波動関数の i	週3 古5 ボ・導 等 解釈 95 明3 次 減 る 3	物理学で説明 アの仮説を元 けることがで レディンガー ることができ 関数が与えら とができる。 ほに深い井戸型	できない現象を理解に水素原子における きる。 方程式の構造と波動	解する。 る電子軌道の式を 動関数の解釈を説 の期待値を計算す
□ アク	画	週 1週 2週 3週 4週	図 ICT 利用 授業内容 古典物理学の限 ボーアの原子模 シュレディンガ 物理量の期待値	型 一方程式と波動関数の i ・ ヤル	週3 古5 ボ・導に ショ ショ フョ フョ フョ で に で に で に で に で に で に で に で に で に で	物理学で説明 -アの仮説を元 -アの仮説を元 - マることがで - レディンガー - ることができ - とができる。 - とができる。 - は深い井戸型 - ドルギーを求め	できない現象を理解に水素原子におけるきる。 方程式の構造と波動る。 れたときに、位置のポテンシャル中の動	解する。 る電子軌道の式を 動関数の解釈を説 の期待値を計算す 電子の波動関数と
□ アク	画	週 1週 2週 3週 4週 5週	図 ICT 利用  授業内容 古典物理学の限 ボーアの原子模 シュレディンガ 物理量の期待値  井戸型ポテンシ	型 一方程式と波動関数の i ヤル 問題	週3 古明 ボー導 シニ 解釈 別3 3 無 エニ 階段 と 1 2	物理学で説明 -アの仮説を元 -アの仮説を元 - レディンガー - ることができる。 関数ができる。 - といできる。 - は深い井戸型 - ルギーを求め - としてきる。	できない現象を理解に水素原子におけるきる。 方程式の構造と波動る。 れたときに、位置のポテンシャル中の動ることができる。 ルでの反射率と透り	解する。 る電子軌道の式を 動関数の解釈を説 の期待値を計算す 電子の波動関数と 過率を計算するこ
授業計	画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	図 ICT 利用  授業内容 古典物理学の限 ボーアの原子模 シュレディンガ 物理量の期待値 井戸型ポテンシ 1次元での散乱	型 一方程式と波動関数の i ・ヤル 問題 現象	週3 古5 ボ・導に ショ ショ フョ フョ フョ ファ エー 下 に た た た た た た た た た た た た た た た た た た	物理学で説明 での仮説とがいたでしる。 はながでもまる。 はに深ーをといれていた。 はに深ーをといれていた。 はいますがいいた。 はいますがいいた。 はいまずでもいますがでいた。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずである。 はいまずでな。 はいまずでな。 はいまずでな。 はいまずでな。 はいまずでな。 はいまずでな。 はいまずでな。 はいまずでな。 はいまずでな。 はいまずでな。 はいまずでな。 はいまでな。 はいまでな。 はいまでな。 はいまでな。 はいまでな。 はいまでな。 はいまでななな。 はいまでなななななななな。 はいまでなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	できない現象を理解に水素原子におけるきる。 方程式の構造と波動る。 れたときに、位置のポテンシャル中の動ることができる。 ルでの反射率と透り	解する。 る電子軌道の式を 動関数の解釈を説 の期待値を計算す 電子の波動関数と 過率を計算するこ
授業計	画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	図 ICT 利用 授業内容 古典物理学の限 ボーアの原子模 シュレディンガ 物理量の期待値 井戸型ポテンシ 1次元での散乱 共鳴とトンネル 量子論分野達成	型 一方程式と波動関数の i ・ヤル 問題 現象	週3 古明 ボー導 シテラ ショラ を フラフ を フラフ を フラフ を フラフ を フラフ を フラフ を フラフ を フラフ を フラフ を フラフ を フラフ を フラフ を フラフ を フラフ を フラフ を フラフ を フラフ を フラフ を フラフ を フラフ を フラフ を フラフ を フラフ を フラフ を フラフ を フラフ を フラフ を フラフ を ラフ ラフ ラフ ラフ ラフ ラフ ラフ ラフ ラフ ラフ ラフ ラフ ラフ	物理学で説明 -アの仮説を元で してデータででした。 関数がで与える。 はに深いかきる。 はに深い井戸求め とに深いまで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、	できない現象を理解に水素原子におけるきる。 方程式の構造と波動る。 れたときに、位置のポテンシャル中の動ることができる。 ルでの反射率と透り	解する。 る電子軌道の式を 動関数の解釈を説 の期待値を計算す 電子の波動関数と 過率を計算するこ 象とトンネル効果
授業計	画	-ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	図 ICT 利用 授業内容 古典物理学の限 ボーアの原子模 シュレディンガ 物理量の期待値 井戸型ポテンシ 1次元での散乱 共鳴とトンネル 量子論分野達成	型 一方程式と波動関数の に ヤル 問題 現象 度試験 と光速度不変の原理	週で ボー導 ボー導 ショ ファ 大が で を カン 大が で で で で で で で で で で で で で	物理学で説明 -アの仮とかがでした。 はないができる。 はに深ギーテる。 はに深ギーテる。 はに深ギーテる。 はいかではないでは、 ででは、 はいかでは、 はいかでは、 はいかでは、 はいかでは、 はいかでは、 はいかでは、 はいかでは、 はいかでは、 はいかでは、 はいかでは、 はいかでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 はいがでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	できない現象を理解に水素原子におけるきる。 方程式の構造と波響る。 れたときに、位置のポテンシャル中の配ることができる。 ルでの反射率と透りである。 を通して、共鳴現象できる。 変を確認する。	解する。 る電子軌道の式を 動関数の解釈を説 の期待値を計算す 電子の波動関数と 過率を計算するこ 象とトンネル効果
□ アク・ 授業計	画	-ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	図 ICT 利用 授業内容 古典物理学の限 ボーアの原子模 シュレディンガ 物理量の期待値 井戸型ポテンシ 1次元での散乱 共鳴とトンネル 量子論分野達成 特殊相対性理論	型 一方程式と波動関数の でヤル 問題 現象 度試験 と光速度不変の原理	週で 古野 が不 導い を の の の の の の の の の の の の の	物理学で説明 での仮としています。 はしています。 では、ルツでは、います。 では、ルツでは、います。 では、ルツでは、います。 では、カラマのでは、います。 では、カラマのでは、カラマのでは、カラマのでは、カラマのでは、カラマのでは、カラマのでは、カラマのでは、カラマのでは、カラマのでは、カラマのでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラマでは、カラでは、カラでは、カラでは、カラでは、カラでは、カラでは、カラでは、カラ	できない現象を理解に水素原子におけるきる。 方程式の構造と波響る。 れたときに、位置のポテンシャル中の配ることができる。 ルでの反射率と透りである。 を通して、共鳴現象できる。 変を確認する。 光速度不変の原理を	解する。 る電子軌道の式を 動関数の解釈を説 の期待値を計算す 電子の波動関数と 過率を計算するこ 象とトンネル効果
□ アク・ 授業計	画 3rdQ	週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   9週   10週	図 ICT 利用  授業内容 古典物理学の限 ボーアの原子模 シュレディンガ 物理量の期待値 井戸型ポテンシ 1次元での散乱 共鳴とトンネル 量子論分野達成 特殊相対性理論 時間と長さの相	型 一方程式と波動関数の でヤル 問題 現象 度試験 と光速度不変の原理	週記 古明 ボボ導シ シ明 波る 無四 下階と 1 次 を 1 次 を 5 に 5 に 5 に 5 に 5 に 5 に 5 に 5 に 5 に 5 に	地理学で説明 で説をでいます。 はないでしまる関連ではいます。 でではいかでは、 でではいかでは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、	できない現象を理解に水素原子におけるきる。 方程式の構造と波響 る。 れたときに、位置の ポテンシャル中の ることができる。 ルでの反射率と透り を通して、共鳴現象できる。 変を確認する。 光速度不変の原理を	解する。 る電子軌道の式を 動関数の解釈を説 の期待値を計算す 電子の波動関数と 過率を計算するこ 象とトンネル効果 を説明することが に理解する。
□ アグ 授業計	画	リリスティア は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	図 ICT 利用  授業内容 古典物理学の限 ボーアの原子模 シュレディンガ 物理量の期待値 井戸型ポテンシ 1次元での散乱 共鳴とトンネル 量子論分野達成 特殊相対性理論 時間と長さの相 ローレンツ変換	型 一方程式と波動関数の に	週3 古4 ボー導 ジャで 波3 無四 下で ドカンで 1 次記 量子 特でで 時間 ロー 世界	地理学で説明 で説をでいます。 はいかでいった。 はいかでいった。 はいかでいった。 はいかでいった。 はいかでいった。 はいかでいった。 はいかでいった。 はいかでいった。 はいかでいった。 はいかでいった。 はいかでいった。 はいかでいった。 はいかでいった。 はいかでいった。 はいかでいった。 はいかでいった。 はいかでいった。 はいかでいった。 はいかでいった。 はいかでいった。 はいかでいった。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいった。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいった。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいかでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいがでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいる。 はいでいな。 はいでいなでいなでい。 はいでいなでいなでいなでいなでいなでいなでいなでいなでいなでいなでいなでいなでいな	できない現象を理解に水素原子におけるきる。 方程式の構造と波動る。 れたときに、位置のポテンシャル中の動ることができる。 ルでの反射率と透りを通して、共鳴現象できる。 と変を確認する。 光速度不変の原理を 性について定量的について理解する。	解する。 る電子軌道の式を 動関数の解釈を説 の期待値を計算す 電子の波動関数と 過率を計算するこ 象とトンネル効果 を説明することが に理解する。
□ アク・ 授業計	画 3rdQ	-二ング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 13週	図 ICT 利用  授業内容 古典物理学の限 ボーアの原子模 シュレディンガ 物理量の期待値 井戸型ポテンシ 1次元での散乱 共鳴とトンネル 量子論分野達成 特殊相対性理論 時間と長さの相 ローレンツ変換 世界距離としっ時	型 一方程式と波動関数の に	週こ ボー導 ジョで 波する 無四本 ではた。 1 次記 量子 特でで 時間 ローザ 運動	地理学で説明 で説すして で説とかいい。 でによっていがい。 でにないがい。 でにはいががらきがにいった。 でにはいががらきがにいった。 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 でにはいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 ではな、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	できない現象を理解に水素原子におけるとある。 方程式の構造と波響を表したときに、位置の状況をある。 れたときに、位置の状況を通いでの反射率と透りを通る。 を通る。 とができる。 とができる。 とができる。 といて理解する。 といて理解する。 といて理解する。 といて変であるこの遅れを定量的に	解する。 る電子軌道の式を 動関数の解釈を説 の期待値を計算す 電子の波動関数と 過率を計算するこ 象とトンネル効果 を説明することが に理解する。 とを理解する。 理解する。
□ アグ 授業計	画 3rdQ	週   1   1   1   1   1   1   1   1   1	図 ICT 利用 授業内容 古典物理学の限 ボーアの原子模 シュレディンガ 物理量の期待値 井戸型ポテンシ 1次元での散乱 共鳴とトンネル 量子論分野達成 特殊相対性理論 時間と長さの相 ローレンツ変し 世界距離している時 速度の合成	型 一方程式と波動関数の	週で ボー導に が解釈	# 地理学で説明	できない現象を理解に水素原子における。 方程式の構造と波響る。 れたときに、位置の状態を正さなができる。 れたときに、位置の状態を通いでの反射率と透りを通る。 を通る。 とができる。 変を確認する。 性について理解する。 といて理解する。 といて理解する。 といて理解する。 といて理解する。 といれて理解する。 といれて理解する。 といれて理解する。 といれて理解する。 といれて理解する。	解する。 る電子軌道の式を 動関数の解釈を説 の期待値を計算す 電子の波動関数と 過率を計算するこ 象とトンネル効果 を説明することが に理解する。 とを理解する。 世解する。 し、理解する。
授業計	画 3rdQ	週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   9週   10週   11週   12週   13週   14週   15週   15回   1	図 ICT 利用 授業内容 古典物理学の限 ボーアの原子模 シュレディンガ 物理量の期待値 井戸型ポテンシ 1次元での散乱 共鳴とトンネル 量子論分野達成 特殊相対性理論 時間と長さの相 ローレンツ変ロー 運動しての成 質量とエネルギ	型 一方程式と波動関数の に でヤル 問題 現象 度試験 なと光速度不変の原理 対性 リ対性	週で ボー導に が解釈	# 地理学で説明	できない現象を理解に水素原子におけるとある。 方程式の構造と波響を表したときに、位置の状況をある。 れたときに、位置の状況を通いでの反射率と透りを通る。 を通る。 とができる。 とができる。 とができる。 といて理解する。 といて理解する。 といて理解する。 といて変であるこの遅れを定量的に	解する。 る電子軌道の式を 動関数の解釈を説 の期待値を計算す 電子の波動関数と 過率を計算するこ 象とトンネル効果 を説明することが に理解する。 とを理解する。 世解する。 し、理解する。
授業計	画 3rdQ 4thQ	週   1   1   1   1   1   1   1   1   1	図 ICT 利用 授業内容 古典物理学の限 ボーアの原子模 シュレディンガ 物理量の期待値 井戸型ポテンシ 1次元での散乱 共鳴とトンネル 量子論分野達成 特殊相対性理論 時間と長さの相 ローレンツ変し 世界距離している時 速度の合成	型 一方程式と波動関数の に でヤル 問題 現象 度試験 なと光速度不変の原理 対性 リ対性	週で ボー導に が解釈	# 地理学で説明	できない現象を理解に水素原子における。 方程式の構造と波響る。 れたときに、位置の状態を正さなができる。 れたときに、位置の状態を通いでの反射率と透りを通る。 を通る。 とができる。 変を確認する。 性について理解する。 といて理解する。 といて理解する。 といて理解する。 といて理解する。 といれて理解する。 といれて理解する。 といれて理解する。 といれて理解する。 といれて理解する。	解する。 る電子軌道の式を 動関数の解釈を説 の期待値を計算す 電子の波動関数と 過率を計算するこ 象とトンネル効果 を説明することが に理解する。 とを理解する。 世解する。 し、理解する。
授業計	画 3rdQ 4thQ	-ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 112週 113週 14週 15週 16週	図 ICT 利用  授業内容 古典物理学の限 ボーアの原子グ  物理量の期待値  井戸型ポテンシ  1次元での散乱  共鳴とトンが変強  特殊相対性理論  時間としい変換 世界距離とのの成 質量といるが変更といるがです。 変更を対しているがです。 変更を対しているがです。 変更を対しているがです。 変更を対しているがです。 に対しているがです。 に対しているができます。 に対しているができまする。 に対しているができまする。 に対しているができまする。 に対しているができまする。 に対しているができまする。 にはいるできまする。 にはいきまするではいるできま	型 一方程式と波動関数の に マル 問題 現象 に 光速度不変の原理 対性 に レンツ変換 計の遅れ この同等性	週で ボー導に が解釈	# 地理学で説明	できない現象を理解に水素原子における。 方程式の構造と波響る。 れたときに、位置の状態を正さなができる。 れたときに、位置の状態を通いでの反射率と透りを通る。 を通る。 とができる。 変を確認する。 性について理解する。 といて理解する。 といて理解する。 といて理解する。 といて理解する。 といれて理解する。 といれて理解する。 といれて理解する。 といれて理解する。 といれて理解する。	解する。 る電子軌道の式を 動関数の解釈を説 の期待値を計算す 電子の波動関数と 過率を計算するこ 象とトンネル効果 を説明することが に理解する。 とを理解する。 理解する。 し、理解する。 し、理解する。
授業計	画 3rdQ 4thQ	-ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 13週 14週 15週 16週	図 ICT 利用  授業内容 古典物理学の限 ボーアの第インガ 物理量の期待値 井戸型ポテンシ 1次元での散乱 共鳴とトン野達成 特殊相対性理論 時間とレン避難しての成 質量としる成 質量とと、 正期試験	一方程式と波動関数の	週で ボー導 ショで 波する 無四次 に対する を対する は対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対し に対し に対し に対し に対し に対し に対し に対し	# 地理学で説明	できない現象を理解する。	解する。 る電子軌道の式を 動関数の解釈を説 の期待値を計算す 電子の波動関数と 過率を計算するこ 象とトンネル効果 を説明することが に理解する。 とを理解する。 し、理解する。 し、理解する。
授業計	画 3rdQ 4thQ	-ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 112週 113週 14週 15週 16週	図 ICT 利用  授業内容 古典物理学の限 ボーアの原子模 シュレディンガ 物理量の期待値 井戸型ポテンシ 1次元での散乱 共鳴とトンステンのでは 特殊相対性理論 時間と長さの変して 理動しての成 質量とエネルギ 定期試験  試験 30	世界	週で ボー導に が解釈	# 地理学で説明	できない現象を理解に水素原子における。 方程式の構造と波響る。 れたときに、位置の状態を正さなができる。 れたときに、位置の状態を通いでの反射率と透りを通る。 を通る。 とができる。 変を確認する。 性について理解する。 といて理解する。 といて理解する。 といて理解する。 といて理解する。 といれて理解する。 といれて理解する。 といれて理解する。 といれて理解する。 といれて理解する。	解する。 る電子軌道の式を 動関数の解釈を説 の期待値を計算す 電子の波動関数と 過率を計算するこ 象とトンネル効果 を説明することが に理解する。 とを理解する。 し、理解する。 し、理解する。 し、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では
授業計	画 3rdQ 4thQ	-ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 13週 14週 15週 16週	図 ICT 利用  授業内容 古典物理学の限 ボーアの第インガ 物理量の期待値 井戸型ポテンシ 1次元での散乱 共鳴とトン野達成 特殊相対性理論 時間とレン避難しての成 質量としる成 質量とと、 正期試験	一方程式と波動関数の	週で ボー導 ショで 波する 無四次 に対する を対する は対する は対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する に対する にが に対する にが にが にが にが にが にが にが にが にが にが	# 地理学で説明	できない現象を理解する。	解する。 る電子軌道の式を 動関数の解釈を説 の期待値を計算す 電子の波動関数と 過率を計算するこ 象とトンネル効果 を説明することが に理解する。 とを理解する。 し、理解する。 し、理解する。
授業計では、受験を表現である。	画 3rdQ 4thQ	1   1   1   1   1   1   1   1   1   1	図 ICT 利用  授業内容 古典物理学の限 ボーアの原子模 シュレディンガ 物理量の期待値 井戸型ポテンシ 1次元での散乱 共鳴とトンステンのでは 特殊相対性理論 時間と長さの変して 理動しての成 質量とエネルギ 定期試験  試験 30	世界	週で ボー導に が解釈	# 地理学で説明	できない現象を理解できる。	解する。 る電子軌道の式を 動関数の解釈を説 の期待値を計算す 電子の波動関数と 過率を計算するこ 象とトンネル効果 を説明することが に理解する。 とを理解する。 し、理解する。 し、理解する。 し、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では

苫小	牧工業高	等専門学校	開講年度 令和06年度 (2	2024年度)	授業科目	数学特別講義
科目基	礎情報					
科目番号	<u>1</u>	0101		科目区分	一般/選択	7
授業形態	N. C.	授業		単位の種別と単位数	数 学修単位:	2
開設学科	1	創造工学科	4(一般科目)	対象学年	5	
開設期		後期		週時間数	2	
教科書/勃		桜井基晴「	編入数学徹底研究」(聖文新社)/	自作プリント		
担当教員	Į	藤島 勝弘				
到達目	標					
2. 2変 3. 行列 4. 確率	登数の微分, ], 行列式及 区及びその応	積分及びその点	5用問題を解くことができる。 5用問題を解くことができる。 直を解くことができる。 ことができる。			
ルーフ	リック		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベル		未到達レベルの目安
			1変数の微分,積分及びその応用	<u> </u>		1変数の微分,積分及びその応用
評価項目	1		問題を8割以上解くことができる  。	1変数の微分,積 問題を6割以上解。	くことができる 	日复数の10分, 負力及びでの10分 問題を6割以上解くことができない。
評価項目	12		2変数の微分,積分及びその応用 問題を8割以上解くことができる 。	2変数の微分,積 問題を6割以上解。	分及びその応用 くことができる	2変数の微分,積分及びその応用問題を6割以上解くことができない。
評価項目	13		ベクトル,行列,行列式及びその 応用問題を8割以上解くことがで きる。	ベクトル,行列,7 応用問題を6割以 きる。	行列式及びその 上解くことがで	ベクトル,行列,行列式及びその 応用問題を6割以上解くことがで きない。
	平価項目 4		確率及びその応用問題を8割以上 解くことができる。	確率及びその応用に上解くことができる		確率及びその応用問題を6割以上 解くことができない。
学科の	到達目標	項目との関係	Ŕ			
Ⅱ 実践	浅性 2 Ⅱ 祭性 3 Ⅲ	人間性 実践性 国際性				
概要		)、確率に   。	(1変数の微分と積分、偏微分、重 ついて、1年~3年で学んだ内容を	積分、微分方程式、 復習するとともに,	複素関数)、線界 それぞれの分野の	ド代数学(ベクトル、行列、行列式 こついて発展的な内容を学習します
授業の進	め方・方法	基礎的事項 事前・事後	形式で行い、適宜演習を行います。 を確認した上で、主に大学偏入学試 学習として課題を課します。課題及			
注意点		・成績は, ・学業成績	・習が必要です.事前に課題に取り組 定期試験60%、課題など40%を むの成績が60点未満のものに対して再 合で再評価を行います。	総合して評価します	0	
授業の	属性・履	修上の区分				
□ アク	ティブラーご	ニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
授業計	画					
		週 拐	受業内容	造	ごとの到達目標	
		1週 微	效分法	微	対の応用問題を	解くことができる。
		2週 オ	定積分			題を解くことができる。
		H-1	三積分		積分の応用問題	を解くことができる。
	3rdQ		三積分の応用 ニュー・ニュー・ニュー・ニュー・ニュー・ニュー・ニュー・ニュー・ニュー・ニュー・			を解くことができる。
	ادر		及数			解くことができる。
			<b>扁微分</b>			を解くことができる。
			<b>積分</b>			を解くことができる。
後期			数分方程式			問題を解くことができる。
·~/\1			· 列			解くことができる。
			列式			を解くことができる。
			固有値とその応用			を解くことができる。
	4thQ		<b>室</b>			解くことができる。
	2		<b>公</b> 合問題(1)			題を解くことができる。
			総合問題(2)			題を解くことができる。
			総合問題(3)	総	合的な様々な問	題を解くことができる。
=== /====+ '		16週 定	三期試験			
評価割	台		ch+n=-1/5^	=======================================		T
<b>₩</b>	[字]   <b>△</b>		定期試験	課題など		合計
総合評価 基礎的能			正期試験 60 60	<ul><li>課題など</li><li>40</li><li>40</li></ul>		合計   100   100